矢掛町埋蔵文化財発掘調査報告１

清水谷遺跡

〈一本木地区〉

里山田地区県営圃場整備事業に伴う発掘調査（１）

2001年3月

岡山県矢掛町教育委員会

矢掛町埋蔵文化財発掘調査報告1

清水谷遺跡

〈一本木地区〉

里山田地区県営圃場整備事業に伴う発掘調査（1）

2001年3月

岡山県矢掛町教育委員会

遺跡遠景（東から）

調査区全景（西から）

巻頭図版 2

調査区全景

環濠土層断面（南から）

出土土器（1）

出土土器（2）

巻頭図版 4

出土石器（1）

出土石器（2）

序

矢掛町は、岡山県の南西部に位置しています。町の南部を小田川が東西に流れ、北は吉備高原南端の山々が連なり、南は遙照山系の山々に囲まれ、自然が豊かで温暖な気候風土です。
また、小田川に沿って通る山陽道第18番目の宿場町として栄え、吉備真備公の祖母の銅製骨蔵器や国指定重要文化財の旧矢掛本陣や旧矢掛脇本陣が現存する歴史の町です。

平成９年度に里山田地区で計画された県営圃場整備事業に先立って、事業予定地内の確認調査が行われました。その結果、南北に連なる山裾を中心に弥生時代から中世の集落に関連した遺構と、縄文時代以降の土器・石器などの遺物が確認されました。特に今回の調査対象地となった一本木地区では、弥生時代前期後半の溝と石器製作跡などが確認されました。

これらの調査成果を受けて、工事で影響を受ける範囲について、記録保存のための発掘調査を平成11年度に国庫補助事業として実施しました。

調査の結果については、本書で述べる通りですが、弥生時代前期後半の環濠集落・水田跡・竪穴住居、弥生時代後期の水田跡・溝・土壙等の遺構が確認されました。

報告書が、必ずしも調査結果すべてを網羅しているとは言えませんが、埋蔵文化財の保護・保存に役立ち、歴史研究や郷土の理解の一助となれば幸いです。

また、発掘調査にあたりましては、岡山県教育庁文化課、岡山県古代吉備文化財センター、あるいは多くの研究者の方々から、数々のご支援とご助言を賜りました。

さらには、総社市教育委員会・真備町教育委員会からは、忙しい公務の合間を調査に参加していただき、ご指導並びにご教示をいただきました。記して、厚くお礼申し上げます。

最後になりましたが、岡山県井笠地方振興局、ならびに地権者の皆様に多大なご支援とご助力をいただくとともに、地元有志を初めとする作業員の方々には、真夏の猛暑あるいは真冬の極寒の中、誠心誠意の発掘調査に従事してくださいました。あわせて厚くお礼申し上げます。

平成13年３月30日

矢掛町教育委員会
教育長　守　屋　　保

例　言

1．本書は里山田地区県営圃場整備事業に伴い、矢掛町教育委員会によって実施された清水谷遺跡〈一本木地区〉の発掘調査報告書である。

2．清水谷遺跡は岡山県小田郡矢掛町里山田684ほかに所在する。

3．発掘調査は1999年4月26日から2000年3月31日まで実施し、整理作業及び報告書作成は2000年4月1日から2001年3月31日までおこなった。

4．発掘調査および報告書の作成にあたっては下記の諸氏・関係機関からご支援、ご助言をいただいた。記して感謝の意を表したい（敬称略・順不同）。

上田健太郎　宇垣匡雅　岡本芳明　亀田修一　小林博昭　狭川真一　白石純　角南聡一郎
種定淳介　坪井清足　春成秀爾　平井勝(故)　平井典子　平井泰男　松木武彦　松本和男
松本直子　正岡睦夫　大橋雅也　川部浩司　安永周平　木原彊
岡山大学考古学研究室　岡山大学埋蔵文化財センター　岡山理科大学　(財)元興寺文化財研究所
井笠地方振興局　岡山県教育庁文化課　岡山県古代吉備文化財センター　総社市教育委員会　真備町教育委員会　地元地権者の方々

5．本報告書の作成は矢掛町教育委員会がおこない、執筆分担については執筆者名を各文末に記した。

6．植物遺存体の同定・分析については㈱パリノ・サーヴェイに依頼し、動物遺存体の鑑定は岡山理科大学富岡直人先生、花粉分析については同大学守田益宗先生にお願いした。

7．石器石材の鑑定は倉敷芸術科学大学妹尾護先生にお願いした。

8．巻頭図版（遺物）の作成には竹内健二氏の協力を得た。

9．出土遺物、図面、写真などはすべて矢掛町教育委員会（小田郡矢掛町矢掛2677－1）が保管している。

凡　例

1．本報告書にもちいた高度は海抜高である。

2．本報告書に掲載した地図は矢掛町全図・矢掛町都市計画図を縮小複製したものに、加筆・修正したものである。

3．本報告書の遺構、遺物の縮尺は基本的に以下のとおりである（一部を除く）。

遺構　1/30・1/60　　土器　1/4　　石器・土製品　1/2　　玉類　1/1

4．遺構断面図の網掛けは柱痕を示す。

5．報告書に掲載した遺物番号は土器、石器・石製品、土製品、木製品にわけて通し番号をつけ、土器以外については下記の記号を付している。また、図番号・観察表番号は対応している。

石器・石製品：S　　土製品：C　　木製品：W

6．本報告書に掲載した出土土器の図面のうち、中軸線の左右に白抜きのある図は口径復元をしたものである。

7．土器観察表における色調は『新版　標準土色帖（1988年版）』（農林水産省・農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修）を参考にした。

8．石器の分類は打製石鏃についてのみおこない、岡山県教育委員会の分類にしたがった。具体的には以下のとおりである。

Ⅰ類：平基式　　Ⅱ類：凹基式　　Ⅲ類：凸基Ⅰ式　　Ⅳ類：有茎式
Ⅴ類：抉り入り式　　Ⅵ類：凸基Ⅱ式

Ⅰ　Ⅱ　Ⅲ　Ⅳ　Ⅴ　Ⅵ

目　次

巻頭図版

序

例　言

凡　例

目　次

第Ⅰ章　調査の経緯 …… 1
　第１節　調査にいたる経緯 …… 1
　第２節　調査の体制 …… 3
　第３節　調査の経過 …… 3
　第４節　報告書作成の体制および方法 …… 7

第Ⅱ章　地理的・歴史的環境 …… 8

第Ⅲ章　発掘調査の概要 ……12
　第１節　調査の概要 ……12
　第２節　弥生時代環濠集落の遺構・遺物 ……17
　　（１）概要 ……17
　　（２）環濠 ……17
　　（３）竪穴住居 ……70
　　（４）掘立柱建物 ……81
　　（５）柵列 ……100
　　（６）柱穴 ……108
　　（７）土壙 ……121
　　（８）溝 ……140
　第３節　環濠集落周辺の遺構・遺物 ……144
　　（１）概要 ……144
　　（２）低位部 ……144
　　（３）環濠周辺のその他の遺構 ……156
　　（４）西側微高地 ……178
　　（５）遺物包含層 ……191

第Ⅳ章　結語 ……197
第１節　遺構について ……197
第２節　出土土器について ……203
第３節　出土石器について ……207

付載１　清水谷遺跡の弥生時代前期の古環境と植物利用 ……213
付載２　矢掛町清水谷遺跡出土の動物遺存体 ……228
付載３　矢掛町清水谷遺跡における花粉分析 ……237

観察表

図版

報告書抄録

挿図目次

第１図　工事範囲と調査区（１/10000）
第２図　遺跡範囲および調査区位置図（１/5000）
第３図　調査区およびグリッド設定図（１/800）
第４図　調査地周辺と主要遺跡（１/78000・１/250000）
第５図　吉野遺跡出土壷棺（１/４）
第６図　遺構全体配置図（１/400）
第７図　環濠集落とその周辺遺構配置図（１/200）
第８図　トレンチ設定図（１/800）
第９図　環濠断面図（１/60）
第10図　環濠杭列平・断面図（１/30）
第11図　環濠下層出土土器（１）（１/４）
第12図　環濠下層出土土器（２）（１/４）
第13図　環濠下層出土土器（３）（１/４）
第14図　環濠下層出土土器（４）（１/４）
第15図　環濠下層出土土器（５）（１/４）
第16図　環濠下層出土土器（６）（１/４）
第17図　環濠上層出土土器（１）（１/４）
第18図　環濠上層出土土器（２）（１/４）
第19図　環濠上層出土土器（３）（１/４）
第20図　環濠上層出土土器（４）（１/４）
第21図　環濠上層出土土器（５）（１/４）
第22図　環濠上層出土土器（６）（１/４）
第23図　環濠上層出土土器（７）（１/４）
第24図　環濠上層出土土器（８）（１/４）
第25図　環濠上層出土土器（９）（１/４）
第26図　環濠上層出土土器（10）（１/４）
第27図　環濠上層出土土器（11）（１/４）
第28図　環濠上層出土土器（12）（１/４）
第29図　環濠上層出土土器（13）（１/４）
第30図　環濠上層出土土器（14）（１/４）
第31図　環濠上層出土土器（15）（１/４）
第32図　環濠上層出土土器（16）（１/４）
第33図　環濠上層出土土器（17）（１/４）
第34図　環濠上層出土土器（18）（１/４）
第35図　環濠上層出土土器（19）（１/４）
第36図　環濠上層出土土器（20）（１/４）
第37図　環濠上層出土土器（21）（１/４）
第38図　環濠上層出土土器（22）（１/４）
第39図　環濠上層出土土器（23）（１/４）
第40図　環濠上層出土土器（24）（１/４）
第41図　環濠上層出土土器（25）（１/４）
第42図　環濠上層出土土器（26）（１/４）

第43図　環濠上層出土土器（27）（1/4）
第44図　環濠上層出土土器（28）（1/4）
第45図　環濠上層出土土器（29）（1/4）
第46図　環濠上層出土土器（30）（1/4）
第47図　環濠下層出土石器（1/2）
第48図　環濠上層出土石器（1）（1/2）
第49図　環濠上層出土石器（2）（1/2）
第50図　環濠上層出土石器（3）（1/2）
第51図　環濠上層出土石器（4）（1/2）
第52図　環濠上層出土石器（5）（1/2）
第53図　環濠上層出土石器（6）（1/2）
第54図　SH01平・断面図（1/60）
第55図　SH01出土遺物（1/4）
第56図　SH01出土遺物（1/2）
第57図　SH02平・断面図（1/60）
第58図　SH02出土遺物（1/4）
第59図　SH02出土遺物（1/2）
第60図　SH03平・断面図（1/60）
第61図　SH03出土遺物（1/2）
第62図　SH04平・断面図（1/60）
第63図　SH05平・断面図（1/60）
第64図　SH06平・断面図（1/60）
第65図　SH06出土遺物（1/2・1/4）
第66図　SB01（1/60）
第67図　SB02（1/60）
第68図　SB04（1/60）
第69図　SB03（1/60）
第70図　SB03（1/4）
第71図　SB05（1/60）
第72図　SB05出土遺物（1/4・1/2）
第73図　SB07（1/60）・SB07出土遺物（1/4）
第74図　SB07（1/60）
第75図　SB06（1/60）
第76図　SB08（1/60）
第77図　SB09（1/60）
第78図　SB10（1/60）
第79図　SB11（1/60）
第80図　SB12（1/60）
第81図　SB13（1/60）
第82図　SB14（1/60）
第83図　SB15（1/60）
第84図　SB16（1/60）
第85図　SB17（1/60）
第86図　SB18（1/60）
第87図　SB19（1/60）
第88図　SB19出土遺物（1/4）
第89図　SB20（1/60）
第90図　SB21（1/60）
第91図　SB22（1/60）
第92図　SB23（1/60）
第93図　SB24（1/60）
第94図　SB25（1/60）
第95図　SB26（1/60）
第96図　SB27（1/60）
第97図　SB28（1/60）
第98図　SB28出土遺物（1/4）
第99図　柵列1（1/60）・柵列1出土遺物（1/2）
第100図　柵列2・3・4・5（1/60）
第101図　柵列4出土遺物（1/2）
第102図　柵列3・柵列5出土遺物（1/4）
第103図　柵列6・7・8・9（1/60）
第104図　柵列10・11（1/60）
第105図　柵列11出土遺物（1/4）
第106図　柵列10出土遺物（1/2）
第107図　柵列12・13・14・15・16（1/60）
第108図　柵列17・18・19・20（1/60）
第109図　P02・P03（1/30）
第110図　P01・P04出土遺物（1/4）
第111図　P05（1/30）
第112図　P05出土遺物（1/4）
第113図　P08（1/30）
第114図　P10（1/30）
第115図　P10出土遺物（1/2）
第116図　P09出土遺物（1/2）
第117図　P11（1/30）・P11出土遺物（1/4）
第118図　P12（1/30）
第119図　P14（1/30）
第120図　P13（1/30）・P13出土遺物（1/2）
第121図　P16（1/30）・P16出土遺物（1/4）
第122図　P17・18出土遺物（1/4）

第123図　P19・20出土遺物（1/2）
第124図　P21・22・23・24・25（1/30）
第125図　P27・28・29・30（1/30）
第126図　P31・34出土遺物（1/2）
第127図　P32出土遺物（1/4）
第128図　P33（1/30）
第129図　P36・37（1/30）
第130図　P37・38出土遺物（1/2・1/4）
第131図　P40·41·42·43·44·45·46·47（1/30）
第132図　P48·49·50·51·52·53·54·55（1/30）
第133図　P56・57・58・59（1/30）
第134図　P60・61・62・63・64・67（1/30）
第135図　P65・66・68・69・70（1/30）
第136図　P71・72・73・74（1/30）
第137図　P75・76・77・78・80（1/30）
第138図　P79出土遺物（1/4）
第139図　SK01・02・03・04（1/60）
第140図　SK04出土遺物（1/4）
第141図　SK05・06（1/60）
第142図　SK05出土遺物（1/4・1/2）
第143図　SK06出土遺物（1/4・1/2）
第144図　SK07・08・09・10（1/60）
第145図　SK08出土遺物（1/4）
第146図　SK11（1/60）・SK11出土遺物（1/4）
第147図　SK12・13（1/60）
第148図　SK14（1/60）・SK14出土遺物（1/4）
第149図　SK15（1/60）・SK15出土遺物（1/4）
第150図　SK16（1/60）・SK16出土遺物（1/4）
第151図　SK17・18・19（1/60）
第152図　SK17出土遺物（1/4・1/2）
第153図　SK18出土遺物（1/1）
第154図　SK19出土遺物（1/4）
第155図　SK20（1/60）・SK20出土遺物（1/4）
第156図　SK21（1/60）
第157図　SK21出土遺物（1/4・1/2）
第158図　SK22（1/30）
第159図　SK23（1/30）・SK23出土遺物（1/2）
第160図　SK24・25（1/30）
第161図　SK27出土遺物（1/4）
第162図　SK28出土遺物（1/4・1/2）
第163図　SK29（1/30）・SK29出土遺物（1/4）
第164図　SK30（1/30）
第165図　SK32出土遺物（1/4・1/2）
第166図　SK34出土遺物（1/4）
第167図　SK35（1/30）・SK35出土遺物（1/2）
第168図　SK36・37・38出土遺物（1/4·1/2）
第169図　SK39（1/30）
第170図　SK40（1/30）
第171図　SK42・43・45・46（1/30）
第172図　SK47・48（1/30）
第173図　SK50(1/30)·SK50出土遺物(1/4·1/2)
第174図　SK51（1/30）
第175図　SK52出土遺物（1/4・1/2）
第176図　SK54(1/30)・SK54出土遺物(1/4·1/2)
第177図　SK55・56・57・58・59（1/30）
第178図　SK74（1/30）
第179図　SD01（1/30）
第180図　SD02・03（1/30）
第181図　SD04・05（1/30）
第182図　土層断面図（1）（1/60）
第183図　土層断面図（2）（1/60）
第184図　土層断面図（3）（1/60）
第185図　低位部拡張トレンチ平面図（1/200）
第186図　低位部拡張トレンチ自然木出土状態（1）（1/50）
第187図　低位部拡張トレンチ自然木出土状態(2)(1/50)
第188図　P82・83・84・86・SK60（1/30）
第189図　自然河道出土遺物（1/4）
第190図　自然河道下層出土遺物（1/4）
第191図　自然河道·自然河道下層出土遺物(1/2·1/4)
第192図　SD07出土遺物（1）（1/4）
第193図　SD07出土遺物（2）（1/4）
第194図　SD07出土遺物（3）（1/4）
第195図　SD07出土遺物（4）（1/4）
第196図　SD07出土遺物（5）（1/4・1/2）
第197図　SD06出土遺物（1）（1/4）
第198図　SD06出土遺物（2）（1/2・1/3）
第199図　SX11出土遺物（1）（1/4）
第200図　SX11出土遺物（2）（1/4）
第201図　SX11出土遺物（3）（1/4）
第202図　SX11出土遺物（4）（1/4）

第203図　SX11出土遺物（5）（1/4）
第204図　SX11出土遺物（6）（1/2）
第205図　SX12出土遺物（1）（1/4）
第206図　SX12出土遺物（2）（1/4）
第207図　SX12出土遺物（3）（1/2）
第208図　P81出土遺物（1/4）
第209図　P85出土遺物（1/4）
第210図　SK60出土遺物（1/4）
第211図　西側微高地遺構配置図（1）（1/200）
第212図　西側微高地遺構配置図（2）（1/200）
第213図　P87・90・97・114（1/30）
第214図　西側微高地柱穴出土遺物（1）（1/2）
第215図　西側微高地柱穴（1/30）
第216図　P111・112・113・115（1/30）
第217図　P116・117・118・119（1/30）
第218図　西側微高地柱穴出土遺物（2）（1/2・1/4）
第219図　P118出土遺物（1/2）
第220図　P120・121・122（1/30）
第221図　P116·120·121·122出土遺物（1/4・1/2）
第222図　SK61·62·63·64·65·66（1/30）
第223図　SK65・66出土遺物（1/2）
第224図　SK67・68・72（1/30）
第225図　SK68・69出土遺物（1/2）
第226図　SK70・73（1/30）
第227図　SK64·70出土遺物（1/4・1/2）
第228図　SD08·09·10·12·13·14·15断面図（1/60）
第229図　西側微高地溝出土遺物（1）（1/4）
第230図　西側微高地溝出土遺物（2）（1/4）
第231図　西側微高地溝出土遺物（3）（1/2）
第232図　SD16断面図（1/60）
第233図　SD16出土遺物（1）（1/4）
第234図　SD16出土遺物（2）（1/2）
第235図　包含層出土遺物（1）（1/4）
第236図　包含層出土遺物（2）（1/4）
第237図　包含層出土遺物（3）（1/2・1/1）
第238図　集落内住居址・柵列・溝状土壙配置図（1/400）
第239図　蓋形土器（壺）の分類
第240図　蓋形土器（甕）の分類
第241図　壺形土器口縁形態の分類及び文様相関図
第242図　甕形土器口縁形態の分類及び文様相関図
第243図　打製石鏃出土の割合
第244図　打製石鏃長幅比
第245図　磨製石庖丁使用石材の割合
第246図　玉作遺跡分布図（1/10000）
第247図　岡山県下出土玉作関係遺物実測図（1/1）
第248図　奈具岡遺跡　石針製作工程図
第249図　長瀬高浜遺跡　管玉製作工程模式図

表　目　次

第1表　清水谷遺跡周辺の主要遺跡
第2表　打製石鏃出土点数
第3表　磨製石庖丁使用石材別出土点数
第4表　土器観察表
第5表　石器・石製品一覧表
第6表　土製品一覧表

図　版　目　次

巻頭図版1　上　遺跡遠景（東から）
下　調査区全景（西から）
巻頭図版2　上　調査区全景
下　環濠土層断面（南から）
巻頭図版3　上　出土土器（1）
下　出土土器（2）
巻頭図版4　上　出土石器（1）
下　出土石器（2）

図版1　上　環濠集落遠景（西から）　下　調査区全景（南から）
図版2　上　調査区遠景（北から）　下　調査区遠景（東から）
図版3　左上　環濠完掘状況（南から）　右上　環濠上層遺物出土状況（北から）
左下　環濠上層遺物出土状況（南から）　右下　環濠完掘状況（北から）
図版4　上　環濠上層遺物出土状況（北から）　中　環濠完掘状況（北から）
下　環濠完掘状況（南から）
図版5　上　環濠土層断面（西から）　中　環濠土層断面
下　環濠土層断面
図版6　上　SH01完掘状況（北から）　中　SH02調査風景
下　SH02中央穴土層断面（北から）
図版7　上　SH04中央穴土層断面（南から）　中　SH05完掘状況
下　SH06完掘状況
図版8　左上　SK17・SK18・SK19完掘状況　右上　SK04完掘状況
下　SK16土層断面
図版9　上　SD07土層断面（北から）　中　低位部　弥生前期水田畦畔（南から）
下　低位部　自然木出土状況（西から）
図版10　上　低位部　自然木埋没状況（南から）　下　低位部　自然木出土状況（東から）
図版11　出土土器（3）　図版12　出土土器（4）
図版13　出土土器（5）　図版14　出土土器（6）
図版15　出土土器（7）　図版16　出土土器（8）
図版17　出土土器（9）　図版18　出土土器（10）
図版19　出土土器（11）　図版20　出土土器（12）
図版21　出土土器文様　図版22　出土石器（3）
図版23　出土石器（4）　図版24　出土石器（5）
図版25　出土石器（6）　図版26　出土石器（7）
図版27　出土石器（8）　図版28　出土石器（9）
図版29　出土石器（10）・石製品　図版30　出土石製品・土製品・木製品・鉄滓

第Ⅰ章　調査の経緯

第１節　調査にいたる経緯

平成８年度に矢掛町里山田地内の土井・畑ヶ中・清水谷・土生の各地区において県営整備事業（担い手育成基盤事業）が計画された。この段階で岡山県井笠地方振興局より事業予定地内における埋蔵文化財の有無について問い合わせがあった。矢掛町教育委員会は、町内遺跡分布図により当該地内の尾根東裾の地区では周知の遺跡があり、工事前に事前の確認調査が必要となることを回答した。

平成８年９月、埋蔵文化財の取り扱いについて岡山県教育委員会と岡山県井笠地方振興局による協議が行われた。この結果、当該地内の尾根東裾の地区で周知されている遺跡以外に、小田川右岸の土生地区においても遺物が広く分布していることから、事業予定地内全面について工事着工に先立って、遺跡の規模・状況等を明らかにし、遺跡保存の協議資料を得るための確認調査を実施することとなった。

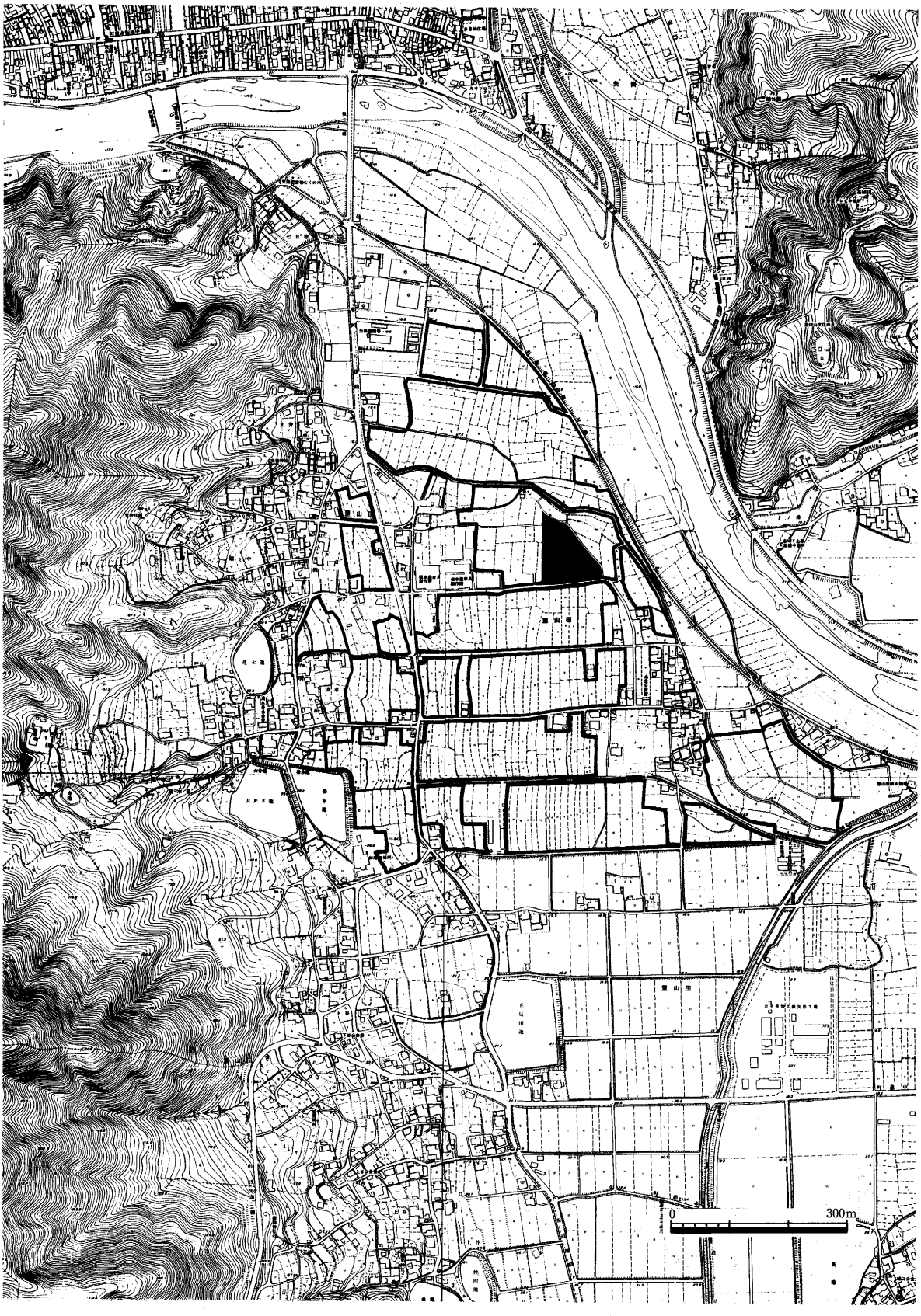
確認調査は、岡山県教育委員会により平成９年11月４日から平成10年１月29日まで実施された。その結果、事業予定地内の尾根東裾を中心に、弥生時代から中世の竪穴住居や柱穴列、溝といった集落に関連した遺構と、縄文時代以降の土器や石器などの遺物が出土した。特に一本木地区では新たな微高地を発見し、弥生時代前期後半の溝と石器製作跡などが確認された。

この結果を受け、岡山県教育委員会と岡山県井笠地方振興局による協議が行われ、工事予定地内の尾根東裾にある土井・畑ヶ中・清水谷地区と、土生地区の一部を除いた平地部分を盛土工法とし、管理道の交差部分にあたる一本木地区の約1,000㎡はやむをえず記録保存による発掘調査を実施することになっていた。

しかしながら、一時は盛土工法となっていた工事予定地の中央部にあたる一本木地区の約20,000㎡について、周囲との高低差や完成後の維持・管理の難しさ等の理由から、平成10年７月に里山田地区圃場整備組合より矢掛町に対し切土工法の要望がだされた。要望地は確認調査で新たに確認された微高地上にあたり、遺構・遺物の出土が予想されている範囲と一致するため、埋蔵文化財の取り扱いについて再度検討することとなった。

平成10年８月、岡山県教育委員会・里山田地区圃場整備組合・矢掛町教育委員会により協議した結果、発掘調査体制の充実を図ったうえで、切土工法により事業の実施をすることとなり、一本木地区の約20,000㎡について平成11年度調査予定面積7,620㎡、平成12年度調査予定面積12,000㎡の計画で国庫補助を受けて、記録保存のための発掘調査を実施し、平成13年度で発掘調査報告書の作成を行うこととなった。

平成11年度調査区から弥生時代前期後半の環濠集落跡・水田跡等が確認され、遺跡の重要さを踏まえて、11月25日付け矢教生第1086号で、矢掛町教育委員会は事業主である岡山県井笠地方振興局に対し計画変更の要望書を提出した。この要望を受けて井笠地方振興局は関係者と協議し、平成11年度調査区は計画高の変更をし、平成12年度調査予定地は遺跡の重要性などから盛土工法として、現状保存をすることとなり、当初の工事計画に戻された。



は工事範囲。　　は発掘調査範囲。

第１図　工事範囲と調査区（Ｓ＝1/10,000）

第２節　調査の体制

発掘調査は平成11年4月より平成12年３月まで、岡山県井笠地方振興局より委託を受け、岡山県教育庁文化課の指導のもとに、矢掛町教育委員会が実施した。また、平成11年8月から平成11年9月までは総社市教育委員会と真備町教育委員会の、平成11年10月から平成11年3月までは、総社市教育委員会の協力を得て、発掘調査を実施した。

発掘調査組織

矢掛町教育委員会

教育長　守屋　保

生涯学習課

課長　谷許和昭

課長補佐　妹尾文雄

主査　平井八代子

主事　小川泰徳

主事（調査担当）直原伸二

市町村専門職員協力者

総社市教育委員会　主任　武田恭彰

真備町教育委員会　文化財保護主事　藤原憲芳

発掘調査作業員

浅野真太　浅野信久　池田公彦　池田貞巳　石野信克　石野弘美　大森毅

斉木武士　新谷宣治　新谷厚江　藤井君子　原田成明　原田伝　槙原宰

槙原沢使　松岡峯子　松岡良子　峰山正子　森川網夫　山辺静男　山辺須磨子

遺構実測・遺物整理作業員

坂口優子　瀬崎美紀子　武政めぐみ　高橋奈津子

第３節　調査の経過

平成９年度に行われた岡山県教育委員会の確認調査の結果を受けて計画変更等検討したが、やむをえず工事によって影響を受ける範囲について発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は平成11年度の国庫補助を受け、7,620㎡について平成11年４月から平成12年３月まで行なわれた。

平成11年４月より発掘調査に先立ち、平成11年度調査区のグリッドを設定した。基準杭は東西南北に10m間隔で設置し、西から東西方向に０から10番まで、南から南北方向にＡからＬまで記号･番号を付した。また、グリッド番号は、南東隅を基準にＡ－０、Ａ－１…のように設定した。

調査は、平成11年４月20日より調査区北より開始し、南側へと調査範囲を広げることとした。

6月には西側調査区の南東隅に幅3.5m、深さ1.5mの溝を検出した。この時点までは当遺跡が環濠集落となることは想定していなかったが、その可能性があるとの指摘を受けた。

この段階になり、調査区西側の管理道予定地を早急に調査する必要が生じ、先に着手することとした。

調査は北からグリッド単位で進めたところ、微高地を確認し、これに弥生時代前期の遺構・遺物を伴っていることがわかった。さらに微高地に平行して、溝が南北方向にあったことが確認された。

ここまでの西側調査区微高地の調査から遺構の密度が高いことが確認されたため、矢掛町教育委員会では、調査の万全を期すため、発掘調査体制の充実をはかることとなり、岡山県教育庁文化課と協議し、総社市教育委員会と真備町教育委員会から調査員の派遣を要望した。

平成11年7月15日に岡山県教育庁文化課と、総社市教育委員会と矢掛町教育委員会とで協議を行った。その結果、今後の調査方法、及び総社市教育委員会と真備町教育委員会から調査員の派遣が決定された。

平成11年7月19日より総社市教育委員会の応援をうけながら調査を進めた。この時までに、調査区の南東隅に設けた表土置き場以外の約4,500㎡の表土剥ぎを終了した。

この段階で、西側調査区南東隅で検出した溝が、ほぼ、だ円を描くように巡ることが確認でき、環濠集落であることが確実となった。以後、調査は微高地部分、低湿地、環濠集落内の遺構を優先し、環濠及び環濠集落周辺の低湿地部分の調査は、工事の影響を受けない深さまでを目途とした。

また、平成11年8月から約1ヶ月間は真備町教育委員会からの応援も受けた。

平成11年11月3日付けで、弥生時代前期後半の環濠集落として新聞報道がなされた。

平成11年11月までに、当遺跡が全国的にも調査例の少ない貴重なものであることが確認され、矢掛町教育委員会は遺跡の重要さを踏まえて、事業主体者である岡山県井笠地方振興局に対し、計画高の変更を要望した。

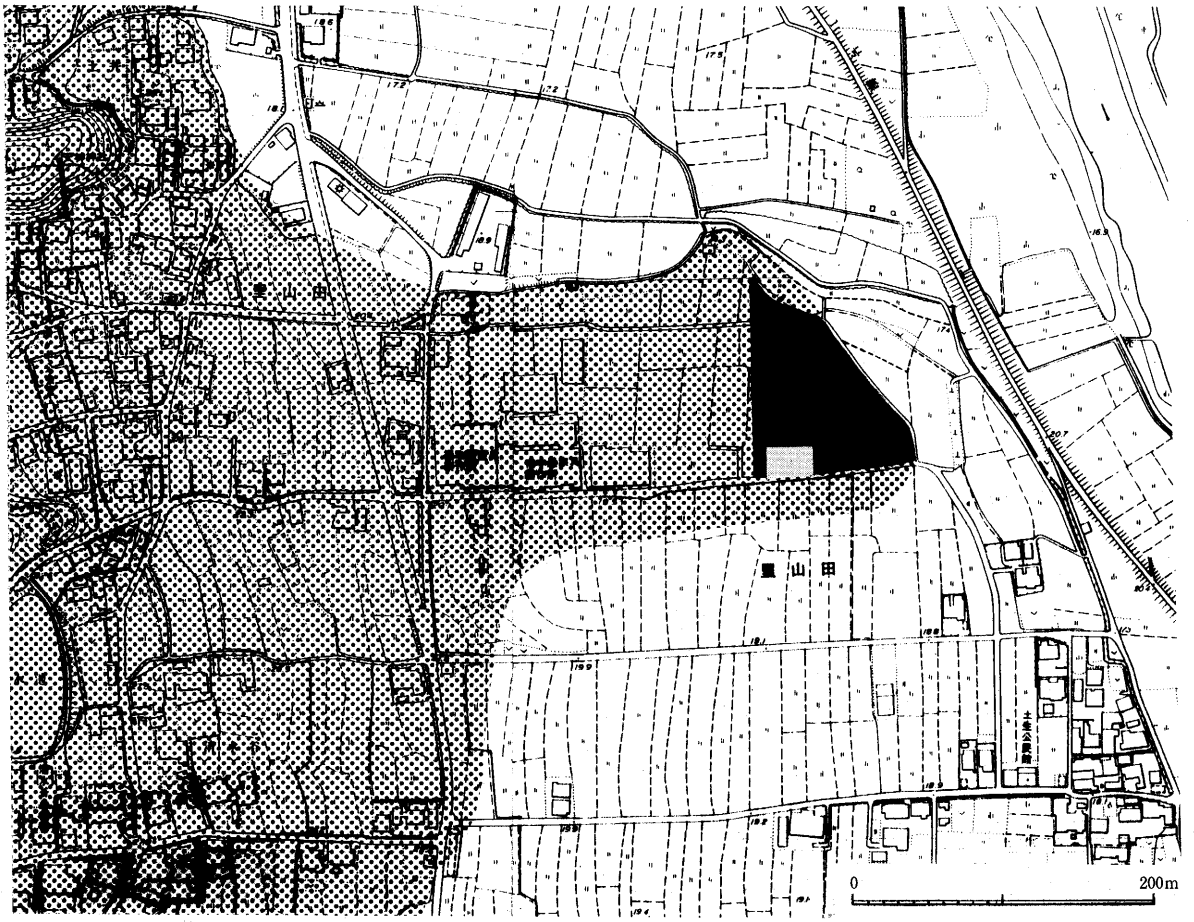
平成11年12月までに、調査区全体を目標の深さまで調査することができ、平成11年12月25日に現地説明会を開催した（見学者約300人）。

平成12年1月から環濠内については最下層までと、低湿地部分はトレンチの拡幅と新設によって部分的に調査することとなった。これと並行して遺物の水洗い作業をおこない、平成12年3月で調査を終了し、現場の埋め戻しを行った。（直原）

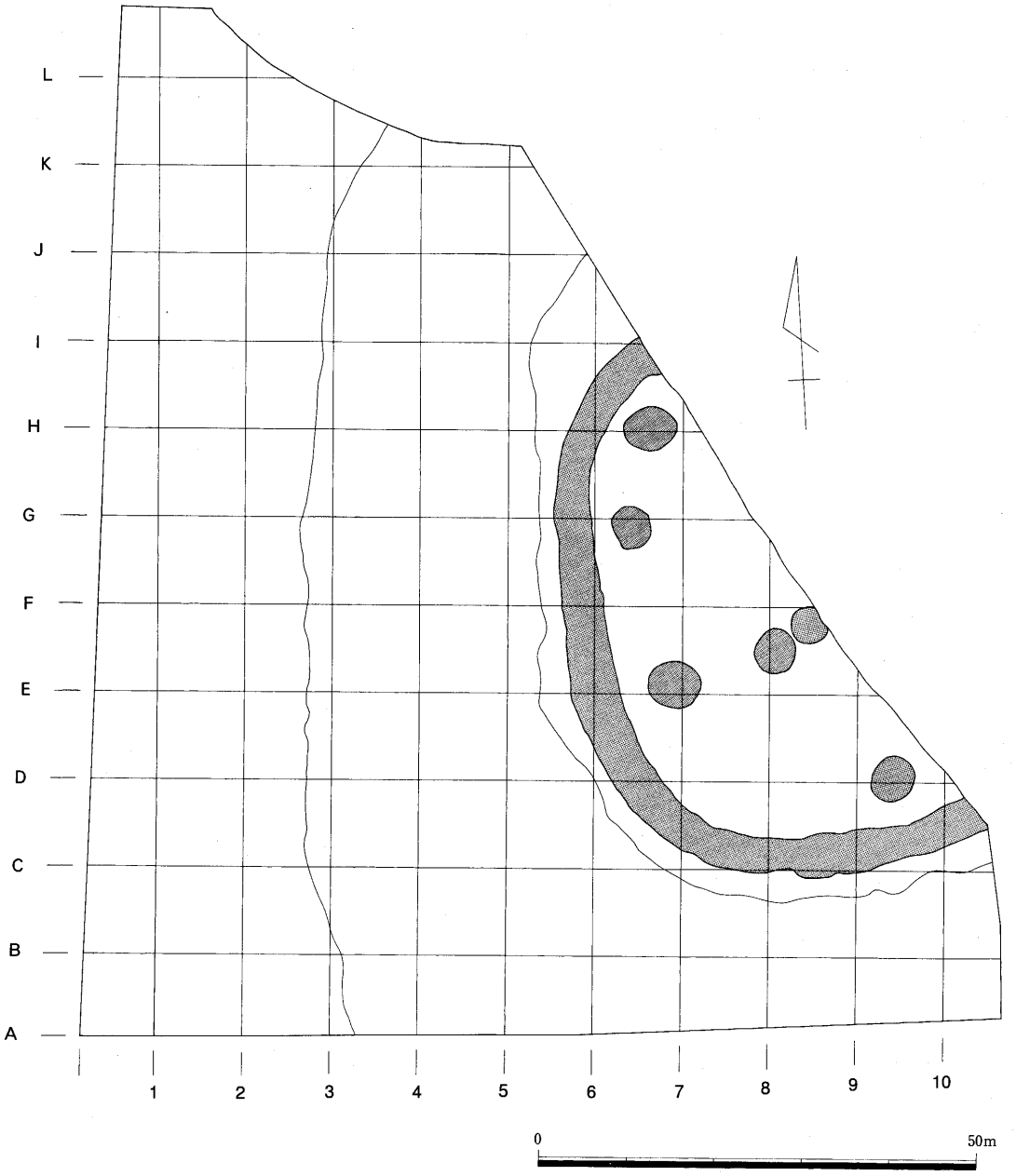
日記抄

平成11年4月12日　調査区、基準杭の設置
4月20日　重機により表土の除去。掘り下げ。
4月22日　遺構検出。ピット、土壙、溝検出。
6月11日　溝検出。
6月21日　ピット・土壙・溝を検出。
7月9日　南北トレンチ、東西トレンチの設置。弥生時代前期後半環濠集落を確認。
7月15日　岡山県教育庁文化課、総社市教育委員会、矢掛町教育委員会で調査計画及び調査体制の協議。
7月19日　総社市教育委員会から派遣調査員の参加。調査区全体の表土剥ぎ開始。

７月22日　南西隅から掘り下げ、遺構検出。
８月４日　後期水田跡を検出。
８月20日　真備町教育委員会からの派遣調査員の参加。
８月21日　竪穴住居跡確認。ピット・土壙・溝・環濠を検出。
10月22日　弥生時代後期水田跡の大畦を検出。
12月25日　航空写真撮影。現場説明会。
平成12年２月16日　弥生時代前期の水田面及び畦を確認。
３月17日　現場埋め戻し開始。
３月21日　現場埋め戻し終了、現場撤収。



第２図　遺跡範囲および調査区位置図（Ｓ＝1/5,000）



第３図　調査区およびグリッド設定図（Ｓ＝1/800）

第4節　報告書作成の体制および方法

本書は、平成11年4月から平成12年3月におこなった発掘調査を対象として作成した。報告書の作成は平成12年4月から平成13年3月まで、総社市教育委員会の多大な協力・指導を得て、直原伸二、藤江望が中心になりおこなった。発掘調査面積は7,620㎡、遺構総数は約300基、出土遺物はコンテナ約300箱である。

出土遺物の水洗は一部を残して現場で終了していたため、整理作業は土器の復元から開始し、復元可能なもの、口縁部、底部などの注記を並行しておこなった。その後、土器・石器・石製品・土製品の器種、残存状況などを加味し、実測するものを選定した。結果、土器約1,300点、石器約350点などを実測し、そのほとんどを報告書に掲載している。これらは出土遺物総数の約3分の1である。遺構図の作成は現場担当者がそれぞれおこない、トレースは担当者および作業員がおこなった。

石器の石材鑑定は倉敷芸術大学妹尾護氏にお願いした。また、自然河道・環濠出土の植物遺体および住居址出土の炭材は株式会社パリノ・サーヴェイに、動物遺体は岡山理科大学富岡直人氏に同定を依頼した。花粉分析については岡山理科大学守田益宗氏に鑑定を依頼した。なお、パリノ・サーヴェイ、富岡氏、守田氏にはそれぞれについての報文をいただき、付載として掲載した。　（藤江）

報告書作成組織

矢掛町教育委員会

教育長	守屋　保

生涯学習課

課長	谷許和昭
課長補佐	妹尾文雄
主事	丹下千里
主事	小川泰徳
主事（報告書作成）	直原伸二
遺物整理作業員（報告書作成）	藤江　望

市町村専門職員協力者

総社市教育委員会	主任	武田恭彰
	主事	高橋進一

遺物実測作成

近藤雅子　高橋奈津子

遺物整理作業員

岡田佑香　坂口優子　瀬崎美紀子　武政めぐみ　平井まり子

第Ⅱ章　地理的・歴史的環境

清水谷遺跡が所在している矢掛町は岡山県南西部に位置し、北は小田郡美星町・総社市、東は吉備郡真備町、西は井原市、南は倉敷市・笠岡市・浅口郡鴨方町・金光町に接している。

また、小田川が町の南部を東西に流れ、北は吉備高原南端の海抜約300ｍ～400ｍの山々が連なり、南は、鴨方町・笠岡市との境に海抜405.5ｍの遙照山・竹林寺山・阿部山に連なる遙照山山系等があるなど、大半を山地が占めている。

集落は主に小田川に沿って作られた自然堤防や丘陵裾の緩斜面に存在し、また、小田川に流れ込む支流によって作られた扇状地が耕作地帯として利用されている。

町内の地質は、周辺の美星町や井原市に比べ比較的単調である。最も広く分布しているのは、町の中部から北部一帯に広がる中生代末期（白亜紀）の花崗岩と南部一帯に分布する流紋岩などの火成岩類である。その他には、粘板岩・輝緑岩がわずかに存在している(1)。

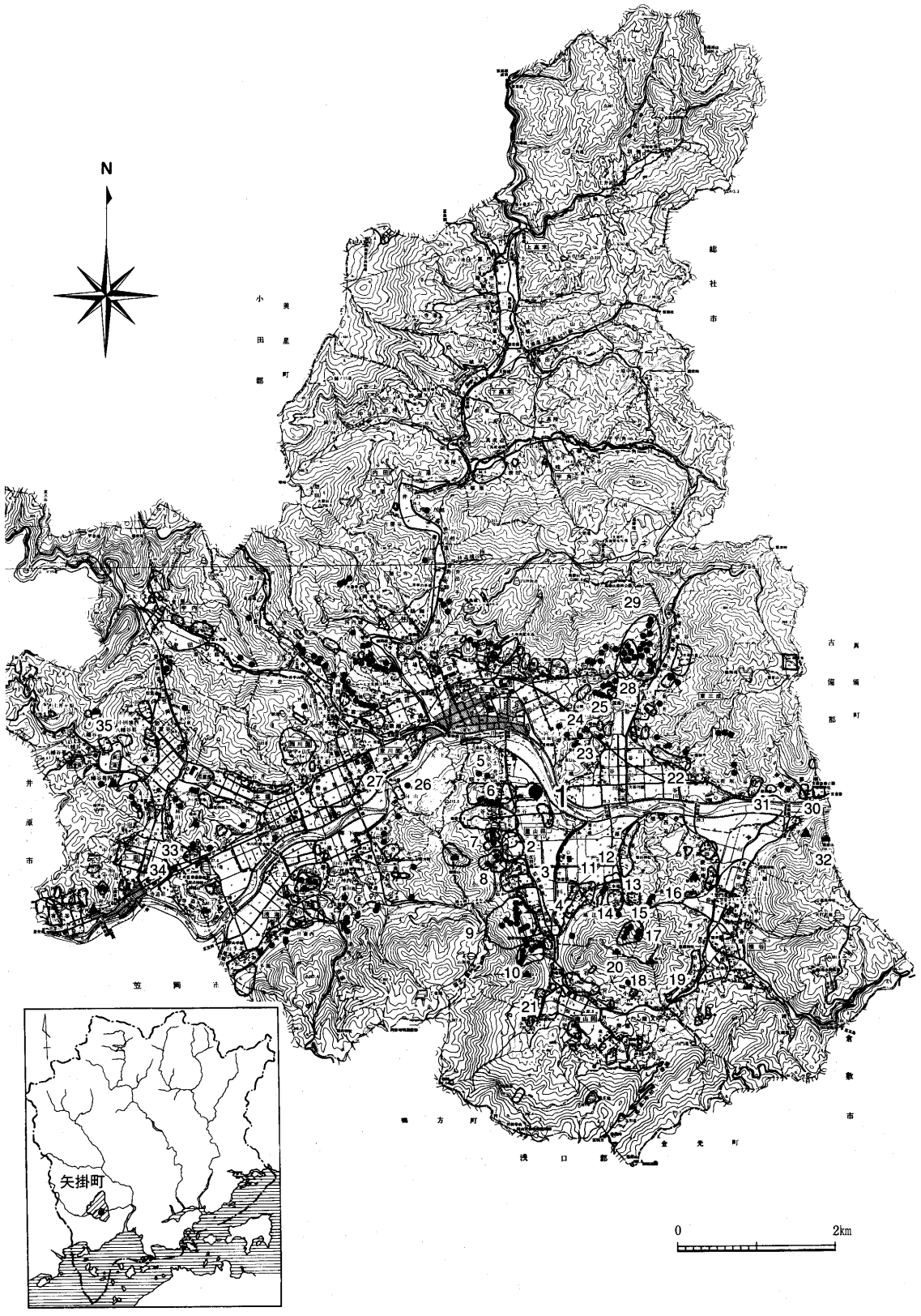
遺跡周辺で、最も古い人類の痕跡は、清水谷遺跡から南の遙照山山系の阿部山で採集された旧石器時代のナイフ形石器である(2)。

阿部山では、縄文時代の石器も採集されており、また西三成の奥迫遺跡から出土した早期の押型文土器からみて早い時期に活動の舞台であったことが分かる(3)。ただ縄文後期・晩期では、奥迫遺跡から比較的まとまって出土しているものの、他の遺跡では確認されていない。晩期になると、本遺跡やその南東に所在する中池ノ内遺跡(4)で土器が出土するようになり、次第に遺跡数も増加するようである。

弥生時代に入ると遺跡の数は、さらに増えてくる。前期の遺跡は、まだ発見数が少なく本遺跡の環濠集落と小田川を挟んで東に所在する東三成の吉野遺跡(5)である。吉野遺跡からは、壷棺が出土している（第５図）。壷棺は、身・蓋とも完存しており、身部は壷の口縁を打ちかいて口をひろげて使用し、蓋には壷の底部を用いている。遺構は、確認されなかったが、周辺に遺構、墓群が存在している可能性が高い。中期には、生活区域を低丘陵地や小田川の自然堤防上といった地形のところに広げていく。本遺跡の西に広がる丘陵地や川面の大鳥居散布地、西三成の奥迫遺跡などが知られている。後期になると、遺跡は丘陵部を中心に一層増加し、当遺跡から道々川の南にある後期前半の土器を大量に出土した白江遺跡(6)や特殊器台・特殊壷を出土した芋岡山墳墓群(7)(8)が知られており後期の拠点的集落へと発展していく。

古墳時代の、明らかな集落は確認されていないが、多くの古墳が築かれている。前半期には、小田川南岸で箱式石棺をもつ芋岡山古墳群(9)、北岸では、西三成の中山古墳群を中心として小規模な前方後円墳が数基見られる。後半期には、奥迫古墳群や里山田の丘陵上に土井１・２号墳、畑ヶ中古墳群、橋本古墳群(9)といった横穴式石室をもった古墳群が築かれる。中でも、橋本荒神塚（橋本15号墳）(10)は、県下でも確認数の少ない石棚を持つ後期古墳の一つである。また、南山田の小迫大塚古墳(11)は町内最大級の一辺20数ｍを測る終末期の方墳であり、当地域の勢力の大きさと南北交通の拠点として重要な位置を占めていたことが分かる。

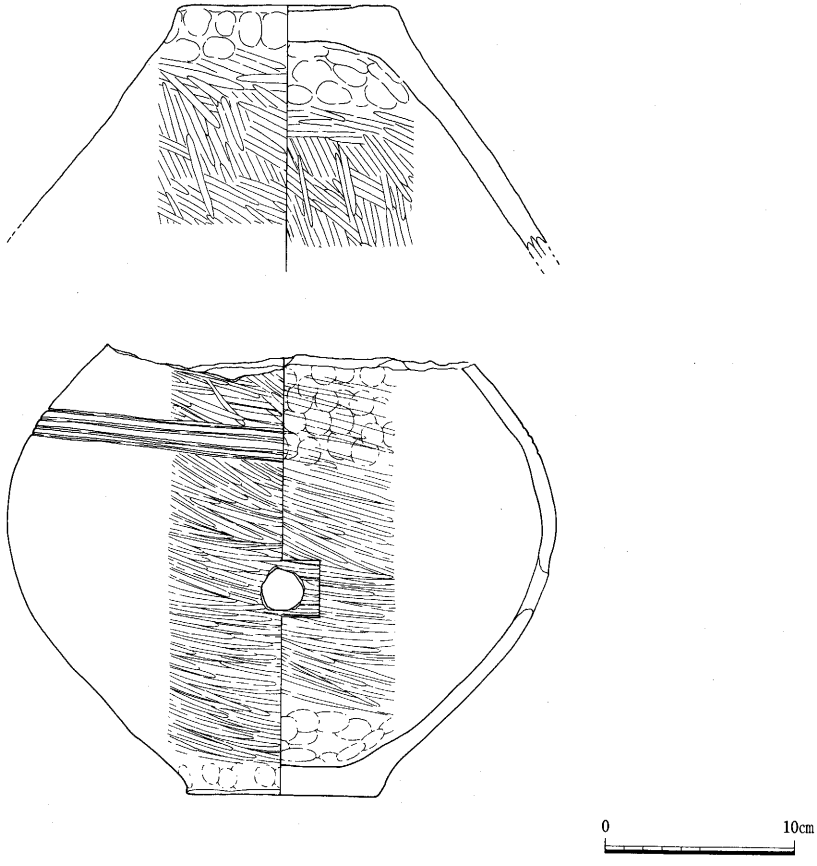
町の東西を流れる小田川に沿って、古代山陽道が通っており、この沿線に、奈良時代の遺跡が多く残されている。真備町との境に、吉備公館址とも瓦谷廃寺とも言われているところがある。ここでは、平城宮式の瓦が多く出土している。その西斜面には、下道の墓域があり、吉備真備公の祖母の銅製骨



第4図　調査地周辺と主要遺跡（S＝1/78,000・1/250,000）

第１表　清水谷遺跡周辺の主要遺跡

No	遺　跡　名	時代・時期	No	遺　跡　名	時代・時期
1	清水谷遺跡	縄文～中世	19	山城跡	中世
2	里山田下谷遺跡	弥生（中・後期）・古墳	20	山城跡	中世
3	里山田上谷遺跡	弥生・中世	21	山城跡	中世
4	橋本散布地	弥生・古墳	22	吉野遺跡	弥生～古代
5	土井１・２号墳	古墳	23	茶臼山城跡	中世
6	畑ヶ中古墳群	古墳	24	蛸の頭古墳	古墳
7	四頂山古墳群	古墳（後期）	25	中山４～７号墳	古墳
8	三頂山古墳群	古墳（後期）	26	向山古墳	古墳（後期）
9	橋本古墳群	古墳（後期）	27	大鳥居散布地	弥生（中期）
10	池尻古墳群	古墳（後期）	28	奥迫遺跡	縄文～中世
11	白江遺跡	弥生（後期）・古墳	29	奥迫古墳群	古墳（後期）
12	官衙推定地	古代（奈良）	30	伝吉備公館址	古代（奈良）
13	芋岡山１・２号古墳群	古墳（中期）	31	下道の墓	古代（奈良）
14	芋岡山墳墓群	弥生（後期）	32	猿掛城	中世
15	中池ノ内遺跡	縄文～古代	33	毎戸遺跡・毎戸西方遺跡	弥生・古代
16	江本裕安寺谷１・２号墳	古墳	34	小田郡衙推定地	古代（奈良）
17	安居寺谷古墳群	古墳（後期）	35	神戸山城	中世
18	小迫大塚古墳	古墳（後期）			



第５図　吉野遺跡出土壷棺（Ｓ＝1/4）

蔵器[12]が山麓から出土している。また、土採り作業中に同時期の須恵器製骨蔵器が出土し、墓域であることを裏付けている。

古代山陽道の駅制に関わる遺跡として矢掛地区の江木が候補地の一つとしてあげられている[13]が、まだ確実な遺構や遺物の発見はされていないのが現状である。その中で町西部にある中川地区の毎戸遺跡・毎戸西方遺跡[14][15]では、掘建柱建物や平城宮式瓦や、井原線建設に伴う発掘調査により「馬」と篦書きされた土師器坏が出土し、駅屋の推定地としてほぼ確実なものになった。

また小田は、小田郡衙跡[16]として有力な候補地で、郡衙と関連づけることが可能な字が多く、条里制の跡が残されている。白江遺跡では、溝から円面硯が出土し、官衙の推定地として注目される[17]。

戦国期には、小田川に沿って通る旧山陽道の交通の要衝には猿掛城・神戸山城など多くの山城が築かれるようになる[18]。特に矢掛町と真備町にまたがる猿掛城は、羽柴秀吉の備中高松城水攻め時には、毛利輝元が本陣を置いた山城で、備南では最大級の規模を有している。猿掛城最後の城主となった毛利元就の五男にあたる毛利元清のおり猿掛城から茶臼山城へ移城した。元清の墓と伝えられる宝匡印塔は、横谷の古刹洞松寺にある。

江戸時代に山陽道の宿場町として本格的に整備されたのは、石井家文書によれば寛永年間のころと言われている[19]。国指定重要文化財の旧矢掛本陣石井家住宅・旧矢掛脇本陣高草家住宅が両方とも現存しており全国的にも珍しい。特に旧矢掛本陣石井家には、5,000点を超える古文書が残され、これらすべてをマイクロ写真に記録すると共に、CD-ROMによるデジタル化で永久保存もなされている。また、「歴史かおるまち矢掛」として矢掛宿の町並み保存の意識は非常に高く、東西に約1キロにわたって本瓦葺、妻入りの伝統的な建物が軒を連ねた町並みを今に伝えている。　（直原）

註
（1）森　文忠　「第一章　第二節　地形と地質」『矢掛町史　本編』　矢掛町　1982年
（2）間壁忠彦ほか　「第二章　郷土のあけぼの」『矢掛町史　本編』　矢掛町　1982年
（3）高畑知功　「奥迫遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』60　岡山県教育委員会　1985年
（4）尾上元規　「中池ノ内遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』108　岡山県教育委員会　1996年
（5）宇垣匡雅　「吉野遺跡」『岡山県埋蔵文化財報告』22　岡山県教育委員会　1992年
（6）間壁忠彦　「岡山県矢掛町白江遺跡」『倉敷考古館研究集報』第1号　(財)倉敷考古館　1966年
（7）間壁忠彦・間壁葭子　「岡山県矢掛町芋岡山遺跡調査報告」『倉敷考古館研究集報』第3号　(財)倉敷考古館　1967年
（8）近藤義郎　「第四章　第三節三　備中」『岡山県史　第二巻　原始・古代Ⅰ』　岡山県　1991年
（9）間壁忠彦　「岡山県下の人骨を出土した小古墳六例」『倉敷考古館研究集報』第4号　(財)倉敷考古館　1968年
（10）平井　勝　「岡山県矢掛町橋本荒神塚（橋本15号墳）の測量調査」『古代吉備』第19集　古代吉備　1997年
（11）藤田憲司・伊藤　晃　「古墳時代（備中）」『岡山県史　第18巻　考古資料』　岡山県　1991年
（12）伊藤　晃　「第七章　第三節二　氏寺の建立と山岳寺院跡」『岡山県史　第二巻　原始・古代Ⅰ』　岡山県　1991年
（13）中野美智子　「第5章　第6節一(3) 備中ルートの変遷と景観」『矢掛町史　本編』　矢掛町　1982年
（14）伊藤　晃　「第七章　第五節一古代山陽道と駅館」『岡山県史　第二巻　原始・古代Ⅰ』　岡山県　1991年
（15）下澤公明ほか　「毎戸西方遺跡・毎戸遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』5　岡山県教育委員会　1974年
（16）間壁忠彦ほか　「第三章　第四節三　郡衙」　『矢掛町史　本編』　矢掛町　1982年
（17）桑田俊明　「白江遺跡ほか」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』80　岡山県教育委員会　1992年
（18）高重　進　「第四章　第一節　中世の概観」　『矢掛町史　本編』　矢掛町　1982年
（19）前野　嘉ほか　「矢掛宿」『矢掛町矢掛宿伝統的建造物群保存対策調査報告書』　矢掛町教育委員会　1990年

第Ⅲ章　発掘調査の概要

第１節　調査区の概要

今回の調査の対象となった、一本木地区の約7,600㎡は平成９年度に県教育委員会の確認調査により弥生時代前期を中心とした濃密な遺構の存在が明らかになった地点である。

確認調査の結果、遺構の広がりは、西側の尾根裾部の段丘から東に向けて舌状に派生した微高地上に疎密はあるものの、ほぼ全面に存在することが予想された。

今回の調査の対象となった約7,600㎡は、この東に伸びる舌状の微高地のほぼ先端部にあたり、現地形を概観しても東側は小田川の氾濫原に臨むため急速に下降することが視認できる。

発掘調査は、地形が調査区の西端と東端で約0.5ｍの比高差を有し、緩やかに西から東へ下降することを考慮し、西端から重機を用いて調査区の西半の表土と鋤床層を除去し、人力による遺構の検出をおこなった。

重機による表土除去と検出が終了した段階で、調査区内は西側から伸びる主微高地と低位部、さらに東端の島状微高地にほぼ大別できることが判明した。このため、西側の主微高地から遺構の検出を開始し、低位部、島状微高地（環濠集落）の順に調査を進行させることとした。

主微高地上の遺構は、中世水田とみられる薄い淡灰色土を除去した段階で、淡黄色の基盤土（地山）面に堀り込まれた土壙・柱穴・溝が明確に検出できた。

このことは、確認できた遺構は少ないが、中世段階で全面的な削平、水田化があったことを示しており、低位部を挟んだ環濠集落上でも同様の状況がみられた。

主微高地上で検出された遺構には方向は異なるものの溝が多く、土壙・柱穴は比較的すくない。また、確実に住居址と認識できたものは存在していない。これは、微高地の端部にあたる点から低位部に在したであろう水田との関係を考慮すべきであろう。

低位部とした部分は、検出と平行して掘り下げたトレンチ断面により、環濠集落が位置する島状微高地を囲むように水田が広がることが明らかになった。更に最下層には、西側の主微高地と島状微高地の間を分断するかのように自然河道が南北方向に流れていることが確認できた。

また、グライ化土壌の自然河道上には全体ではないが、弥生前期と考えられる水田層が広がることが確認できたが、遺構の保全を考慮して面的には限定した調査に留め部分的に畦畔を検出した。

低位部とした自然河道上の堆積の大半は弥生前期水田以降のもので、さらに土層断面で明確に水田層として確認できたのは弥生後期の面である。しかしながら、洪水砂層が覆う状況はなく畦畔の面的な検出に努めたが捉えることはできず、島状微高地周辺で溝を検出したのみである。

環濠集落が位置する島状微高地の調査は、重機で表土を除去し、人力で薄い中世水田層を掘り下げた段階では一面を黒灰褐色土が覆っており、集落部分と環濠の識別は不可能であった。このため、遺構本来の遺存状況には好ましくないが、薄く残った黒灰褐色土を除去し淡黄色の基盤土面で遺構検出を行い各遺構を掘り下げた。

島状微高地の周辺では後期水田を掘り下げたのち前期水田に伴う溝を部分的に検出したが、やはり遺構の保全を考慮し部分的な調査に留めた。

第6図　遺構全体配置図（S＝1/400）

第７図　環濠集落とその周辺遺構配置図（Ｓ＝1/200）

第２節　弥生時代環濠集落の遺構・遺物

（１）概要

今回の調査では、中世水田層を除去した段階で、調査区の東半に環状に巡る大溝で区画された集落が半円形に検出されため環濠集落と判断し、環濠と環濠外の低位部を挟んで西に広がる微高地との関係に主眼を置いてトレンチ（第８図）を設定した。

この結果、環濠集落が位置する島状の微高地は、低位部により西側の微高地から分断されていることが明らかになり、今回の調査で環濠集落のほぼ半分を調査したこととなった。

調査区外の東側半分については、工事に伴う表土除去後に観察したところ、地下げを激しく受けており、環濠の底部は遺存しているものの、集落については消滅していることが確認された。

本節では、先ず環濠と環濠内の遺構・遺物について遺構の種類別に述べたい。

（２）環濠

環濠の調査は、環濠内の集落の調査と同時平行して、検出した環濠にＡ～Ｇに７本のトレンチ（第８図）を設定して掘り下げ、土層断面から集落と環濠の関係を把握することとした。

また、いずれの環濠内の土層断面でも、遺物の出土状況と覆土の状態から上下二層に大別することが可能である。このため、遺物の出土が量的に大半を占める上層のみを先ず掘り上げ、遺物出土状態を撮影した後、下層を掘り下げ底面で確認された杭列の面的な検出を行った。

出土遺物については、覆土から埋没時期も異なることが予想されたため、基本的に上下二層に分けて取り上げるように努めたが、一部に不徹底な箇所も存在し混在した可能性も否定できない。

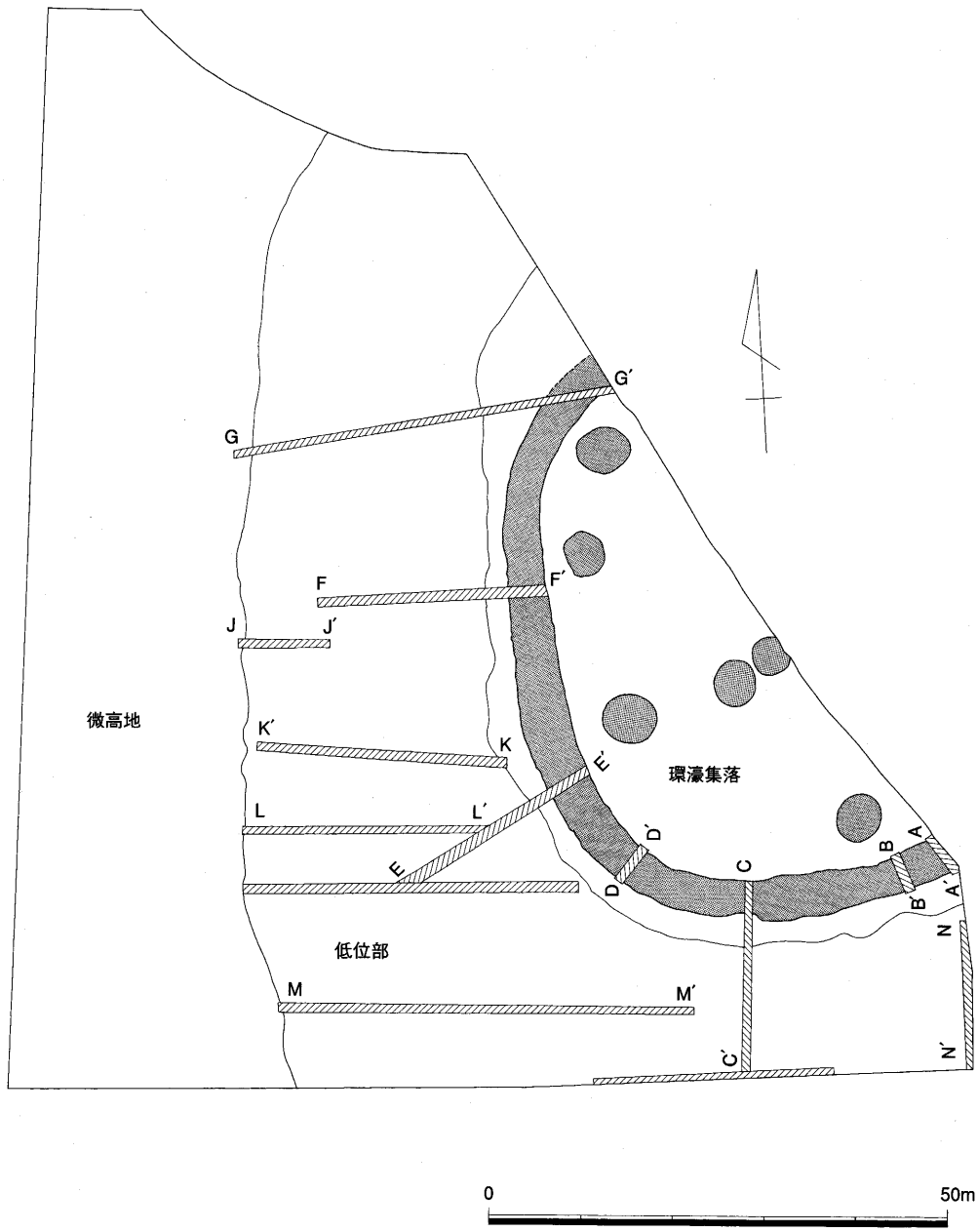
調査で得た知見を検討した結果、以下のことが明らかになった。

（ａ）環濠は調査区内で半円形に検出された集落の周囲に間断なく続く。（ｂ）環濠は南北85ｍ、東西70ｍの楕円形を呈する島状微高地に堀り込まれているが、自然地形をそのまま利用するのではなく、傾斜面より内側に位置しており、結果的に低位部との間には外周帯状に掘り残された高まりが残されている。（ｃ）環濠の未調査部分をも含めた検出面での推定される平面規模は、外縁で南北70ｍ、東西60ｍの楕円形を呈し、遺存する幅４～５ｍ、深さ100～120㎝を測る。（ｄ）いずれの環濠の土層断面でも覆土の状態から、明確に上下２層に分層することが可能であり、一時期に埋没したものではない。（ｅ）環濠の断面形態は中心部が段状に急角度で掘られた箇所もあるが、総じて「Ｖ字」状とは言い難く、上端近くでは緩やかな傾斜を呈する箇所も多い。（ｆ）環濠の底面と斜面には、杭穴とみられる小穴が多数検出され、一部には木質が遺存していた。（ｇ）環濠の土層断面には、いずれの箇所にも掘り上げた地山土が一期に崩落した痕跡は認められなかったが、環濠下層の覆土は地山土を多く含むことから、低い土塁状の高まりが存在した可能性は否定できない。

次に以上の環濠の調査で得られた知見の概要について詳しく述べる。

今回の調査で確認された環濠の長さは約125ｍで、結果的に推定される全周のほぼ半分を調査したが、調査した範囲では地山を削り残した陸橋は認められず、全周に掘られていた可能性が高い。

調査の結果、明らかになった環濠の規模は、環濠の内縁が集落を検出した地山面で明確に視認できたのに対し、外縁は低位部に広がる弥生後期水田の削平が環濠上まで及んでいるため、不整形で明確でない箇所が多い。検出した環濠の幅は、主微高地との間の西側がやや広い傾向があり、5.5ｍ以上の箇所が多いが、南側では3.7ｍ～4.5ｍ程度に留まっている。

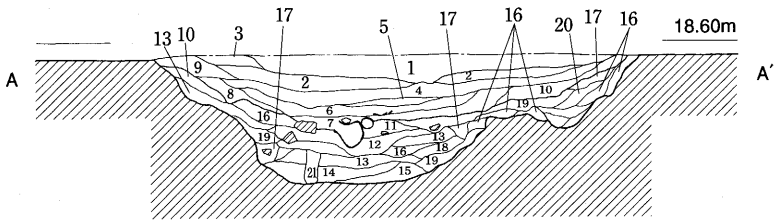


第8図　トレンチ設定図（S=1/800）

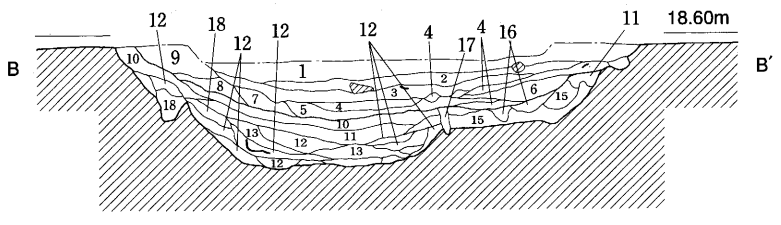
下層まで掘り上げた環濠の底面の高さは東端のＡトレンチで海抜17.48m、西側のＥトレンチで海抜17.16m、北端のＧトレンチで海抜17.32mを測り、北辺と南辺がやや深く掘られている。

環濠の深さは、集落を検出した黄色の地山面からは深さ100～120cmが遺存しているが、集落内の住居址や柱穴の埋土は黒灰色であることから、集落が存在した当時の地山面上には数十cmの黒灰色土が堆積していたと考えるのが妥当である。この堆積土を柱穴の深さを考慮して30cm程度とすると、当初掘られた環濠の本来の深さは最深部で150cm 以上と推測できる。

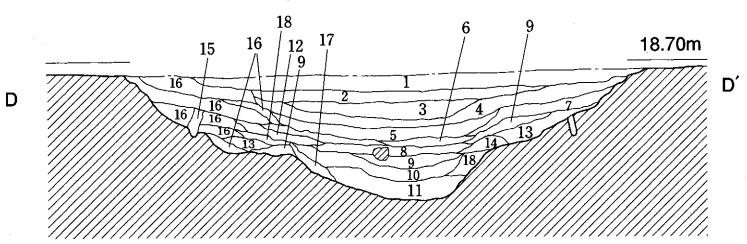
この推定した深さは環濠に囲まれた集落内から堀り込まれた数値であり、環濠の外側の外周帯は地形の傾斜を考慮すれば、Ｆトレンチ（第182図）にみられるように、地山土上の堆積土を切って掘られているにも係わらず、一段低い状態を呈していたとみられる。



1．粘質の暗灰褐色土
　（焼土・炭・土器片多く含む）
2．細かい暗灰褐色土
　（焼土・炭・土器片多く含む）
3．黒灰褐色土
4．暗灰褐色土
　（焼土・炭多量・黄色土ブロック少量含む）
5．暗灰褐色土（黄色土粒多量に含む）
6．粘質の暗灰褐色土（炭・土器片少量含む）
7．粘質の黒灰褐色土（炭多量・焼土少量含む）
8．やや砂質の暗灰褐色土
9．砂質暗灰褐色土（黄色土ブロック少量含む）
10．粘質の淡灰色土（**1～10が上層**）
11．細かい砂質淡灰色土
12．砂質淡黄灰色土（灰色土粒少量含む）
13．砂質暗黄灰色土
　（黄色土ブロック多量に含む）
14．砂質暗黄色土（灰色砂少量含む）
15．砂質暗黄色土（マンガン・鉄分沈着）
16．黄色土ブロック
17．暗灰色土
18．暗黄灰色土（灰色土多量に含む）
19．砂質淡灰色土（黄色土粒多量に含む）
20．細かい淡灰褐色土
21．淡灰色粘土（杭）（**11～21が下層**）



1．粘質の黒～暗灰褐色土
　（焼土・炭・土器片多量に含む）
2．粘質の暗灰褐色土（焼土・炭・土器片少量含む）
3．暗灰褐色土（土器多量、炭・焼土粒少量含む）
4．暗黄灰褐色土（黄色土ブロック多量に含む）
5．暗灰色土（黄色土ブロック、焼土少量含む）
6．砂質の淡灰色土（炭少量含む）
7．粘質の淡黄灰色土
8．砂質の淡灰褐色土
9．粘質の淡灰褐色土（**1～10が上層**）
10．細かい砂質の淡黄灰色土
11．細かい砂質の淡灰色土（黄色土粒少量含む）
12．細かい粘質の灰色土
　（黄色土ブロック多量に含む）
13．粗い暗黄色砂
14．粘質の淡黄色土（ややグライ化）
15．砂質の灰褐色土
　（炭・黄色土ブロック多量に含む）
16．砂質の暗灰色土（炭多量に含む）
17．黒灰色粘土（杭）
18．砂質の暗灰色土（**10～18が下層**）



1．粘質の暗灰褐色土
　（土器片・焼土粒多量に含む）
2．細かい砂質の暗灰褐色土
　（土器片・焼土・炭多量に含む）
3．細かい砂質の暗灰褐色土
　（黄色土・焼土・炭少量含む）
4．灰褐色土
　（黄色土・炭多量に含む）
5．粘質の灰褐色土
　（土器片・焼土・炭多量に含む）
6．粘質の暗灰褐色土（土器片多量に含む）
7．暗黄灰褐色土（黄色土多量に含む）（**1～7が上層**）
8．淡黄灰色土（黄色土ブロック多量に含む）
9．砂質の淡灰色土（炭少量含む）
10．淡灰色土（炭多量に含む）
11．粘質淡黄灰色土
　（灰色土ブロック多量、土器片少量含む）
12．灰色土ブロック
13．砂質淡黄灰色土
　（黄色土ブロック多量に含む）
14．砂質淡黄灰褐色土（炭少量含む）
15．粘質灰色土（杭）
16．砂質淡灰色土
　（炭・黄色砂少量含む）
17．淡黄色砂
18．砂質暗黄色土（**8～18が下層**）

第９図　環濠断面図（S＝1/60）

次に、環濠内の覆土の堆積状況について検討を加える。

環濠の覆土については、７箇所のトレンチ断面で、その堆積の状態を確認したが、いずれのトレンチに於いても共通して、覆土の色調と含まれる土器・炭・焼土・地山の黄色土により上下二層に分けることが可能であった。

上層とした覆土はいずれの箇所でも検出面から50～60cmの深さで、レンズ状に堆積しており、色調は、灰褐色～黒灰色を呈し、さほど粘質土は含まず細かい砂質気味である。

また、下層との境ほど大量の完形品に近い破片を含む土器・炭・焼土を多く含み、更に集落方向からの流入、投棄を窺わせるような堆積を示す断面が多い。

特に土器・石器については、環濠出土遺物としたものの大半が、この上層底部からの出土であり、環濠全体を平面的にみれば多少の疎密はあるものの、土器が近接して接合関係にあるものが多い点を考慮すれば、投棄はほぼ全周に渡ってまとまって行われた可能性が高い。

また、上層の堆積には時間的な間断を示す異なった間層は認められず、上記の遺物出土状態と同様に、やはり短期間の投棄、埋没をしめしている。

これに対し下層とした土層は淡灰～暗黄色を呈する細かいシルト状の粘質土で、地山の黄色土が大小のブロック状に含まれているのが特徴である。

また、粗砂が間層に挟まれる状態も多いが、土器や炭は端部では若干ふくまれるものの、上層に較べると非常に少なく、意図的な投棄は下層の堆積段階では認められない。

一方、環濠の底面近くには常時の滞水を示すグライ化した粘土層や植物遺体層は存在せず、底面まで地山土ブロックが転落した状態で堆積している。このことは、掘削後に空濠状態であった環濠が、早い段階で再び掘り上げた地山土で埋没し始めたことを示しており、いずれの土層断面でも確認できなかったが環濠の両端には土塁状の高まりが築き上げられていた可能性が高い。

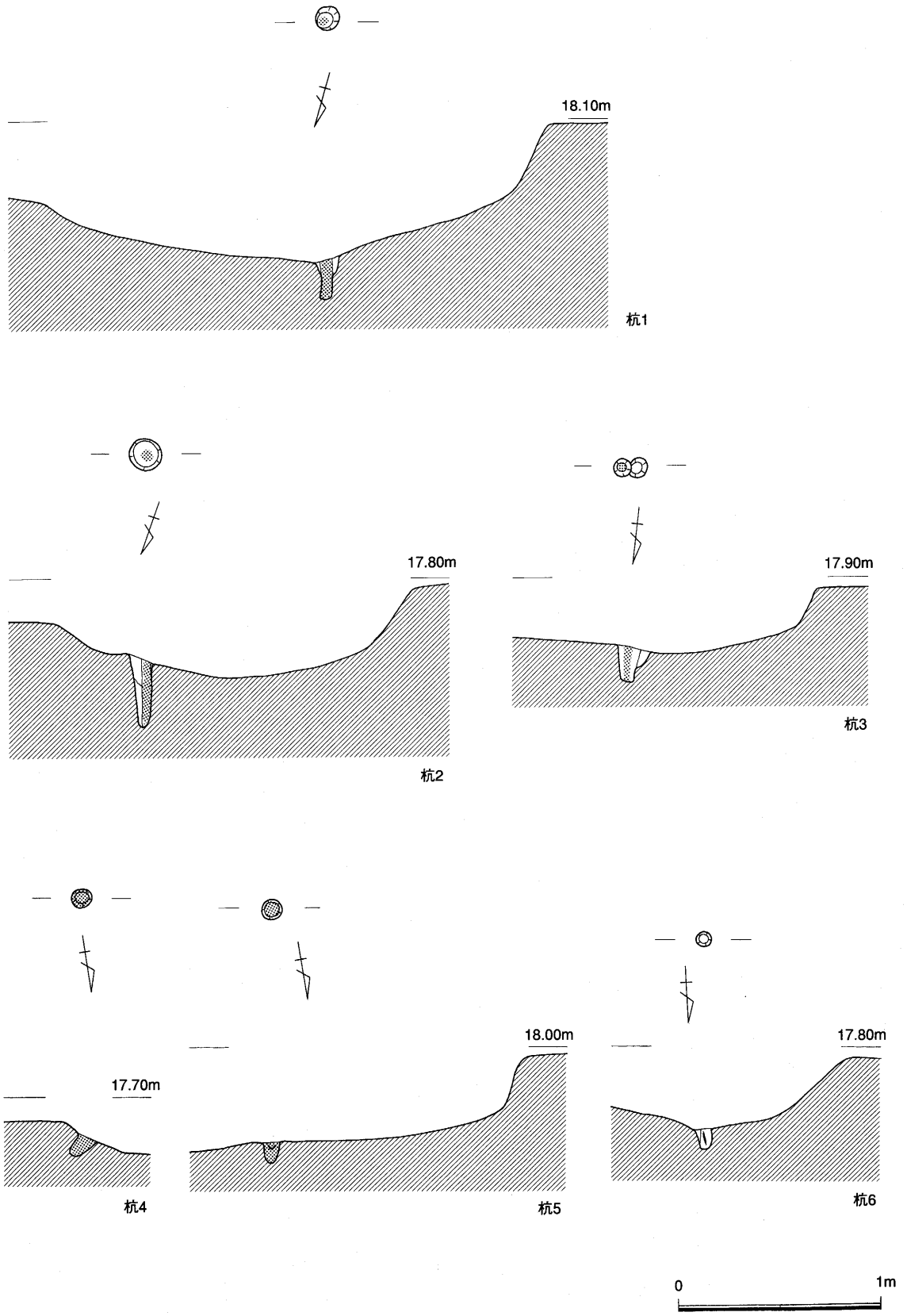
この高まりが土塁であったか否かを検証する術はないが、環濠内の集落上に堆積していたであろう黒灰色土が殆ど混入しない程度の時間幅で徐々に埋没していることから、人為的な埋め戻しは想定できない。さらに埋没する過程で掘り直しを行った状況も確認できないことから、自然崩落的な状態で半分近くの深さが失われたと考えられる。

また、集落内の環濠端部近くの遺構埋土には地山土が殆ど含まれないことから、遺構が堀り込まれた段階では、すでに掘り上げた地山土は全て転落して存在していないと考えざるを得ず、環濠の目的について不明な点が多い。

これらの点については、環濠集落の形成と性格に深く係わる問題であり、まとめの項で集落遺構と低位部の水田も含めて改めて触れてみたい。

環濠断面形態は掘られた当初には、中心付近が段状に深くなる形状の箇所もあるが、総じて緩やかな傾斜を示す。特に西辺ではテラス状の段を有しており、掘り上げた地山土を積み上げた場合を想定しても壁面の角度を考慮すれば、他の遺跡の調査例にみられる「Ｖ」字状とは言い難い。

その他に、環濠下層を掘り終え底面を精査したところ灰色の小穴が列状に多数検出され、杭穴が存在したことが明らかになった。この時点では下層の大半を掘り終えていたが、一部未掘の下層上面を精査し、杭が下層の埋没後に打ち込まれた状態を確認した。一部に木質が遺存し底面に深く食い込むものもあるが（第10図）、大半は地山に残る痕跡が浅い。この杭列の平面的な分布には偏りがあり、土留めを示す土層も確認できないため性格については不明と言わざるを得ない。　（武田）



第10図　環濠杭列平・断面図（S＝1/30）

環濠から出土した遺物は土器、石器、土製品である（第11図～第53図）。土器はコンテナ約180箱分出土し、石器は製品及び未製品が263点、剥片が1762点出土し、土製品は１点出土した。これは今回の調査区全体から出土した遺物の約６割を占める。

出土土器は縄文時代晩期のものから古墳時代のものまでみられるが、多くが弥生時代前期後半から中期初頭の土器である。環濠の層位を上層と下層に大別し、以下、出土遺物を具体的に述べていく。

環濠下層出土土器（第11図～第16図）

1は縄文時代晩期の浅鉢形土器と考えられ、口唇部に１条の沈線を施す。当遺跡からは他にも縄文時代晩期に属する土器片が数点出土しており、遺跡の帰属年代を考慮するうえで重要であろう。

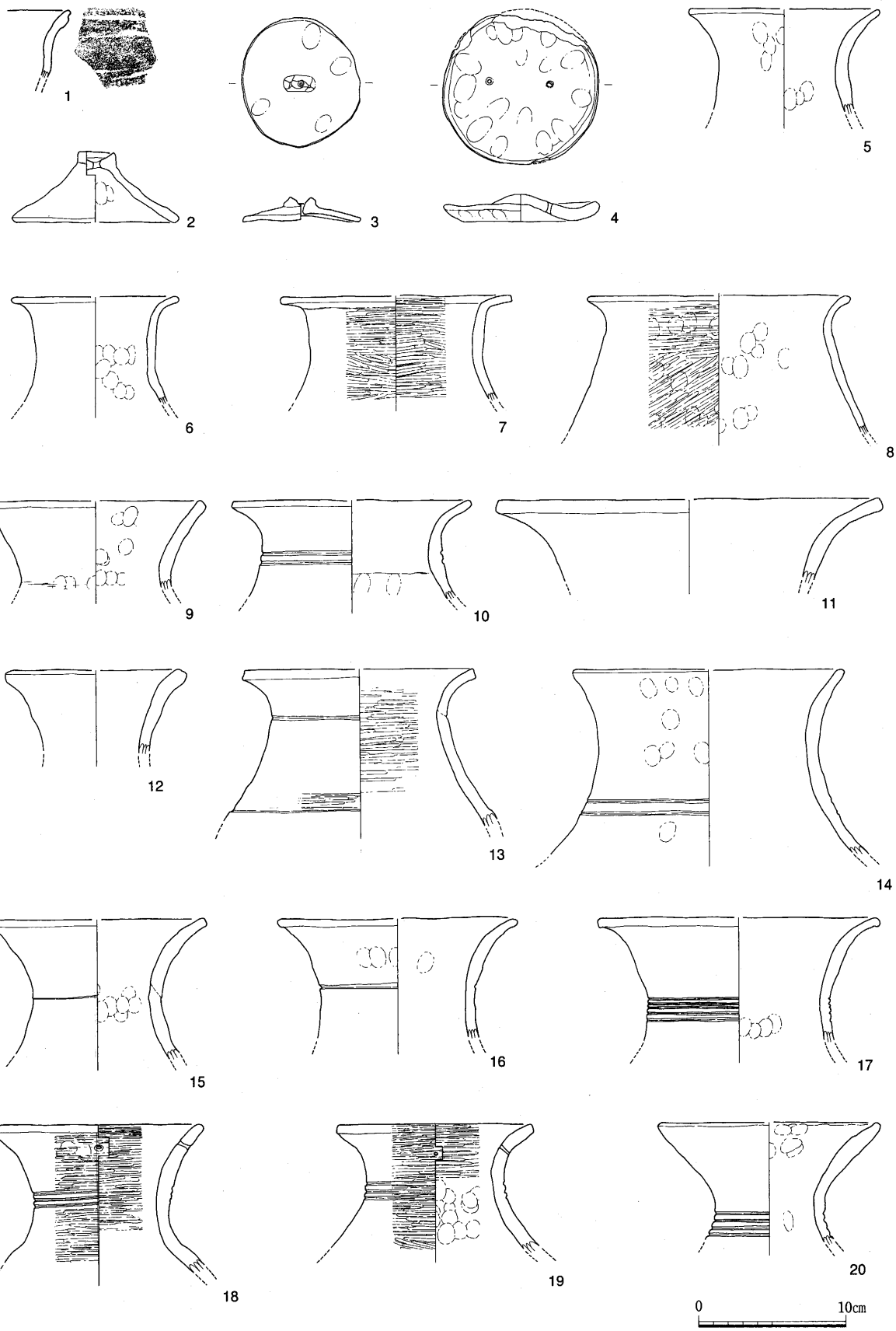
2～**4**は壷形土器の蓋である。**2**・**3**はつまみを有し、いずれもつまみの中央に穿孔を施す。**3**は完形である。**4**もほぼ完形で、器面の内外をユビオサエにより整形している。つまみをもたず、孔を２ヶ所穿つ。孔の周辺はいずれもなれており、紐状のものをとおしていた可能性がある。

5～**58**は壷形土器である。壷形土器には短頸のもの（例えば、**7**・**8**・**10**・**13**・**14**・**19**・**35**など）、長頸のもの（例えば、**20**・**29**・**32**・**33**・**36**・**40**など）があり、それぞれヘラ描き沈線や貼付凸帯などの文様が施文されるが、**5**～**8**のように文様を持たないものもみられる。**15**は粘土継ぎ目で、1条の沈線を表現している。**29**は幅広の削出凸帯のうえに3条のヘラ描沈線が施文されている。**30**～**35**・**40**・**41**・**43**は外器面に1条ないし2条の断面三角形の貼付凸帯を有す。そのうち、**32**～**35**・**40**・**41**は貼付凸帯上に等間隔の刻目がみられる。刻目は深く刻んでいるもの、浅いものがあるが、いずれもヘラ状工具で施文されている。**36**・**37**は内器面に貼付凸帯を有すが、破片のため、どのように貼り付けられるかの詳細は不明である。**38**は下層出土のほかの土器と比較して、より精製された胎土を用いているため、弥生時代中期中葉の壷形土器と考えられよう。**41**はヘラ描き沈線と貼付凸帯が施されている肩部の破片で、大形の壷になると推定される。**45**は肩部がはり、当遺跡出土の弥生時代前期土器の中では、やや古い様相を示す。**58**は焼成後、底部に孔を穿ったものである。

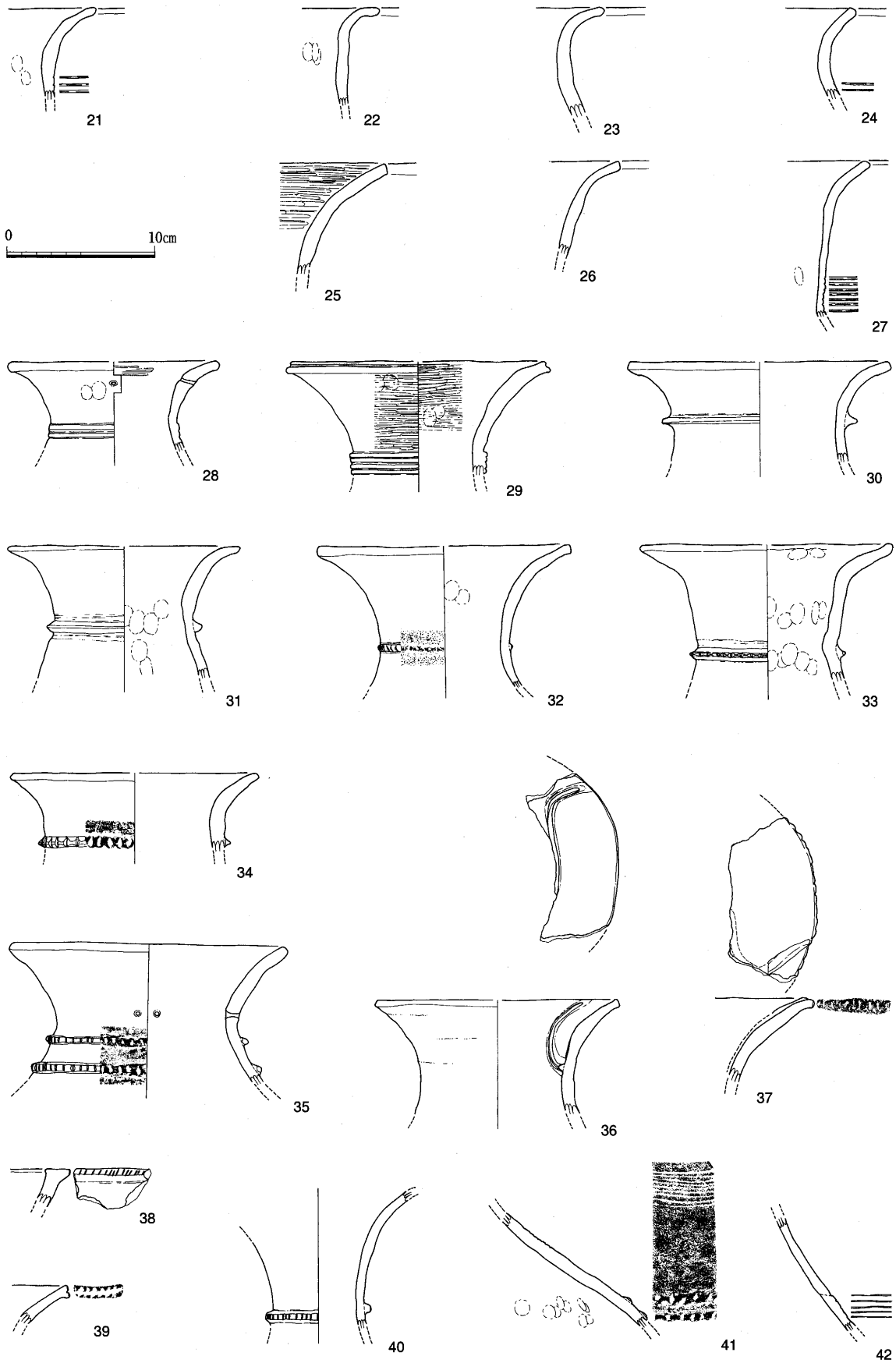
59～**64**は甕形土器の蓋である。**62**～**64**は内器面端部をめぐるように煤が付着している。**65**～**105**は甕形土器である。**68**～**87**は口唇部にほぼ等間隔の刻目を有し、口縁下部には2条から6条のヘラ描沈線が施される。**69**・**76**・**80**のように、口唇部に刻目をもたないものもある。これらは弥生時代前期後半の中でも古い様相を呈している。**65**・**70**はほぼ直口する口縁の下部に貼付凸帯をめぐらし、凸帯には刻目を施す。**70**は直口する口唇部下部に1条の貼付凸帯を有す。凸帯には等間隔の刻目を施文し、その下部にはさらに4条のヘラ描沈線を施す。**88**～**96**は文様が施されていない土器である。さて、甕の口唇部に施文される刻目は沈線と同様にヘラ状工具によりなされるものがほとんどで、口唇部の断面全体を刻むものと、口唇部断面下部のみを刻むものに大別できる。

106・**107**は鉢形土器である。**106**は口径22.4cm、器高16.1cm、底径7.8cmの鉢である。内外器面ともに、入念なミガキが施される。また、外器面には煤が付着しており、煮炊きに使用された可能性がある。**107**は口径（復元）52.8cmの大形の鉢で、口縁部下部に1条の沈線が施される。口縁部外器面の屈曲する部分にはユビオサエの痕跡が明瞭に残存している。また内外器面ともに、入念なミガキによる調整が施される。

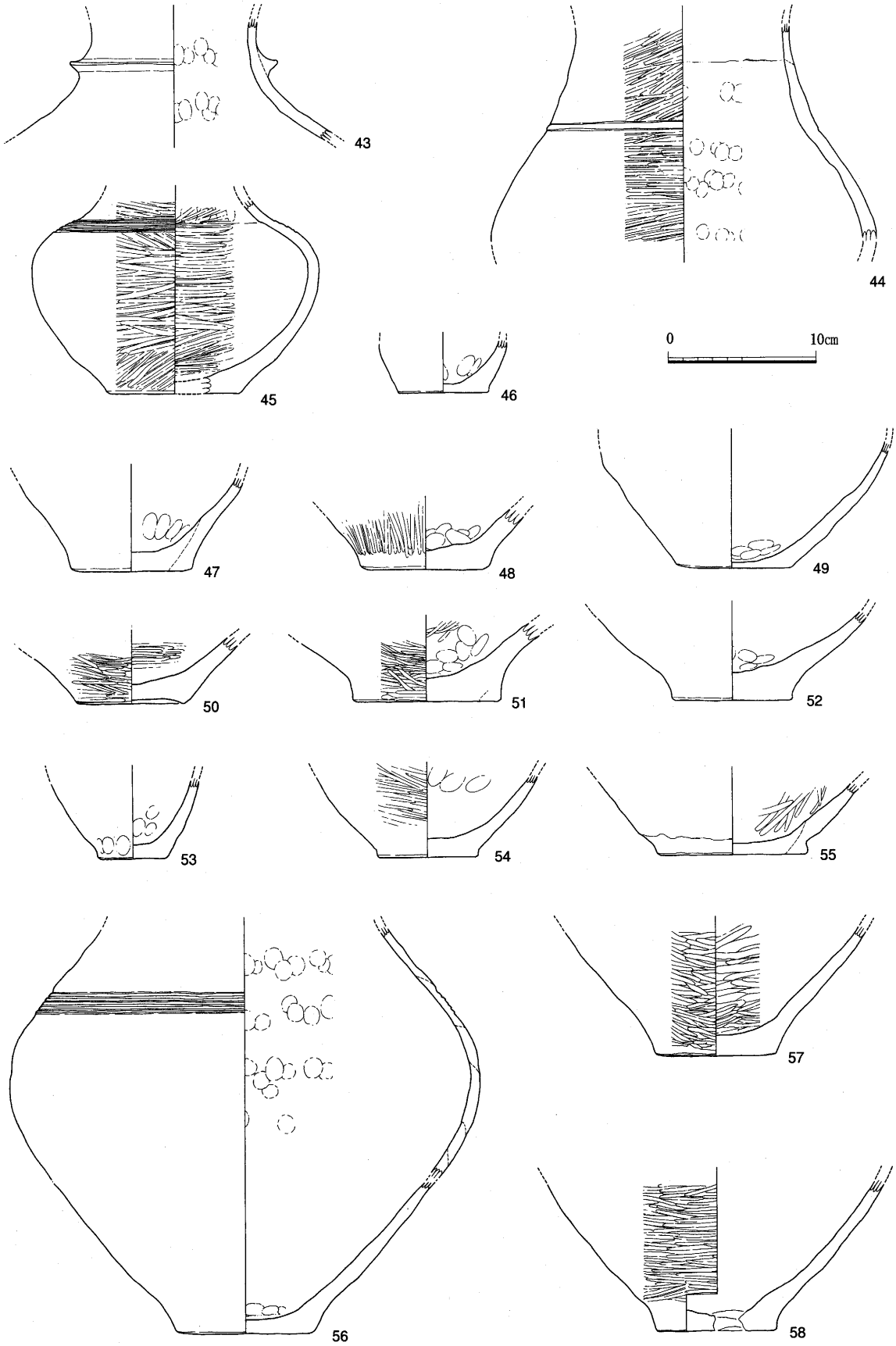
108は小形粗製土器で、手捏ねのためいびつである。底部が中空をなすため、蓋を模した可能性もある。**109**は異形土器である。側面に2条の沈線をめぐらし、底面に線刻を施す。器種・用途はともに不明である。



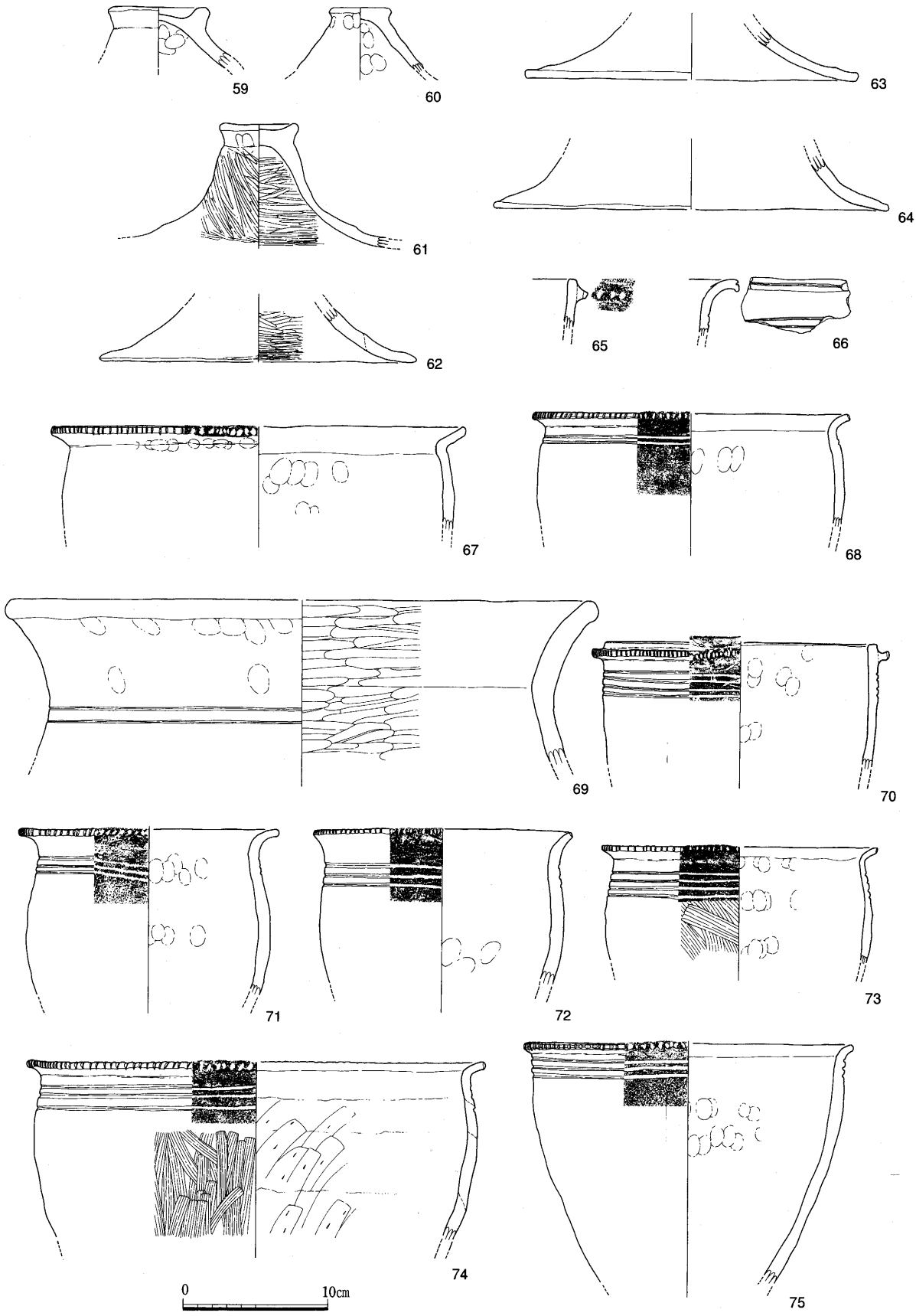
第11図　環濠下層出土土器（１）（S＝1/4）



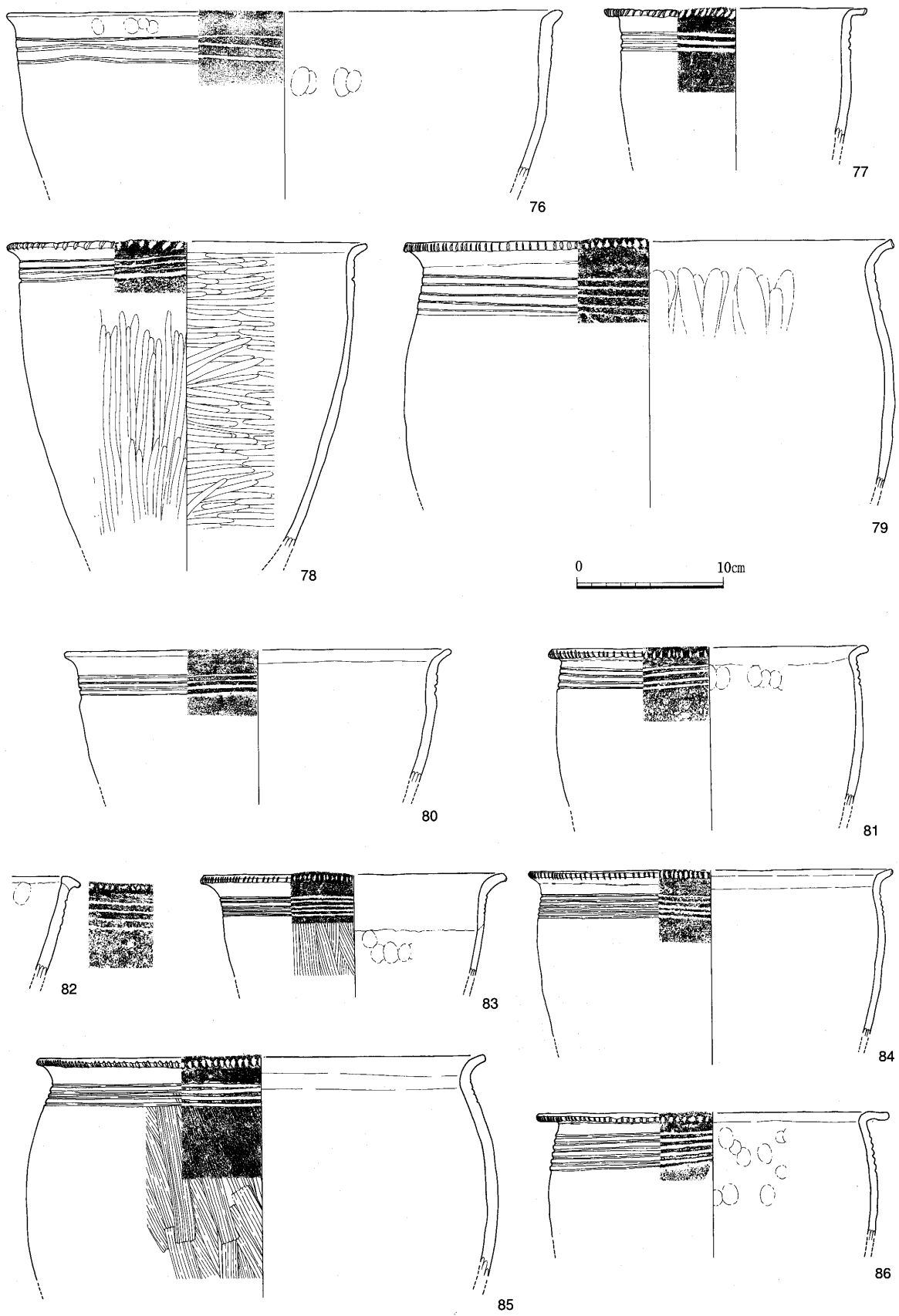
第12図　環濠下層出土土器（２）（S=1/4）



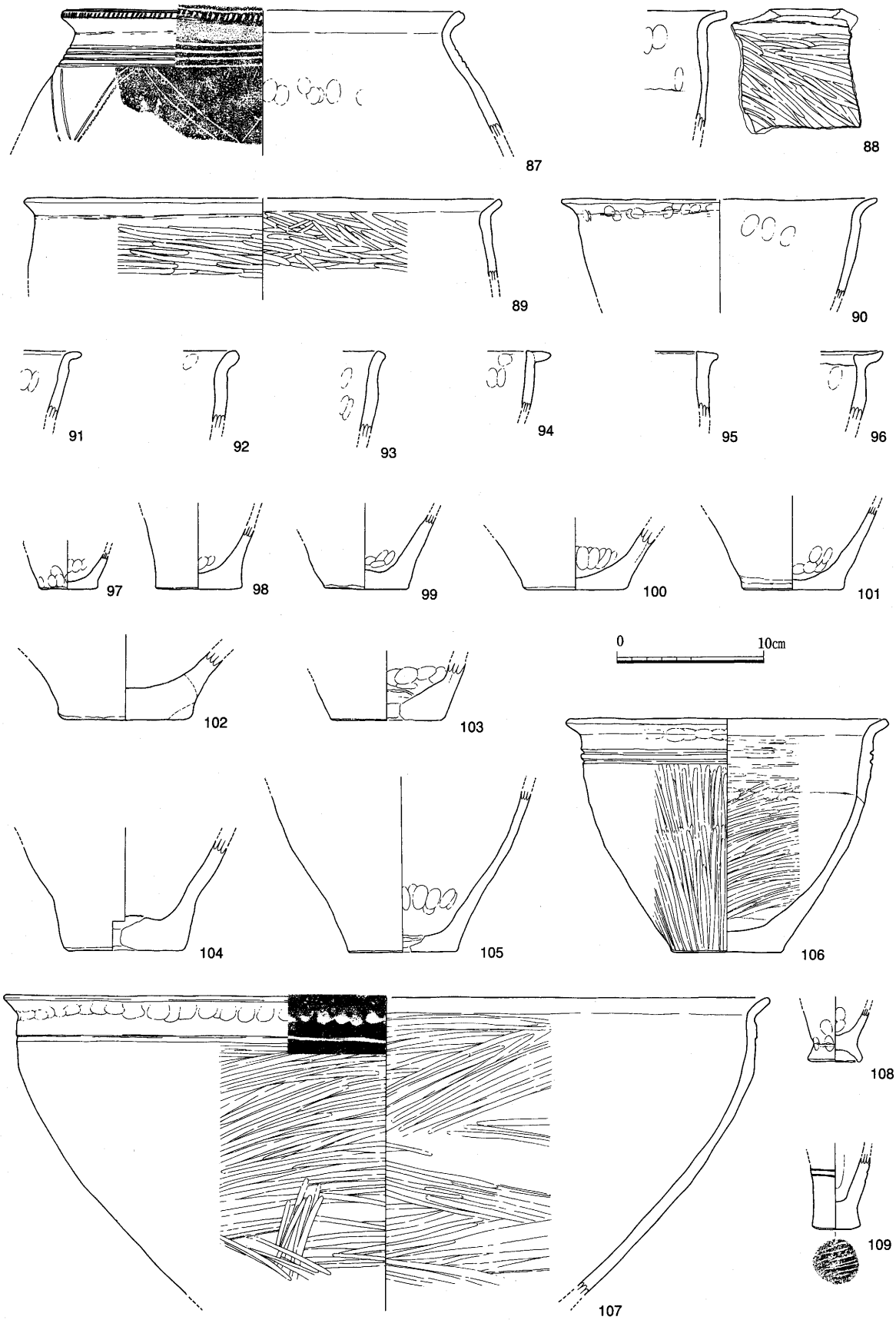
第13図　環濠下層出土土器（３）（S=1/4）



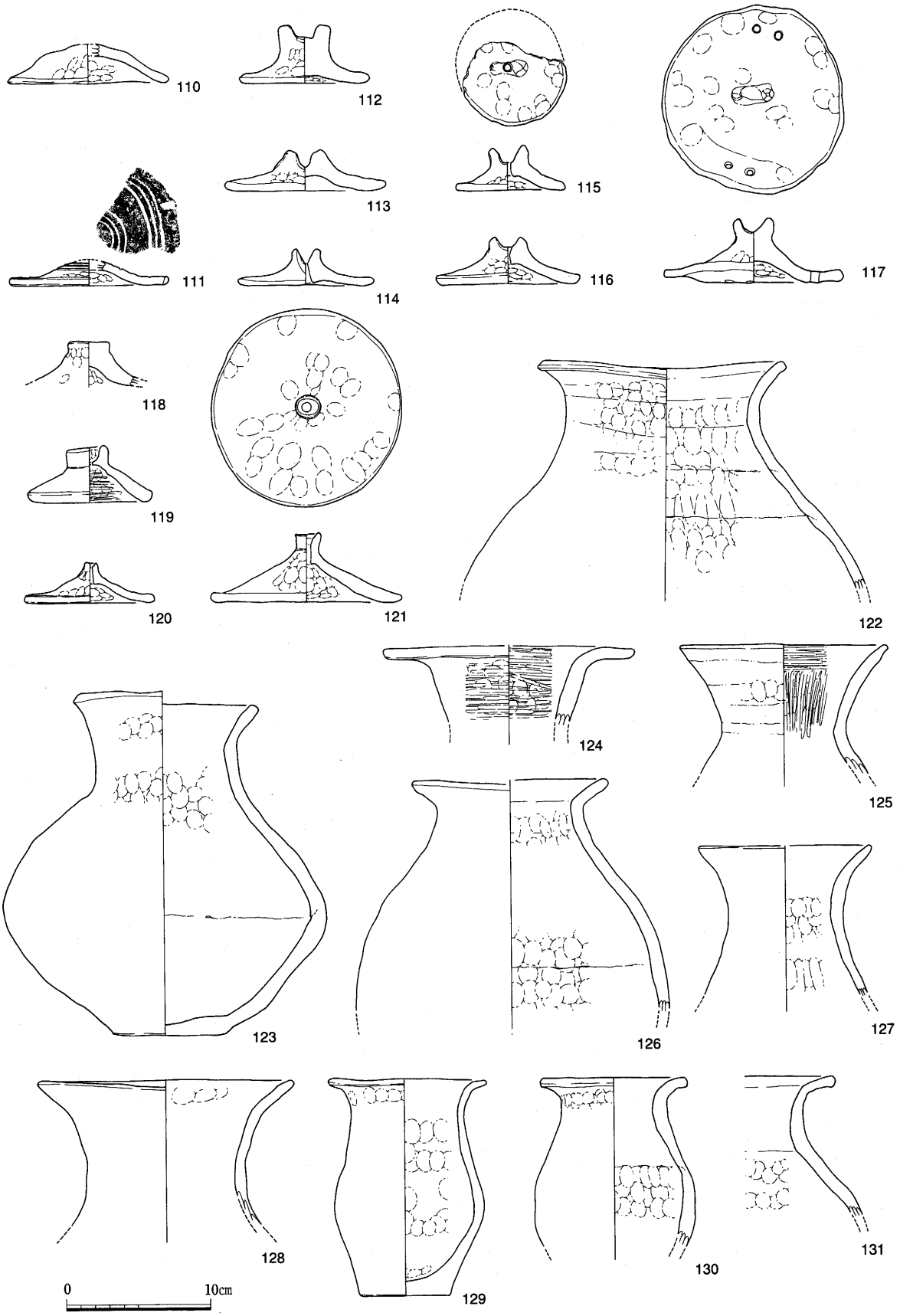
第14図　環濠下層出土土器（４）(S=1/4)



第15図　環濠下層出土土器（５）（S＝1/4）



第16図　環濠下層出土土器（６）（S=1/4）

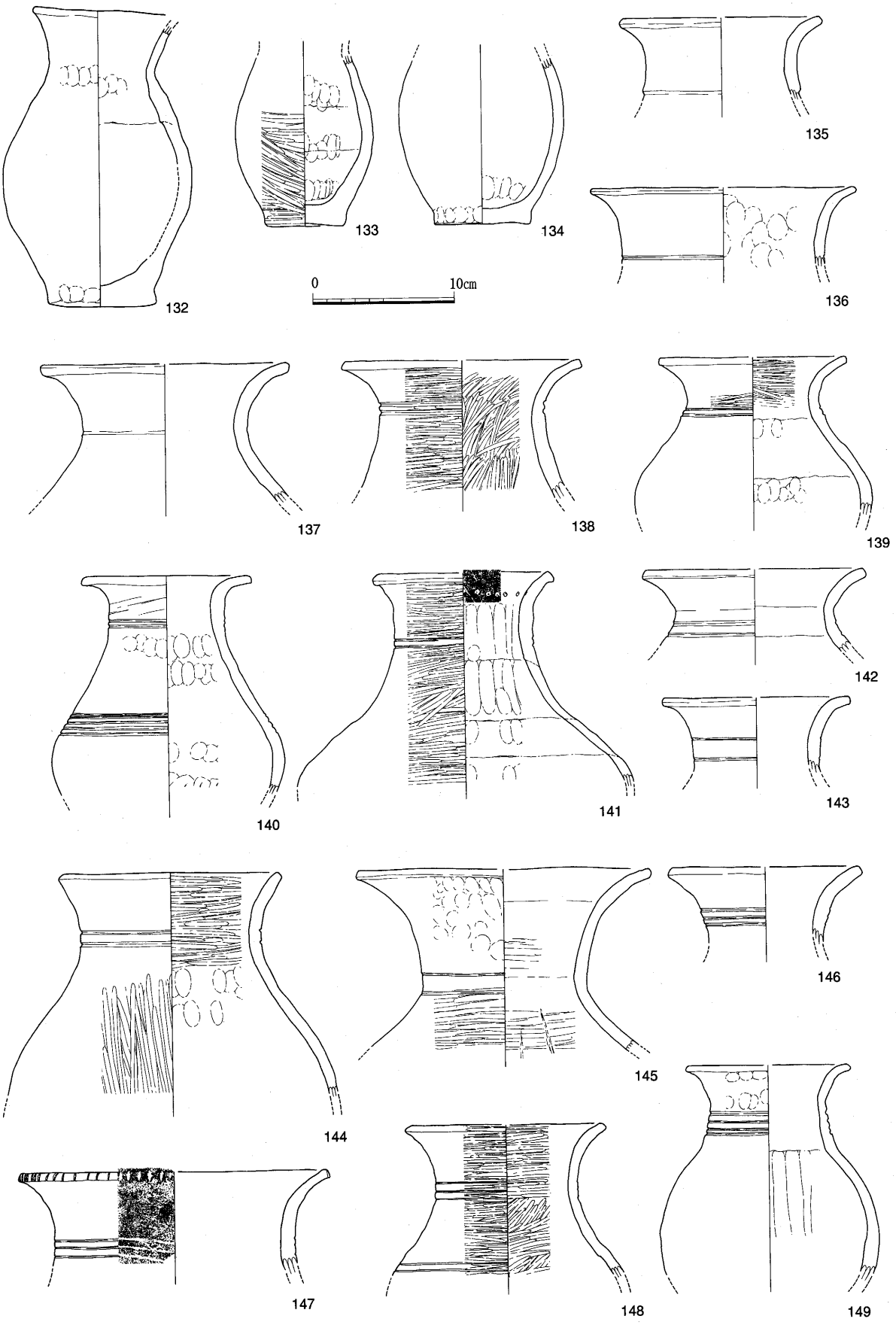


第17図　環濠上層出土土器（１）（S＝1/4）

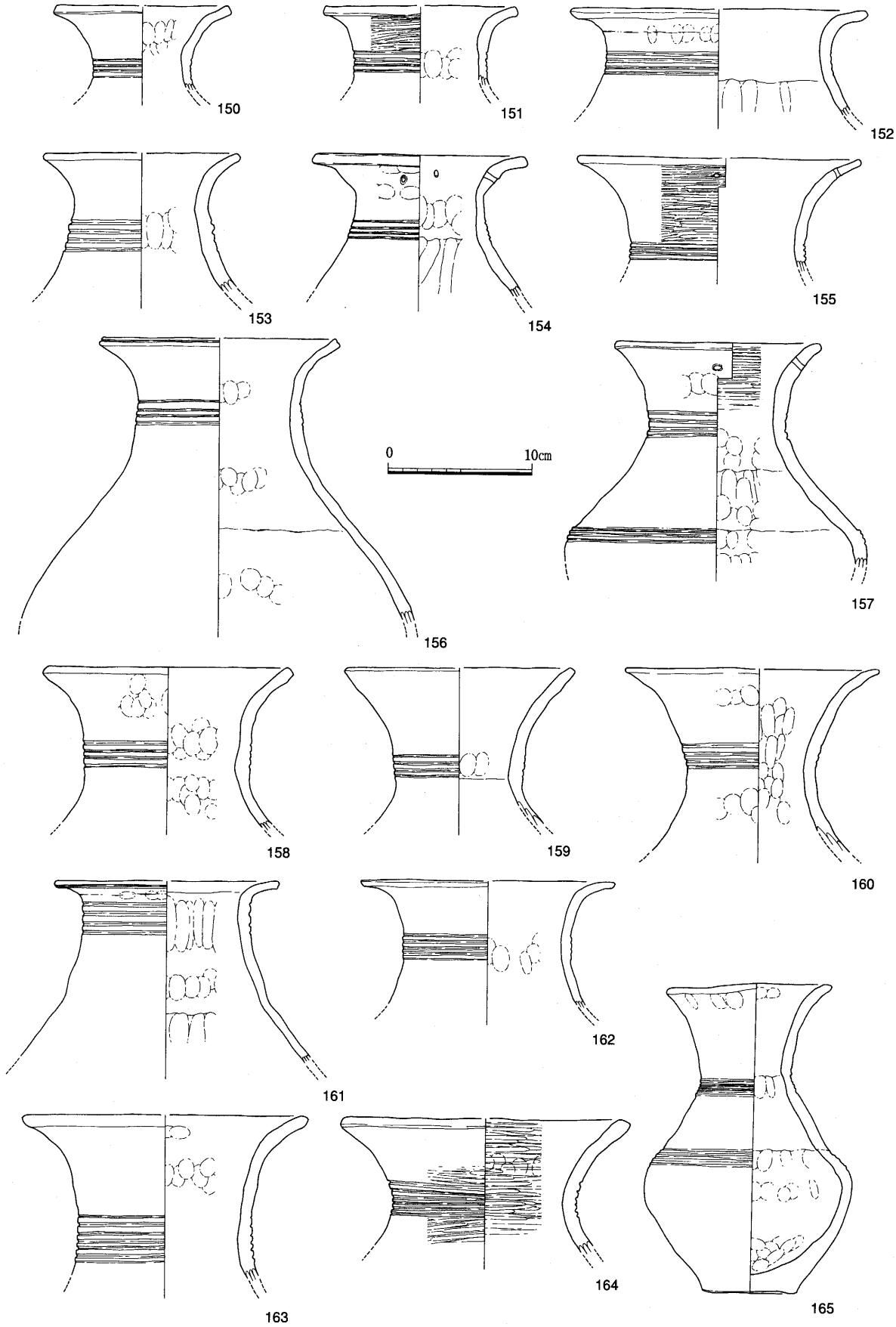
環濠上層出土土器（第17図～第46図）

110～121は壷形土器の蓋である。**110**はユビオサエとナデによって成形され、ややいびつであり、つまみも孔も有しない。**111**は外面に合計6条の沈線を有し、端部には棒状工具による押圧が施される。**112～117**はツノ状のつまみを有する蓋で、中心に孔を穿つものと穿たないものがある。**117**は完形である。中心には孔を有しないが、端部近くに２個１組の孔を２ヶ所施している。**119・121**も完形である。両者ともにつくりが入念で、**119**はナデとミガキ、**121**はユビオサエとナデによる調整が施される。

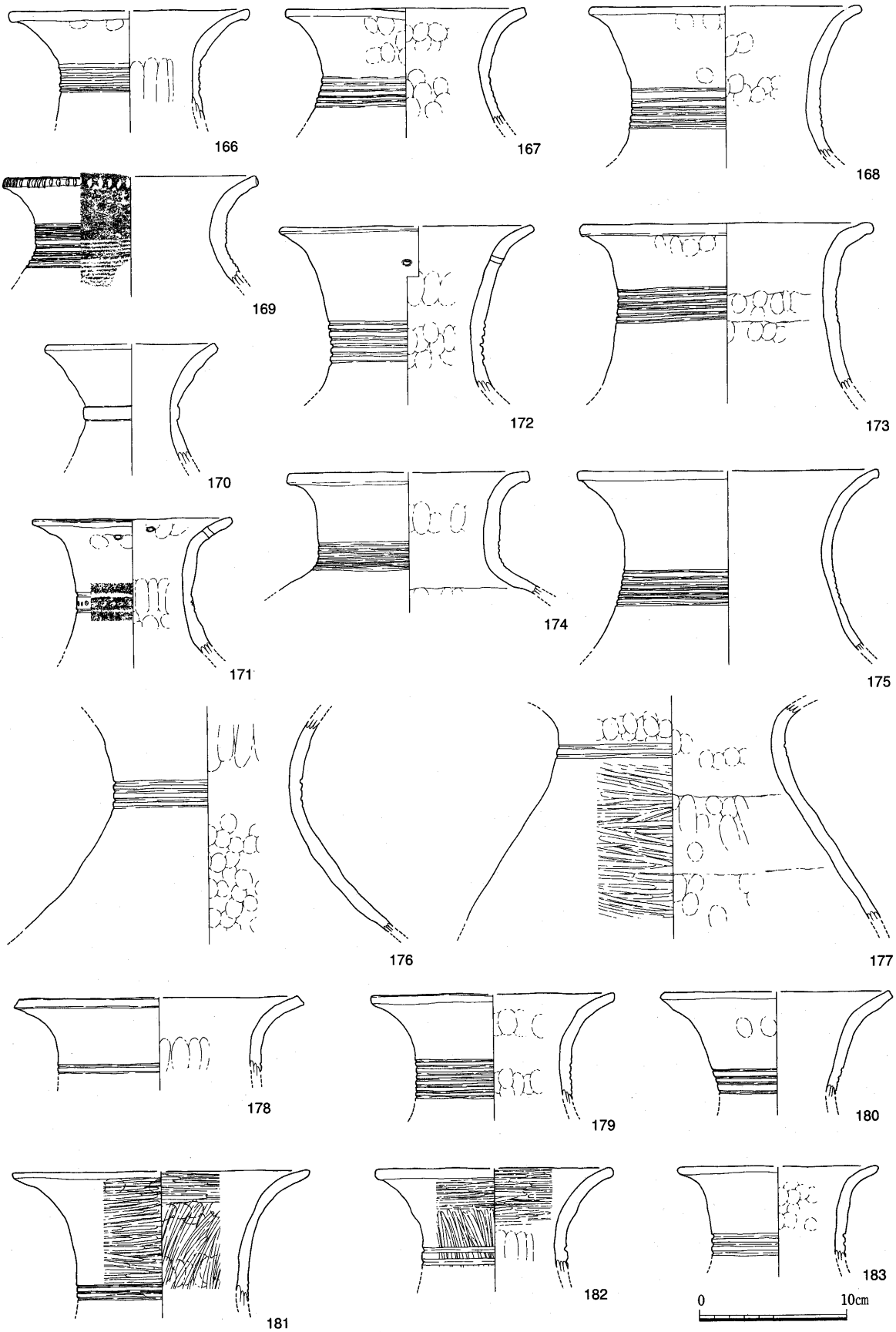
122～267は壷形土器である。**122～134**は文様を有しない壷である。**123**は完形の壷形土器で、口径12.8㎝、器高23.9㎝、底径7.8㎝である。内外器面ともにユビオサエ以外の調整が、摩滅により不明瞭である。**129**も完形の土器である。口径11.1㎝、器高15.1㎝、底径6.2㎝のやや小形の壷形土器で、口縁下部の屈曲した部分には明瞭なユビオサエが残るが、それ以外の調整は不明である。**132**は口縁部を一部欠くがほぼ完形の土器で、口径（復元）10.8㎝、器高21.2㎝、底径7.7㎝である。**135～186・189**はヘラ状工具による平行沈線を有する土器である。**141**は外面に入念なミガキを施したあと、2条の沈線を施文し、内器面には口縁部付近に竹管状工具による等間隔の刺突文を施している。**144**は内外面ともにミガキが施され、頸部に2条のヘラ描沈線を施文する。口縁部は緩やかにたちあがり、外反する土器が多いのに対して、やや変わった器形を呈す。**165**は器形全体の約3分の２が残存している。口径11.6㎝、器高21.8㎝、底径6.7㎝で、肩部の粘土継ぎ目が明瞭に観察できる。外面の頸部と肩部に、それぞれ6条と5条のヘラ描沈線が施されている。**170**は幅約1.0㎝の削出凸帯を有する。**171**は頸部に2条の沈線をめぐらし、沈線と沈線の間に竹管状工具による刺突文を等間隔で施す。**174**は櫛状工具による平行沈線が施される。**187・189**は口唇部に刻目を施文した後、上から1条の沈線をめぐらす。**193**は口唇部断面の上下に棒状工具による刺突文が施される。**194**は口唇部と内器面の貼付凸帯に等間隔の刻目が施される。**195・196**は口唇部に鋭利な工具で縦位と斜位の刻目を交互に施す。**197**は短く外反する口縁部を有し、5条一組の櫛状工具を重ねて施文している。**198～226**は外器面ないし内器面に貼付凸帯を有する壷形土器である。**198**は頸部、内器面に貼付凸帯を施す土器で、内器面の貼付は横位に2本ある。**205**は完形の土器で、口径13.6㎝、器高21.4㎝、底径7.7㎝である。**209**は内外面ともに入念にミガキが施され、端正なつくりである。1条の貼付凸帯には刻目よりも押圧に近い文様を等間隔に配している。**212**は内外面を丁寧にミガキ、外器面に2条の凸帯を貼付け、刻目を施す。**213**は口径21.2㎝の長頸壷である。頸部には横位だけでなく縦位にも粘土紐を貼付け、さらに粘土を小さく丸めたものを等間隔に貼付けており、装飾が著しい。**214**はミガキによる調整をした後、口唇部と頸部に刻目と平行沈線を施文し、頸部には1条の凸帯を貼り付ける。貼付凸帯にはヘラ状工具で文様が施される。**215**の文様は貼付凸帯とヘラ描き沈線文で構成される。**217**は内外面に入念なミガキを施した土器で、頸部に1条の貼付凸帯を施す。凸帯には刻目が施文されるが、刻むというよりも棒状の工具で押圧したものと考えられる。**218**は削出凸帯に沈線と竹管状工具による刺突文を施している。**219**は口径が29.9㎝の、大形の壷形土器である。**220**は口唇部を欠くが、内側に貼付凸帯が観察される。**224**は5条の削出凸帯と凸帯下部に粘土を貼り付けて施文する。**226**は頸部のみが完全に残存する小形の壷で、外面は入念にナデが施されているのに対して、内面はユビナデが明瞭に残る。**227**はヘラ状工具によって、有軸羽状文が施文される肩部の破片である。**228**は頸部の破片で、ヘラ状工具により格子状の文様が施される。**229**は3条の貼付凸帯を施すが、凸帯の刻目の方向が右下へ



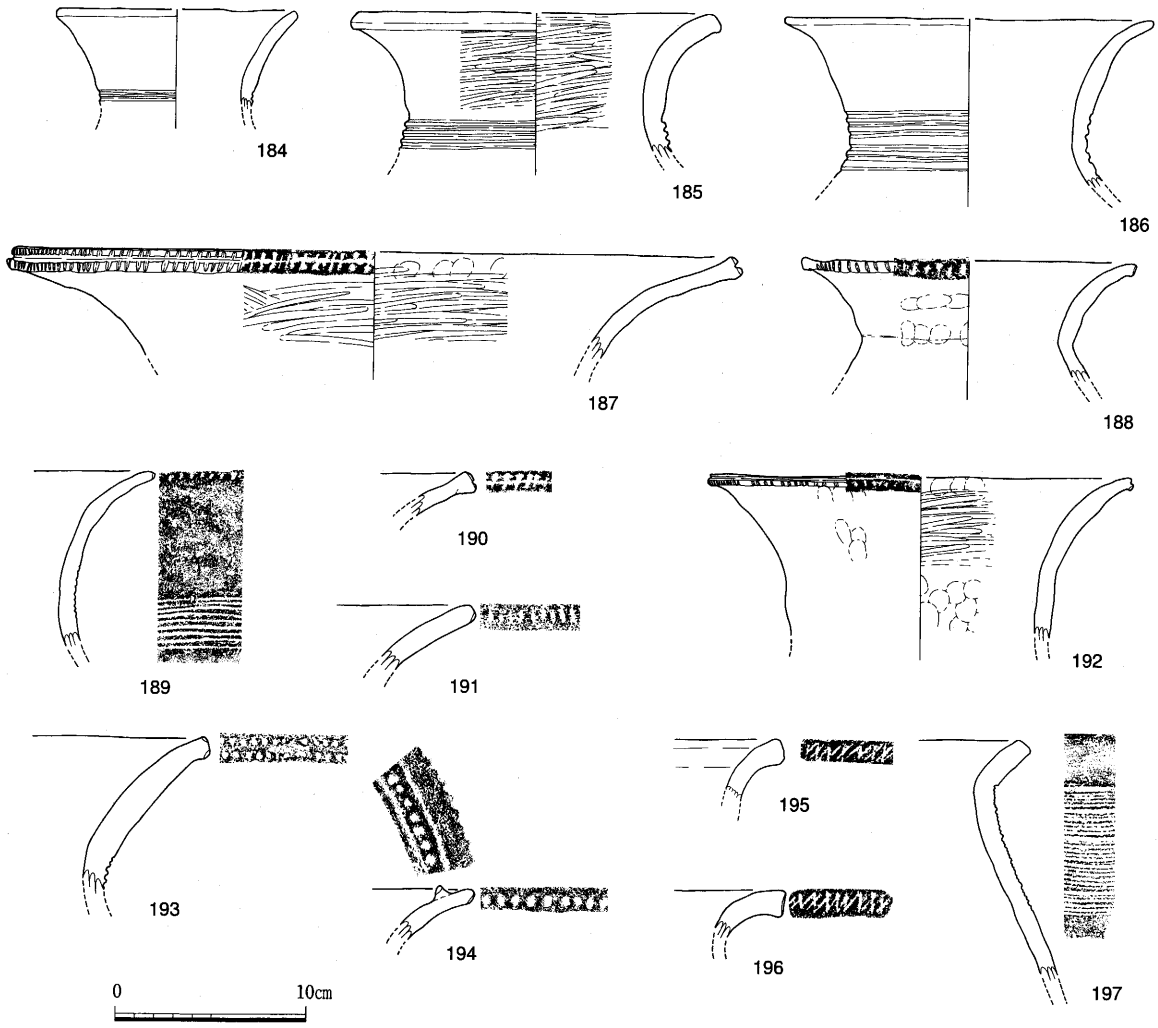
第18図　環濠上層出土土器（２）（S=1/4）



第19図　環濠上層出土土器（３）（S＝1/4）



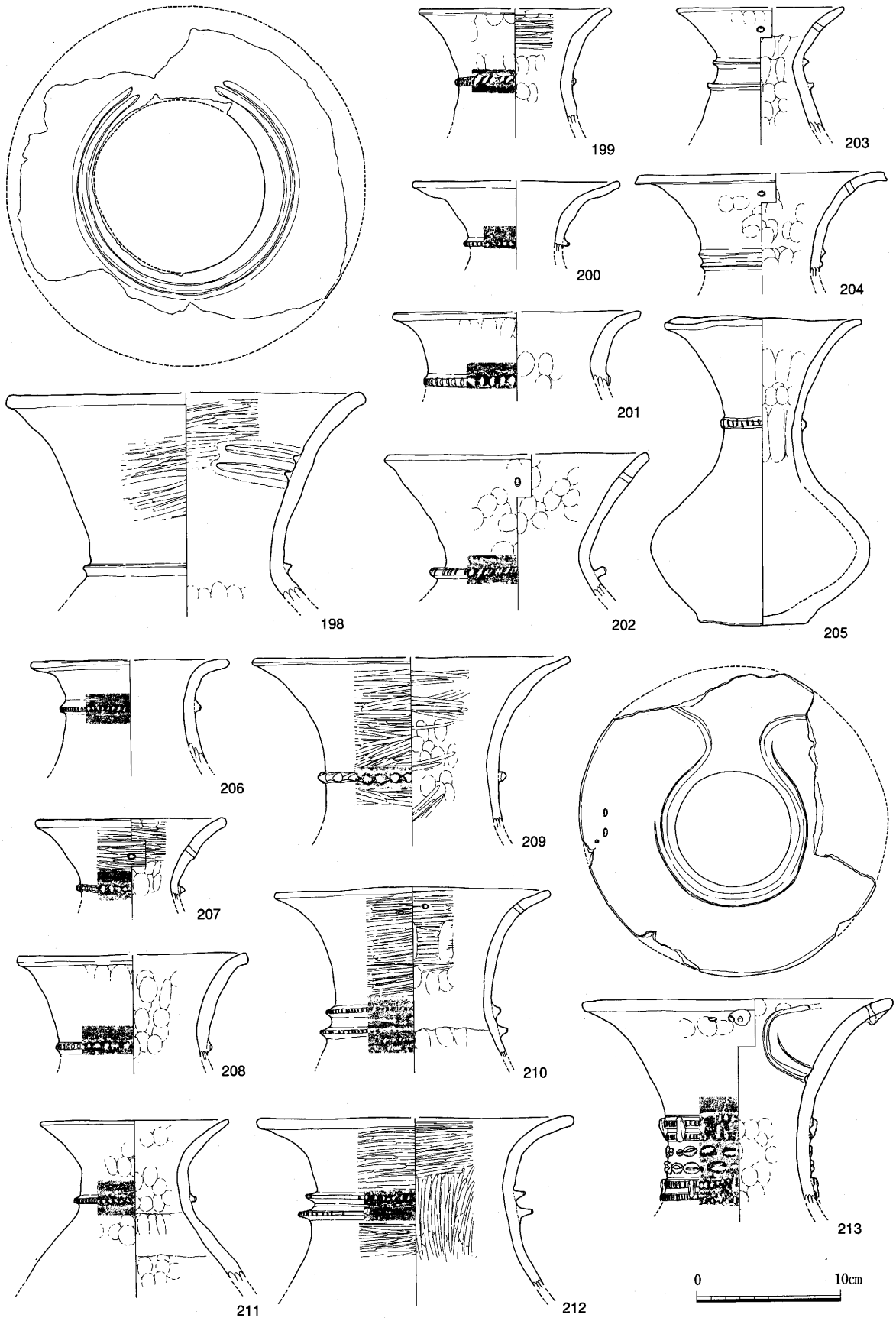
第20図　環濠上層出土土器（４）（S＝1/4）



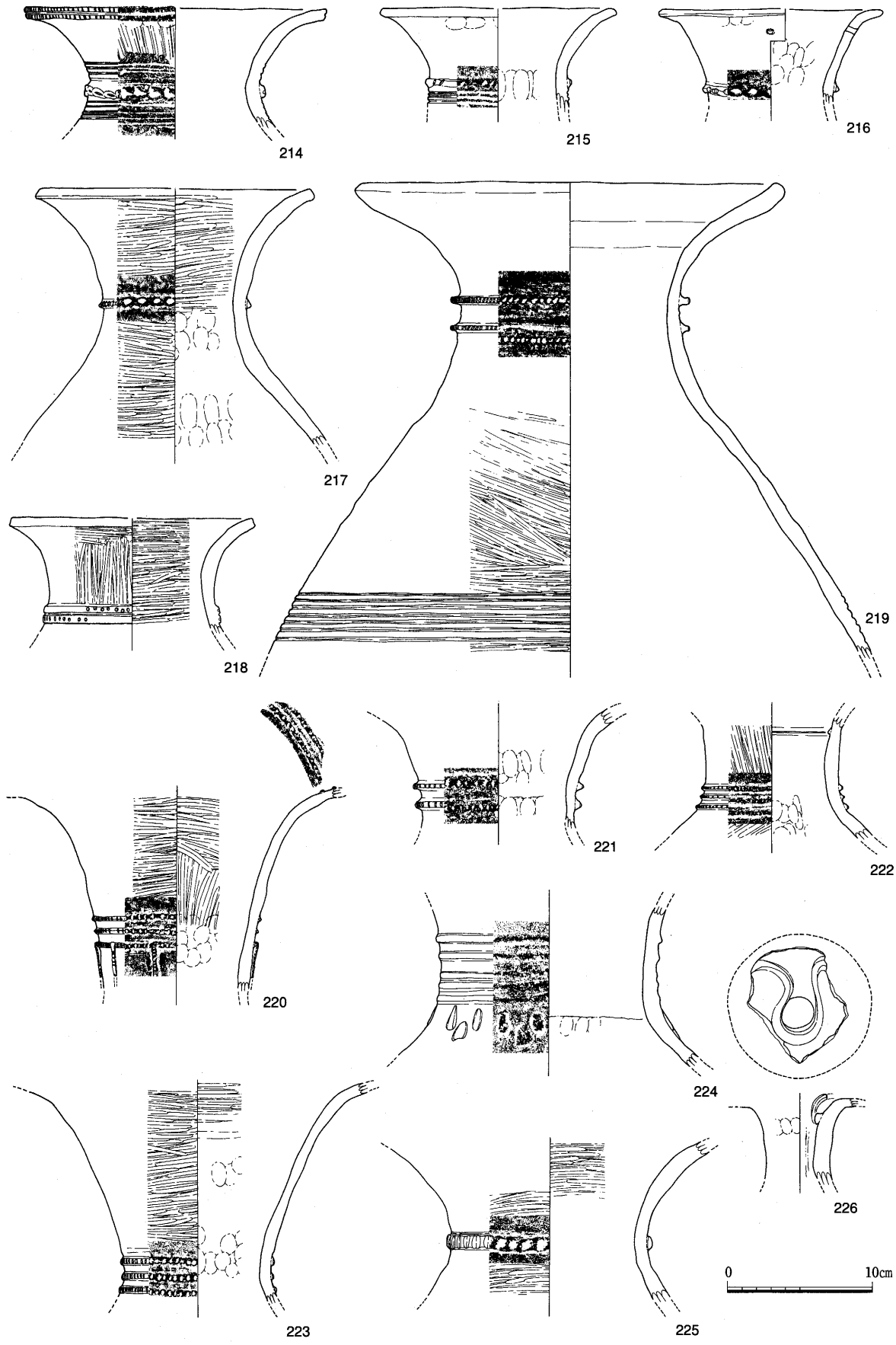
第21図　環濠上層出土土器（５）(S=1/4)

斜めのものと左下へ斜めのものが交互に配される。**230・231**はヘラ状工具と竹管状工具により文様が施され、**232**はヘラ状工具により、平行沈線文と刺突文が描かれる。**233**は横位と縦位の貼付凸帯により、区画文を作っている。**234**はヘラ状工具により連続しない沈線が2本施文され、胴部片であるため、文様全体がどのように広がるのかは不明である。**238**は口縁部と底部を欠く小形の壷である。底部は粘土継ぎ目で剥落しており、土器の成形方法が分かる資料である。**237・239・240・243**は貼付凸帯とヘラ描沈線による装飾が著しく施される土器である。とくに、**240**は15条の貼付凸帯や短い粘土を貼り付けて装飾しており、胎土には長石など白色の粒子を多く含んでいるが、土器全体の色調は赤褐色を呈し、他の土器とは違った様相を示す。**243**は内外面ともにミガキを施し、その後外器面に、ヘラ描き沈線と貼付け凸帯により華やかな装飾を施している。これらは弥生時代中期前葉の様相を示していると考えられよう。**242**は頸部から胴部にかけて残存する資料で、口縁部付近の内器面に竹管状工具による刺突文を施している。**251**は土器焼成後、底部に孔を穿っている。**262**は底径14.9cmの大形の壷である。

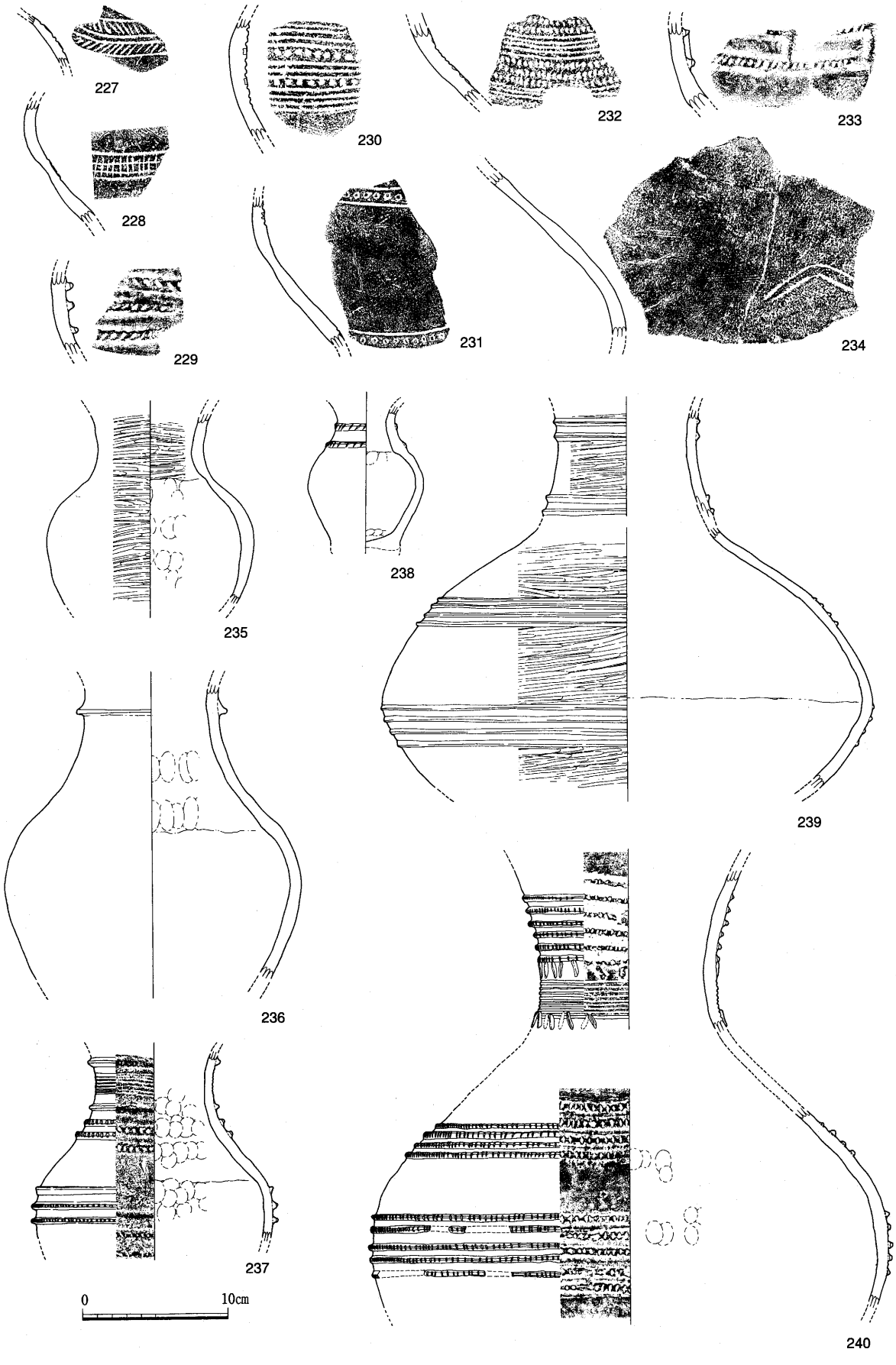
263～267は無頸壷と考えられ、**263～265**はヘラ描き沈線を施し、**266・267**は無文である。いずれも口唇部付近に1つないし、２つの孔を有する。



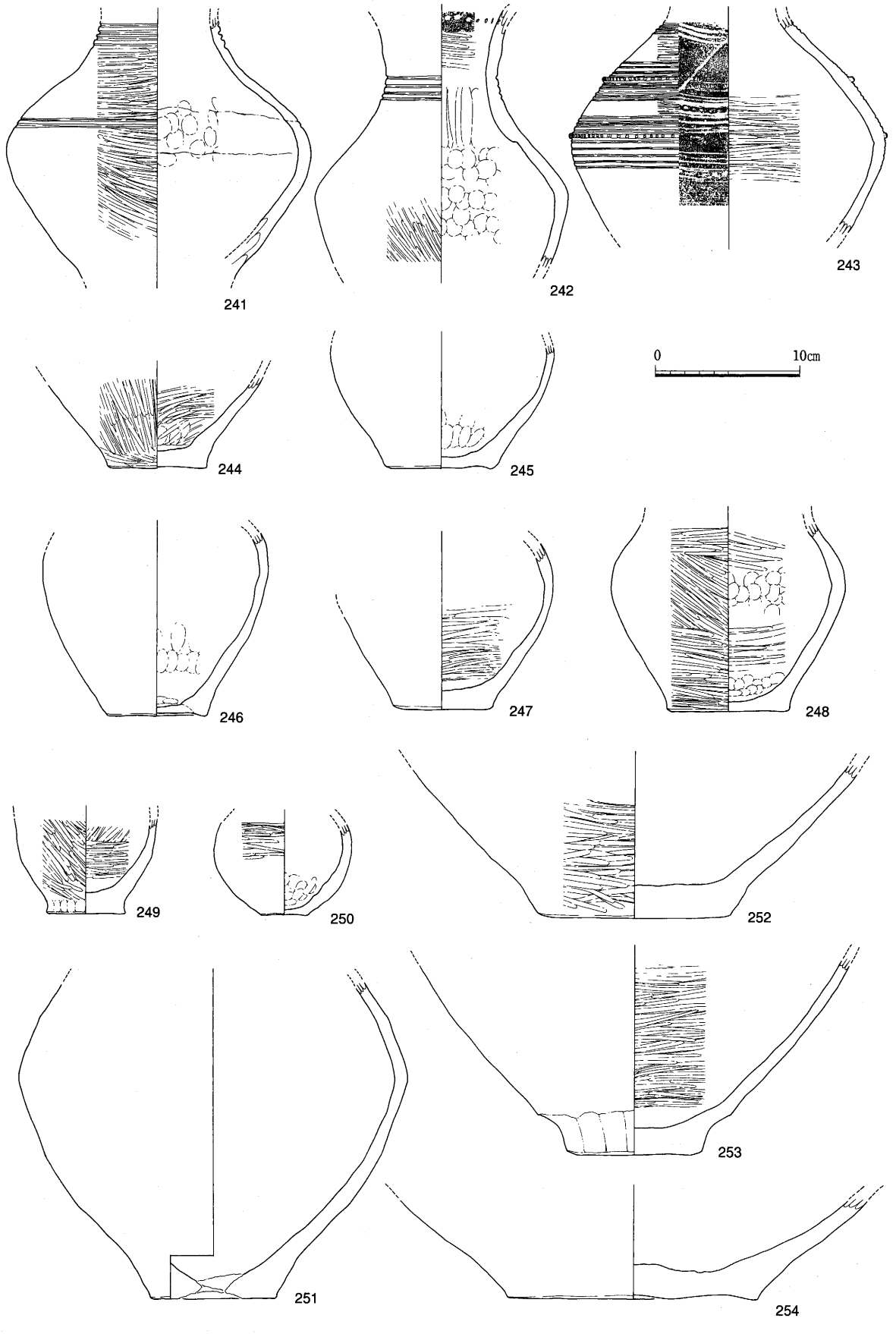
第22図　環濠上層出土土器（６）（S=1/4）



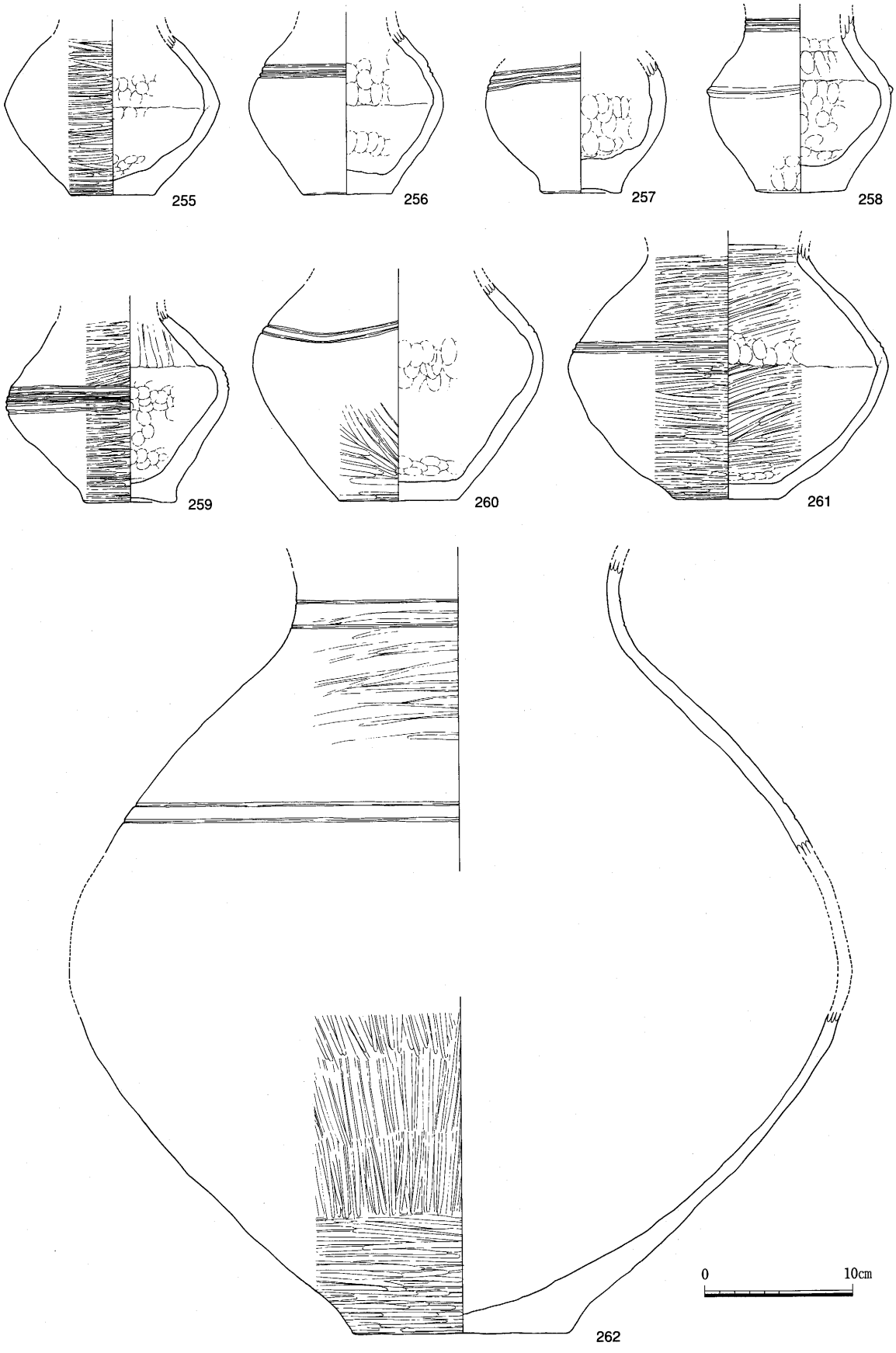
第23図　環濠上層出土土器（７）（S＝1/4）



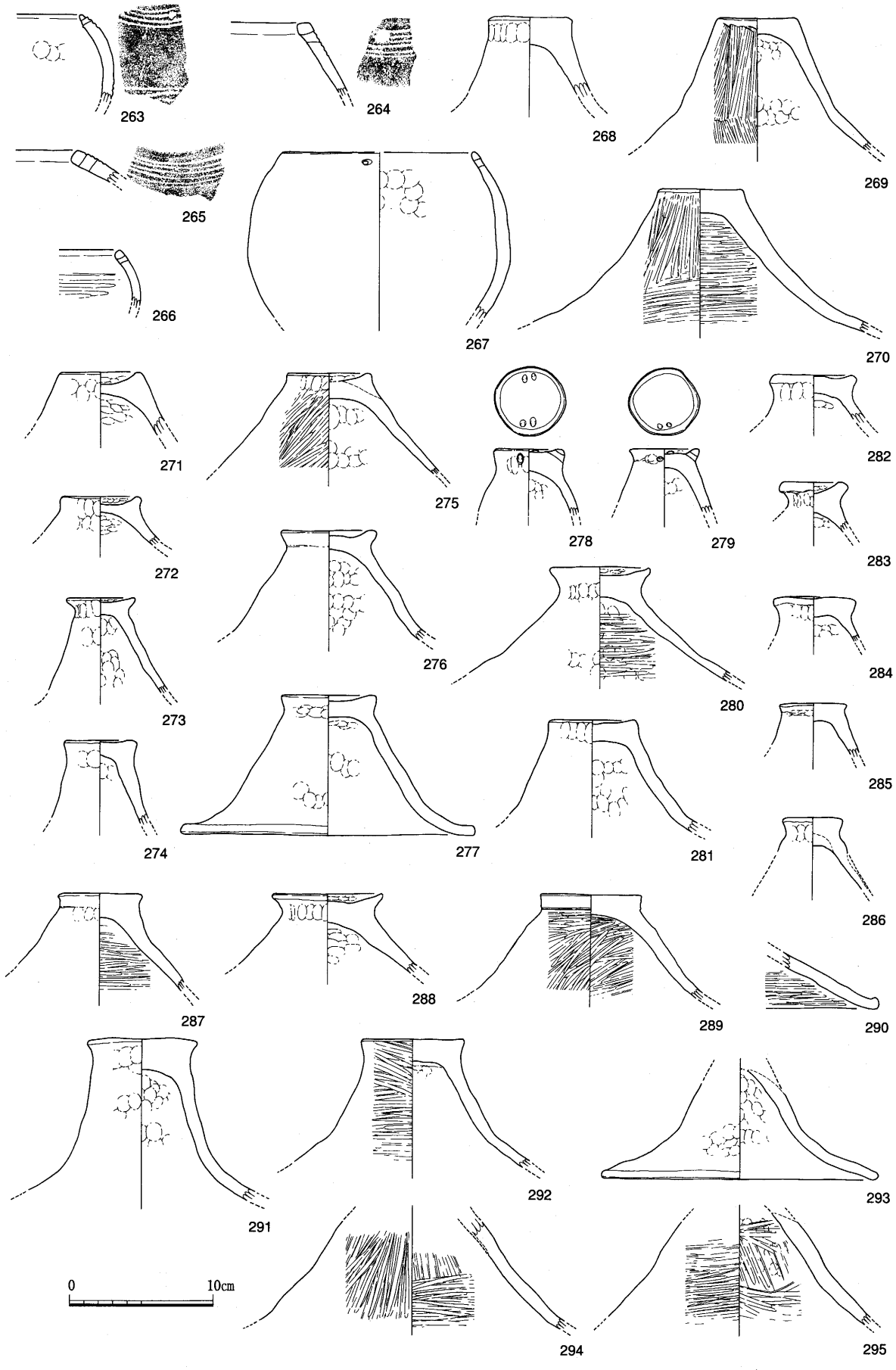
第24図　環濠上層出土土器（８）（S＝1/4）



第25図　環濠上層出土土器（９）（S＝1/4）



第26図　環濠上層出土土器（10）（S＝1/4）

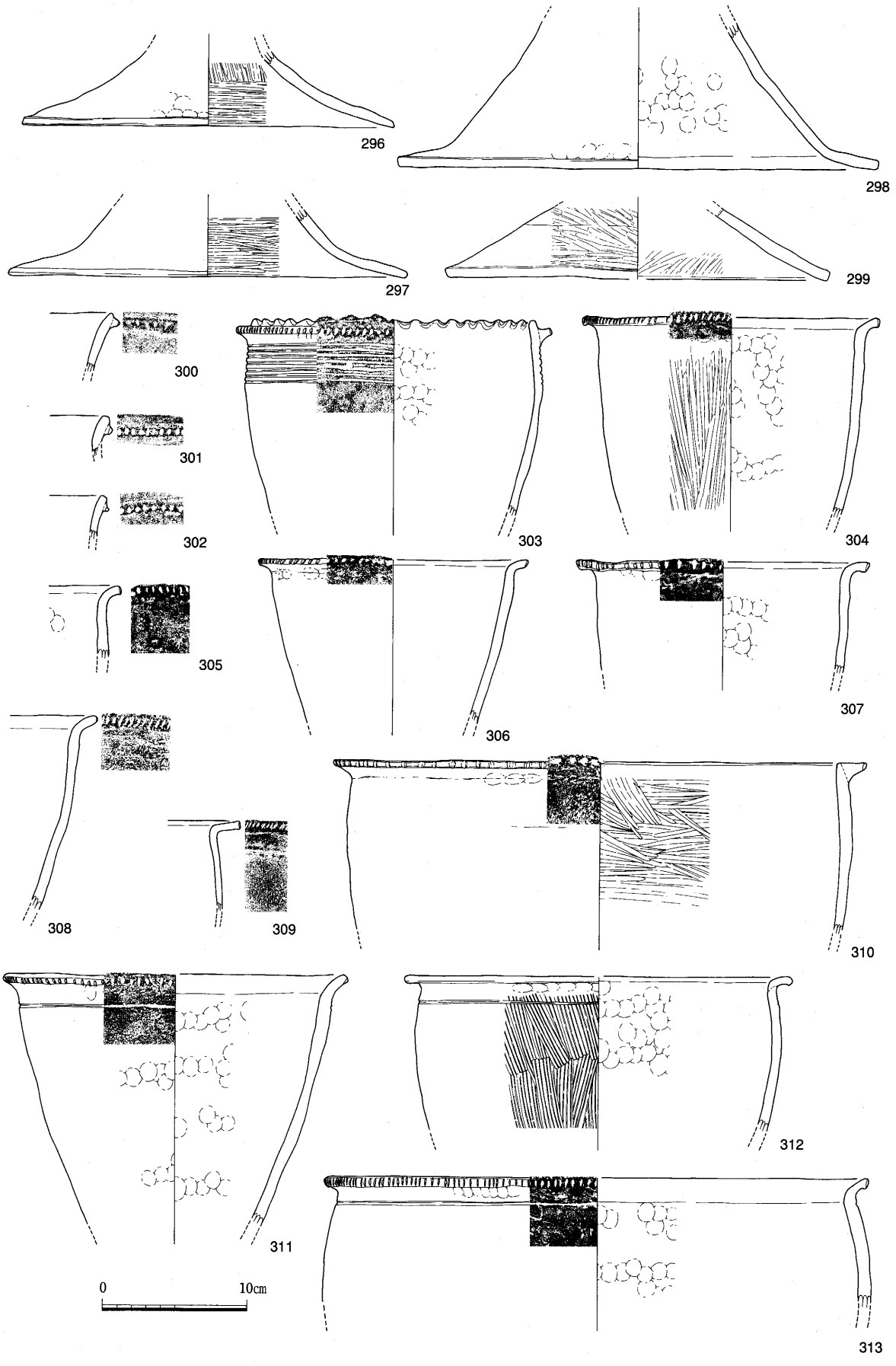


第27図　環濠上層出土土器（11）（S=1/4）

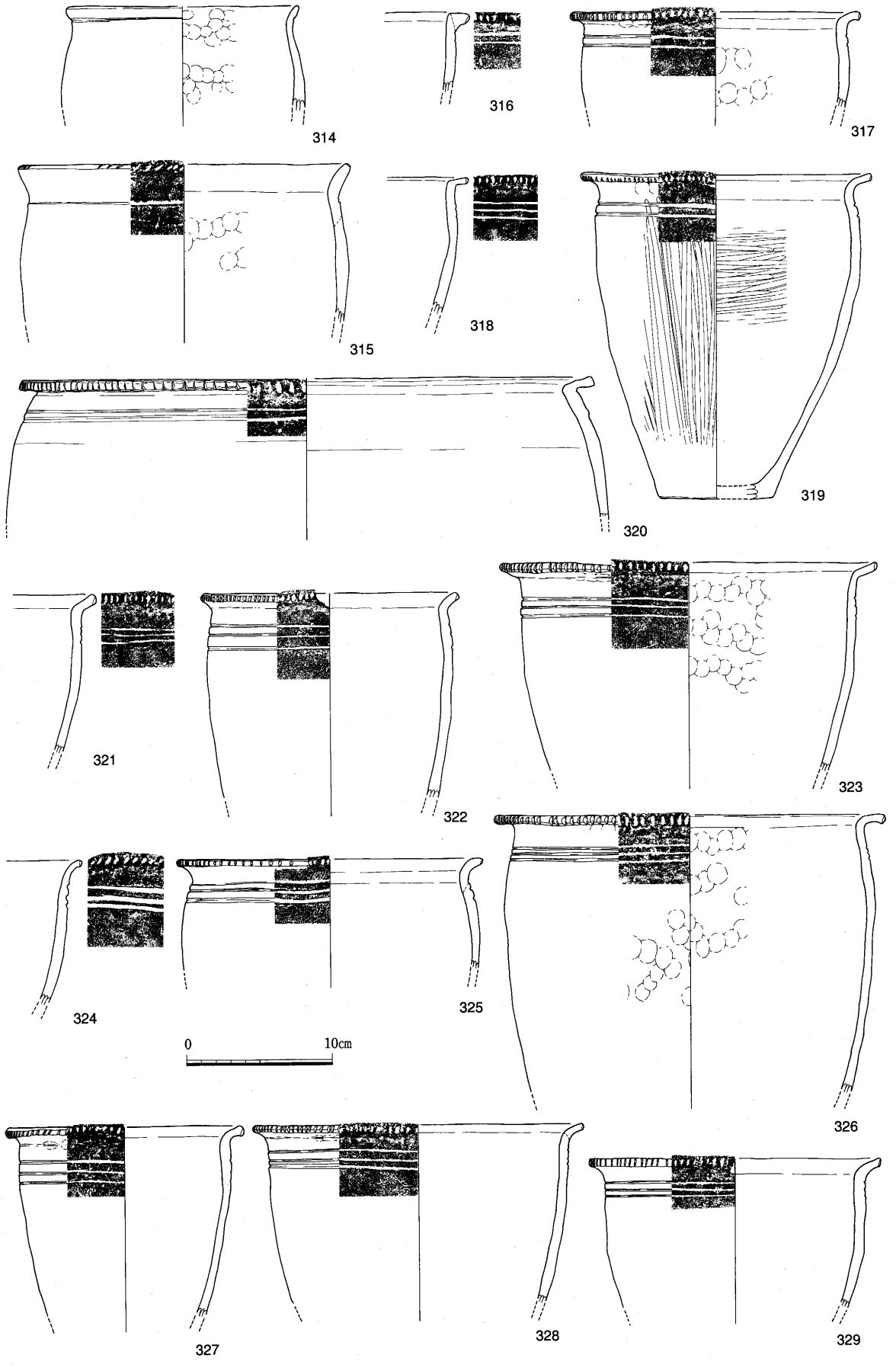
268～299は甕形土器の蓋である。つまみ部分にくびれをもつものともたないものがあり、また、つまみ上面にくぼみをもつものともたないものがある。**278・279**は2個1組の孔をそれぞれ２ヵ所、１ヵ所に有する。いずれの孔もつまみ上面から側面に向けて穿孔される。**289**はつまみのくびれ部分に1条の浅い沈線を有する。環濠下層出土土器の項でも述べたが、甕形土器の蓋は端部の内面側に煤を付着させているものが多い。また、つまみのくびれた部分に明瞭なユビオサエの痕跡をとどめる点も特徴の一つである。

300～302は縄文時代晩期の刻目凸帯文土器である。小片で全体の器形は不明である。いずれもやや外反する口唇部下部に口縁部全体にめぐると考えられる凸帯を貼り付けている。

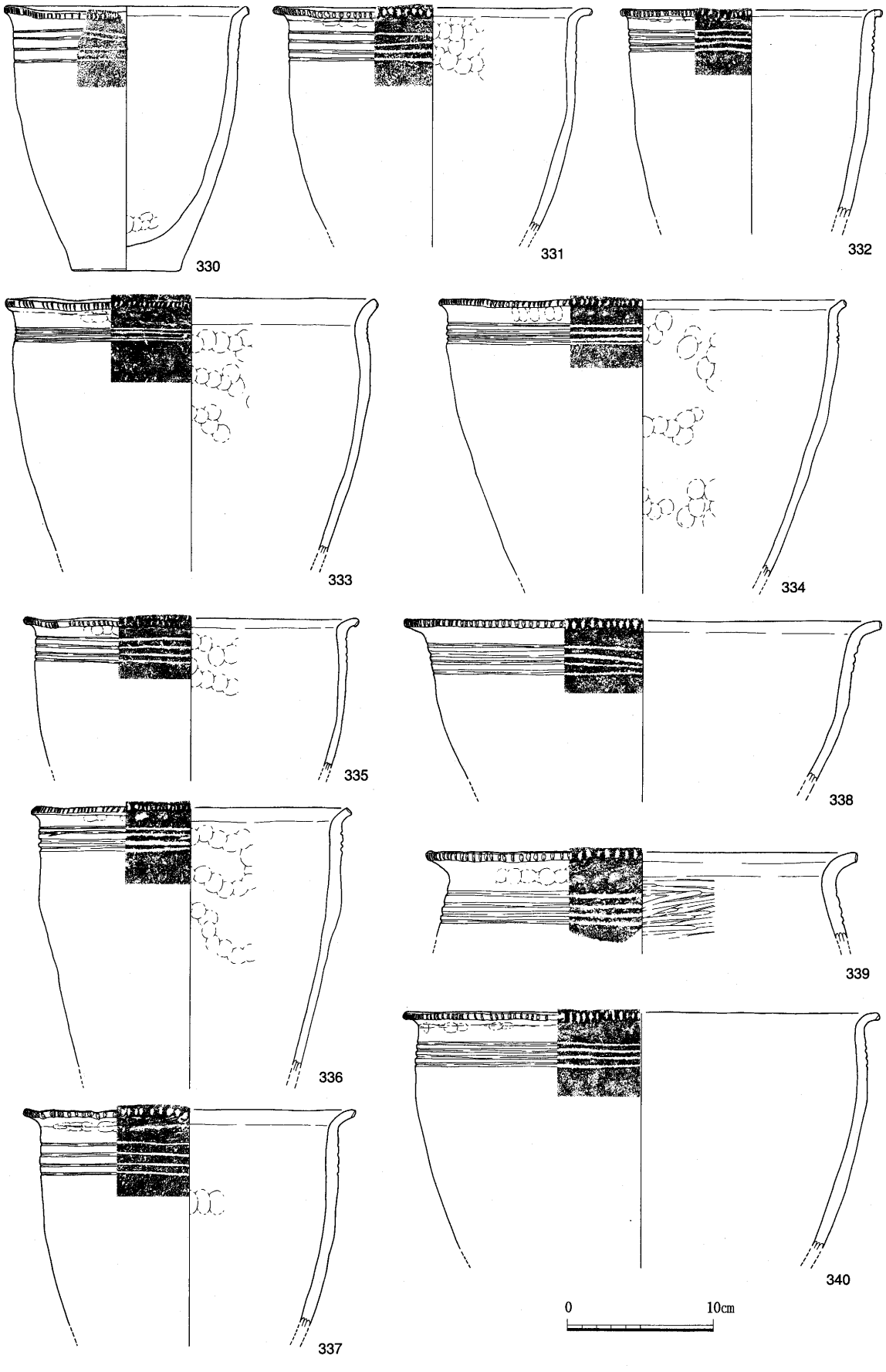
303～520・542～562は甕形土器である。**303**はほぼ直口する口縁部を呈し、口唇部下部に1条の凸帯を貼付け、刻目を施している。凸帯下部には7条のヘラ描き沈線が施文される。また、口唇部は棒状工具により押圧され、波状を呈す。後述するが、ＳＤ06からは同様の施文方法で口唇部が波状を呈する壷形土器も出土している。また、同様の資料は県内では百間川沢田遺跡からも出土している(1)。**304～310**は口唇部にのみ刻目が施される土器である。**309**は器壁の厚みが約0.4cmで、外器面はハケ調整が施され、精緻なつくりをしている。口唇部に浅い刻目を有する。弥生時代中期の土器と考えられる。**310**は口唇部に粘土紐を貼付けて、いわゆる「逆Ｌ字」に整形する資料である。**312**は口径（復元）27.0cmの甕で、外器面はハケにより調整された後、口縁部下部に1条の沈線を施す。**314・315**は緩やかに外反する口縁を呈し、やや胴部が張る。**315**は斜位の刻目を有する。**316**は小片であるが、口唇部を貼り付け、逆Ｌ字を呈する。口唇部には刻目を施し、口縁部下部には2条の沈線を施す。**319**は口径（復元）20.2cm、器高22.8cm、底径（復元）7.8cmで、内外器面にミガキが施される。**341**は口唇部に刻目をもち、胴部上半に刻目と計4条の沈線を有する資料である。口唇部の刻目は口径全体に施されるのではなく、一定の間隔で施文される部分とされない部分がある。**347**は口縁下部のくびれる部分のユビオサエが明瞭に残存する。**350**は粘土による補修の痕跡をとどめる資料で、焼成する以前に破損したためと推測される。**352**は内器面に、**353**は外器面にハケ調整を施す。**372**は6条のヘラ描沈線の下部に竹管状工具による刺突文を等間隔で施す。**377**は内外面ともに板状工具による調整が施される。**379**はほぼ完形で、口径28.2cm、器高35.8cm、底径8.0cmを呈す。底部は焼成後、穿孔される。**382**は小片であるが、口唇部に刺突文がみられ、ヘラ状の工具で施文されたものと推測されよう。**385**は7条のヘラ描沈線の下に、同様の工具で鋸歯状の文様を施文している。**391・397**は半載竹管状工具による平行沈線が施され、それぞれ、7条、8条である。**406**は口唇部に竹管状工具による刺突文が施される。**408**は10条のヘラ描沈線の下に、同様の工具による刺突文が施される。**419**は10条のヘラ描沈線の下に竹管状工具による刺突文が２列、施文される。**426**は12条のヘラ描沈線の下に鋭利な工具による刺突文がみられる。**431**は12条のヘラ描沈線の下に、口唇部に施される刻目と同一工具による刻目が見られる。**439・441**は沈線と沈線の間に半載竹管状工具による波状文を施す。**456**は口径（復元）13.2cmの小形の甕で、口唇部と13条の沈線の下に鋭利な工具による刺突文を有す。**458**は沈線と沈線の間にヘラ状工具による鋸歯状の文様が施文される。**465**は口唇部上面に竹管状工具による刺突文を等間隔で配する。**466～469**は櫛描状沈線が施文される。**466・467**は竹管状工具による刺突文、**468・469**は鋭利な工具による刺突文をそれぞれ沈線の下に有す。**469**の口唇部の刻目は全体にめぐるが、胴部の刺突文は施文される部分とされない部分がみうけられる。**470～520**は無文の甕形土器である。**500**は口径（復元）18.9cm、器高19.6cm、底径6.9cmで、底部には焼成後、穿孔が施さ



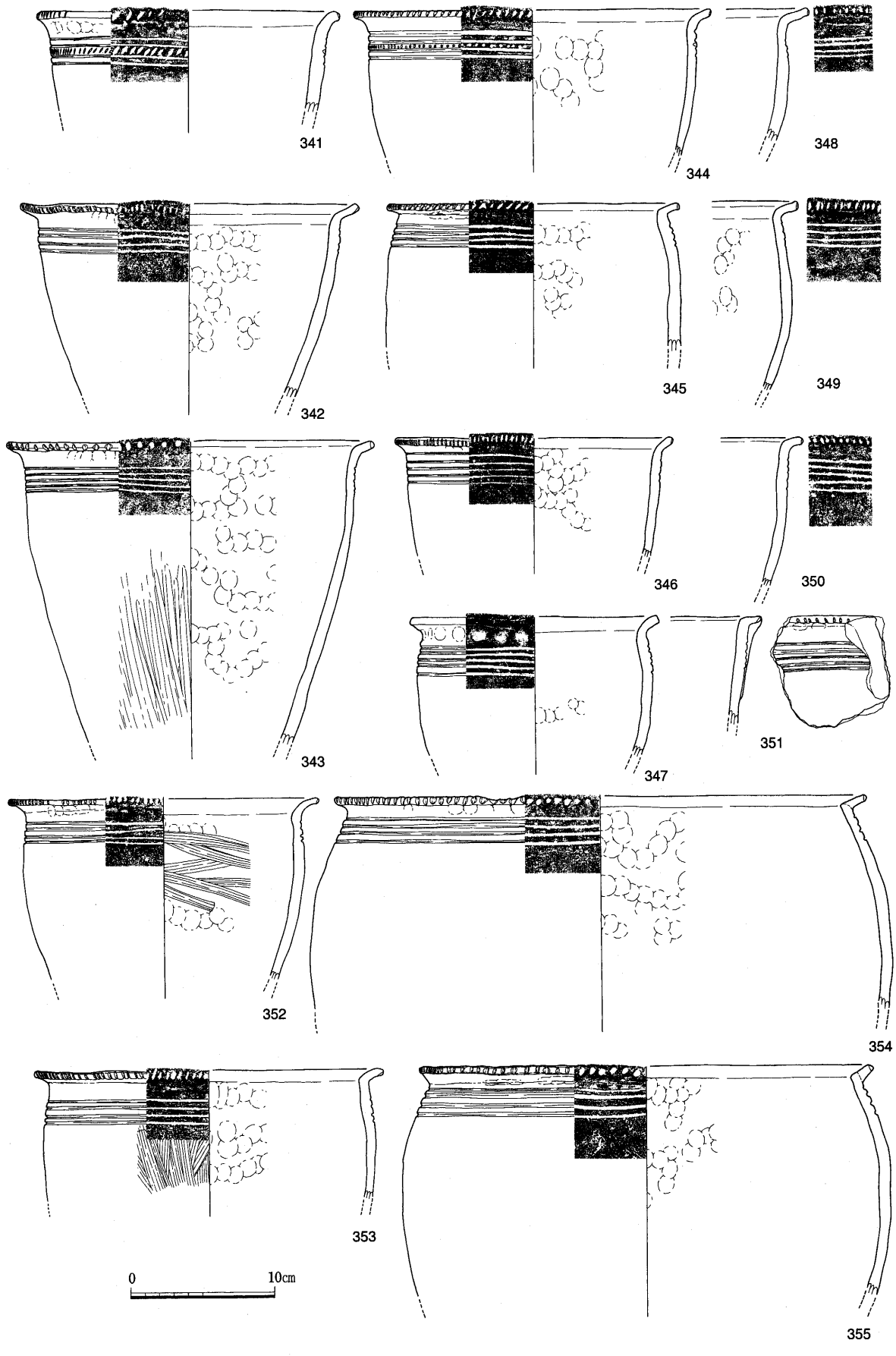
第28図　環濠上層出土土器（12）（S＝1/4）



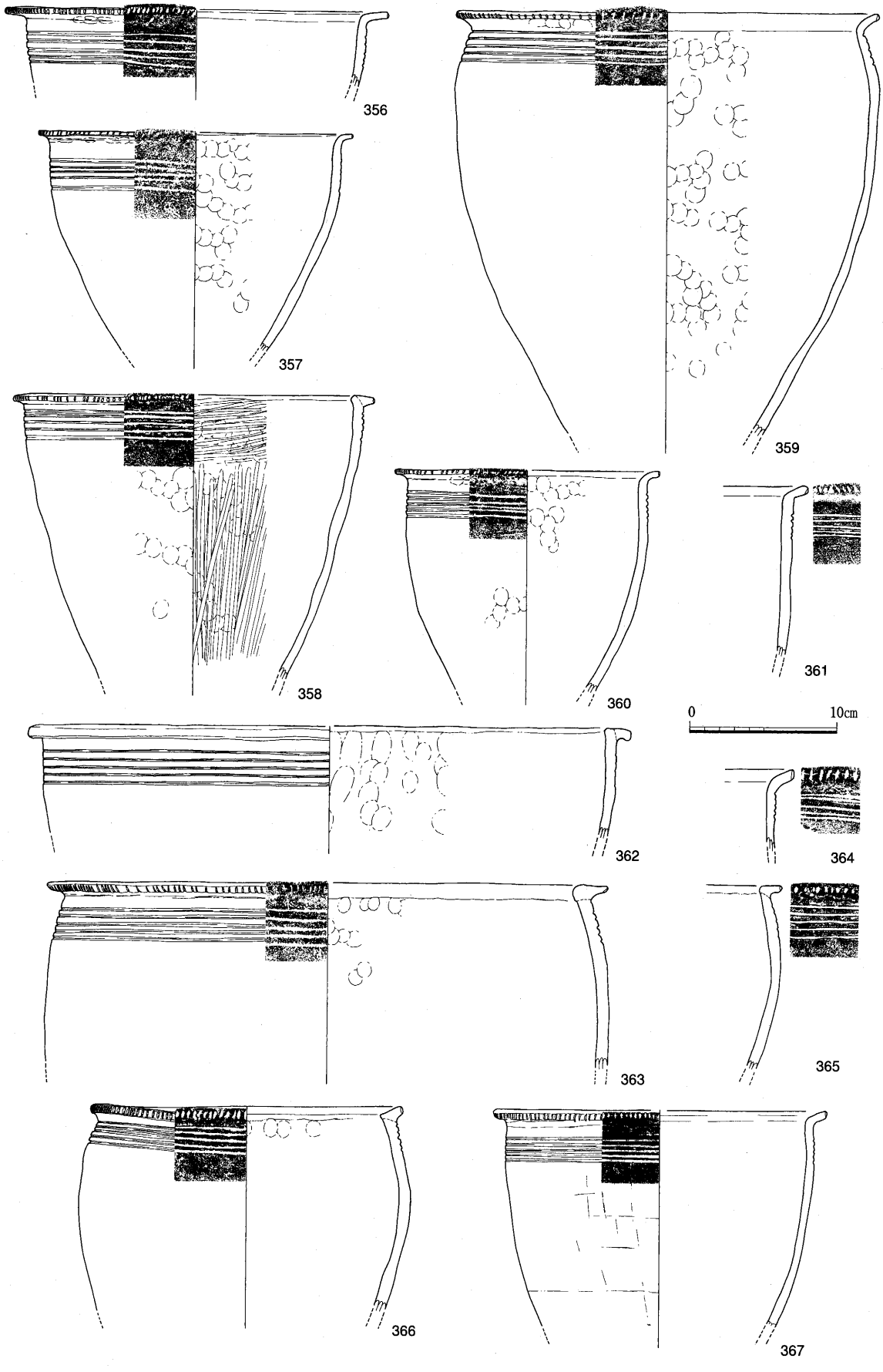
第29図　環濠上層出土土器（13）（S＝1/4）



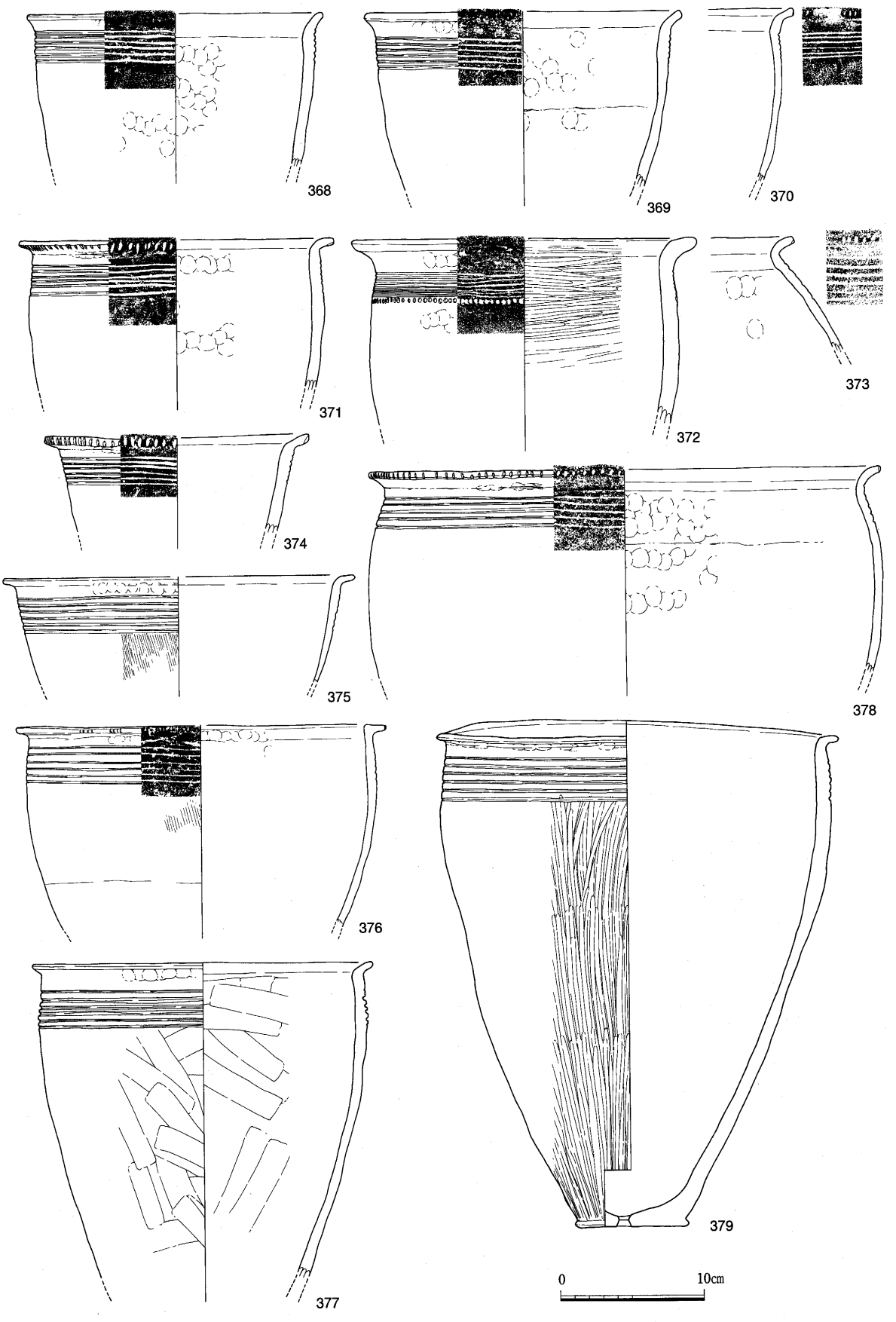
第30図　環濠上層出土土器（14）（S=1/4）



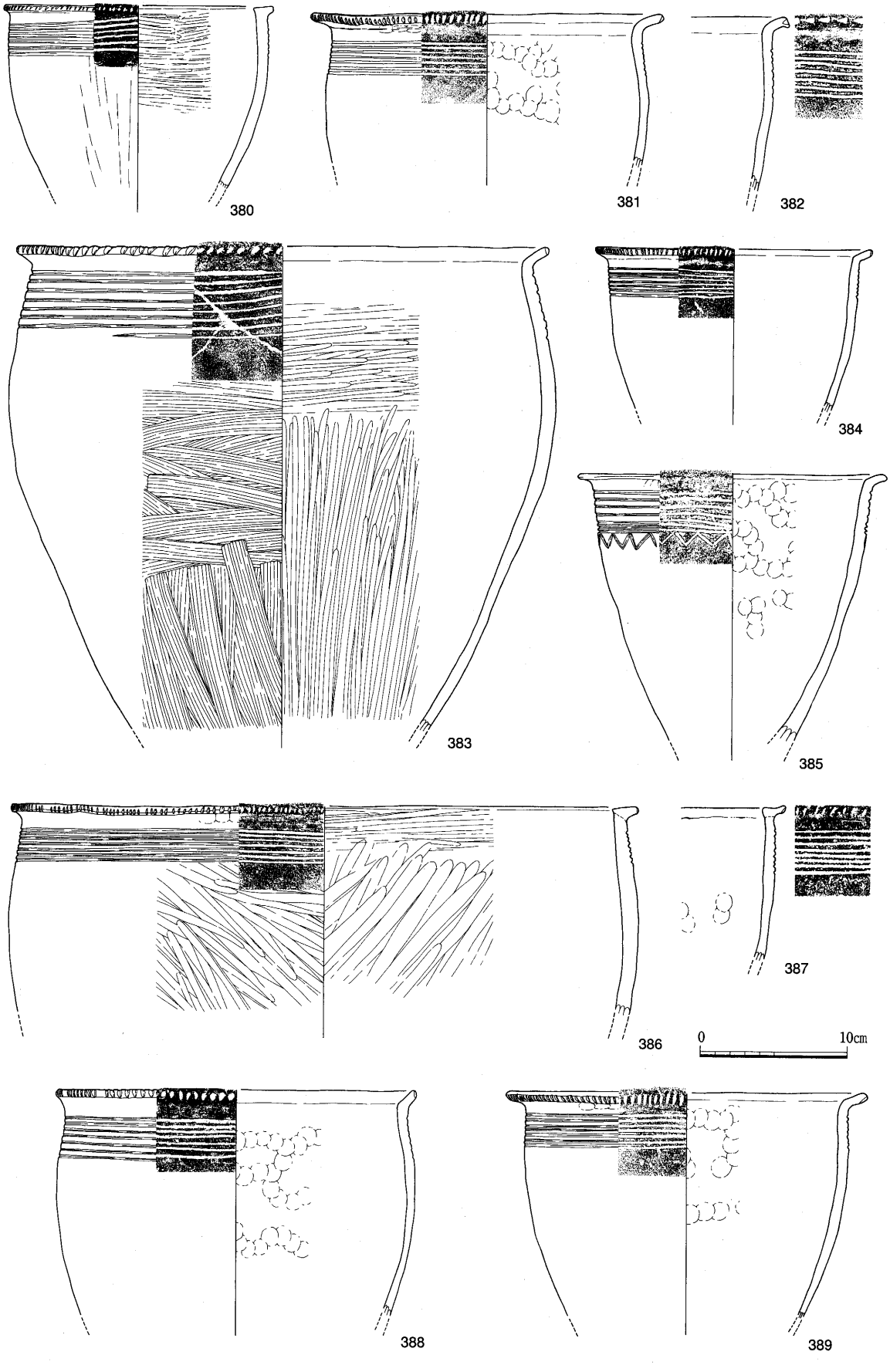
第31図　環濠上層出土土器（15）（S＝1/4）



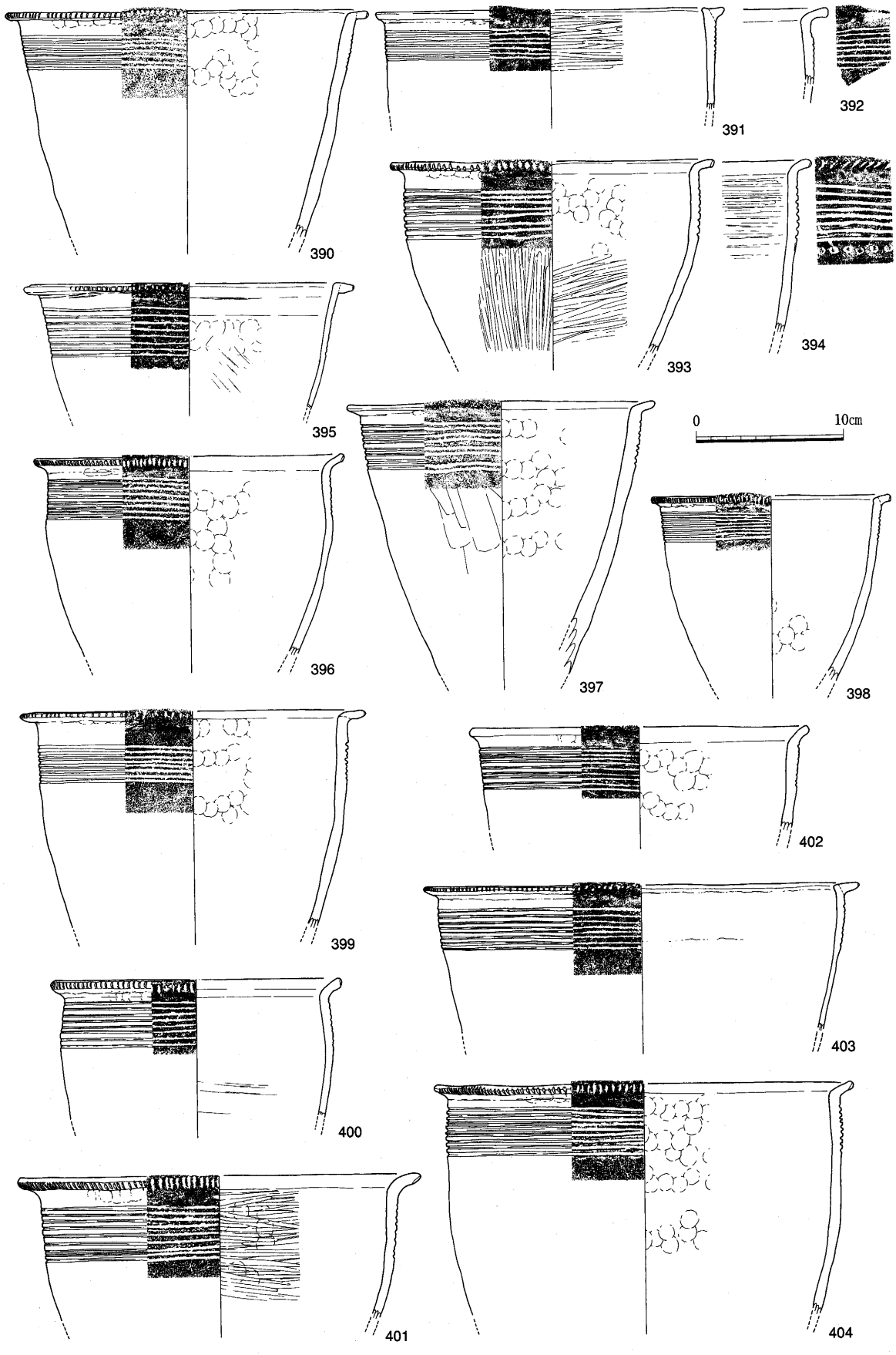
第32図　環濠上層出土土器（16）（S＝1/4）



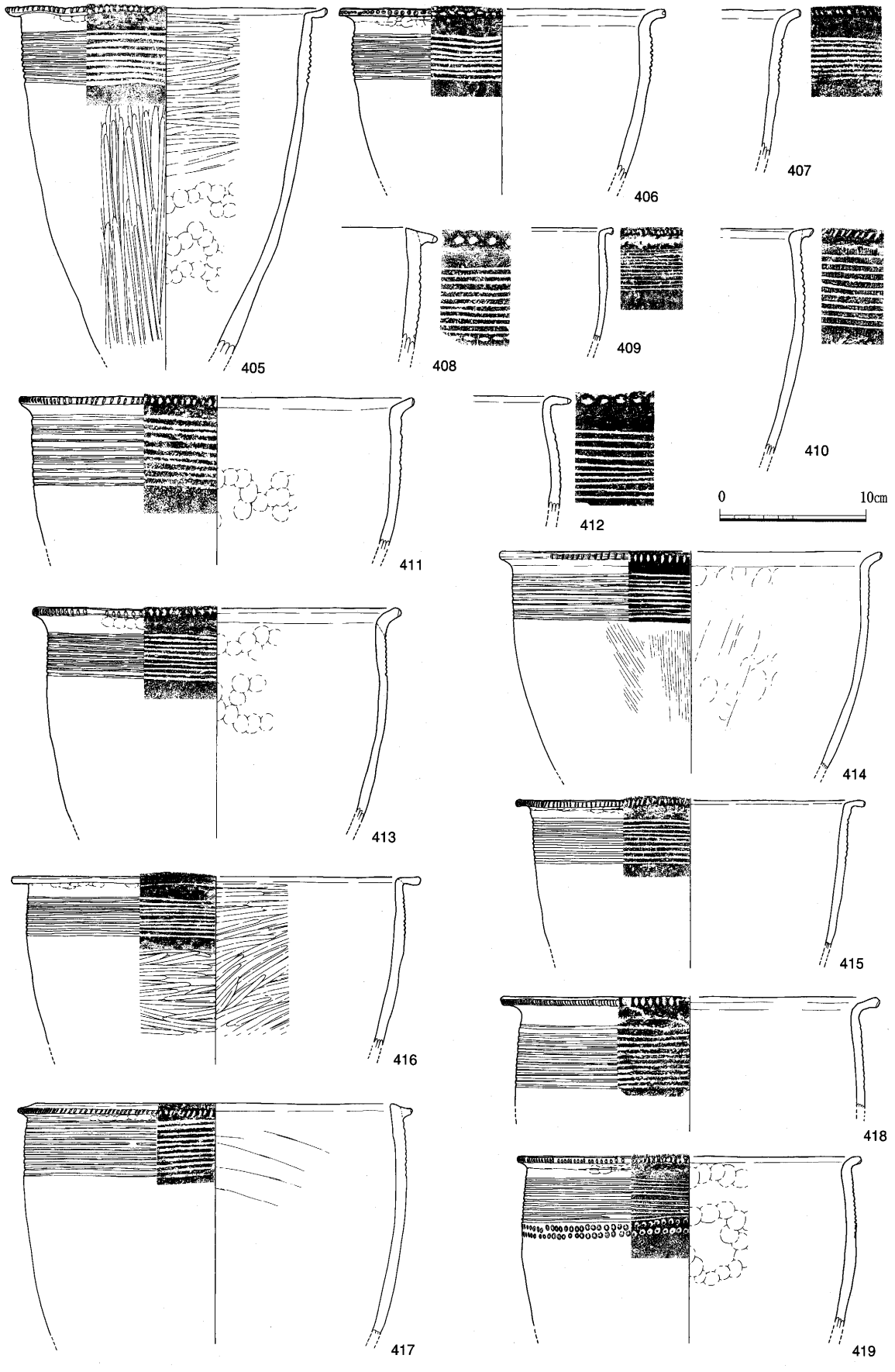
第33図　環濠上層出土土器（17）（S=1/4）



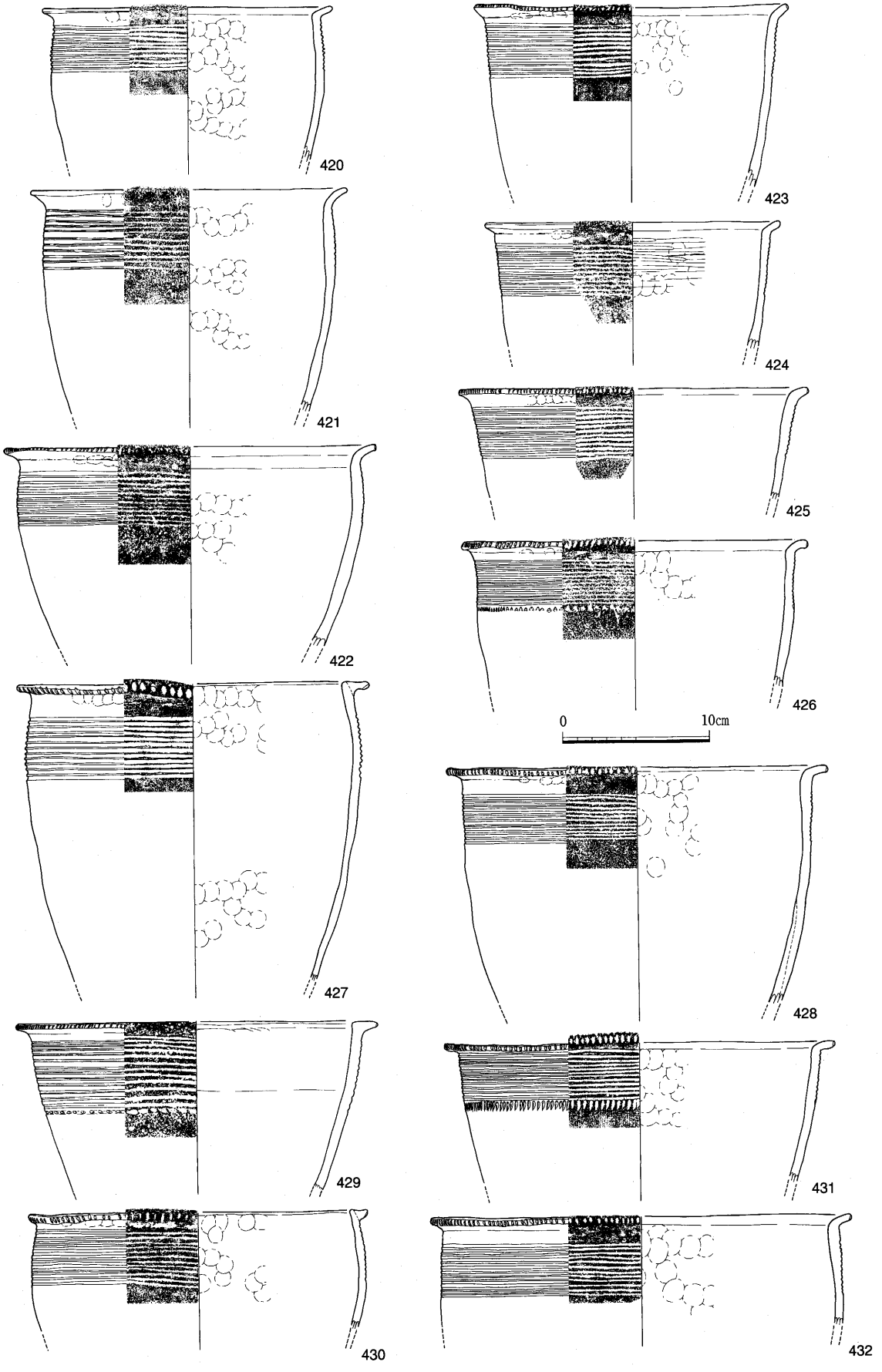
第34図　環濠上層出土土器（18）（S=1/4）



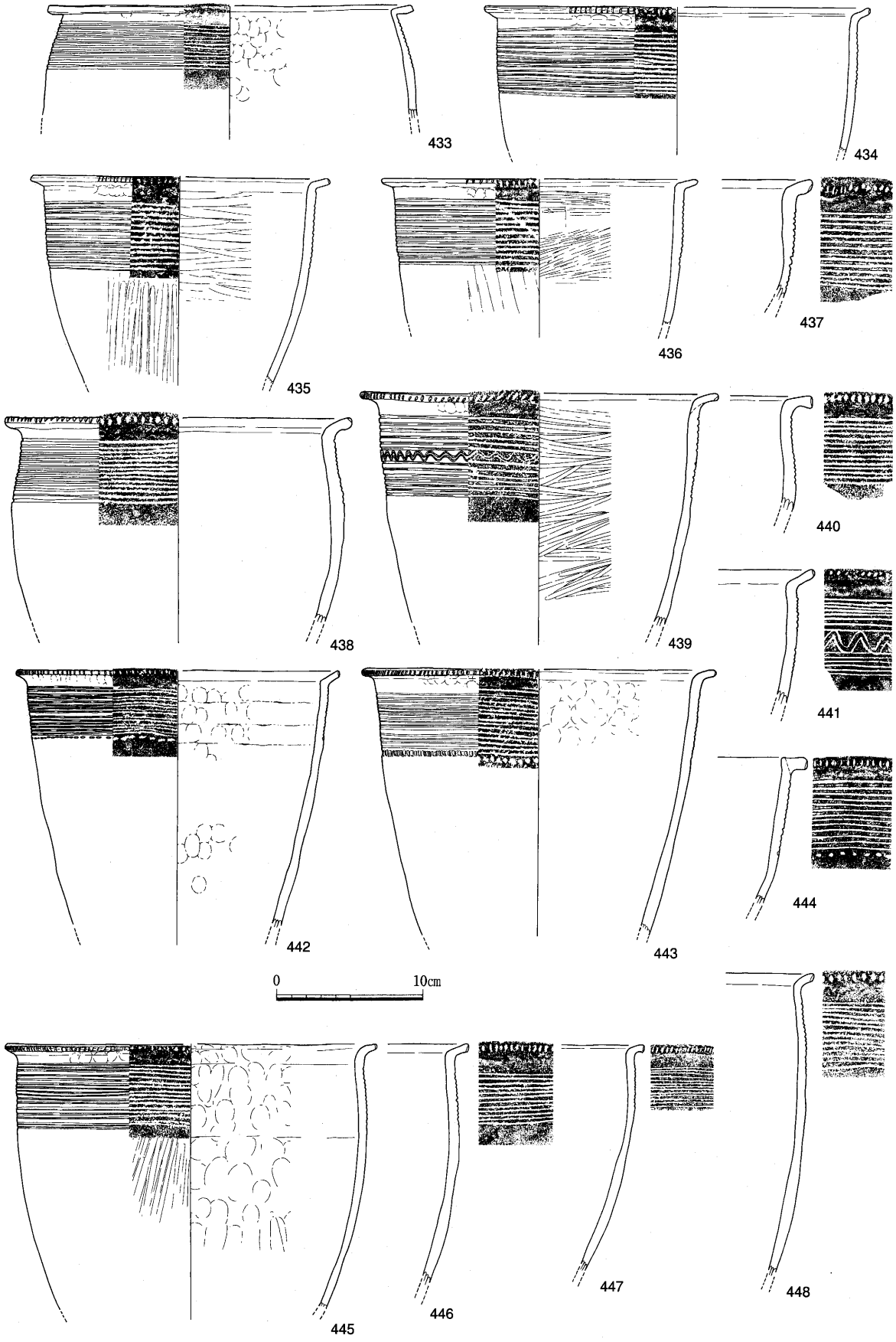
第35図　環濠上層出土土器（19）（S＝1/4）



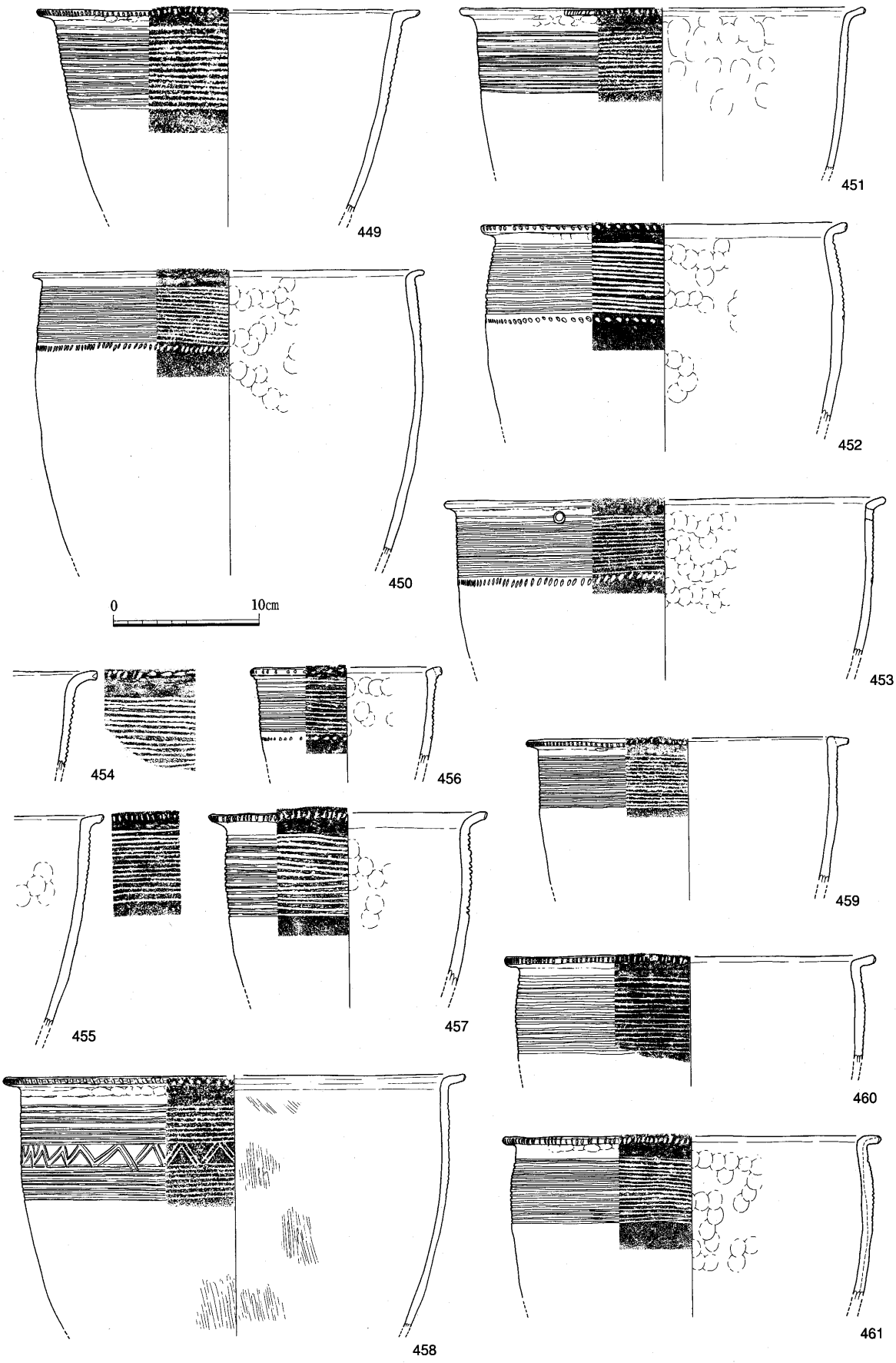
第36図　環濠上層出土土器（20）（S＝1/4）



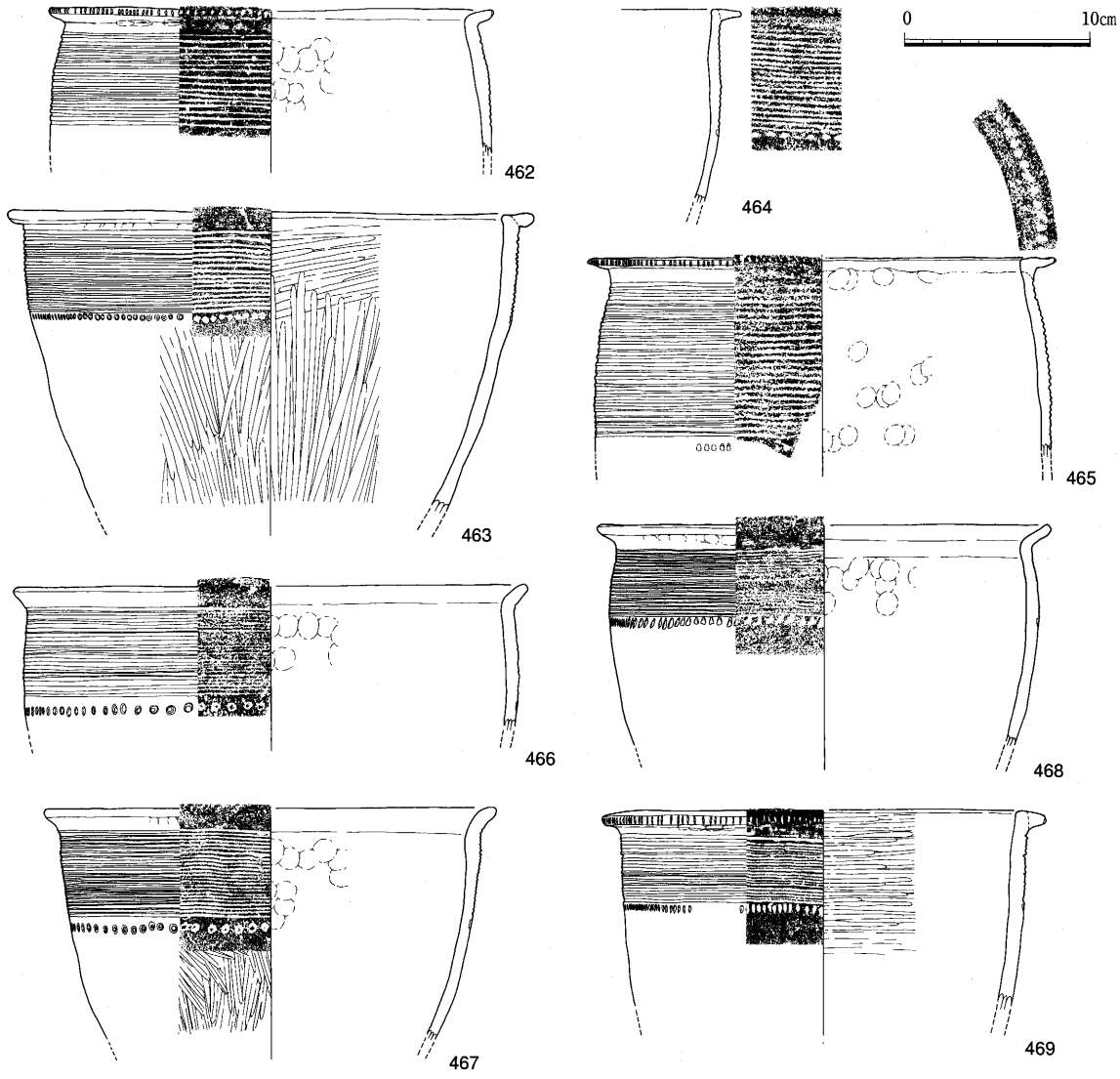
第37図　環濠上層出土土器（21）（S＝1/4）



第38図　環濠上層出土土器（22）（S＝1/4）



第39図　環濠上層出土土器（23）（S＝1/4）



第40図　環濠上層出土土器（24）（S＝1/4）

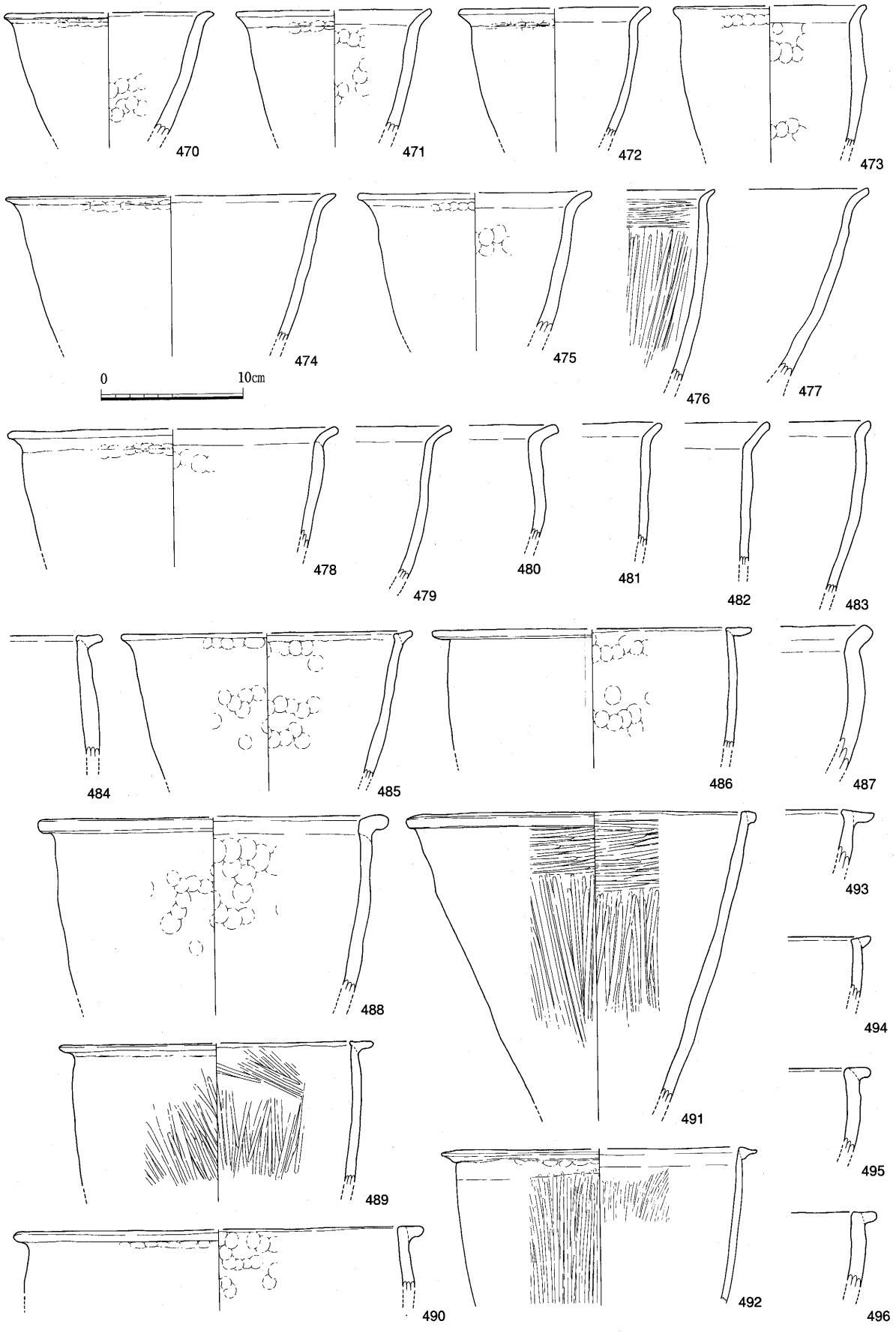
れている。**510**は口径22.8cm、器高22.8cm、底径（復元）8.0cmである。**515**はほぼ完形の土器で口径27.0cm、器高30.5cm、底径8.6cmで、底部は焼成後穿孔される。**519・520**は外耳状の突起を有する。

521～541は鉢形土器である。**522**は外器面にはミガキが施されるが、内器面はユビオサエが明瞭に残存し、全体的にいびつな器形を呈し、5条の沈線も粗雑に施文される。**526**は把手状のつまみを作り出している鉢である。**529**は口径29.0cmの鉢で底面は粘土継ぎ目で剥落している。**530**は口径18.2cm、器高12.0cm、底径7.6cmの鉢で、外器面には入念なミガキが施される。**531**はややいびつであるが、ほぼ完形で、口径17.2cm、器高12.9cm、底径7.8cmである。

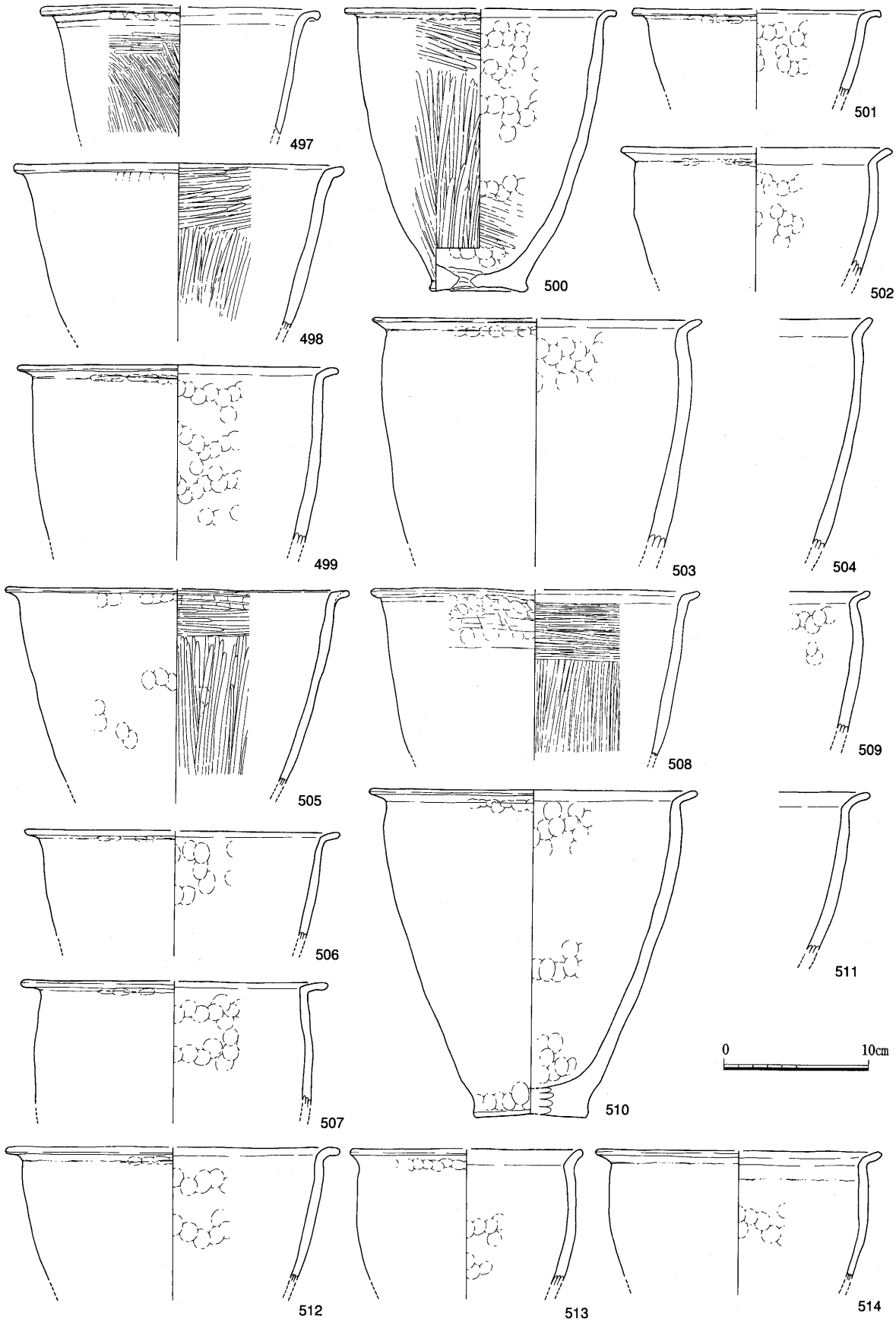
542～562は甕形土器、あるいは鉢形土器の底部である。**553～555**、**557～562**は焼成後、穿孔される。

563～568は高杯である。**568**は手捏ねによる成形で、非常にいびつである。**569**は小形の片口土器である。**570～575**は小形粗製土器である。手捏ねにより成形される。**576～580**は弥生時代中期中葉から後葉の土器で、**576**は壷形土器、**577～579**は甕形土器、**580**は高杯である。

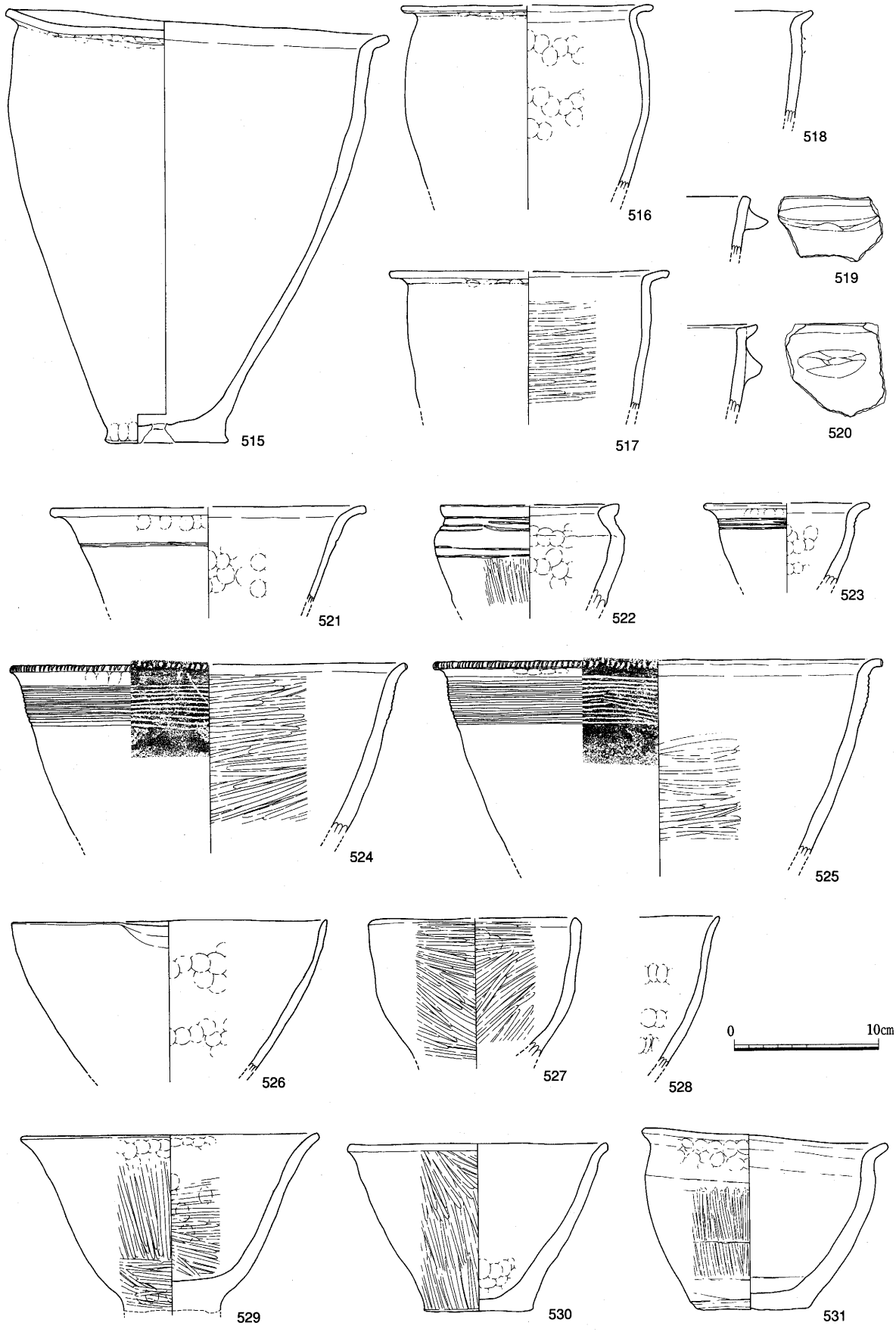
581～593は弥生時代後期の土器で、**581**は壷形土器、**582～591**は甕形土器、**592・593**は高杯である。



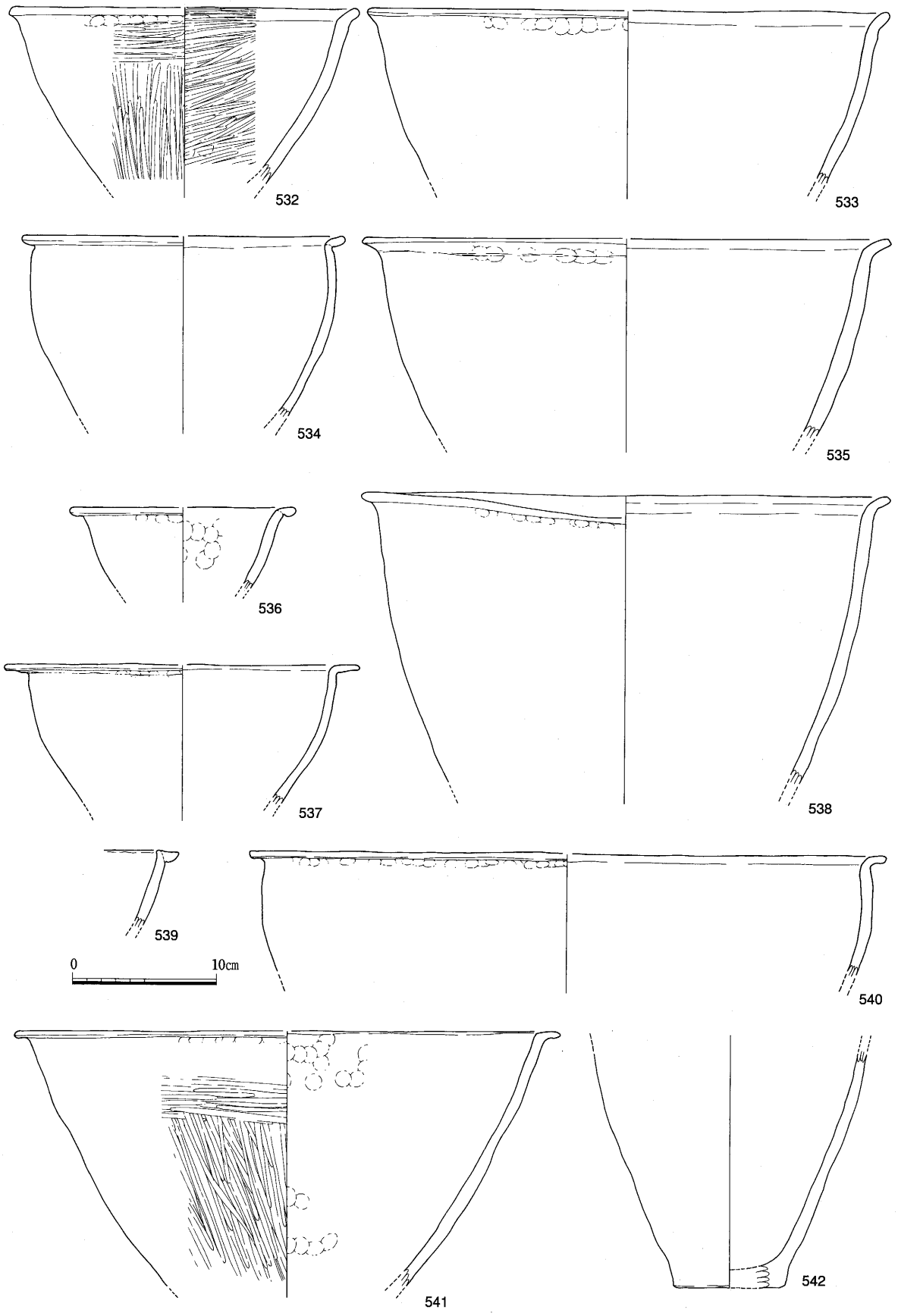
第41図　環濠上層出土土器（25）（S＝1/4）



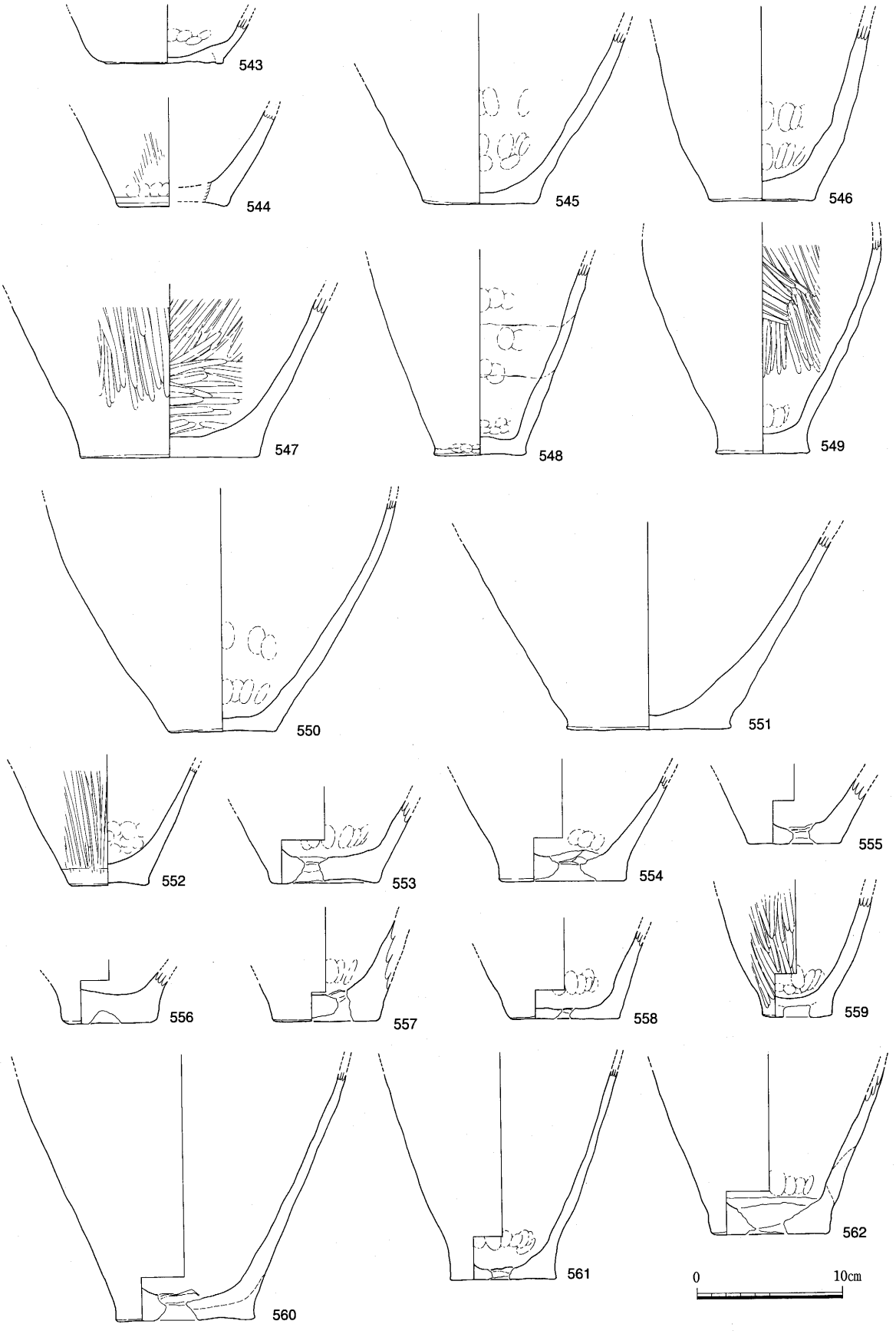
第42図　環濠上層出土土器（26）（S＝1/4）



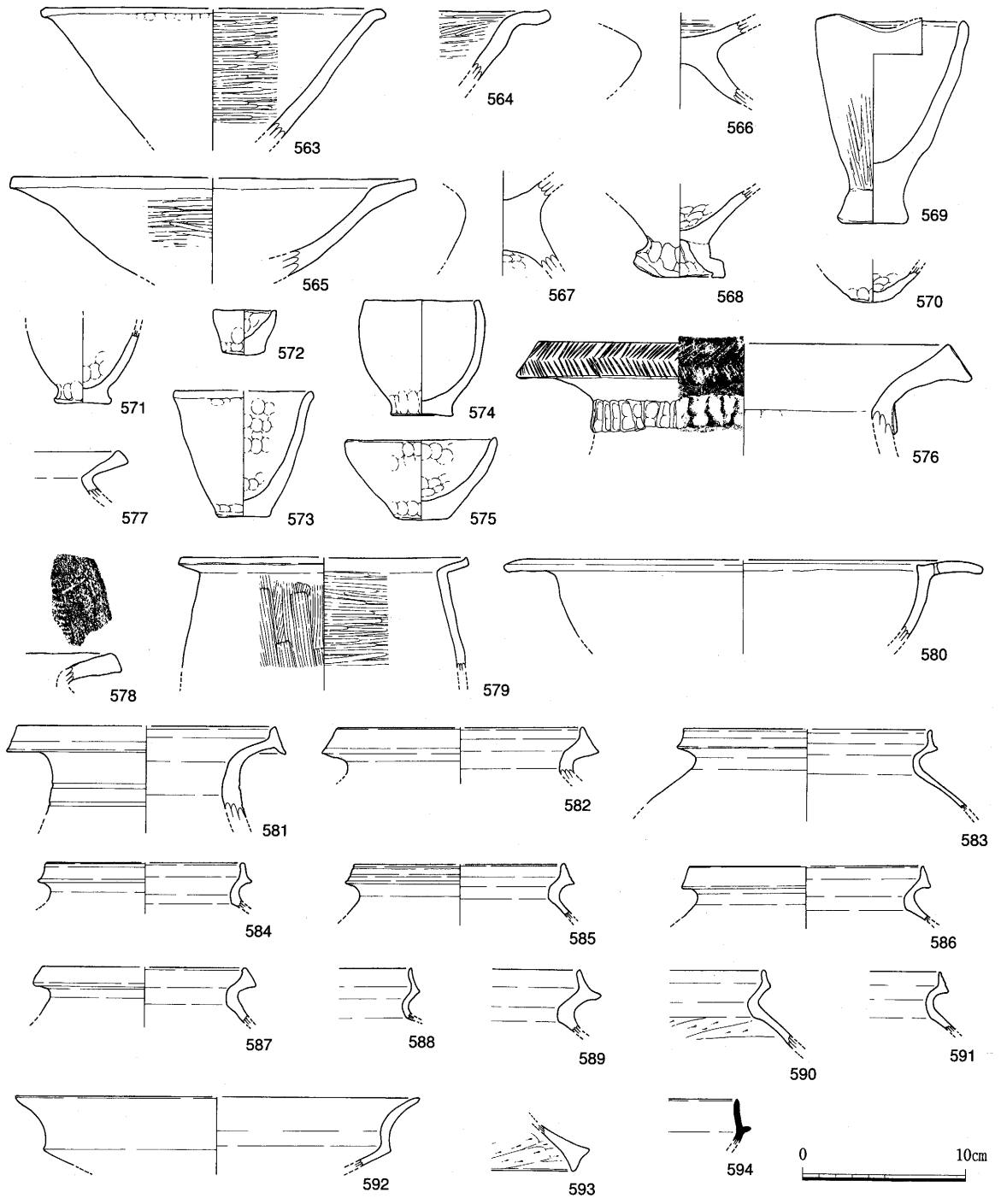
第43図　環濠上層出土土器（27）（S＝1/4）



第44図　環濠上層出土土器（28）（S＝1/4）



第45図　環濠上層出土土器（29）（S＝1/4）

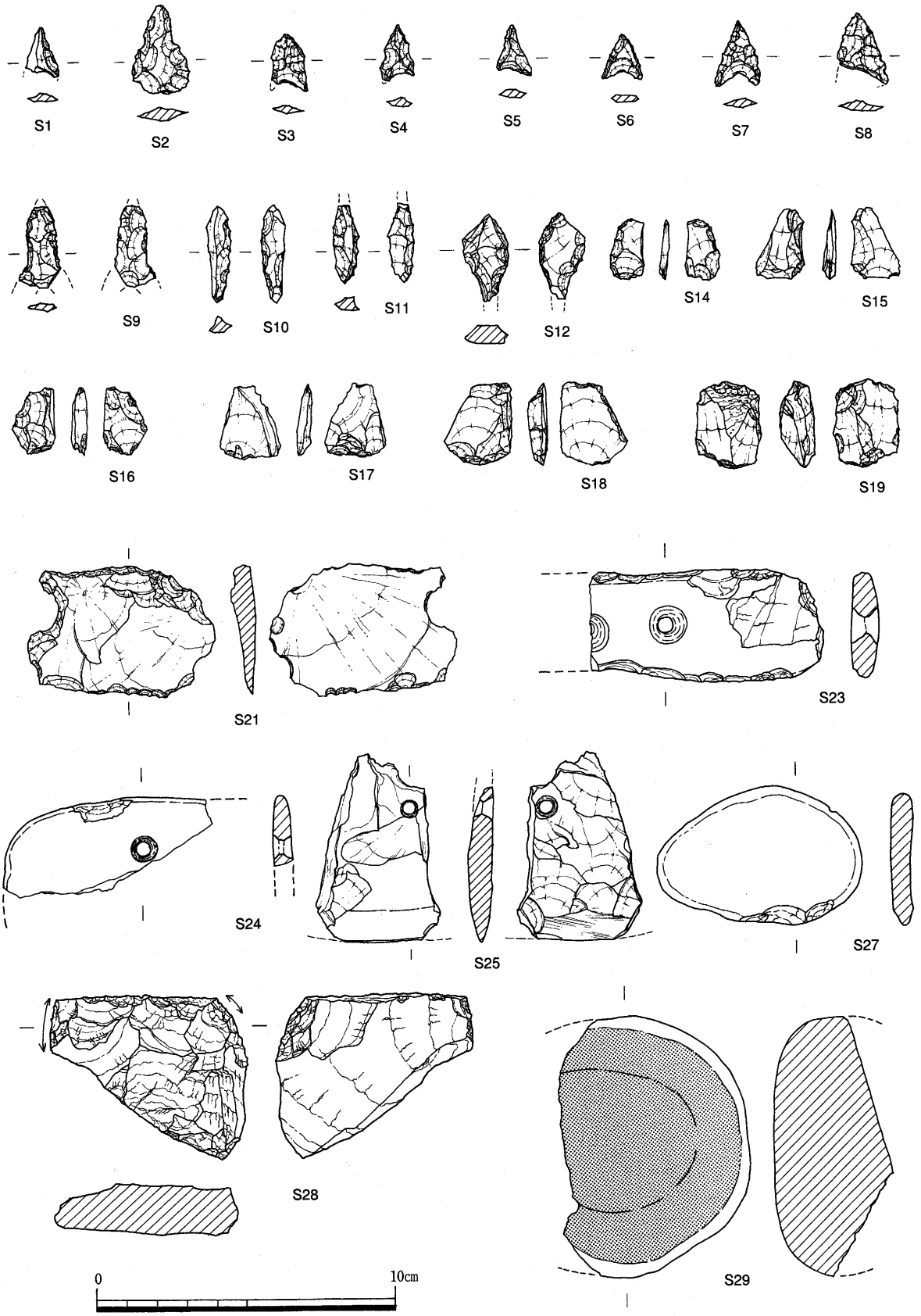


第46図　環濠上層出土土器（30）（S＝1/4）

これら弥生時代後期の土器は細かい精製された胎土が用いられ、なかには石英、長石などに加えて角閃石を含むものも多い。**594**は須恵器の杯である。

以上、環濠出土土器について具体的に述べてきた。下層と上層出土土器の傾向を器形、文様、施文具、胎土などに着目して観察したところ、下層から上層への漸移的傾向がみうけられた。当遺跡出土の土器の約6割は環濠から出土しており、とくに主体を占める弥生時代前期後半から中期初頭の土器の様相は環濠から検出されたものが遺跡全体の出土土器の様相を包括する。

註（1）草原孝典・神谷正義編『百間川沢田（市道）遺跡発掘調査報告』岡山市教育委員会　1992年



第47図　環濠下層出土石器（S=1/2）

環濠下層出土石器

石鏃９点、石錐３点、楔形石器７点、石匙１点、石庖丁４点、スクレイパー１点、ハンマー１点、石斧2点、磨石１点が出土した（第47図）。

S1～S９は打製石鏃で、サヌカイト製である。**S２**は未製品と思われる。

S10～S12は石錐で、**S11**は基部を、**S12**は錐部を欠損する。**S10**は棒状を呈し、**S12**は錐部を欠くもののつまみを有するタイプである。また、すべてサヌカイト製である。

S13～S19はサヌカイト製の楔形石器である。**S18**は主面に自然面をわずかに残す。

S20は完形の石匙でサヌカイト製である。上部につまみを丁寧につくりだし、長さ4.3cm、幅6.3cm、厚み0.7cm、重量19.8ｇを呈する。

S21～S23は頁岩製磨製石庖丁で、**S22・S23**は黒色頁岩を使用している。**S23**は刃部を入念に研ぎ出すが、体部成形時の剥離痕を残している。

S25は黒色頁岩を利用した穂摘具である。扁平な原石の一側縁を打ち掻いて刃部をつくりだしている。長さ4.6cm、幅6.9cm、厚さ0.8cm、重量41.0ｇ。

S26はサヌカイト製のハンマーである。握りやすいよう全体的に剥離を施し、形を整えている。両側縁の一部に使用の際についたと思われる敲打痕が残っている。長さ4.6cm、幅7.7cm、厚み2.0cm、重量83.2ｇ。

S27はハンレイ岩製磨石である。網掛けトーン部分が磨っている箇所で、よくなれている。長さ8.3cm、幅5,5cm、厚さ5.1cm、残存重量314.1ｇである。

以上のほか、泥質片岩製、ヒン岩製の磨製石斧の破片が出土したが、図化にたえなかった。また、サヌカイトの使用痕剥片が27点出土し、サヌカイトの剥片が122点、重量にして178.8ｇ出土した。

環濠上層出土石器・土製品

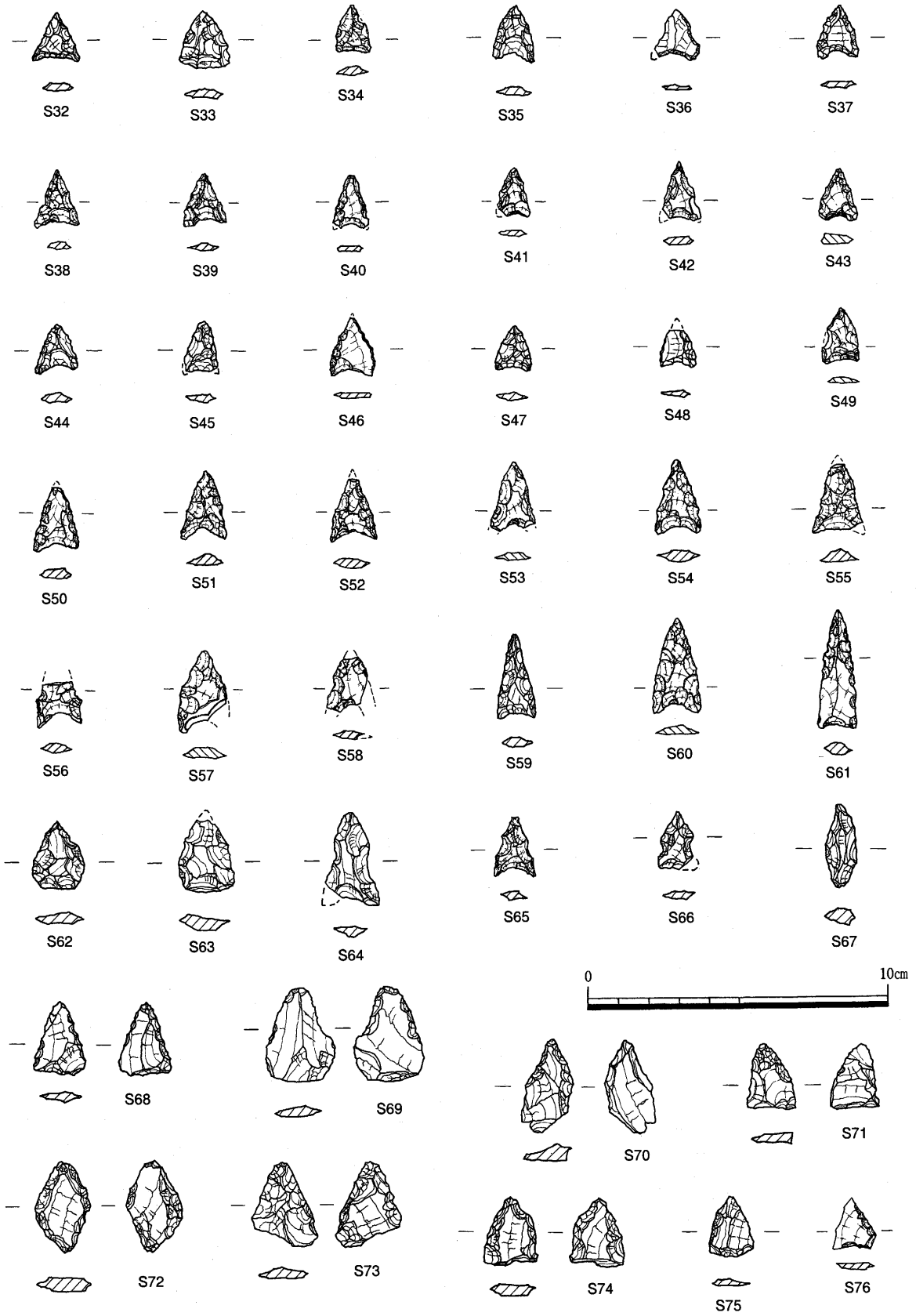
石鏃67点、石錐24点、楔形石器34点、石剣１点、ハンマー３点、残核２点、石鎌２点、石匙９点、スクレイパー43点、磨製石庖丁24点、磨製石斧11点、打製石斧１点、石斧未製品１点、敲石４点、石皿４点、砥石２点、管玉未製品１点、石製紡錘車１点、土製紡錘車１点が出土した（第48図～第53図）。

S30～S76は打製石鏃である。すべてサヌカイト製で、製品と未製品が存在する。さらに製品を県の分類に従い、形態からⅠ～Ⅵ類に分けたところ、Ⅱ類が最も多く出土し、つづいてⅤ類となる。また、未製品も一定量存在することから、当遺跡では石器製作がおこなわれていたと考えられよう。

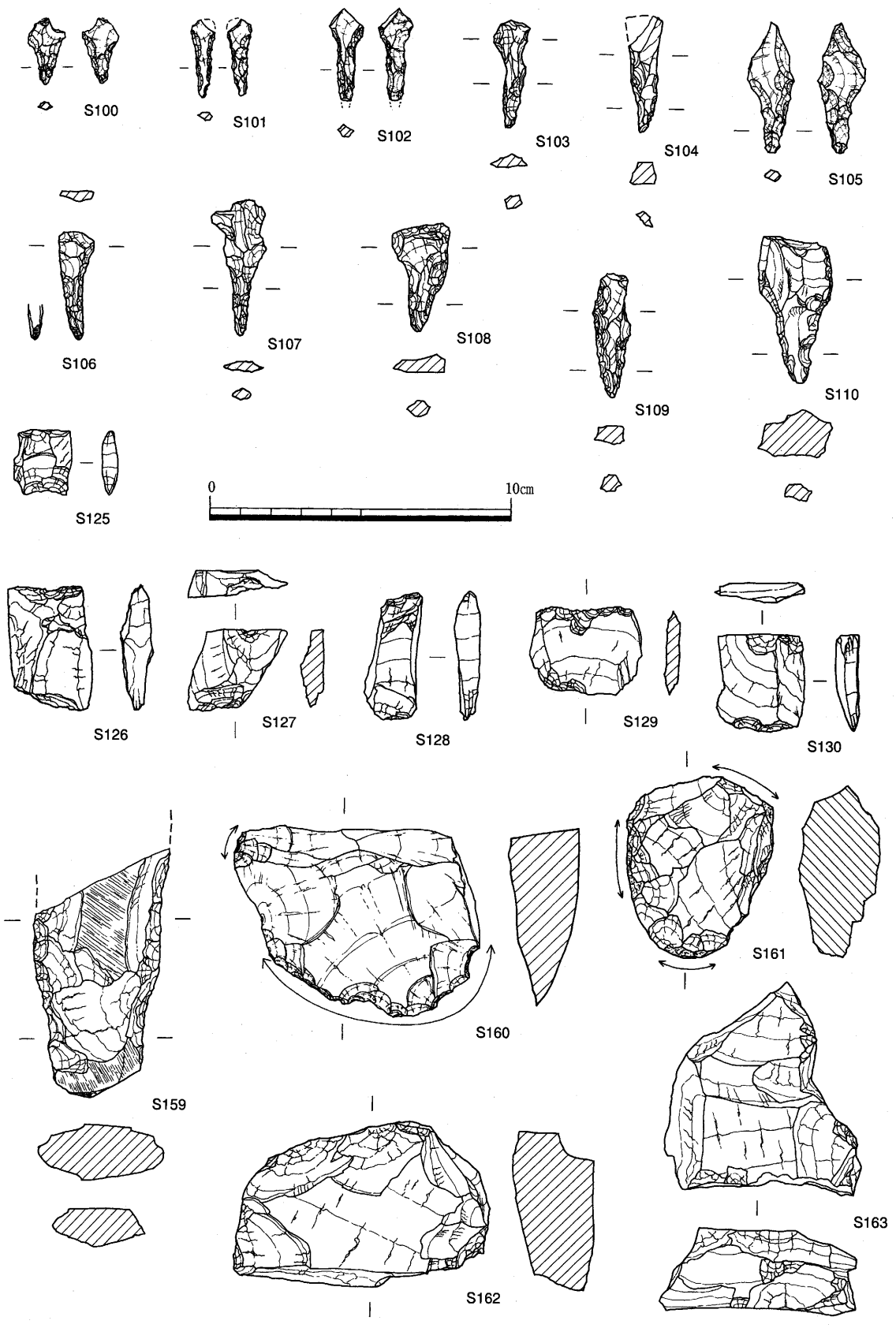
S100～S110は石錐である。石材はサヌカイトを使用し、**S100**のように小形のものから、**S109**のように棒状を呈するもの、**S110**のように角錐状を呈するものなど形態は多様である。**S106**は先端が使用により摩滅し、滑らかである。

S125～S130はサヌカイト製の楔形石器である。**S125**、**S126**、**S128**などは上下につぶれを生じ、両側縁がはつれた、典型的な楔形石器である。**S130**は平坦な面を有し、その平坦面に相対する一辺に刃部状の剥離がみうけられる。

S159は石剣である。石材はホルンフェルスを使用し、剥離整形した後、入念に磨かれる。剥離痕が残存していることから、未製品と考えられる。現存する最大長8.4cm、最大幅4.5cm、最大厚2.1cm、重量88.2ｇ。



第48図　環濠上層出土石器（１）（S=1/2）



第49図　環濠上層出土石器（２）（S＝1/2）

S160～S162はハンマーである。**S160**はサヌカイト製で、長さ5.4cm、幅6.0cm、厚さ2.6cm、重量91.0ｇを呈する。**S162**はサヌカイト製で長さ5.5cm、幅8.7cm、厚さ2.8cm、重量194.3ｇ。**S161**はチャート製で長さ6.3cm、幅7.1cm、厚さ2.5cm、重量146.5ｇである。

S163はサヌカイトの石核である。あらゆる方向から、大きな剥離が施されており、剥片を採った残核の可能性が高い。長さ7.5cm、幅5.6cm、厚さ2.5cm、重量142.3ｇを呈する。

S164・S165は石鎌である。両者ともサヌカイトを石材とし、刃部を細かい剥離で整形する。また、**S165**はほぼ完形で、使用により剥離面が摩滅している箇所もみとめられる。

S166～S172は石匙で、石材はサヌカイトである。**S166**は完形で、刃部とつまみを剥離で整形する。表面は使用による摩滅が著しく、非常に滑らかである。**S167**、**S168**は石器の中心につまみをもつのに対して、**S169**、**S170**は、側縁がわにつまみを有する。

S175～S179はスクレイパーである。すべてサヌカイトを石材とする。**S177**は剥離面と自然面をもつ剥片を利用し、刃部調整を両面からおこなっている。**S179**も大きい剥片の一側縁を刃部として加工したものである。**S175**、**S176**は基部状のものを整形し、両面から刃部調整を施す。

S218～S227は磨製石庖丁である。**S218**は頁岩製で、残存する長さ4.8cm、幅4.8cm、厚さ0.6cm、重量23.0ｇである。**S219**は黒色頁岩製で、穿孔する際に数回にわたって、孔の位置を変更している。S215は砂岩あるいは砂質片岩製の石庖丁で、両面から穿孔する。**S221**は砂岩あるいは砂質片岩製の完形資料で、長さ5.2cm、幅15.0cm、厚さ1.0cm、重量99.7ｇを呈す。**S222**は砂質片岩製で、約3分の一が残存する。**S223**も完形資料で黒色頁岩製である。**S224**は黒色頁岩製で、ほぼ完形である。長さ6.1cm、幅13.4cm、厚さ0.7cm、重量105.2ｇ。**S225**は砂岩あるいは砂質片岩製で、剥離痕が残存するため未製品と考えられる。長さ5.8cm、幅8.2cm、厚さ1.2cm、重量69 .0ｇ。**S226**は頁岩製の石庖丁未製品である。敲打による穿孔途中で、破損したため、廃棄されたものか。残存する長さ5.8cm、幅9.5cm、厚さ0.9cm、重量65.0ｇ。**S227**は砂岩製の磨製石庖丁の未製品と考えられる。網掛けの部分には入念な研磨が施されている。

S243～S248は磨製石斧である。**S243**は泥質片岩製の抉入柱状片刃石斧で、**S244**は泥質片岩製の柱状片刃石斧である。**S245**、**S246**は流紋岩製の太形蛤刃石斧である。**S247**は頁岩製の小形扁平片刃石斧と思われる。**S248**は斑岩製の磨製石斧で、形態から縄文時代の様相を呈したものと考えられる。

S256～S258は敲石、磨石などである。**S256**はハンレイ岩製の敲石で、側縁および中央部を使用している。**S257**は花崗岩質砂岩の敲石である。側縁全体を使用している。**S258**は当初磨石として使用していたものを敲石として転用した資料である。

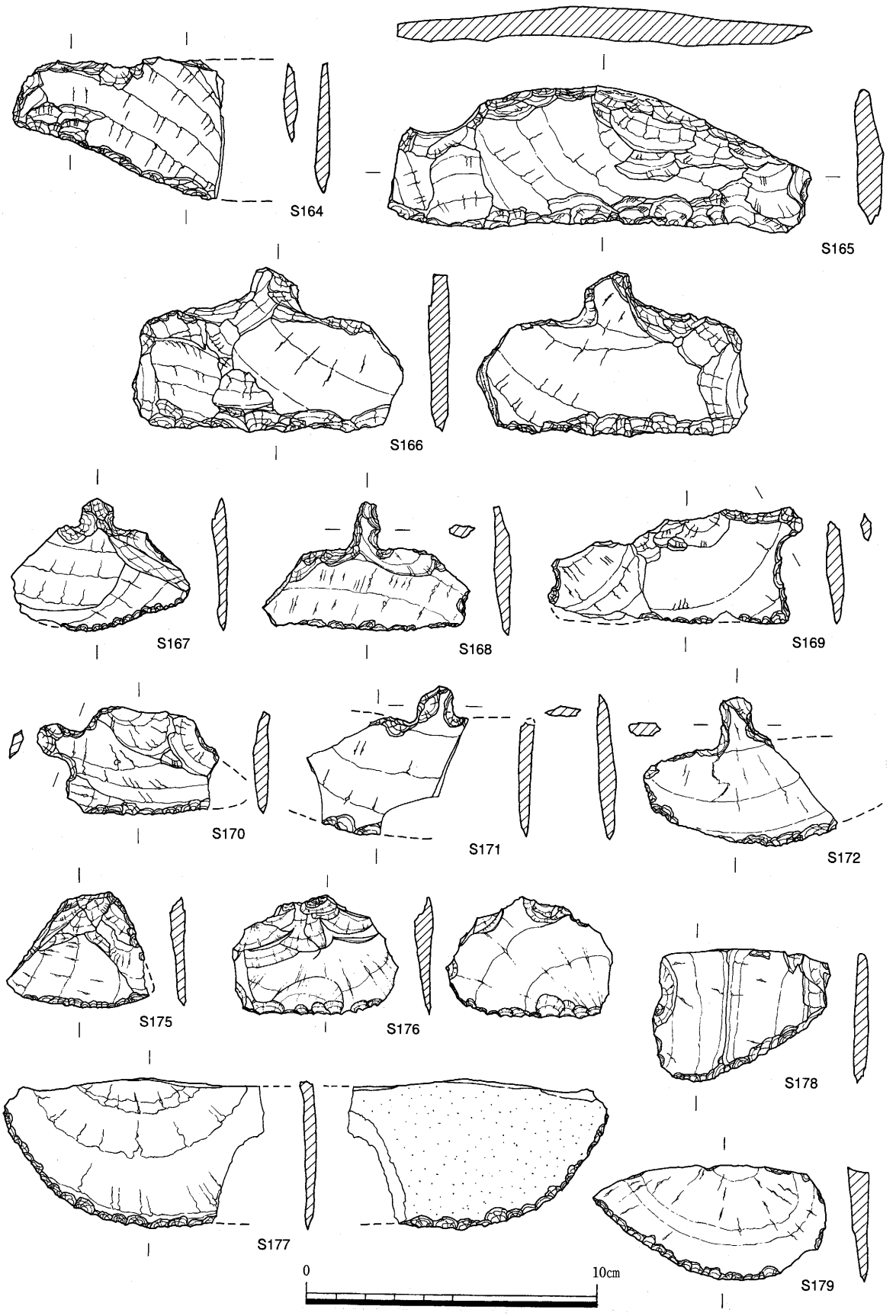
S260は半花崗岩製の砥石で、残存している面はすべて使用により摩滅しており、残存する最大長10.8cm、幅9.6cm、厚さ4.2cm、重量468.8ｇである。**S263**は花崗岩製の石皿で、使用により、上面と側面がなれている。長さ8.8cm、幅10.8cm、厚さ3.8cm、重量712.0ｇ

S266は管玉の未製品である。緑色凝灰岩の剥片で、主面を入念に研磨する。

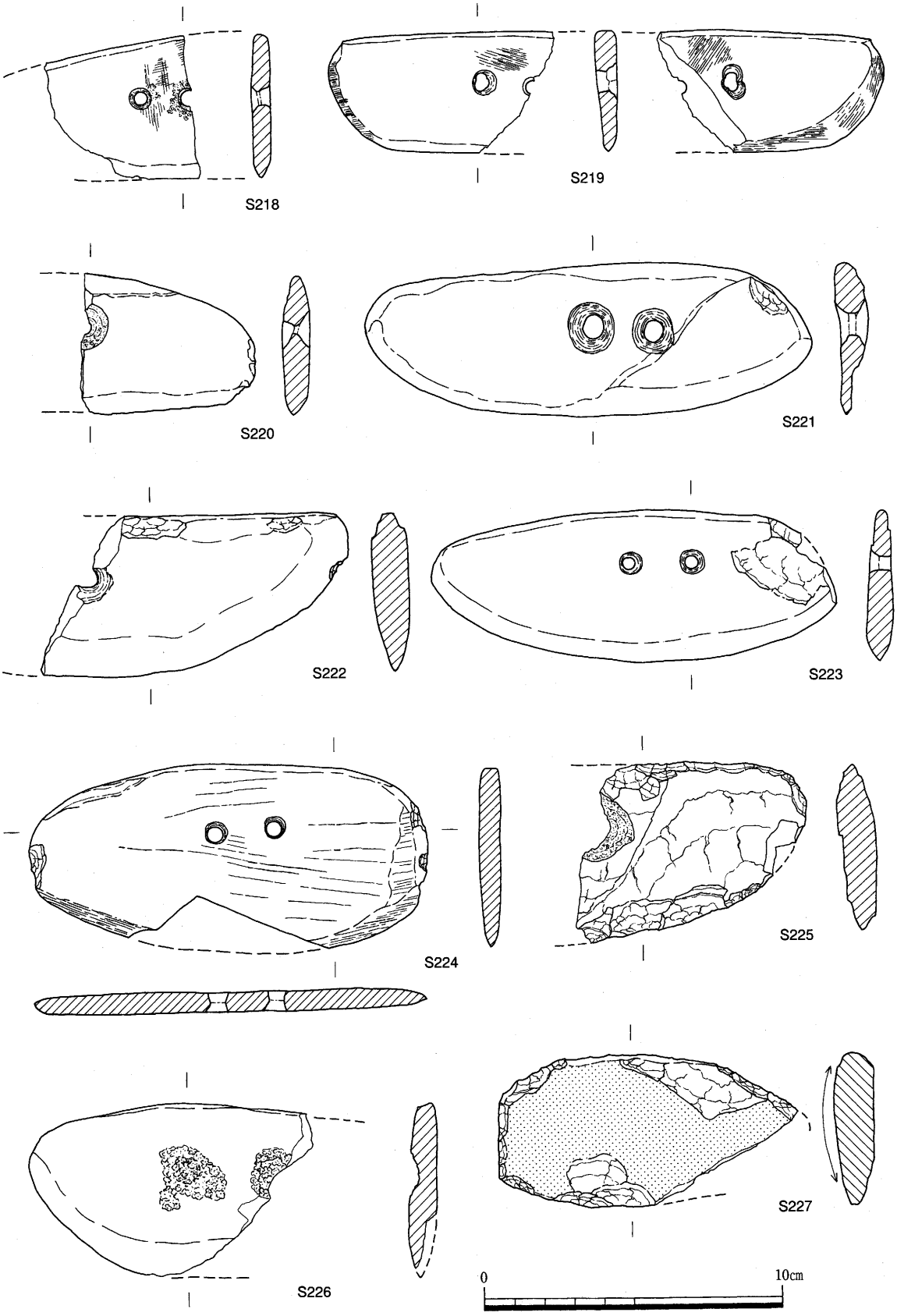
S267は礫岩製の紡錘車で、両面から穿孔される。最大径4.0cm、厚さ0.9cm、重量16.8ｇを呈す。

この他、使用痕剥片80点、剥片1640点が出土した。これらはすべてサヌカイトで、剥片の総重量は3252.9ｇである。

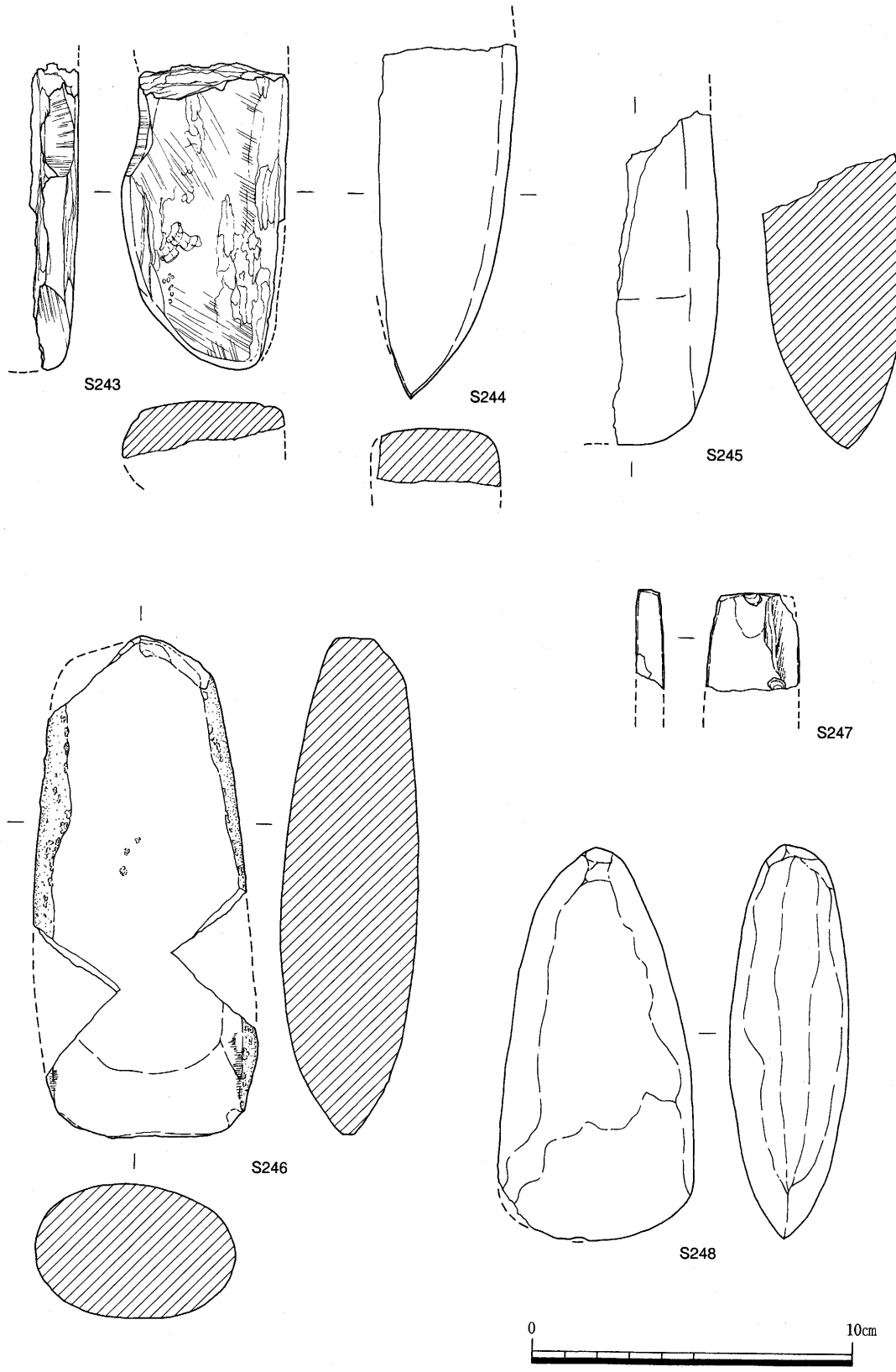
C１は土製紡錘車である。最大径4.7cm、厚み1.3cm、重量30.3ｇを呈す。



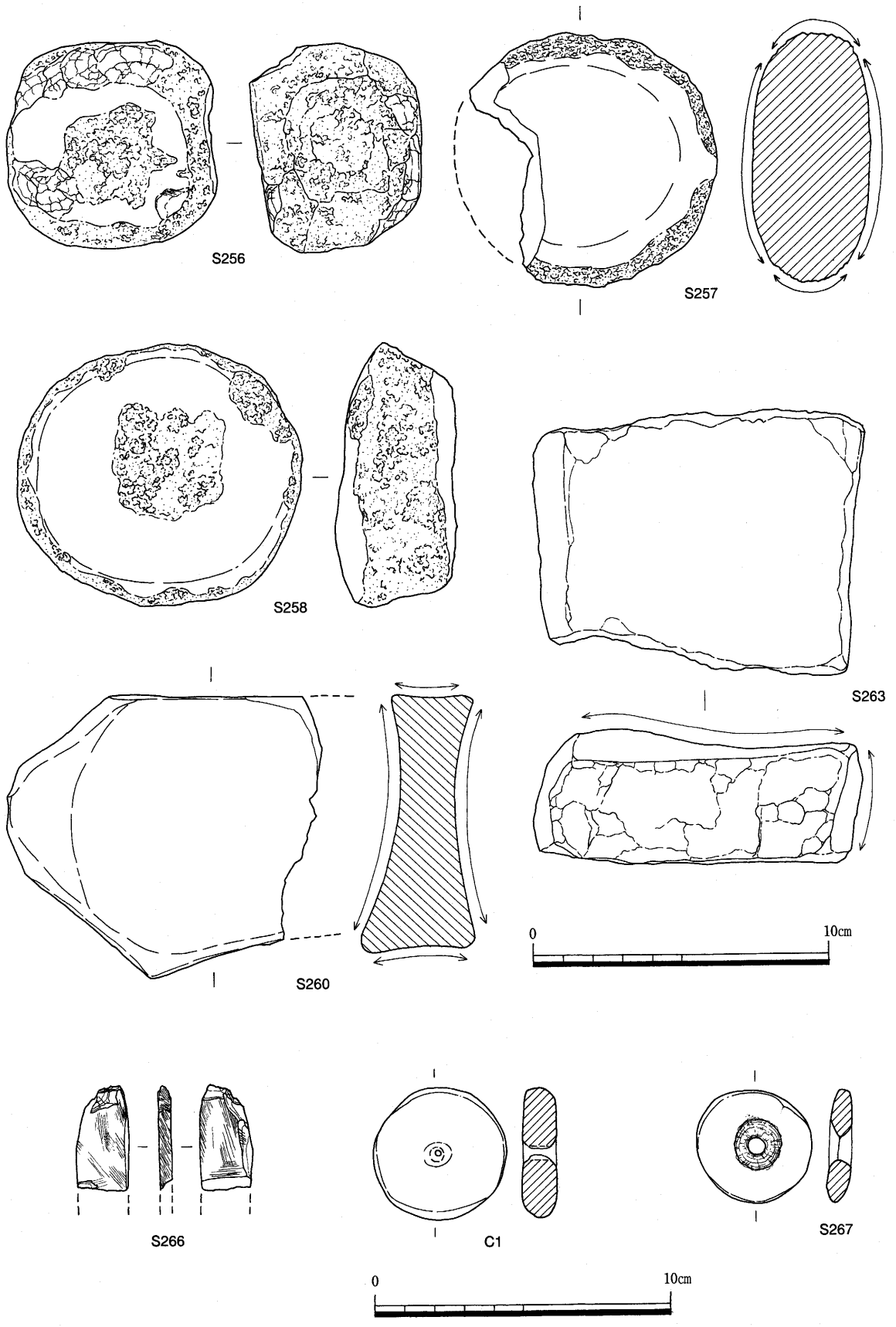
第50図　環濠上層出土石器（３）（S＝1/2）



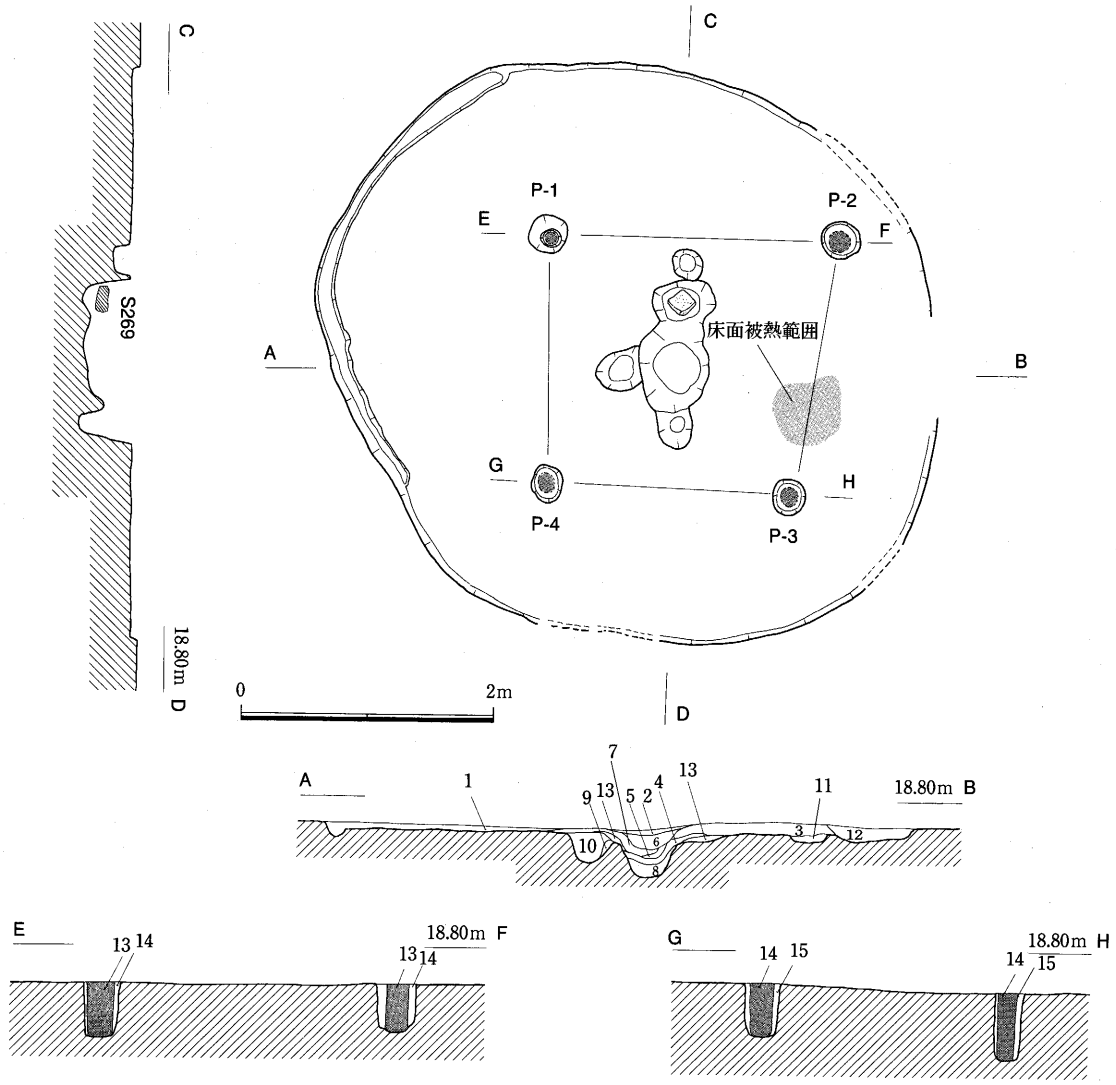
第51図　環濠上層出土石器（４）（S＝1/2）



第52図　環濠上層出土石器（５）（S=1/2）



第53図　環濠上層出土石器（６）（S＝1/2）



1．灰褐色土
2．暗灰褐色土（焼土少量含む）
3．暗灰褐色土
4．粘質の黒灰褐色土（炭多量に含む）
5．粘質の黒灰色土（焼土多量に含む）
6．粘質の暗灰褐色土（焼土多量に含む）
7．粘質の黒褐色土（炭少量含む）
8．粘質の黒灰色土（焼土、黄色土ブロック少量含む）
9．地山土（黄色土ブロック）
10．粘質の灰褐色土
11．暗黄灰褐色土
12．暗灰褐色土（溝覆土）
13．黄色土ブロック混りの灰褐色土
14．暗黄灰色土（柱痕跡）
15．暗黄灰褐色土（柱穴埋土）

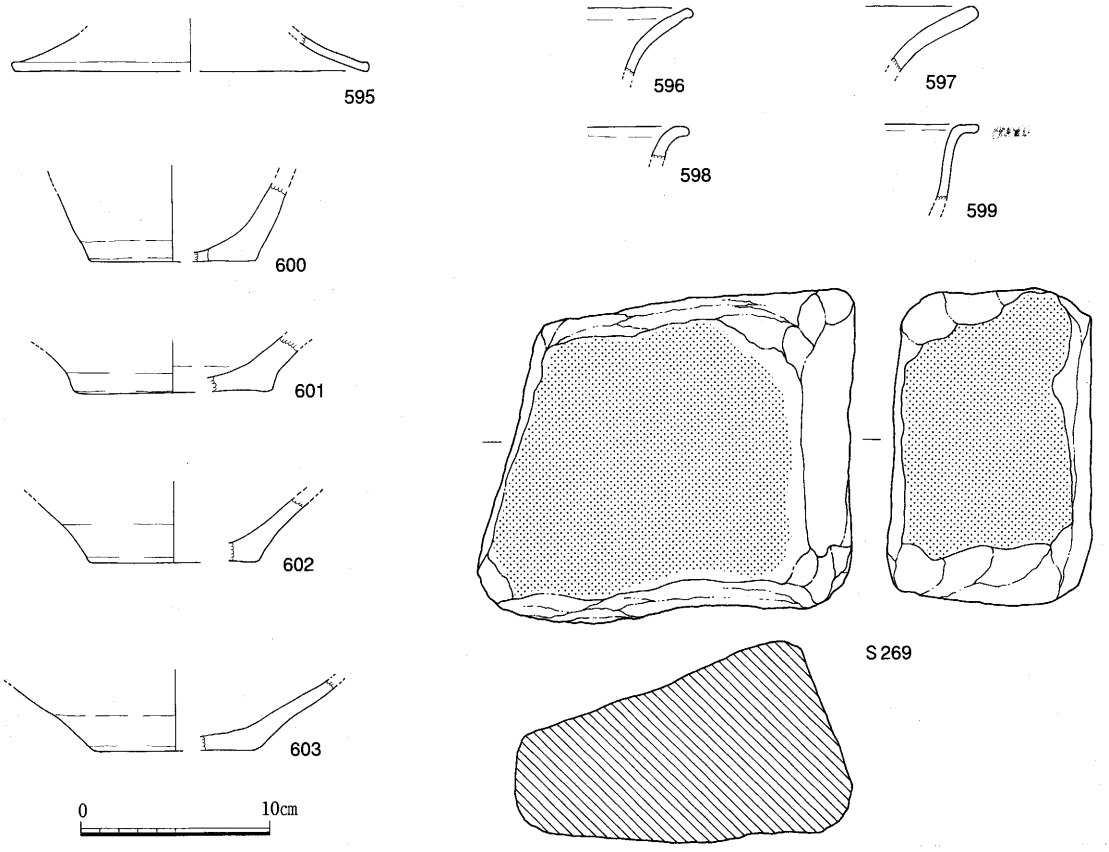
第54図　SH01平・断面図（S＝1/60）

（3）竪穴住居

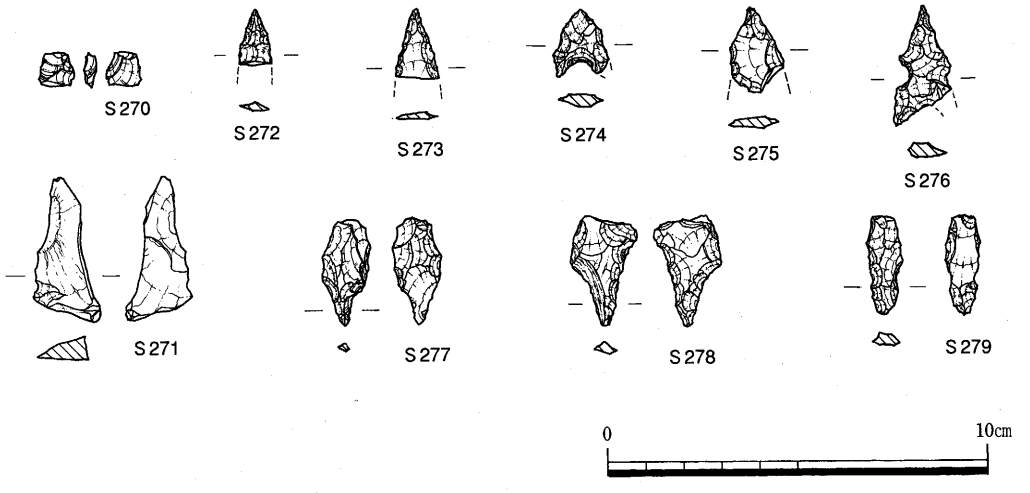
今回の調査では、結果的に環濠の内側の約半分を調査し、6軒の竪穴住居を検出したが、いずれも中世段階の削平が激しく、総じて遺構の残存状況は良好ではない。

このため遺存する住居址壁高も10cm程度以下で、壁体溝で辛うじて住居の輪郭をとらえることが可能になった住居や、中央穴の存在で住居と判別したものもある。

また、遺存する住居の覆土が薄いこともあり、重複する土壙・柱穴等の他の遺構との切り合い関係が明瞭ではなく、遺構間の先後関係を確実に検証できない場合も多かった。



第55図　SH01出土遺物（S＝1/4）



第56図　SH01出土遺物（S＝1/2）

1）ＳＨ０１（第54図）

ＳＨ０１は環濠内の南端近くに位置し、最寄りのＳＨ０２とは約15ｍの距離があり、土壙状の東西方向の浅い溝に北半を切られている。

平面形態は東西450㎝、南北480㎝の歪な円形を呈し、遺存状況が良好な部分でも検出面からの床面の深さは約10㎝程度で、床面海抜高は18.55ｍ、面積は18.08㎡である。

遺存する壁体はほぼ垂直で、深さ７㎝～５㎝、幅20㎝弱の壁体溝が南辺に巡らされている。

主柱穴とみられる４本の柱穴は、住居中央からやや北寄りに位置する中央穴を囲むように掘られており、その柱間距離は200～230㎝を測る。主柱穴の深さは38～52㎝とややばらつきがあり、住居の規模に較べてやや浅い印象を受けるが、いずれの柱穴断面も径20㎝程度の柱痕が明瞭に観察できる。中央穴は東西長60㎝程度の楕円形を呈し、長軸両端にピットが付く。このように中央穴を挟んでピットが掘られているのは、今回、調査した６軒の住居址には主柱穴の有無に係わらず共通した形態である。その中で長軸方向の土層観察が可能なものを看取すれば、いずれも土壙の壁面と周辺に被熱痕跡は認められず、炭や焼土を人為的に埋め戻した後に柱穴を掘り込んだ状態がみられる。

本住居址の中央穴の埋土も他の住居と同様に炭・焼土を多く含み、地山の黄色土ブロックも含むことから、人為的に埋め戻されたと考えるのが妥当であろう。

ただ、最上層の焼土は炭層との間に焼土を含まない間層を挟むため、床面上の流入土を貼り床と見なした場合は、掘り直し後の再堆積とみることもできる。

中央穴両端のピットの内、西側には作業台とみられる**S264**が埋められており、住居の廃棄にあたり埋められた、もしくは礎板石として転用された可能性が考えられる。ただ、いずれにしても両端のピットは棟持柱となる規模ではなく、その性格については不明である。

床面には地山土を用いた貼り床は認められず、流入土を除去した段階で主柱穴と、火所とみられる径50cm程度の弱い被熱面を確認した。

本住居址から出土した遺物（第55図、第56図）の内、土器はいずれも小片で、**595**は甕の蓋、**596**～**597**は壺、**598**～**599**は甕である。作業台とみられるS-264は偏平な両面と端面が磨滅している。

石器は主として床面上から出土しており、**Ｓ270**は玉髄片、**Ｓ272**～**Ｓ279**はサヌカイトの石鏃・石錐、**Ｓ271**は未完品で、他に剥片が150ｇ出土していることから、石器工房の可能性も考えられる。

2）ＳＨ０２（第57図）

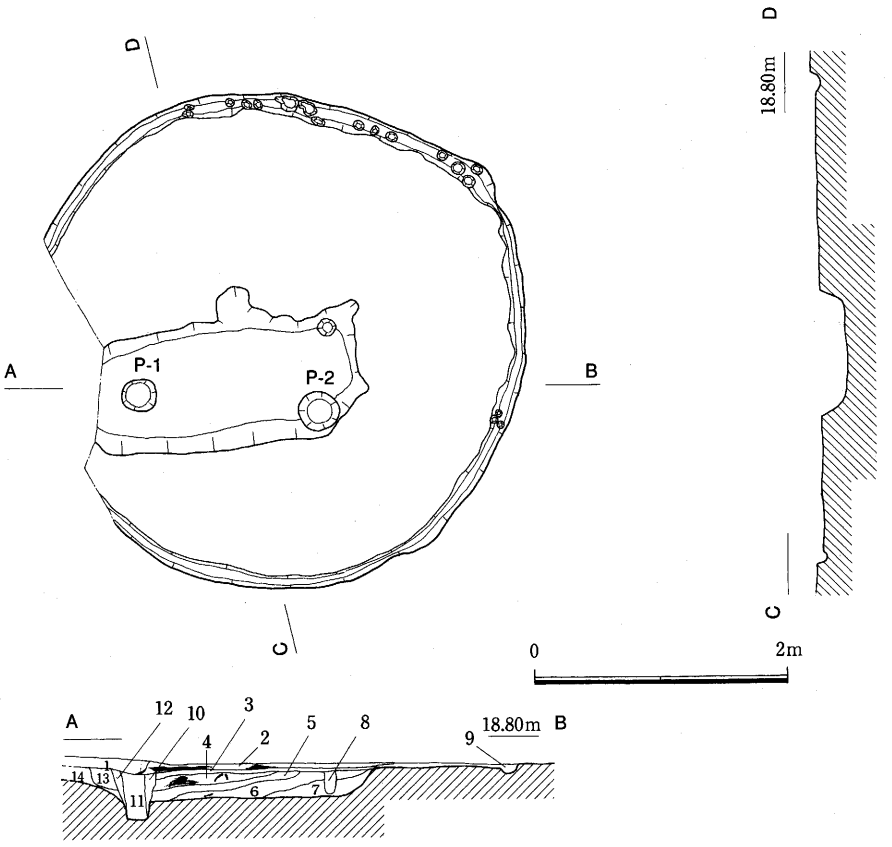
本住居址は調査区の中程東端に位置し、環濠の内部ではやや南寄りの中央部に相当するが、一部が調査区外の畦道下のため調査不可能であった。

平面形態は径４ｍの比較的整った円形を呈しているが、遺存状態は他の住居址と同様に後世の削平が激しいため良好ではなく、残存する覆土は厚さ５～20㎝程度しかない。調査区外の部分も含めて推定される床面積は約10㎡、床面の海抜はＳＨ０１と同じ18.55ｍである。

壁体には幅10～15㎝、深さ５㎝程度の壁体溝が巡らされており、杭穴とみられる浅い小穴が確認できた部分もある。

住居の中央には、やや東寄りに長軸が推定で約220㎝、幅105㎝の隅丸長方形を呈する土壙が掘られている。この土壙の長軸方向の土層断面を観察すると、炭・焼土・土器片・地山のブロックを多く含む土で埋め戻した後に柱穴を掘り込み、地山のブロック土で貼り床を施した状態が看取された。

本住居の中央穴は炭・焼土混じりの土で埋め戻す点は他の住居と同様であるが、中央穴の掘形の規



1．淡黄灰褐色土
2．黒灰褐色土（炭・焼土粒多量に含む）
3．よくしまった黄灰褐色土（黄色土ブロック多量に含む）貼り床
4．暗灰褐色土（土器片・炭・焼土粒含む）
5．暗黄灰色土（炭・黄色土ブロック多量に含む）
6．黒灰褐色土（土器片含む）
7．暗黄灰褐色土（炭少量含む）
8．淡灰色土（土器片・炭少量含む）
9．暗黄灰色土
10．暗黄灰色土
11．細い暗黄灰褐色土（黄色土ブロック少量含む）
12．10と同じ　11～12は柱穴
13．淡黄灰色土（黄色土ブロック少量含む）
14．黄色土（地山土）ブロック

第57図　SH02平・断面図（S＝1/60）

模・形態と入念な貼り床を施す点は特異であり、被熱面は確認されないが貼り床上に多量の炭が遺存することと併せて、中央穴の用途と性格を考える上で興味深い事例といえる。

中央穴の土壙に堀り込まれた二本の柱穴の床面からの深さは、土壙の底面より若干深い35cmを測る。この深さと規模では到底主柱穴として機能したとは考えられないが、住居の構造と二本の柱穴の関係については、現時点では不明と言わざるを得ない。

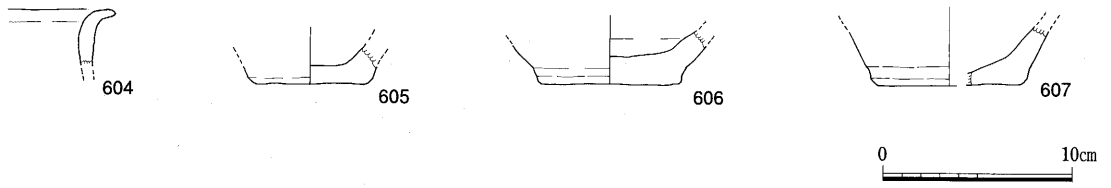
本住居に伴う遺物（第58図、第59図）は、主として中央穴の埋土からの出土であるが、土器は小片が多く、**604**の甕、**605～607**の壺が辛うじて図化し得たのみである。

石器は**S281～S283**の石鏃と、石器製作途中の考えられる接合可能な剥片（**S284～S285**）が出土したが、小剥片がすくなく、本住居が製作工房であったことを積極的に肯定できる状況ではない。

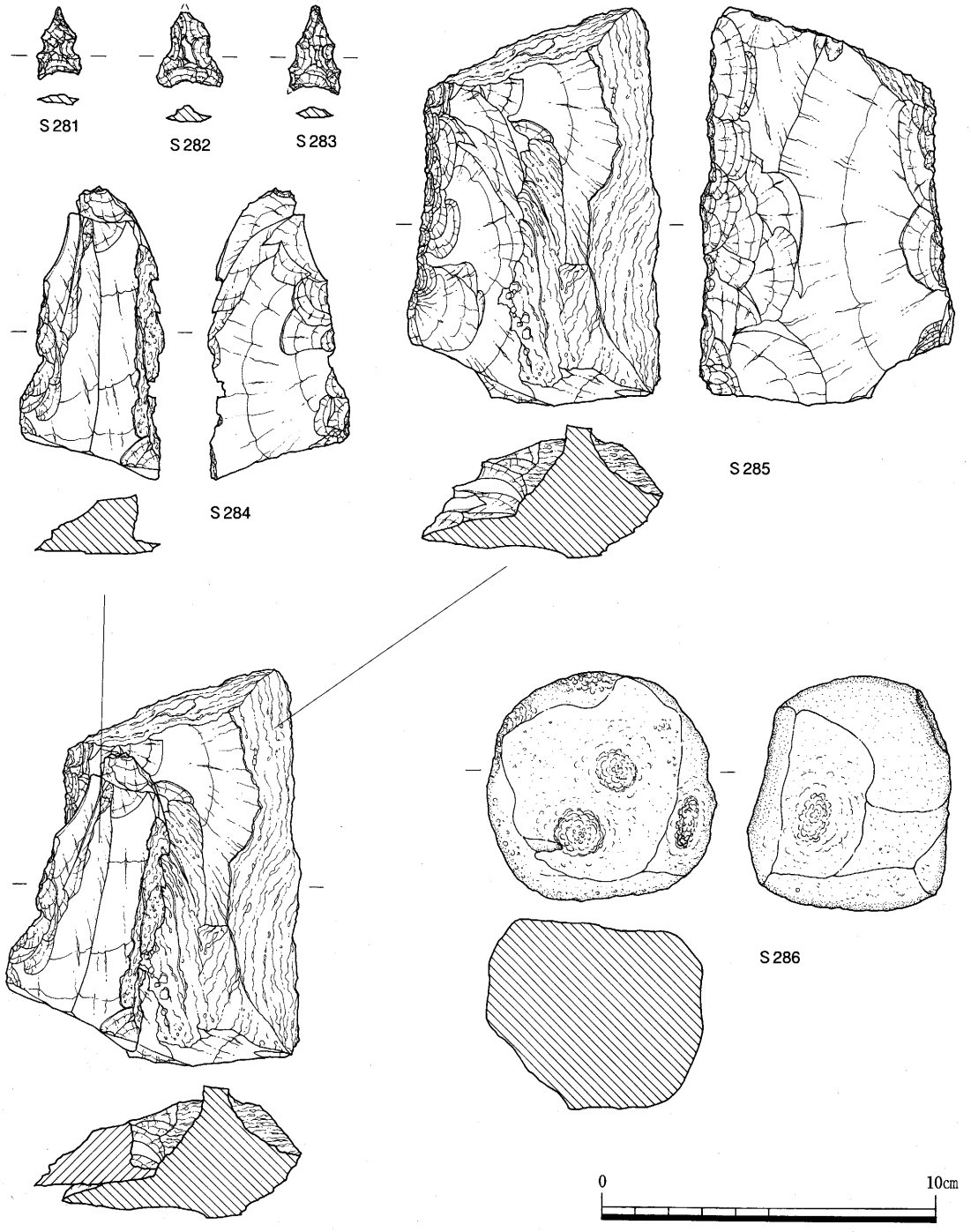
この点は可能性としては考えられるが、中央穴の埋め戻し時に周辺から混入した可能性が高い。

以上が本住居から出土した遺物であるが、いずれも住居が機能した時点に確実に伴うものではなく、住居群の時期的な先後関係にまで言及できるものではない。

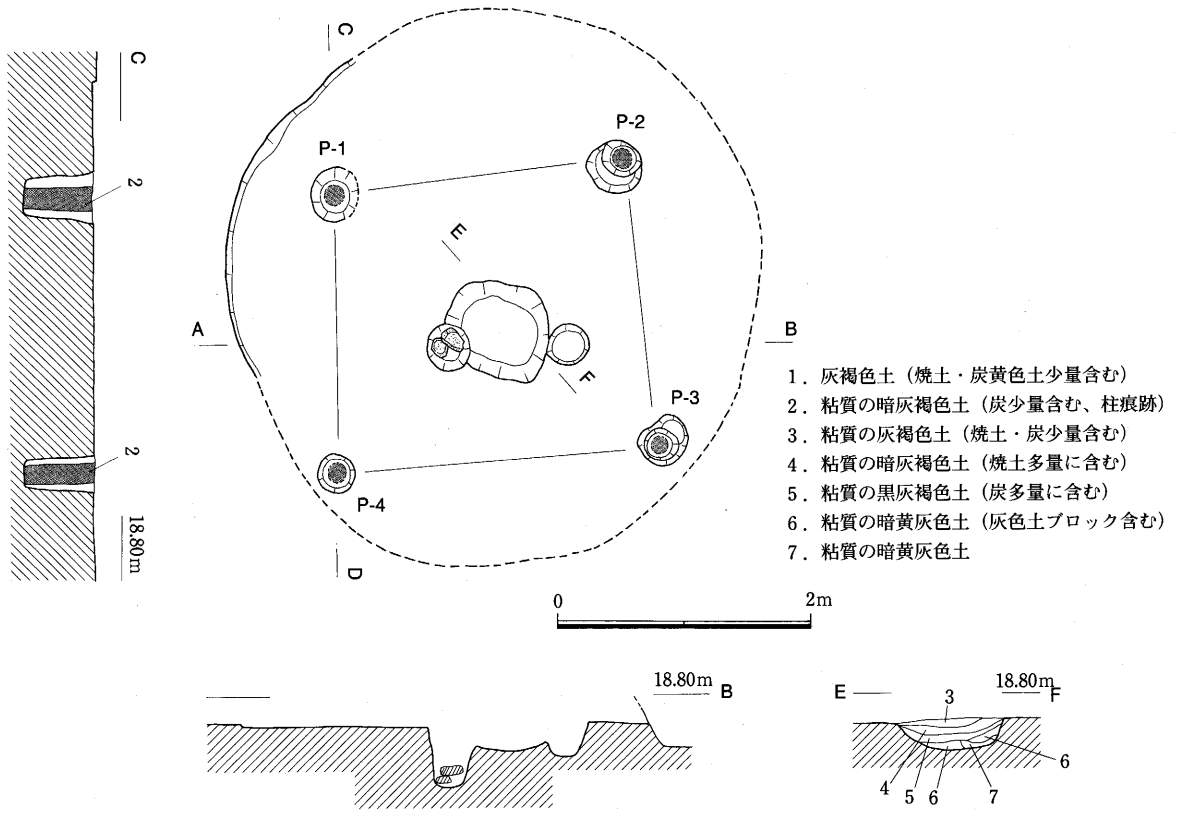
これらの点については環濠内の遺構全体の中で他の遺構も含めて考えたい。



第58図　SH02出土遺物（S＝1/4）



第59図　SH02出土遺物（S＝1/2）



第60図　SH03平・断面図（S＝1/60）

３）ＳＨ０３（第60図）

本住居址は調査区の中程東寄りでＳＨ０２に近接しており、環濠の内部ではほぼ中央部に位置し、区画溝や土壙に切られた状態で検出された。

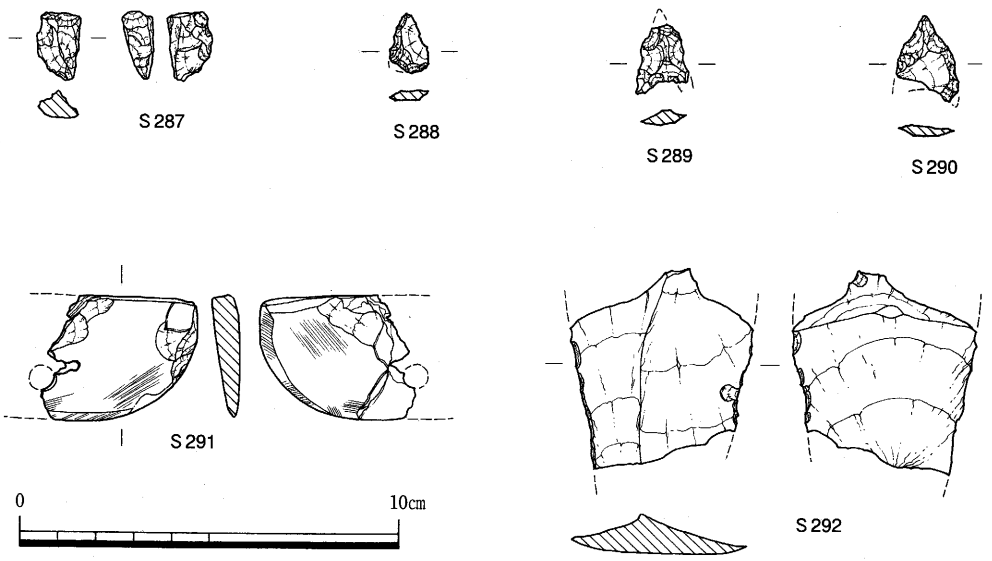
平面形態は推定で径350～370㎝の円形を呈すると考えられるが、遺存状態は他の住居址と同様に後世の削平のため良好ではない。そのため住居址の検出にあたっては一部の壁体と中央穴の存在で辛うじてその存在を確認し、輪郭については主柱穴の位置と若干の覆土の変化で見当をつけたものであり、推測の域を出ていない。本住居の推定される床面積は約14㎡、床面の海抜は18.62ｍである。

本住居に伴うとみられる４本の主柱穴は、住居中央からやや南寄りに位置する中央穴を囲むように掘られており、その柱間距離は220～260㎝を測る。４本の主柱穴の床面からの深さは55～60㎝程度で、いずれの柱穴断面でも径20㎝程度の柱痕が明瞭に視認できる。

中央穴は70×90㎝の不整形な方形を呈し、長軸両端からややずれた位置に土壙より深い柱穴が掘られているが、調査時に、この２本の柱穴と土壙の関係を確認できる土層ラインを設定できなかったため、その関係を明瞭にし得なかった。

しかしながら、土壙の埋土は他の住居と同様に炭・焼土・地山土を含む土で埋め戻されており、さらにＳＨ０１，０６と同じように柱穴内に石を埋めている点から、同様の構造であったと見做して大過ないと思われる。

床面上には貼り床は認められず、中央穴の周辺に若干の炭が散布しているが、被熱面は検出できなかったことから、火所は存在しなかったと考えられる。



第61図　SH03出土遺物（S＝1/2）

本住居に伴う遺物は、削平が激しく床面にまで及んでおり覆土も殆ど遺存していないため、全て中央穴の埋土中からの出土である。このため、直接的に本住居に関係した遺物とみるより、当初から中央穴が埋められたと仮定すれば、周辺から混入した可能性の方が高い。

出土した遺物の大半は石器の製作過程で生じた剥片で、約100ｇを採集した。**S287**は水晶のフレイク、**S288～S290**は石鏃、**S291**は石包丁、**S292**はスクレーパーの破片である。

本住居址に伴う土器は、いずれも図示し得ない小片のため正確な時期については確定できないが、住居の構造等から他の住居と同時期の所産と考えることが妥当であろう。

4）ＳＨ０４（第62図）

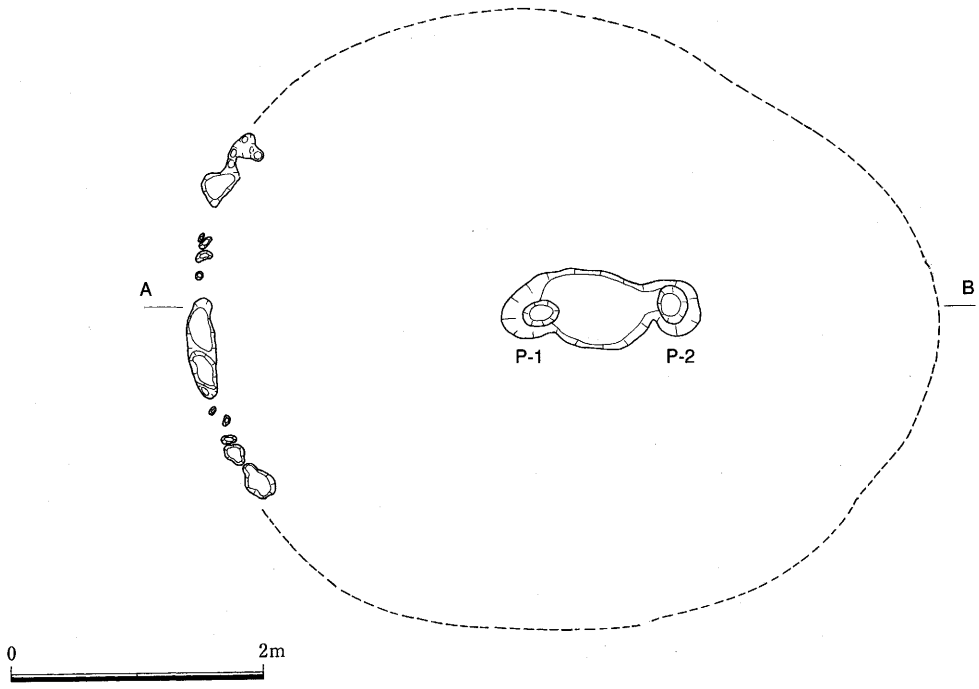
本住居址は調査区の中程に位置し、集落内では環濠から約３ｍしか離れない西端に相当し、周辺には建物や土壙が密集した状態で検出された。

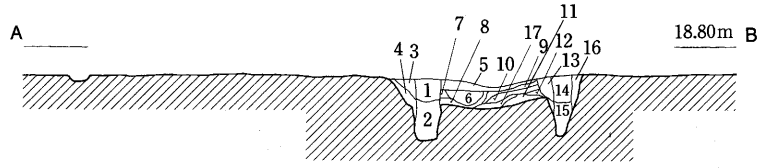
本住居址も後世の削平が激しいため、遺存状態は調査した住居址中では最も悪く、中央穴と若干の壁体溝の存在で辛うじて住居址と認識し、床面の微妙な変色で不確定ながら輪郭を推測した。

住居の平面形態は５ｍ×６ｍ程度の不整形な楕円形を呈すると推定され、床面積は約23㎡、床面の高さは削平のため不正確であるが、検出した海抜は18.58ｍである。

住居の床面上には多数の柱穴が検出されたが、中央穴との位置関係や埋土の状態からみて本住居に伴う主柱穴と断定できるものはなかった。しかしながら、深さからみると、建物とした柱穴中に該当する可能性があるものも存在する。

中央穴は60×90㎝の不整形な円形を呈し、他の住居と同様に長軸両端に柱穴が掘られており、長軸方向の土層断面では、炭・焼土・地山土混じりの土壙埋土に柱穴を掘り込んだ状態が看取された。柱穴の断面には深さ50㎝、径20㎝弱の柱痕跡が明瞭に視認でき、抜きとられた痕跡もみられず、住居の廃棄まで機能していたことは確実である。しかしながら、住居の規模を勘案すれば、この程度の柱穴だけでは強度的に貧弱であり、住居外からの補助的な柱穴か、該当の可能性を指摘した先述の柱穴を考慮に入れる必要もあろう。





1．細い暗灰褐色土
2．暗黄灰褐色土　1、2は柱痕跡
3．暗黄灰色土（黄色土ブロック多量に含む）
4．暗黄灰褐色土
5．黒灰褐色土（炭・焼土多量に含む）
6．黒灰褐色土（炭・焼土多量に含む）
7．黄色土ブロック
8．暗黄灰褐色土
9．暗灰褐色土（炭少量含む）
10．炭層
11．7と同じ
12．暗褐色土（黄色土ブロック少量含む）
13．淡黄灰褐色土（黄色土ブロック少量含む）
14．暗灰褐色土（焼土・炭少量含む）
15．暗黄灰褐色土（焼土・炭少量含む）
16．灰褐色土（黄色土ブロック少量含む）
17．粘質の暗灰色土（黄色土ブロック少量含む）

第62図　SH04平・断面図（S＝1/60）

住居の床面上には削平が及んでいるため、壁体溝の残存とみられる円弧状の部分的な浅い窪み以外に、炭の分布や貼り床・被熱面等は検出できなかった。

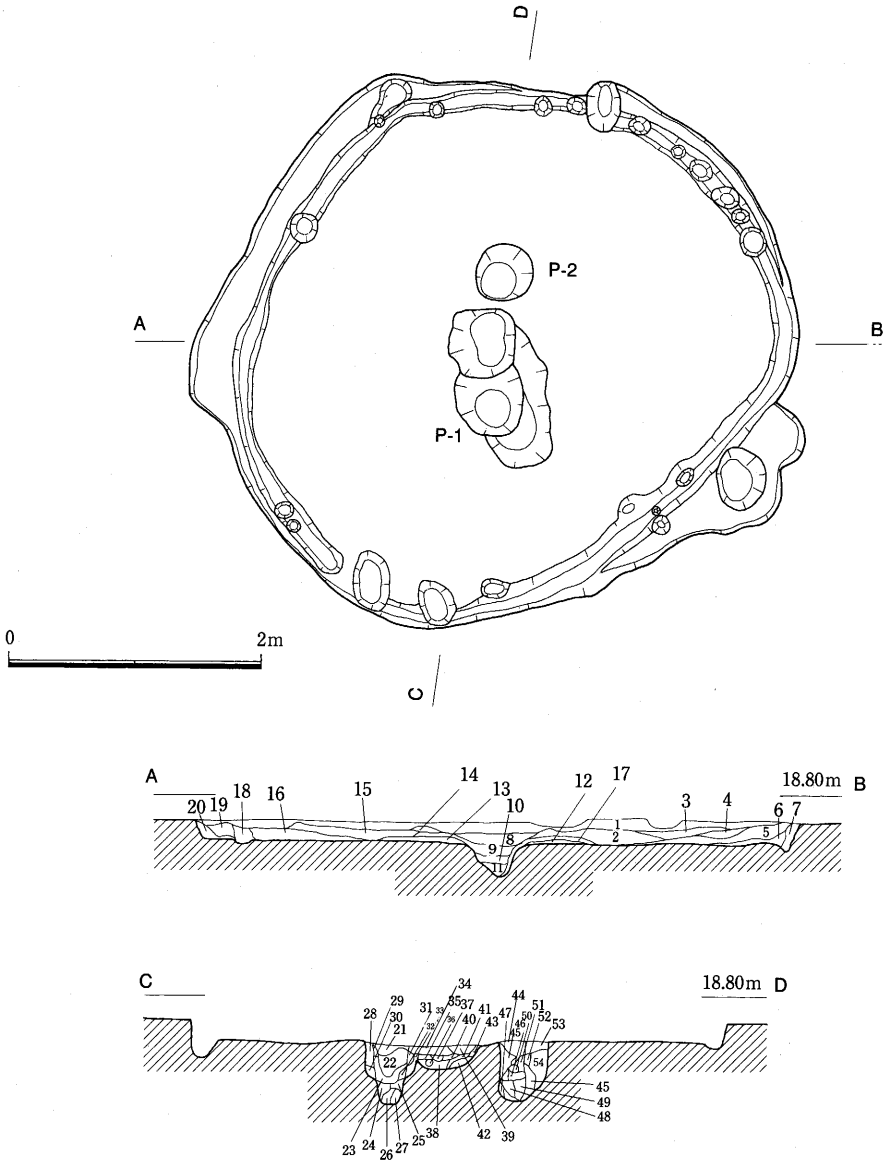
本住居址に伴う遺物は、中央穴の覆土から土器の小片が出土した以外は皆無であり、具体的な時期については言及し得ないが、他の遺構との重複関係・構造等から環濠内の住居群と同時期とみて大過ないと思われる。

5）ＳＨ０５（第63図）

本住居址は調査区の北寄りに位置し、環濠縁まで約2.5m、ＳＨ０６とは約6.5mの距離にある。

平面形態は東西430cm、南北490cm の歪な円形を呈し、床面海抜高は18.45m、床面積は13.84㎡である。　住居址の残存状況は比較的良好で、壁体は崩落して不明瞭な部分もあるものの、ほぼ垂直に掘られている。また、覆土は厚さ15cm～20cmが遺存し、幅20cm弱、深さ5 ～15cmの壁体溝が全周に巡らされ、杭穴が掘られた状態も確認できた。

床面の中央には50×50cmの歪な方形を呈する中央穴が掘られており、他の住居と同様に両端に柱穴があるが、東側のＰ－２は土壙を切らずに５cm程度離れている。



1．砂質の暗黄褐色土
2．砂質の淡灰褐色土
3．淡灰色土
4．砂質の淡灰色土
5．砂質の淡灰褐色土
（黄色土ブロック含む）
6．暗黄色土
7．細い暗黄灰色土
8．灰色土
（炭・黄色土ブロック少量含む）
9．淡黄灰色土
（炭・黄色土ブロック少量含む）
10．暗灰色土
（黄色土ブロック少量含む）
11．砂質の黒灰色土
（炭・黄色土ブロック少量含む）
12．固くしまった黄色土（地山土）
ブロック（貼り床）
13．12と同じ
14．炭層
15．2と同じ
16．5と同じ
17．暗灰褐色土
（炭多量に含む）
18．暗黄褐色土
19．暗黄灰褐色土
（黄色土ブロック少量含む）
20．7と同じ
21．細い炭層
22．暗灰色土
（炭多量に含む）
23．細い黄灰色土
24．細い淡灰色土
25．黄色土ブロック
26．細い黄色土ブロック
27．25と同じ
28．26と同じ
29．26と同じ
30．26と同じ
31．暗黄灰色土
（炭少量含む）
32．灰褐色土
33．粘質の暗灰色土
34．8と同じ
35．32と同じ
36．25と同じ
37．9と同じ
38．黒灰色土
（炭多量に含む）
39．黒褐色土
40．暗灰褐色土
（炭少量含む）
41．黄灰色土
42．9と同じ
43．40と同じ
44．10と同じ
45．灰色土
（黄色土ブロック多量に含む）
46．荒い暗灰色土
47．粘質の暗黄灰色土
（炭少量含む）
48．47と同じ
49．47と同じ
50．25と同じ
51．黄灰色土
（黄色土ブロック少量含む）
52．砂質のよくしまった淡灰色土
53．よくしまった暗灰褐色土
54．よくしまった淡灰褐色土

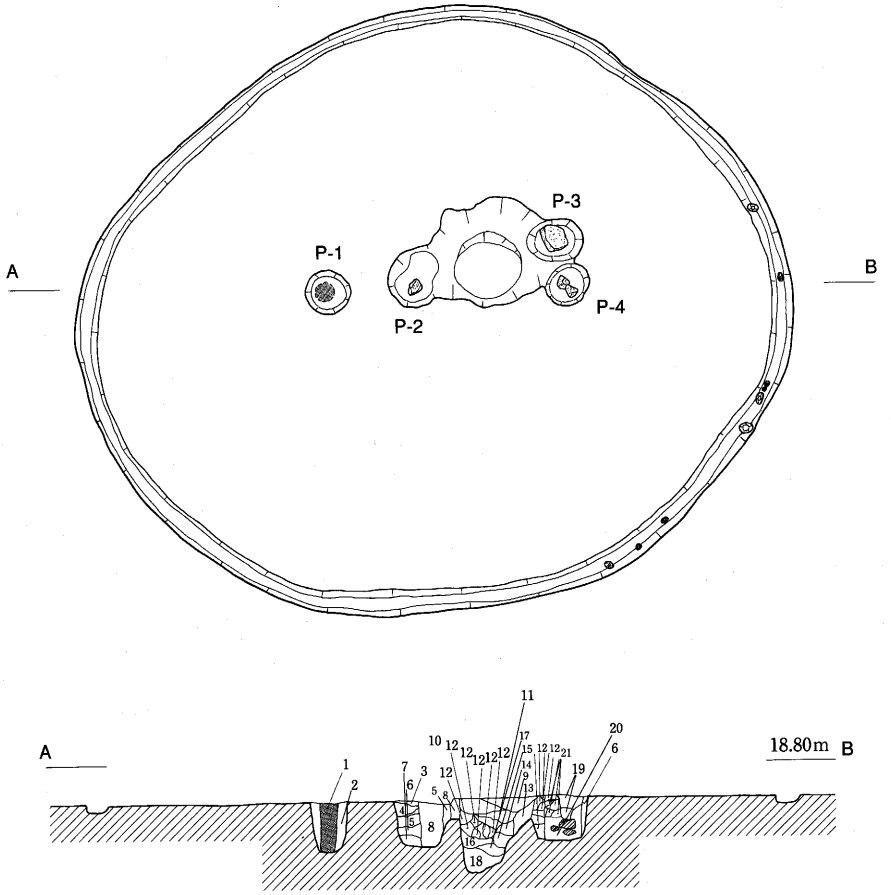
第63図　SH05平・断面図（S＝1/60）

中央穴と柱穴を通した土層断面では、中央穴の土壙を炭と地山土の黄色土ブロックを含む土で埋め戻した後に、柱穴が堀り込まれている状態が看取できる。更に、Ａ－Ｂラインの土層断面では、中央穴の周囲に地山土で若干高くした貼り床が施されており、穴の周辺に薄く堆積した炭層が流れ込んだ後に人為的に埋めたことが確認された。

このことは、床面上に被熱痕跡が認められないため、炭がどのような過程で生じたかは不明であるが、中央穴が灰穴的な用途で機能した段階があったことを示している。その後に、機能は明確ではないが中央穴は埋められて両端に柱穴が掘られたと推定でき、少なくとも２本の柱穴は住居の建築当初には存在していない可能性が考えられる。

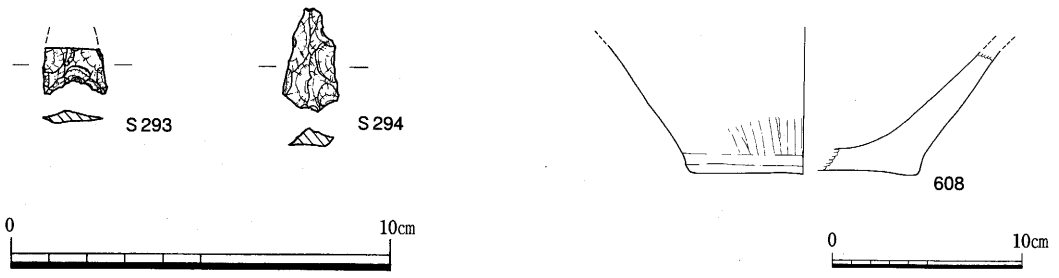
このように、中央穴周辺の炭と埋土の関係が看取できた事例は本住居址のみであるが、他の住居の中央穴と両端の柱穴の関係も同様であった可能性が高い。しかしながら、その用途と機能についてはなお不明な点が多く、類例の検討を経て再考すべき問題と考えており、今回は事実報告に留めたい。

本住居址に伴う遺物は、覆土が遺存していたにも係わらず、ほぼ皆無であり時期については明言できないが、柵列や建物に切られる点と覆土の状態から、環濠内の住居群と同時期に存在したと考えている。



1．暗灰褐色土（柱痕跡）
2．暗黄灰褐色土
3．砂質の淡灰褐色土
4．淡灰色土（黄色土ブロック多量に含む）
5．淡黄褐色土
6．黄色土ブロック
7．暗灰色土（黄色土ブロック多量に含む）
8．細い暗黄灰褐色土（柱痕跡）
9．黒灰色土（炭・焼土粒多量に含む）
10．細い暗灰褐色土（焼・炭少量含む）
11．暗灰色土（焼土少量含む）
12．暗黄灰色土
13．細い暗黄色土
14．淡黄灰色土（黄色土少量含む）
15．4と同じ
16．粘質の淡灰色土
17．粘質の淡黄灰色土（炭少量含む）
18．暗黄色土（大粒の炭多量に含む）
19．粘質の淡黄灰褐色土
20．淡黄灰色土（灰色土、黄色土ブロック多量に含む）
21．暗黄色土（黄色土ブロック、灰色土、炭少量含む）
19、20、21は柱痕跡

第64図　SH06平・断面図（S＝1/60）



第65図　SH06出土遺物（S＝1/2・1/4）

6）ＳＨ０６（第64図）

本住居址は調査区の北東隅に位置しており、環濠内で推定すればほぼ北端に相当すると考えられ、最も近接する環濠縁からは約1.5ｍしか離れていない。

住居址の平面形態は東西560㎝、南北470㎝のやや歪な円形を呈し、床面海抜高は18.54m、床面積は18.08㎡を測る。

住居の残存状態は、削平が一部床まで及んでいるため良好ではなく、住居址自体の覆土が残存していないため、輪郭は辛うじて遺存する壁体溝で検出できた。

壁体の全周に巡らされた壁体溝は幅10～20㎝、深さ５㎝程度で、杭穴も９ヵ所で確認できた。

床面中央のやや北寄りには、90×80㎝程度の不整な方形を呈する中央穴が掘られており、長軸方向の両端には柱穴（P-2,4）が掘られている。

中央穴と両端の柱穴を通した土層を観察すると、他の住居址と同様に、先ず中央穴を炭・焼土・地山土の多く混じったブロック状の土で人為的に埋め戻した後に柱穴を掘り、柱を建てた後に中央穴埋土と同様の土で固定した状態が看取できた。

また、Ｐ－４の底面から若干浮いた高さに３個の礫が埋められた状態で出土したが、Ｐ－４の土層は柱材が抜き取られたかのようにブロック状の土で埋め戻されており、建て替えの可能性も考えられた。そのように仮定した場合、近接して検出されたＰ－１、３の他に床面上に該当する深さのものがないことから、一応この２本を建て替え後の柱穴と判断した。

本住居址は覆土が皆無のため遺物は少なく、中央穴の埋土から壷**608**と石鏃２点、少量のサヌカイト剥片が出土したのみである。

住居址の時期としては、構造と埋土から他の住居群と同時期とみて大過ないと思われ、性格に言及できる程の遺物出土もみられないため明確にし得ていない。（武田）

（４）掘立柱建物

１）SB01（第66図）

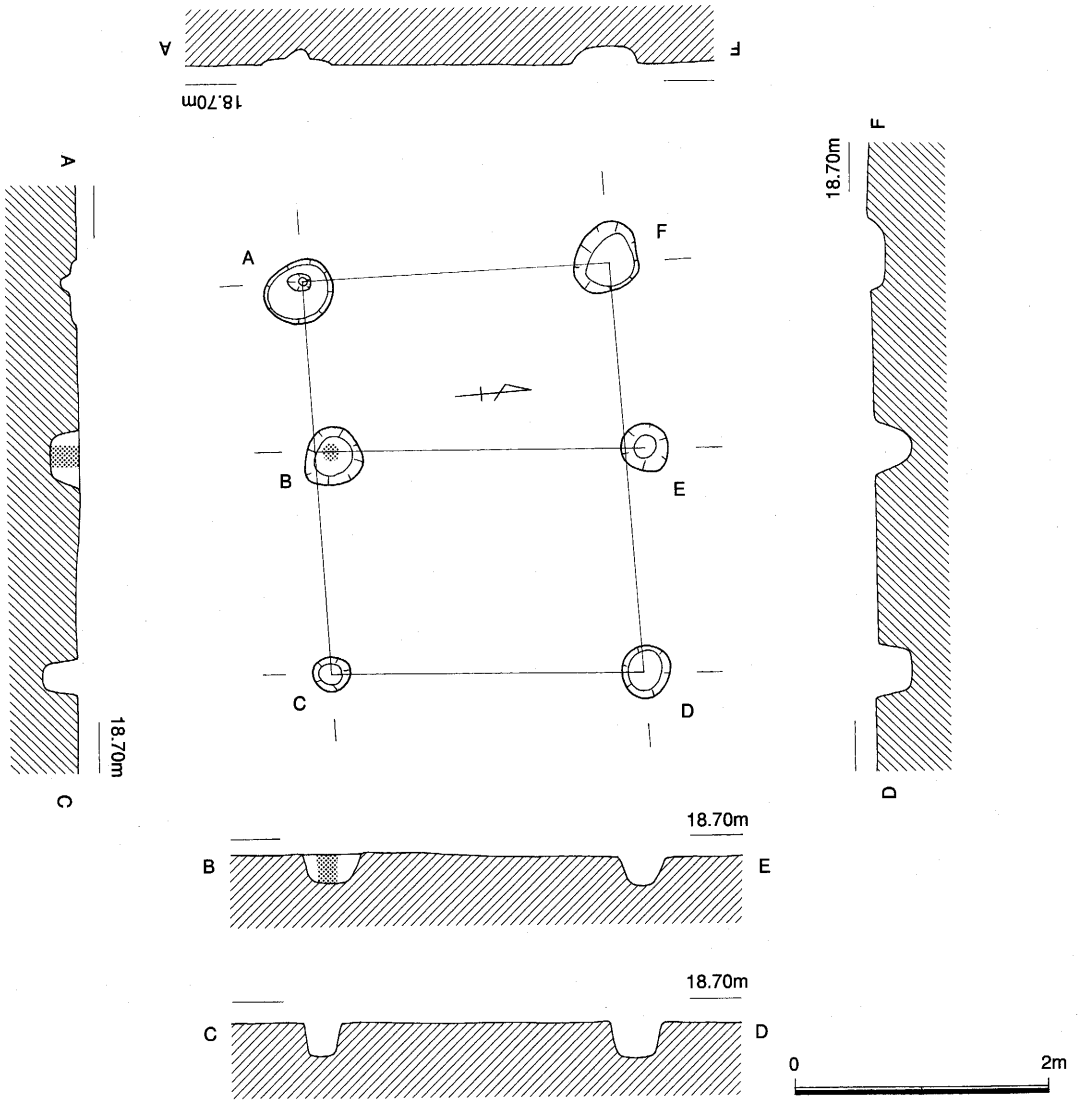
調査区の東南端に位置する２×１間の建物で、SH01をきっている。平面形はややいびつな長方形を呈し、各柱穴は約30～50㎝の円形で、埋土は黄褐色粘土で、わずかにマンガンを含む暗褐色粘質土の柱痕が残るものもある。出土遺物は検出されなかった。

２）SB02（第67図）

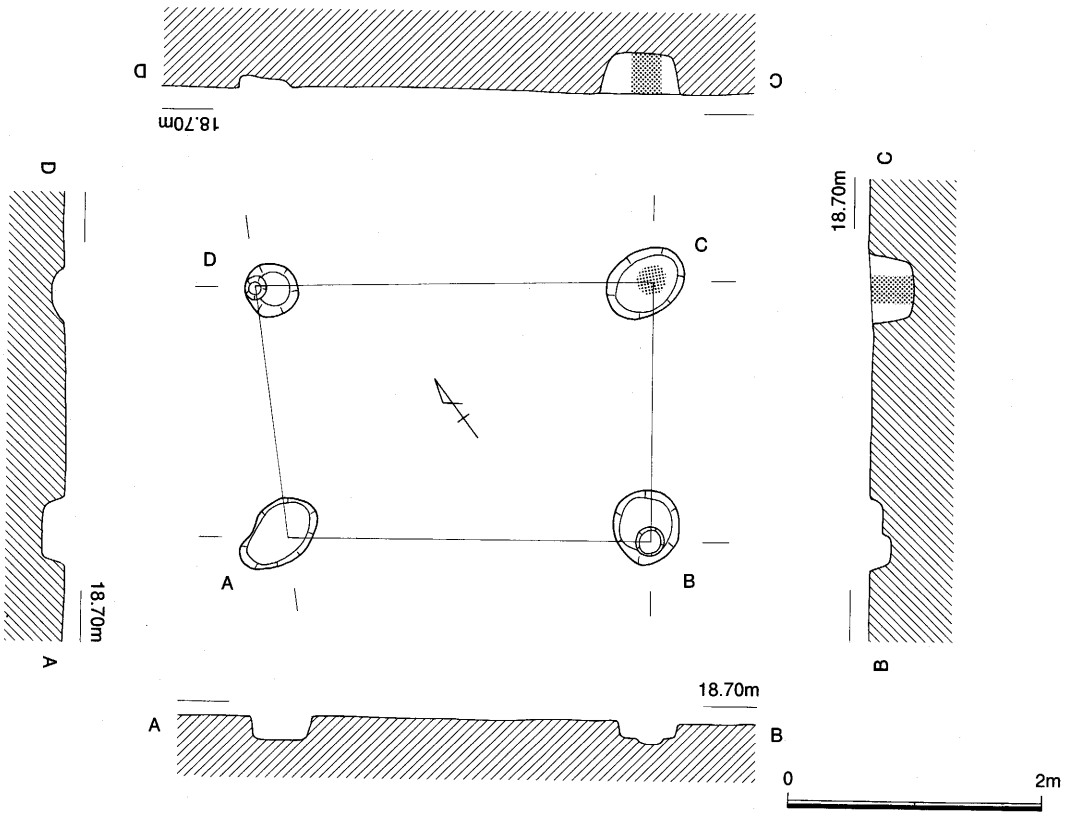
調査区の南端に位置し、SB01に近接している。１×１間の長方形で、各柱穴の平面形は円形から楕円形を呈する約40～60㎝の大きさで、深さは削平が著しく、6～30㎝のみ残存している。埋土は暗灰褐色砂質土に黄褐色のブロックを含み、柱痕はわずかにマンガンを含む暗褐色粘質土である。

３）SB03（第69図）

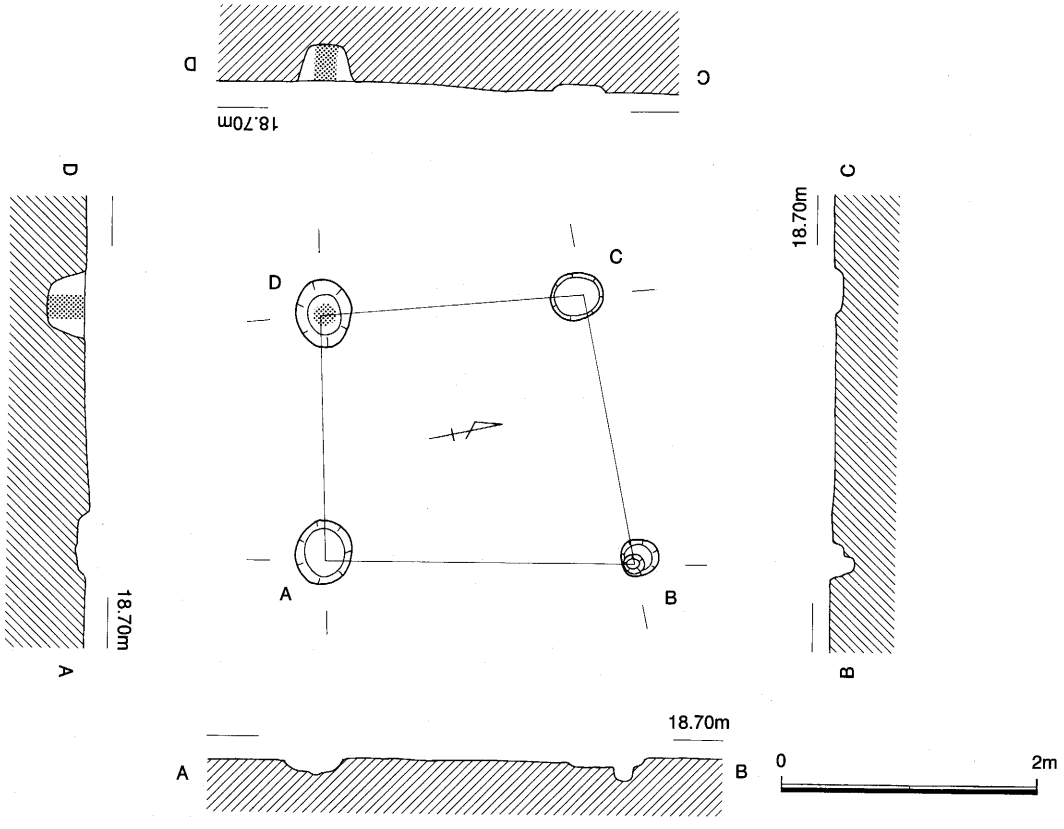
環濠集落の南西部に位置し、SB04、SB05と切り合っている。１×１間のややいびつな方形で、各



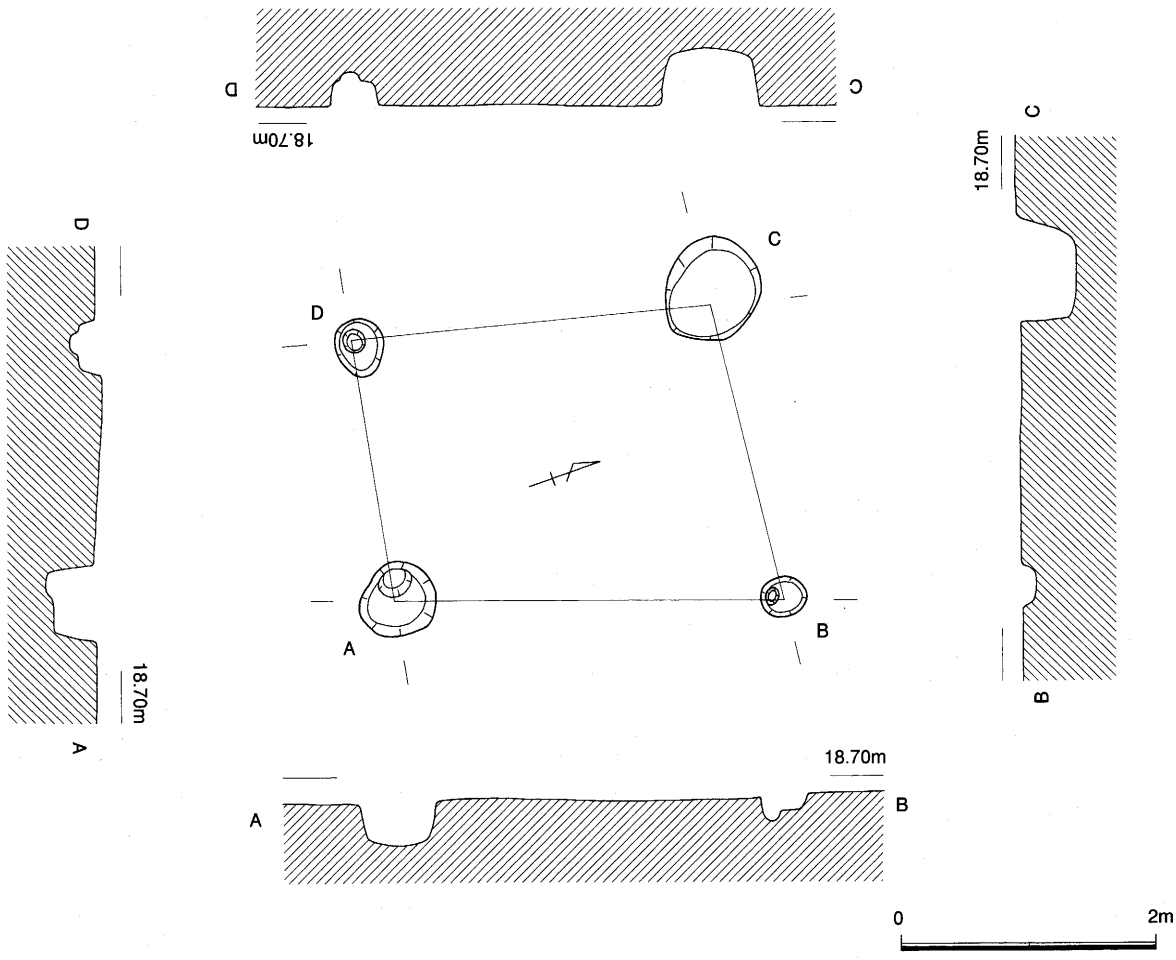
第66図　SB01（S＝1/60）



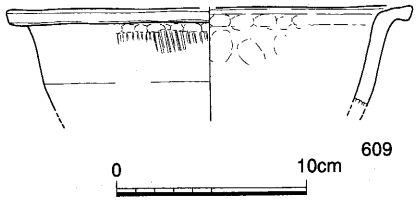
第67図　SB02（S=1/60）



第68図　SB04（S=1/60）



第69図　SB03（S＝1/60）



第70図　SB03出土遺物（S＝1/4）

柱穴は約35～70㎝の円形を呈す。深さは8～40㎝残存している。遺物は甕の口縁が１点（**609**）、石庖丁の破片が1点、サヌカイトのチップが２点出土しており、弥生時代前期後半に位置付けられよう。

４）SB04（第68図）

環濠集落の南部に位置しており、１×１間の方形を呈す。柱穴は約30～50㎝の円形ないし楕円形をなし、柱痕を残すものもある。埋土は暗灰褐色粘質土である。出土遺物は検出されていない。

５）SB05（第71図）

環濠集落の南部に位置する、１×１間の方形の建物で、各柱穴の埋土は暗灰褐色粘質土に黄褐色のブロックが混じり、暗灰褐色粘質土の柱痕を残すものもある。遺物は壷の胴部が１点（**610**）、サヌカイト製の打製石鏃が１点（**S296**）出土し、時期は弥生時代前期後半と考えられる。

６）SB06（第75図）

環濠集落の南西部に位置し、SB07とSB08と切り合っている。平面形は１×１間のいびつな方形を呈し、各柱穴は径35～65㎝の円形で、すべての柱穴に灰褐色粘質土の柱痕が残る。埋土は焼土が混じ

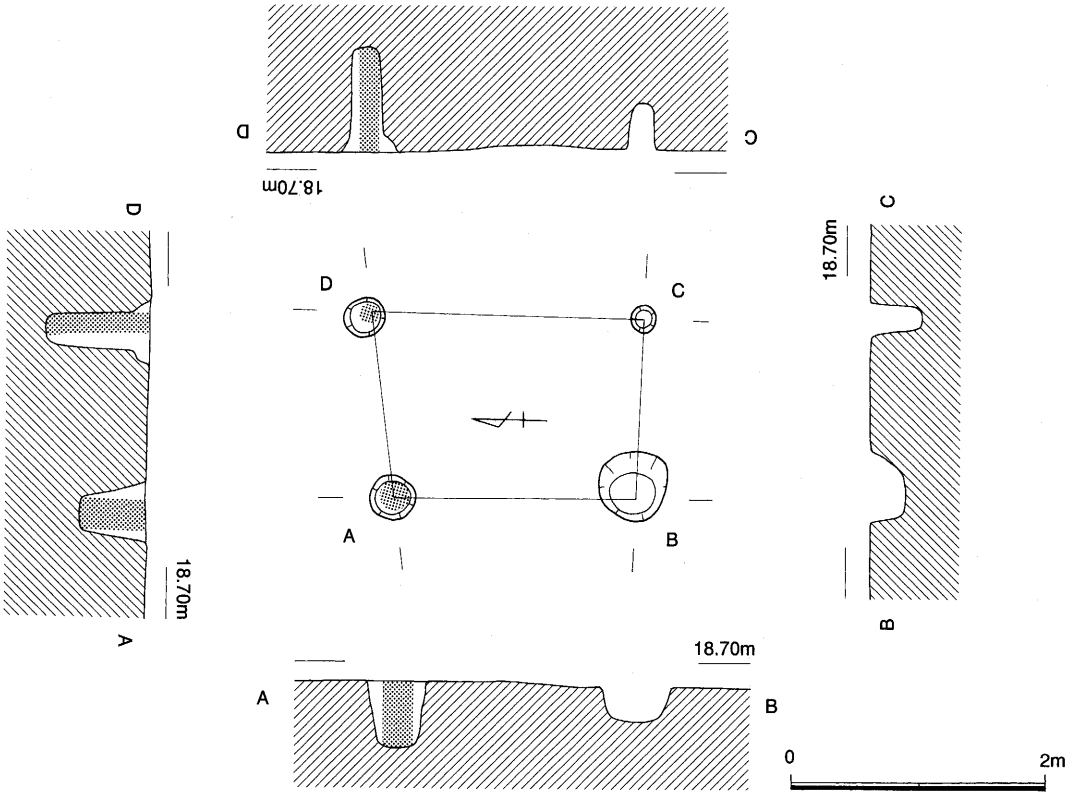
る暗黄灰褐色粘質土である。遺物は検出されていない。

7）SB07（第73図・第74図）

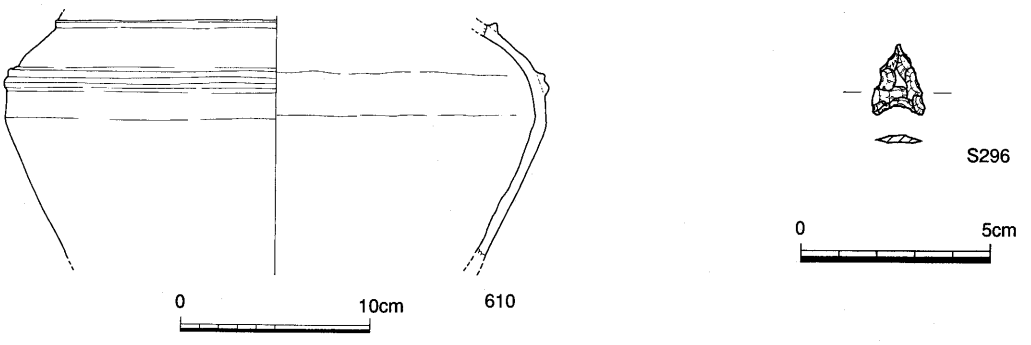
環濠集落の南西部に位置している。3回、建て替えがおこなわれ、SB06とSB08と切り合っている。1×1間のいびつな長方形を呈し、各柱穴は柱痕を残すものもある。建て替えはEFGH→JKLM→ABCDの順番でおこなわれ、埋土はいずれも暗黄灰褐色粘質土で、焼土の含まれるものもある。出土遺物は壷の口縁1点（**611**）で、時期は弥生時代前期と思われる。

8）SB08（第76図）

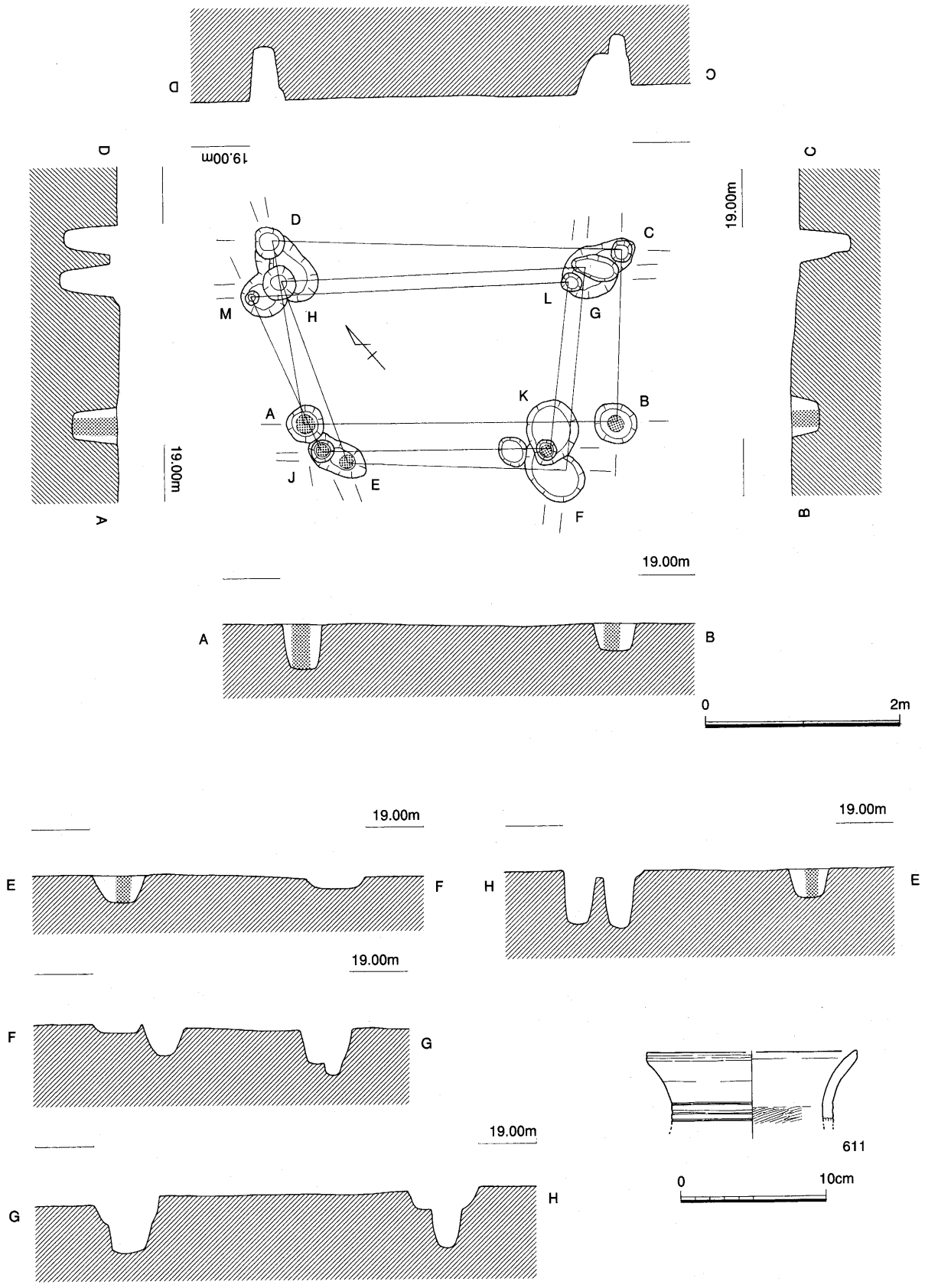
環濠集落の南西部に位置し、1×1間のいびつな方形を呈す。各柱穴は円形を呈し、深さは削平が



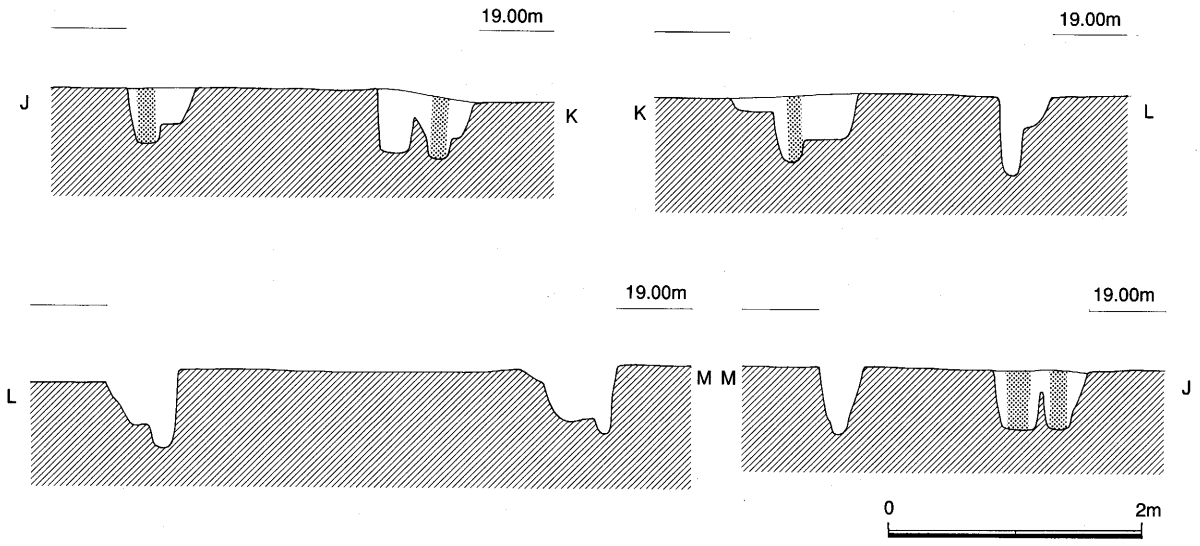
第71図　SB05（S=1/60）



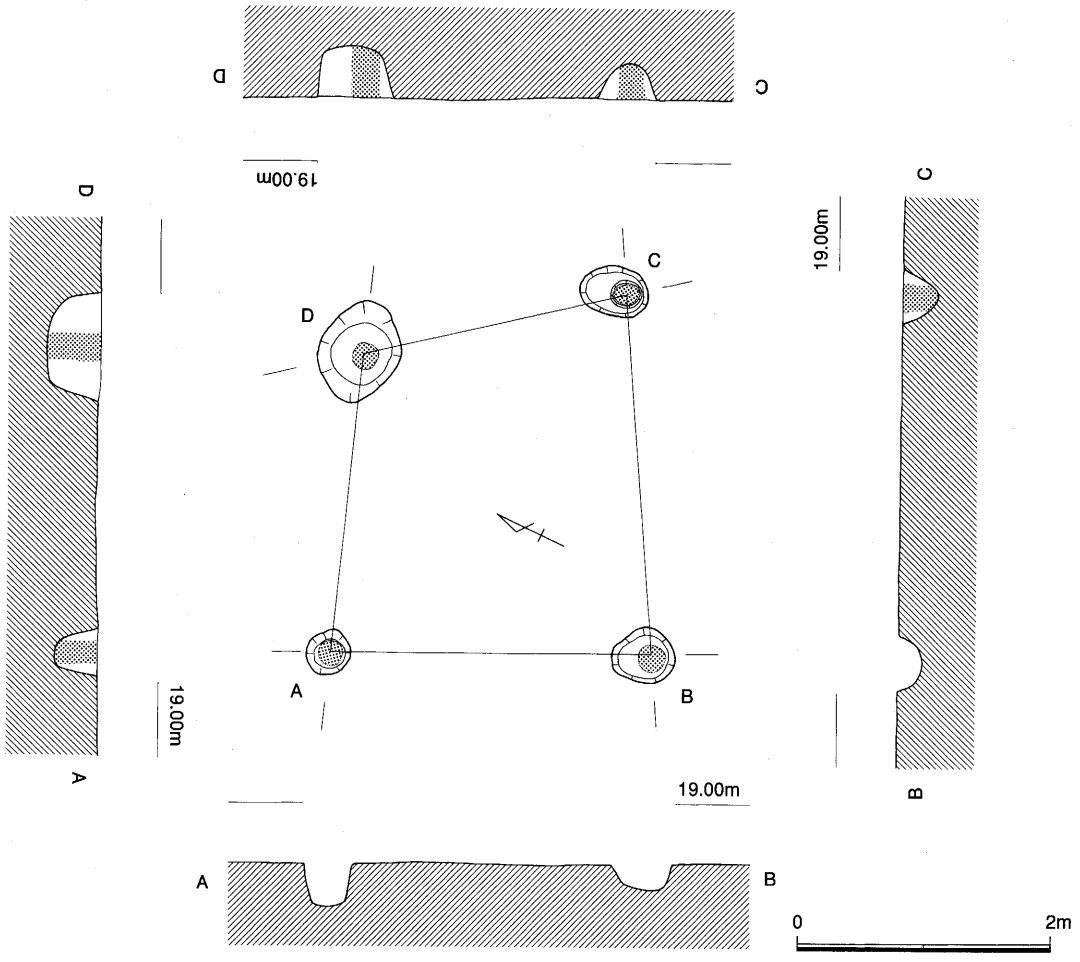
第72図　SB05出土遺物（S=1/4・1/2）



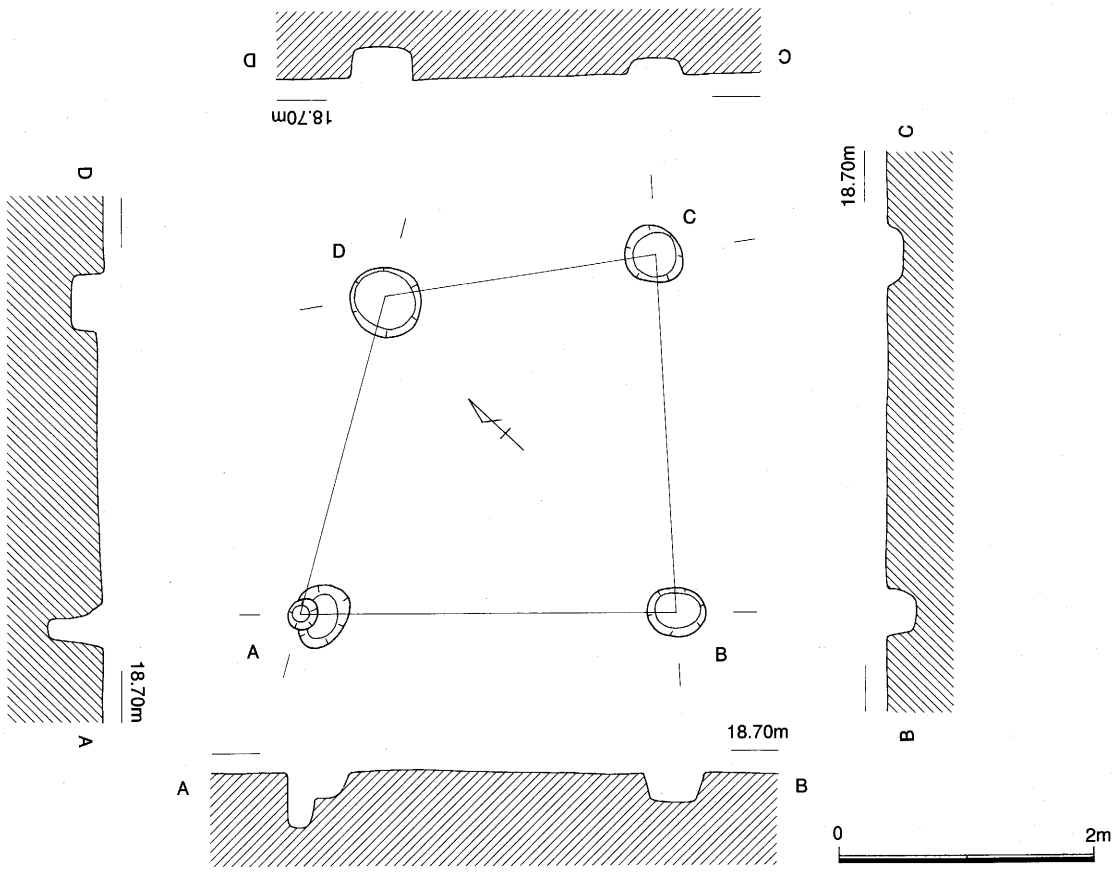
第73図　SB07（S＝1/60）**・SB07出土遺物**（S＝1/4）



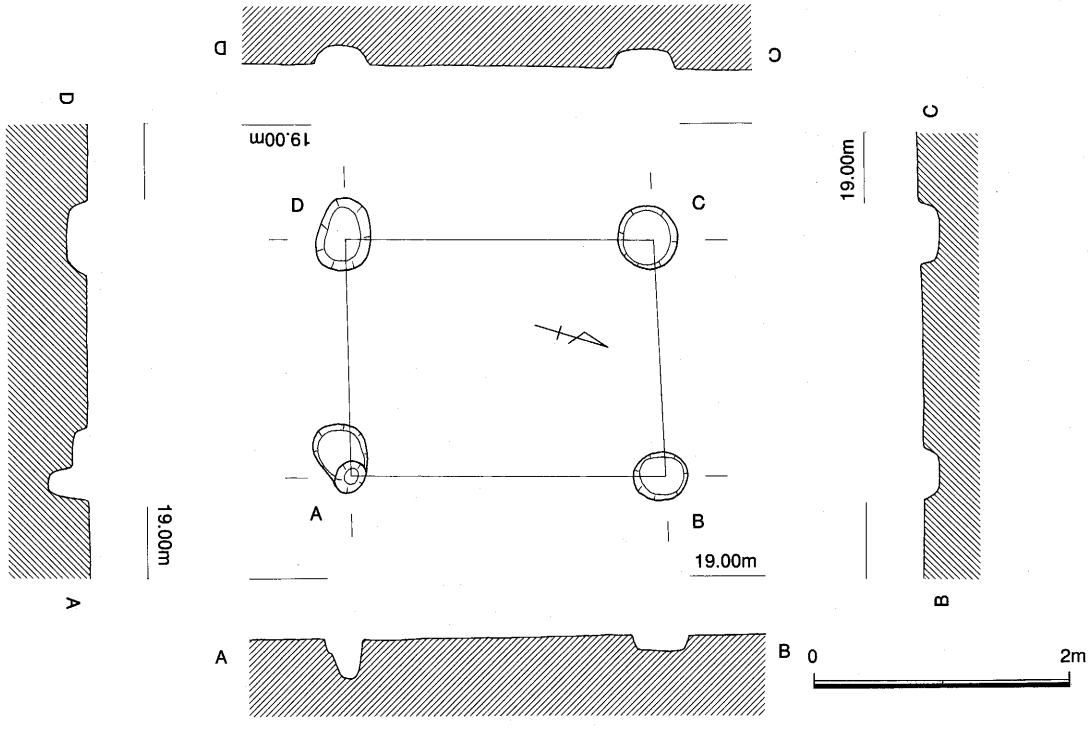
第74図　SB07（S=1/60）



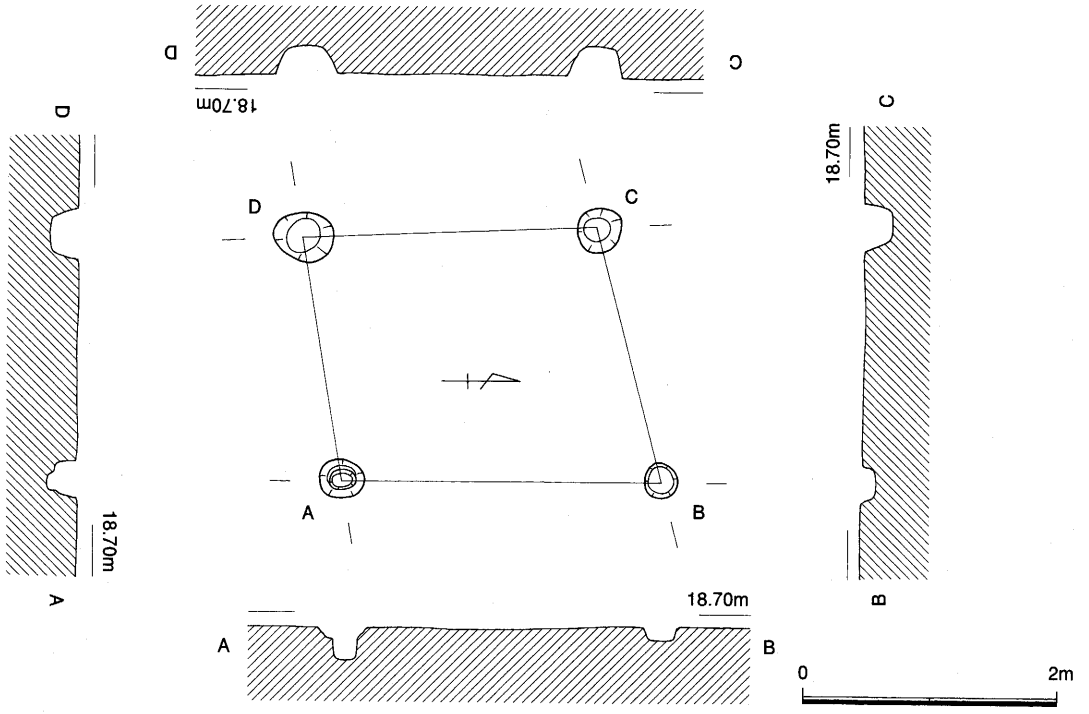
第75図　SB06（S=1/60）



第76図　SB08（S＝1/60）



第77図　SB09（S＝1/60）



第78図　SB10（S=1/60）

著しく12～42cmで、埋土は灰黄色粘質土である。遺物は検出されていない。

9）SB09（第77図）

環濠集落の南西部に位置し、1×1間の方形である。柱穴は円形ないし楕円形で、深さは12～30cmが残存し、そのほとんどが削平されている。遺物は検出されていない。

10）SB10（第78図）

環濠集落の南半分に位置し、1×1間の方形を呈する建物である。各柱穴の埋土は黄色ブロックを含んだ暗灰色粘質土である。出土遺物はサヌカイトの剥片が1点出土している。

11）SB11（第79図）

調査区の東端に位置し、1×2間の長方形の建物で、各柱穴は円形をなす。深さは10～20cmで、削平されている。埋土は暗褐色粘質土に黄褐色ブロックが混じる。出土遺物は検出されていない。

12）SB12（第80図）

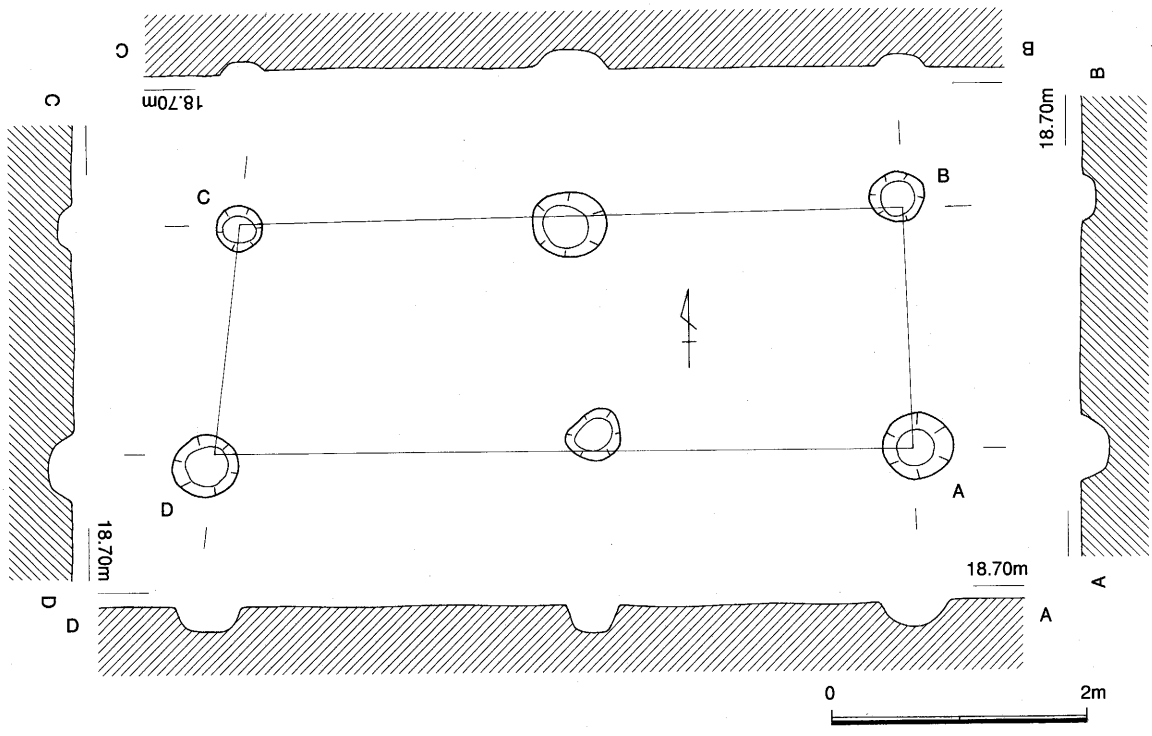
調査区の東端に位置する、1×2間の長方形の建物である。各柱穴は径25cmの円形を呈し、深さは6～30cmである。ただし、削平がすすんでいる。遺物は出土していない。

13）SB13（第81図）

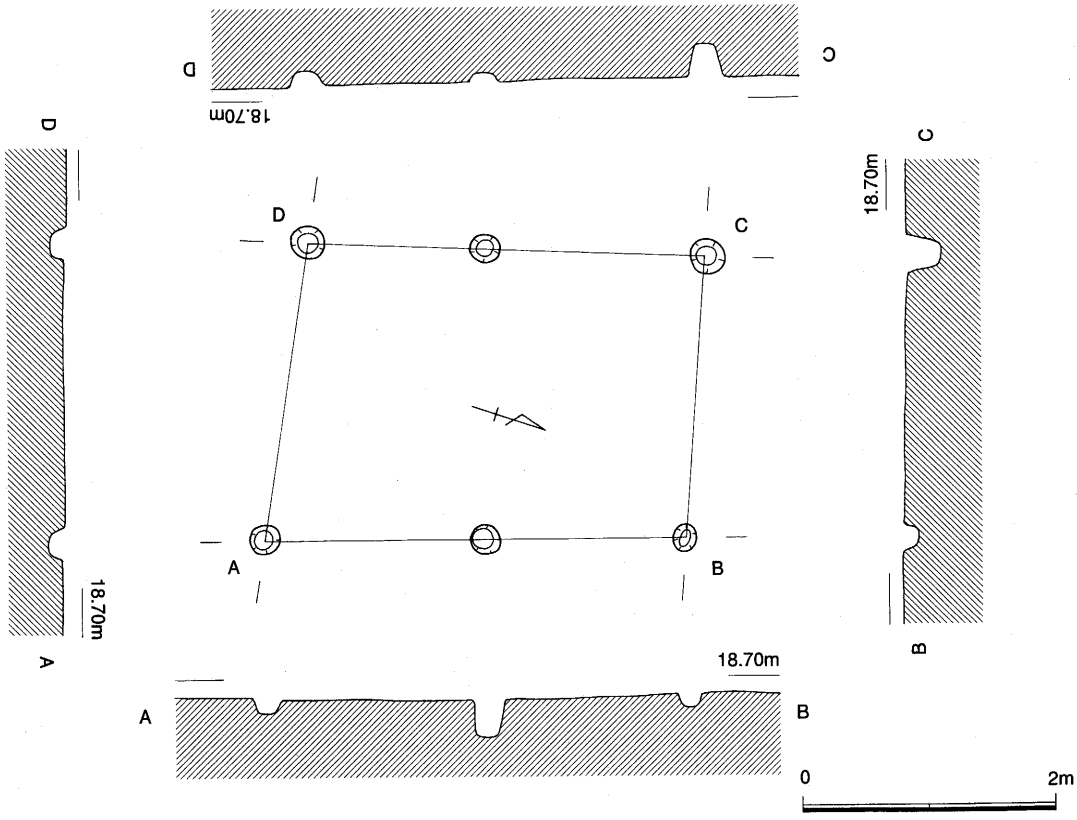
SB13は環濠集落のほぼ中心に存在し、SB14とSB15に切り合っている。1×2間のややいびつな方形の建物である。各柱穴は径15～24cmの円形で、埋土は暗灰褐色粘質土に黄褐色粘質のブロックが混じる。遺物は検出されていない。

14）SB14（第82図）

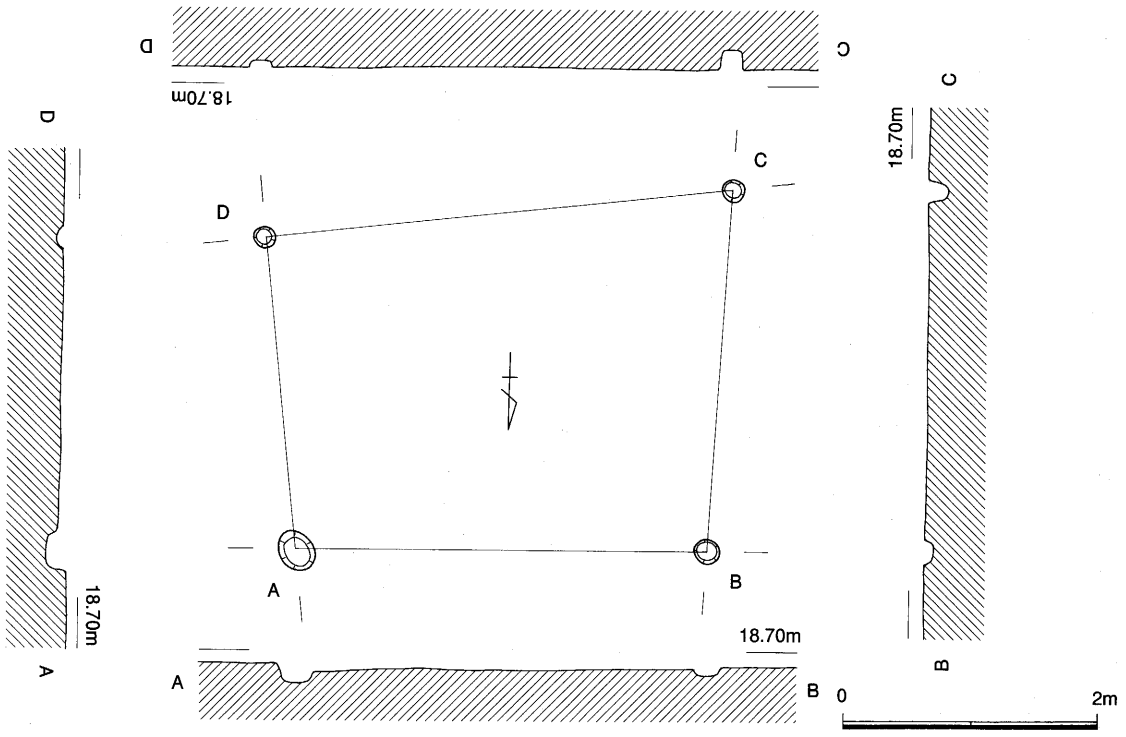
環濠集落のほぼ中心に存在し、柱穴の切り合いから、SB13の後に建てられたことが分かる。SB15との前後関係は定かではない。1×1間のいびつな方形で、径約25cmの円形の柱穴を有する。深さは



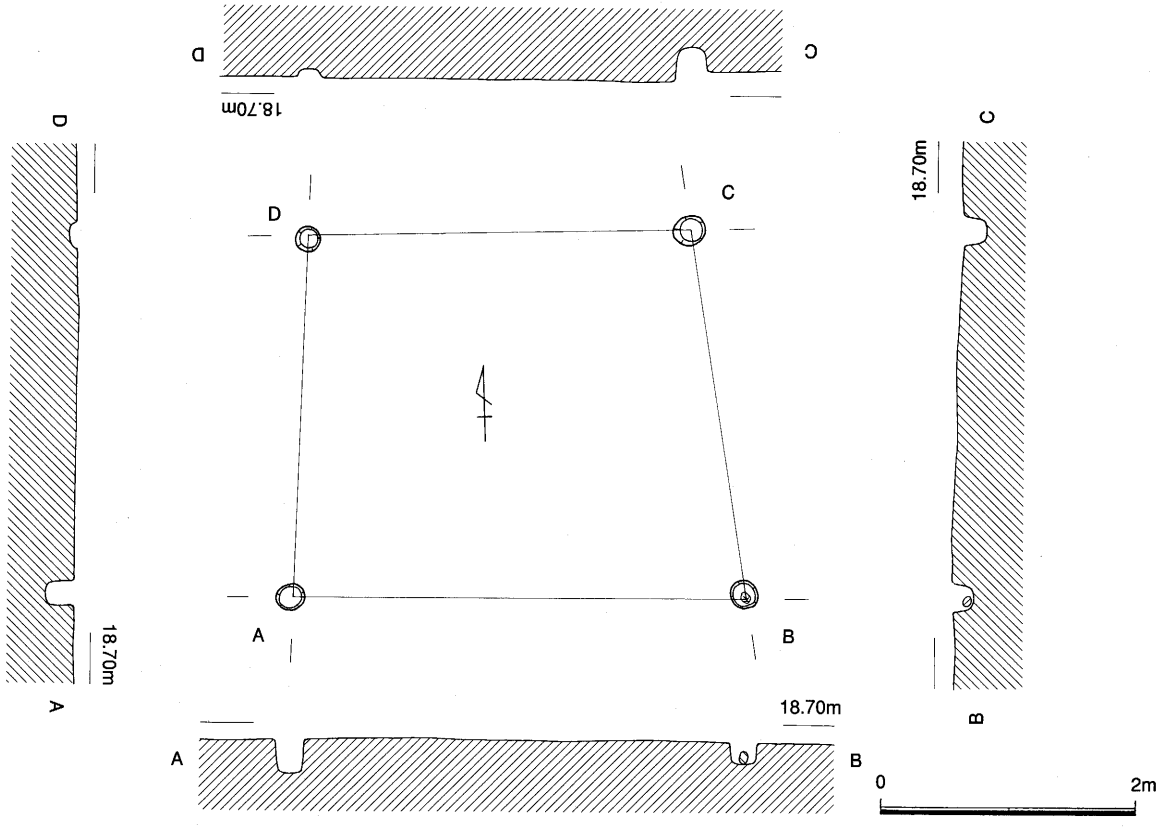
第79図　SB11（S＝1/60）



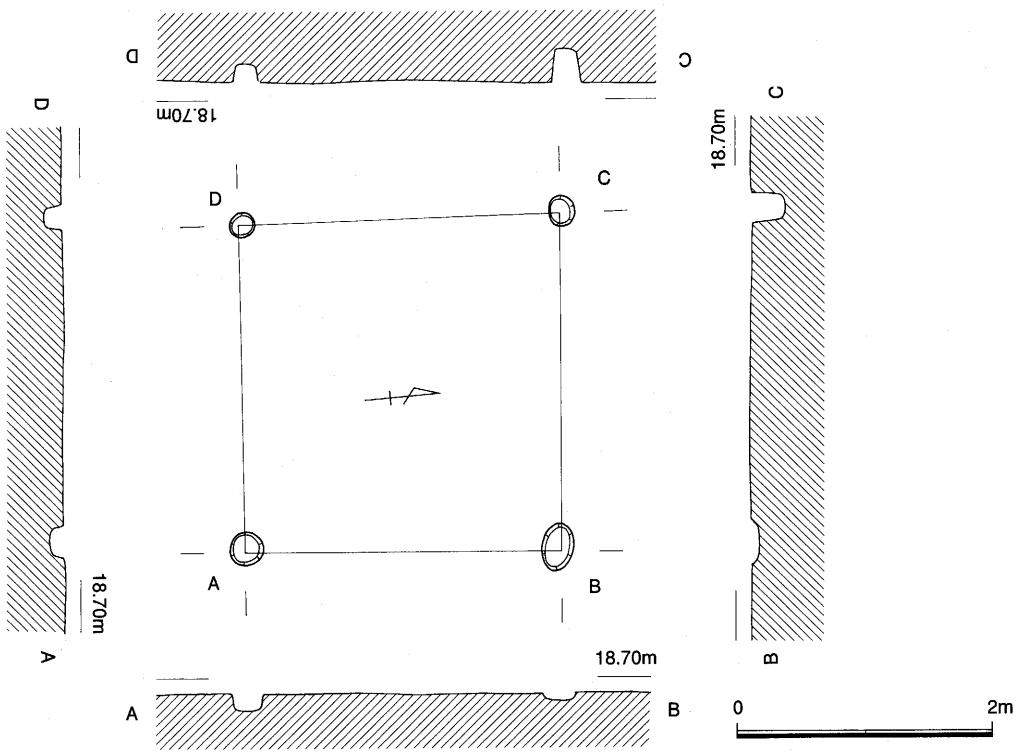
第80図　SB12（S＝1/60）



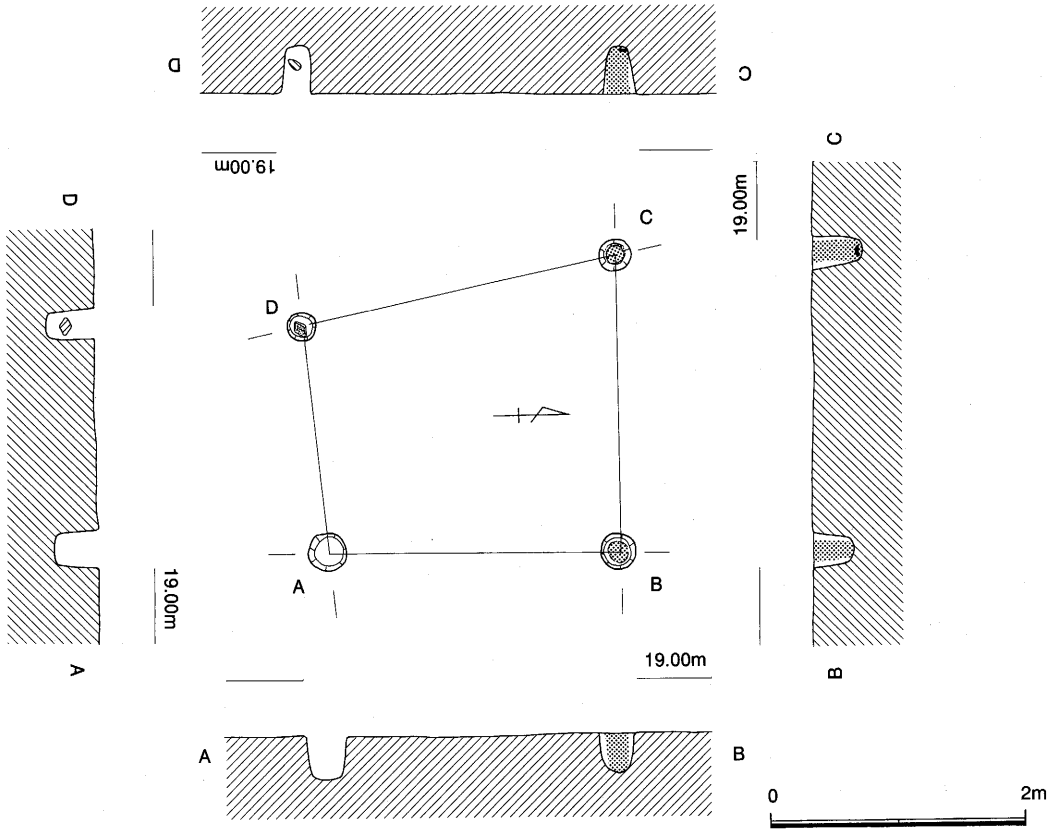
第81図　SB13（S=1/60）



第82図　SB14（S=1/60）



第83図　SB15（S=1/60）



第84図　SB16（S=1/60）

6～30cmで、削平がかなりすすんでいる。遺物は検出されていない。

15）SB15（第83図）

環濠集落のほぼ中心に位置し、SH04に近接している。SB13とSB14と切り合っているが、前後関係は不明である。1×1間の方形の建物で、径30～40cmの円形ないし楕円形の柱穴を有する。柱穴内に礫がみとめられたが、土器、石器などは検出されていない。

16）SB16（第84図）

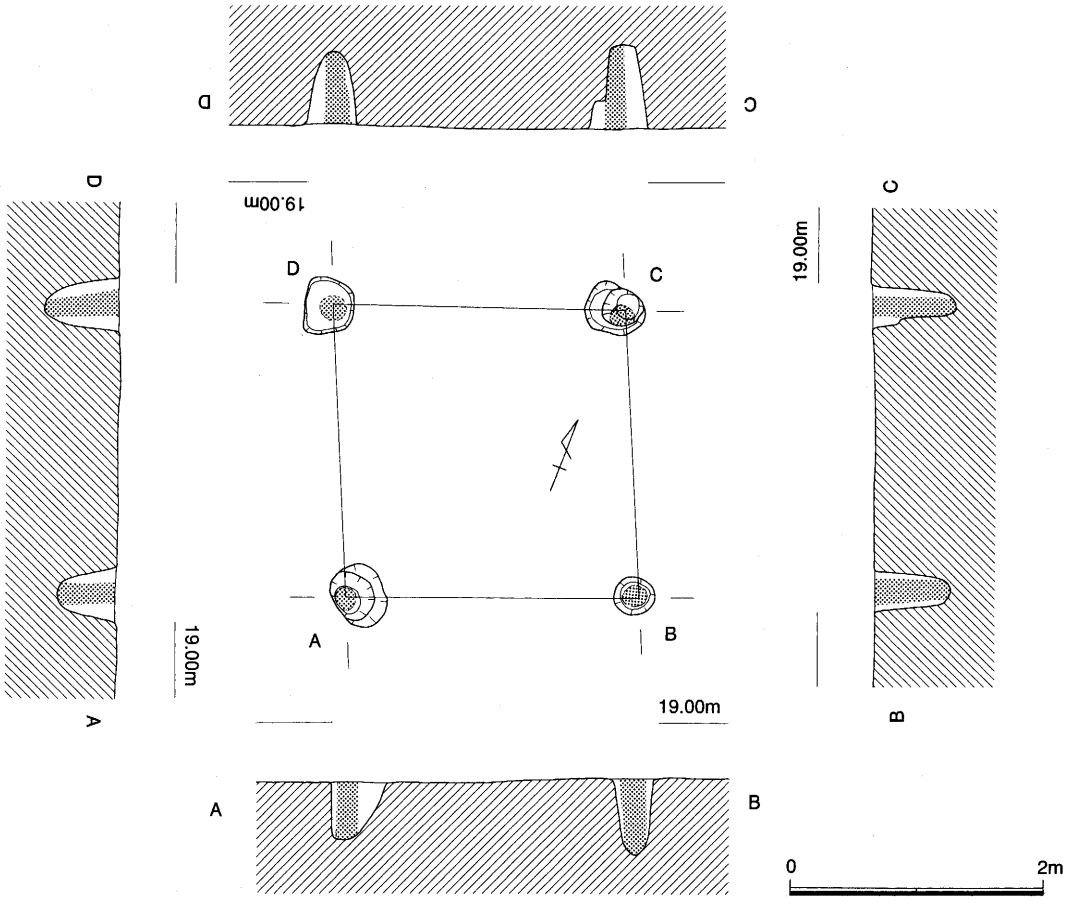
環濠集落の西端に位置し、SB09とSB17に切りあっているが、前後関係は不明である。1×1間のややいびつな方形で、柱穴内に礫を含むものがある。埋土は暗黄灰褐色粘質土で、柱痕のあるものは焼土を含む暗灰褐色粘質土である。遺物は土器小片、サヌカイトのフレイク、チップが出土した。

17）SB17（第85図）

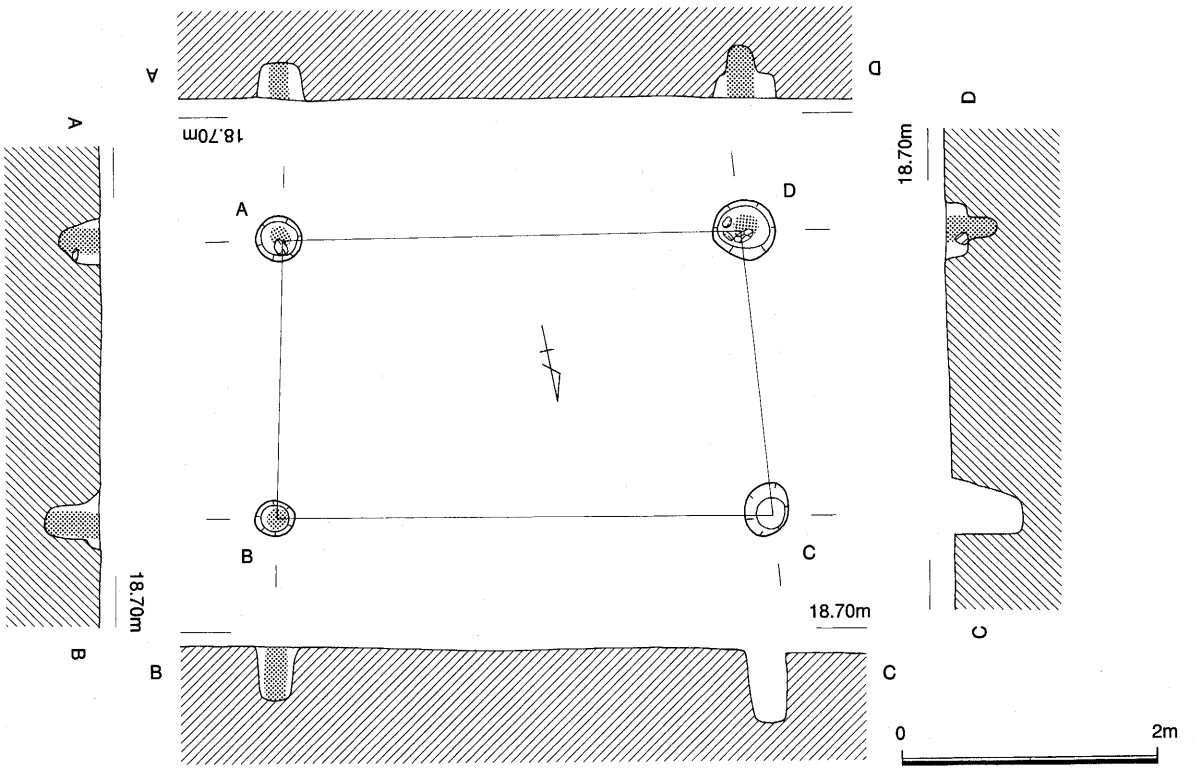
SB17は環濠集落の西端に位置し、SH04に近接している。1×1間の方形の建物で、各柱穴は径30～50cmの円形で、いずれも柱痕を有する。深さは60cm前後で、他の建物と比較して柱穴の残存状況は良好である。埋土は暗灰褐色粘質土に暗黄褐灰色粘質土がブロック状に混じり、炭化物、焼土がわずかに含まれる。遺物は土器の小片が出土したが、図化しえなかった。

18）SB18（第86図）

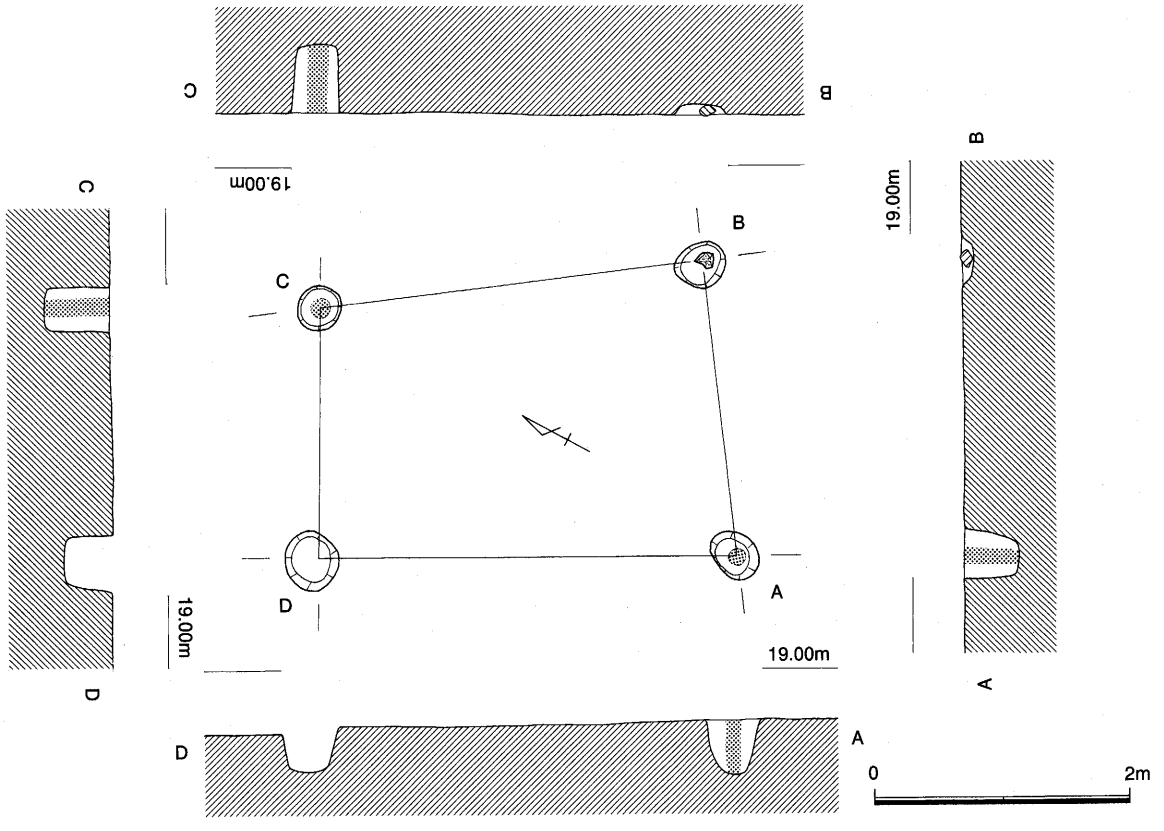
SB18は環濠集落の西端に位置し、SH04とSB20、SB19と切り合っている1×1間の長方形の建物で



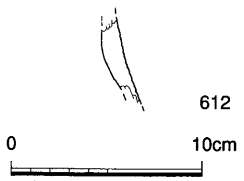
第85図　SB17（S=1/60）



第86図　SB18（S=1/60）



第87図　SB19（S=1/60）



第88図　SB19出土遺物
(S=1/4)

ある。各柱穴は径25～50cmの円形で、深さは30～55cmで柱痕を有するもの、礫を含むものがある。埋土は暗灰色粘質土でわずかに焼土を含む。遺物は検出されていない。

19）SB19（第87図）

環濠集落の西端に位置し、SH04とSB18、SB20と切り合っている1×1間の長方形の建物である。各柱穴は径30～50cmの円形ないし楕円形を呈し、深さは一部、著しい削平がみとめられるが6～55cmである。埋土は暗黄灰色粘質土で黄色ブロックが混じり、柱痕は暗灰褐色粘質土である。遺物は土器胴部片（**612**）が出土した。

20）SB20（第89図）

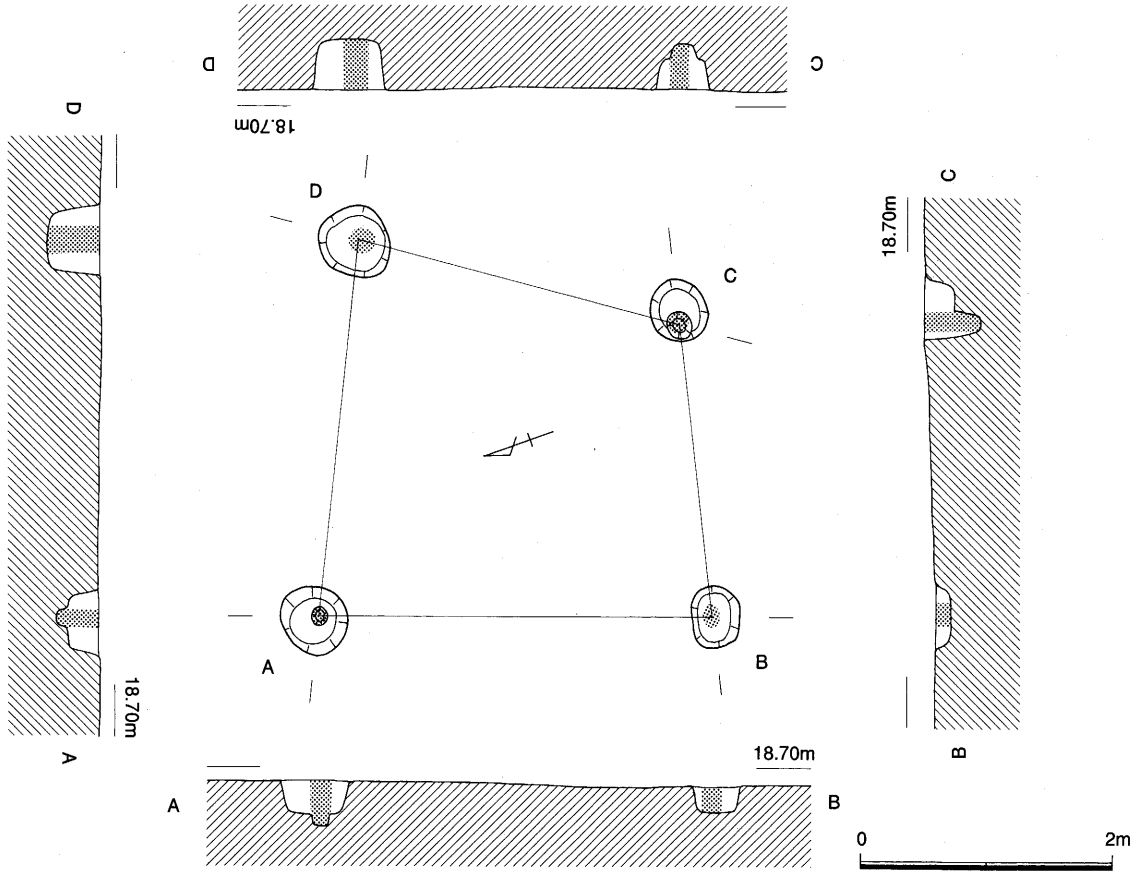
環濠集落の西端に位置し、1×1間の方形で、各柱穴は円形ないし楕円形を呈し、いずれも柱痕が残存する。埋土は暗灰褐色粘質土で、暗黄灰褐色粘質土が混じる。遺物は検出されなかった。

21）SB21（第90図）

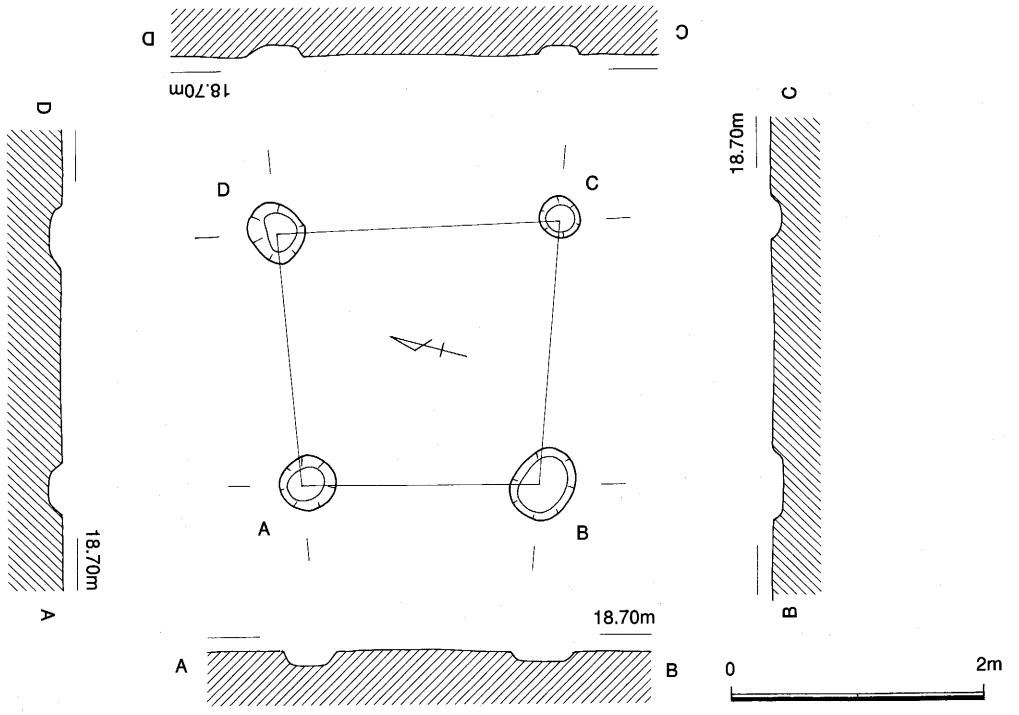
SB21はSH03を切っており、1×1間の方形の建物で、各柱穴の埋土は暗灰褐色粘質土である。遺物は土器の胴部片が数点出土したが、図化しえなかった。

22）SB22（第91図）

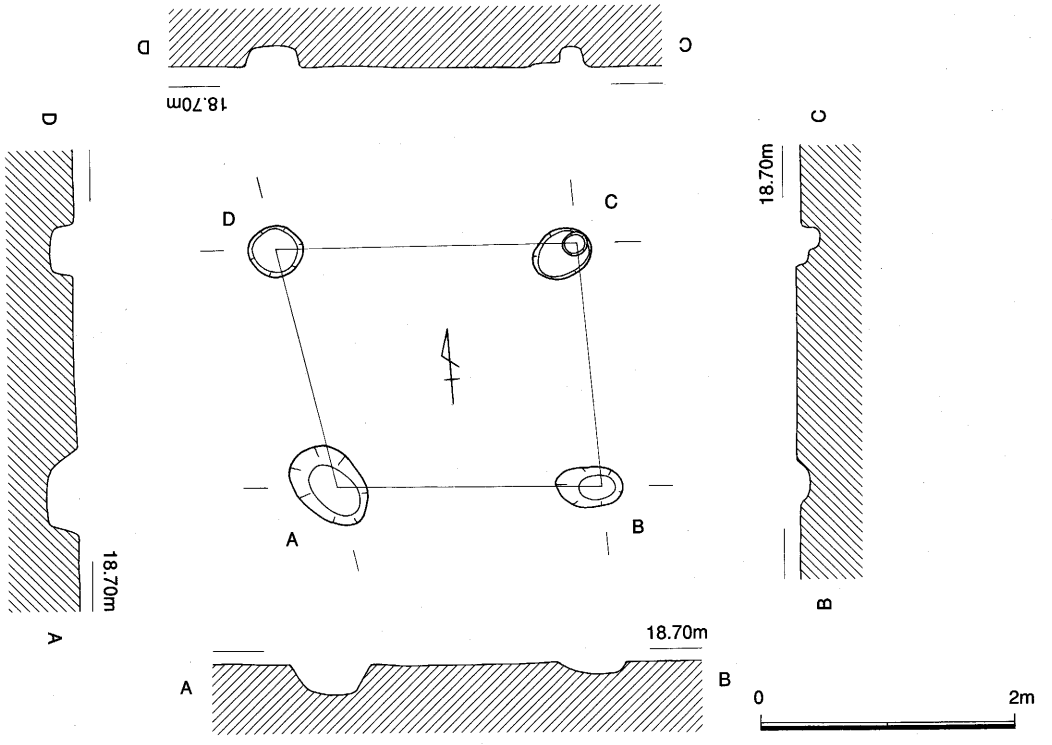
SH04に近接し、SB20と切り合っている、1×1間の方形の建物である。各柱穴は径40～70cmの円



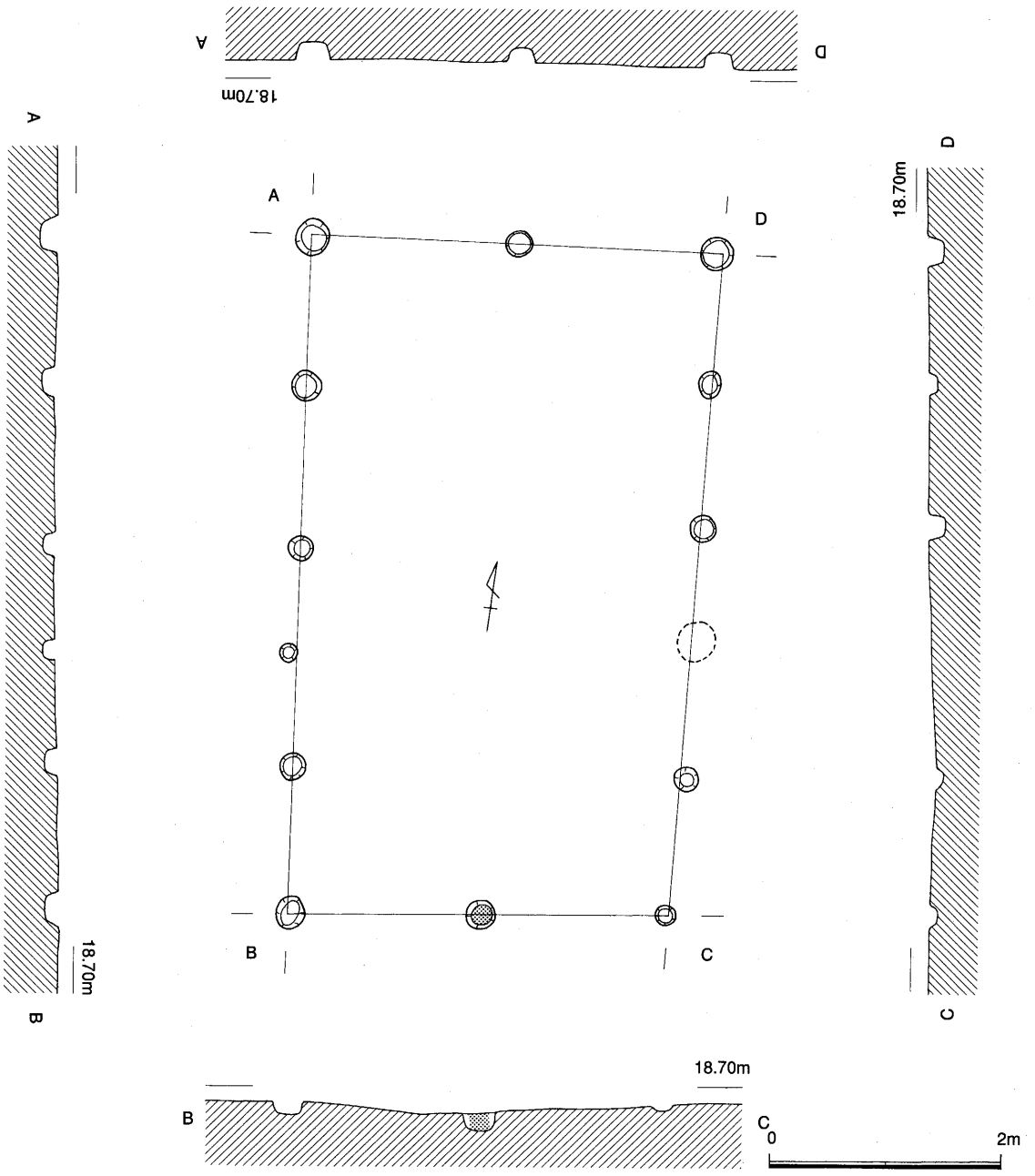
第89図　SB20（S=1/60）



第90図　SB21（S＝1/60）



第91図　SB22（S＝1/60）



第92図　SB23（S＝1/60）

形ないし楕円形で、削平がすすみ、深さは10～24cmが残存している。遺物は検出されていない。

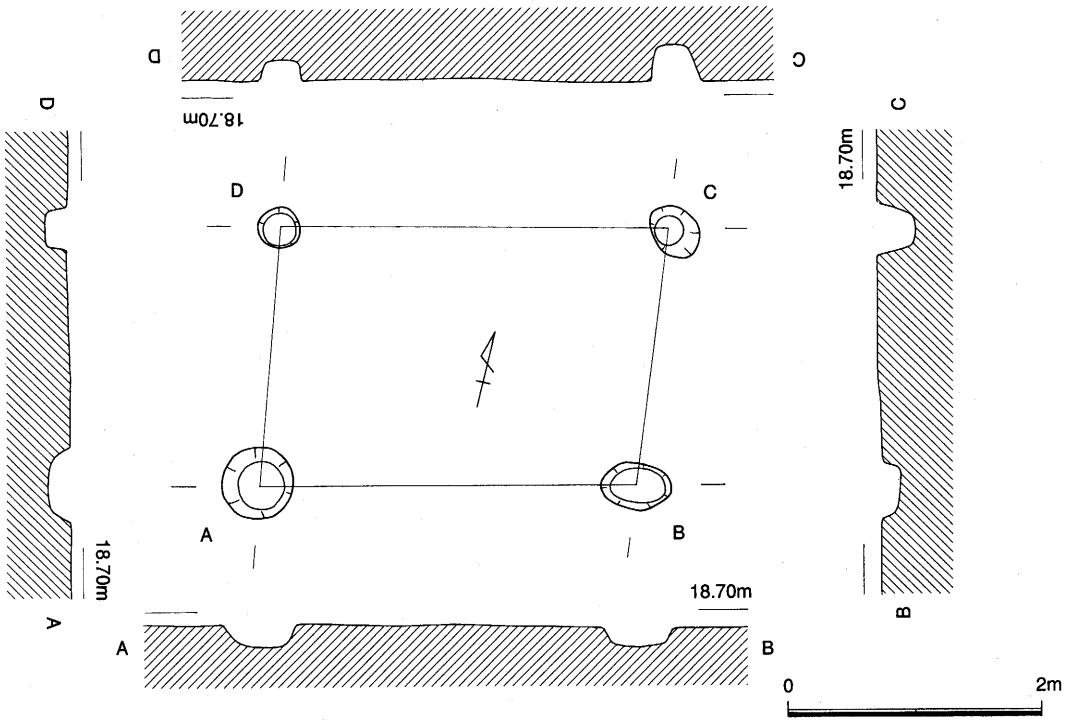
23）SB23（第92図）

環濠集落の西端に位置し、SB20と切り合っている。２×５間の長方形の建物である。各柱穴は径20～30cmの円形を呈し、深さは10cm前後で、削平がすすんでいる。遺物は出土していない。

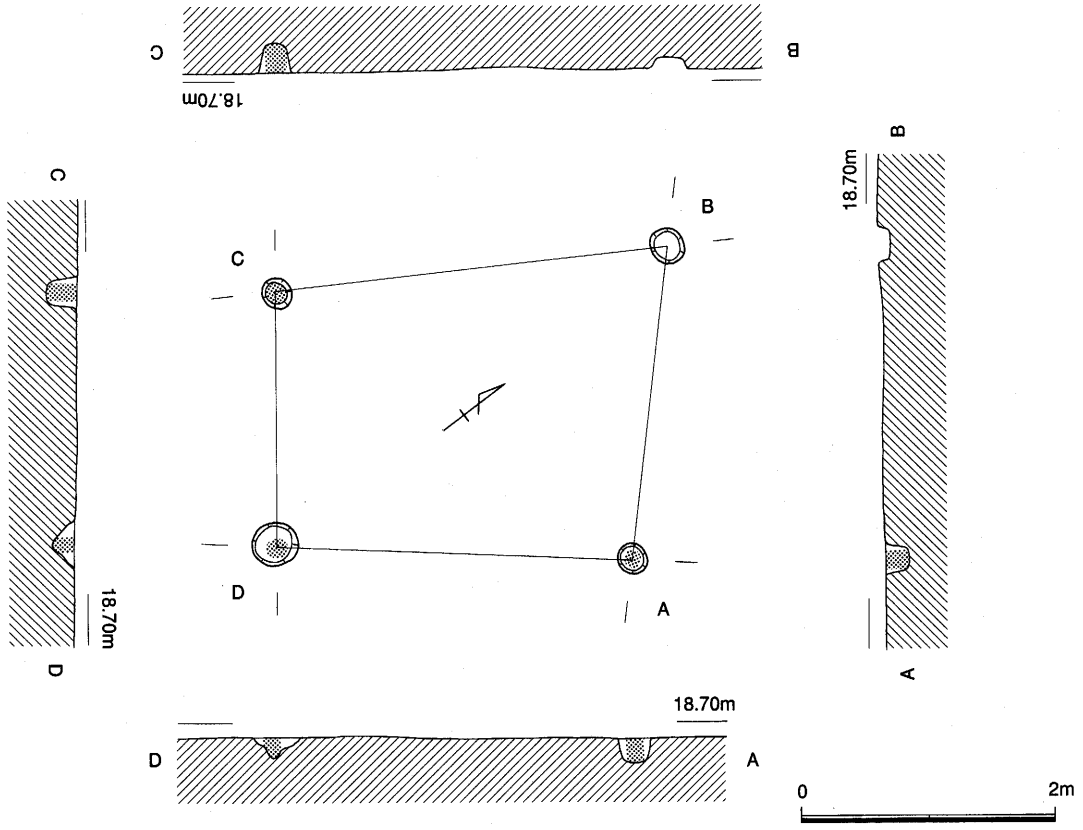
24）SB24（第93図）

環濠集落の西端に位置する。SB24はSK20、SK21を切っている。１×１間のややいびつな長方形を呈し、遺物は検出されていない。

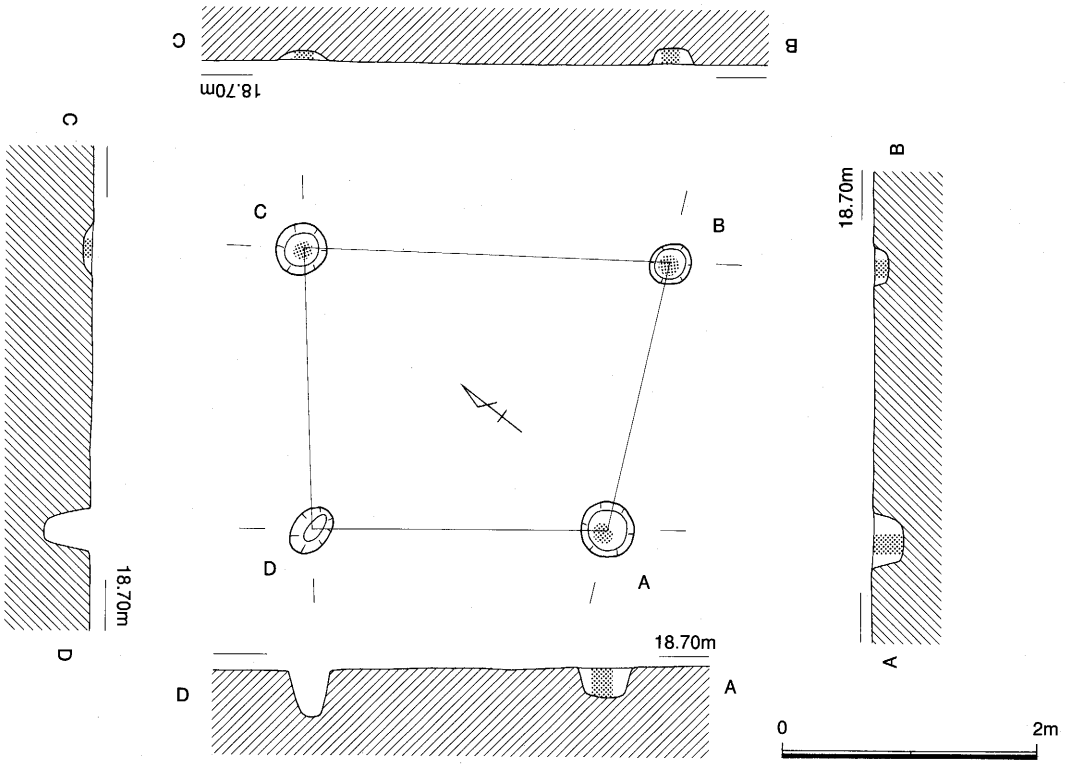
25）SB25（第94図）



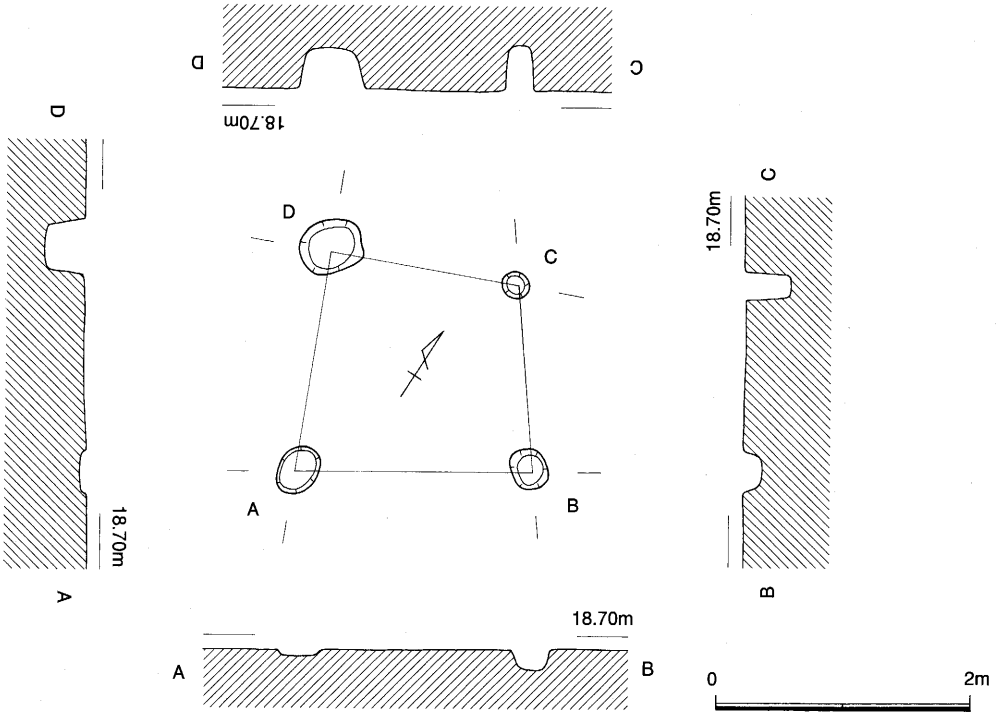
第93図　SB24（S＝1/60）



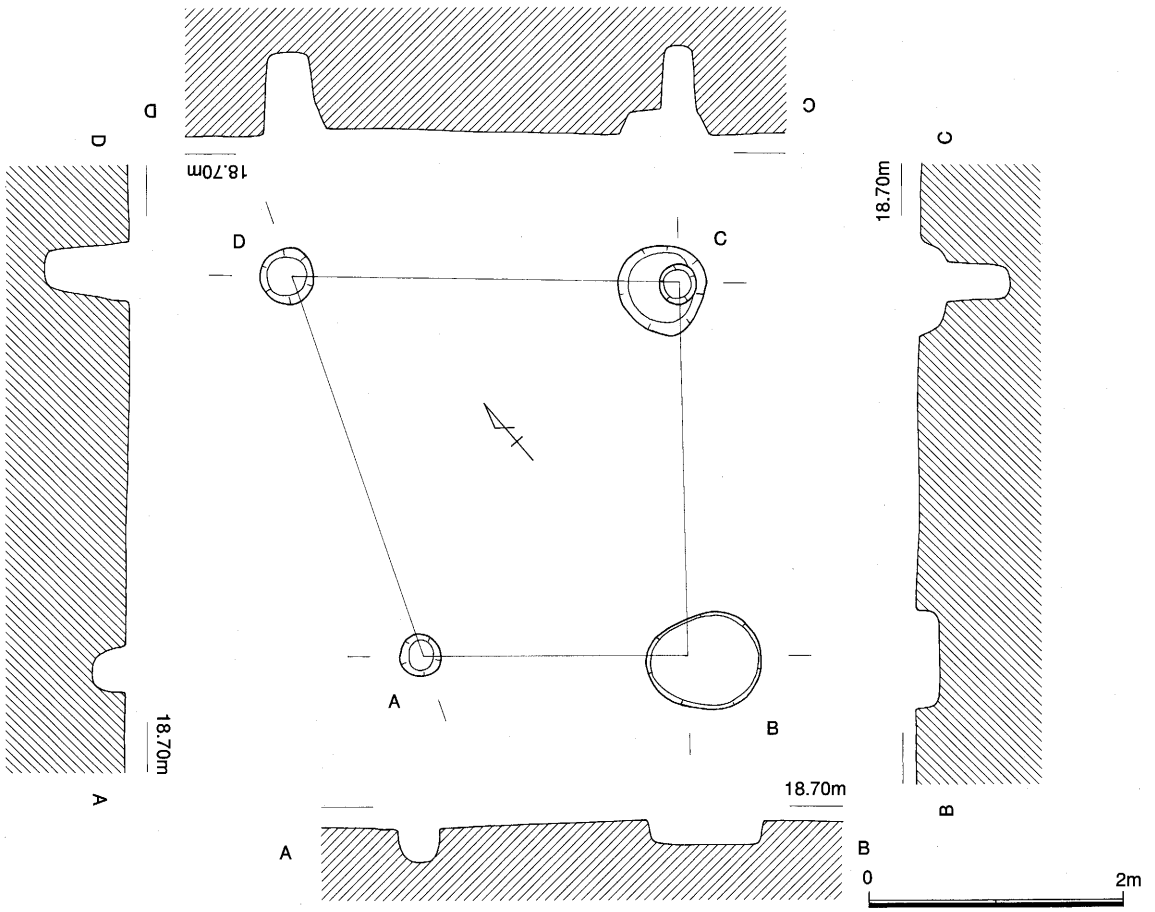
第94図　SB25（S＝1/60）



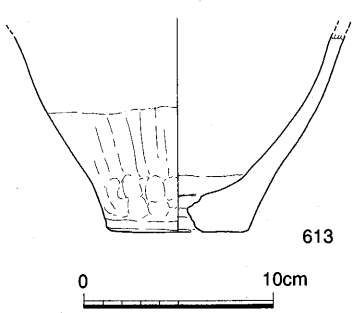
第95図　SB26（S=1/60）



第96図　SB27（S=1/60）



第97図　SB28（S＝1/60）



第98図　SB28出土遺物（S＝1/4）

調査区の東端に位置する、１×１間の建物である。4本の柱穴のうち3本に柱痕が残るが、削平が著しく、残存状態は良好ではなく、遺物も検出されていない。

26）SB26（第95図）

１×１間のいびつな方形を呈し、SH05をきっている。柱痕は残るが、残存状態は良好ではなく、遺物も出土していない。

27）SB27（第96図）

環濠集落の北西部に位置し、SH05に近接している。柱穴の残存状態は良好ではない。遺物は甕の底部が１点（**613**）、サヌカイトの剥片が1点出土した。

28）SB28（第97図）

調査区の北東端に位置し、１×１間のいびつな方形を呈する。各柱穴は円形ないし楕円形をなし、深さは約20～70cmである。遺物は検出されていない。

（5）柵列

1）柵列1（第99図）

環濠集落の南西部を囲むように位置する、最も長い柵列である。削平が著しい部分とそうでない部分があり、残存状態は一様ではない。各柱穴は円形を呈し、柱痕を残すものもある。SB01、SB02、SB06と近接するが切り合い関係は明確ではない。遺物はサヌカイト製の打製石鏃が1点（**S297**）出土した。

2）柵列2（第100図）

環濠集落の南端に位置し、東西方向にのびる6つの柱穴からなる。各柱穴は径約10～40㎝の円形を呈し、削平されているため、残存状態は良好ではない。出土遺物も検出されていない。

3）柵列3（第100図）

環濠集落の南西部に位置し、ほぼ東西方向にのびる4本の柱穴からなる。各柱穴は径約25㎝前後の円形を呈する。遺物は壷の底部片が1点（**615**）出土し、時期は弥生時代前期～中期に位置付けられよう。

4）柵列4（第100図）

環濠集落の南半分に位置し、柵列5と切り合っているが、前後関係は明らかでない。遺物はメノウ製楔形石器（**S299**）、サヌカイト製楔形石器（**S289**）がそれぞれ1点ずつ出土した。時期は特定できない。

5）柵列5（第100図）

環濠集落の南半分に位置する、11本の柱穴からなる柵列である。削平のため、残存状態は良好ではない。遺物は甕の口縁部が1点（**614**）、メノウ製の剥片が1点、サヌカイト製の打製石鏃が1点出土した。弥生時代前期後半に位置付けられる。

6）柵列6（第103図）

調査区の東南に位置し、東西方向にのびており、検出されたのは6本の柱穴であるが、東に広がる可能性が高い。SK06をきっている。遺物は検出されていない。

7）柵列7（第103図）

環濠集落の南西部にほぼ南北方向で位置する。6本の柱穴からなり、SB09と隣接するが前後関係は明らかでない。遺物は出土していない。

8）柵列8（第103図）

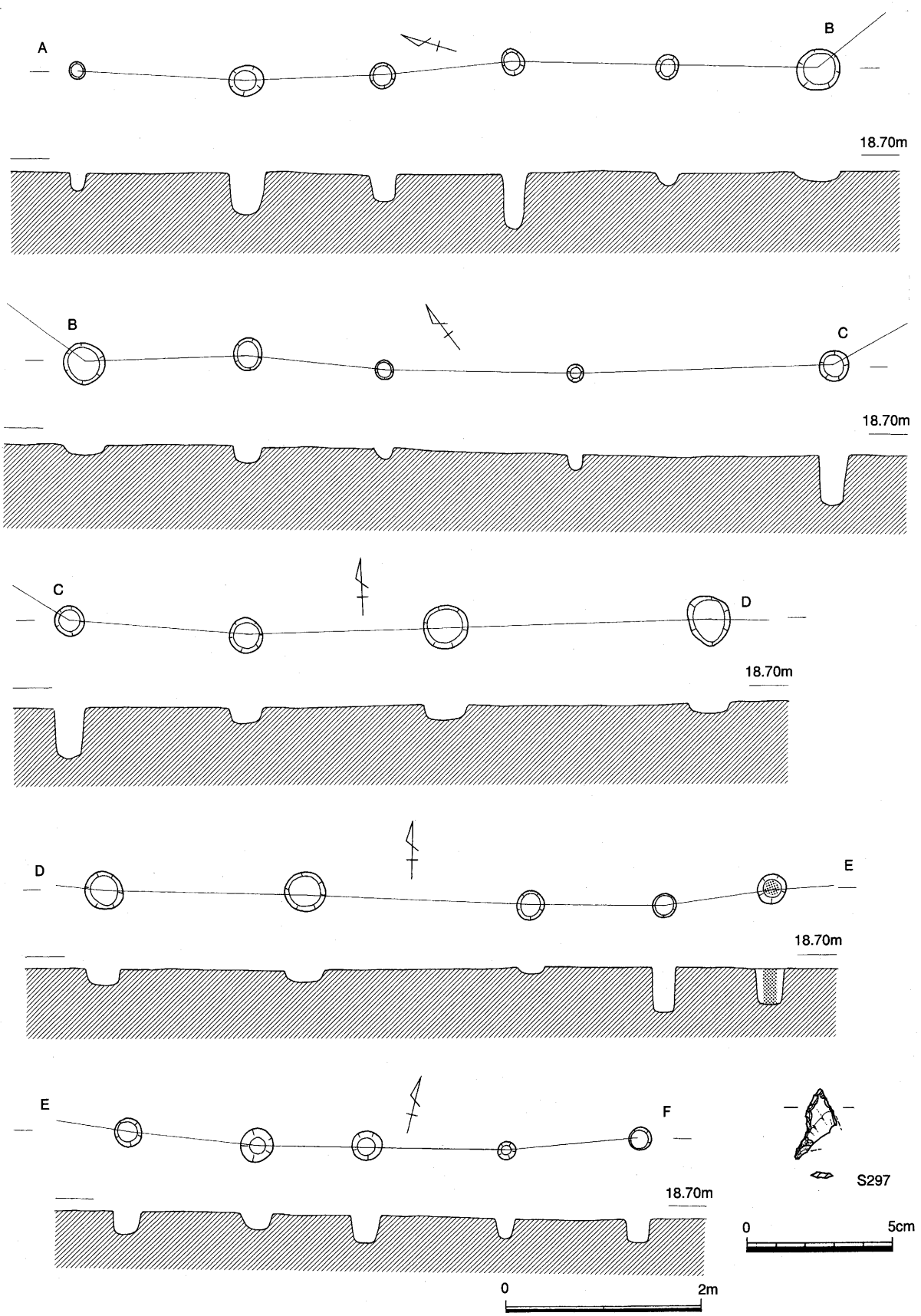
柵列8はほぼ東西方向に、5本の柱穴からなる柵列で、SB13、SB14、柵列9に隣接する。柱穴内には石が入るものもある。出土遺物は検出されていない。

9）柵列9（第103図）

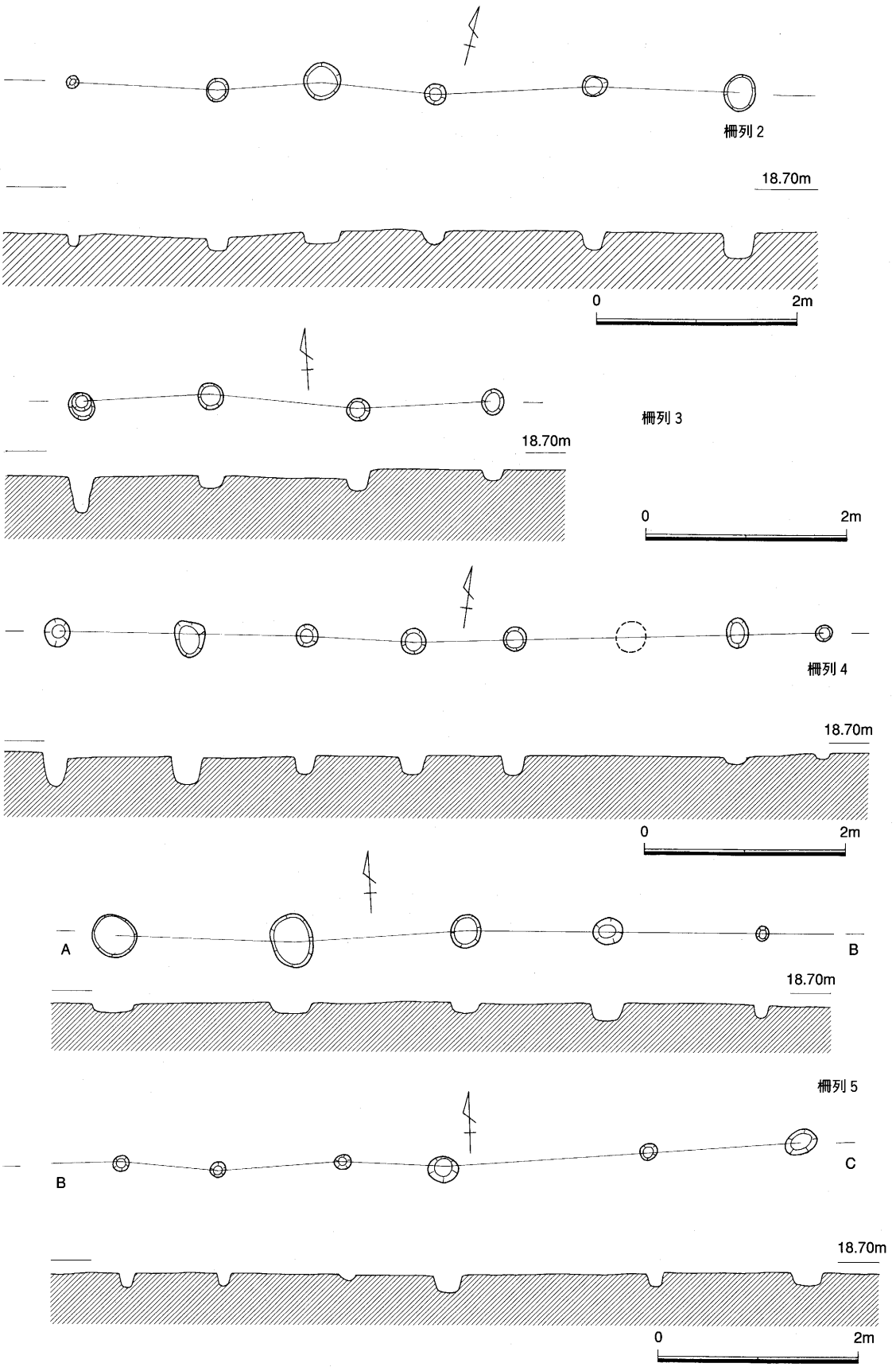
環濠集落のほぼ中心に南北方向に位置する柵列で、柵列8、柵列10と交わるが、前後関係は明らかではない。各柱穴は径12～30㎝の円形を呈し、削平が著しく残存状況は良好ではない。また、遺物も出土していない。

10）柵列10（第104図）

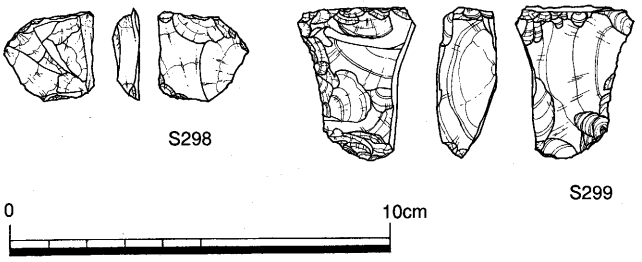
SH04に近接する東西方向の柵列で、8本の柱穴からなり、柱痕の残るものもある。埋土は暗灰褐色粘質土に黄褐色のブロックが混じり、人為的に埋め戻した可能性がある。遺物は泥質片岩製小形扁平片刃石斧が1点（**S302**）出土した。



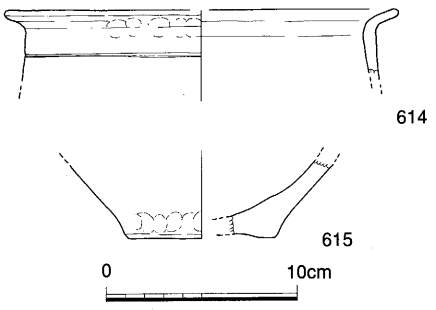
第99図　柵列１（S＝1/60）**・柵列１出土遺物**（S＝1/2）



第100図　柵列2・3・4・5（S=1/60）



第101図　柵列４出土遺物（S＝1/2）



第102図　柵列３・柵列５出土遺物（S＝1/4）

11）柵列11（第104図）

環濠集落の西に位置する。南北方向に6本の柱穴からなり、SH04、SB19、SB20と切り合っているが、前後関係は不明である。遺物は甕の口縁部２点、底部２点が出土した（**616～619**）。時期は弥生時代前期後半と考えられる。

12）柵列12（第107図）

調査区の北東部に位置し、南北方向に5本の柱穴からなる柵列である。SB25と重複するが、前後関係は明らかではない。遺物も検出されていない。

13）柵列13（第107図）

環濠集落の西端に位置する。南北方向に伸びる11本の柱穴からなり、削平が進んでいるため、残存状態は良好ではないが、柱痕が残るものもある。埋土は暗灰黄褐色粘質土で、柱痕は暗褐色粘質土である。遺物は出土していない。

14）柵列14（第107図）

環濠集落の北東部に位置し、SB26と近接しており、SH05に切られている。南北方向に伸びる5本の柱穴からなり、削平が著しいが、柱痕を残すものもある。埋土は黄灰褐色粘質土で、出土遺物は検出されていない。

15）柵列15（第107図）

環濠集落北東部に位置し、南北方向にのびる3本の柱穴からなる。SB27と隣接するが、前後関係は不明である。各柱穴は径30㎝前後の円形を呈し、深さも30㎝前後残存している。出土遺物は検出されていない。

16）柵列16（第107図）

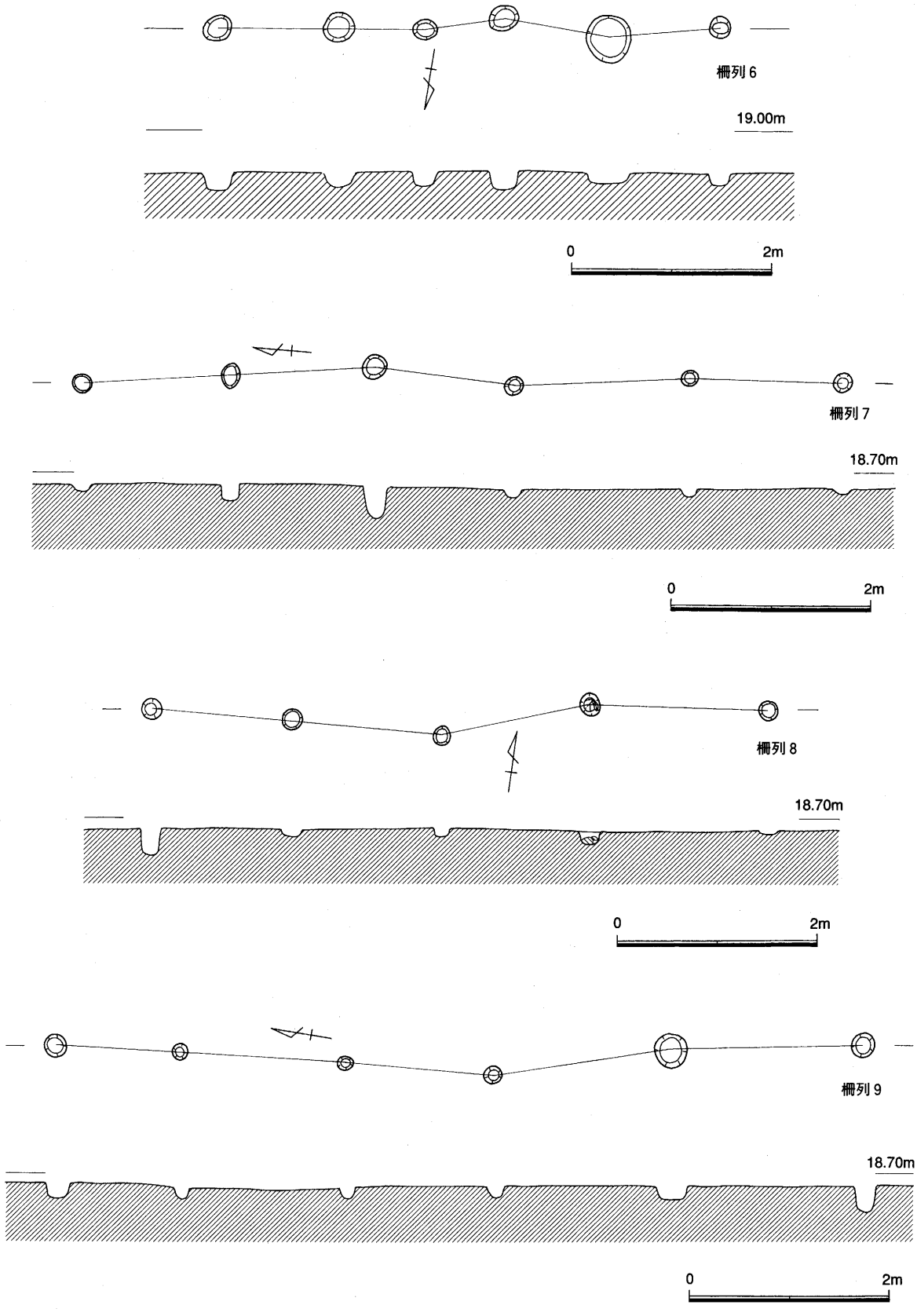
調査区の北東に位置する、南北方向にのびた4本の柱穴からなる柵列である。各柱穴は20～40㎝の円形ないし楕円形を呈し、その深さは削平されているが、30㎝ほど残存している。遺物は出土していない。

17）柵列17（第108図）

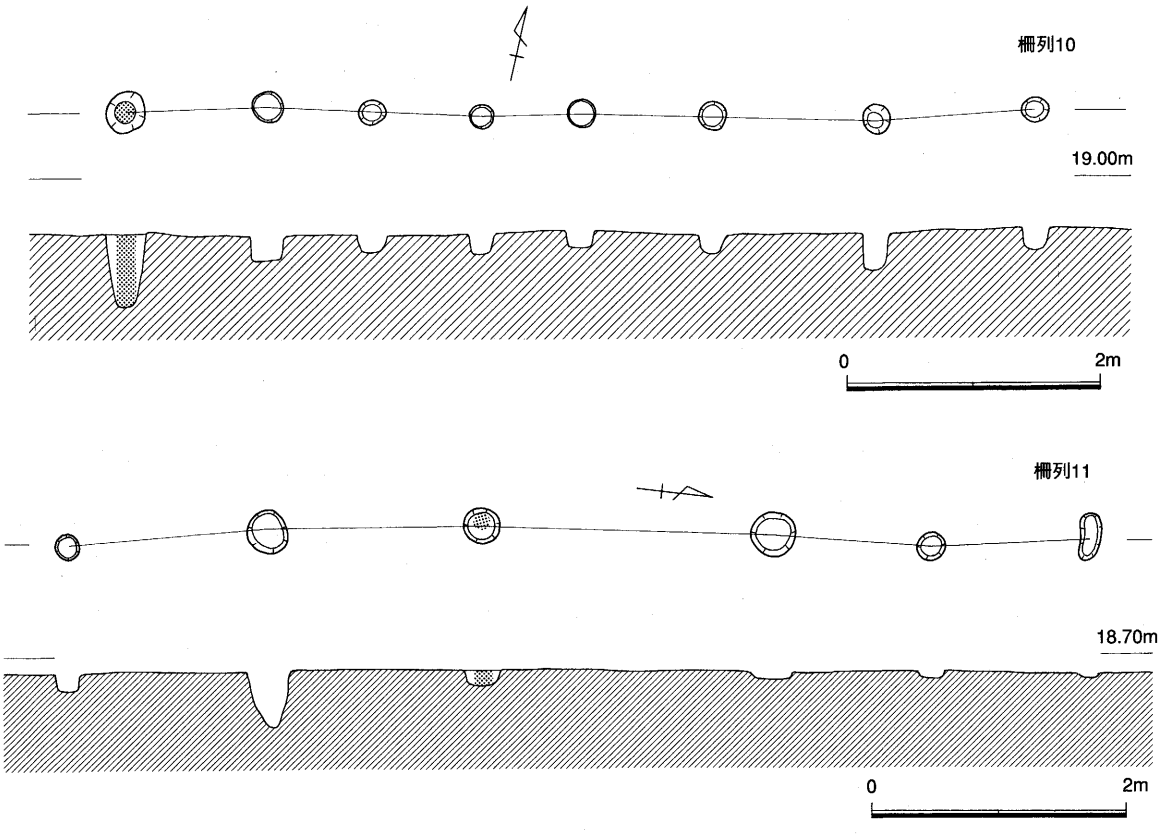
環濠集落の北部に位置し、東西方向にのびた5本の柱穴からなる。各柱穴は径20～50㎝の円形を呈し、柱痕を残すものもある。埋土はややしまった暗褐色粘質土で、黄褐色粘質土が部分的に混じる。出土遺物は検出されていない。

18）柵列18（第108図）

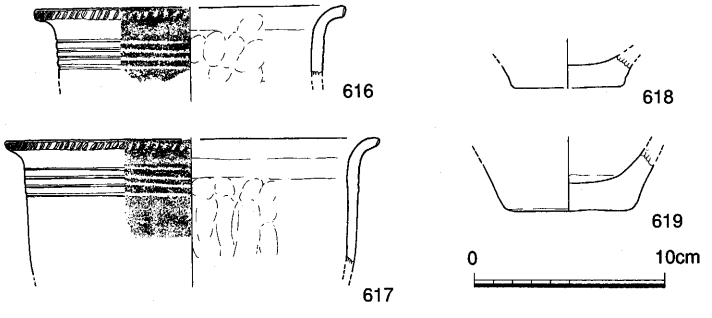
柵列18は環濠集落の北端に位置し、東西方向にのびる5本の柱穴からなる。各柱穴はいずれも径



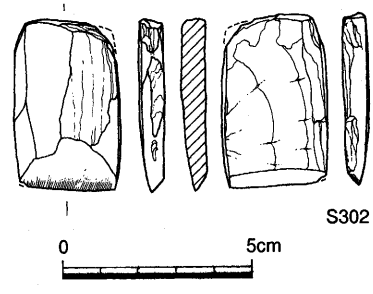
第103図　柵列6・7・8・9（S=1/60）



第104図　柵列10・11（S＝1/60）



第105図　柵列11出土遺物（S＝1/4）



第106図　柵列10出土遺物（S＝1/2）

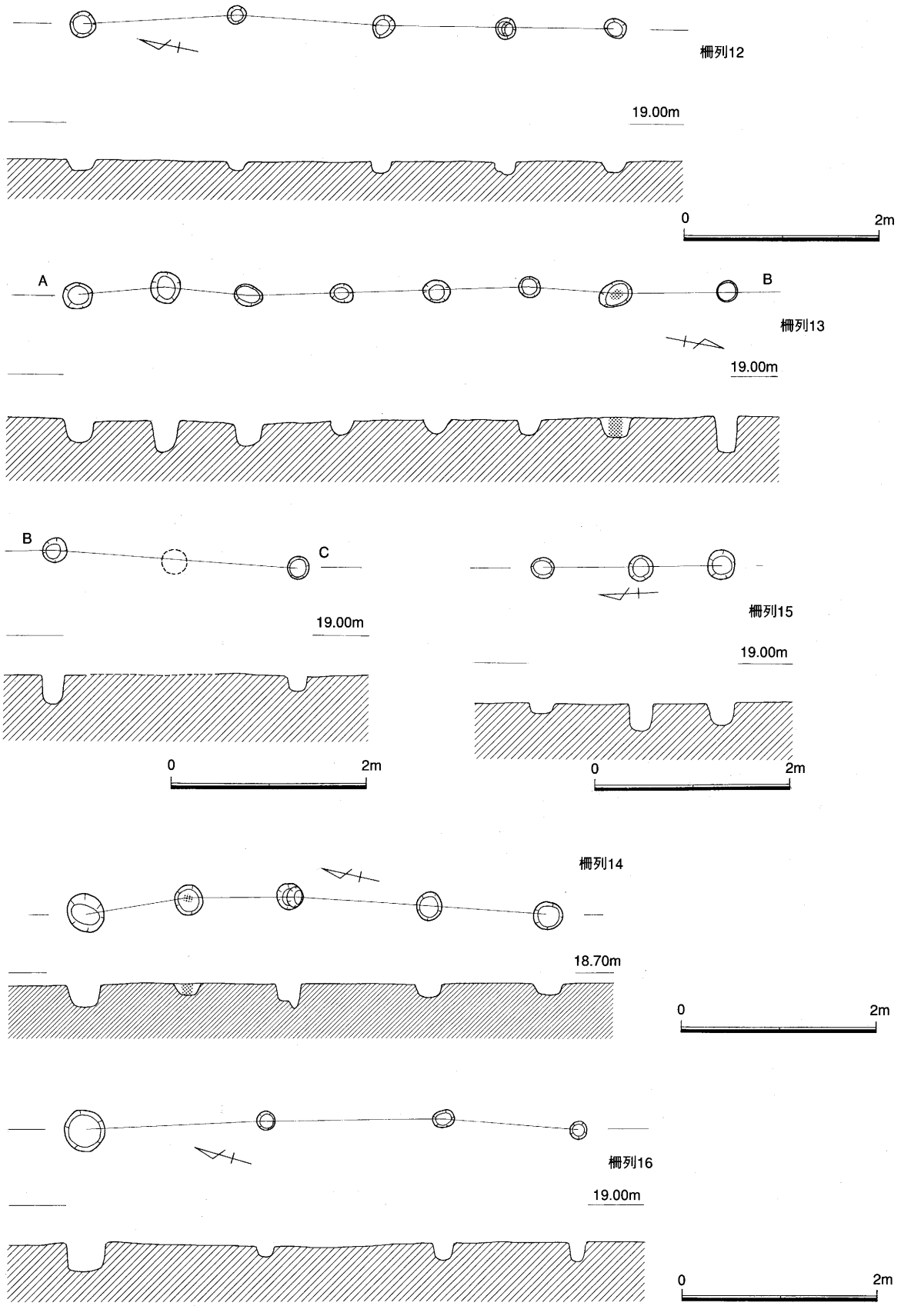
25cm前後の円形で、深さは20cmほどしか残存しておらず、削平がすすんでいる。遺物は検出されていない。

19）柵列19（第108図）

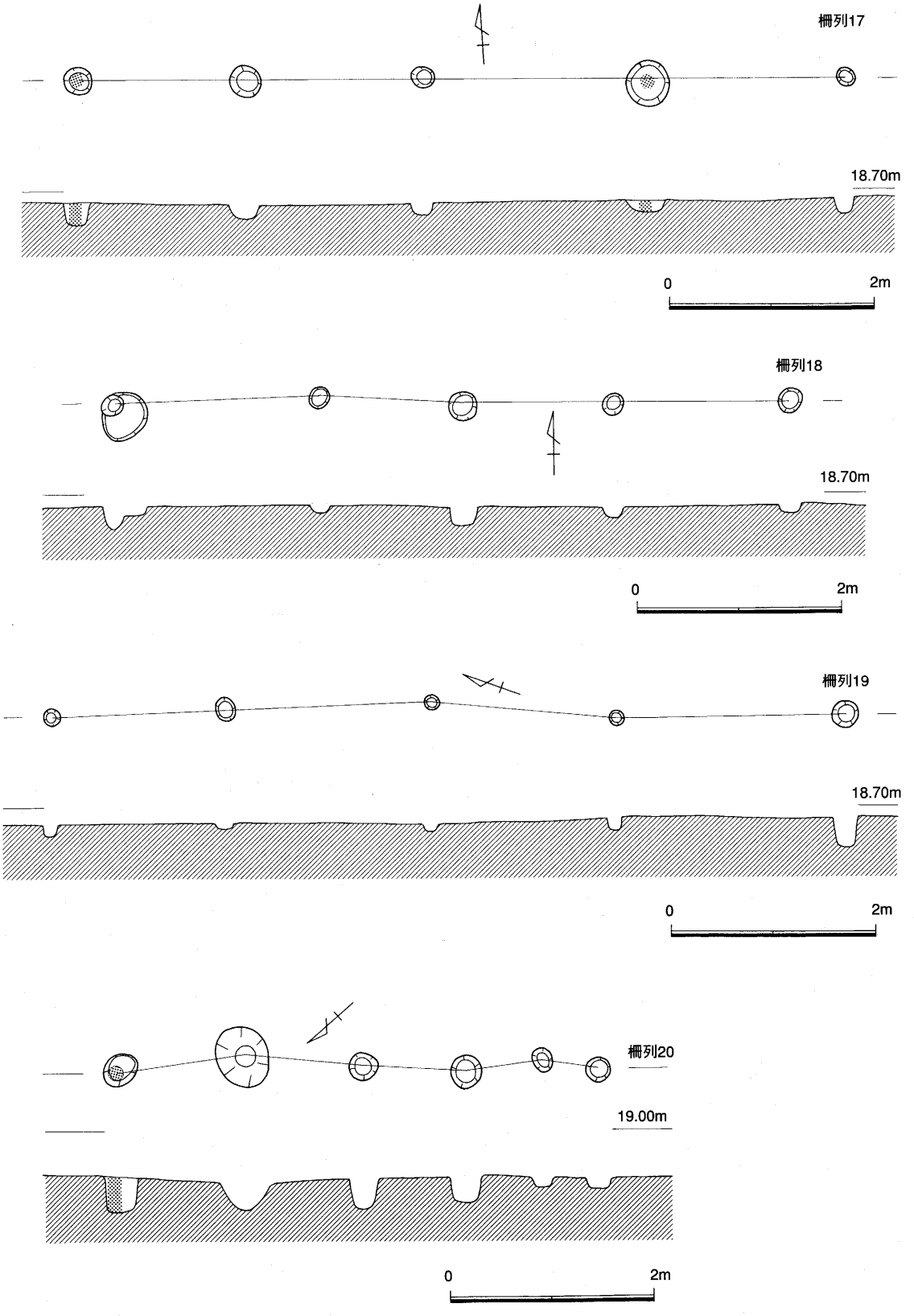
柵列19は環濠集落の北東端に位置し、南北方向にのびる5本の柱穴からなる。各柱穴は著しく削平がすすんでおり、残存状況は良好ではない。柵列17、SH05、SH06と近接するが、前後関係は不明である。遺物は出土していない。

20）柵列20（第108図）

環濠集落の北東端に位置し、環濠に沿った6本の柱穴からなる。残存状況は一様ではなく、削平の著しい部分とそうでない部分がある。柱痕を残すものもあり、埋土は暗褐色粘質土である。遺物は検出されていない。



第107図　柵列12・13・14・15・16（S=1/60）



第108図　柵列17・18・19・20（S＝1/60）

（6）柱穴

1）P01

調査区の南東に位置し、SH01と切り合っている。遺物は甕が1点（**620**）出土した。時期は弥生時代前期後半に位置付けられる。

2）P02

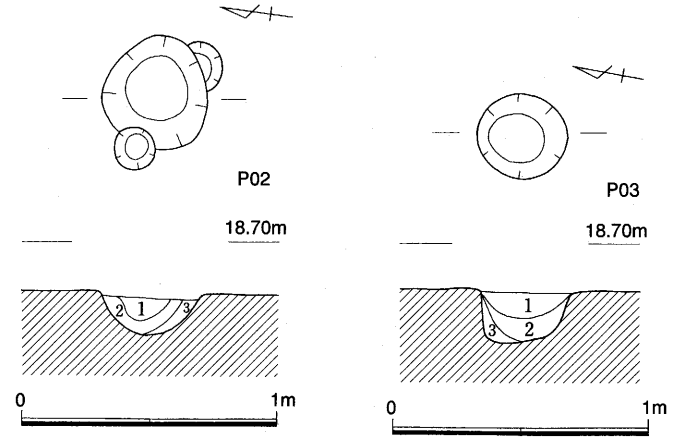
調査区の南東に位置し、SH01と切り合っている。平面形は円形を呈し、埋土は粘質の暗褐色土に黄褐色ブロックが混じる。

3）P03

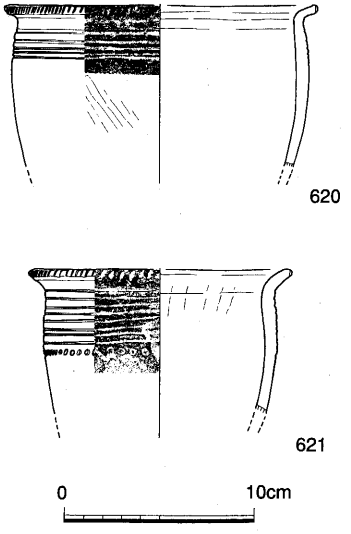
調査区の南東に位置し、P02と隣接するが、平面的につながる可能性は低い。円形を呈し、埋土は黄褐色ブロックが混じる粘質の暗褐色土で、炭化物もわずかに含む。

4）P04

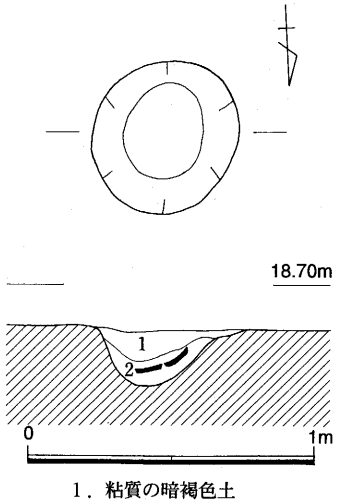
SH01に近接し、SD01を切っている。遺物は甕が1点出土した（**621**）。時期は弥生時代前期後半と



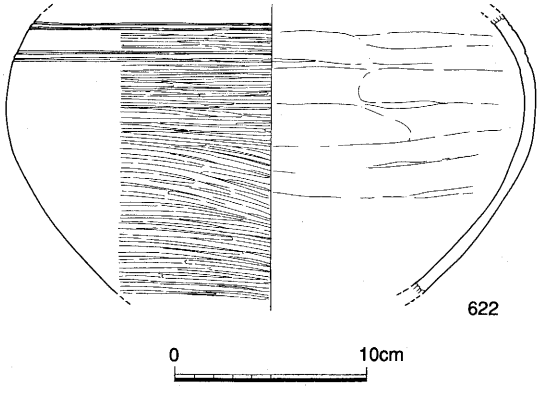
第109図　P02・P03（S=1/30）



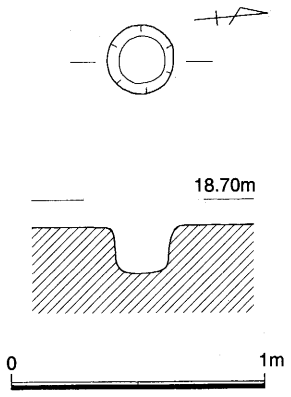
第110図　P01・P04出土遺物（S=1/4）



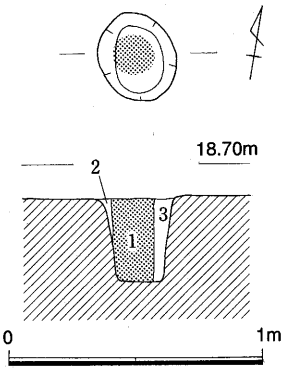
第111図　P05（S=1/30）



第112図　P05出土遺物（S=1/4）

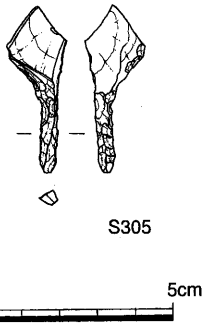


第113図　P08（S=1/30）

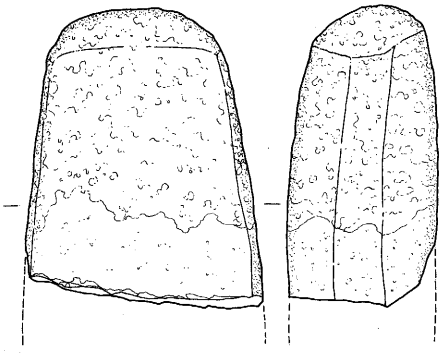


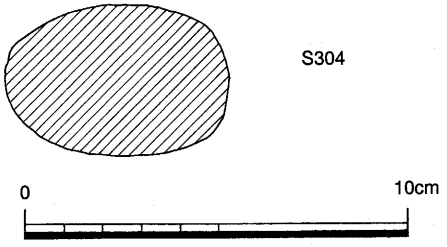
1．粘質の暗褐色土（焼土・炭を含む）
2．粘質の黄灰色土
3．粘質の灰褐色土（焼土・黄灰色ブロック含む）

第114図　P10（S=1/30）

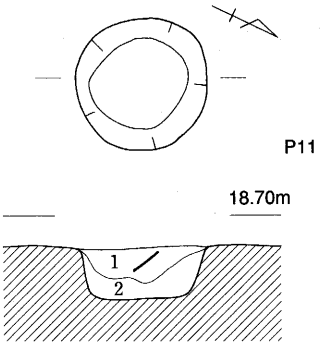


第115図　P10出土遺物（S=1/2）

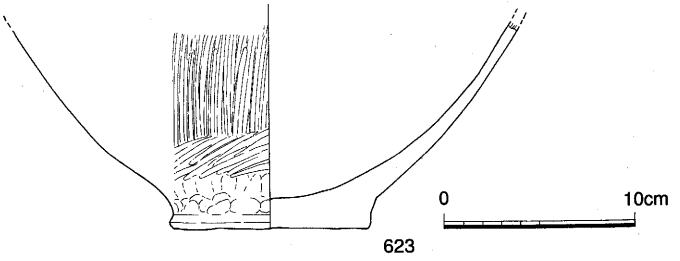




第116図　P09出土遺物（S=1/2）



1．暗灰褐色粘質土
2．黄灰褐色粘質土



第117図　P11（S=1/30）・P11出土遺物（S=1/4）

考えられる。

5）P05

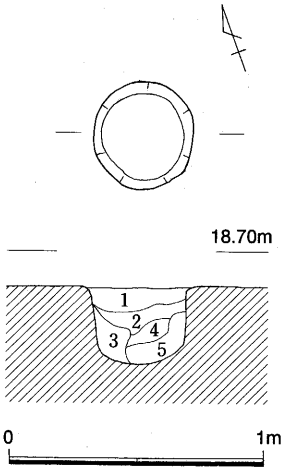
円形のピットで、SH01を切っている。削平のため、残存状況は良好ではない。埋土は粘質の暗褐色土である。遺物は壷の胴部が出土し（**622**）、時期は弥生時代前期後半と思われる。

6）P08

調査区の北東に位置するピットで、円形を呈する。遺物は出土していない。

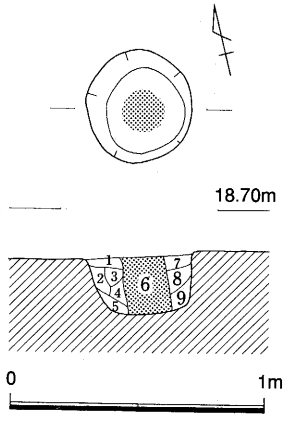
7）P09

SH01に近接するピットで、ヒン岩製の磨製石斧が出土した（**S304**）。**S304**は基部のみが残存するが、基端は摩滅が著しく、装着痕の可能性がある。



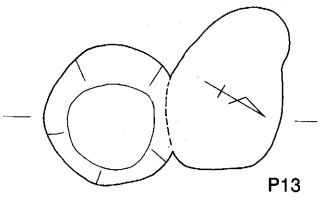
1．粘質の暗褐色土
2．粘質の暗褐色土
（わずかに粘質の黄褐色ブロックを含む）
3．粘質の黄褐色土
4．粘質の黄褐色土
5．砂質の灰黄褐色土

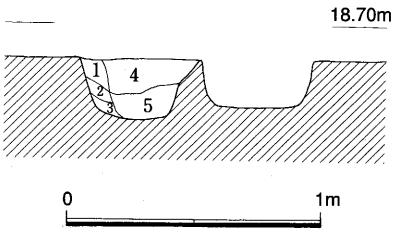
第118図　P12（S=1/30）



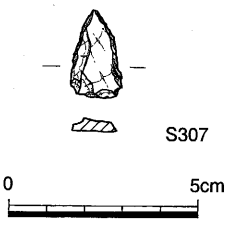
1．粘質の暗褐色土
2．砂質の灰黄褐色土
3．灰黄色ブロック
4．砂質の灰黄褐色土
5．粘質の黄褐色土
6．粘質の暗褐色土
（マンガンを含む）
7．粘質の暗褐色土
8．粘質の暗灰褐色土
9．粘質の黄褐色土

第119図　P14（S=1/30）

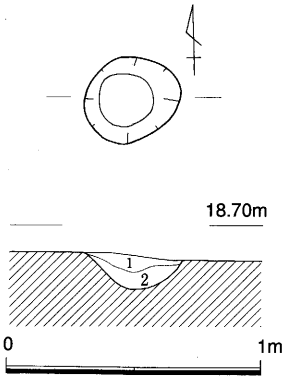




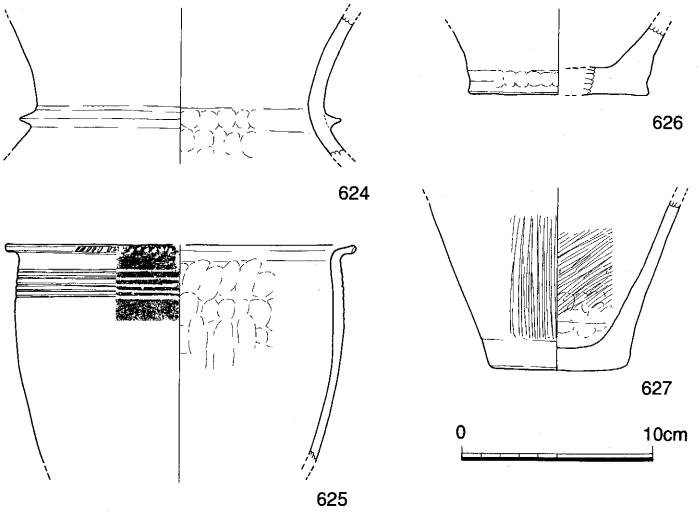
1．粘質の黄褐色土
2．粘質の灰黄褐色土
3．砂質の灰黄褐色土
4．粘質の暗褐色土（土器破片を含む）
5．粘質の黄褐色土



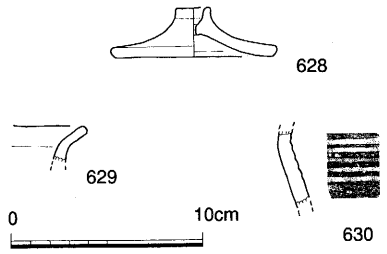
第120図　P13（S=1/30）・
P13出土遺物（S=1/2）



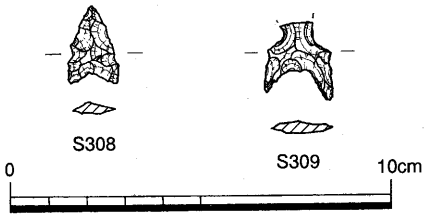
1．粘質の暗褐色土（マンガンを含む）
2．粘質の黄褐色土（マンガンを含む）



第121図　P16（S=1/30）・**P16出土遺物**（S=1/4）



第122図　P17・P18出土遺物（S＝1/4）



第123図　P19・P20出土遺物（S＝1/2）

8）P10

調査区の北東に位置する円形のピットで、柱痕を有する。遺物はサヌカイト製石錐が2点出土した（**S305**）。

9）P11

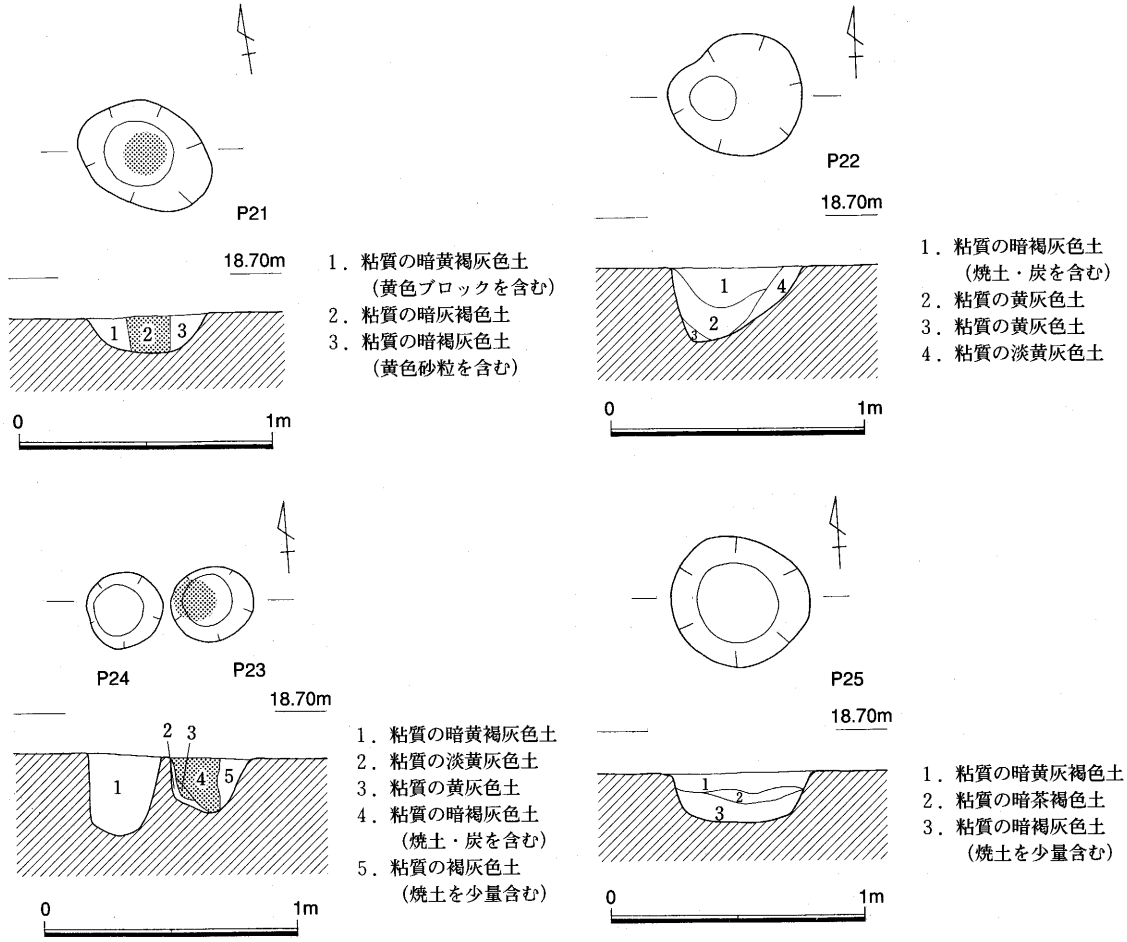
調査区の東端に位置し、SK11に近接する。埋土は粘質の暗灰褐色土で、遺物は壷の底部が出土した（**623**）。

10）P12

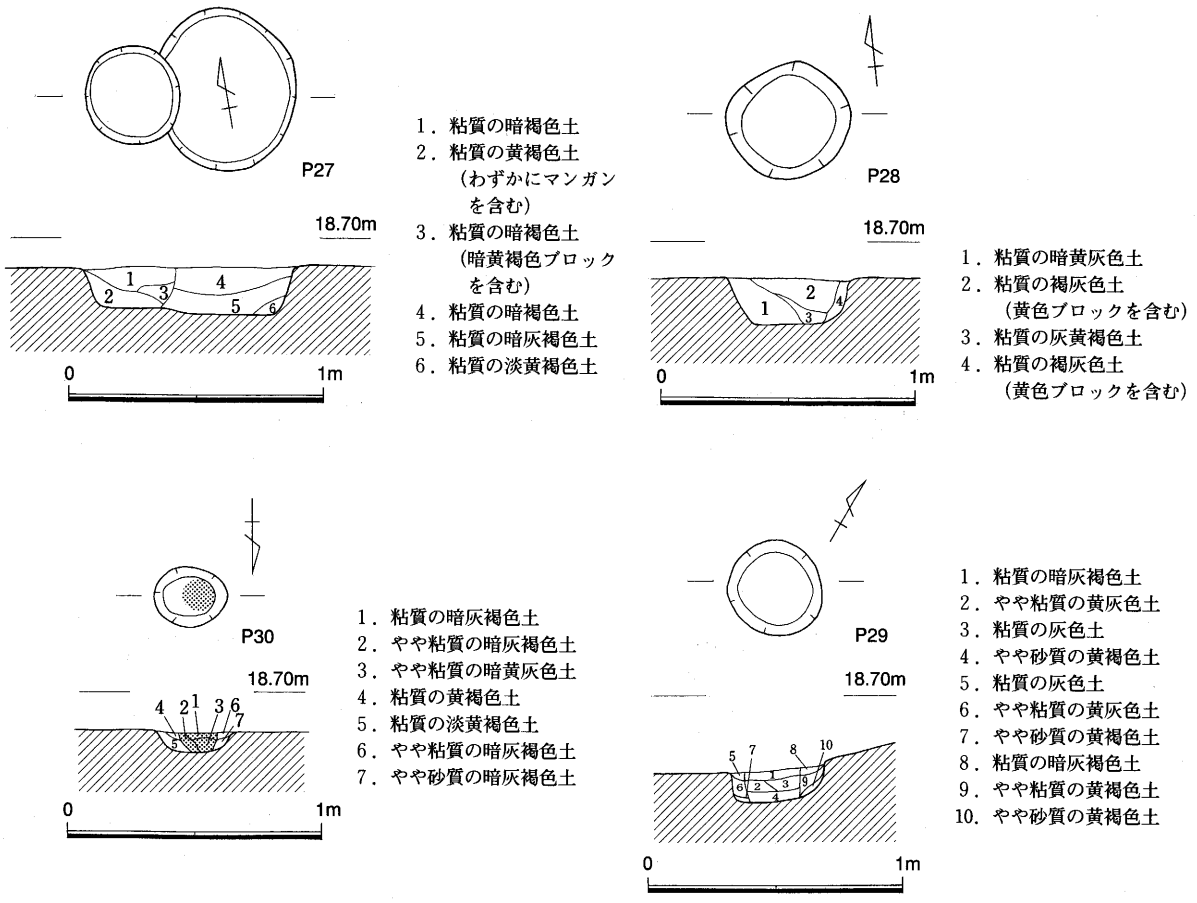
環濠集落の南側に位置し、SB02、柵列１に近接する円形を呈するピットである。埋土は主として粘質の暗褐色土で、わずかに黄褐色ブロックを含む。

11）P13

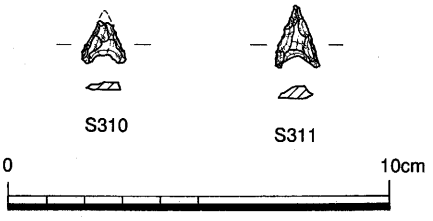
環濠集落の南側から検出した。SB02を切っている。埋土は粘質の暗褐色土で、遺物は土器片数点と、サヌカイト製打製石鏃（**S307**）、剥片が出土した。**S307**は完形である。



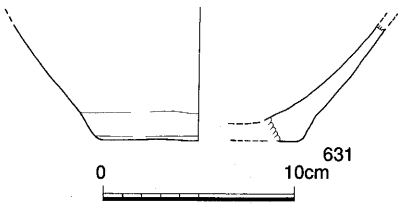
第124図　P21・22・23・24・25（S＝1/30）



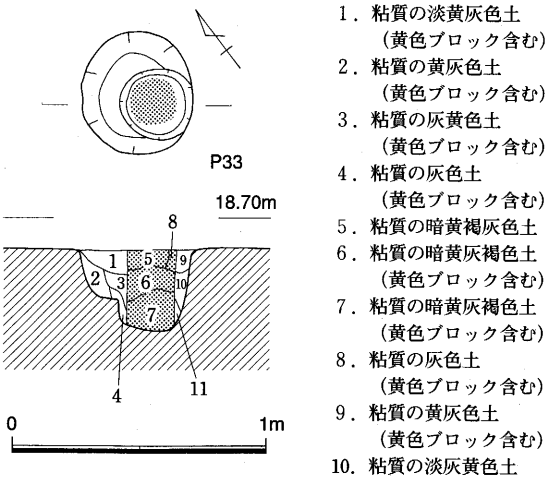
第125図　P27・28・29・30（S=1/30）



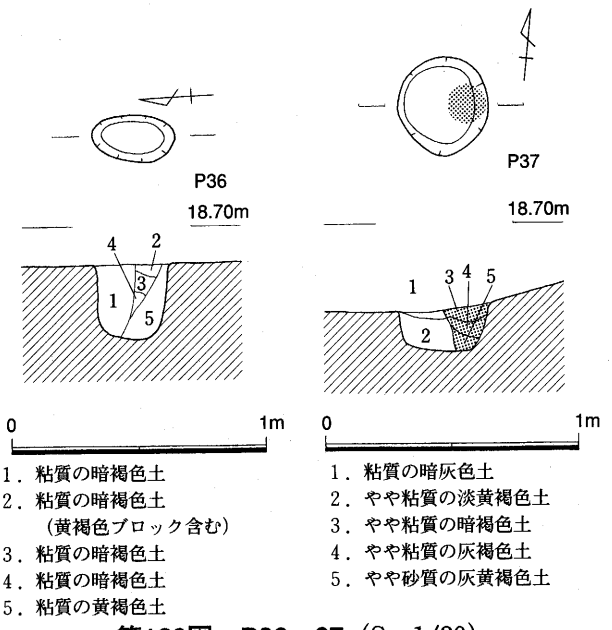
第126図　P31・P34出土遺物（S=1/2）



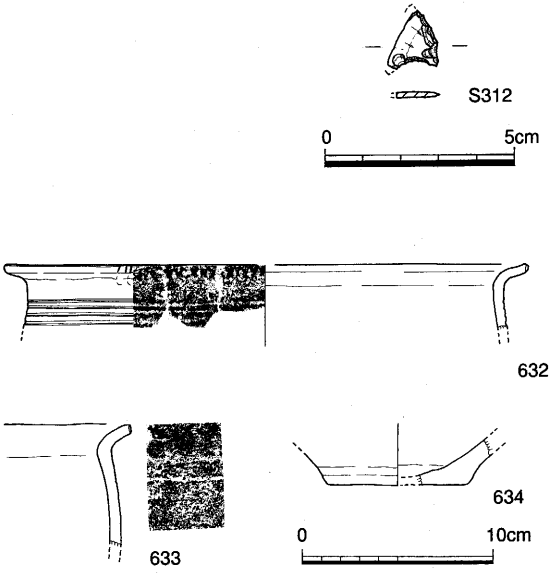
第127図　P32出土遺物（S=1/4）



第128図　P33（S=1/30）



第129図　P36・37（S＝1/30）



第130図　P37・38出土遺物（S＝1/2・1/4）

12）P14

環濠集落の南部に位置し、柵列1に近接している。平面形は円形で、柱痕を有する。埋土は主として粘質の暗褐色土で、黄褐色ブロックを含む。

13）P16

SB11に隣接する、粘質の暗褐色土のピットである。遺物は壷、甕が出土した（**624～627**）。時期は弥生時代前期後半と考えられる。

14）P17～P20

いずれも環濠集落南部に位置する円形のピットで、それぞれの平面的なつながりは不明である。**628・629**はP17から検出された土器で、**628**は壷の蓋で、つまみの部分に孔が穿ってある。**629**は甕である。**630**はP18から出土した。おそらく、やや胴の張る甕の破片と思われる。**S308**はP19から、**S309**はP20から出土したサヌカイト製の打製石鏃である。**S308**は完形であるが、**S309**は先端部を欠損する。これらの遺物から、少なくともP17、P18は弥生時代前期後半に位置付けられる遺構と考えられる。

15）P21～P25

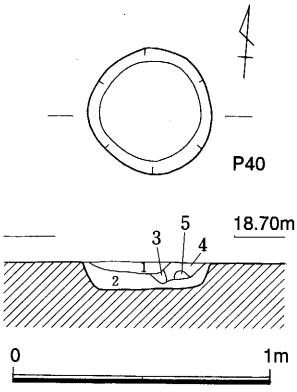
環濠集落南部に位置する円形から楕円形をなすピットで、P21、P23は柱痕を有する。いずれも他の遺構との平面的なつながりは考えにくい。埋土はいずれも暗褐灰色から暗褐色の粘質土で、P21には黄褐色ブロックが混じる。また、P22～P25は埋土中に焼土、炭化物がわずかに混じる。

16）P27～P30

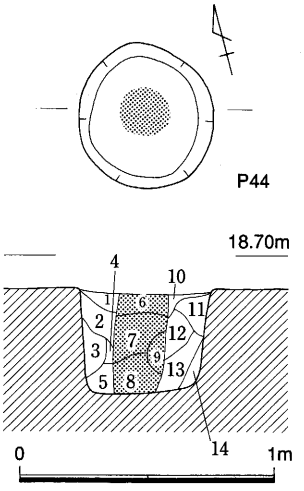
いずれも環濠集落の南西部に位置する円形のピットで、P30は柱痕を有する。埋土は主として暗褐色から暗灰褐色の粘質土で、黄褐色土あるいは黄褐色砂質土が混じる。P27・P29からは土器片が検出されたが、細片のため図化できなかった。

17）P31・P34

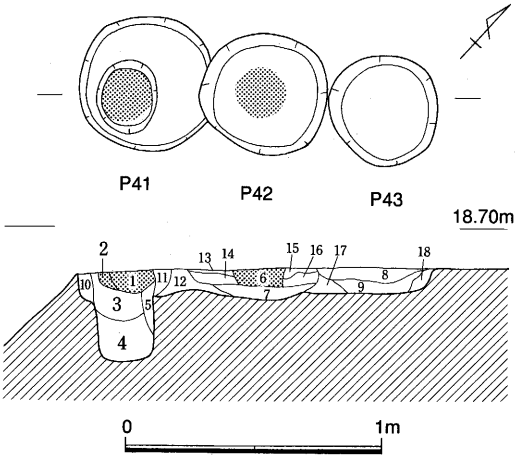
環濠集落の西側に位置し、SB18・SB19に近接する円形のピットである。遺物はそれぞれサヌカイト製の打製石鏃が1点ずつ出土した。**S310**はP31から検出され、先端部を欠損し、**S311**はP34から出土し、完形である。



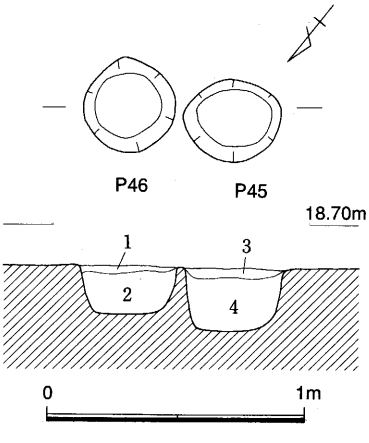
1．粘質の暗褐色土
（マンガンを含む）
2．粘質の暗灰褐色土
（やや粘質の黄褐色土を含む）
3．砂質の灰褐色ブロック
4．粘質の暗褐色土
（マンガンを少量含む）
5．やや粘質の灰褐色土



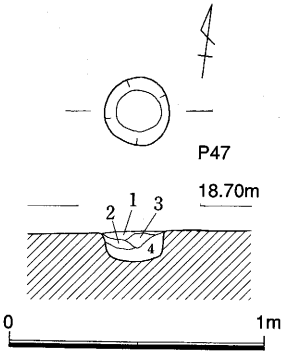
1．粘質の淡灰褐色土
2．粘質の淡灰褐色土
（黄褐色ブロックを含む）
3．粘質の淡黄褐色ブロック
4．粘質の暗灰褐色土
5．粘質の黄褐色土
6．粘質の暗褐色土
7．粘質の暗褐色土
（黄褐色ブロックを含む）
8．やや粘質の暗灰褐色土
（黄褐色ブロックを含む）
9．粘質の淡黄褐色ブロック
10～12．粘質の淡灰褐色土
13．粘質の灰黄褐色土



1．粘質の暗褐色土
2．やや粘質の黄褐色土
3．粘質の黄灰褐色土
4．粘質の淡黄褐色土
5．やや粘質の黄褐色土
6．粘質の暗褐色土
7．粘質の黄褐色土
8．粘質の暗灰褐色土
9．やや粘質の淡黄褐色土
10．粘質の黄褐色土
11．粘質の灰黄褐色土
12．粘質の黄褐色土
13．やや粘質の黄褐色土
14．やや砂質の灰色土
15．やや粘質の淡黄褐色土
16．やや砂質の淡黄褐色土
17．粘質の黄褐色土
18．粘質の淡黄褐色土

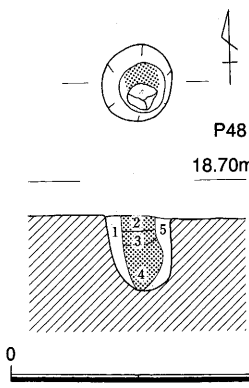


1．粘質の暗灰褐色土
2．粘質の黄褐色土
3．粘質の暗灰褐色土
4．粘質の黄褐色土

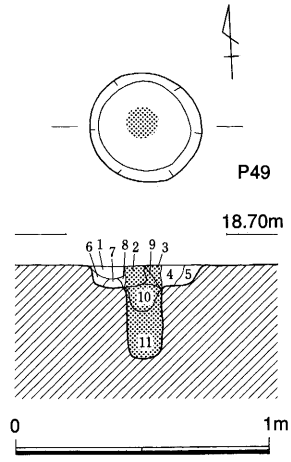


1．粘質の暗灰褐色土
2．粘質の暗褐色土
3．粘質の暗黄褐色土
4．粘質の淡黄褐色土

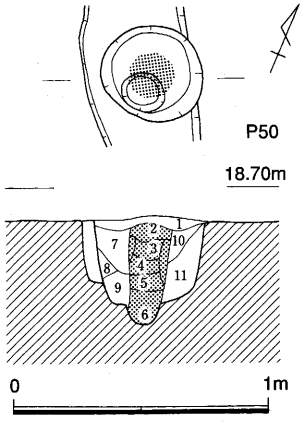
第131図　P40・41・42・43・44・45・46・47（S＝1/30）



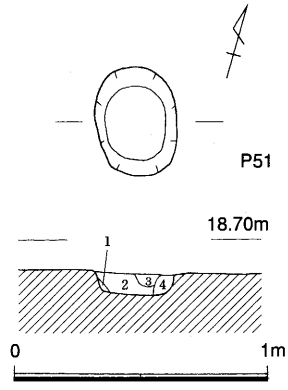
1．粘質の暗灰褐色土
（灰褐色砂質ブロックを含む）
2．粘質の暗褐色土
（わずかにマンガンを含む）
3．粘質の暗褐色土
4．粘質の暗褐色土



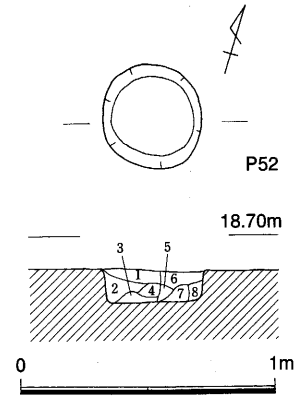
1．粘質の暗灰褐色土
2．粘質の暗灰褐色土
3．粘質の暗灰褐色土
4．粘質の暗灰褐色土
5．黄褐色ブロック
6．灰黄褐色ブロック
7．粘質の灰褐色土
8．灰黄褐色ブロック
9．灰褐色ブロック
10．やや砂質の灰褐色土
11．砂質の灰黄褐色土



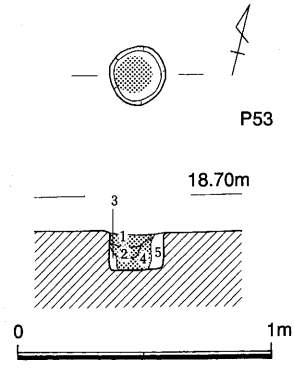
1．粘質の暗褐色土
2．粘質の暗褐色土
（マンガンを含む）
3．粘質の暗茶褐色土
（炭・焼土を含む）
4．やや砂質暗灰褐色土
5．砂質の灰色土
6．やや砂質の灰色土
7．やや砂質の黄褐色土
8．やや砂質の灰色土
9．砂質の淡黄褐色土
10．やや砂質の黄褐色土
11．砂質の淡黄褐色土



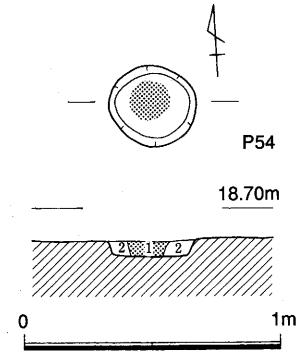
1．粘質の淡黄褐色土
2．粘質の暗褐色土
3．粘質の黄褐色土ブロック
4．粘質の淡黄褐色土



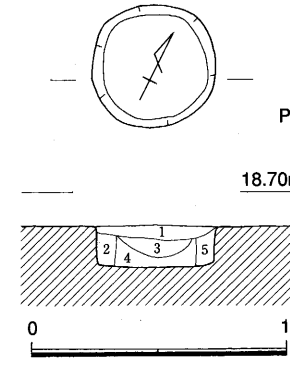
1．粘質の暗褐色土
2．粘質の暗灰褐色土
（マンガン含む）
3．粘質の暗灰褐色土
（黄褐色ブロックを含む）
4．粘質の暗褐色土
5．粘質の暗黄褐色土
6．粘質の暗褐色土
7．粘質の黄褐色土ブロック
8．粘質の淡黄灰褐色土



1．粘質の暗褐色土
2．粘質の暗褐色土
3．粘質の暗灰褐色土
4．粘質の暗褐色土
5．粘質の暗褐色土

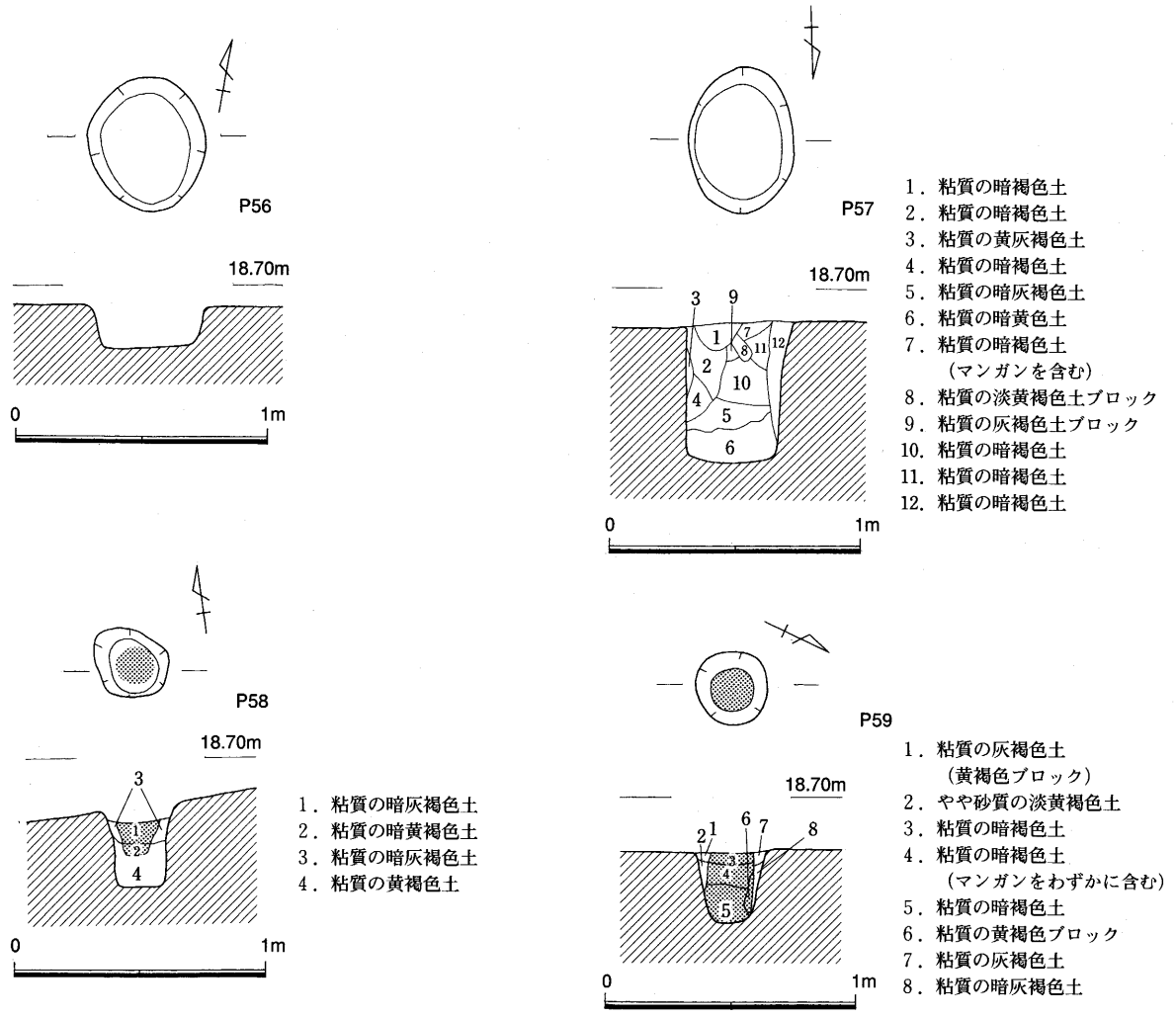


1．粘質の暗灰褐色土
（マンガン含む）
2．粘質の黄褐色土



1．粘質の黄灰褐色土
2．粘質の黄褐色土
3．粘質の黄灰褐色土
4．やや砂質の黄灰褐色土
5．粘質の黄褐色土

第132図　P48・49・50・51・52・53・54・55（S＝1/30）



第133図　P56・57・58・59（S＝1/30）

18）P32

環濠集落の西側から検出された、円形を呈するピットである。遺物は壷の底部が出土した（**631**）。時期は弥生時代前期と思われる。

19）P33

SH04、SB18、SB19と近接するピットである。柱痕を有し、埋土は粘質の灰色土・粘質の黄灰色土で、黄色ブロックが混じる。人為的に埋め戻された可能性がある。平面的なほかの遺構とのつながりは不明である。

20）P36

環濠集落の西側に位置する楕円形のピットである。埋土は粘質の暗褐色土にマンガンが混じる。遺物は検出されなかった。

21）P37

環濠集落の西側に位置する円形のピットで、埋土は主として暗褐色～灰黄褐色の粘質土に灰黄褐色の砂質土が混じる。遺物はサヌカイト製の打製石鏃が1点出土した（**S312**）。**S312**は先端部および左側縁を欠損する。

22）P38

環濠集落のほぼ中心に位置し、SK18、SK19を切っている円形のピットである。遺物は壷の底部が1点、甕の口縁が2点出土した（**632～634**）。遺物から、時期は弥生時代前期後半と考えられる。

23）P40

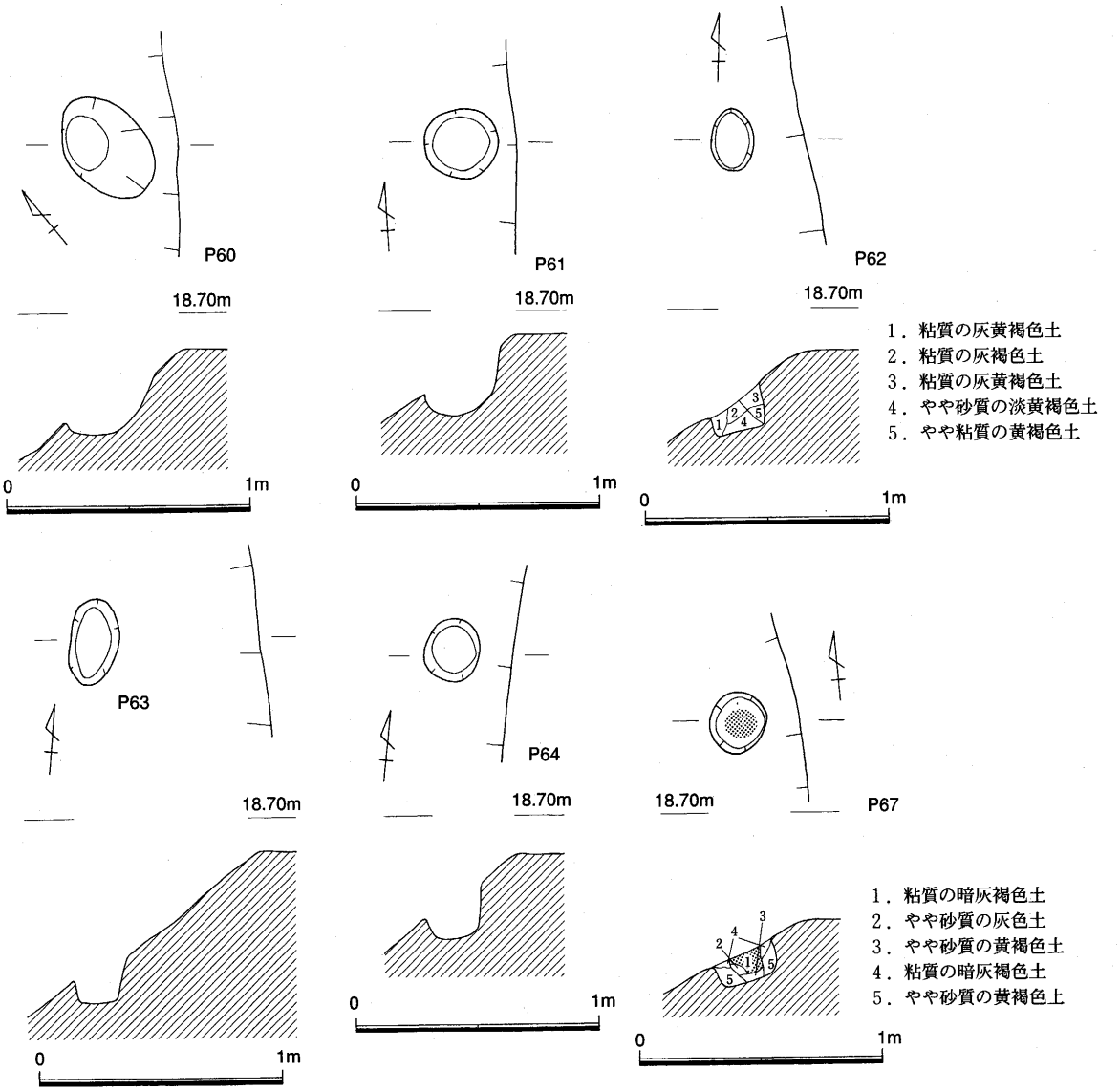
調査区の東に位置し、柵列12と近接する。埋土は粘質の暗褐色～暗灰褐色土に粘質の黄褐色土が混じる。遺物は検出されてない。

24）P41～P46

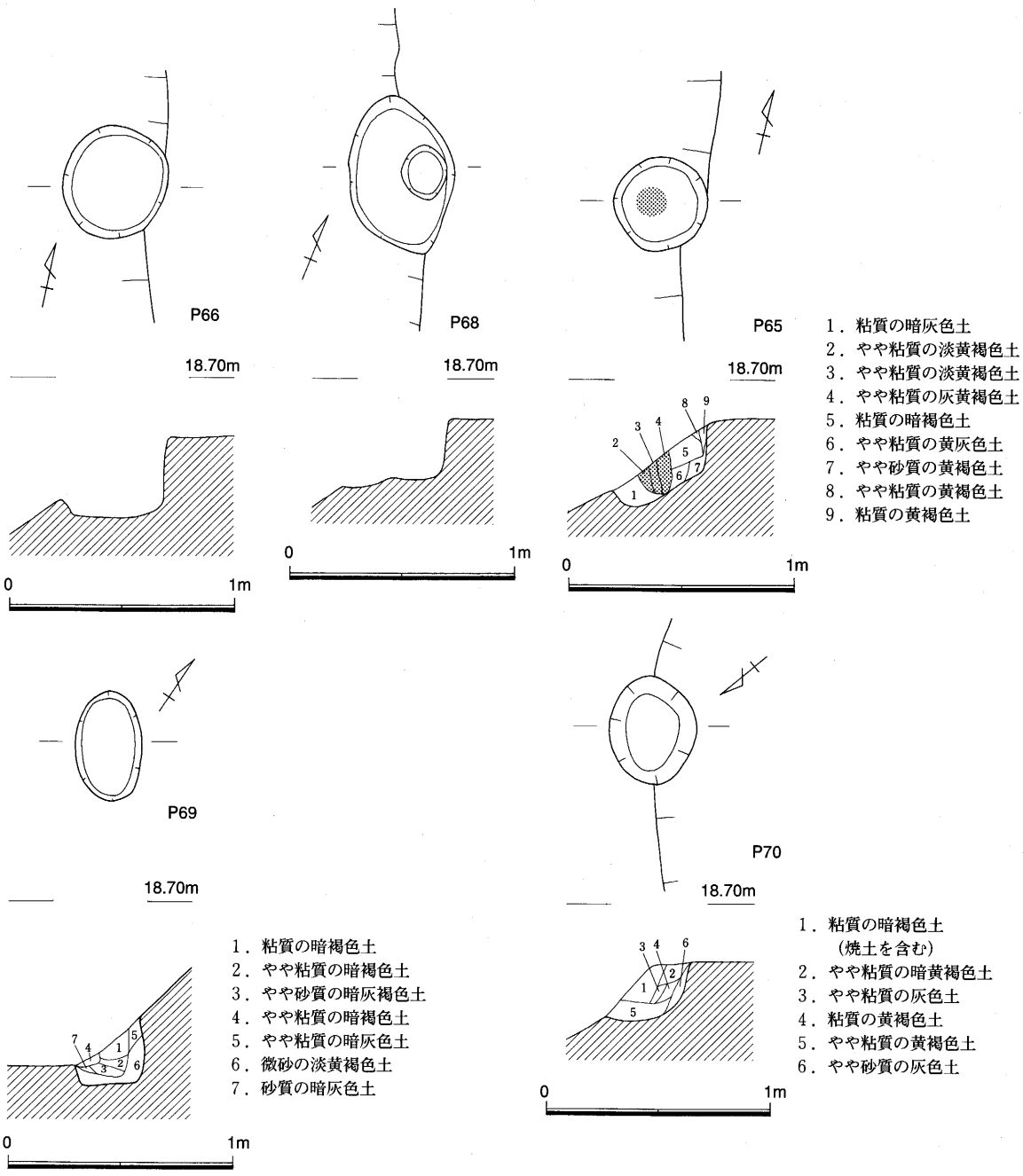
環濠集落の西端に位置し、いずれも円形を呈するピットで、P41・P42・P44は柱痕を有する。埋土は共通して、粘質の黄褐色～黄灰褐色土で、P44は黄色ブロックが混じる。遺物は検出されていない。

25）P47

環濠集落の北側に位置し、SK21に近接するピットで、埋土は粘質の暗褐色～暗灰褐色土である。



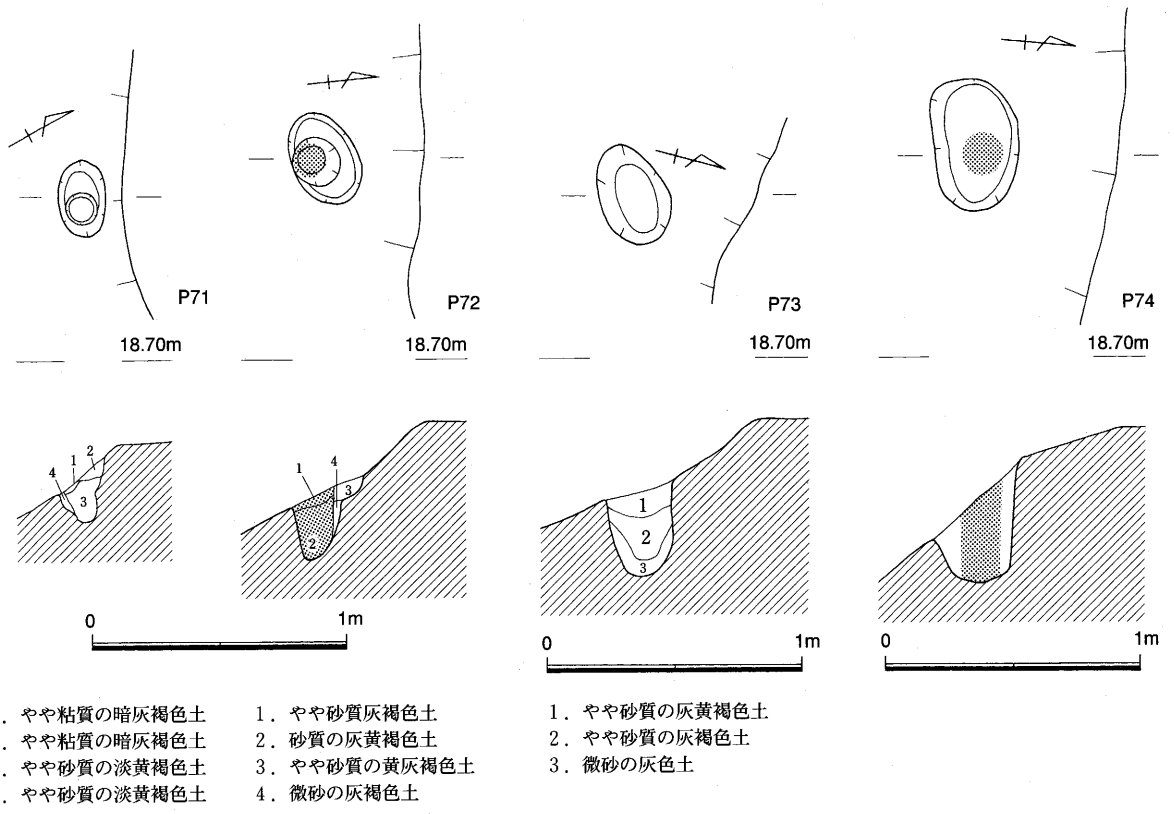
第134図　P60・61・62・63・64・67（S＝1/30）



第135図　P65・66・68・69・70（S=1/30）

26）P48～P59

環濠集落の北側に位置し、平面形はいずれも円形を呈し、柱痕を有するものもある。ほかの遺構との平面的なつながりは不明である。P48の埋土は粘質の暗灰褐色土で、粘質の暗褐色土の柱痕がある。また礫が入るが、土器などは検出されていない。P50は溝を切っており、柱痕が明瞭に残る。P51～P56は削平がおよんでおり、残存状況は良好ではない。P57の埋土は粘質の暗褐色～暗灰褐色土で、黄褐色ブロックが混じる。P59の埋土は粘質の灰褐色～暗灰褐色土に黄褐色ブロックが混じる。また、粘質の暗褐色土の柱痕が明瞭に残存する。



1．やや粘質の暗灰褐色土
2．やや粘質の暗灰褐色土
3．やや砂質の淡黄褐色土
4．やや砂質の淡黄褐色土

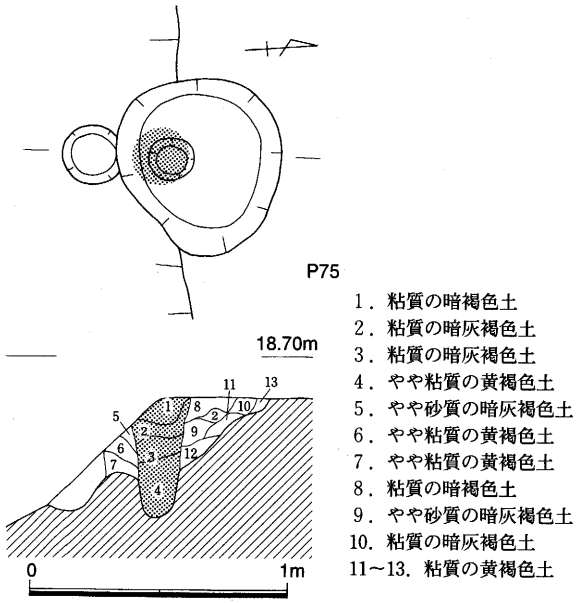
1．やや砂質灰褐色土
2．砂質の灰黄褐色土
3．やや砂質の黄灰褐色土
4．微砂の灰褐色土

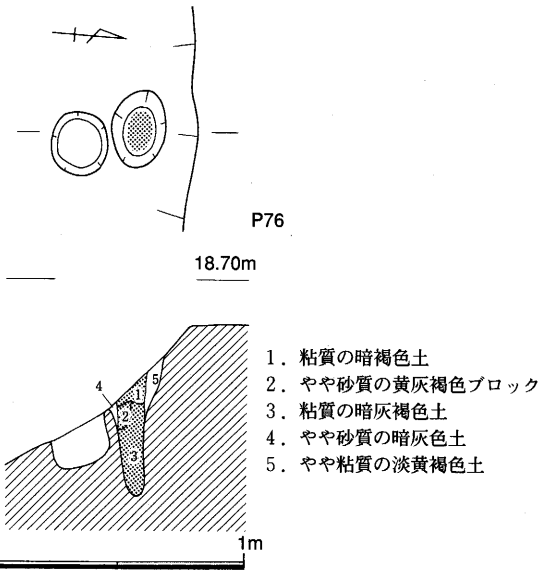
1．やや砂質の灰黄褐色土
2．やや砂質の灰褐色土
3．微砂の灰色土

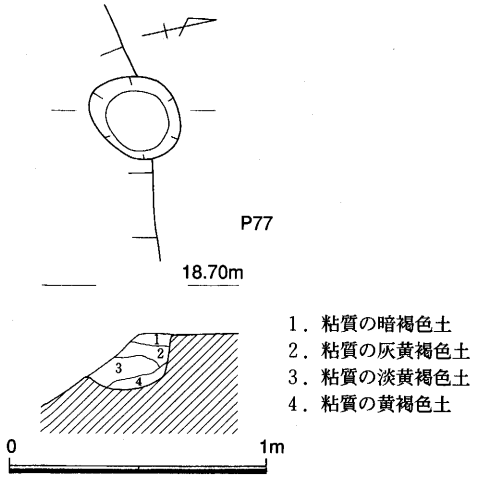
第136図　P71・72・73・74（S＝1/30）

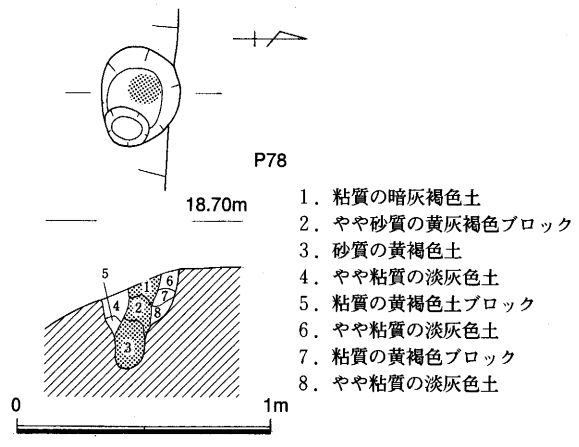
27）P60～P80

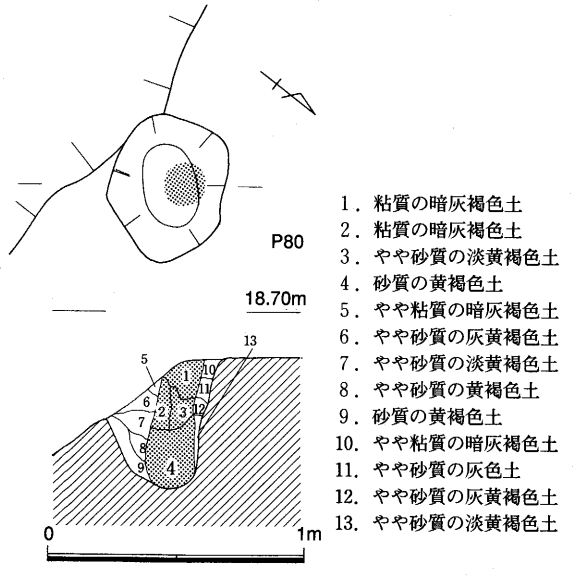
P60～P80は環濠の肩に位置するピットである。環濠の落ちに沿って検出され、それらは平面的な広がりや関係は不明だが、不規則な間隔で環濠の周りをめぐっている。各柱穴の平面形は円形のものから楕円形のものまであり、また、柱痕を有するものもある。残存状況は良好なものと削平のすすんだものがあり、一様ではない。P62の埋土は粘質の灰黄褐色～灰褐色土で、黄褐色ブロックが混じる。P67の埋土は砂質の黄褐色～灰色土に粘質の暗灰褐色土の柱痕を有する。P72は楕円形を呈し、深さは約50㎝残存している。埋土は黄灰褐色ないし灰褐色の砂質土に、灰褐色の柱痕を有するピットである。P75の埋土は暗灰褐色～黄褐色の粘質土ないし砂質土で、黄色ブロックが混在する。また、柱痕は暗褐色～暗灰褐色の粘質土で下部へいくほど、黄味が増し、やや砂質になる。P76は楕円形を呈するピットで柱痕が良好に残存する。深さは約85㎝で、埋土は砂質の暗灰色土で、粘質の暗褐色～暗灰褐色土の柱痕が残る。すぐ南に近接した柱穴がみられるが、両者の関係は不明である。P78はピットが切り合った状態で検出された。埋土は粘質の淡灰色土に黄褐色ブロックが混じる。柱痕の埋土は粘質の暗灰褐色～黄褐色土である。P79からは**635～637**の土器が出土した。**635・636**は無文の甕で、**637**は壷の底部である。甕の口縁部から、時期は弥生時代前期後半と考えられる。P80の平面形はいびつな円形を呈し、柱痕を有する。埋土は主に灰色～灰黄褐色の砂質土で、柱痕は暗灰褐色粘質土および黄褐色砂質土である。これら環濠肩に位置する柱穴の平面的な広がりについては、遺構の考察の項で改めて述べたい。また、P79以外のいずれの柱穴も遺物は出土していない。

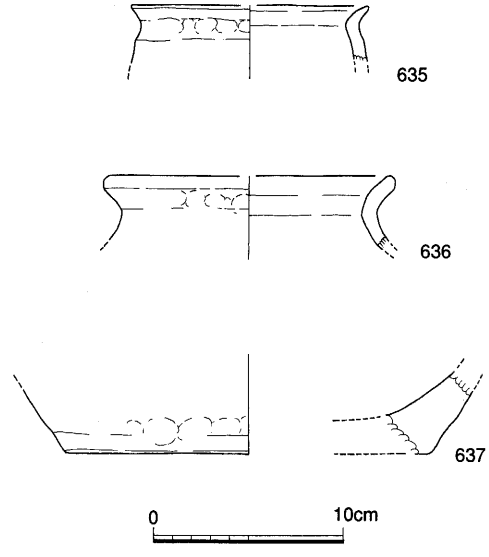












第137図　P75・76・77・78・80（S＝1/30）

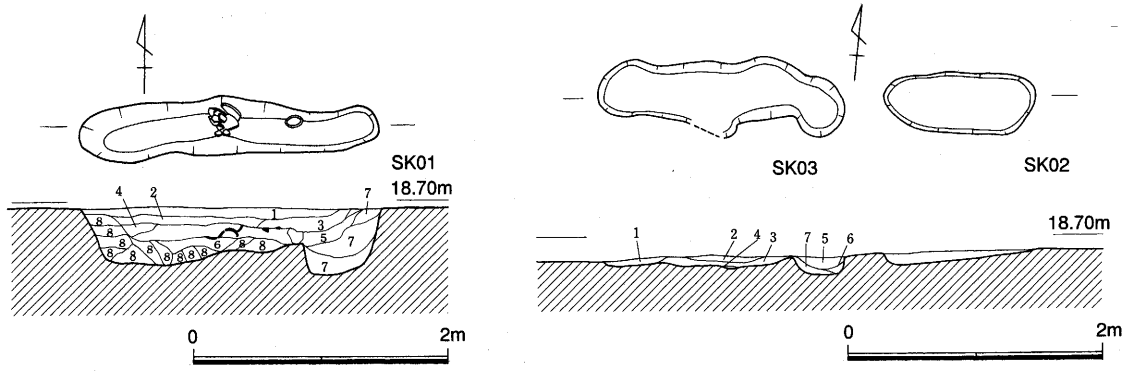
第138図　P79出土遺物（S＝1/4）

（７）土壙

１）SK01（第139図）

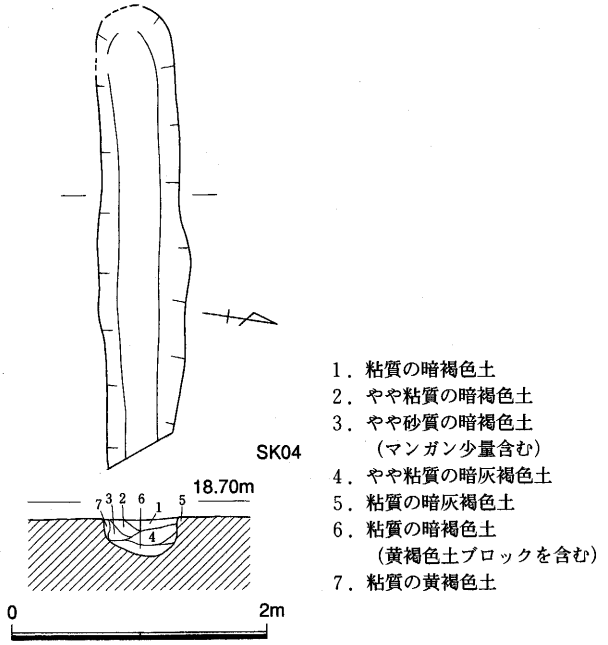
環濠集落の南部、SH01に近接している。細長い溝状を呈し、埋土はよくしまった暗灰褐色土に、黄褐色のブロックが多く混じり、人為的に埋め戻した可能性が考えられる。また、土器片、焼土、炭化物をわずかに含む。土器は図化できなかった。

２）SK02・SK03（第139図）

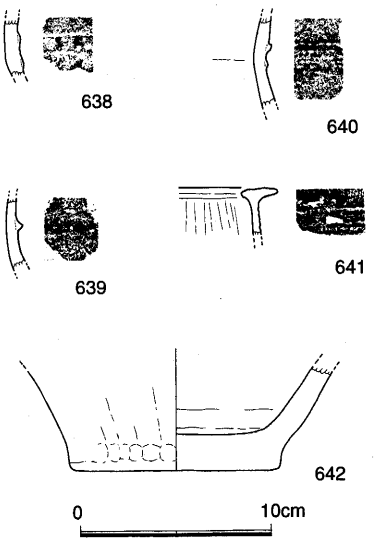


1．暗灰褐色土
（炭・焼土をわずかに含む）
2．暗灰褐色土
3．粗い黒灰色の真砂土
4．灰褐色土
5．砂質の淡黄灰褐色土
6．砂質の淡灰色土
7．砂質のにぶい暗黄色土
8．砂質の暗黄褐色～淡黄色土
（大きい黄褐色ブロックが混入）

1．粘質の暗灰褐色土
（焼土を含む）
2．粘質の暗褐色土
（焼土を多く含む）
3．粘質の暗灰褐色土
4．やや砂質の灰色土
5．粘質の暗褐色土
6．粘質の暗灰褐色土
7．粘質の灰褐色土
（黄褐色ブロックを含む）

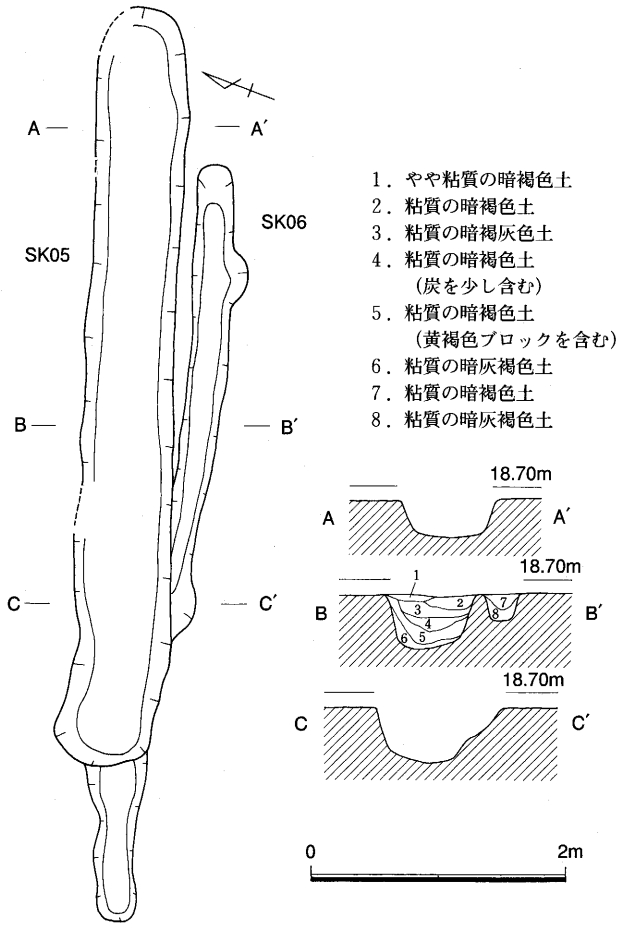


1．粘質の暗褐色土
2．やや粘質の暗褐色土
3．やや砂質の暗褐色土
（マンガン少量含む）
4．やや粘質の暗灰褐色土
5．粘質の暗灰褐色土
6．粘質の暗褐色土
（黄褐色土ブロックを含む）
7．粘質の黄褐色土

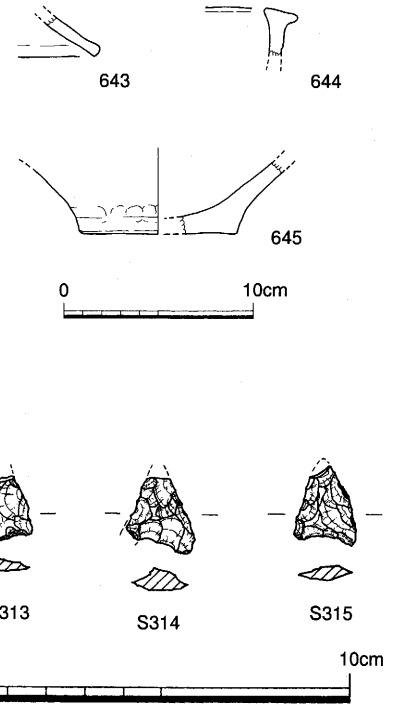


第139図　SK01・02・03・04（S＝1/60）

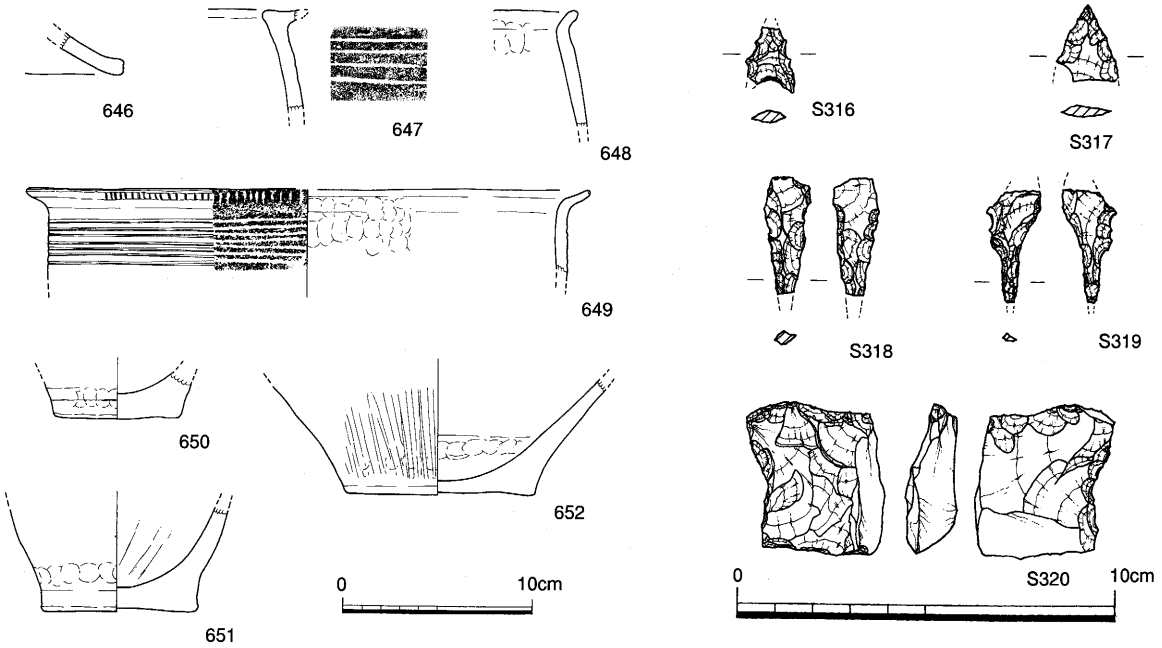
第140図　SK04出土遺物（S＝1/4）



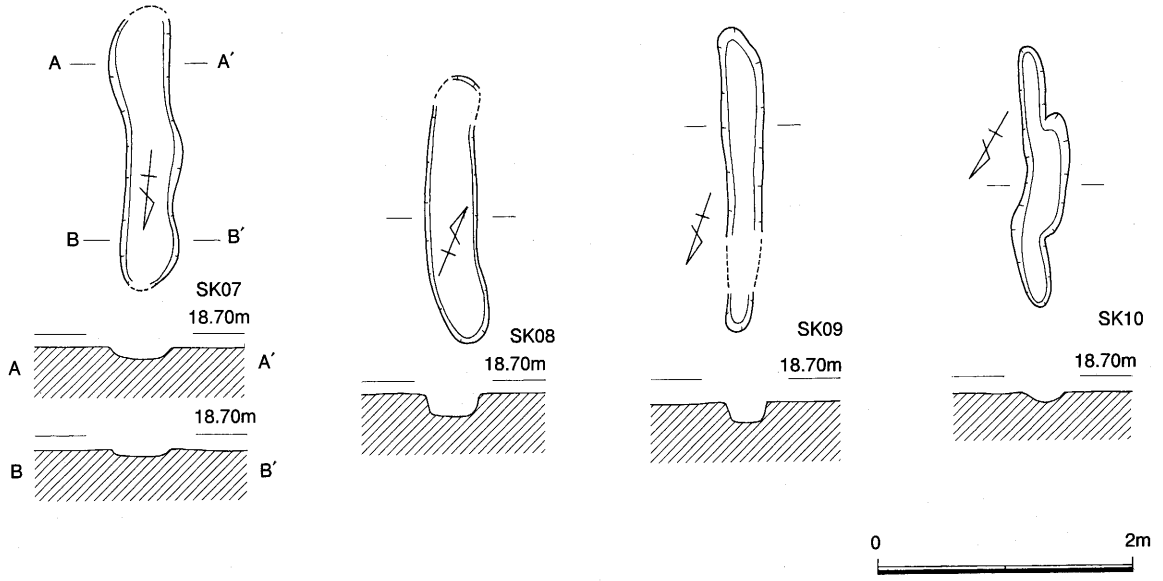
第141図　SK05・06（S＝1/60）



第142図　SK05出土遺物（S＝1/4・1/2）



第143図　SK06出土遺物（S＝1/4・1/2）

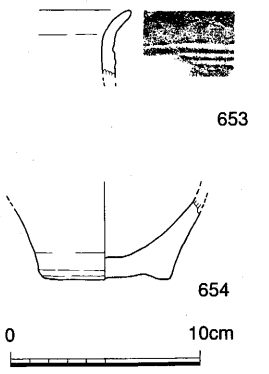


第144図　SK07・08・09・10（S=1/60）

環濠集落の南部に位置する。SK03の埋土は粘質の暗灰褐色土に黄褐色のブロックが混在し、人為的な埋め戻しの痕跡がうかがえる。また、焼土を多く含む。遺物は検出されなかった。

３）SK04（第139図）

調査区の南東端に位置し、遺構は東側にのびていくと考えられる。細長い溝状を呈し、埋土は粘質の暗褐色土に黄褐色ブロックを含む。遺物は土器が検出されており（**638～642**）、**638～640**は壷の頸部で、**641・642**は甕である。時期は弥生時代前期後半～中期初頭と考えられる。



第145図　SK08出土遺物
（S=1/4）

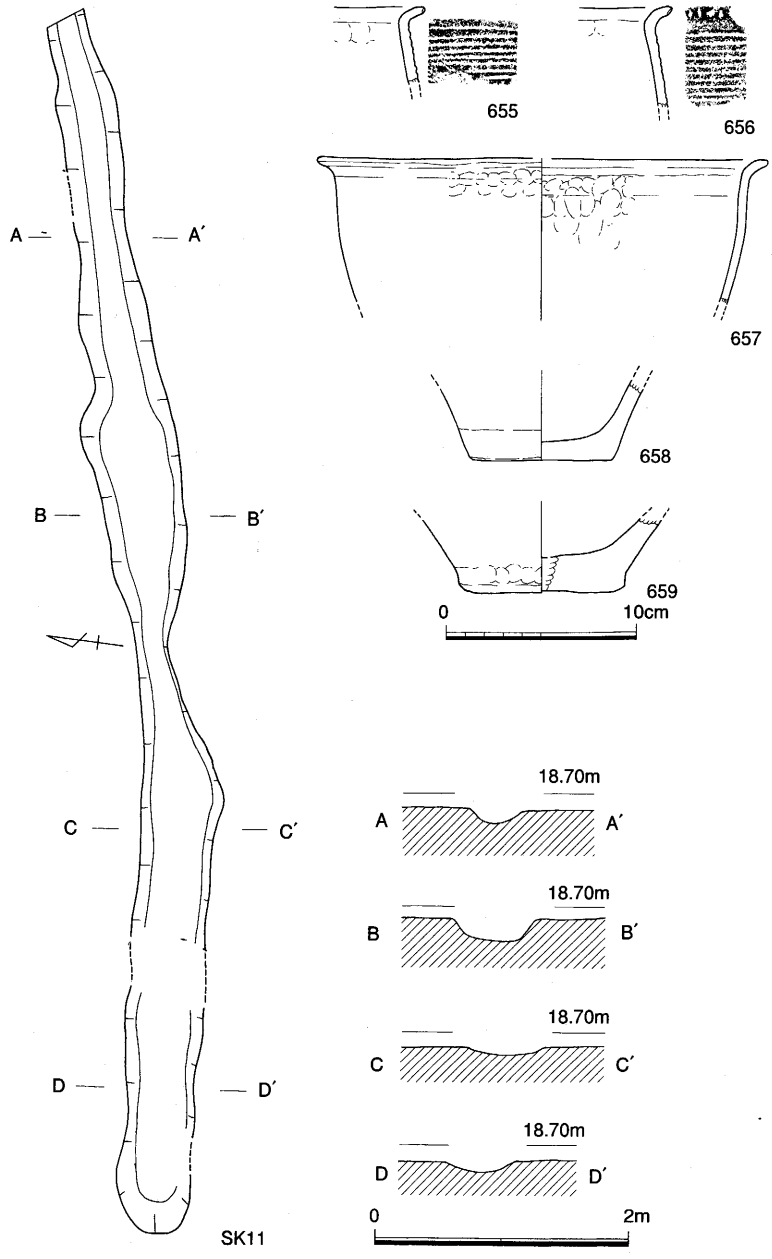
４）SK05・SK06（第141図）

環濠集落の南側に位置し、東西方向に長軸を持ち、SK05をSK06が切っている。埋土は粘質の暗褐色～暗灰褐色土に黄色ブロックが混じり、人為的に埋め戻された可能性が考えられる。遺物はSK05・SK06ともに土器、石器が出土した。**643～645**はSK05から出土した土器で、**S313～S315**はSK05出土の打製石鏃である。いずれも先端部を欠損する。**646～652**はSK06から出土した土器で、**S315～S320**はSK06出土の石器で、すべてサヌカイト製である。時期は弥生時代前期後半に位置付けられよう。

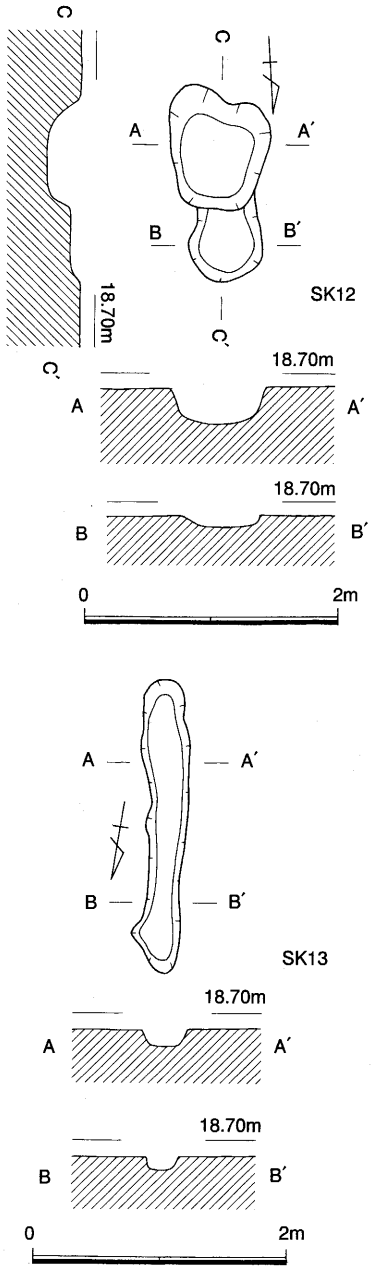
５）SK07～SK10（第144図）

環濠集落の南半分に点在する土壙である。それぞれ区画溝状に配置されているようである。いずれも削平が著しく、残存状況は一様ではない。SK08からは土器が出土した（**653・654**）。**653**は甕の口縁で、**654**は甕の底部である。これらの遺物からSK08の時期は弥生時代前期後半の中でもやや古い段階に位置付けられるのではないだろうか。

６）SK11（第146図）



第146図　SK11（S＝1/60）**・SK11出土遺物**（S＝1/4）



第147図　SK12・SK13（S＝1/60）

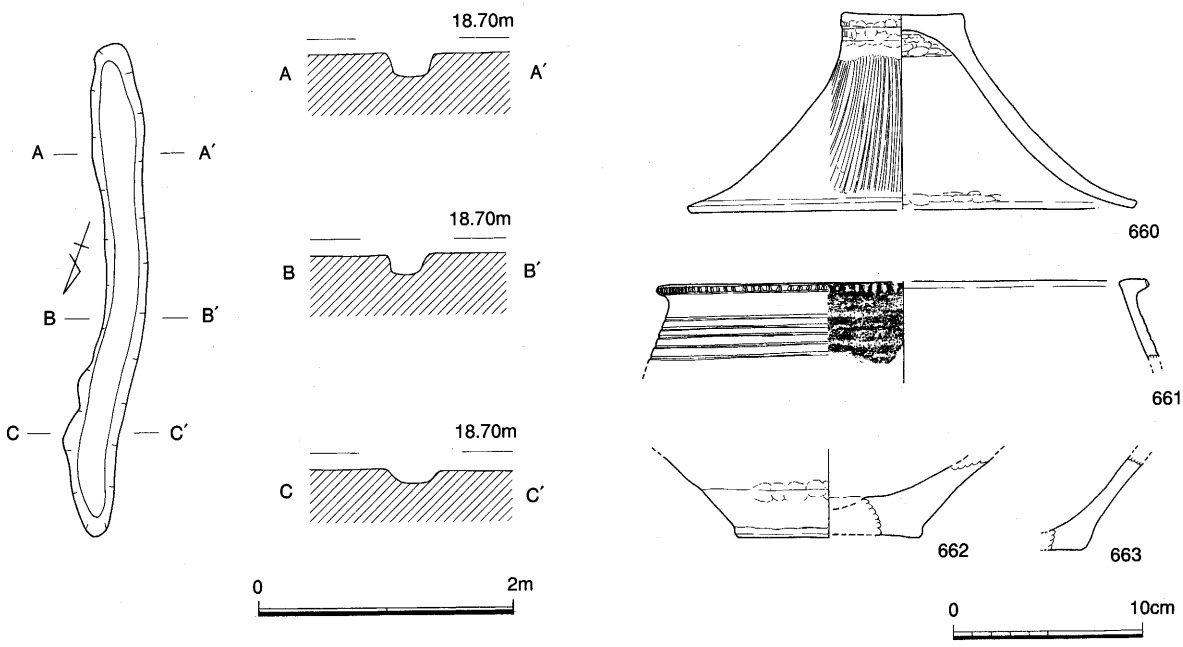
調査区の南東に位置し、東西方向に長軸がのびる土壙で、その一端は調査区外の東につながる。削平が著しい。遺物は土器が出土した（**655～659**）。いずれも甕で、時期は弥生時代前期後半に位置づけられる。

7）SK12・SK13（第147図）

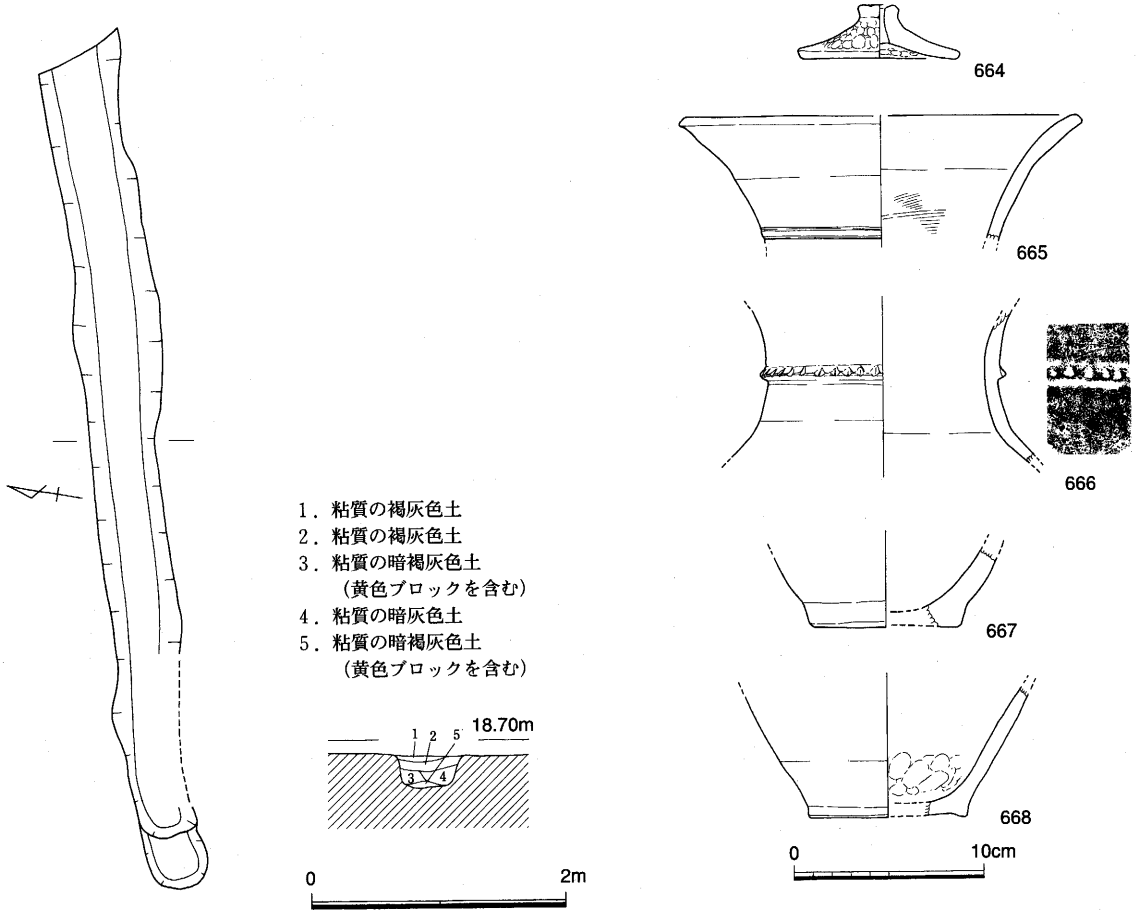
SH03に近接し、南北方向に長軸がのびる土壙で、削平が著しい。遺物は出土していない。

8）SK14（第148図）

調査区の南東に位置し、南北方向にのびる遺構で、削平されているため、残存状況は良好ではない。遺物は**660～663**の土器が出土した。時期は弥生時代前期後半と思われる。



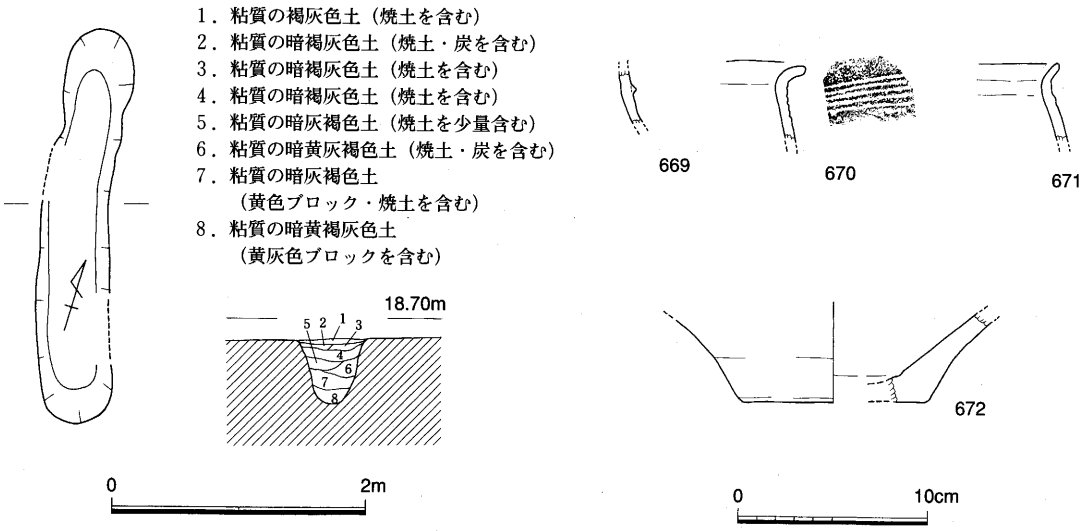
第148図　SK14（S＝1/60）**・SK14出土遺物**（S＝1/4）



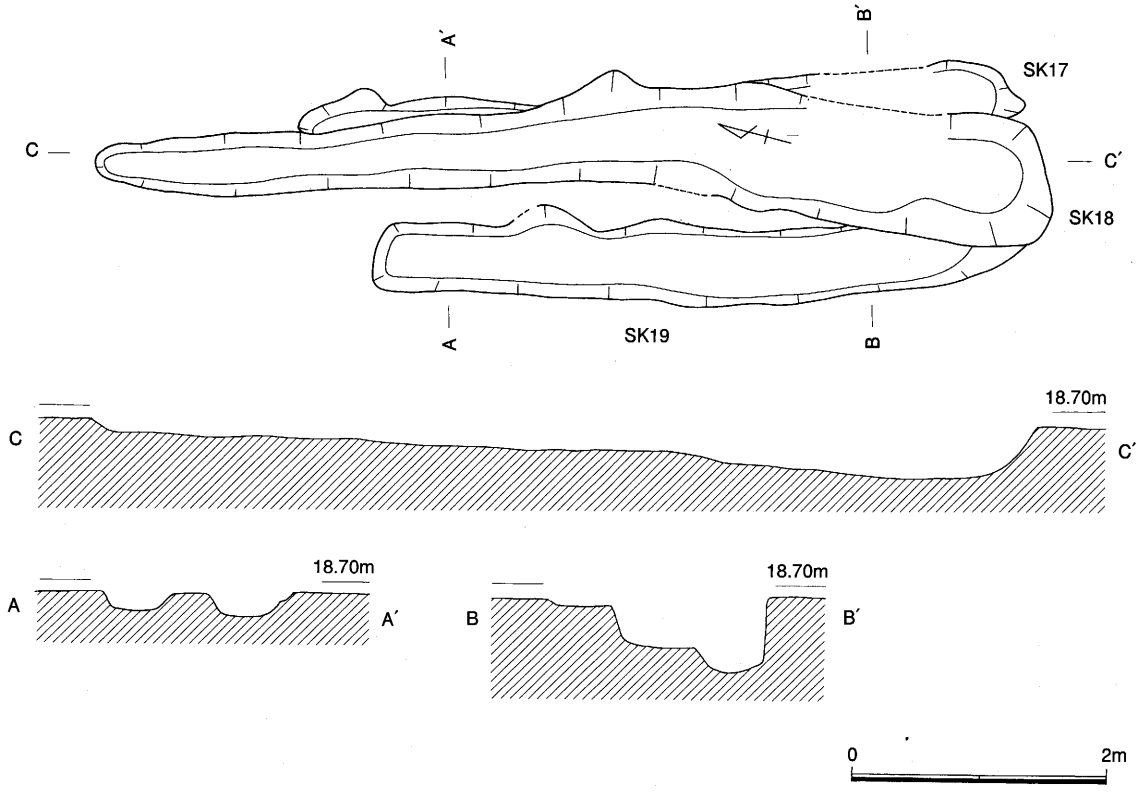
第149図　SK15（S＝1/60）**・SK15出土遺物**（S＝1/4）

9）SK15（第149図）

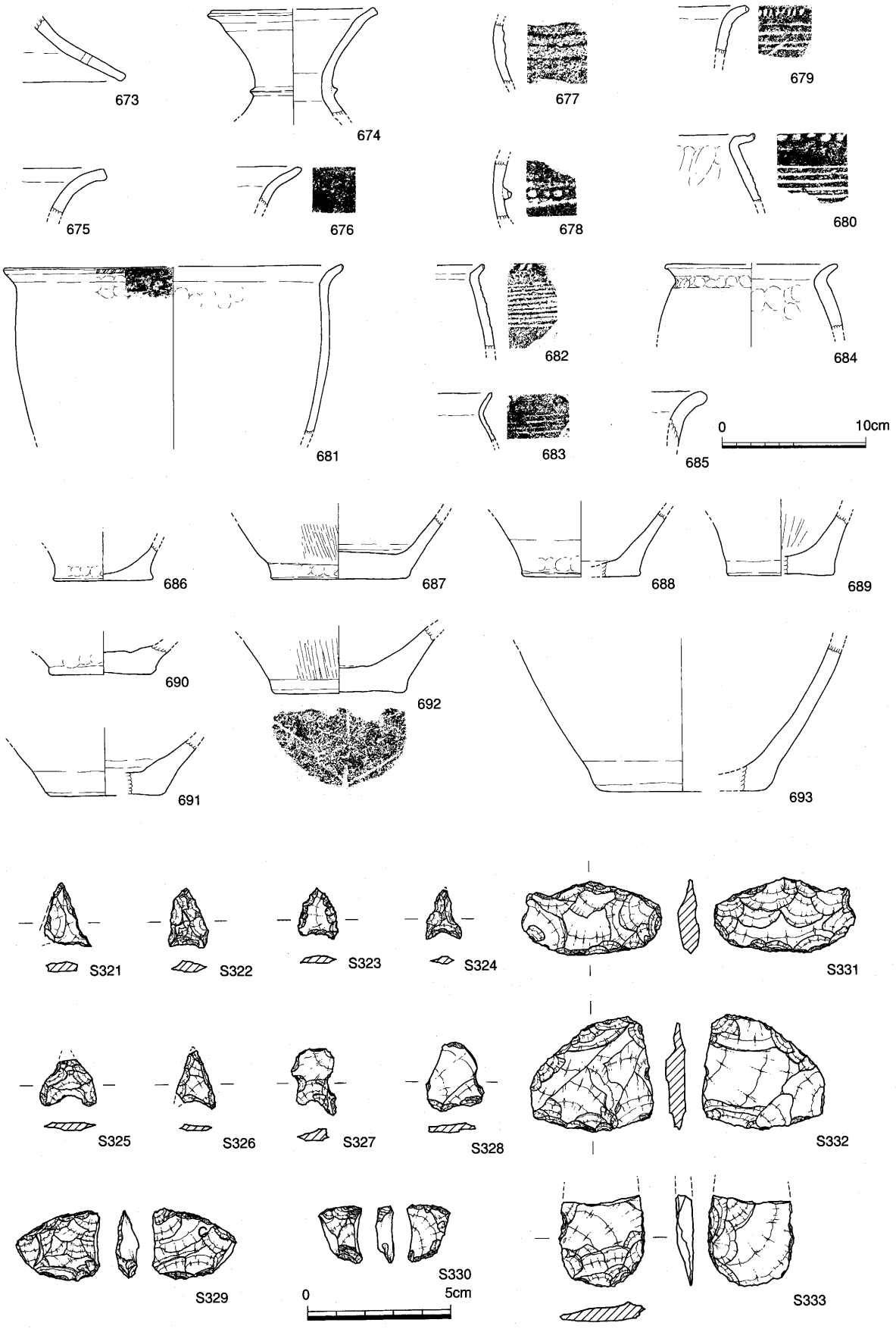
環濠集落のほぼ中心に位置し、長軸が東西方向にのびる遺構で、SH03を切っている。長軸東側の一端は調査区外へのびていく。埋土は粘質の暗褐色土に黄色ブロックが混在し、人為的に埋め戻された可能性がある。遺物は**664～668**が出土した。**664**は壺の蓋で、つまみ部分に穿孔される。**665～668**は壺である。時期は弥生時代前期後半であろう。



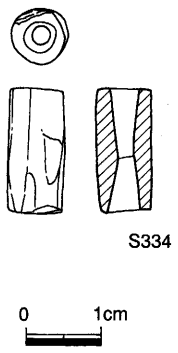
第150図　SK16（S＝1/60）**・SK16出土遺物**（S＝1/4）



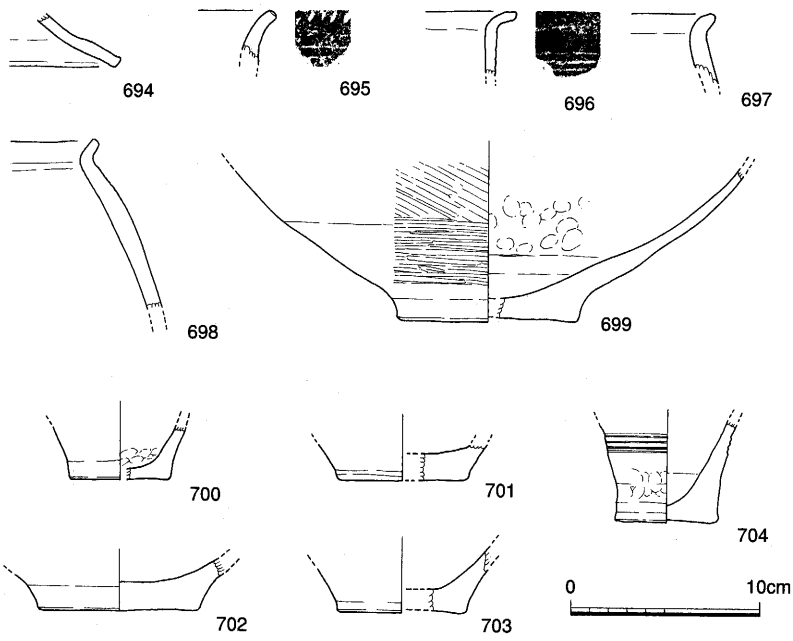
第151図　SK17・18・19（S＝1/60）



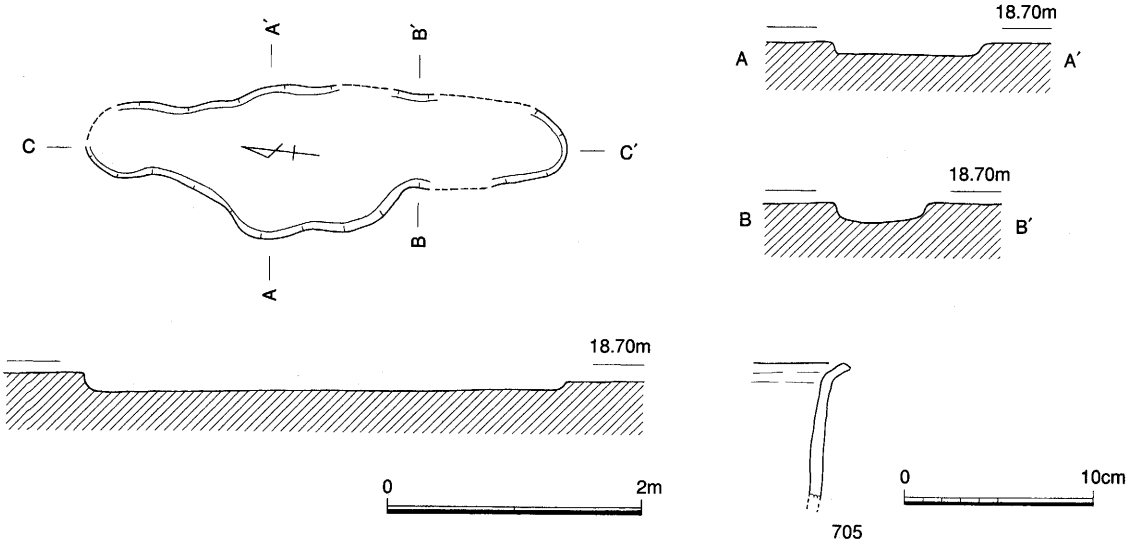
第152図　SK17出土遺物（S＝1/4・1/2）



第153図　SK18出土遺物
(S=1/1)



第154図　SK19出土遺物（S=1/4）



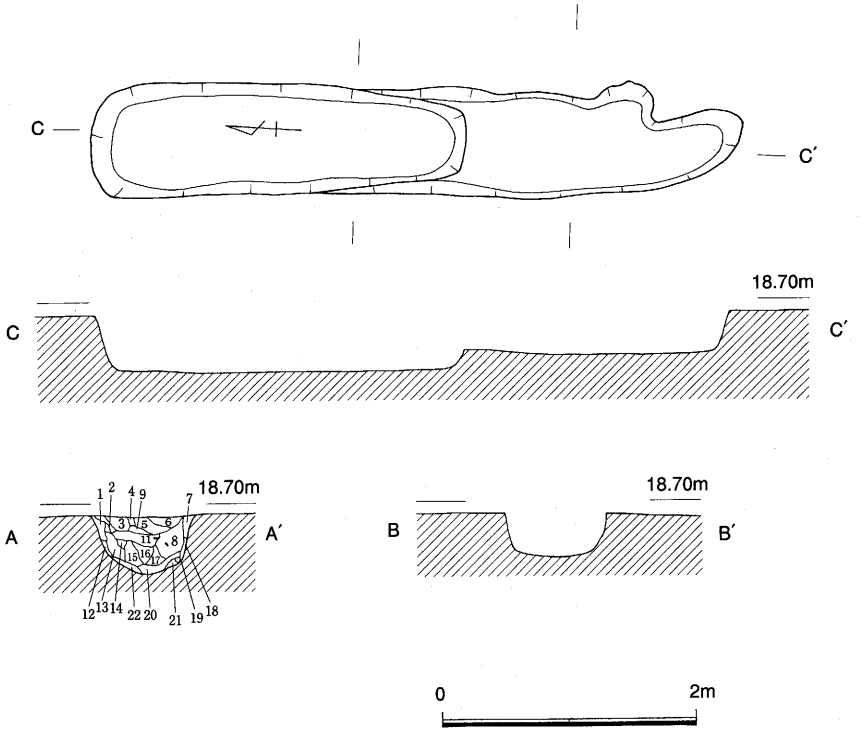
第155図　SK20（S=1/60）**・SK20出土遺物**（S=1/4）

10）SK16（第150図）

環濠集落のほぼ中心に位置し、南北方向に長軸がのび、SH03を切っている。埋土は暗灰褐色～暗黄褐色の粘質土で、焼土を多く含む。また、黄色ブロックも混在するため、人為的に埋め戻した可能性もある。遺物は土器が数点出土した（**669～672**）。これらから時期は弥生時代前期後半と考えられる。

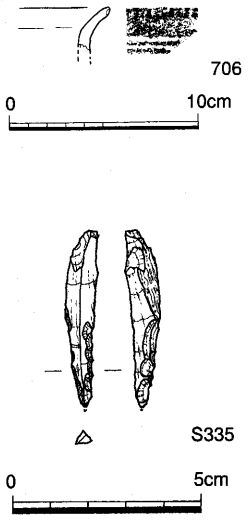
11）SK17･SK18・SK19（第151図）

環濠集落のほぼ中心に位置し、南北方向にのびる。SK17・SK19をSK18が切っており、またSK18･SK19はSH03も切っている。埋土はいずれも粘質の灰褐色～暗灰褐色土で、焼土および炭化物を多く



1．やや粘質の黄褐色土
2．粘質の灰黄褐色土
3．粘質の暗灰褐色土
（マンガン含む）
4．粘質の暗灰褐色土
5．粘質の暗灰褐色土
6．粘質の暗褐色土
7．粘質の灰褐色土
（黄褐色ブロック）
8．粘質の暗褐色土
（マンガンを含む）
9．粘質の暗褐色土
（わずかに炭を含む）
10．やや粘質の灰褐色土
11．粘質の暗褐色土
（黄褐色ブロックを含む）
12．やや砂質の灰褐色土
13．やや粘質の暗灰黄褐色土
14．灰黄褐色ブロック
15．やや粘質の暗灰褐色土
16．砂質の暗灰褐色土
17．粘質の暗黄褐色土
18．やや砂質の黄灰褐色土
19．粘質の黄褐色ブロック
20．砂質の灰褐色土
21．やや粘質の暗灰褐色土
22．砂質の灰褐色土

第156図　SK21（S＝1/60）



第157図　SK21出土遺物
（S＝1/4・1/2）

含む。遺物はSK17から最も多く出土した（**673～693**、**S321～S333**）。**692**は甕？の底部で、底面に木葉痕がみとめられた。出土石器はすべてサヌカイト製で、**S327**・**S328**は打製石鏃の未製品である。また、フレイクおよびチップも多く出土したため石器製作に関わる遺構である可能性がある。**S334**はSK18出土の緑色凝灰岩製管玉である。**694～704**はSK19出土土器である。これらの遺物から時期は弥生時代前期後半と考えられる。

12）SK20（第155図）

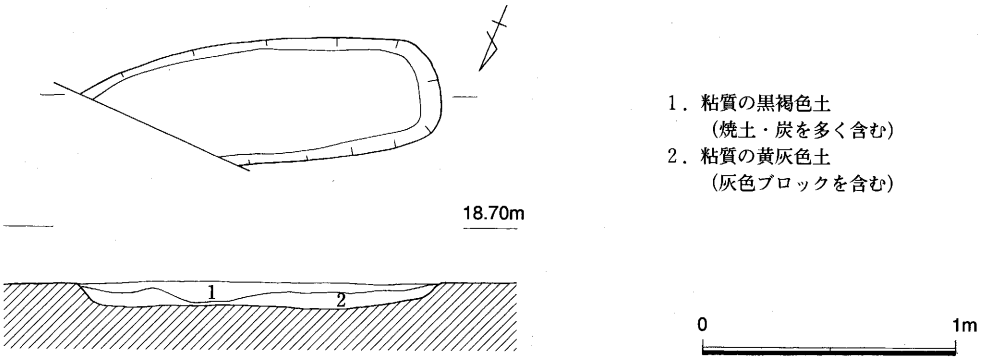
環濠集落のやや西よりに位置し、SB22に切られている。削平が著しく、残存状況は良好ではない。遺物は甕の口縁が出土した（**705**）。時期は弥生時代前期後半～中期初頭と考えられる。

13）SK21（第156図）

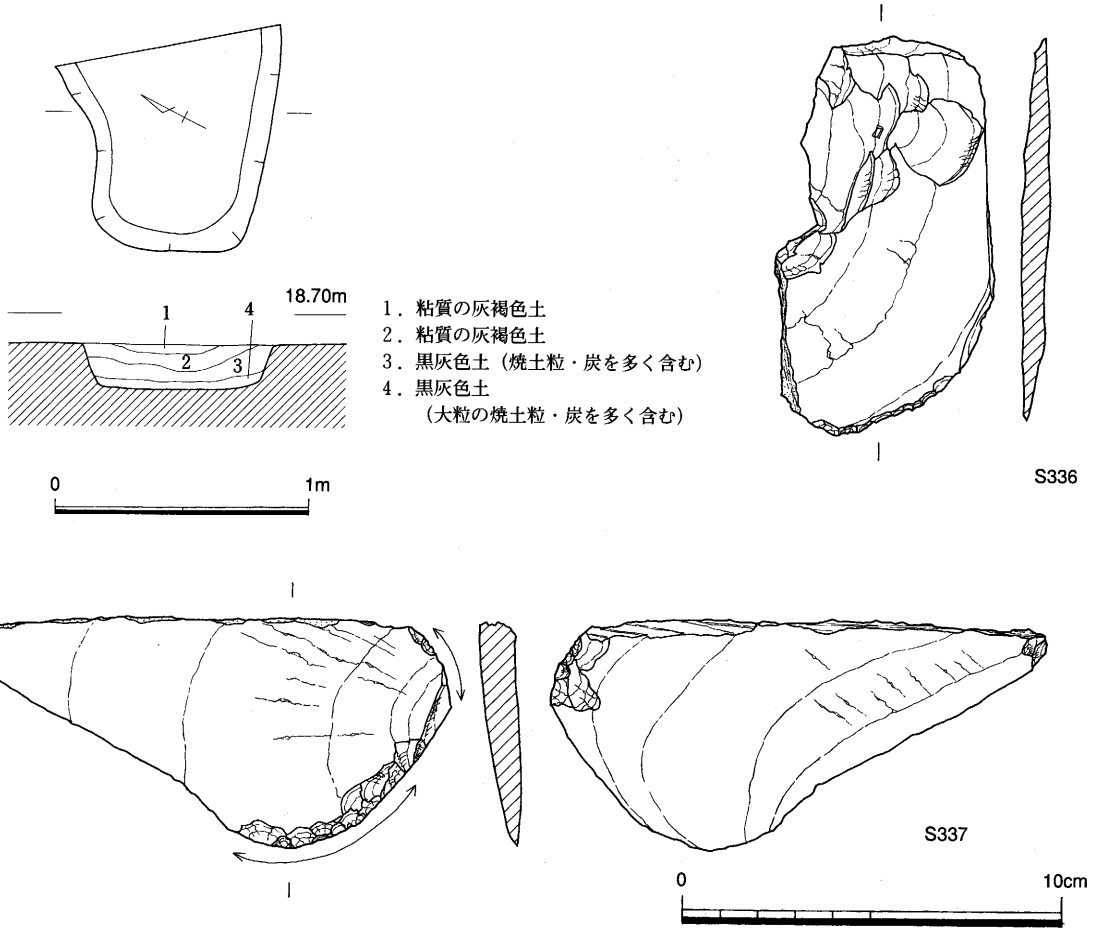
環濠集落のやや西よりに位置し、長軸が南北方向にのびる遺構で、SB24に切られている。埋土はおもに粘質の暗褐色～灰褐色土で、粘質の黄褐色～暗黄褐色土がブロック状に混在するため、この土壙は人為的に埋め戻された可能性がある。遺物は甕の口縁（**706**）、サヌカイト製石錐（**S335**）が出土した。時期は弥生時代前期後半に位置付けられよう。

14）SK22（第158図）

調査区の南東隅に位置している。埋土は粘質の黒褐色および黄灰色土で、焼土、炭化物を多く含む。



第158図　SK22（S＝1/30）

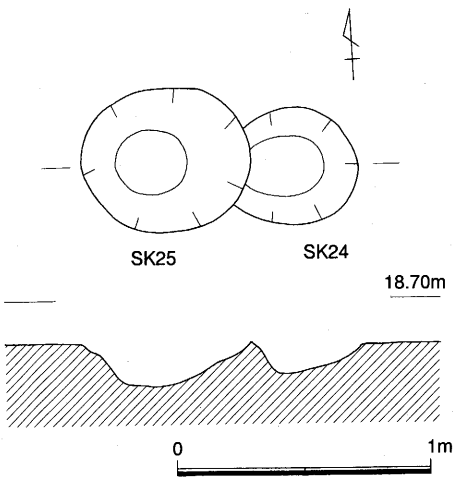


第159図　SK23（S＝1/30）**・SK23出土遺物**（S＝1/2）

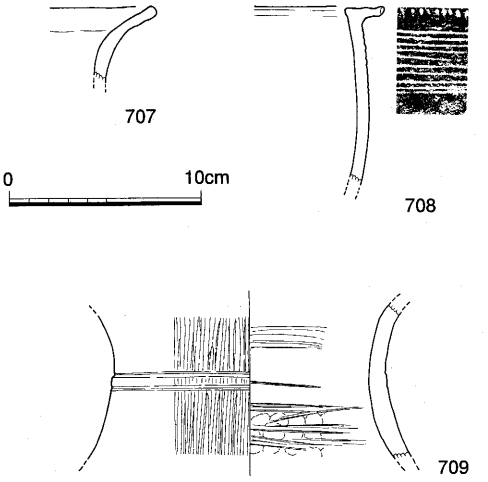
遺物は検出されていない。

15）SK23（第159図）

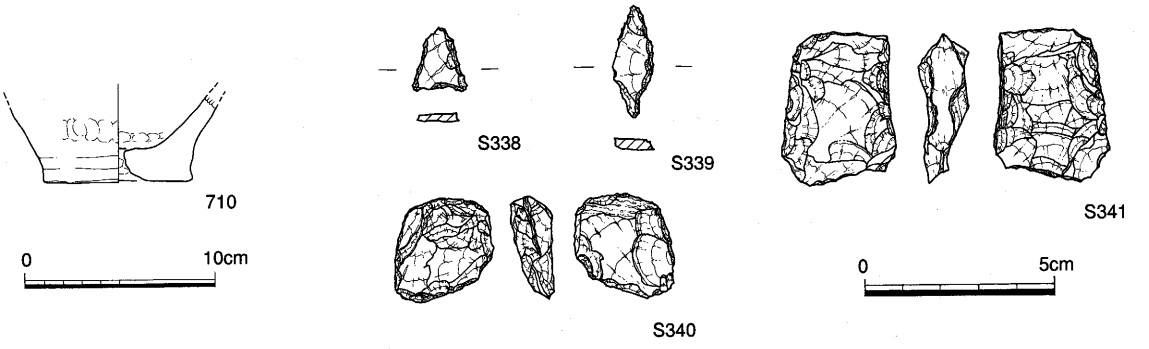
環濠集落の南東隅に位置し、埋土は粘質の灰褐色土で、下部に焼土、炭化物を非常に多く含む。住居床面上から被熱面がほとんど検出されていないため、屋外炉の可能性がある。具体的には遺構の考



第160図　SK24・25（S＝1/30）



第161図　SK27出土遺物（S＝1/4）



第162図　SK28出土遺物（S＝1/4・1/2）

察で述べたい。遺物はサヌカイト製使用痕フレイクが2点出土した（**S336・S337**）。

16）SK24・SK25（第160図）

環濠集落の北東に位置し、SH01を切っている。埋土は粘質の暗褐色～暗灰褐色土で、遺物は検出されていない。

17）SK27·SK28（第161図・第162図）

環濠集落の北東に位置している。SK27からは土器が検出された（**707～709**）。また、SK28からは甕の底部（**710**）、打製石鏃（**S338・S339**）、楔形石器（**S340・S341**）が出土した。これらの遺物から、SK27・SK28は両者ともに弥生時代前期後半に位置付けられる。

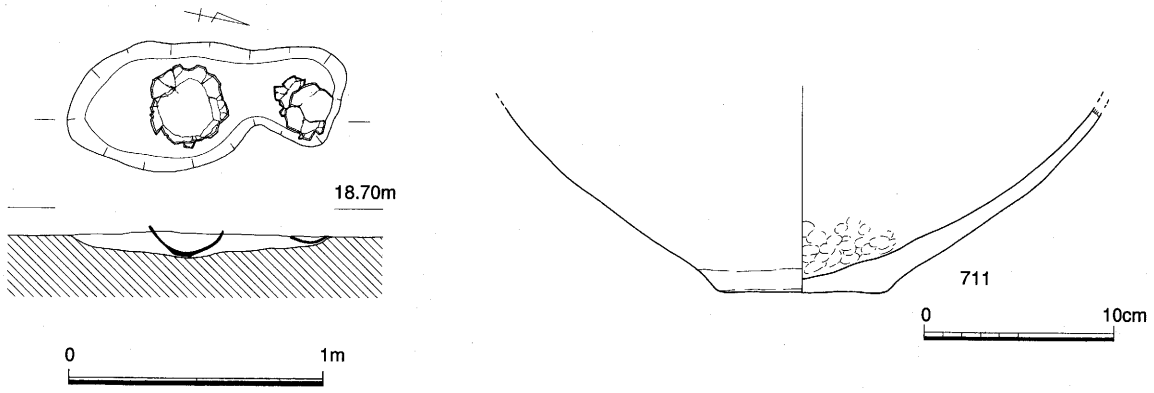
18）SK29（第163図）

環濠集落の南部に位置し、SD01に近接するが切り合い関係などは不明である。削平がすすんでいる。遺物は壷の底部が出土した（**711**）。

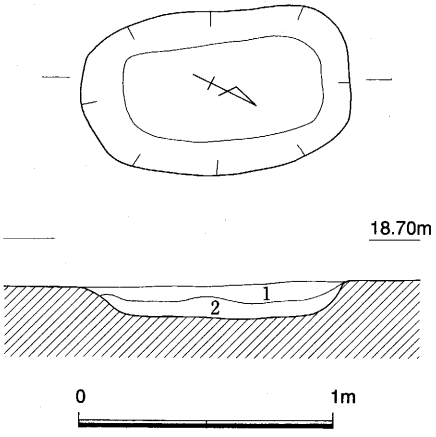
19)SK30（第164図）

環濠集落の南側に位置する。埋土は粘質の暗褐色土で焼土および炭化物を多く含む。また黄色ブロックも混在するため、人為的に埋め戻された可能性がある。

20）SK32（第165図）

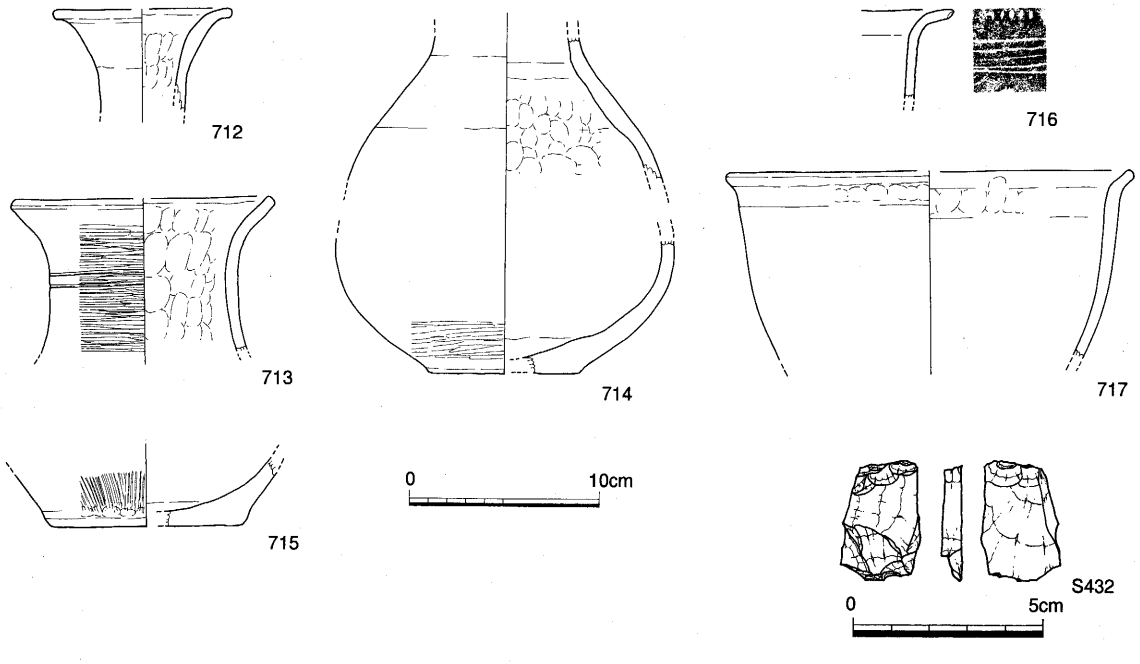


第163図　SK29（S＝1/30）**・SK29出土遺物**（S＝1/4）

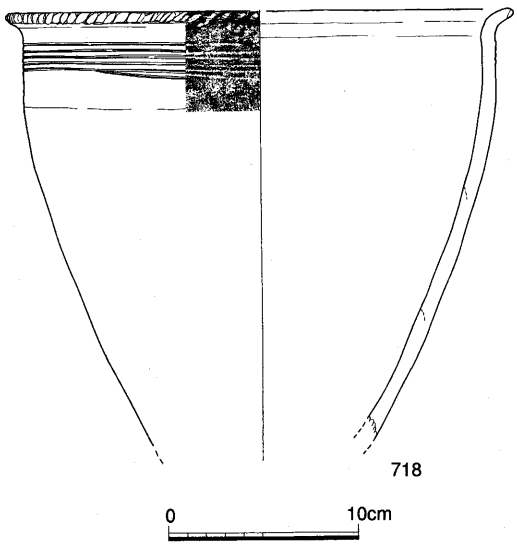


1．粘質の暗褐色土
　（焼土・炭をわずかに含む）
2．粘質の暗褐色土
　（粘質の黄褐色ブロックをわずかに含む）

第164図　SK30（S＝1/30）



第165図　SK32出土遺物（S＝1/4・1/2）



第166図　SK34出土遺物（S＝1/4）

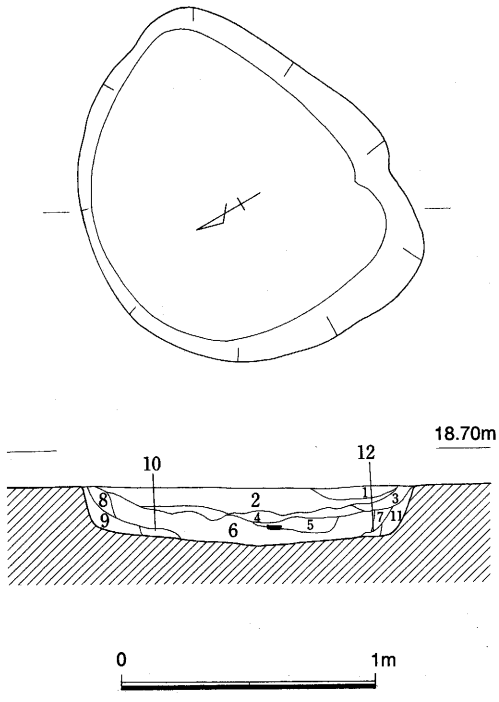
環濠集落の南部に位置し、SB05に切られており、遺物は土器（**712～717**）と石器（**S342**）が出土した。**S342**はサヌカイト製楔形石器である。出土遺物から、時期は弥生時代前期後半と考えられる。

21）SK34（第166図）

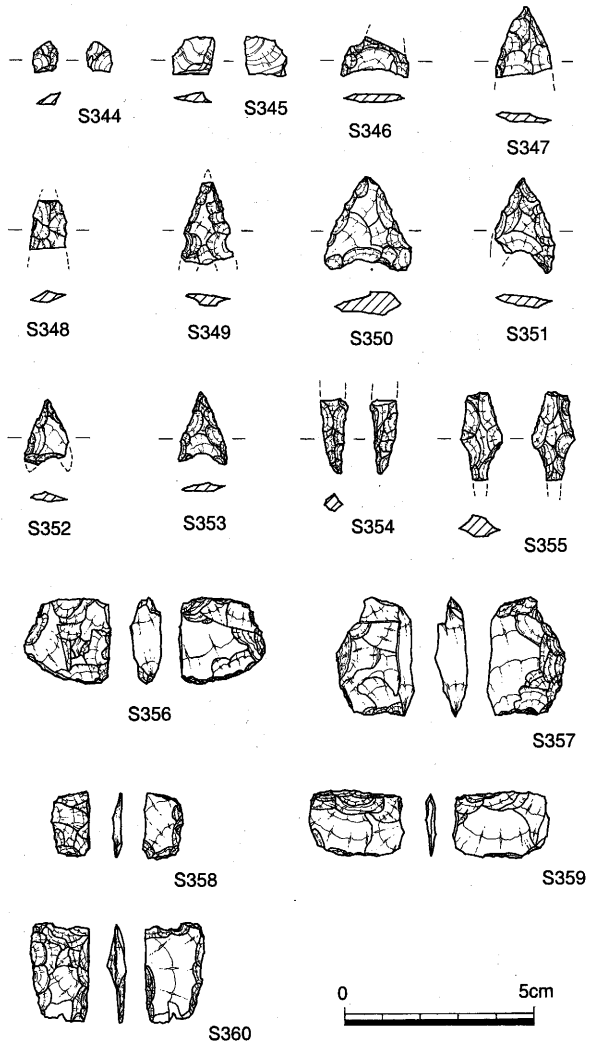
環濠集落の南側に位置し、SB05に近接する。**718**は弥生時代前期後半に位置付けられる甕である。

22）SK35（第167図）

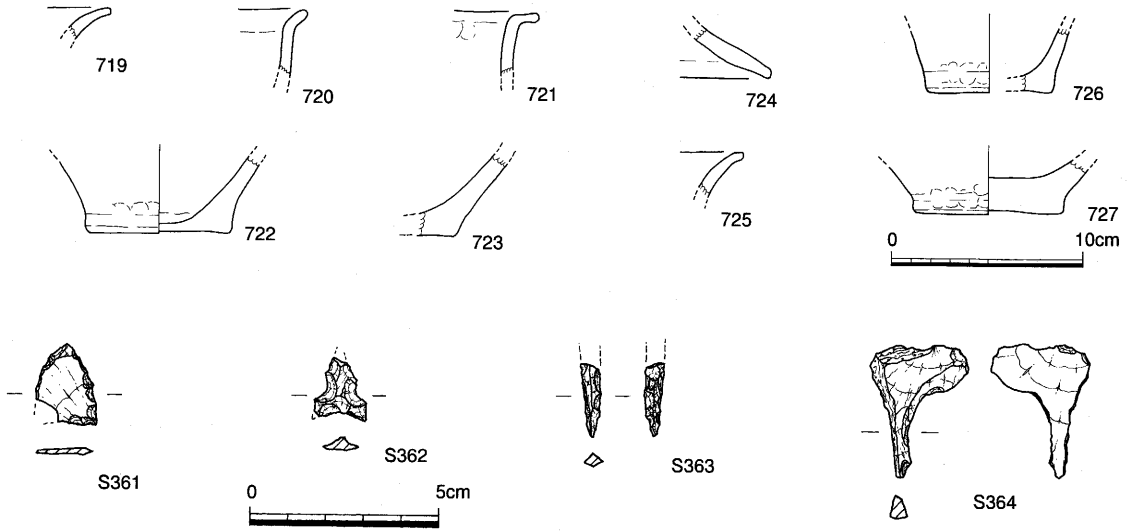
環濠集落の南半分、SB11に近接して位置し、いびつな楕円形を呈する土壙である。埋土は主に粘質の暗褐色～暗灰褐色土で粘質の黄褐色～



1．粘質の暗褐色土
2．粘質の暗灰黄褐色土
3．粘質の暗灰褐色土
4．やや砂質の暗灰黄褐色土
5．粘質の暗黄灰褐色土
6．やや粘質の暗灰褐色土
（わずかに炭を含む）
7．粘質の暗灰褐色土
8．粘質の灰褐色土
9．粘質の黄褐色土
10．粘質の灰褐色土
11．粘質の黄褐色土
12．粘質の灰褐色土



第167図　SK35（S＝1/30）**・SK35出土遺物**（S＝1/2）



第168図　SK36・37・38出土遺物（S＝1/4・1/2）

黄灰褐色土が混在する。遺物は土器片および石器が出土した（**S344～S360**）。**S344**、**S345**はメノウ製チップで、**S346～S360**はすべてサヌカイト製である。

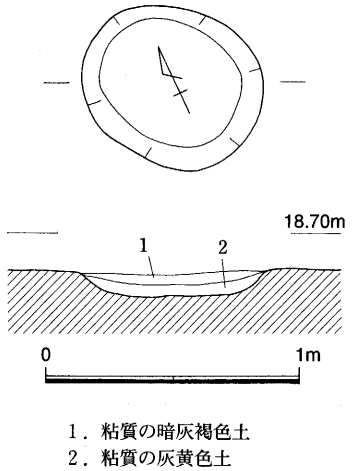
23）SK36・SK37・SK38（第168図）

いずれの土壙も環濠集落の中心部に位置し、SK37・SK38は切り合っている。SK36からは723、SK37からは**719～722**、**S361～S363**、SK38からは**724～727**、**S364**が出土した。時期は弥生時代前期後半～中期初頭に位置づけられよう。

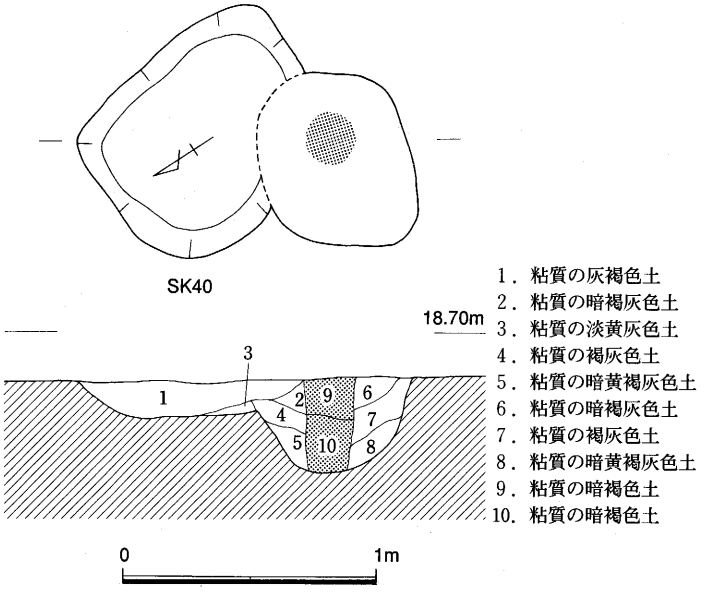
24）SK39（第169図）

調査区の東側に位置し、平面円形を呈する土壙である。埋土は粘質の暗灰褐色、灰黄色土である。

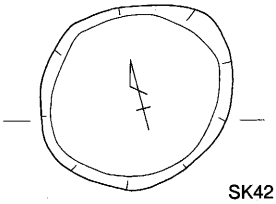
25）SK40（第170図）



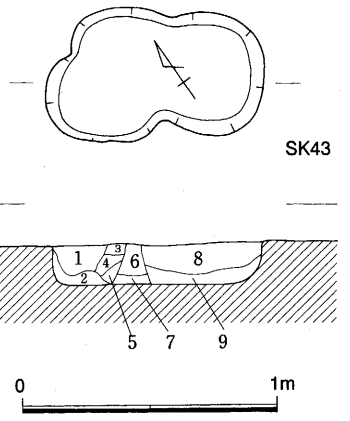
第169図　SK39（S＝1/30）



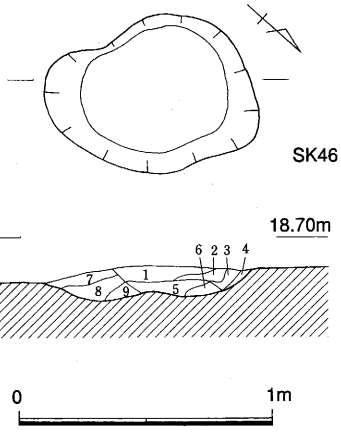
第170図　SK40（S＝1/30）



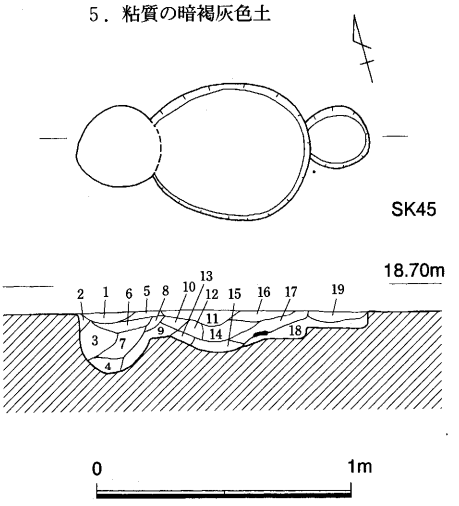
1．粘質の褐灰色土
2．粘質の暗褐灰色土
（黄色ブロックを含む）
3．粘質の暗灰色土（焼土を含む）
4．粘質の暗褐灰色土（黄色ブロックを含む）
5．粘質の灰黄色土



1．粘質の黄褐灰色土
2．粘質の暗黄灰色土
3．粘質の暗黄褐灰色土
4．粘質の暗褐黄灰色土
5．粘質の暗褐灰色土
6．粘質の褐灰色土
7．粘質の暗褐灰色土
8．粘質の黄褐色土
9．粘質の暗黄褐色土

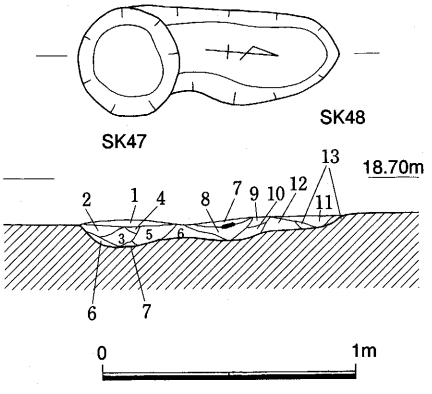


1．粘質の暗灰褐色土
2．粘質の灰褐色土
（黄褐色のブロック）
3．粘質の灰褐色土
4．粘質の黄褐色土
5．粘質の暗灰褐色土
6．粘質の黄褐色土
7．粘質の暗灰褐色土
8．粘質の暗灰褐色土
9．粘質の黄灰褐色土



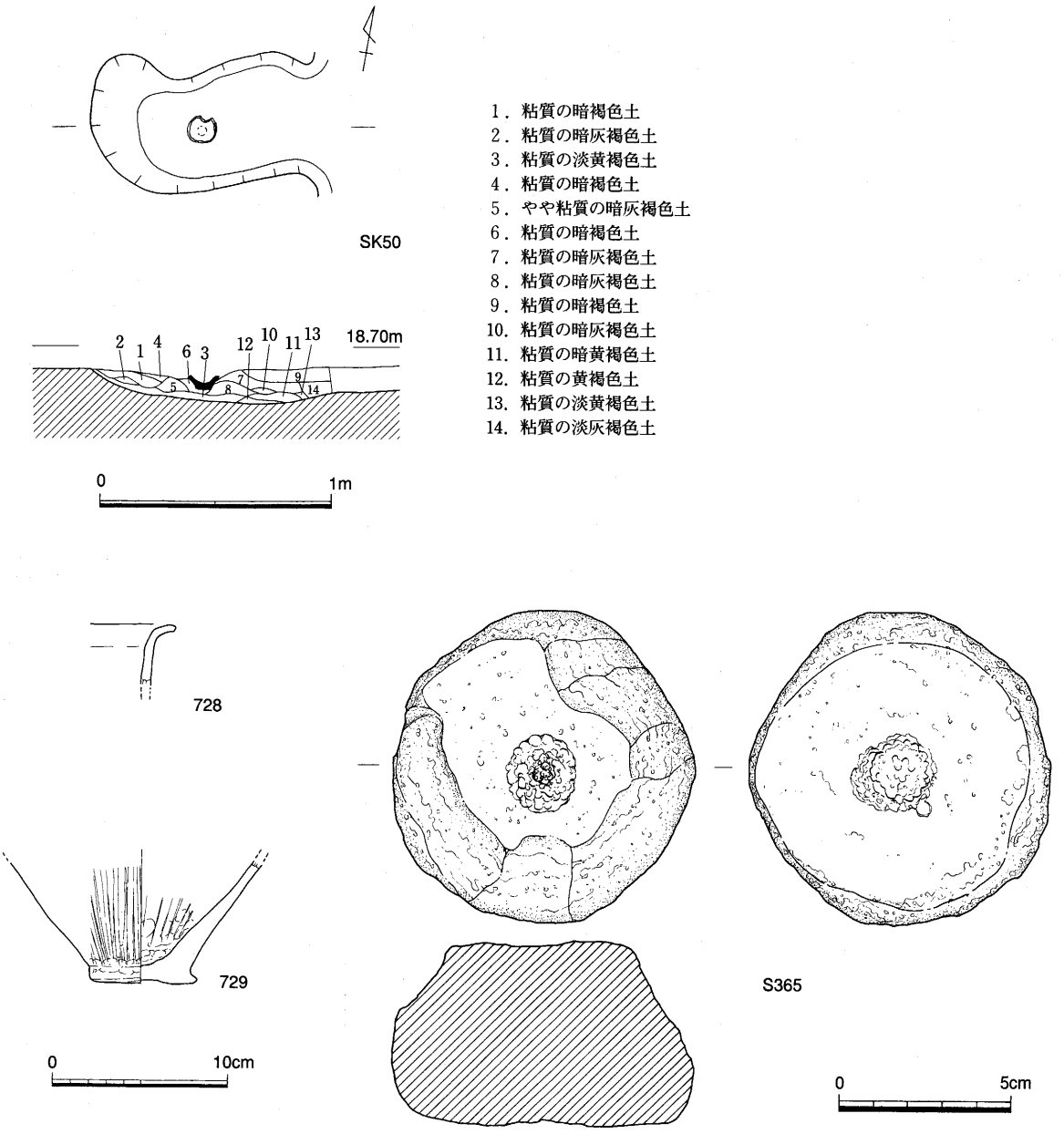
1．粘質の暗褐色土
2．粘質の黄褐色土
3．粘質の暗灰褐色土
（炭をわずかに含む）
4．粘質の灰褐色土
5．粘質の暗褐色土
6．粘質の暗灰褐色土
7．粘質の暗灰褐色土
8．粘質の暗灰褐色土
9．粘質の黄褐色土
10．粘質の暗灰褐色土
11．粘質の暗褐色土
12．粘質の暗灰褐色土
13．粘質の暗褐色土
14．粘質の暗褐色土
15．粘質の黄褐色土
16．粘質の暗褐色土
17．粘質の暗褐色土
18．粘質の黄褐色土
19．粘質の暗灰褐色土

第171図　SK42・43・45・46（S＝1/30）



1．粘質の暗褐色土
2．粘質の暗褐色土
（わずかに炭を含む）
3．粘質の暗褐色土
（黄褐色土ブロックを含む）
4．粘質の暗褐色土
5．粘質の暗褐色土
6．粘質の灰褐色土
7．粘質の暗灰褐色土
8．粘質の暗灰褐色土
（マンガン・炭をわずかに含む）
9．粘質の暗灰褐色土
10．やや粘質の灰褐色土
11．粘質の暗褐色土
12．やや粘質の灰褐色土
13．粘質の灰褐色土

第172図　SK47・48（S＝1/30）



第173図　SK50（S＝1/30）**・SK50出土遺物**（S＝1/4・1/2）

環濠集落の南西部に位置し、SB06に切られている。いびつな楕円形を呈する土壙で、埋土は粘質の灰褐色土である。遺物は検出されていない。

26）SK42（第171図）

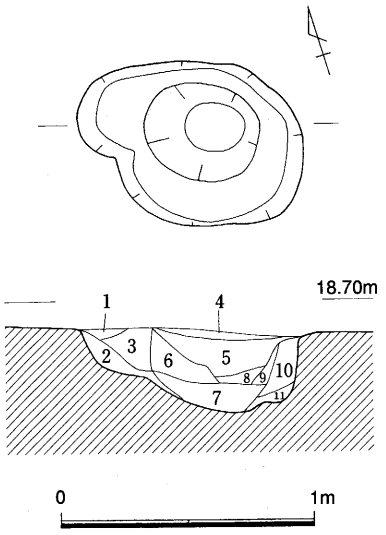
環濠集落の西側に位置し、柵列1に切られている。埋土は粘質の灰褐色～暗灰褐色土で、焼土および土器片を含む。また、黄色ブロックが混在するため、人為的に埋め戻された可能性がある。

27）SK43（第171図）

環濠集落の西側に位置し、SB17に近接する。埋土は粘質の黄灰褐色～暗褐灰色土である。出土遺物は検出されていない。

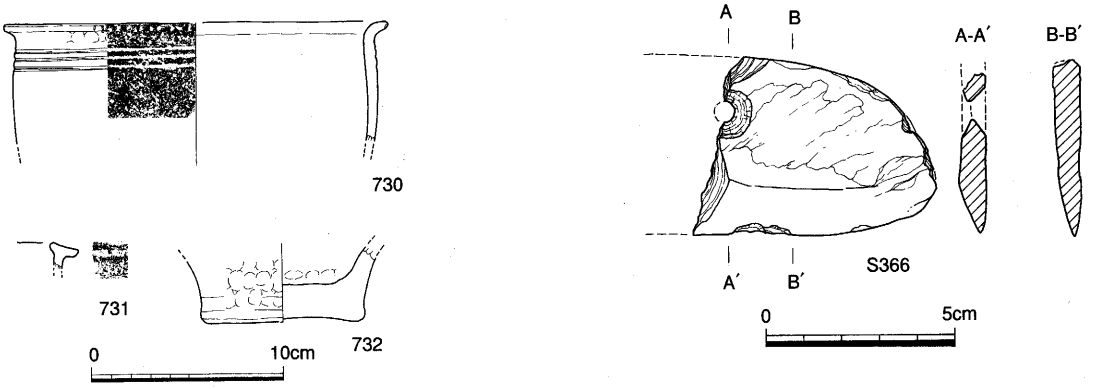
28）SK45（第171図）

環濠集落の西側に位置し、SH04を切っている土壙である。埋土は粘質の灰褐色～暗褐色土で、黄



1．粘質の暗褐色土
（わずかに黄褐色ブロック）
2．粘質の黄褐色土
3．粘質の黄灰褐色土
4．粘質の暗褐色土
5．粘質の暗褐色土
6．粘質の暗褐色土
7．粘質の暗灰褐色土
（わずかに黄褐色ブロック）
8．粘質の暗褐色土
9．粘質の暗褐色土
10．粘質の暗褐色土
（黄褐色ブロック）
11．粘質の淡黄褐色土

第174図　SK51（S＝1/30）



第175図　SK52出土遺物（S＝1/4・1/2）

褐色ブロックが混じる。また、土器片も検出されたが、細片のため図化しえなかった。

29）SK46（第171図）

環濠集落の西側に位置し、SH04を切っている土壙である。埋土は粘質の灰褐色～暗灰褐色土で、黄灰褐色ブロックが混じる。また、わずかに炭化物も含む。

30）SK47・SK48（第172図）

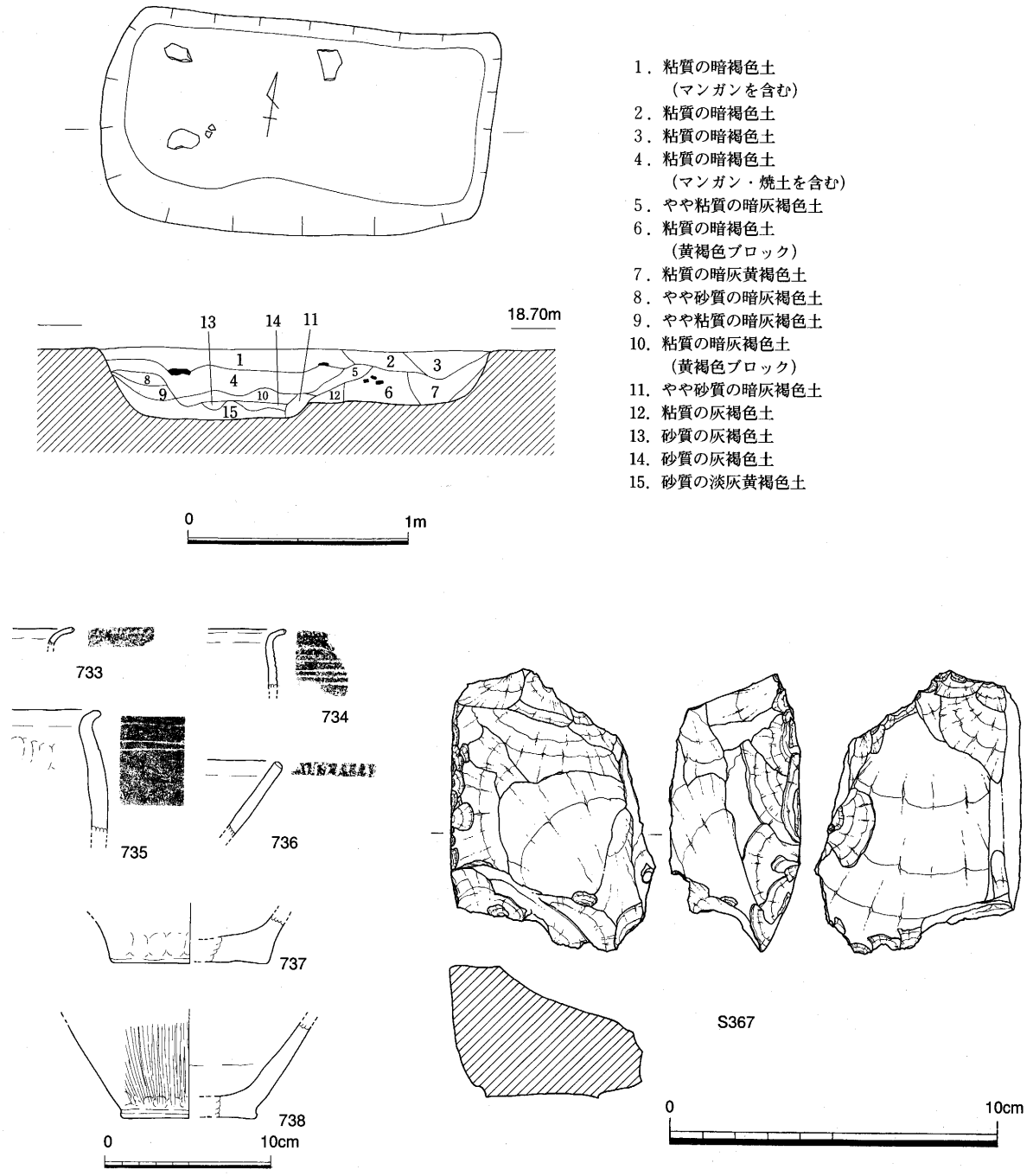
環濠集落の西側に位置する。埋土は粘質の灰褐色～暗褐色土で、黄褐色ブロックが混じる。また、炭化物、土器細片を含む。

31）SK50（第173図）

SK50はSB22に近接し、SK20を切っており、いびつな平面形を呈する。埋土は粘質の暗褐色～暗灰褐色土である。遺物は土器（**728・729**）、石器（**S365**）が出土した。**S365**は花崗岩製で、最初に磨石として使用したものを敲石として転用したものである。

32）SK51（第174図）

環濠集落の西側に位置し、SB24と近接する。埋土は粘質の暗褐色～暗灰褐色土で、黄褐色ブロックを含む。遺物は出土していない。



第176図　SK54（S＝1/30）**・SK54出土遺物**（S＝1/4・1/2）

33）SK52（第175図）

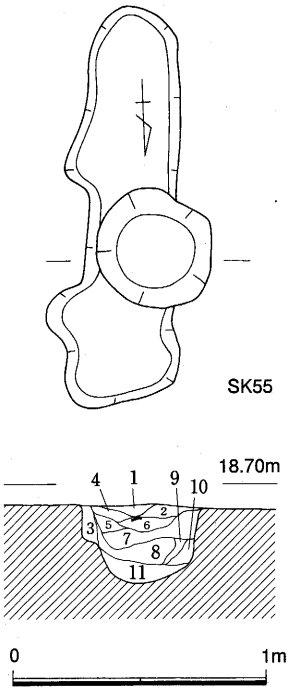
環濠集落の西側に位置する円形の土壙である。遺物は土器（**730～732**）、石器（**S366**）が出土した。

34）SK54（第176図）

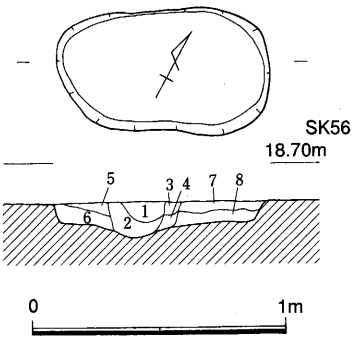
調査区の東側に位置する方形の土壙である。埋土は粘質の灰褐色～暗褐色土で、黄褐色ブロックが混じる。遺物は土器（**733～738**）、石器（**S367**）が出土し、時期は弥生時代前期後半に位置付けられる。

35）SK74（第178図）

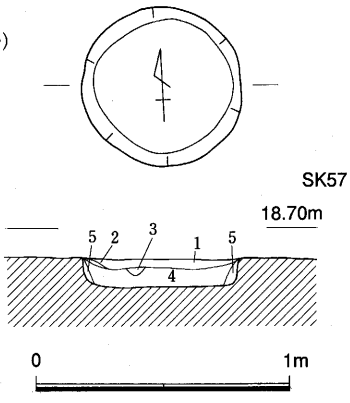
環濠集落の北西に位置し、SB27と切り合っている。埋土は粘質の暗褐色～暗灰褐色土である。



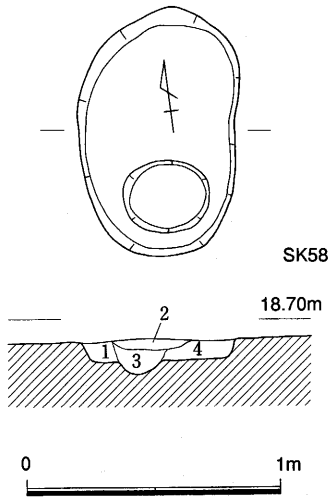
1．粘質の暗褐色土
2．粘質の暗褐色土
3．粘質の黄褐色土
4．粘質の黄褐色ブロック
5．粘質の暗灰褐色土
6．粘質の暗褐色土
（わずかにマンガンを含む）
7．粘質の灰黄褐色土
8．粘質の暗灰褐色土
9．粘質の淡灰褐色土
10．粘質の灰褐色土
11．粘質の黄褐色土



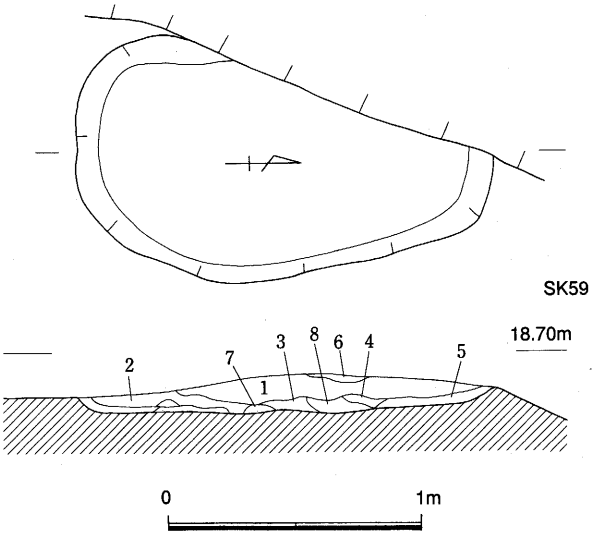
1．粘質の暗褐色土
2．粘質の淡黄褐色土
（マンガンを含む）
3．粘質の暗黄褐色土
4．粘質の黄褐色土
5．粘質の暗灰色土
6．粘質の黄褐色土
7．粘質の暗黄褐色土
8．粘質の黄褐色土



1．粘質の暗褐色土
2．やや砂質の灰褐色土
3．粘質の黄褐色土ブロック
4．やや粘質の暗灰褐色土
5．粘質の黄褐色土

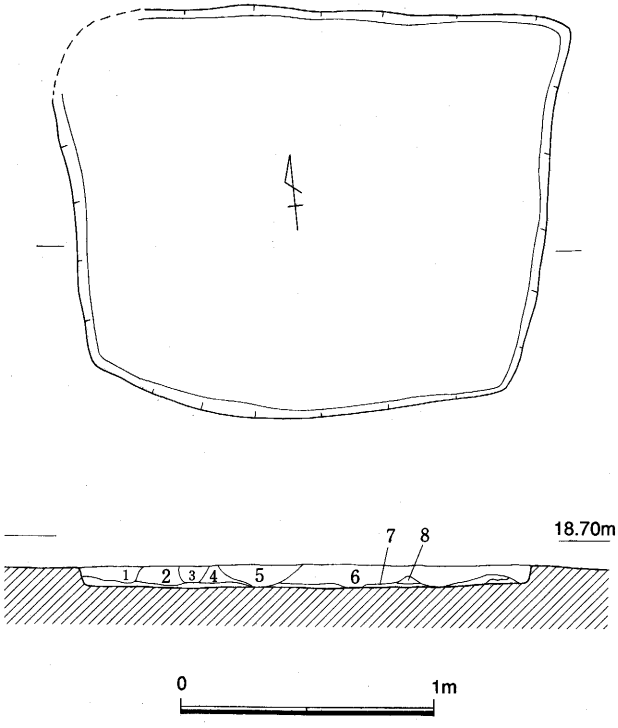


1．粘質の黄褐色土
2．粘質の暗褐色土
3．粘質の灰黄褐色土
4．粘質の黄褐色土



1．粘質の暗褐色土
（炭・マンガン・焼土を含む）
2．粘質の暗灰褐色土
3．砂質の黄褐色土
4．やや砂質の暗灰褐色土
5．粘質の淡黄褐色土
6．やや粘質の明黄灰色土
7．暗灰褐色ブロック
8．やや砂質の暗褐色土

第177図　SK55・56・57・58・59（S＝1/30）



1．粘質の暗褐色土
2．粘質の暗灰褐色土
（マンガンを含む）
3．粘質の暗褐色土
4．粘質の暗灰褐色土
5．粘質の暗褐色土
6．粘質の暗褐色土
7．粘質の黄褐色土
8．粘質の黄灰褐色土

第178図　SK74（S＝1/30）

（7）溝

1）SD01（第179図）

調査区の南東に位置し、SH01を切っている溝状遺構である。削平が著しく、残存状況は良好ではない。遺物は出土していない。

2）SD02（第180図）

環濠集落の西側に位置し、SB24に切られている。埋土は粘質の暗褐色～暗灰褐色土で、黄色ブロックが混じる。遺物は出土していない。

3）SD03（第180図）

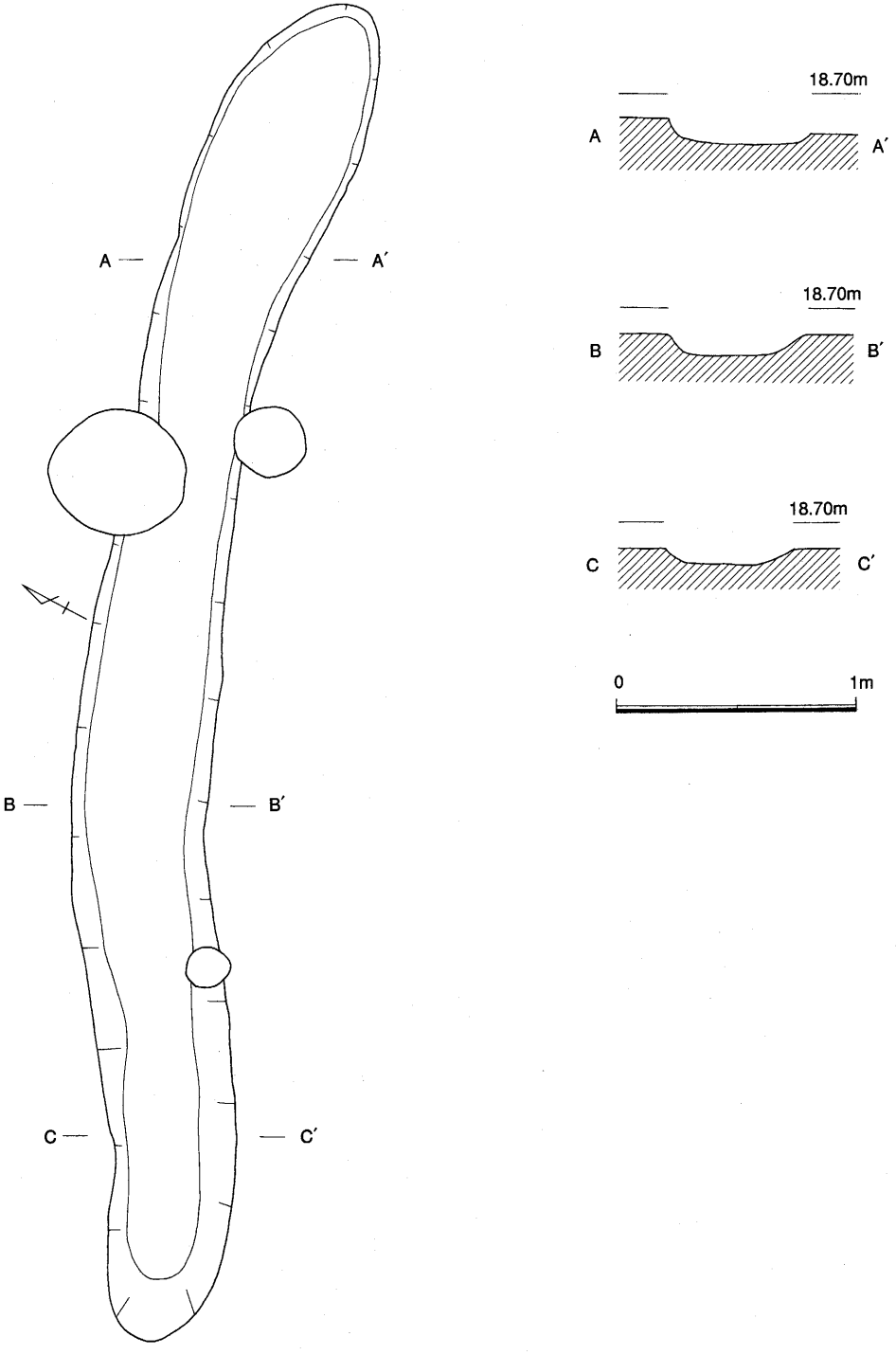
調査区の東側に位置する。SB25と切りあうが、前後関係は不明である。埋土は主に粘質の暗灰褐色～黄褐色土で、黄色ブロックが混在するため、人為的に埋め戻された可能性がある。遺物は土器片が出土したが、細片のため図化しえなかった。

4）SD04（第181図）

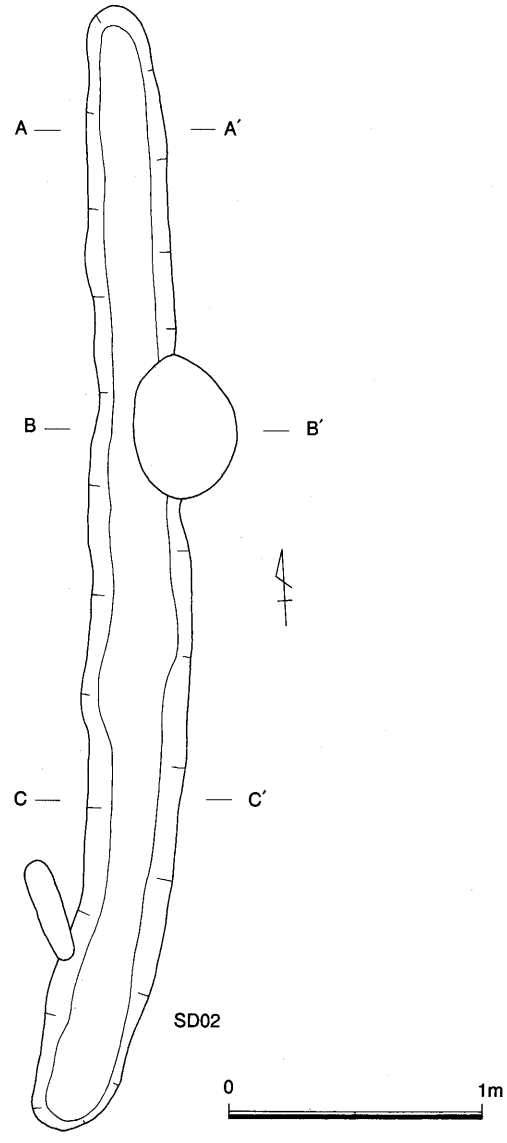
調査区の北東隅に位置し、SD05と近接する溝状遺構である。埋土は粘質の暗褐色土に黄褐色ブロックを含む。出土遺物は検出されていない。

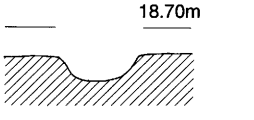
5）SD05（第181図）

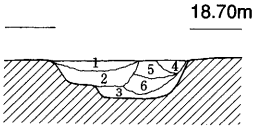
調査区の北東隅に位置し、SD04､SH06に近接し、SB28に切られている溝である。SH06との前後関係は不明である。SD05の長軸の一端は調査区によって切られているが、遺構のほぼ全体は検出されている。埋土は粘質の暗褐色～暗灰褐色土に粘質の黄褐色土が混在する。　（藤江）

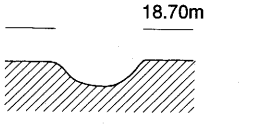


第179図　SD01（S＝1/30）

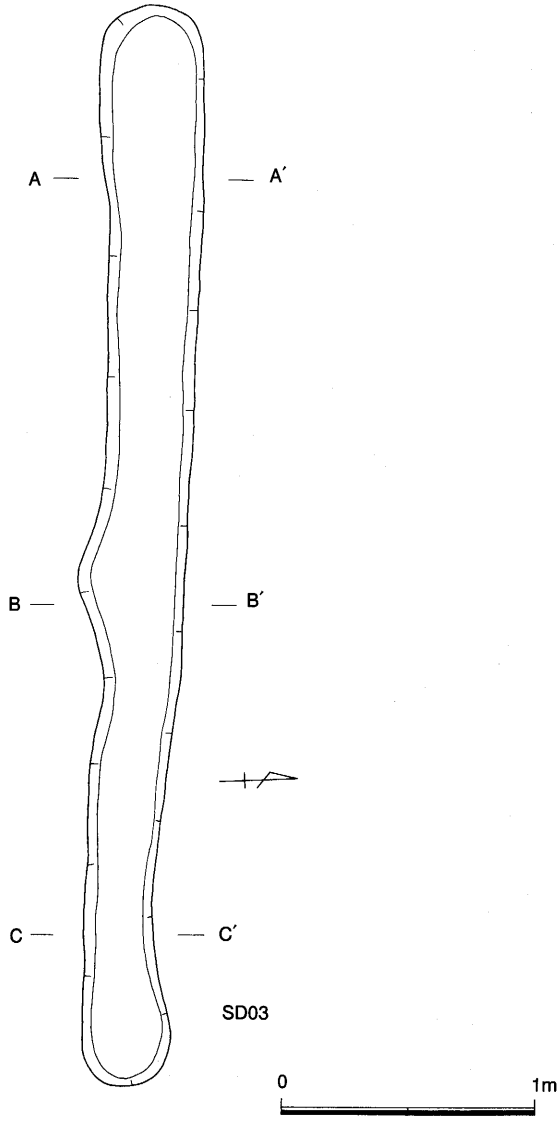


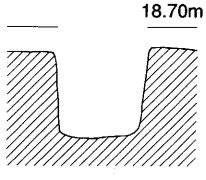


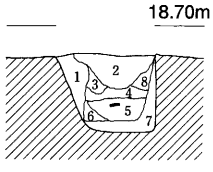


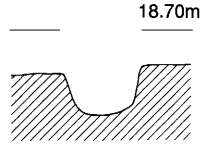


1．粘質の暗褐色土
2．粘質の暗褐色土
（炭を含む）
3．粘質の黄褐色土
4．粘質の灰褐色土
5．黄褐色ブロック
6．粘質の暗灰褐色土
7．粘質の淡灰褐色土



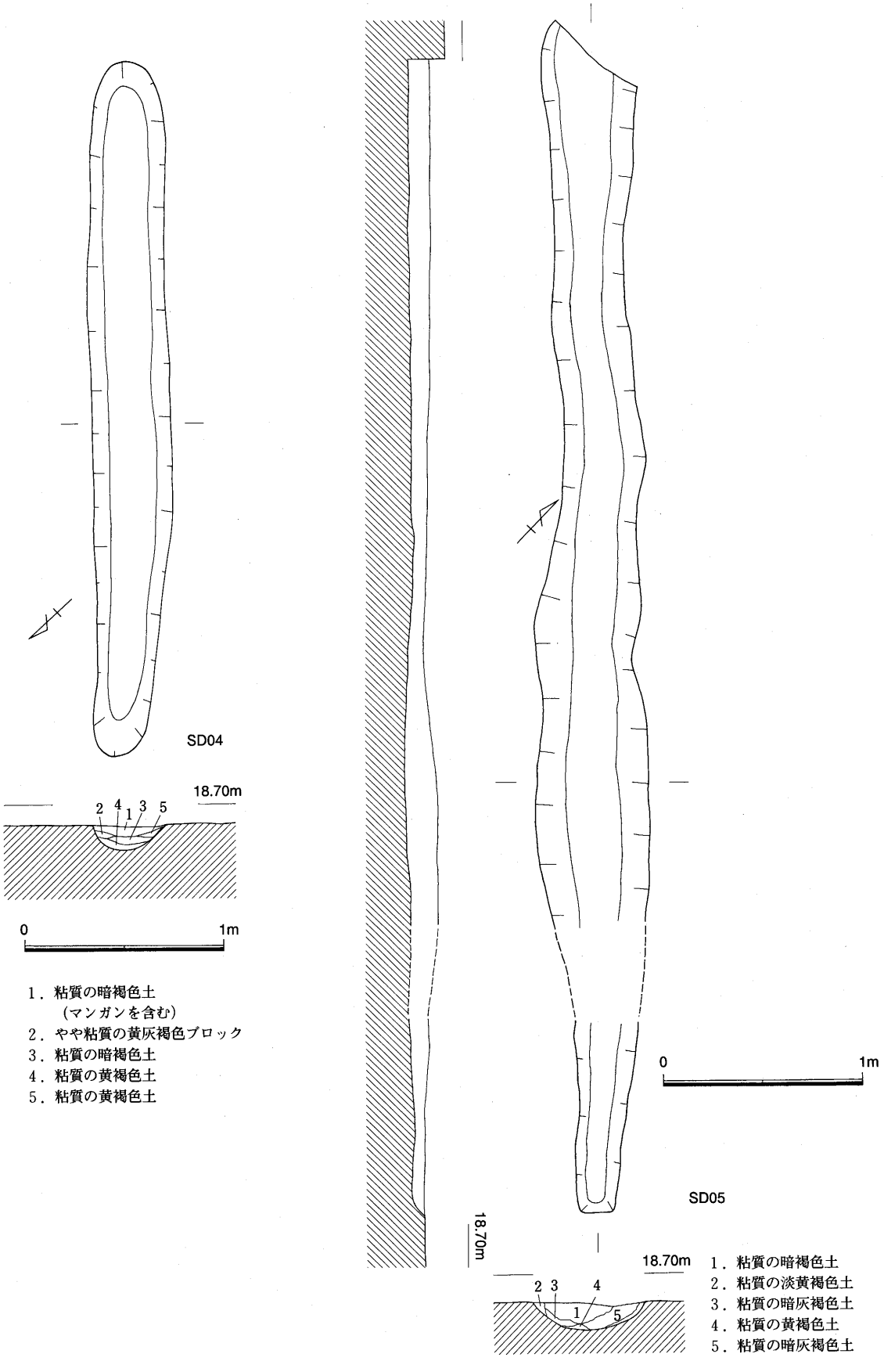






1．粘質の黄褐色土
2．粘質の暗褐色土
3．粘質の暗灰褐色土
4．やや砂質の灰黄褐色土
5．粘質の灰褐色土
6．粘質の灰褐色土
（黄褐色ブロックを含む）
7．やや砂質の黄褐色土
8．粘質の暗灰褐色土

第180図　SD02・03（S=1/30）



第181図　SD04・05（S＝1/30）

第３節　環濠集落周辺の遺構・遺物

（１）概要

前節では今回の発掘調査で最も遺構・遺物が集中した環濠集落について述べたが、本節では環濠を囲むように広がる低位部と、母体集落が存在したであろう西側の主微高地について検討したい。

環濠集落が位置する島状微高地と、西側の主微高地の間には南北に自然河道が走り、分断する形となっていることは先述した。この自然河道は小田川により形成された砂州状微高地の後背湿地的なもので、激しい水流の痕跡はなく、確認可能な最下層は植物遺体を含むグライ化した粘土層である。

この自然河道の広がりと微高地の形成関係については、本来は確認すべき重要な事項であるが、開発の掘削が及ばないことと、作業上の安全を考慮して、遺物が確認できる最下層まで掘り下げたトレンチの断面観察と、平面的には部分的な拡張に留めた。

また、西側の微高地寄りの河道端部のグライ化層で確認した、人為的配置の可能性がある自然木群（第185図）の広がりについても、一部の検出のみとして調査後の取り上げは行わず川砂で埋め戻して保存した。

低位部とした部分では自然河道上も含めて、環濠が検出されたレベルでは弥生後期の水田と落ち込み状の包含層が確認された他、環濠の外側の外周帯に沿う形で、やはり弥生後期の溝が検出された。

これらの溝は一部、外周帯の地山土を掘削しており、水田面の上昇に伴い水田の範囲が次第に拡大したことがトレンチの土層からも確認できた。

この他に、弥生後期の遺構は、調査区の南半で土壙等が検出され遺物も出土している。このことから、低位部全体が弥生後期を通して水田であったのではなく、今回の調査区内では具体的には不明であるが、近接して集落が営まれた時期存在したことは確実と考えられる。

低位部の西に広がる主微高地では、県教育委員会の試掘調査でも弥生前期の遺構が濃密に存在することが確認されているが、今回の調査区は微高地の縁辺部にあたることから、環濠集落内と比較すると遺構の状況はさほど密ではない。

ただ、この点から地形が西に上昇するため、後世の削平の度合いがより激しかった可能性も考慮すべきであろう。

（２）低位部

低位部とした部分の基本的な地形は、環濠集落が立地する南北に長い島状微高地の両端が緩やかな下降を示すため、微高地基盤土と低位部堆積土との境界が不明瞭になる傾向がある。

これに対して、島状微高地と主微高地の間は、最下層の自然河道により東西に分断され凹地状に落ち込んでおり、微高地の基盤土と微高地形成後の堆積土の明確な区別が可能である。

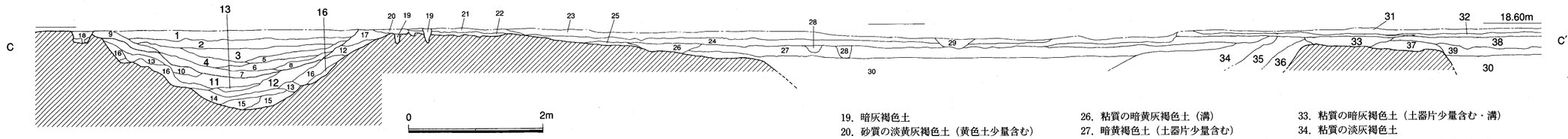
このためか、低位部の最上層から確認できた弥生後期の水田層と、グライ化した自然河道上で確認した弥生前期の水田層も、主として微高地間のみに広がる状況が看取された。

弥生後期水田層の広がりは、島状微高地の北端近くのＦ－Ｆ′ラインでは確認できず、平面的には水田との区別が困難な、粗砂を含む暗褐色土の遺物包含層が存在する。

また、島状微高地の南端近くのＥ－Ｅ′ラインでは、範囲は不明瞭であるが、落ち込み状に窪んだ遺物包含層が広がっており、やはり水田層は認められない。

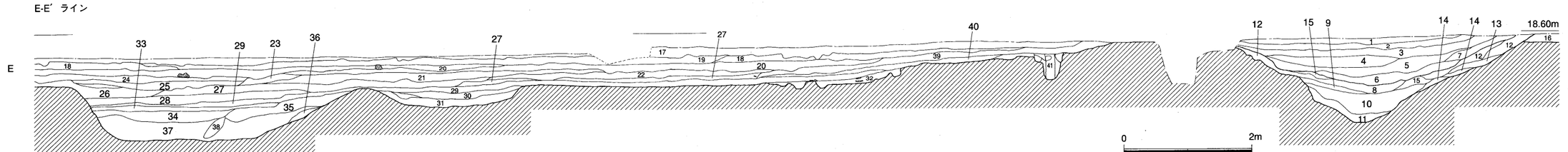
断面で弥生後期水田が明確に確認できたのは、やや西のＣ－Ｃ′ラインであり、畦状の高まりと溝

C-C′ ライン



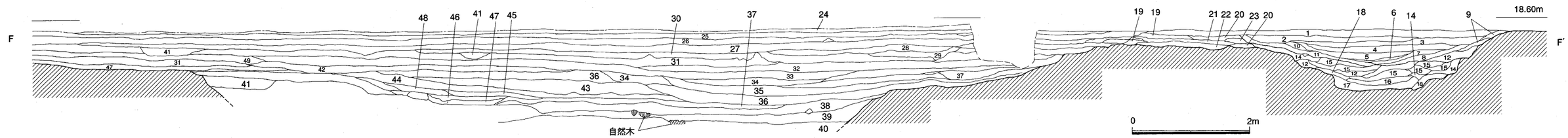
1．粘質の暗灰褐色土
2．細かい暗灰褐色土
（焼土・炭・土器片を少量含む）
3．やや砂質の暗灰褐色土
（土器片多量・炭少量含む）
4．砂質の灰褐色土
（灰色ブロック・炭少量含む）
5．砂質の灰褐色土（土器片・炭・少量含む）
6．砂質の灰褐色土（土器片多量に含む）
7．砂質の暗灰色土（炭・土器片を多量、焼土を少量含む）
8．砂質の灰色土（炭・焼土少量含む）
9．砂質の淡灰褐色土（**1～9が上層**）
10．淡灰褐色土（炭多量に含む）
11．砂質の淡灰色土（黄色土ブロック・炭少量含む）
12．砂質の淡黄灰褐色土（黄色土ブロック多量に含む）
13．砂質の暗黄色土
14．砂質の淡灰色土（黄色土ブロック少量含む）
15．砂質の暗黄色土（黄色土ブロック・灰色土ブロック多量に含む）
16．砂質の淡灰色土（黄色土ブロック多量に含む）
17．砂質の淡黄灰褐色土（**10～17が下層**）
18．粘質の灰褐色土（柱穴）
19．暗灰褐色土
20．砂質の淡黄灰褐色土（黄色土少量含む）
21．砂質の淡黄灰褐色土
22．暗黄色土（黄色土ブロック多量に含む）
23．細かい粘質の暗黄灰褐色土
（弥生後期の水田層？）
24．細かい砂質の淡黄褐色土（黄色土ブロック少量含む。弥生後期水田層？）
25．暗褐色土
26．粘質の暗黄灰褐色土（溝）
27．暗黄褐色土（土器片少量含む）
28．淡黄灰褐色土
29．砂質の淡褐色土（溝）
30．粘質の暗黄灰褐色土（土器片少量含む）
31．粘質の黒灰褐色土（弥生後期水田層）
32．粘質の暗灰褐色土、鉄分沈着
（弥生後期水田層）
33．粘質の暗灰褐色土（土器片少量含む・溝）
34．粘質の淡灰褐色土
35．暗黄色土（黄色土ブロック多量に含む）
36．粘質の淡灰褐色土
（黄色土ブロック多量に含む）
37．粘質の灰褐色土
38．細かい粘質の淡灰褐色土
39．粘質の暗黄褐色土

E-E′ ライン



1．粘質の暗灰褐色土
2．粘質の暗灰褐色土（土器片多量に含む）
3．やや砂質の暗灰褐色土（土器片多量に含む）
4．細かい砂質の暗灰褐色土
5．粘質の暗灰色土（炭・焼土・土器片少量含む）
6．粘質の暗灰色土（土器片多量に含む）
7．暗黄灰褐色土（**1～7が上層**）
8．細かい砂質の暗黄色土
9．細かい砂質の暗黄灰色土
10．やや砂質の暗黄灰色土（土器片少量含む）
11．砂質の淡黄灰色土（灰色土ブロック少量含む）
12．細かい砂質の淡黄灰褐色土
13．砂質の暗黄灰色土（灰色土ブロック多量に含む）
14．粗い暗黄色砂
15．暗黄灰色土（黄色土ブロック多量に含む）
（**8～15が下層**）
16．淡灰褐色土
17．粘質の黒灰褐色土（炭少量含む）
18．やや砂質の暗灰褐色土
19．粘質の淡灰褐色土
20．粘質の淡灰褐色土（真砂土粒少量含む）
（**17～20は弥生後期水田層**）
21．やや砂質の暗灰褐色土
22．やや砂質の淡灰褐色土
（真砂土粒多量に含む）
23．暗灰褐色土（真砂土粒少量含む）
24．砂質の淡黄褐色土
25．粗い砂質の淡黄灰色土
26．砂質の淡黄灰褐色土
27．やや砂質の暗黄灰色土
28．しまりのない砂質の灰褐色土
29．粘質の淡灰色土（弥生前期水田層）
30．粘質の暗黄灰色土（土器片少量含む）
31．粘質の淡茶灰色土
32．粘質の黒灰色土（土器片・炭・焼土・黄色土ブロック多量に含む。溝？）
33．粘質の淡灰色土（炭少量含む）
34．粘質の暗黄灰色土
35．粘質の淡黄灰色土（粗砂・炭少量含む）
36．灰色粘土
37．グライ化した黒灰色粘土（木質・土器片少量含む）
38．暗灰色粘土
39．やや砂質の暗茶灰色土
40．暗茶灰色土（粗砂少量含む）
41．粘質の黒灰褐色土（柱穴）

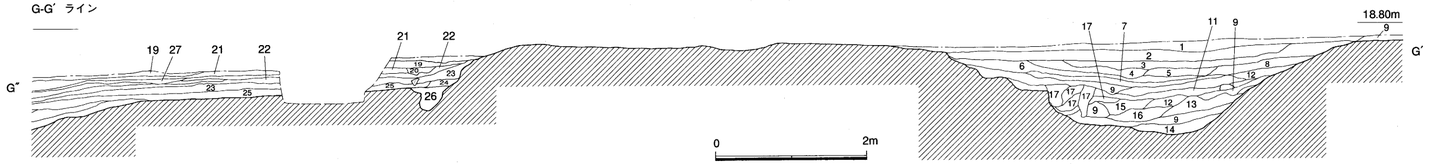
F-F′ ライン

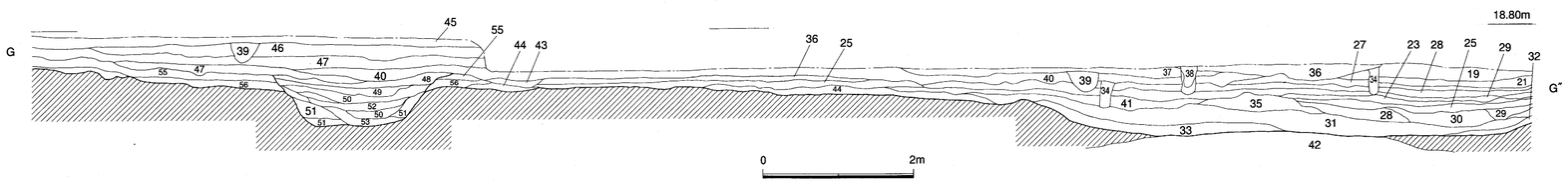


1．粘質の暗灰褐色土
2．粘質の暗灰褐色土（炭・焼土少量・土器片多量に含む）
3．やや砂質の暗灰褐色土（土器片多量に含む）
4．粘質の暗灰褐色土（炭・土器片多量に含む）
5．粘質の黒灰褐色土（炭・土器片多量に含む）
6．砂質の暗黄灰色土（黄色土ブロック多量に含む）
7．粘質の黒褐色土（土器片多量に含む）
8．粘質の黒灰色土（炭・土器片多量に含む）
9．淡灰褐色土（黄色土ブロック少量含む）
10．暗灰色土（土器片多量に含む）
11．粘質の暗灰褐色土（土器片・黄色土ブロック少量含む）
（**1～11が上層**）
12．黄色土ブロック
13．暗黄灰色土（黄色土ブロック多量に含む）
14．暗黄色土（灰色土ブロック少量含む）
15．砂質の暗黄灰色土（黄色土ブロック多量に含む）
16．砂質の暗灰色土（黄色土ブロック・炭少量含む）
17．ややグライ化した暗灰色粘土
18．淡黄灰色土（黄色土ブロック少量含む）
（**12～18が下層**）
19．よくしまったブロック状の黄色土
20．淡灰褐色土（黄色土ブロック多量に含む）
21．黒灰褐色土（黄色土ブロック少量含む）
22．砂質の淡灰褐色土（黄色土ブロック少量含む）
23．よくしまった黒灰褐色土
24．粘質の黒灰褐色土
25．粘質の暗灰褐色土（鉄分沈着）
26．粘質の暗灰褐色土（炭少量含む）
27．粘質の淡灰褐色土（鉄分沈着）
（**24～27は弥生後期包含層**）
28．暗灰褐色土（粗砂少量含む）
29．暗黄灰褐色土（粗砂少量含む）
30．粘質の淡灰色土
31．暗黄灰色土（黄色土・粗砂少量含む）
32．暗黄灰褐色土（真砂土粒多量に含む）
33．粗い砂質の淡灰色土
34．粗い砂質の暗黄色土
35．砂質の暗黄灰色土
36．やや砂質の淡黄褐色土
37．細かい砂質の淡灰色土
38．粘質のグライ化した黒灰色土
（土器片・木質を少量含む）
39．砂利層
40．礫を含む砂利層
41．砂質の暗黄灰色土
42．砂質の灰色土
43．砂質の淡灰褐色土
44．やや砂質の淡灰色土
45．粗い砂質の淡灰褐色土（灰色粘土ブロック多量に含む）
46．粘性のつよい淡灰褐色土
47．粘性のつよい暗灰褐色土（炭少量含む）
48．粗い淡黄褐色砂
49．砂質の淡灰色土（粗砂を多量に含む）

第182図　土層断面図(1)（S＝1/60）　記号は第8図に対応する。

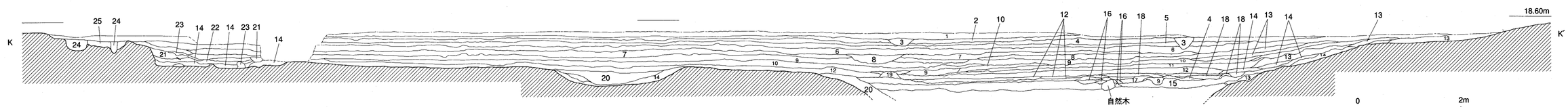
G-G′ ライン





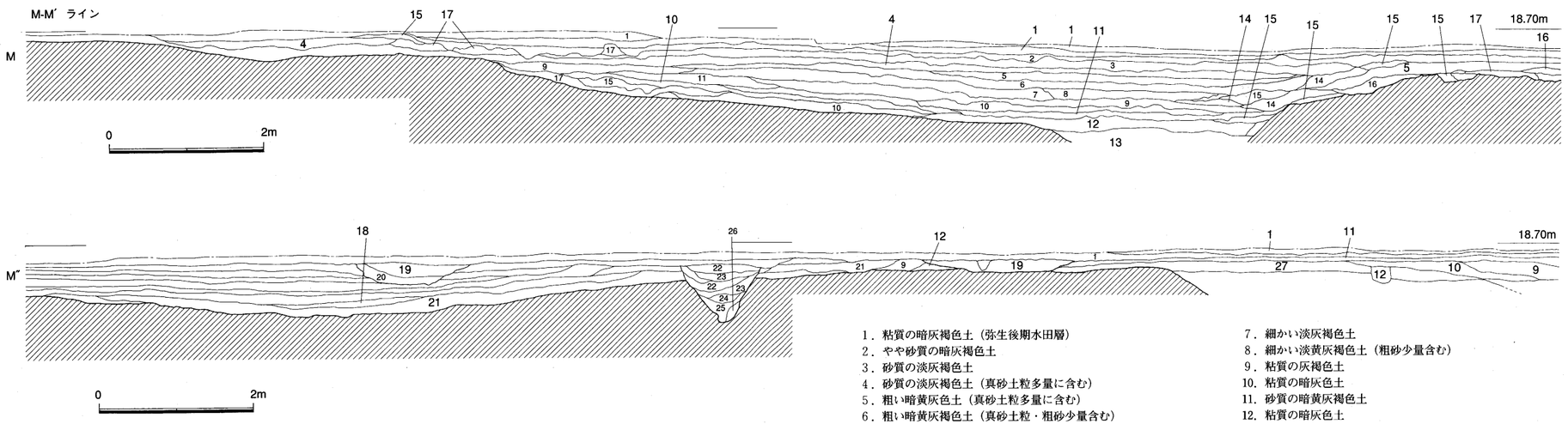
1．やや砂質の暗灰褐色土
2．暗灰褐色土（黄色土ブロック・炭少量含む）
3．砂質の暗灰褐色土（土器片・炭少量含む）
4．暗黄灰褐色土
5．粘質の暗灰褐色土（炭・黄色土ブロック少量含む）
6．粘質の暗灰褐色土（炭を多量・土器片を少量含む）
7．粘質の暗灰色土（炭少量含む）
8．砂質の暗灰褐色土（**1～8が上層**）
9．ブロック状の黄色土
10．細かい淡灰褐色土
11．淡灰褐色土（炭少量含む）
12．淡灰色土（黄色土少量含む）
13．砂質の淡黄灰色土
14．粘質でややグライ化した暗黄灰色土
15．淡灰色土（黄色土ブロック多量に含む）
16．粘質の淡黄灰褐色土
17．暗黄灰色土（黄色土ブロック多量に含む）
（**9～17が下層**）
18．やや砂質の灰褐色土
19．淡灰褐色土（真砂土粒少量含む）
20．粗い暗黄色砂
21．やや砂質の暗灰褐色土（真砂土粒少量含む）
22．砂質の灰褐色土（真砂土粒少量含む）
23．砂質の灰褐色土（真砂土粒多量含む）
24．砂質の暗黄色土
25．細かい粘質の淡灰色土
26．砂質の灰色土（溝？）
27．砂質の暗黄色土（黄色土多量に含む）
28．細かい砂質の暗黄灰色土
29．粘質の暗黄灰色土
30．粘質の暗黄色土
31．粘質の暗黄～淡灰色土
32．粘質の黒灰色土
33．グライ化した暗青灰色粘土（土器片・木質少量含む）
34．細かい灰色土
35．砂質の暗黄色土（灰色土ブロック少量含む）
36．細かい粘質の暗褐色土（溝？）
37．粗い淡黄褐色土（真砂土粒・粗砂多量に含む）
（造成土？）
38．砂質の暗灰褐色土（中世柱穴）
39．粗い暗黄褐色砂（溝？）
40．暗黄灰色土（真砂土粒多量に含む）
（造成土？）
41．細かい砂質の淡灰色土
42．礫まじりの粗砂
43．粗い黄灰色土（真砂土粒多量に含む）
44．砂質の灰色土（黄色土ブロック多量に含む）
45．近世水田鋤床層
46．よくしまった粗い暗黄灰色土（粗砂多量に含む）
47．粗い暗黄色土（真砂土粒多量に含む。造成土）
48．粘質の淡黄灰色土
49．粘質の淡灰色土（褐色土ブロック少量含む）
50．細かい淡灰色土（黄色土ブロック少量含む）
51．砂質の暗黄灰色土（黄色土ブロック多量に含む）
52．粘質の淡灰色土
53．粘質の淡灰色土（黄色土・炭少量含む）
54．炭層（**48～54はSD17**）
55．細かい暗灰褐色土
56．細かい淡灰褐色土（黄色土ブロック少量含む）

K-K′ ライン

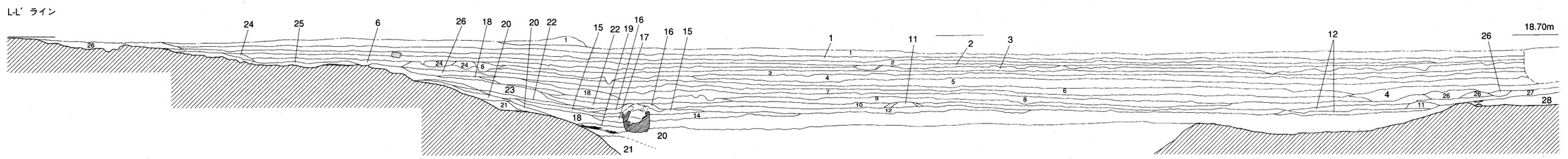


1．細かい粘質の暗灰褐色土
2．粘質の暗灰褐色土（黒灰色土ブロック多量に含む）
（1・2は弥生後期水田層）
3．やや砂質の灰褐色土（溝）
4．粘質の暗黄褐色土
5．粘質の暗黄褐色土（粗砂少量含む）
6．やや砂質の粗い暗黄褐色土（真砂土粒多量に含む）
7．細かい暗黄褐色土
8．細かい暗黄褐色土（真砂土粒・粗砂含む）
9．粗い砂質の暗黄褐色土
10．やや砂質の淡黄灰色土
11．細かい淡黄灰色土
12．細かい粘質の淡灰色砂質土（弥生前期水田層か？）
13．砂質の淡黄色土
14．淡灰色土（砂質の黄色土多量に含む）
15．粘性の強い黒灰色土（炭少量含む）
16．淡灰色粘土
17．粗い淡灰色砂（炭多量に含む）
18．細かい灰褐色砂
19．粘質のよくしまった淡灰色土（畦畔か？）
20．粘質の暗灰褐色土（粗砂・炭少量含む）
21．暗灰褐色土（炭多量に含む）
22．粘質の灰褐色土（炭少量含む）
23．砂質の黄色土
24．暗灰褐色土（ピット）
25．淡灰褐色土（黄色土ブロック多量に含む）

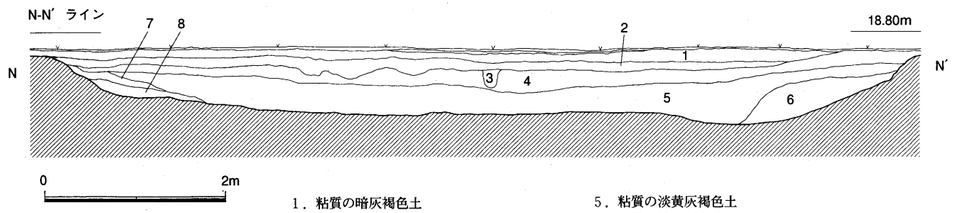
第183図 土層断面図(2)（S＝1/60）　記号は第8図に対応する。



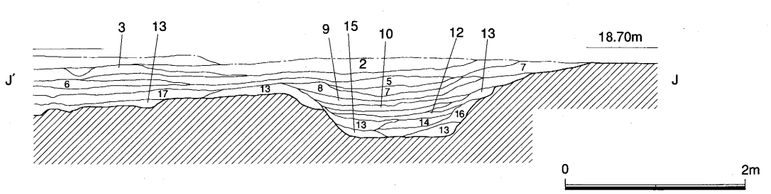
1．粘質の暗灰褐色土（弥生後期水田層）
2．やや砂質の暗灰褐色土
3．砂質の淡灰褐色土
4．砂質の淡灰褐色土（真砂土粒多量に含む）
5．粗い暗黄灰色土（真砂土粒多量に含む）
6．粗い暗黄灰褐色土（真砂土粒・粗砂少量含む）
7．細かい淡灰褐色土
8．細かい淡黄灰褐色土（粗砂少量含む）
9．粘質の灰褐色土
10．粘質の暗灰色土
11．砂質の暗黄灰褐色土
12．粘質の暗灰色土
13．グライ化した黒灰色粘土
14．暗灰色土（真砂土粒・粗砂多量に含む）
15．淡灰色土
16．暗褐色土（粗砂多量に含む）
17．灰色土（黄色土多量に含む）
18．淡黄色砂
19．細かい砂質の暗灰褐色土
20．砂質の暗灰褐色土（19、20は弥生後期溝）
21．細かくしまった粘質の灰褐色土
22．暗黄褐色土
23．黄灰褐色土
24．暗灰色土
25．暗灰褐色土（黄色土ブロックを多量に含む）
26．黒灰色土
（22～26は弥生前期土壙埋土）
27．粘質の淡黄灰褐色土
28．砂質の淡灰褐色土



1．粘質の暗灰褐色土
2．粘質の暗灰褐色土（粗砂少量含む）
（1、2は弥生後期水田層）
3．粘質で細かい暗黄灰色土（粗砂少量含む）
4．粘質で粗い暗黄灰色土（真砂土粒・粗砂少量含む）
5．粗い砂質の暗黄灰褐色土（真砂土粒少量含む）
6．粗い砂質の淡灰褐色土
7．粗い砂質の淡灰褐色土（灰色土ブロック多量に含む）
8．細かい砂質の淡黄灰色土（細砂多量に含む）
9．細かい砂質の淡黄褐色土
10．細かい粘質の淡青灰色土（弥生前期水田層）
11．よくしまった砂質の淡灰色土（畦畔）
12．粘質の淡灰色土（弥生前期水田層）
13．グライ化した粘質の黒灰色土
14．粘質の暗青灰色土（炭多量に含む）
15．細かい砂質の暗青灰色土
16．淡青灰色粘土
17．暗青灰色粘土（細砂少量含む）
18．粘質の淡灰色土（炭少量含む）
19．粗い粘質の暗灰色土
（木質多量に含む）
20．細かい淡灰色砂
21．粗い淡灰色砂（小礫多量に含む）
22．細かい砂質の淡灰色土（炭少量含む）
23．細かい砂質の灰色土（暗灰褐色土少量含む）
24．しまりのある暗褐色土
25．暗灰色土（黄色土ブロック多量に含む）
26．粗い灰褐色土
27．粘質の淡灰色土（真砂土粒少量含む）
28．粗い茶褐色土（土器・炭多量に含む・溝）



1．粘質の暗灰褐色土
2．粘質の淡灰褐色土（土器片多く含む）
（弥生後期包含層）
3．粘質の暗黄灰褐色土
4．砂質の暗灰褐色土
5．粘質の淡黄灰褐色土
6．砂質の淡黄灰色土
7．粘質の淡黄褐色土
8．砂質の淡灰色土



1．粘質の暗灰褐色土（弥生後期水田層）
2．暗黄灰色土（真砂土粒多量に含む）
3．暗黄灰褐色土（真砂土粒少量含む）
4．砂質の淡黄灰色土
5．細かい砂質の淡黄灰色土
6．暗黄灰色土
7．粘質の淡黄灰色土
8．淡黄灰褐色土（褐色土ブロック少量含む）
9．淡茶灰色土
10．粘質の淡灰色土
11．粘質の暗灰色土
12．粘質の黒灰色土
13．粘質の淡灰色土（黄色土ブロック少量含む）
14．粘質の淡灰褐色土
15．粘質の灰褐色土
16．粘質の淡灰褐色土（炭少量含む）
17．淡黄灰褐色土

第184図 土層断面図(3)（S＝1/60）　記号は第8図に対応する。

が存在することから、このトレンチ周辺が低位部水田の東端とみられる。

弥生後期とした水田層の広がりは、Ｆ－Ｆ′ラインの断面では環濠の東縁にまで及んでおり、外周帯が水田の造成に伴い削平されている。このことから、環濠内側の集落遺構もこの段階に削平された可能性も十分考えられるが、その点を明示する土層・遺物は確認できなかった。

弥生後期の水田耕土層は暗灰褐～黒灰褐色の細かい粘質土で、ほぼ水平に堆積し鉄分の沈着や細かい砂層を挟む点を目安として分層した。しかし、面的に洪水砂などで被覆された状態ではないため、畦畔は検出できず、正確な面数も把握することは困難であった。

ただ、自然河道上の弥生後期水田層の、最初の耕作土層のレベルは海抜18m 前後で共通している。このことから、当初の水田面は環濠外周帯より数十㎝低い部分で営まれ、短時間の堆積による水田面の上昇と共に両側の微高地を徐々に削り込んで拡張し、同時期に溝も地形に沿って掘られたと考えることが妥当であろう。

自然河道上の断面では、弥生後期の水田層とグライ化層上の弥生前期水田の間に、50～60㎝の厚さでやや粗い砂質の淡黄灰～淡黄灰褐色土が堆積している。これらの土は水平に近い堆積を示す場所もあることから水田の可能性も考えたが、弥生後期の水田層と比較すると大粒の砂粒を含み、粘性のない砂質土である点から水田層ではないと判断した。

この土層中からは堆積の時期を示す遺物の出土が殆どなく、近似した土質である点と、堆積の間断を示す流砂や粘質土がみられないことから、弥生前期以降の短期間に埋没したと考えられる。

弥生前期の水田層と考えた淡灰色の細かい粘質土層は、前述の砂質土に覆われて自然河道上のＥ－Ｅ′，Ｌ－Ｌ′ラインの土層断面で、グライ化した粘土層上に確認された。

また、Ｌ－Ｌ′ラインの断面では、幅40㎝強の固く締まった、耕作土とは異なる砂質の盛り上がりが確認でき、畦畔の可能性が考えられたためトレンチを面的に拡張して検出をおこなった。

この結果、南北方向に伸びる長さ約10m 、幅40㎝弱の直線的な主畦畔と、それに斜交するやや細い枝状の畦畔、外周帯側で段状に立ち上がる水田端部を確認した。(第184図)

この水田層はＥ－Ｅ′ラインの土層断面では、自然河道上の面と外周帯に近い安定した基盤土上とでは30㎝近い比高差がみられ、自然河道の地盤沈降を考慮しても、当初より高低差を有していた可能性が高い。また、Ｅ－Ｅ′ラインの土層断面では、東側の水田端部で水田層の下層に焼土・炭・土器を多く含む黒灰色土を呈する埋土の溝（ＳＤ07）が、外周帯の縁辺を巡る状況が確認された。

このＳＤ07は外周帯上の遺構から流れ込んだ焼土・炭・土器を含んでおり、水田層が溝を削平していることから、水田が営まれたのは外周帯上の遺構が廃絶した後とみることが妥当であろう。

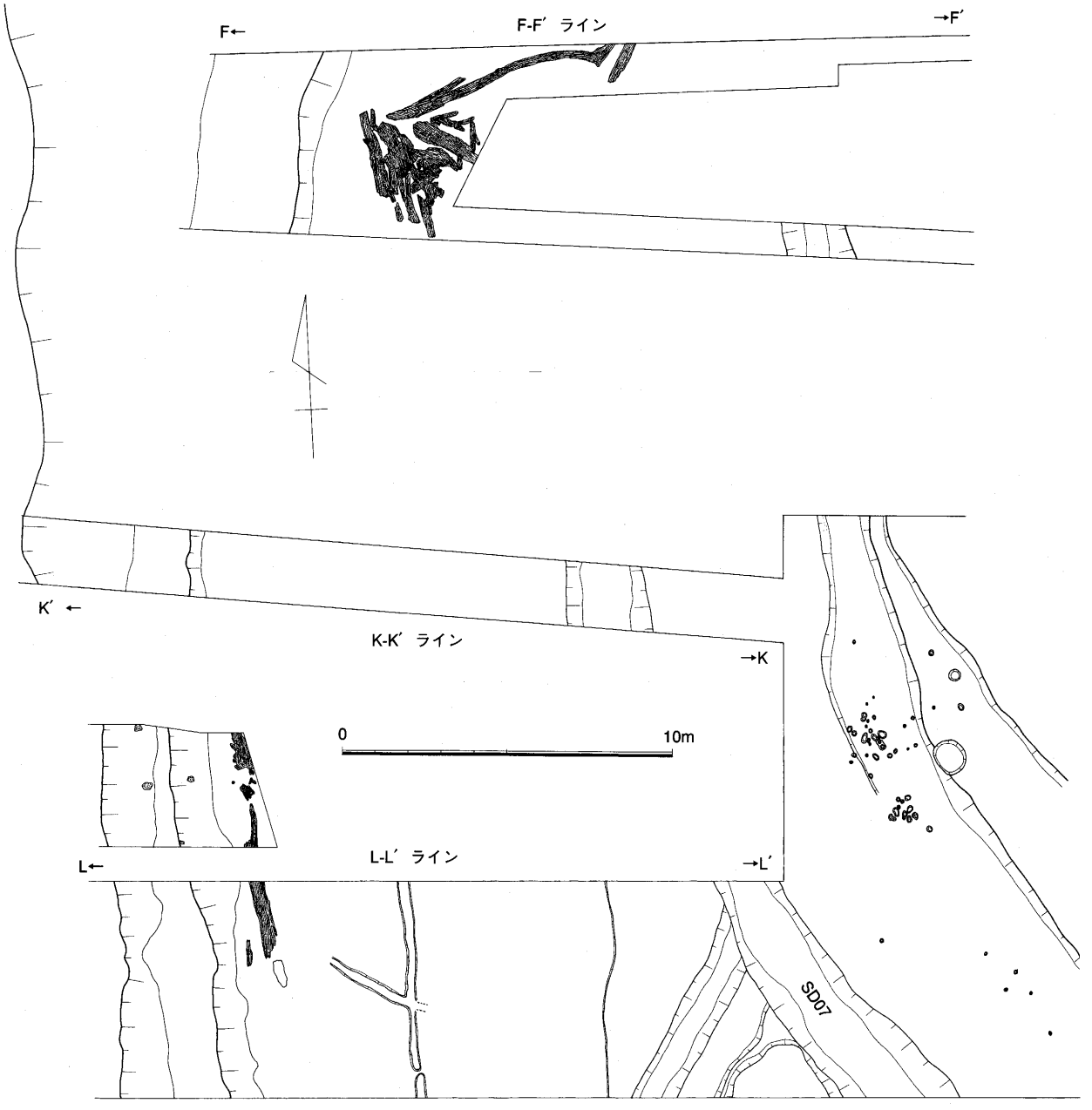
その場合、外周帯上の遺構の廃絶時期が問題となるが、外周帯上の遺構は大半が弥生後期の水田層に削平されており、環濠集落内の遺構との同時性は僅少な遺物で推定するしかない。

このため、水田の時期についても明確にできないが、水田層直下の自然河道のグライ化土中から弥生前期の土器が出土している点と、先述の溝との関係から弥生前期の範中とみて大過ないと思われる。

また、この前期水田の広がりについては、平面的には一部を確認したに過ぎないが、トレンチ断面を検討すると、第183図・第184図のように自然河道上の極く狭い範囲と推定できる。

これを、飛躍的に拡大した後期水田と比較すると、少なくとも本遺跡では前期段階の水田経営は、地下水位の高い湿地部分だけを利用した小規模な開発に留まっていたことが如実に現れている。

この前期水田層が営まれていた自然河道のグライ化粘質土層は、今回のトレンチでは底面までの深



第185図　低位部拡張トレンチ平面図（S＝1/200）

さを確認していない。このため、部分的に掘り下げた断片的な土層から推定すれば、微高地の細かい黄色砂質土の最下層基盤土である礫混じりの粗い砂層が、南北に細長い窪地状になった部分に粘質土が堆積したと考えられ、出土した土器（第190図）から環濠集落が形成される以前に、すでに湿地状態であったとみられる。

また、Ｌ－Ｌ′ラインとＦ－Ｆ′ライントレンチの、西側微高地への立ち上がり部付近のグライ化粘質土層中から、丸太状の自然木が埋没した状態で検出された。このため、トレンチを部分的に拡張してその範囲と規模・性格の確認を行った。（第186図・第187図）

Ｌ－Ｌ′ラインの土層（第184図）では、自然木が埋没したグライ化土と上層に広がる前期水田層の関係を明確に捉えることができた。この断面でみると丸太状の自然木は直径45㎝で、中心部分が腐食しているため、一見、穿り貫かれたような外観を呈するが、輪郭とみられる土層に残る細かいシルト状の粘土で推定すると、自然木の丸太のままであり加工痕跡は認められない。

この自然木は長さ４．７ｍが遺存し、さらに南北に粘土化した木質が直線的に伸びており、北側の木根状の塊周辺では、垂直に打ち込まれた木杭が検出された。（第191図）

ただ、北側のＦ－Ｆ′ライン（第182図）との中間に位置するＫ－Ｋ′ラインの土層（第183図）では、明瞭な木質の遺存はみられないため、自然木の広がりについては、結果的に二箇所のトレンチでの断片的な把握となった。

Ｌ－Ｌ′ラインの自然木が含まれるグライ化した粘土層では、細かい木質の遺存はみられるが、腐食したことを考慮しても丸太状のものは一列のみであった可能性が高い。

このＬ－Ｌ′ラインの自然木について、当初は低湿地に溜まった流木と考えた。しかしながら、木杭を打ち込んで固定していることと併せて、木を埋めた高まり状の土層（第184図16層）を人為的とみることができ、この高まりを前期水田の畦的な用途と想定することも可能である。

その場合、列状の自然木は水田面と西側微高地の斜面を画する目的で埋めらた可能性があり、微高地の傾斜が緩くグライ化層が薄くなる島状微高地側には、同様のものが見られない点も理解できる。

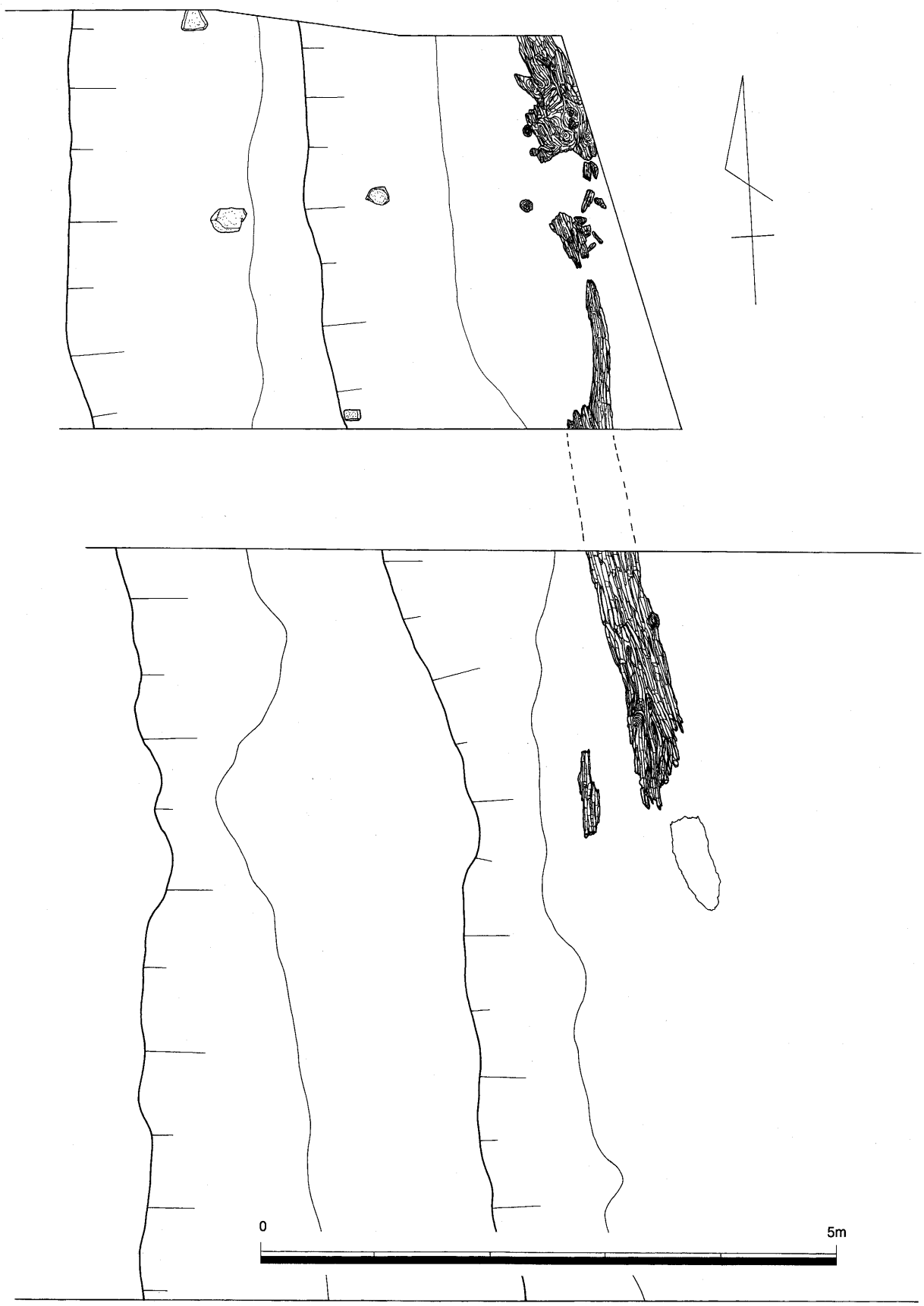
次に自然木が確認されたＦ－Ｆ′ライントレンチでは、Ｌ－Ｌ′ラインとは対照的に多数の自然木が平面的に敷き詰められた状態で出土した。（第187図）

この自然木の広がりについては、作業上の安全を考慮して限定的なトレンチに留めたため正確には把握していないが、南北方向の木の幹と枝の集中部分から、長さ７ｍ以上の湾曲した幹部を東西方向に配しており、あたかもこの地点が区画のコーナーであるかの状態を呈している。

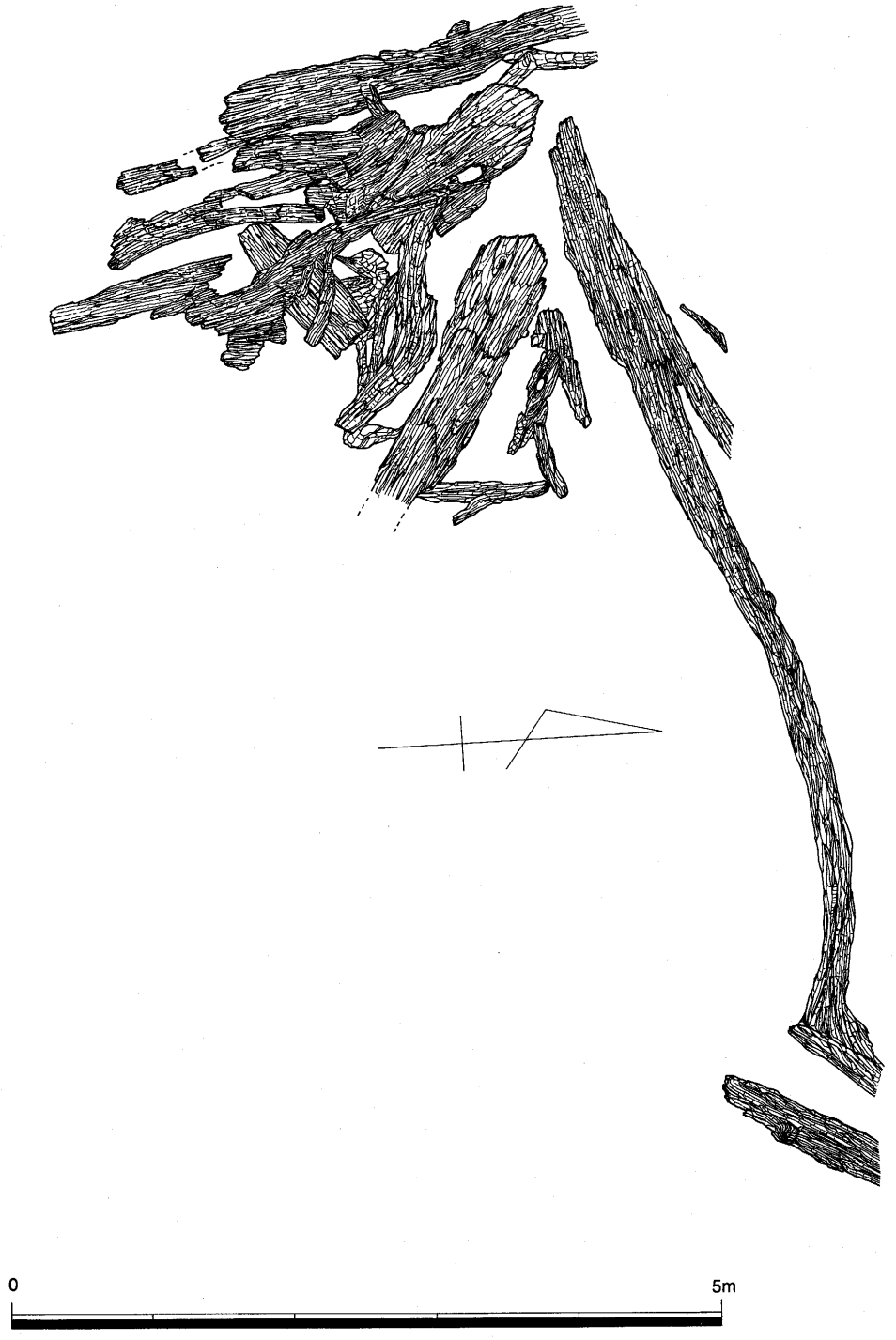
これらの自然木については、Ｌ－Ｌ′ラインのものと同様の目的とみるよりも木の集中が著しいため、貯木場等の他の用途を考えたが、加工痕跡は一切なく木材としての利用にも不便な部分が多いことから、やはり区画を目的とした配置とみることが現時点では妥当であろう。

また、自然木が埋没している砂礫層上のグライ化粘土層底面のレベルは、Ｌ－Ｌ′ラインで海抜17.3ｍ、Ｆ－Ｆ′ラインで16.56ｍであり、北方向にやや下降しているが、反対にグライ化粘土層は薄くなる傾向が看取される。同時に、前期水田とみられるグライ化層上の淡灰色土層の平面的広がりも狭小になることから、このＦ－Ｆ′ライン付近が前期水田が営まれた範囲の北限と考えられる。

この点を先述の自然木の配置と併せて考えると、東西方向に伸びる自然木は水田の境界と見做すことができ、今回の調査で出土した自然木が、水田面の区画施設という仮説もやや合理性を帯びてくるのではないかと思われる。（武田）



第186図　低位部拡張トレンチ自然木出土状態(1)（S＝1/50）



第187図　低位部拡張トレンチ自然木出土状態(2)（S＝1/50）

（３）環濠周辺のその他の遺構

環濠周辺では前記の弥生後期水田の他に、一部低位部上も含めて落ち込み・溝・土壙・柱穴が存在する。この内、落ち込みとしたものは、環濠の南のＳＸ11と北西のＳＸ12である。（第６図）ＳＸ11は環濠外の弥生後期水田の検出時に、調査区南東端の環濠外周帯の南側で、ほぼ同一のレベルで土器がまとまって出土したことから、落ち込み状の包含層の存在が明らかになった。

この落ち込みは断面からするとＣ－Ｃ′ラインまでは広がっておらず、東端のＮ－Ｎラインでしか断面の観察ができない。この土層断面でみるとＳＸ11は幅9.5ｍ、深さ約60㎝の緩やかな窪地状を呈しているが、南に下降する微高地の傾斜面にあたるため、基盤土と覆土の区別が曖昧であり、平面形態は遺物の出土状況と、水田面との間に巡る溝の消長で大まかに推測した。

ＳＸ11の覆土上層からは弥生後期の土器（第202図・第203図）がまとまって出土したが、炭・焼土等の生活にともなう廃棄物は殆ど含まれていない。また、隣接する弥生前期の環濠集落上には後期の遺構が皆無な点も、居住域はやや離れた地点に存在したことを示しており、何らかの理由で水田として利用しない地点に意図的な土器の投棄をおこなったとみられる。

ＳＸ12の下層からは環濠集落側から投棄されたとみられる、弥生前期の土器（第205図）が自然河道側に較べるとまとまって出土しており、やはり地形的にやや高い微高地端部の積極的な利用がなかったと考えられる。

この点はＳＸ11も同様であり、水田と明確な区別がつかず、平面的な形態も不明瞭な落ち込み状の包含層で、同時期の同じ一群の土器（第199図～第201図）が出土していることが共通している。

また、ＳＸ11も微高地端部周辺で、削り残された水田利用されない地点に土器が投棄されており、やはり炭・焼土等の生活廃棄物はみられず、生活域は近接していないと思われる。

今回の調査で確認された弥生後期と考えられる遺構は、ＳＸ11・12以外に後述する溝・ピットが僅かに存在するのみで、自然河道上に広がる水田が主たる遺構となる。

西側の微高地についても弥生後期の遺構は確認されておらず、遺物の出土位置からも島状微高地の南北に存在したとみるのが最も妥当であろう。

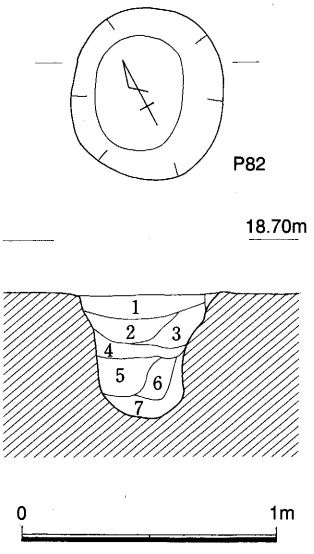
しかしながら、弥生後期の段階では環濠集落が位置する高まりは、ほぼ水田面と同一のレベルに埋没していたにも係わらず、まったく利用されていないことは、落ち込みと水田に伴う溝の状況から明白であり、調査結果から土地利用を考えると疑問が多い。この点については考察の項で改めて触れたいと思う。

環濠集落の外周帯に沿う形で検出された溝の内、平面的には一部しか明らかになっていないＳＤ07は前期水田層との関係と出土した遺物（第192図～第196図）から、環濠集落と同時に機能していたことが確実である。この溝は外周帯の淵辺を、環濠に平行する形で掘られていると推測されるが、北端のＧ－Ｇ′ラインでは明瞭に確認できなかった。

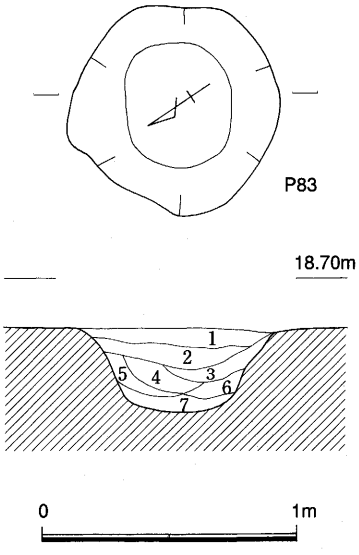
この他のＳＤ06を含む外周帯に堀り込まれた溝は、出土遺物（第197図・第198図）と水田層との関係から、全て弥生後期の所産とみられるが、下層の前期の溝を位置的に踏襲している点は興味深い。

この弥生後期の溝群を切るＰ－82～85は、出土遺物から後期の範疇に含まれるが、埋土の状態からみると柱穴ではなく、性格は不明である。

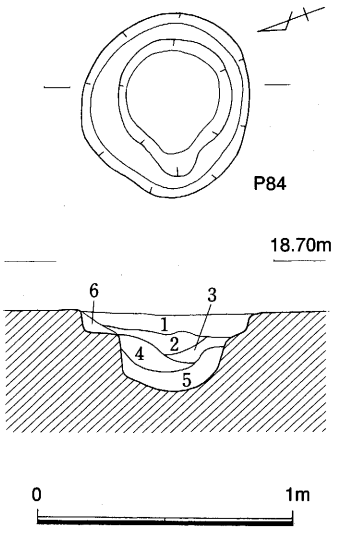
この他に後期水田に削平された外周帯上からも土壙・ピットが検出されたが、規則的な配置や建物として認められるものはない。



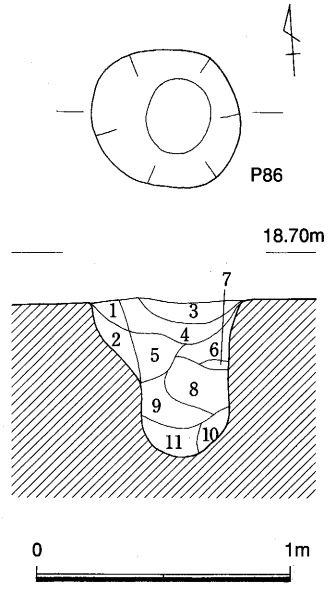
1～3．粘質の暗灰褐色土
（黄色土・灰色土ブロックを含む）
4．黄色土ブロック
5～7．粘質の暗灰褐色土
（黄色土・灰色土ブロックを含む）



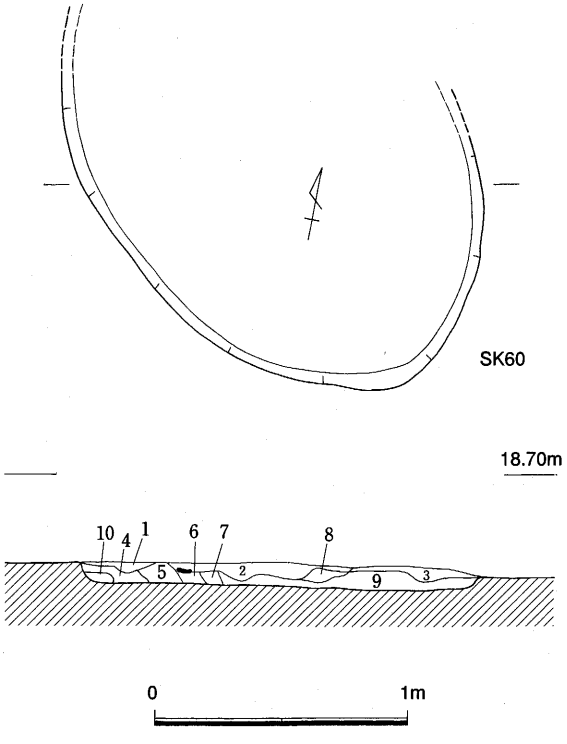
1．淡灰褐色土
2．淡黄灰褐色土
3．淡灰褐色土
4．粘質の暗灰褐色土
5．粘質の暗黄褐色土
6．暗灰褐色土
（黄色土ブロックを含む）
7．粘質の暗灰褐色土



1．粘質の暗褐色土
2．粘質の暗褐色土
3．粘質の暗褐色土
4．粘質の暗灰褐色土
5．粘質の暗灰褐色土
6．粘質の暗黄褐色土

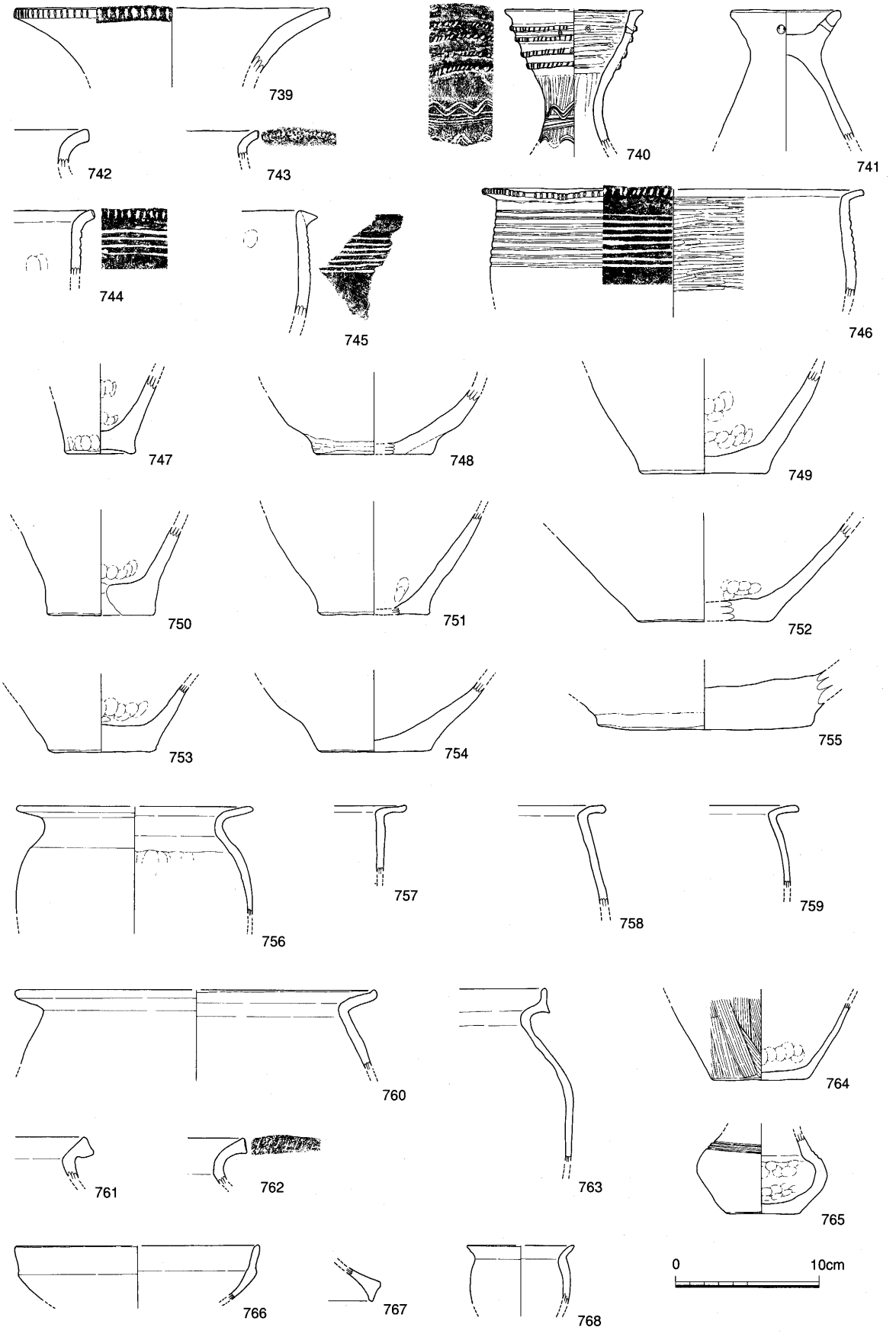


1．粘質の黄色ブロック
2．粘質の黄色ブロック
3．灰褐色土
（焼土・炭を多く含む）
4．灰褐色土
（黄色土粒を多く含む）
5．灰褐色土
6．灰色土（黄色土を含む）
7．黄色土ブロック
8．灰色土
9．砂質の淡灰褐色土
10．黄色土ブロック
11．砂質の暗黄色土

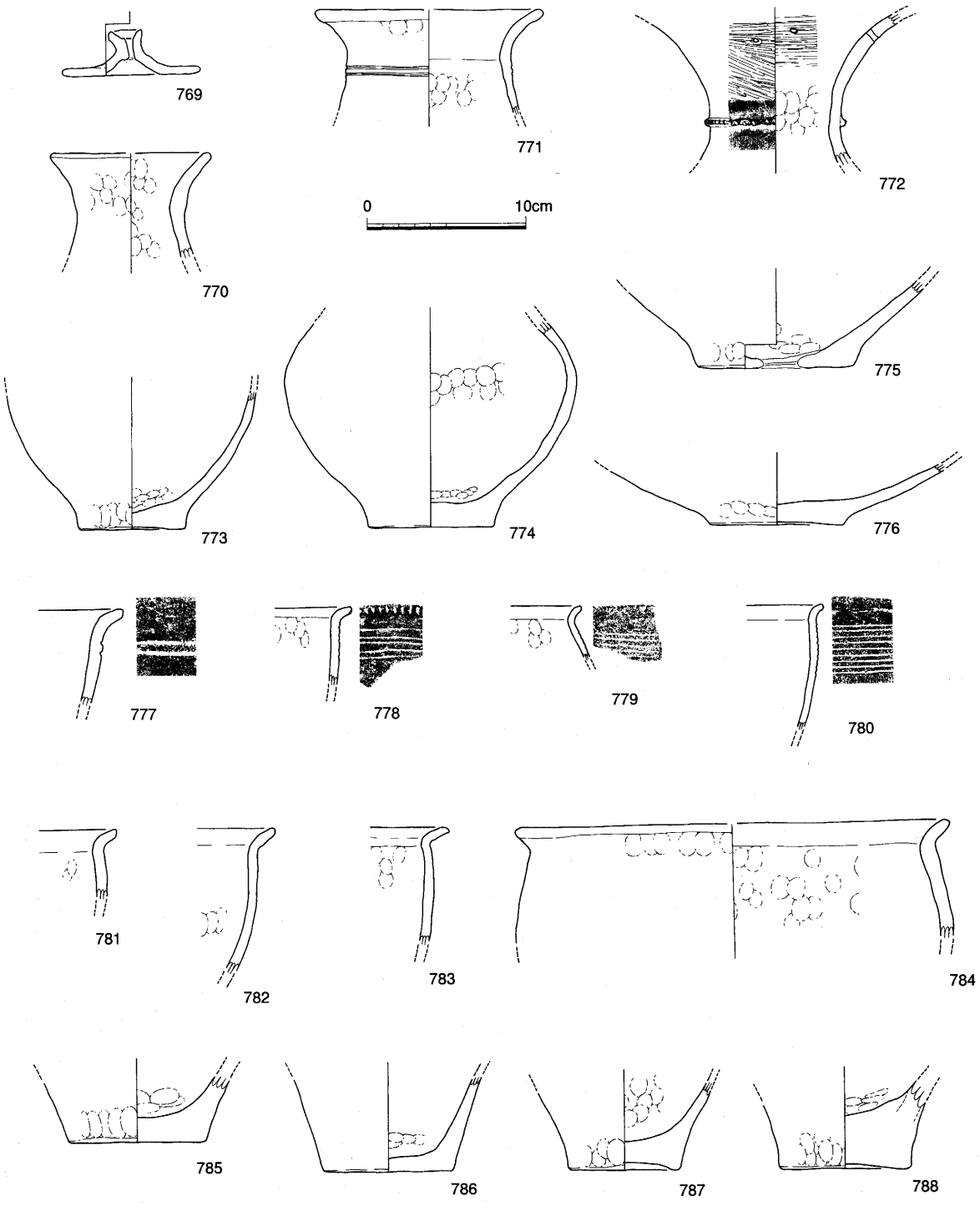


1．やや粘質の暗灰色土
2．粘質の暗褐色土
3．やや粘質の暗灰色土
4．やや砂質の暗灰黄褐色土
5．粘質の暗灰色土
6．やや粘質の黄褐色土
7．やや粘質の黄灰色土
8．粘質の灰黄褐色土
9．やや粘質の黄褐色土
10．やや粘質の黄褐色土

第188図　P82・83・84・86・SK60（S＝1/30）



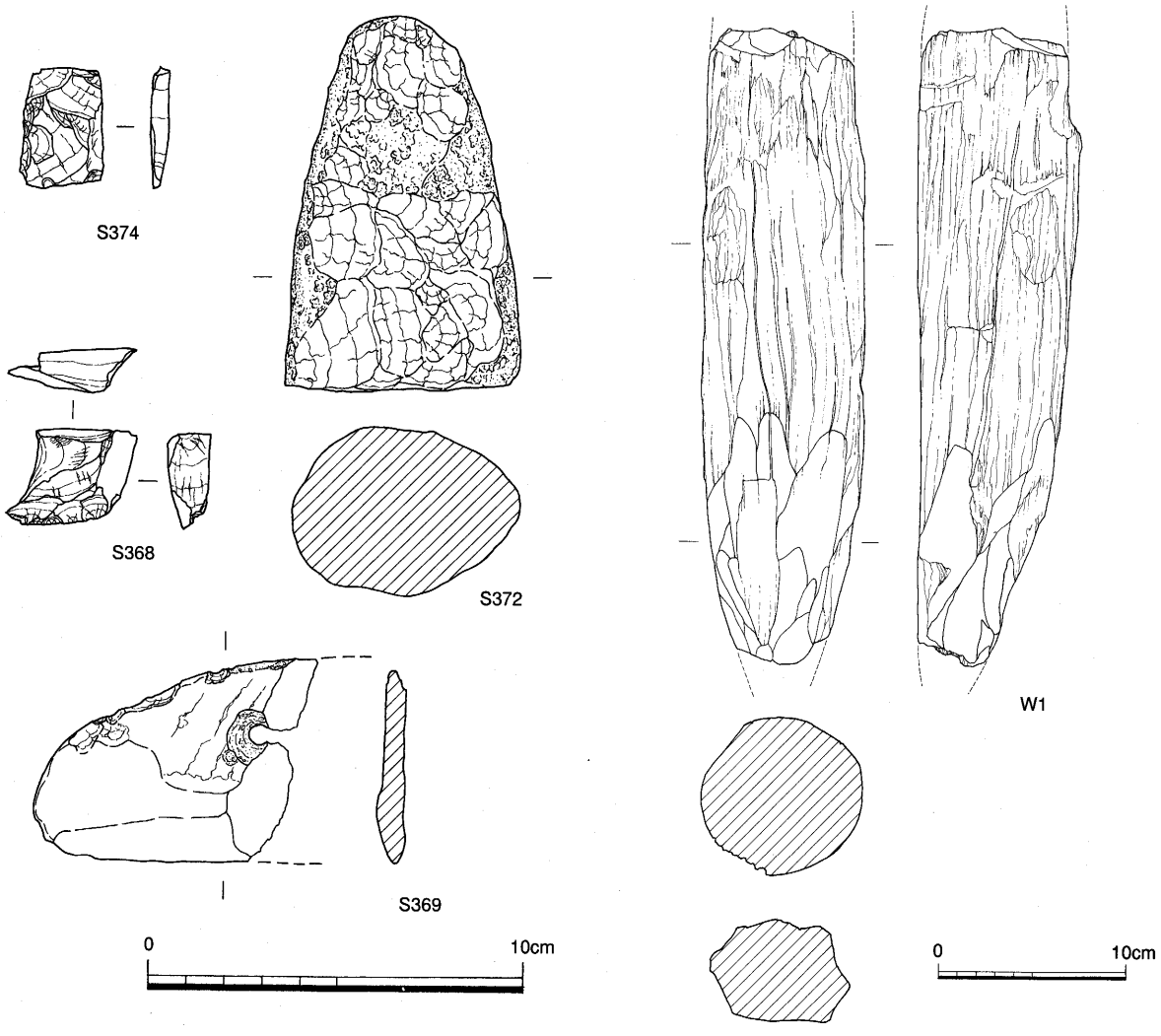
第189図　自然河道出土遺物（S＝1/4）



第190図　自然河道下層出土遺物（S＝1/4）

自然河道からは土器、石器、木製品が出土した。自然河道から出土した遺物を上層と下層に分けて、具体的に述べる（第189図～第191図）。

739～788は自然河道上層出土土器である。**739・740・765**は壺である。**740**は口縁部に4条の貼付凸帯を施し、頸部には櫛状工具による波状文を施文している。弥生時代中期中葉の土器と思われる。**765**は小形の壺で、内面にユビオサエが明瞭に残る。**741**は蓋である。つまみ部分に内面から孔を穿つ。



第191図　自然河道・自然河道下層出土遺物（S＝1/2・1/4）

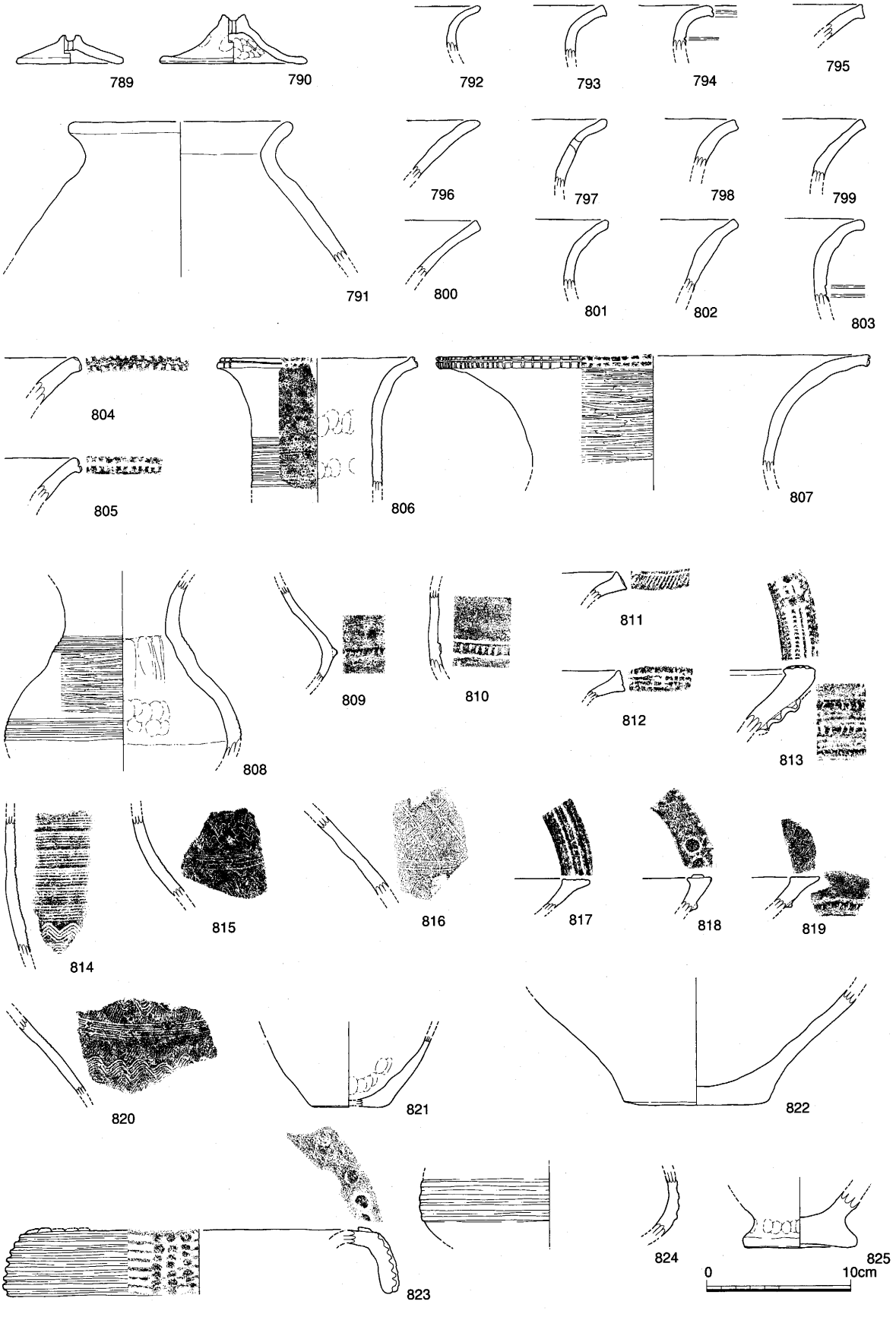
742～746は甕である。**744～746**はヘラ状工具による沈線が施文される。**747～755**は器種不明の底部である。**750**は焼成後、底面に穿孔が施される。**756～760**は無文の甕である。弥生時代中期中葉から後葉の土器と考えられる。**761・762**も甕である。**763・764**は弥生時代後期の土器である。**766・767**は高杯で、**768**は小形の甕である。

自然河道上層出土石器はサヌカイト製スクレイパー2点（**S374**）、砂岩製磨製石斧1点である。磨製石斧は基部の一部のみが残存しており、図化できなかった。

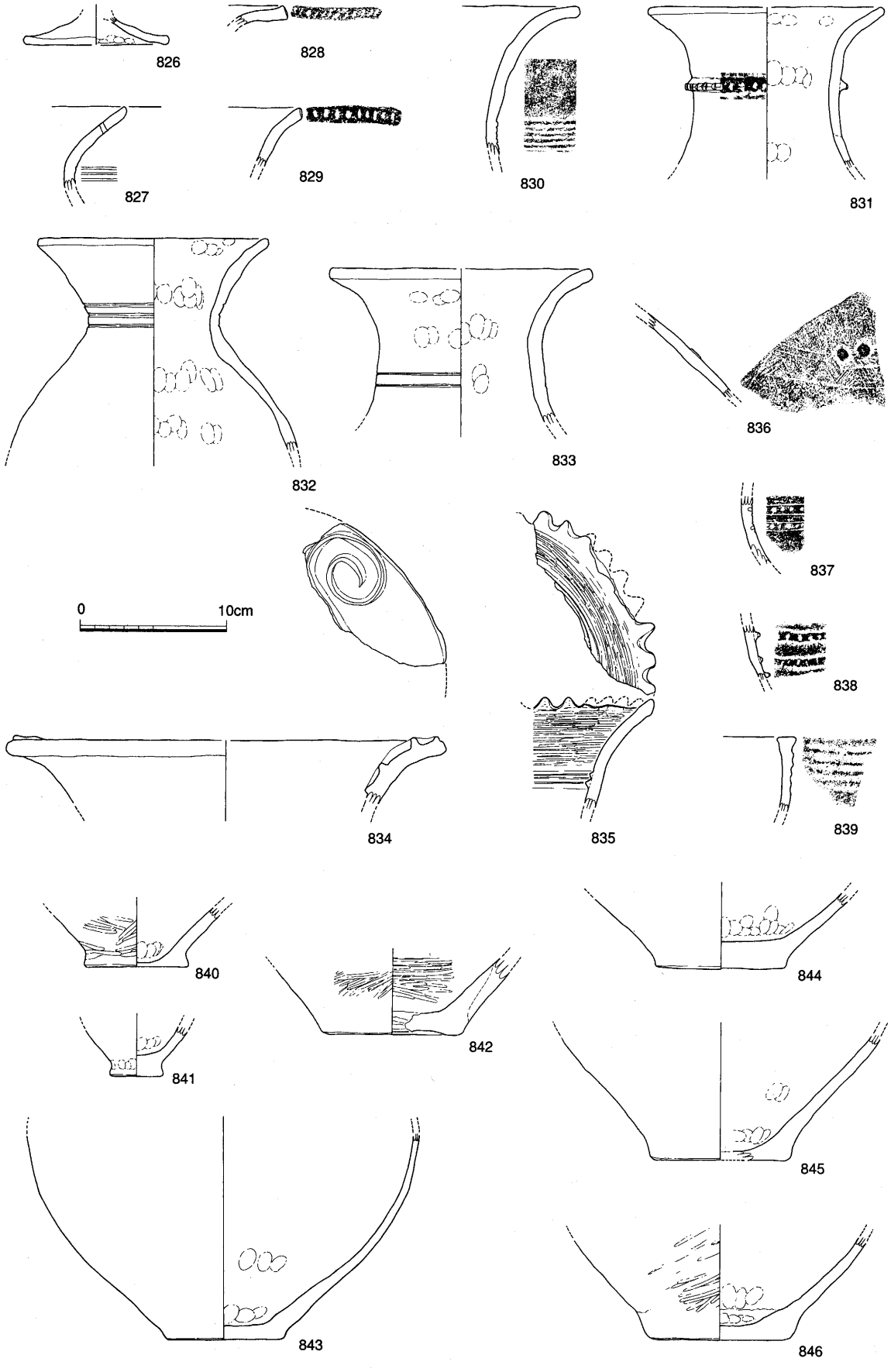
769～788は自然河道下層出土の土器である。**769**は壷の蓋で、つまみの部分に孔を穿つ。**770～776**は壷である。**775**は底面に焼成後、穿孔を施す。**777～788**は甕である。

自然河道下層出土石器はサヌカイト製楔形石器1点（**S368**）、砂岩あるいは砂質片岩製磨製石庖丁1点（**S369**）、頁岩製磨製石庖丁1点、頁岩製片刃石斧の破片が1点、流紋岩製石斧未製品1点（**S372**）である。

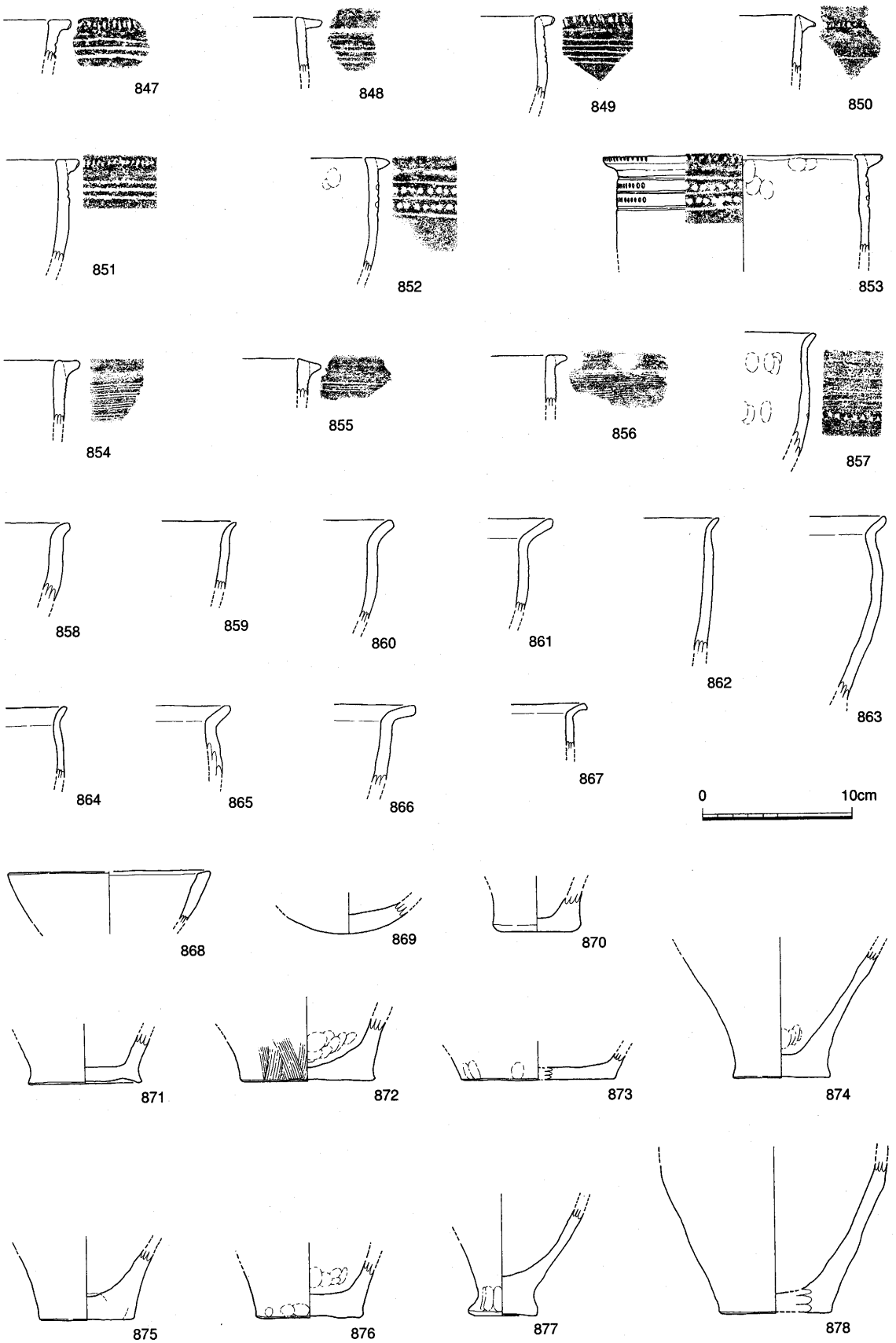
W1は自然河道下層から検出された杭である。腐敗しており、残存状況は良好ではないが、先端部に加工痕が残る。



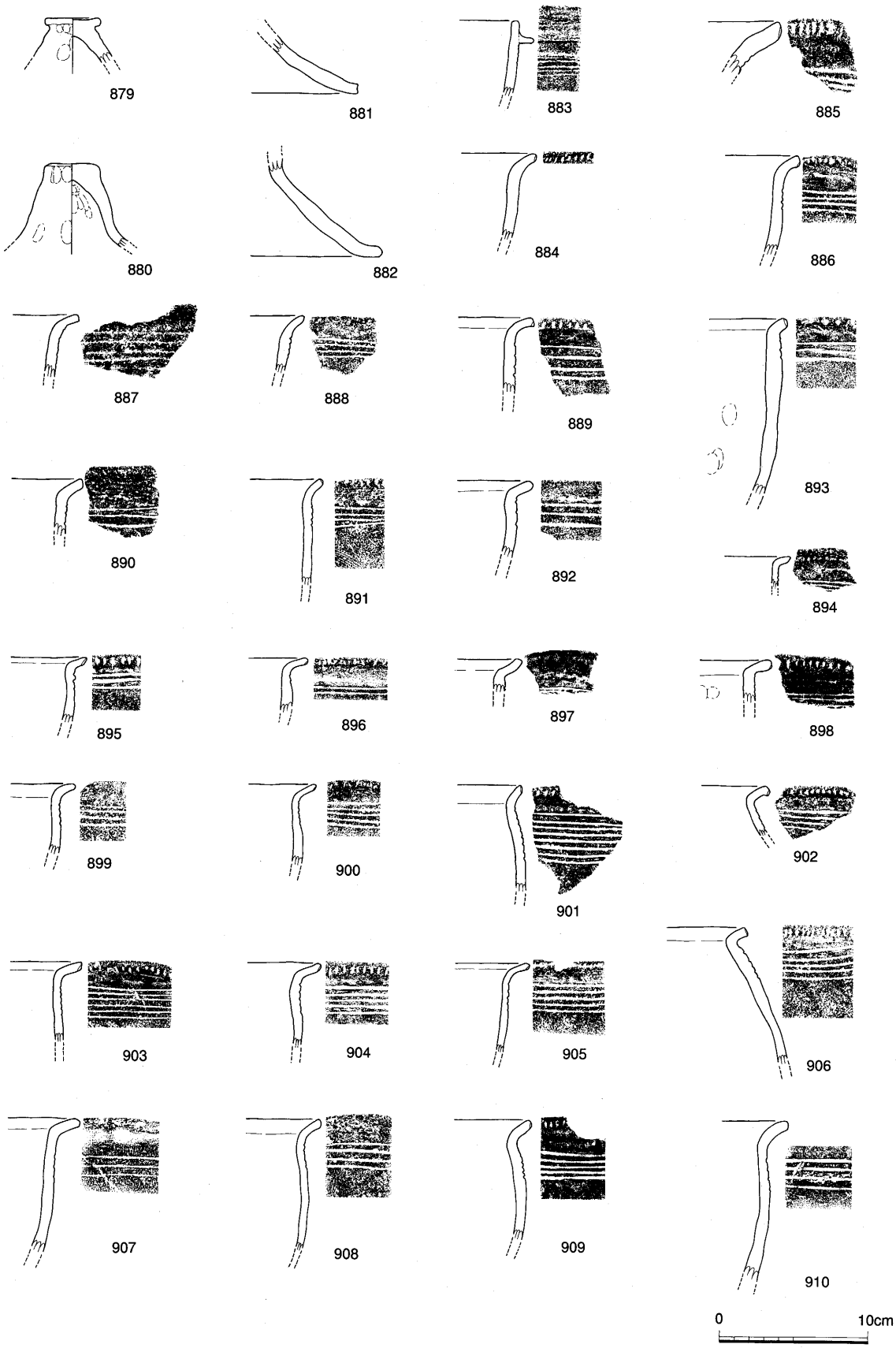
第192図　SD07出土遺物(1)（S＝1/4）



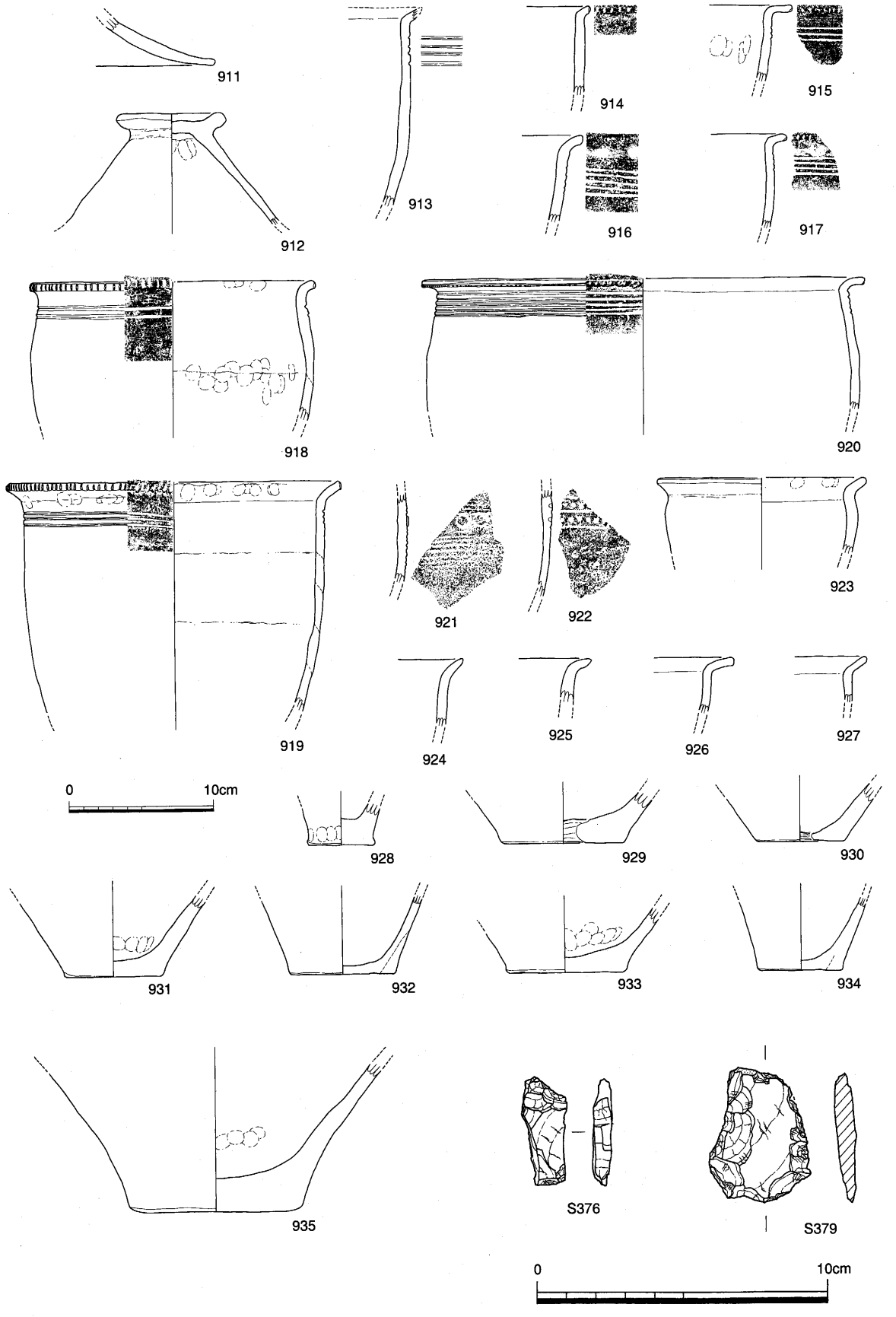
第193図　SD07出土遺物(2)（S＝1/4）



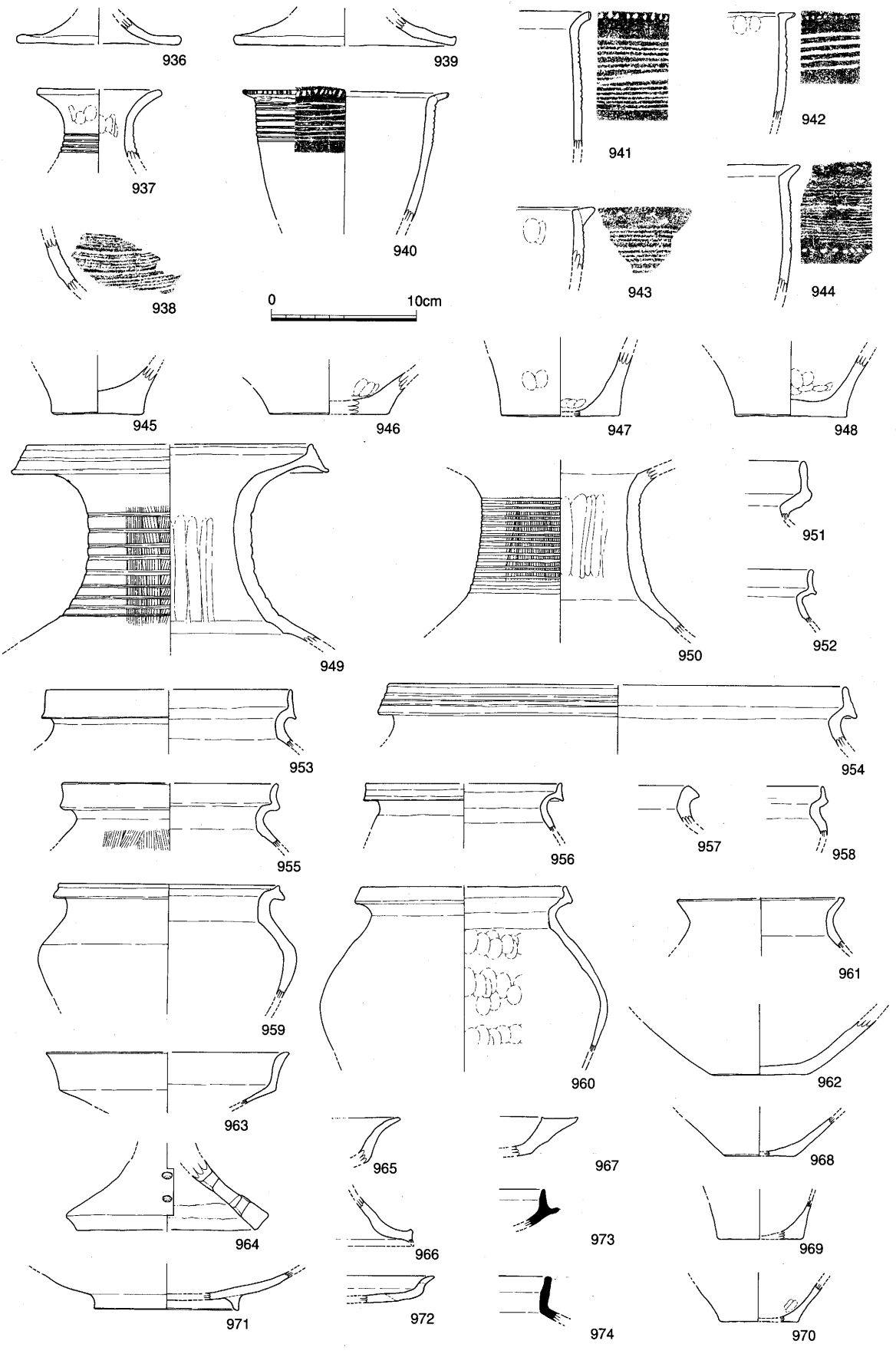
第194図　SD07出土遺物(3)（S＝1/4）



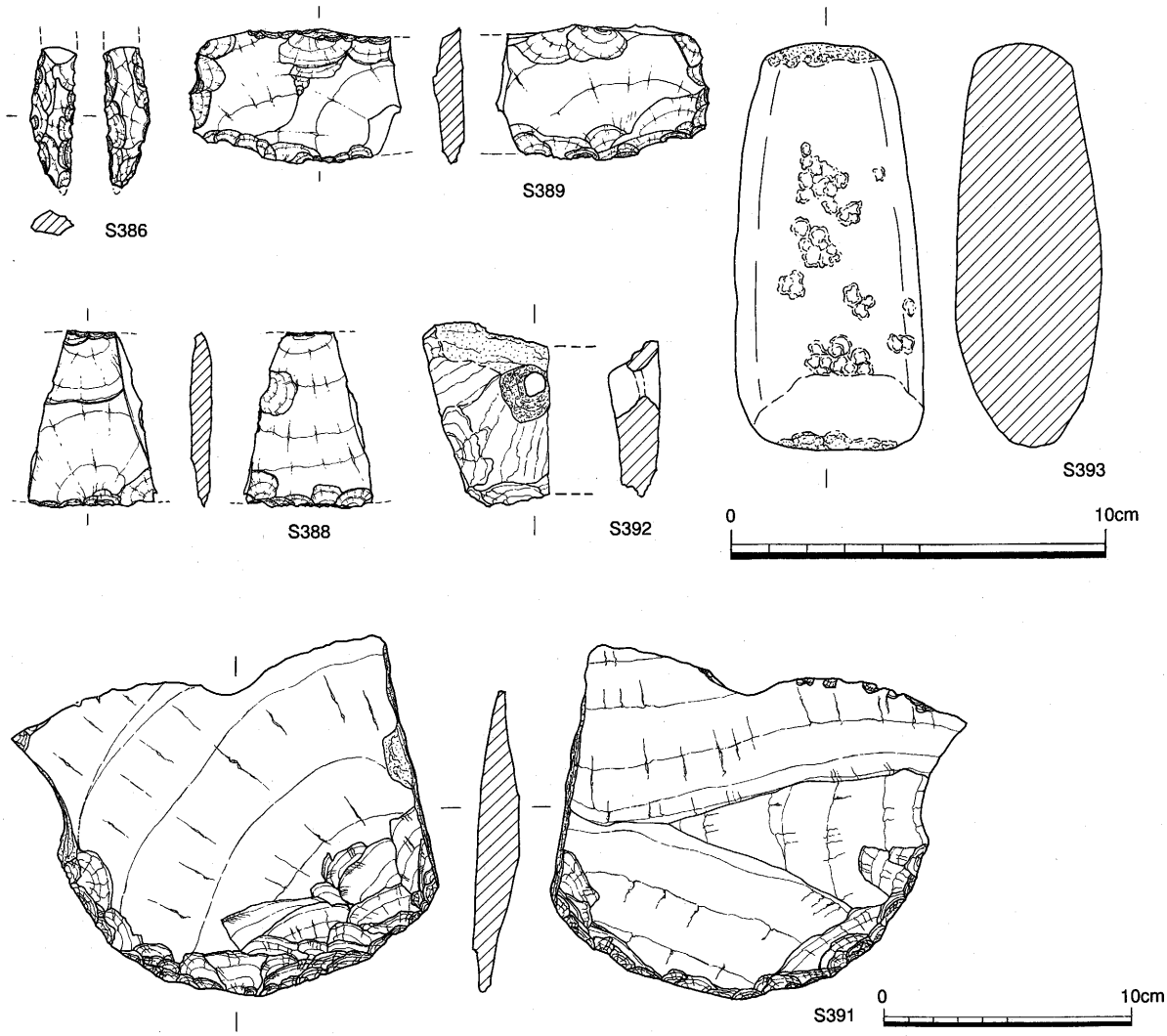
第195図　SD07出土遺物(4)（S＝1/4）



第196図　SD07出土遺物(5)（S＝1/4・1/2）



第197図　SD06出土遺物(1)（S＝1/4）



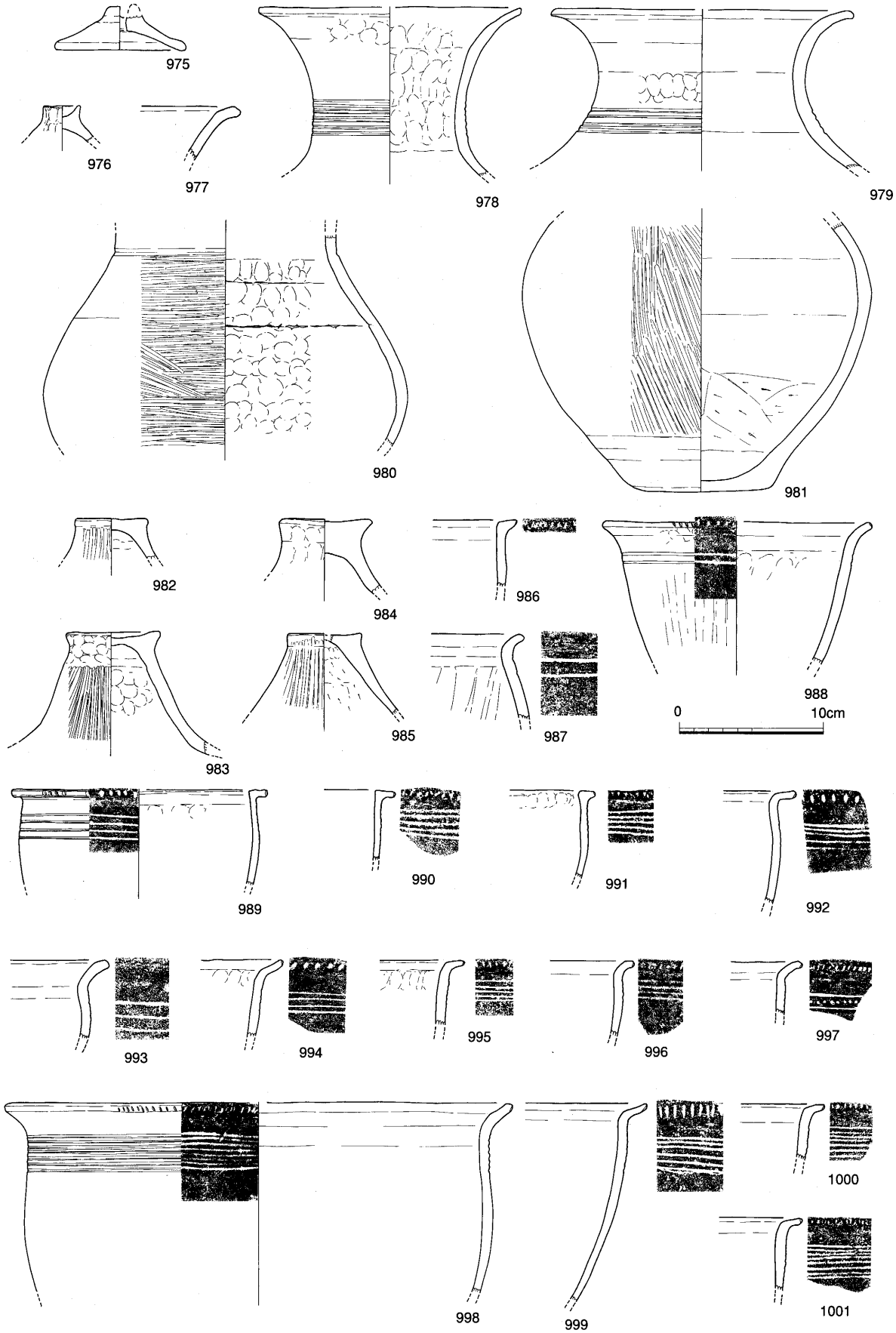
第198図　SD06出土遺物(2)（S＝1/2・1/3）

第192図～第196図はSD07出土遺物である。**789**・**790**・**826**は壷の蓋である。**789**・**790**はつまみの部分に孔を穿つ。**791**～**822**・**827**～**846**は壷である。**823**は器台である。**824**は器種不明であるが台付鉢の可能性がある。**879**～**882**・**911**・**912**は甕の蓋である。**847**～**878**・**883**～**910**・**913**～**934**は甕である。弥生時代前期後半～中期中葉のものが含まれる。

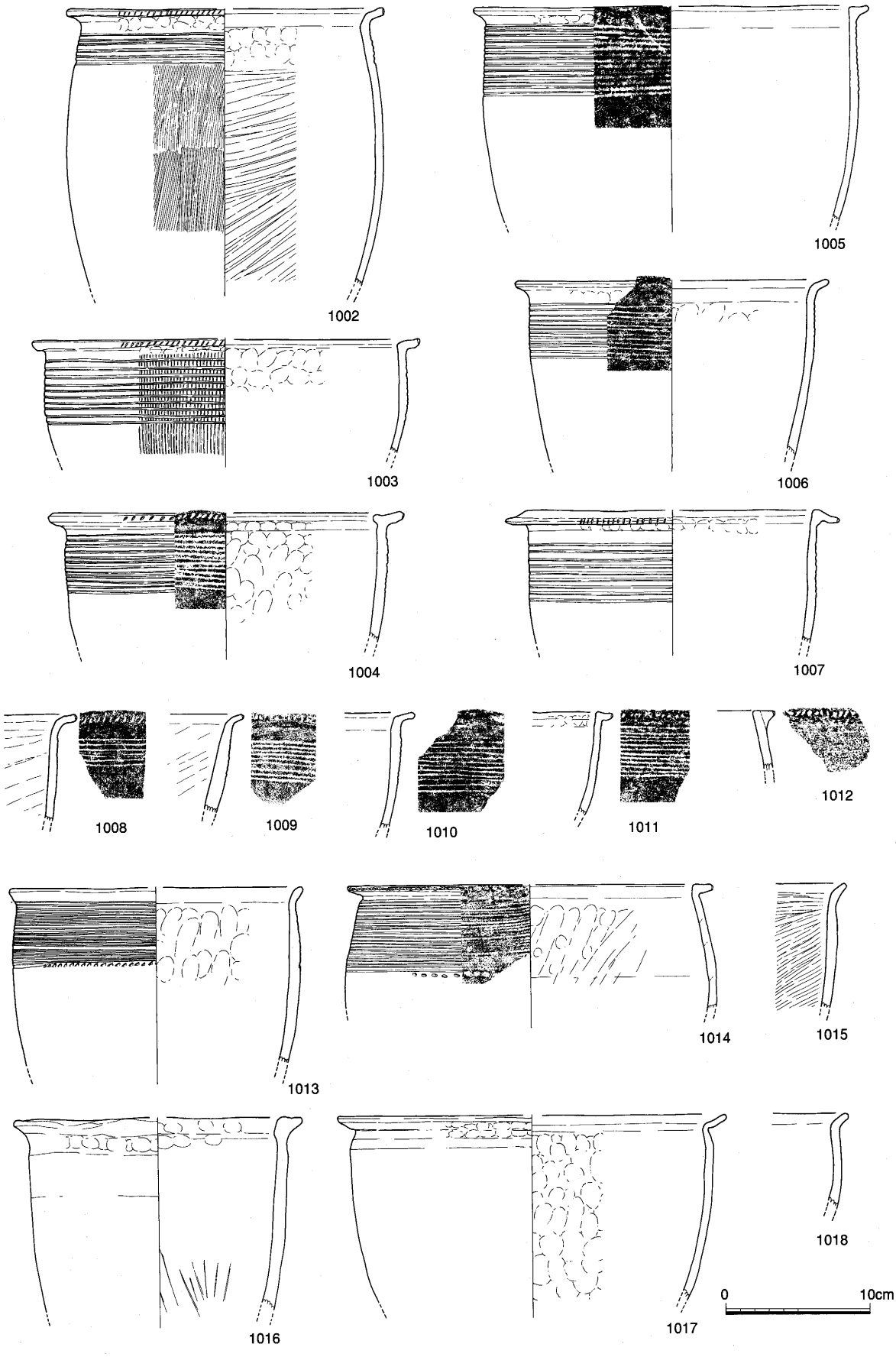
石器はサヌカイト製楔形石器1点（**S376**）、サヌカイト製スクレイパー4点（**S379**）、サヌカイト製ハンマー1点、頁岩製磨製石庖丁1点、流紋岩製磨製石斧2点が出土した。

第197図・第198図はSD06出土遺物である。**936**は壷の蓋で、**937**は壷である。**939**は甕の蓋で、**940**～**948**は甕である。**949**～**970**は弥生時代後期の土器である。**971**・**972**は中世の土器で、**973**・**974**は須恵器である。

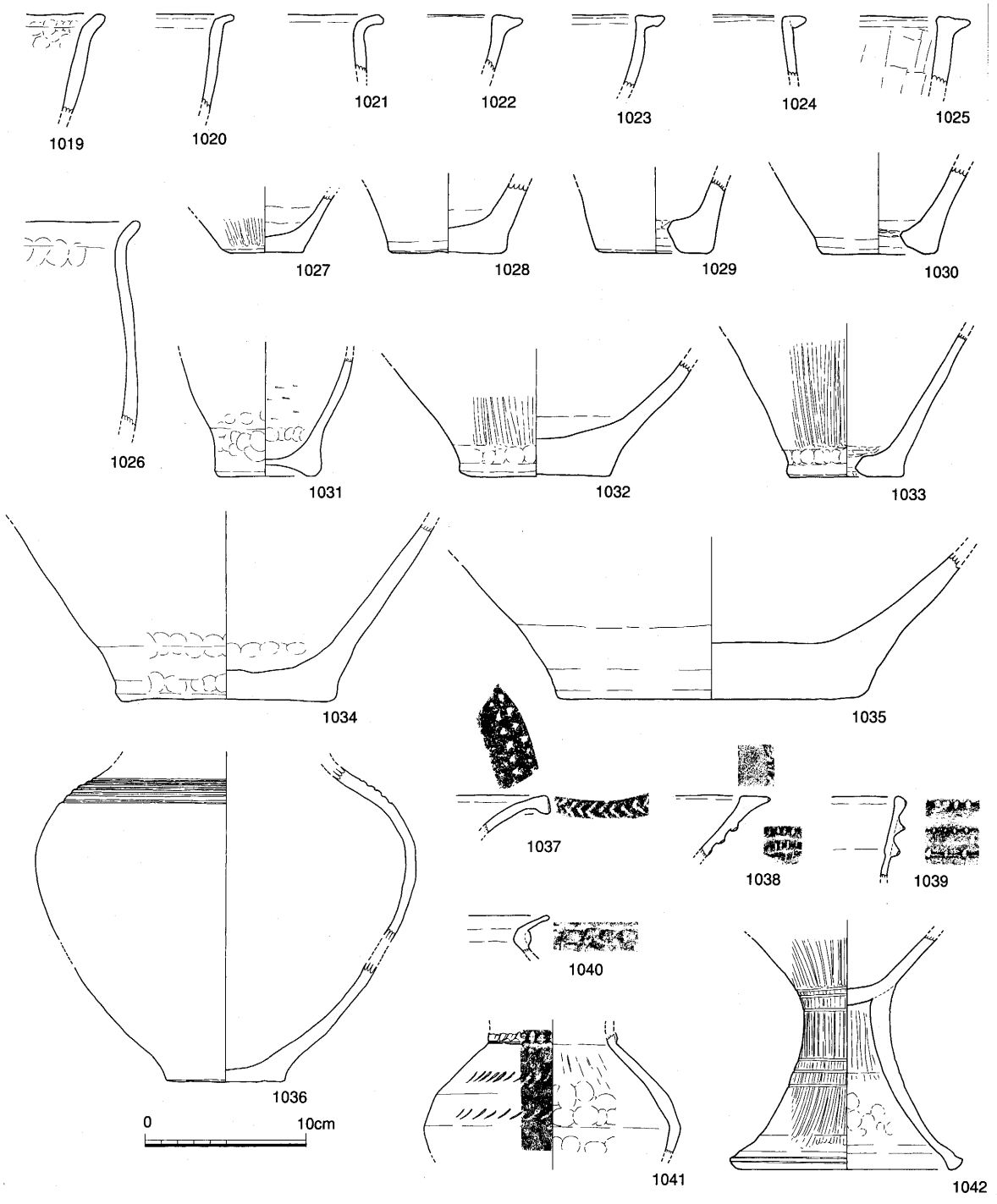
石器はサヌカイト製石錐1点（**S386**）、サヌカイト製スクレイパー5点（**S388**・**S389**・**S391**）、砂岩あるいは砂質片岩製磨製石庖丁1点（**S392**）、流紋岩製（**S393**）とハンレイ岩製の磨製石斧がそれぞれ1点出土した。**S393**は完形品である。



第199図　SX11出土遺物(1)（S＝1/4）

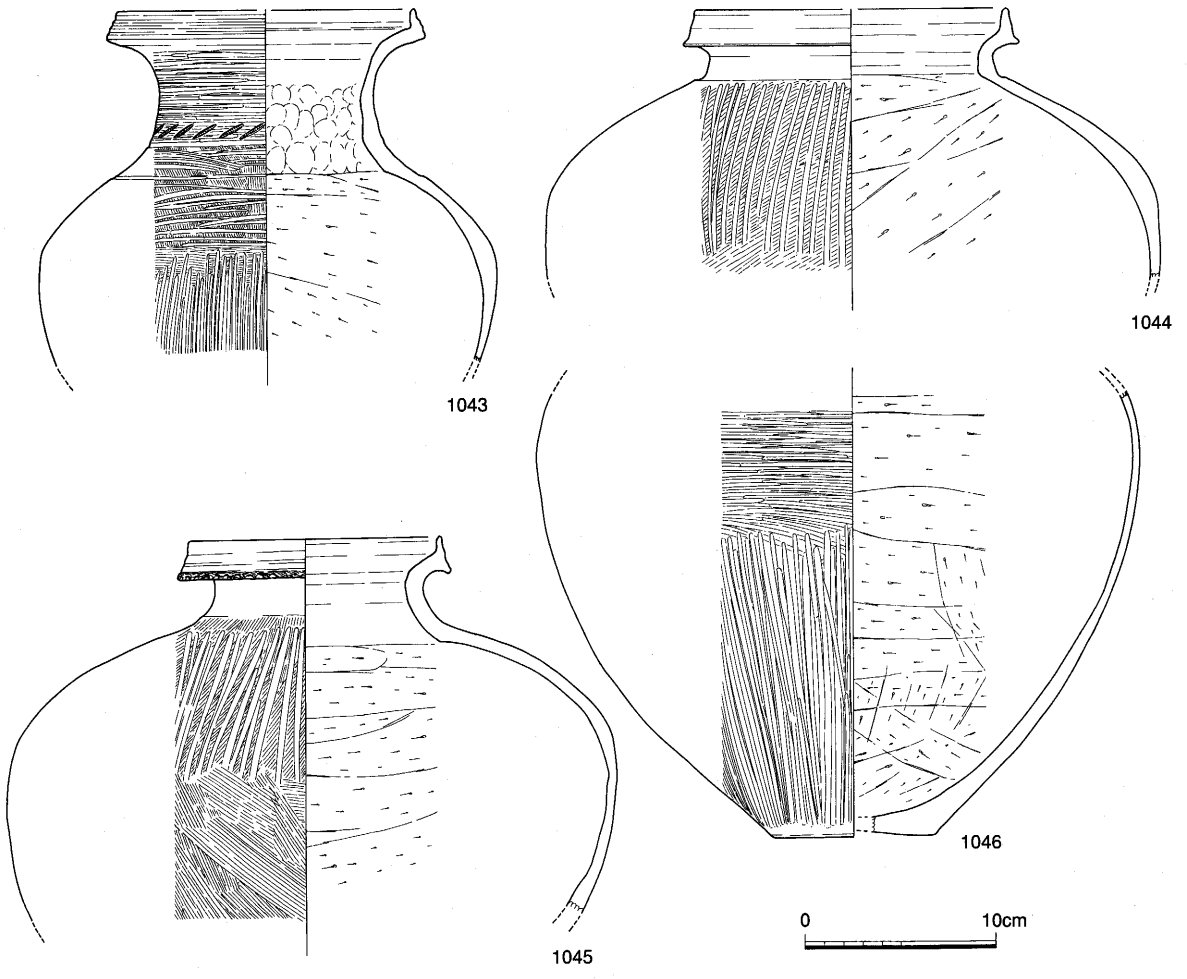


第200図　SX11出土遺物(2)（S＝1/4）



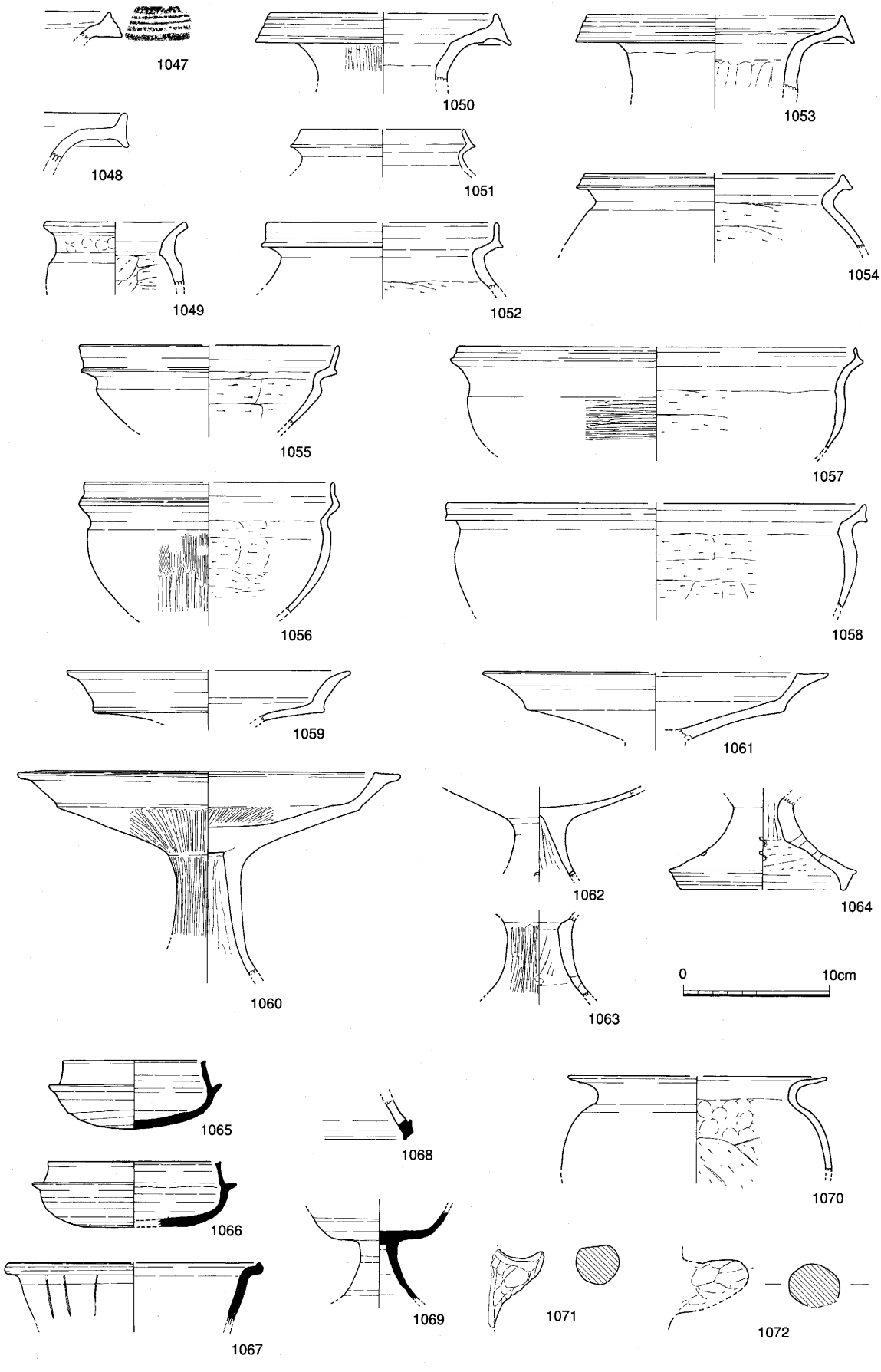
第201図　SX11出土遺物(3)（S＝1/4）

第199図～第204図はSX11出土遺物である。**975・976**は壷の蓋である。**975**はつまみの部分に穿孔される。**977～981・1034～1039・1041**は壷である。**978・979**はいずれも頸部にヘラ描沈線を施す。**1037**は口唇部と口縁端部内面に刻目と刺突文が施される土器である。**982～985**は甕の蓋である。いずれもつまみ部分が残存している。**983・984**はくびれ部分に明瞭なユビオサエが残る。**986～1033**は甕である。甕にはヘラ描沈線など文様を施すものと文様を持たないものがある。**987**は胴の張る器形を呈し、2条のヘラ描沈線を口縁下部に施す。**988**は外反する口縁に刻目を施し、口縁下部に2条の沈線が施文される。弥生時代前期後半の資料でもやや古い傾向を示す。**1002**はハケ調整を外面に施し、内

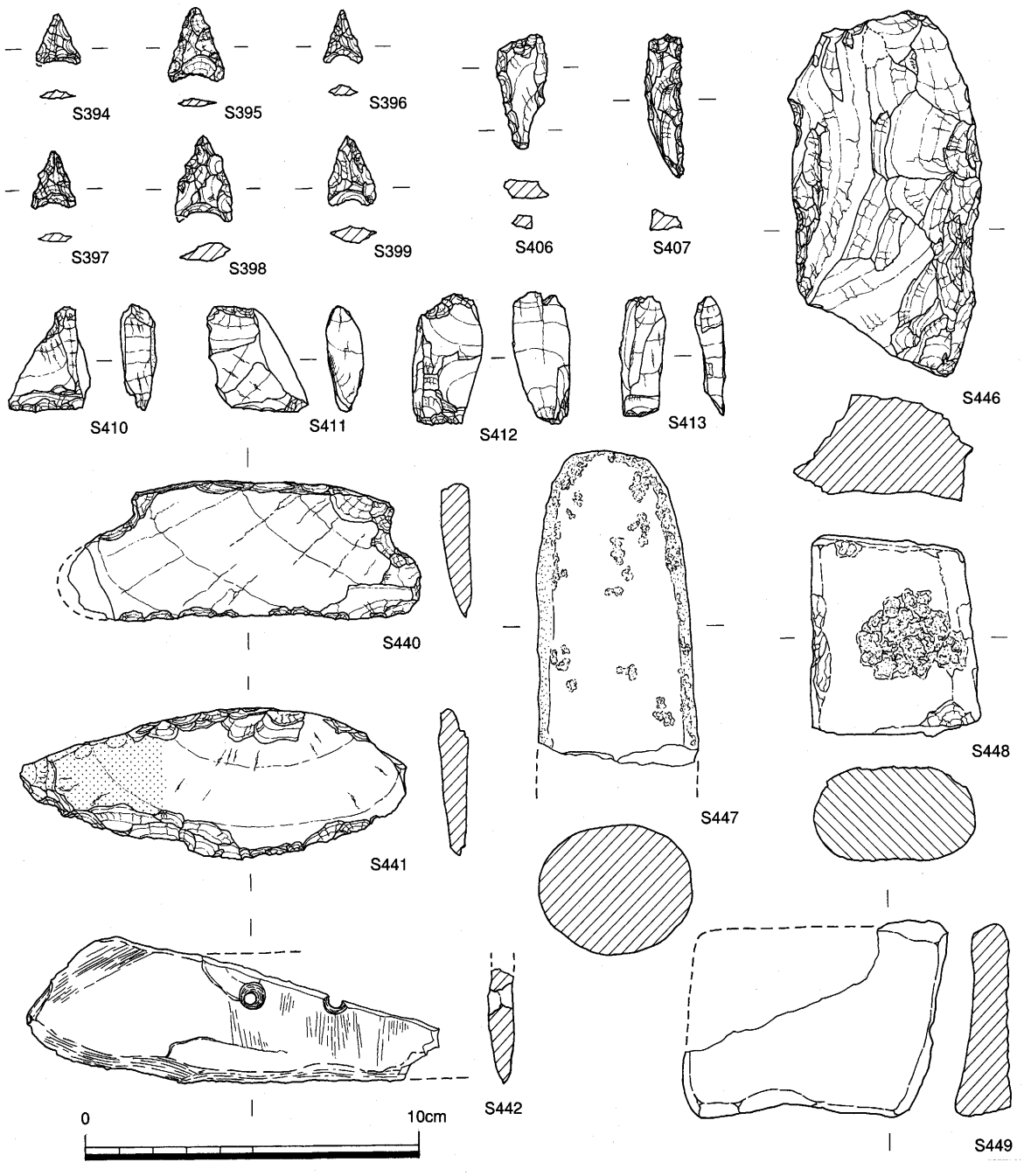


第202図　SX11出土遺物(4)（Ｓ＝1/4）

面にヘラ状工具による調整が施される。**1003**はハケ調整を外器面に施した後、10条の沈線を施文している。**1007**はほぼ直口する口縁部に粘土紐を貼り付けたもので、端部はたれる。**1012～1014**は櫛状工具による沈線が施され、**1013・1014**は沈線下部にヘラ状工具による刺突文が等間隔にめぐる。**1015～1026**は文様を持たない土器である。**1029・1030・1033**は焼成後底面に穿孔を施す。**1037～1042**は弥生時代中期中葉から後葉の土器である。**1040**は口縁部の屈曲する部分に貼付凸帯をめぐらし、凸帯に押圧による文様を施す。**1041**の頸部にめぐる貼付凸帯も同様の方法で施文されている。**1042**は高杯である。杯部と脚部の境界と脚部に沈線が施される。**1043～1064**は弥生時代後期に位置付けられる土器で、**1045・1046・1056・1061**は外面ないし内面に丹が塗られている。**1043～1053**は壷、**1054**は甕、**1055～1058**は鉢、**1059～1064**は高杯である。いずれも精製された胎土で、石英・長石・黒色粒子を含んでいる。黒色粒子は角閃石と思われるが、明確ではない。外面はナデ、ミガキで入念に整形され、内面はケズリによりやや粗く仕上げられている。**1043・1044・1045**は外器面に暗文が施されている。**1043**は頸部に斜位の刻目が等間隔に施される。**1046**は壷の底部で、外器面はミガキが施され、入念に整形されている。**1047**は壷の口縁部のみ残存する資料で、端部に4条の沈線がめぐる。**1064**は高杯の脚部である。孔が4箇所に穿ってある。**1065～1069**は須恵器である。**1067**は広口壷の口縁部で、外面に縦位の沈線が施文される。**1068**は器種不明の脚の端部で、すかしがある。**1070**は土師器の甕で、**1071・1072**は牛角状把手のみが残存している資料である。

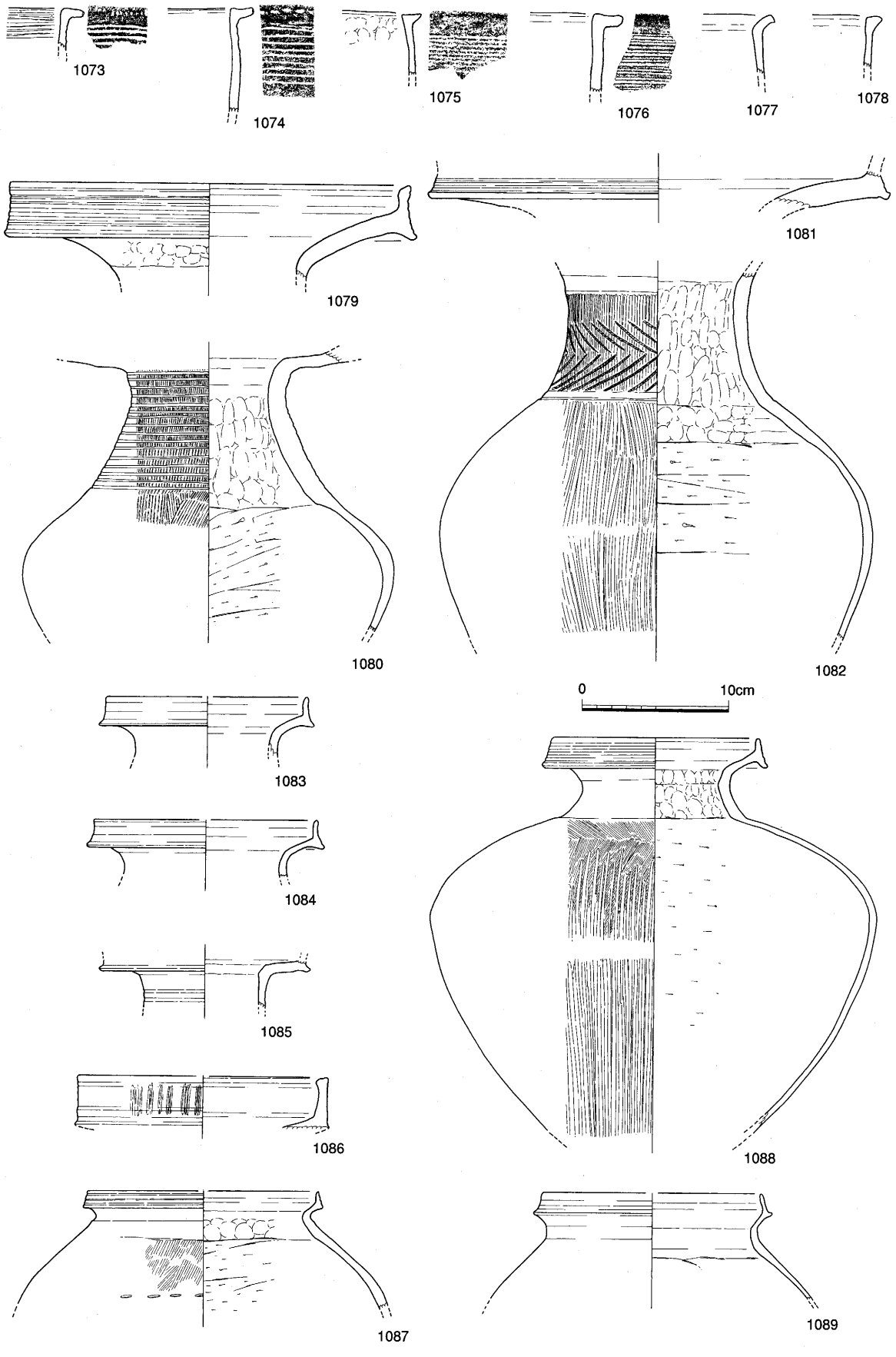


第203図　SX11出土遺物(5)（S＝1/4）

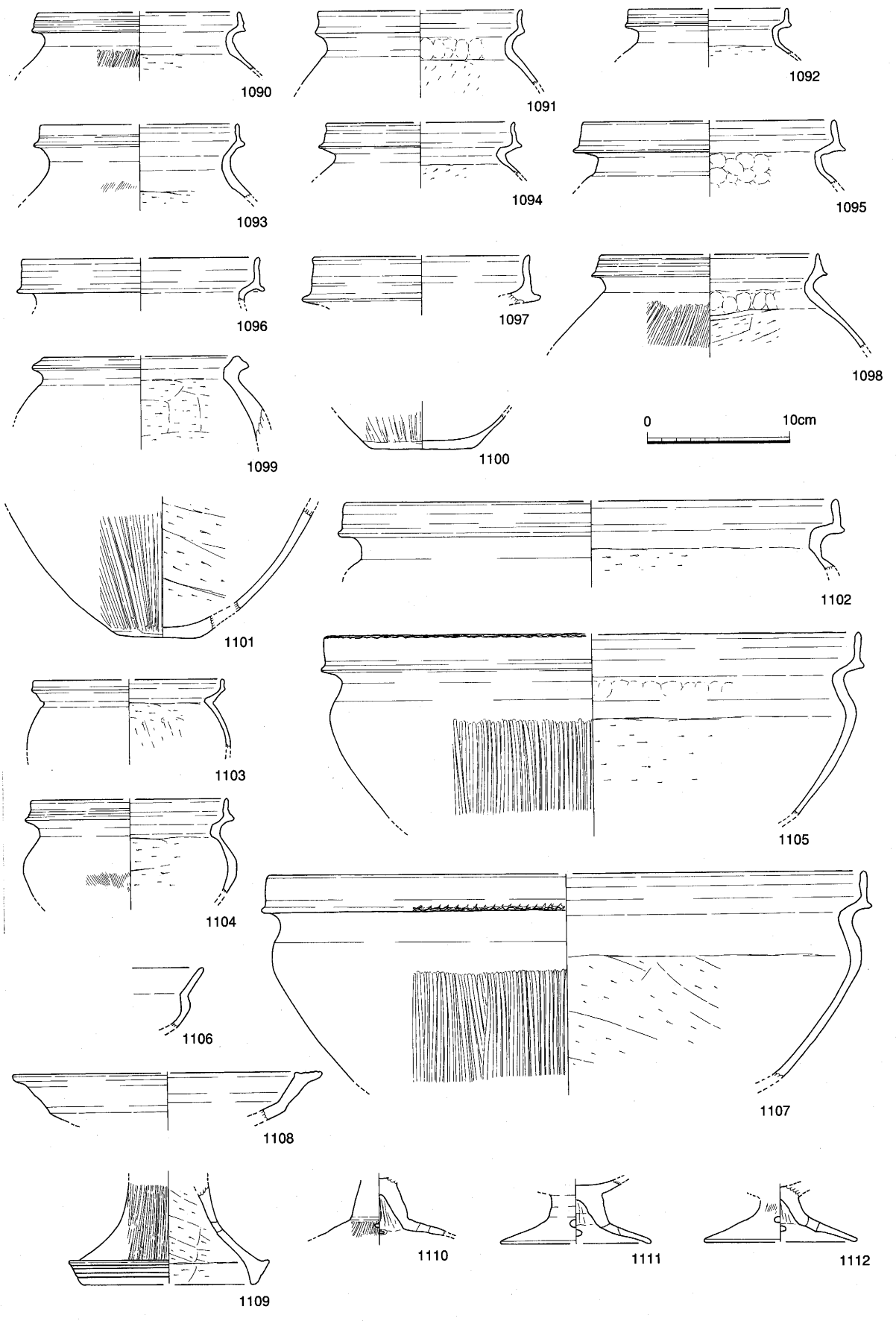


第204図　SX11出土遺物(6)（Ｓ＝1/2）

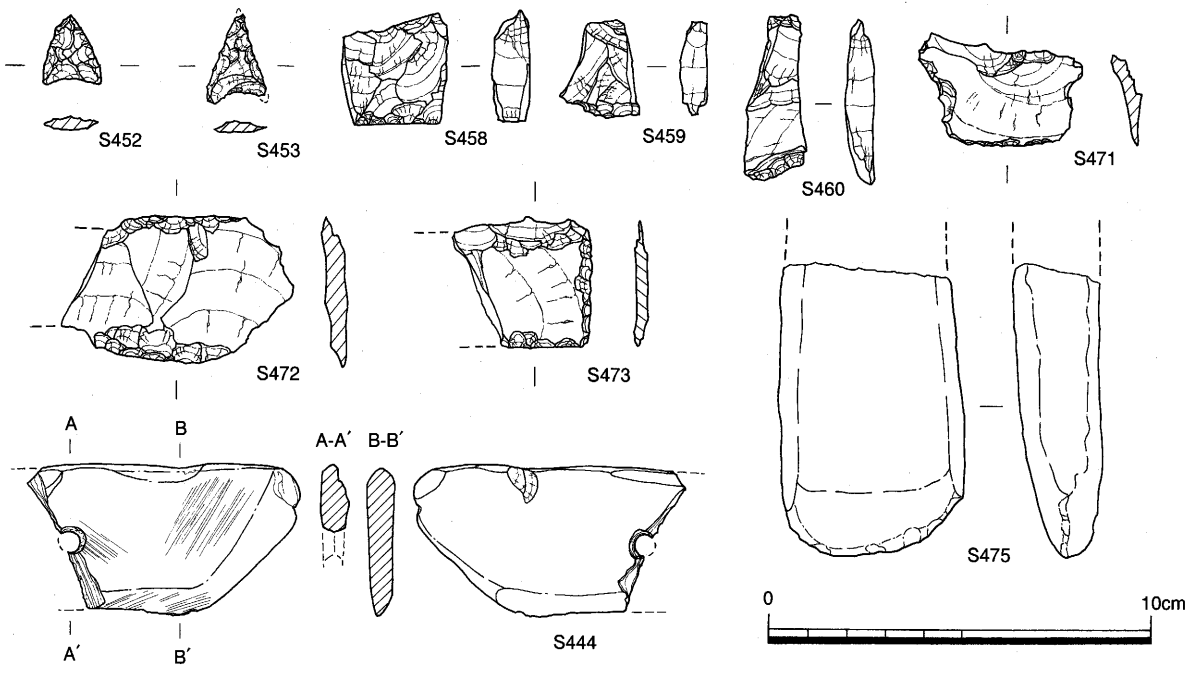
石器はサヌカイト製打製石鏃12点（**S394～S399**）、サヌカイト製石錐5点（**S406・S407**）、サヌカイト製楔形石器26点（**S410～S413**）、サヌカイト製残核1点、サヌカイト製打製石庖丁2点（**S440・S441**）、頁岩製磨製石庖丁2点（**S442**）、砂岩あるいは砂質片岩製磨製石庖丁1点、サヌカイト製石器未製品1点（**S446**）、ハンレイ岩製磨製石斧1点（**S447**）、流紋岩製磨製石斧1点（**S448**）、アプライト製砥石1点（**S449**）が出土した。**S440**は持ち手の部分に抉りを有する打製石庖丁である。**S441**は網掛けの部分が使用によりなれている。**S446**は石器に加工する途中で廃棄されたものと思われる。**S447**は基部のみ残存する。また、**S448**は基部と刃部を欠損する石斧であるが、欠損ののち敲石として転用している。



第205図　SX12出土遺物(1)（S＝1/4）



第206図　SX12出土遺物(2)（S＝1/4）

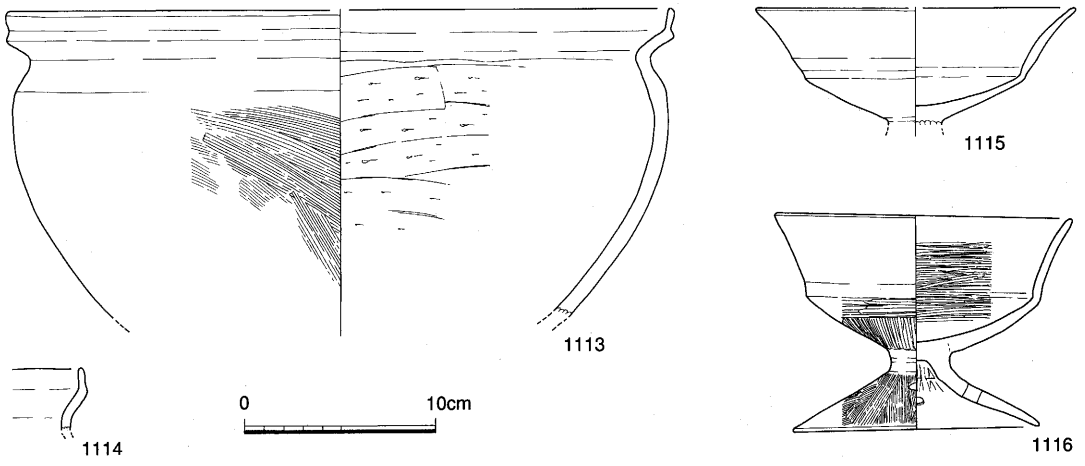


第207図　SX12出土遺物(3)（S＝1/2）

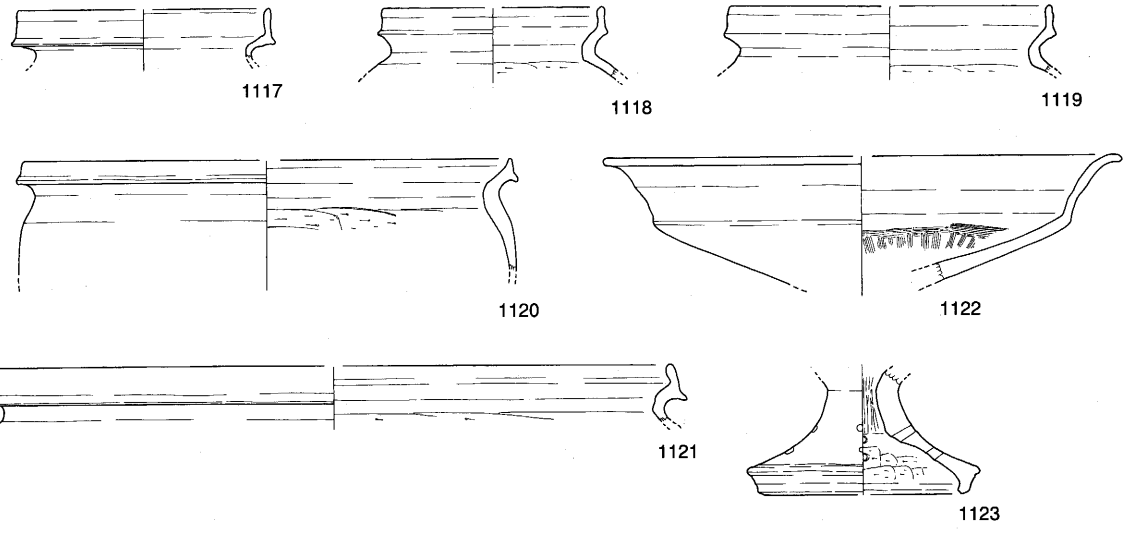
第205図～第207図はSX12出土遺物である。**1073～1078**は弥生時代前期後半の甕である。**1073～1076**はヘラ描沈線を口縁下部に施した土器である。**1074**は口唇端部に刺突文を等間隔に施す。いずれも破片のため全体はつかめないが、多条化がすすんでいるため、前期後半の中でも新しい段階に位置付けられよう。**1077・1078**は文様を施さない土器である。

1079～1112は弥生時代後期の土器である。いずれの胎土も精製されており、石英、長石、黒色粒子を含む。これらの土器は共通してつくりが入念で、外器面はナデ、ハケメ、ミガキなどによって調整が施され、内器面は板状工具によるケズリが施されるものが多い。**1079～1086・1088**は壷である。**1080**は外器面にハケ調整を施したあと、頸部に横位の沈線が16条施文される。**1082**は頸部から胴部まで残存する壷である。外器面はミガキが施され、頸部には文様が施文される。内器面はユビオサエが明瞭に残る。**1080・1082**は外器面に丹が塗られている。**1079～1082**の壷は弥生時代後期の中でも古い段階に位置付けられる。**1087・1089～1099**は甕である。**1088**は外器面に暗文が施され、丹が塗られている。**1099**は口縁部が他の土器と比較して肥厚している。**1102～1105・1107**は鉢である。**1104**は小形の鉢である。**1105・1107**は大形の鉢で、縦方向のミガキが入念に施される。また、**1105**は口唇端部に、**1107**は口縁部の屈曲部分に押圧による文様を等間隔に施文している。**1106・1108～1112**は高杯である。**1108**は丹が塗られている。**1109～1112**の脚部にはいずれも孔が穿たれている。これらの土器を観察すると、弥生時代後期のなかでも断続的な時期差がみうけられる。

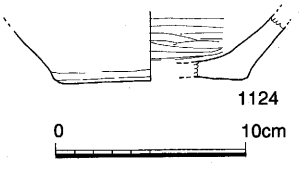
石器はサヌカイト製打製石鏃5点（**S452・S453**）、サヌカイト製楔形石器13点（**S458～S460**）、サヌカイト製スクレイパー4点（**S471～S473**）、頁岩製磨製石庖丁1点（**S444**）、砂岩製磨製石斧1点（**S475**）が出土した。**S472**は一部欠損するが上端と下端に刃部を形成するスクレイパーである。S444は約3分の1が残存し、孔は両面から穿つ。**S475**は刃部のみ残存する資料で、摩滅がいちじるしい。使用による刃こぼれの痕跡がみとめられる。また、サヌカイトのフレイクおよびチップが88点、総重量にして205.8ｇ出土した。



第208図　P81出土遺物（Ｓ＝1/4）

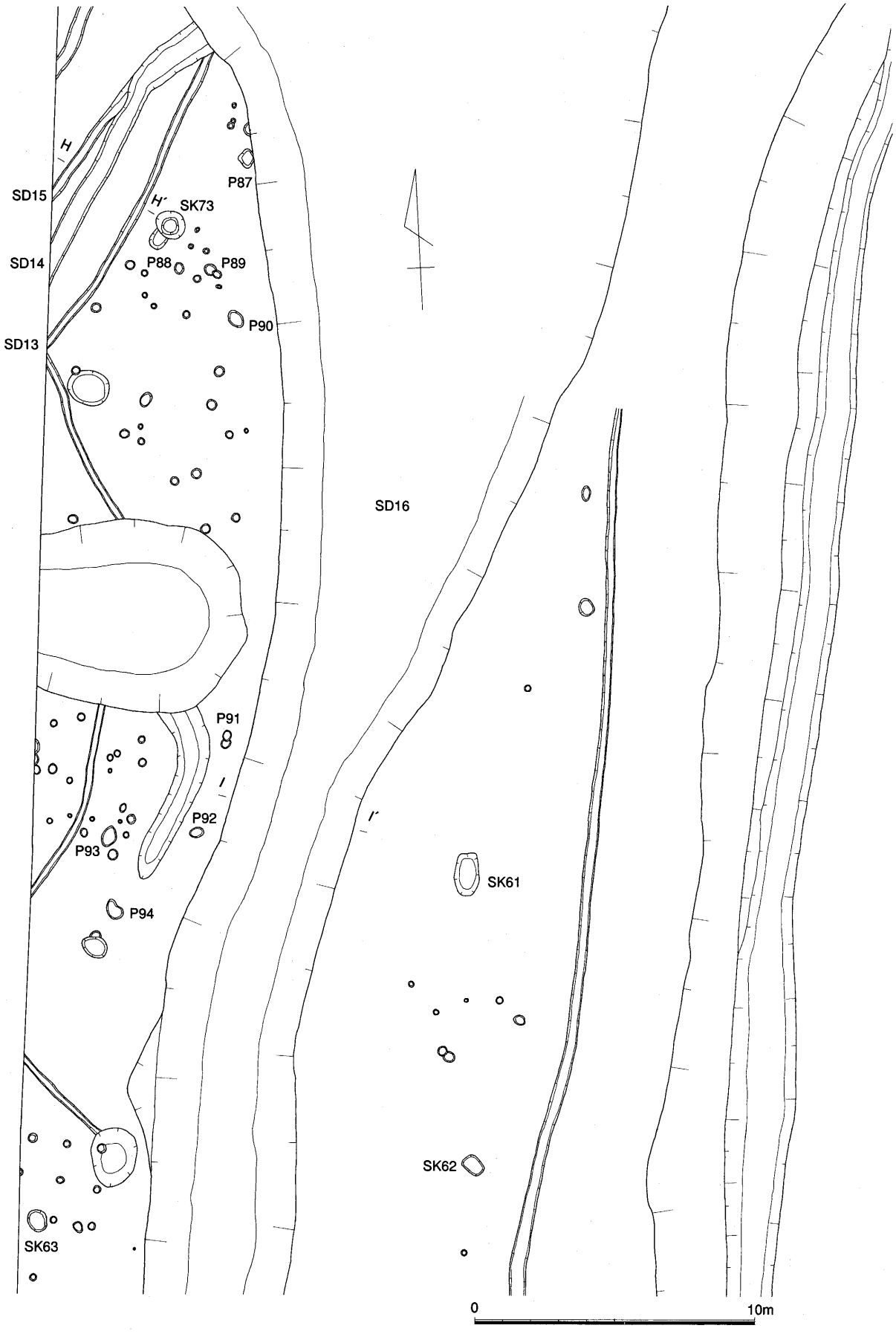


第209図　P85出土遺物（Ｓ＝1/4）

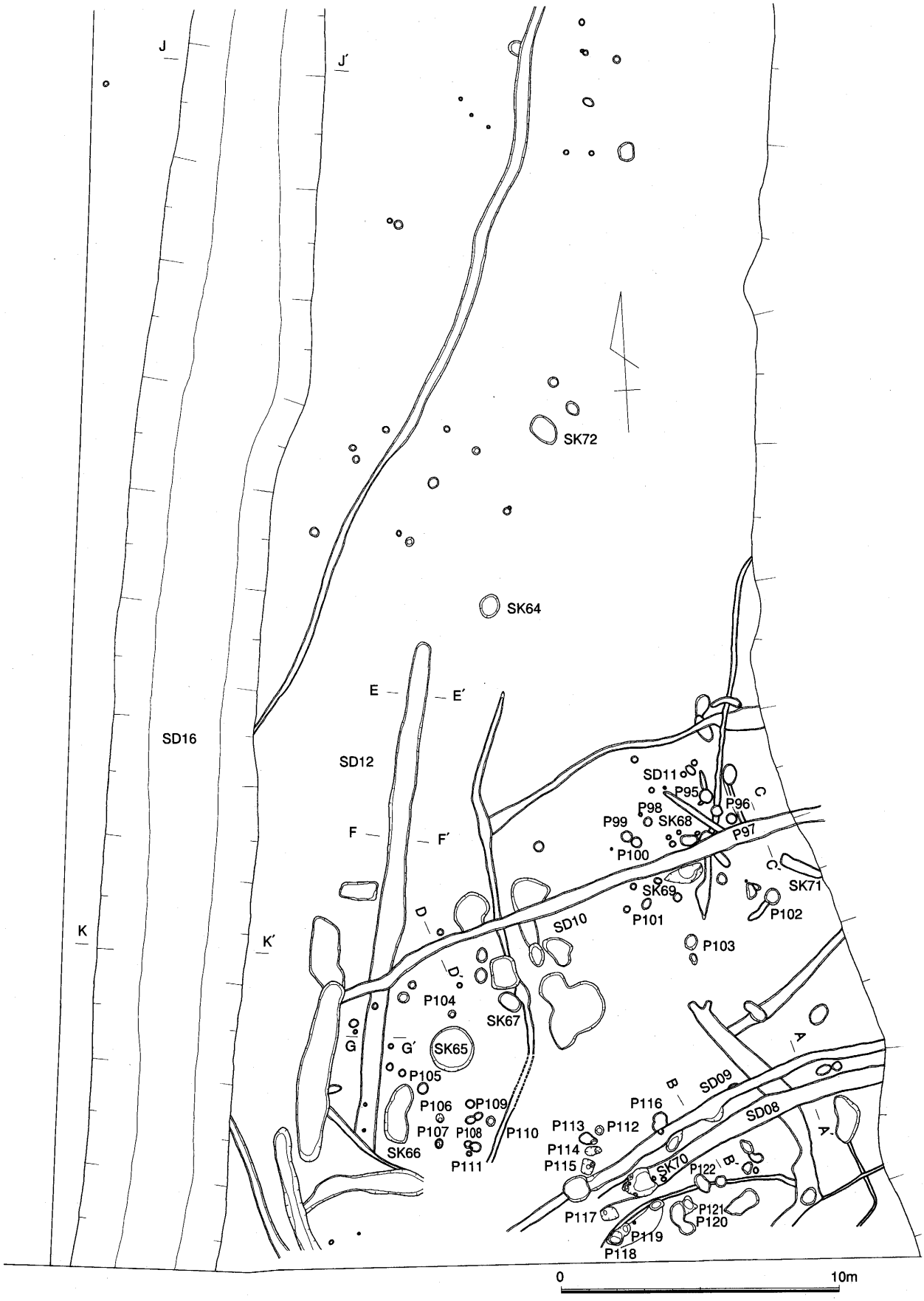


第210図　SK60出土遺物（Ｓ＝1/4）

第208図～第210図は環濠集落周辺の土壙、ピットから出土した遺物である。**1113～1116**はP81から出土した土器で、いずれも弥生時代後期に位置付けられる。**1113**は鉢で、外器面はハケが施された後、丹が塗られ、内器面は横方向のケズリがみとめられる。胎土は長石・石英を含み、色調は明褐色を呈す。**1115・1116**は高杯である。**1115**は杯部のみ残存する資料で、内外面ともに入念なナデが施される。**1116**はほぼ完形で、内外面が丁寧にミガキ、ナデ、ハケが施され、丹が塗られる。**1117～1123**はP85から出土した土器で、**1117～1119**は甕、**1120・1121**は鉢、**1122・1123**は高杯である。いずれも胎土は精製されており、長石、石英、黒色粒子を含む。雲母をわずかに含むものもある。つくりは入念である。**1122**は内面にハケが施された、丹塗りの土器である。**1123**は高杯のみが残存する。**1124**はSK60から出土した土器で、おそらく弥生時代前期～中期の壷の底部と考えられ、内面にヘラ状工具によるミガキが施される。



第211図　西側微高地遺構配置図(1)（S＝1/200）



第212図　西側微高地遺構配置図(2)（S＝1/200）

（4）西側微高地

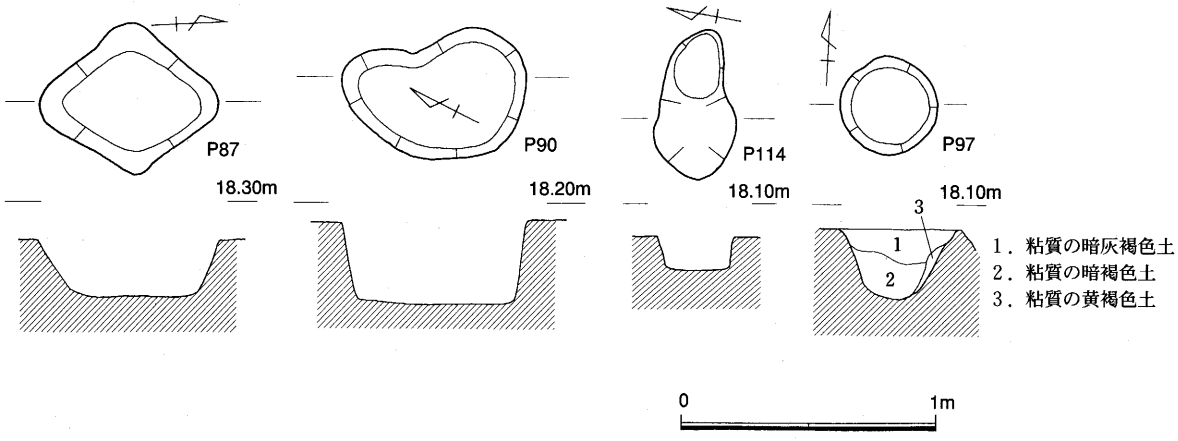
今回の調査で西側微高地とした部分は、県教委の確認調査で判明した、県道の上方に広がる清水谷遺跡の本体部分から半島状に突出する微高地の東端部にあたる。

この地点は地形が東に下降し、自然河道で分断されて、環濠集落が立地する島状微高地に続くため遺構の密度は比較的薄く、検出された遺構は主として溝である。

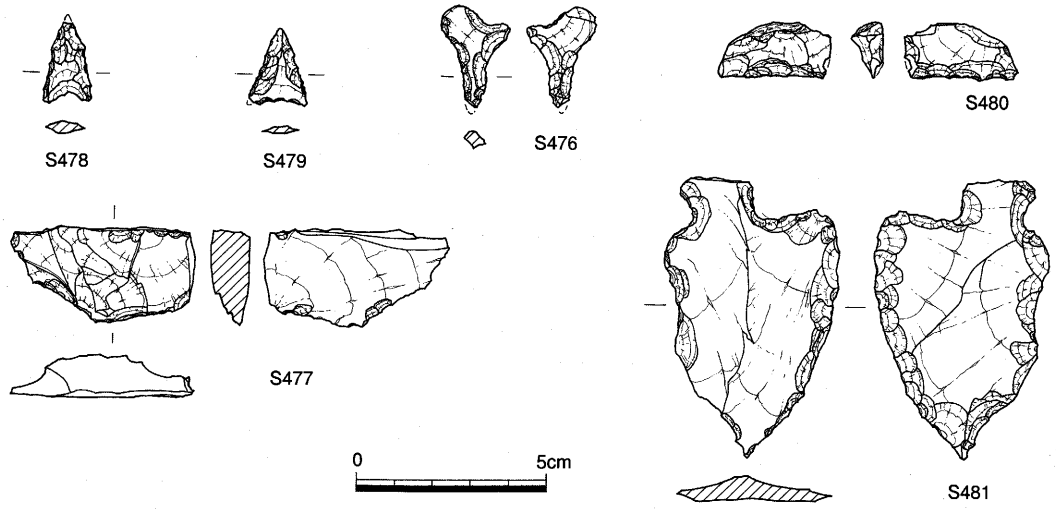
ただ、掘削の及ぶ範囲から設定した調査区は、結果的に南北に細長く、東西幅が約25ｍ程度のため、調査区外にのびる溝の方向と集落の関係等は不明な点が多い。

溝以外の柱穴・土壙等の遺構は主として南端と北西端に集中しており、その方向に集落の遺構が広がっていることを示している。

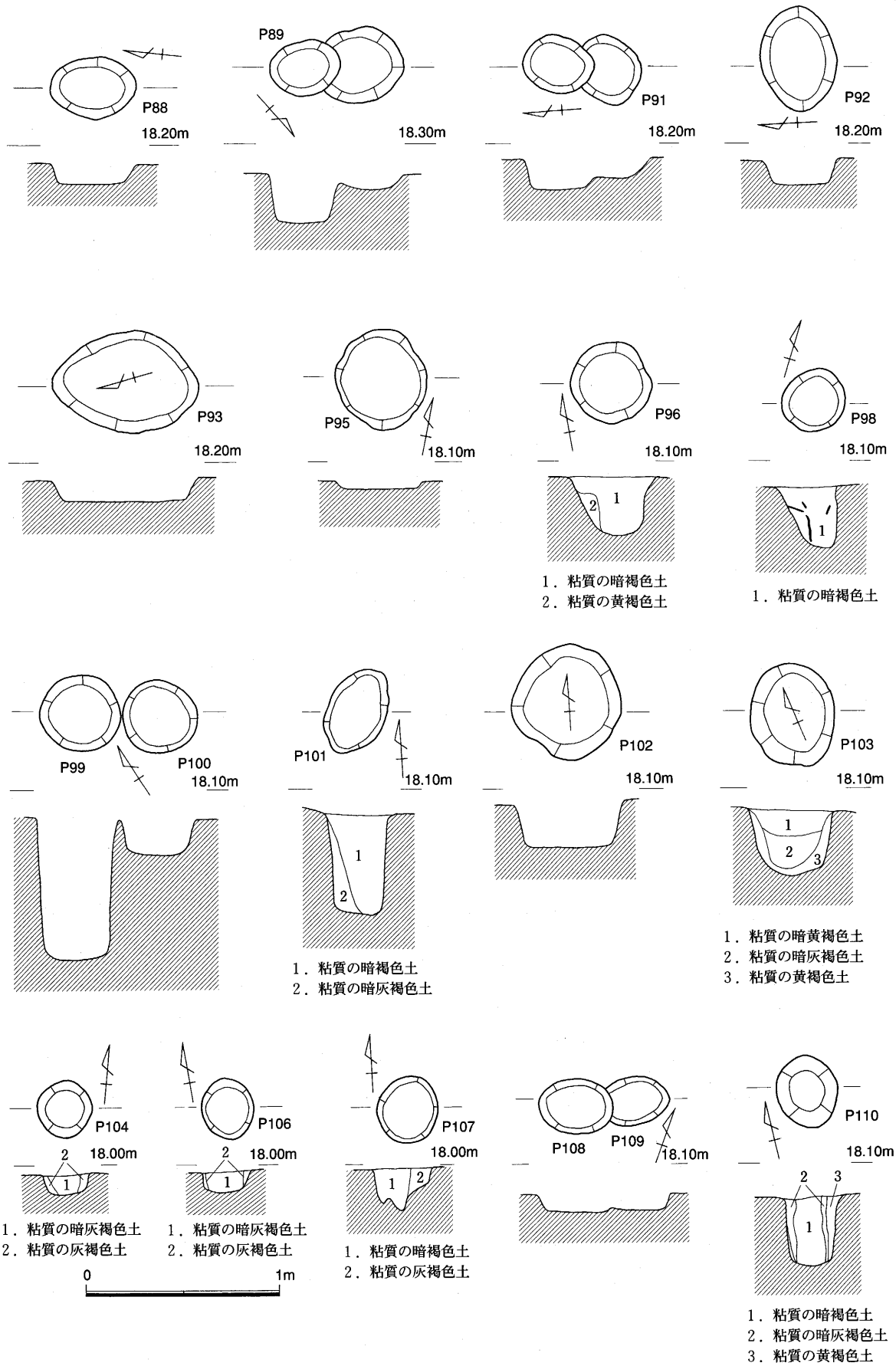
検出された遺構のうち、東西方向に走る南端のSD８・SD９・SD10（第212図）は、弥生時代前期の遺構を切っており、覆土が低位部の弥生後期水田に酷似する点から、後期水田に伴う溝とみられる。



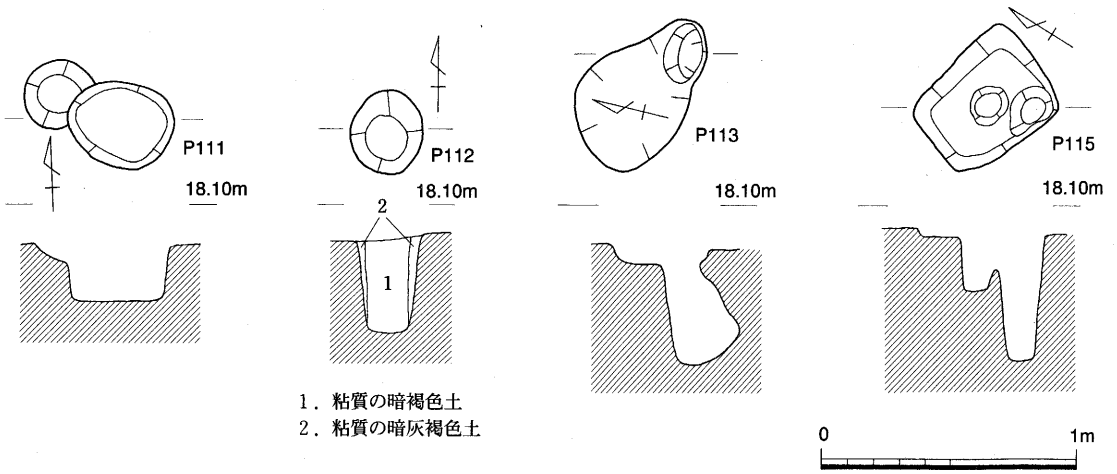
第213図　P87・90・97・114（S＝1/30）



第214図　西側微高地柱穴出土遺物(1)（S＝1/2）



第215図　西側微高地柱穴（S＝1/30）



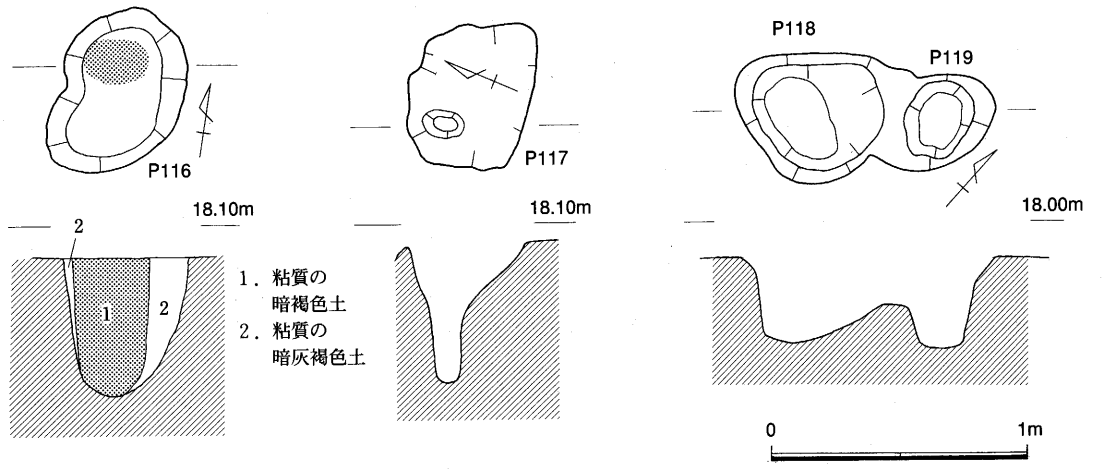
第216図　P111・112・113・115（S＝1/30）

この他に、調査区の南端で6世紀初頭の須恵器片と鍛冶滓とみられる鉄滓が集中して出土しており、遺構としては明瞭に捉えることはできなかったが、古墳時代の住居址が存在した可能性がある。

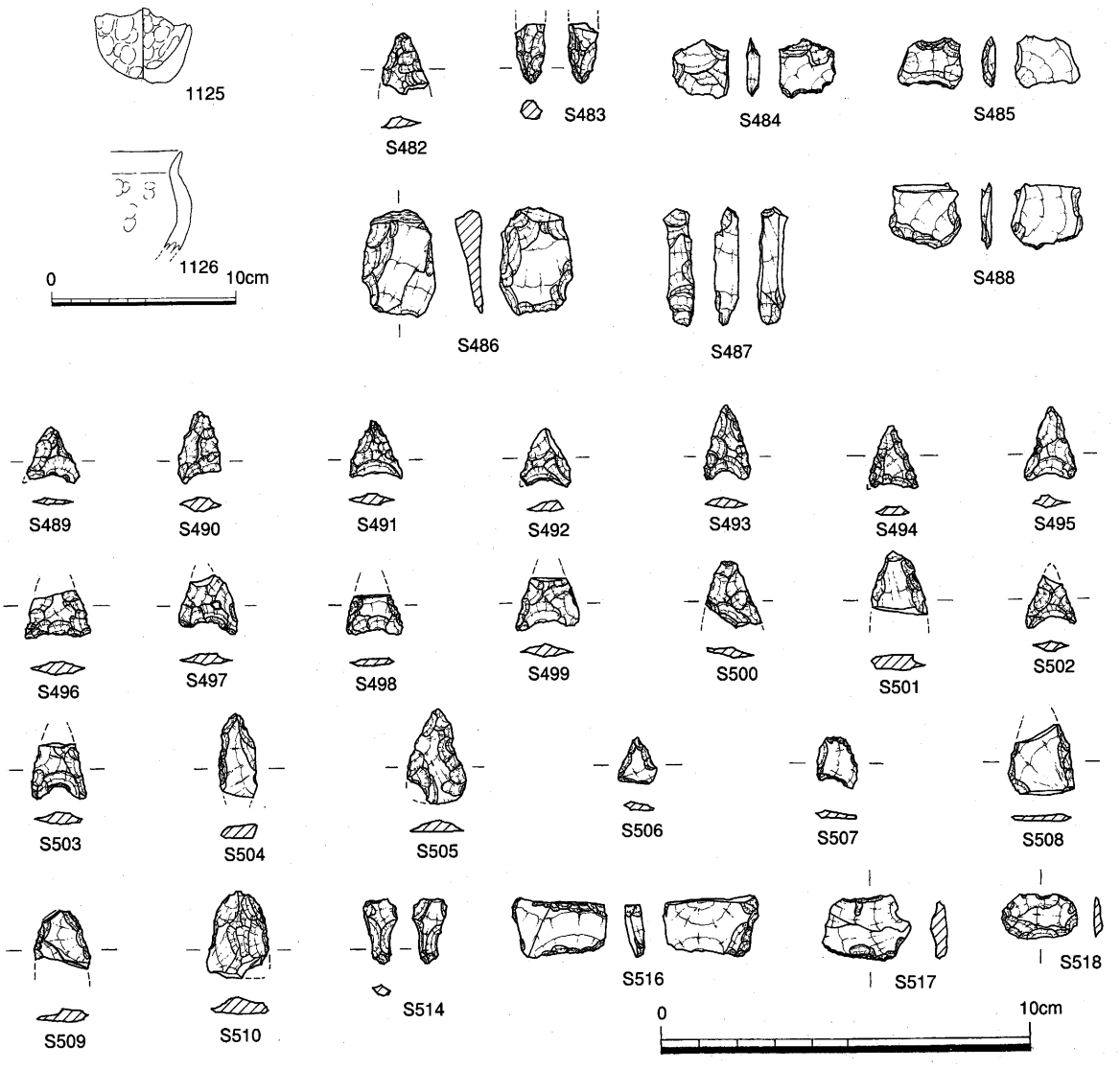
また、調査区の西端では中世とみられる淡灰色の柱穴と、真砂土を用いた薄い整地層が存在したが、後世の削平のためかそのまとまりを把握することはできなかった。

上記以外の遺構は、遺物が出土していないものも含め、覆土等から弥生前期の範疇とみられるが、溝等の切り合い関係からある程度の時期幅が想定できる。

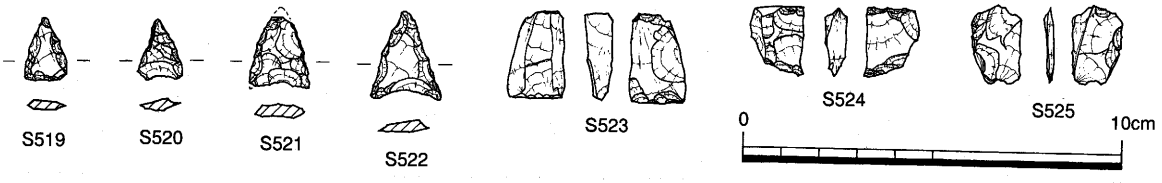
S476はP87から出土したサヌカイト製の石錐である。P87からはこのほか、サヌカイト製スクレイパーが1点出土している（**S477**）。**S478**はP97から出土したサヌカイト製打製石鏃の完形品である。**S479**・**S480**はP114から出土した打製石鏃と楔形石器で、いずれもサヌカイト製である。**S481**はサヌカイト製石匙で、P94から検出された（第214図）。**1125**はP107から出土し、**1126**はP105から出土した。両者とも小形の粗製土器である。**S482**～**S488**はP117から検出された。すべてサヌカイト製で、**S482**は打製石鏃、**S483**は石錐、**S484**～**S488**は楔形石器である。また、フレイクおよびチップが222点出土し、総重量は66.8gである。**S489**～**S518**はP119から出土し（第218図）、すべてサヌカイト製である。**S489**～**S510**は打製石鏃で、図化していないものもあわせると25点出土し、とくに**S506**～**S510**は未製品の可能性がある。また、P119からはサヌカイトのフレイクおよびチップが741点出土し、総重量は124.5gになる。**S514**は石錐、**S516**は楔形石器、**S517**・**S518**はスクレイパーである。**S519**～**S525**はP118から出土した（第219図）。いずれもサヌカイト製で、**S519**～**S522**は打製石鏃で、**S523**～**S525**は楔形石器である。また、サヌカイトのフレイクおよびチップが152点、総重量にして73.5gも出土した。**1127**はP120から出土した壷の口縁部で、口唇部に浅い刺突文を有する。**1128**はP116から出土した壷の胴部である。また、P116からはサヌカイトの剥片も20点、重量にして12.7g出土した。**S526**～**S529**はP121から出土したサヌカイト製打製石鏃である。**S530**～**S532**はP122から出土した。**S532**は流紋岩製のハンマーで、上端の一部および、下端に使用による潰れがみうけられる。**S534**・**S535**はSK65から出土し、**S535**はメノウ製のチップである。**S536**・**S537**はSK66から検出された。**S538**～**S545**はSK68から出土した。**S542**はメノウ製の剥片で、下部に使用による潰れが観察される。**S546**・**S547**はSK69から出土し、**S547**はメノウ製のチップである。**S548**～**S551**、**S553**、**S554**、**S556**～**S561**、**S563**はSK64か



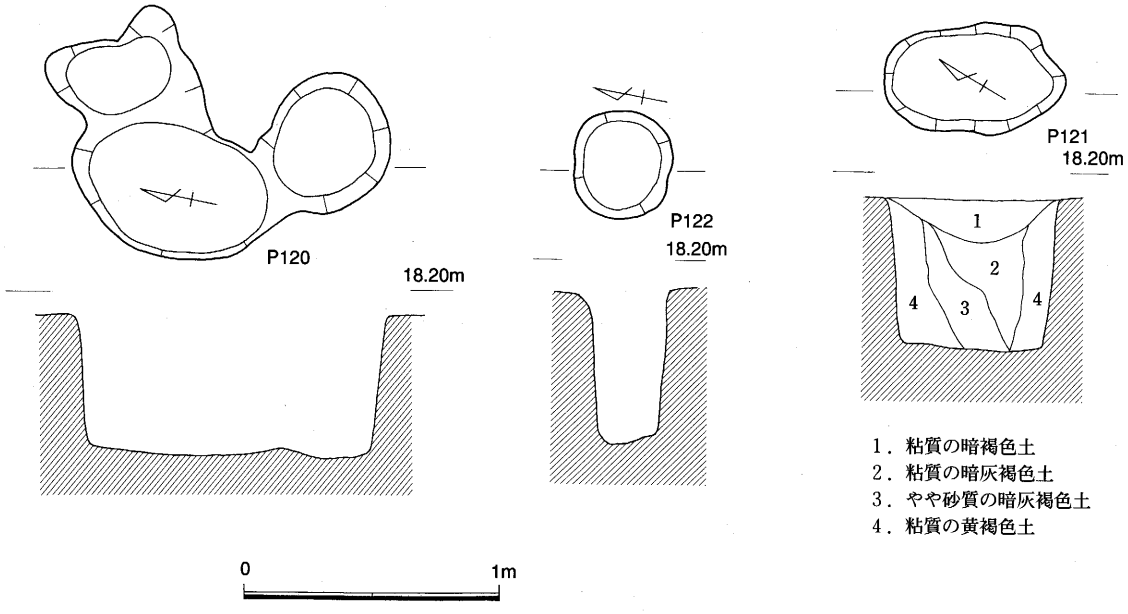
第217図　P116・117・118・119（S＝1/30）



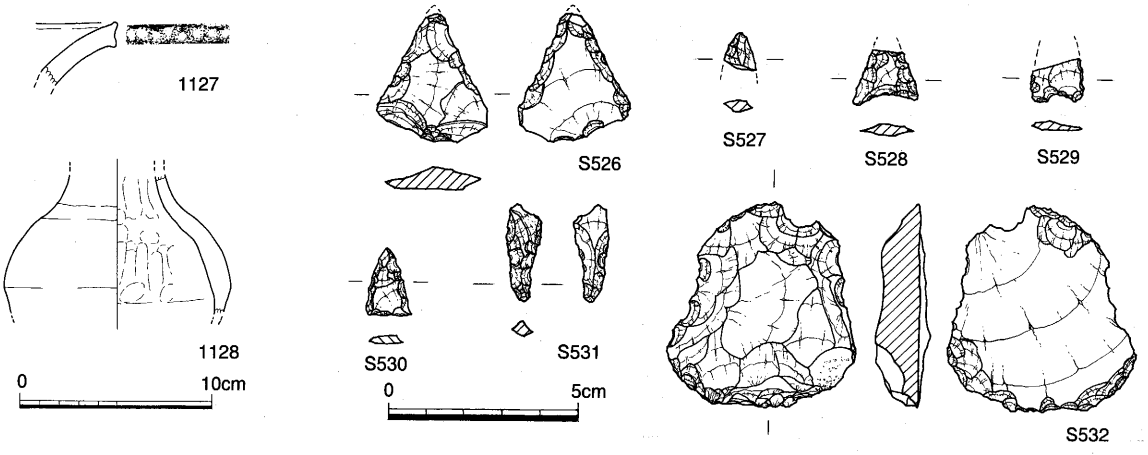
第218図　西側微高地柱穴出土遺物(2)（S＝1/2・1/4）



第219図　P118出土遺物（S＝1/2）



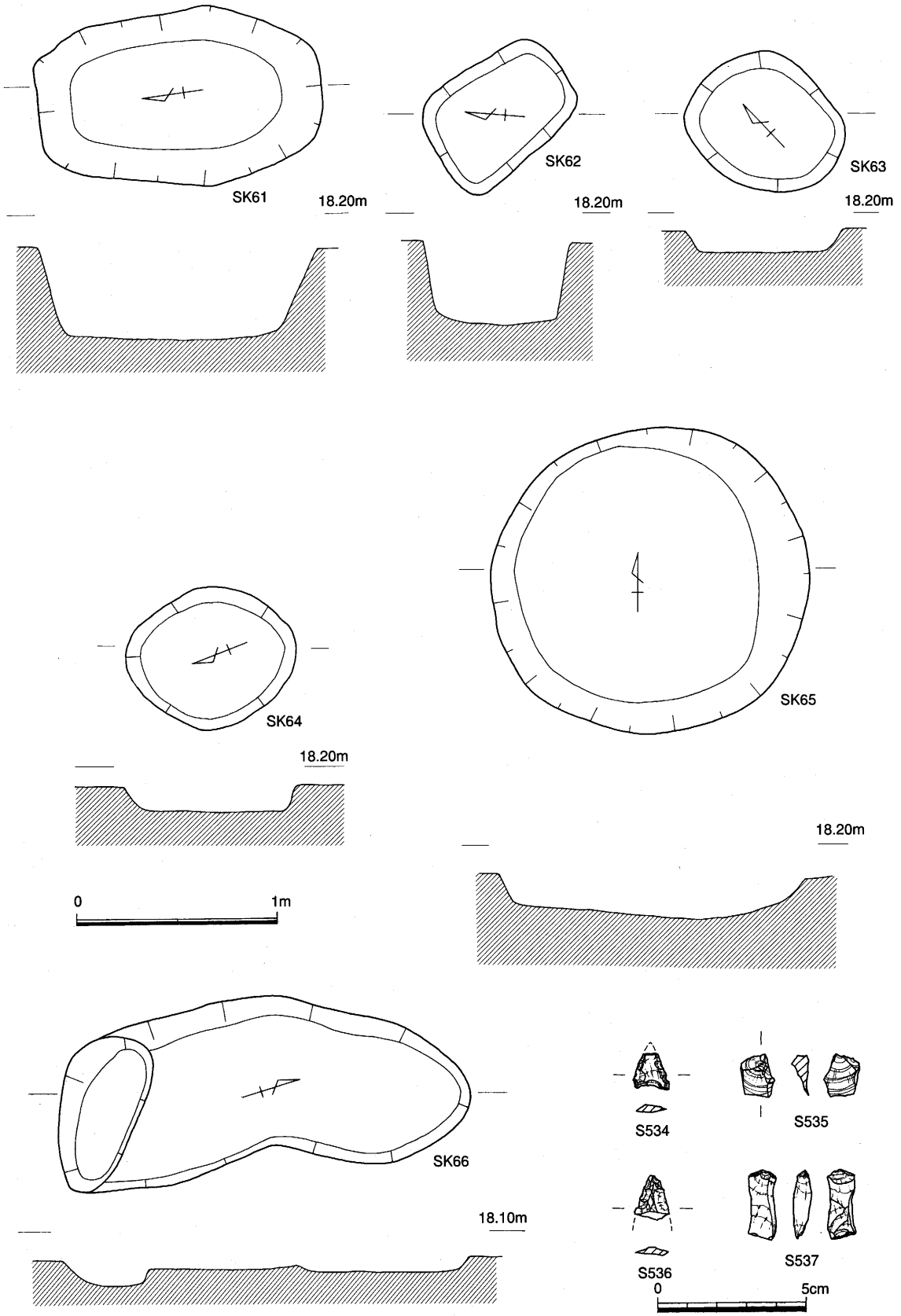
第220図　P120・121・122（S＝1/30）



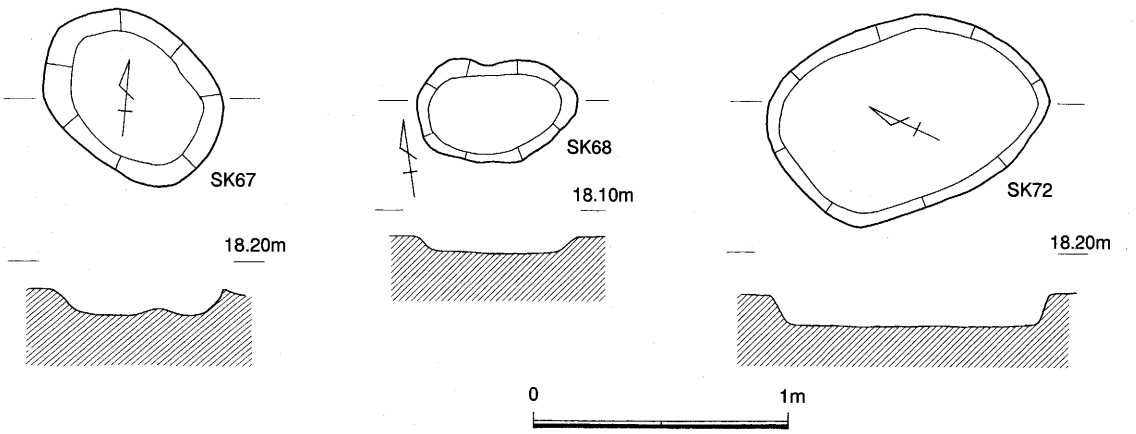
第221図　P116・120・121・122出土遺物（S＝1/4・1/2）

ら出土した。**S563**は上下端が欠損しているため器種不明であるが、両側縁に剥離調整がおこなわれている。

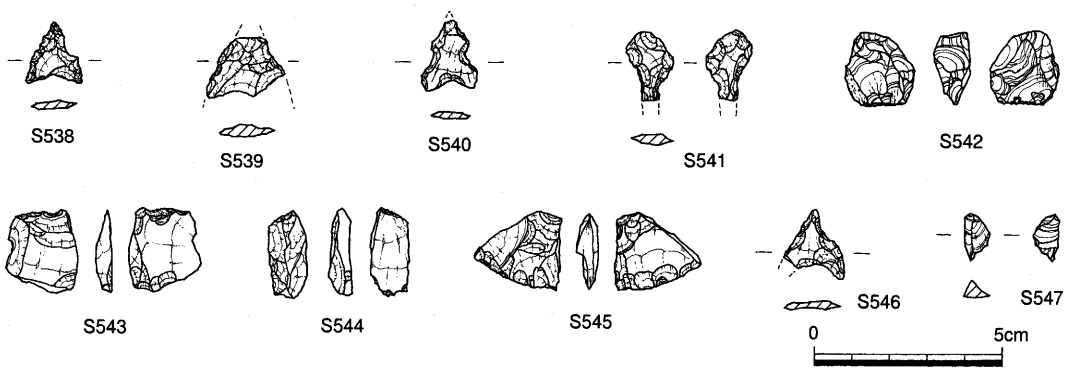
検出した溝の内で最も規模の大きいＳＤ16は、幅5ｍ程度で微高地の縁辺をほぼ東西に走るが、北になるほど平面的に自然地形との区別が不明瞭になり、正確な規模が捉えられない。この溝は土層断面（第232図）からみると、自然河道ではなく人為的に掘削されたと考えられる。しかしながら、流



第222図　SK61・62・63・64・65・66（S＝1/30）　**第223図　SK65・66出土遺物**（S＝1/2）



第224図　SK67・68・72（S＝1/30）



第225図　SK68・SK69出土遺物（S＝1/2）

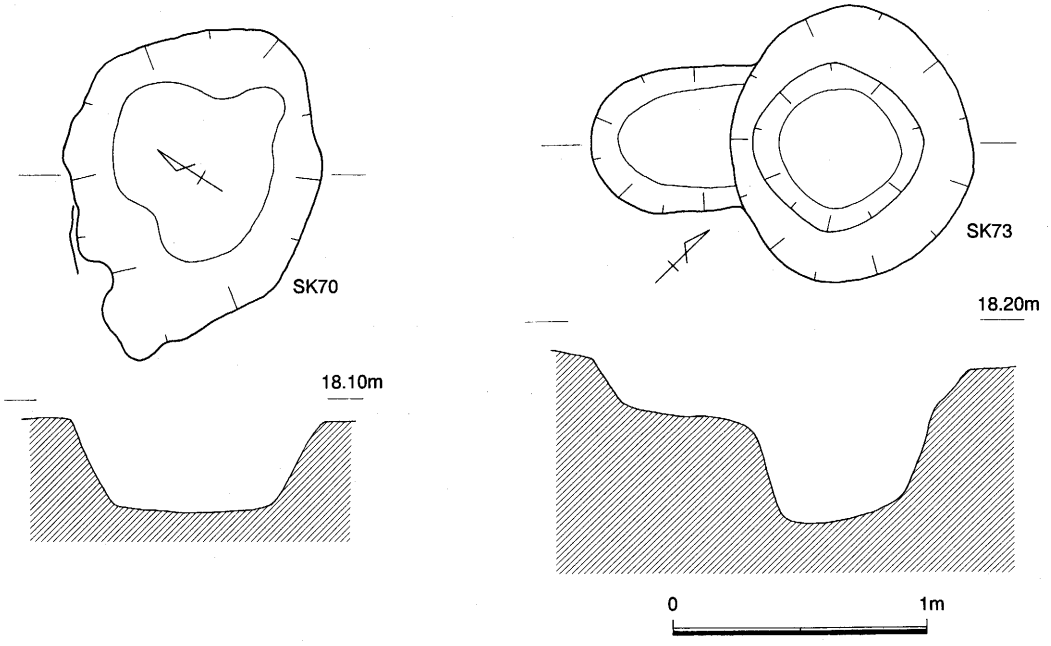
水を示す砂の堆積もみられず、集落が近接しているにも関わらず、覆土の暗灰～暗黄灰色土中からの遺物（第233図・第234図）や炭・焼土等の生活廃棄物の出土も少ないため短期間で埋没した可能性が高い。

1175～1226はSD16から検出された土器である。時期は弥生時代前期～古墳時代まで幅広い。ほかの遺構と比較して、弥生中期の土器がややまとまって出土している。**1178**は弥生中期の壷で、外面はハケ調整とナデにより、丁寧に整形されている。また、文様は口縁部に3条の貼付凸帯と刻目を施こし、胴部に刺突文を施文される。**1180**は壷形土器の口縁部で、内面および口唇端部に沈線、刺突文を施す。**1190**は甕形土器の蓋で、つまみの部分に穿孔をもち、内面はユビオサエ、ミガキ、外面はユビオサエ､ナデによる調整が施される。**1226**は須恵器で甕の口縁部である。

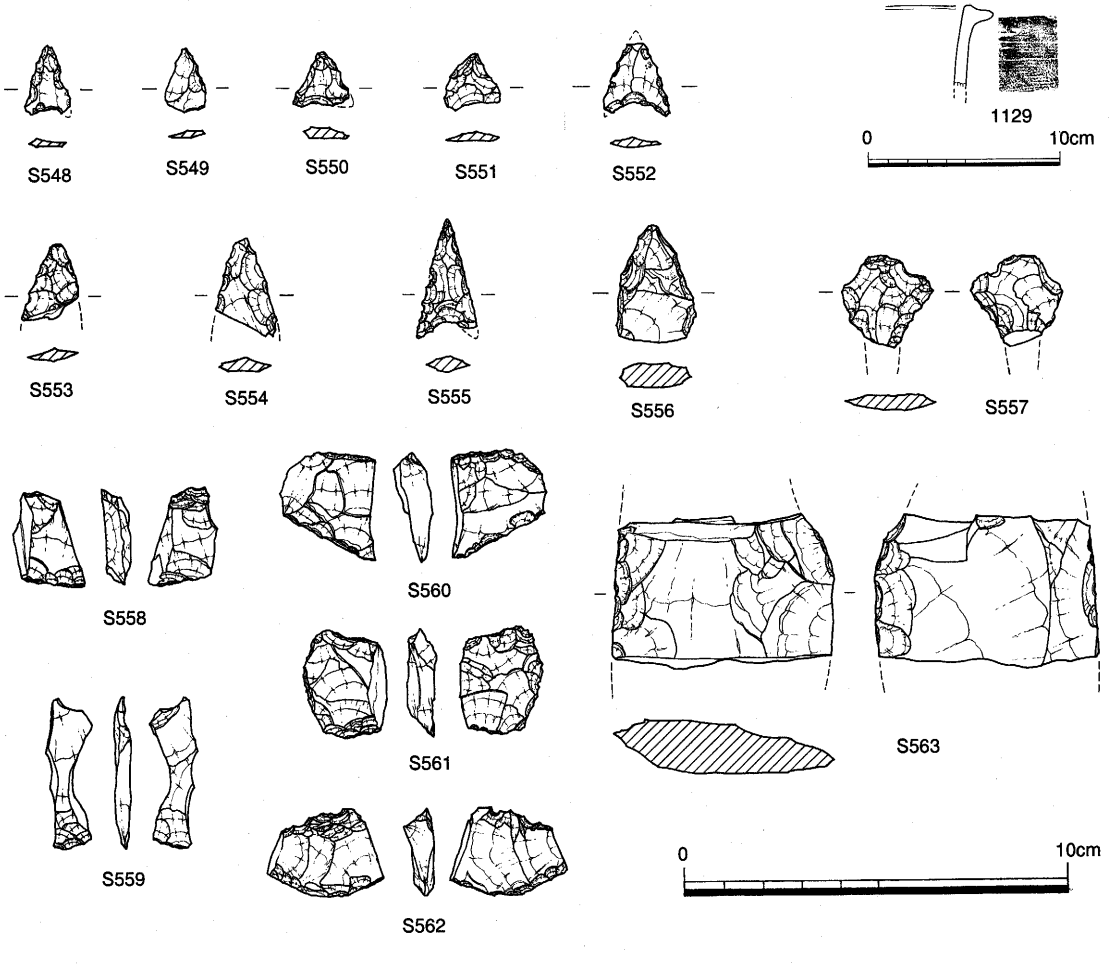
SD16からは打製石鏃3点、石錐２点、楔形石器3点、スクレイパー1点、頁岩製磨製石庖丁1点が出土した。**S593**はサヌカイト製の石錐で、錐部を欠損する。

この他の溝も削平が及んでいるため遺物の出土は少ないが、西端のＳＤ13、ＳＤ14などからは土器・石器（第229図～第231図）がまとまって出土しており、西隣の調査区外で確認された県教委のトレンチ同様の状況を示す。

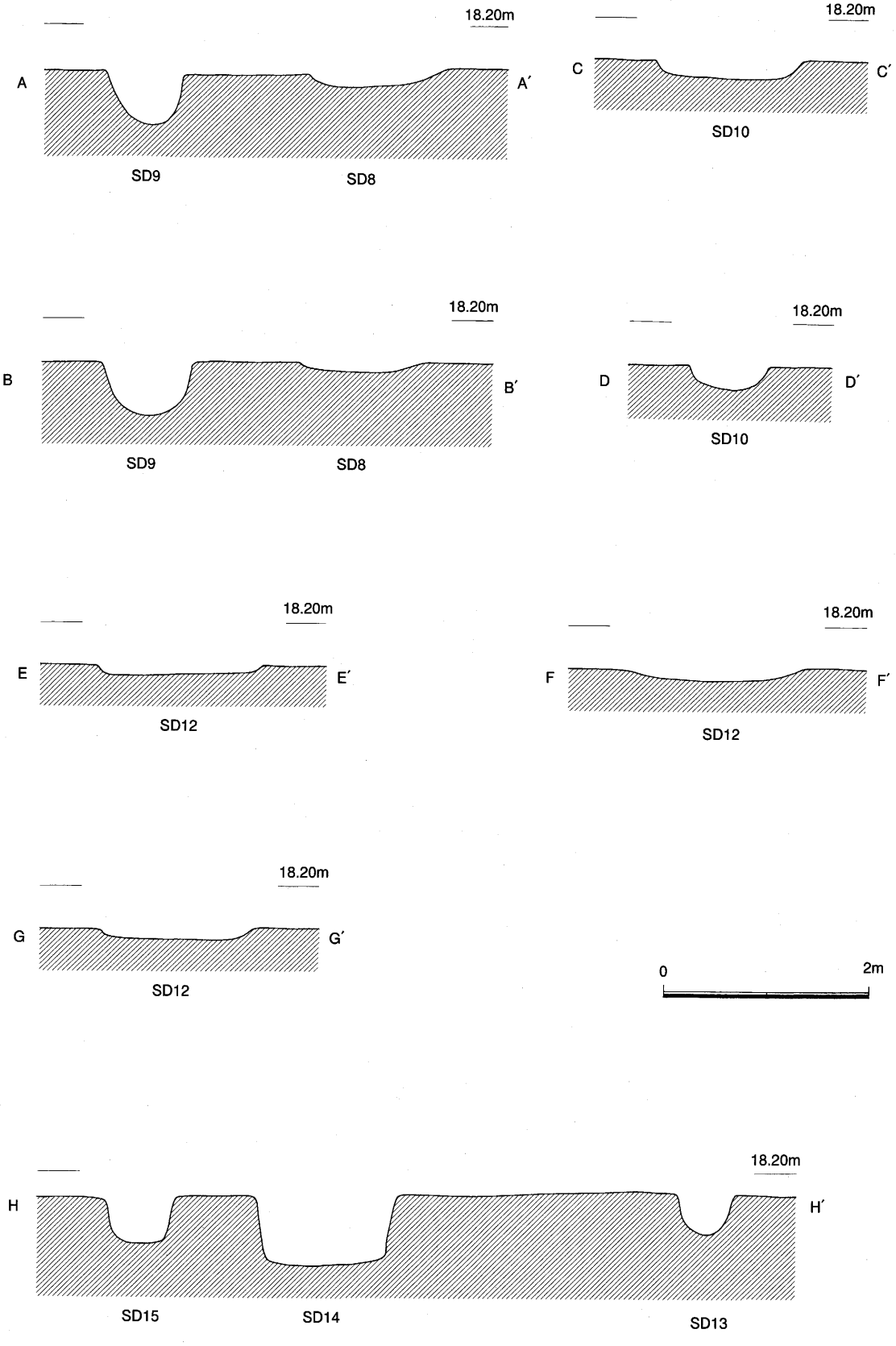
1130・1131はSD09から検出された甕の底部である。**1132**は壷の底部で、SD10から出土した。**1133～1156・1158・1161～1174**はSD13から出土した壷形土器、甕形土器で、時期は弥生時代期後



第226図　SK70・SK73（S＝1/30）

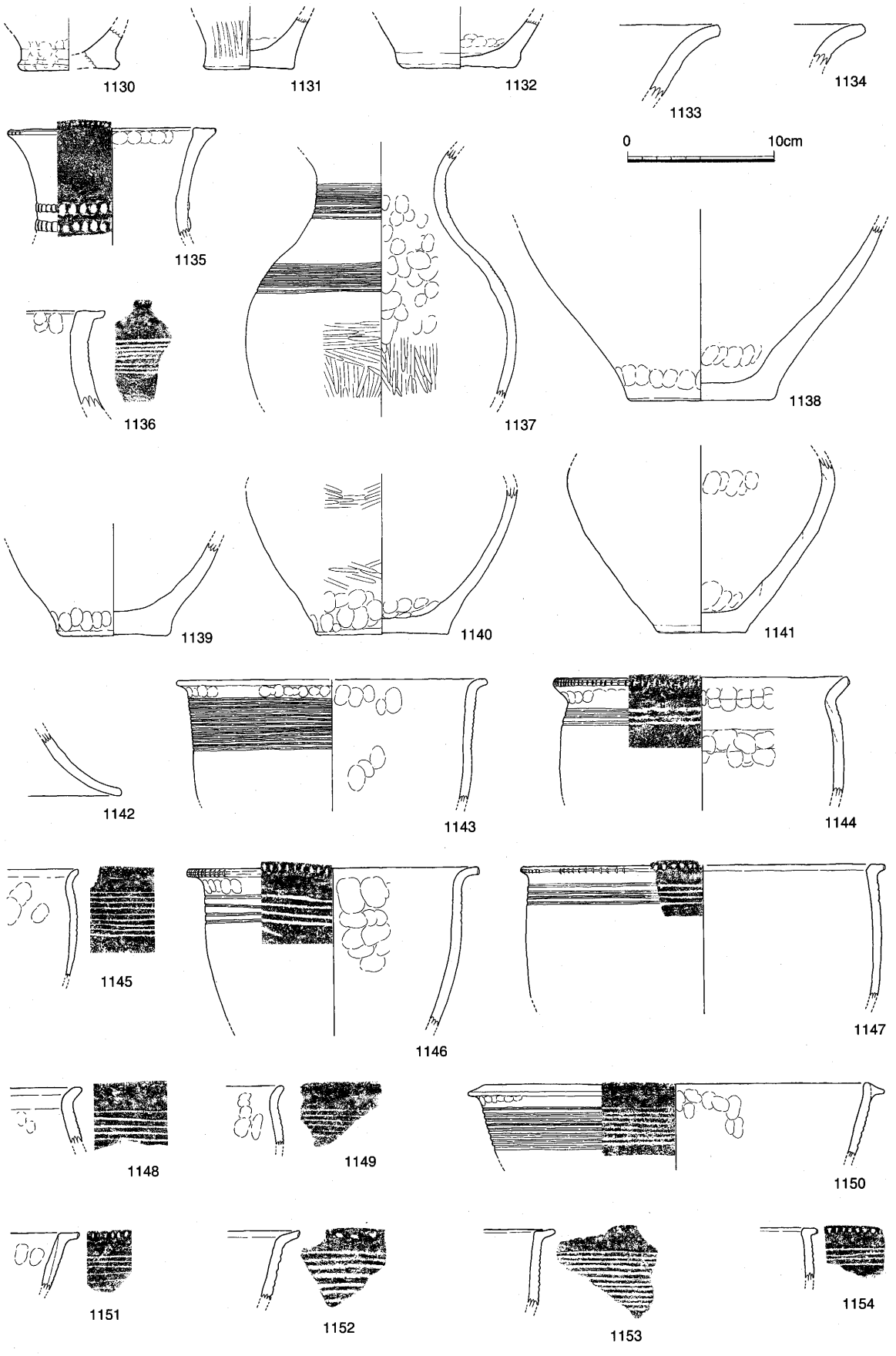


第227図　SK64・70出土遺物（S＝1/4・1/2）

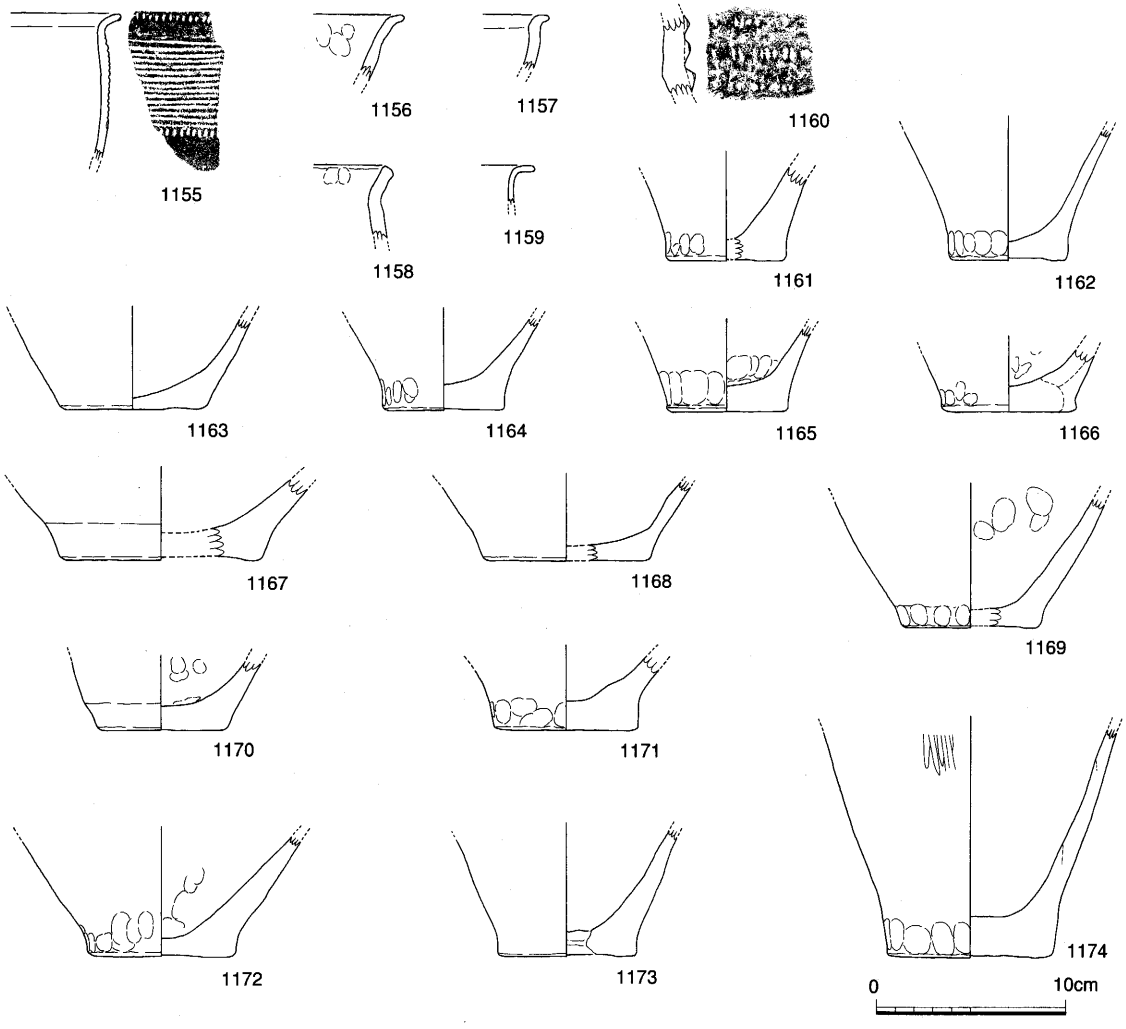


記号は、第211図・第212図に対応する。

第228図　SD08・09・10・12・13・14・15断面図（S＝1/60）



第229図　西側微高地溝出土遺物(1)（S＝1/4）



第230図　西側微高地溝出土遺物(2)（S＝1/4）

半～中期初頭である。**1135**は壷形土器で、頸部に2条の貼付凸帯が施される。凸帯には押圧による文様が等間隔に施文される。**1157・1159・1160**はSD15から出土した。いずれも細片のため全体の器形を推測することは困難であるが、弥生時代前期～中期の土器と考えられる。

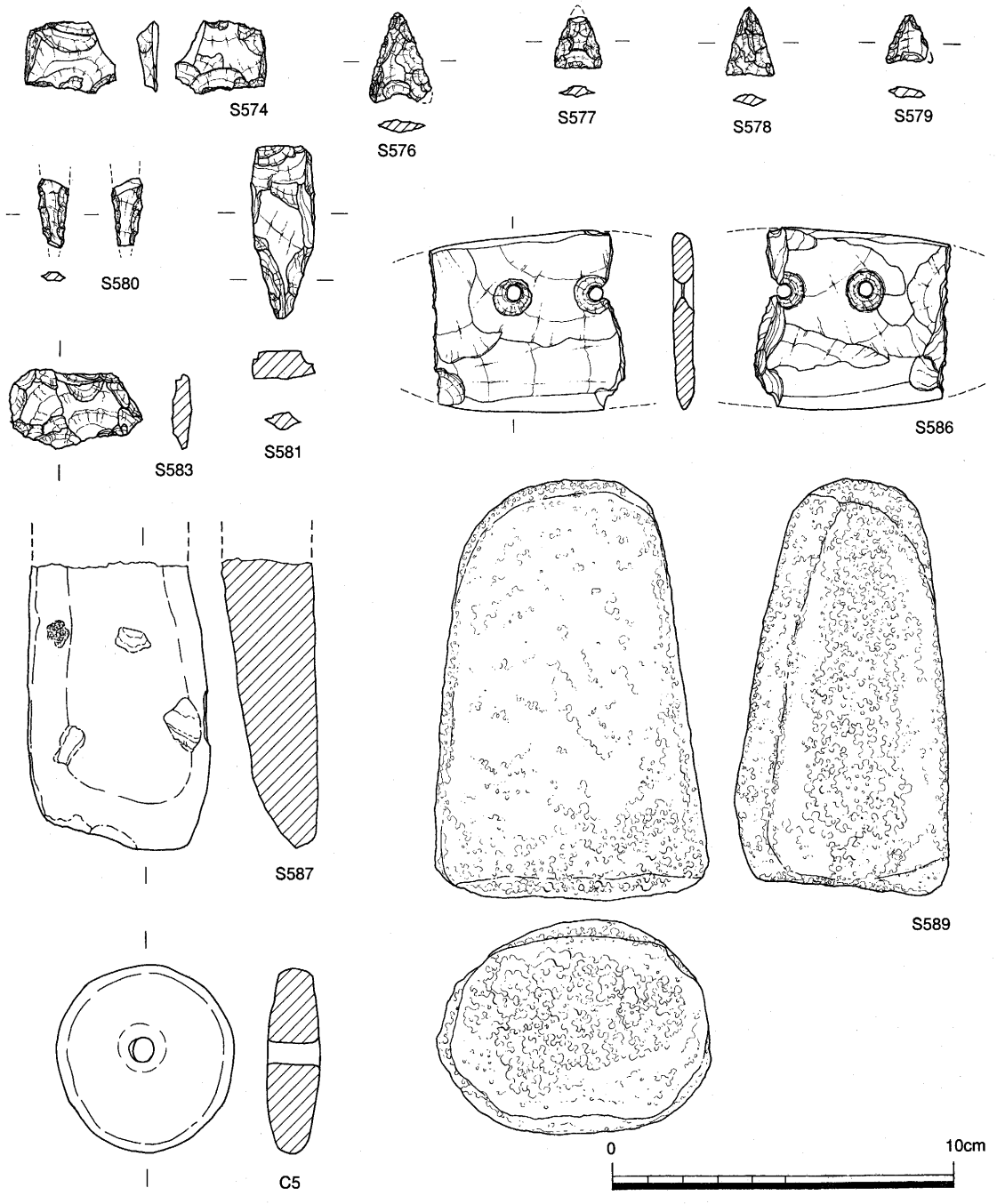
SD08からはサヌカイト製の楔形石器が2点出土した（**S574**）。

SD13からは打製石鏃2点、石錐2点、楔形石器2点、磨製石庖丁1点、磨製石斧2点、敲石1点が出土した（**S576・S578・S580・S581・S583・S587・S589**）。**S589**はヒン岩製の敲石で、自然礫をそのまま利用するほかの敲石､磨石と異なり、全体を整形してから使用されている。また、下端には使用による敲打痕が明瞭に残る。**C5**はSD13から出土した土製紡錘車である。

SD14からは磨製石庖丁1点が出土した（**S586**）。**S586**は砂岩あるいは砂質片岩を石材とする、磨製石庖丁であるが、磨き残しがある。

SD15からはサヌカイト製打製石鏃が1点出土した（**S579**）。

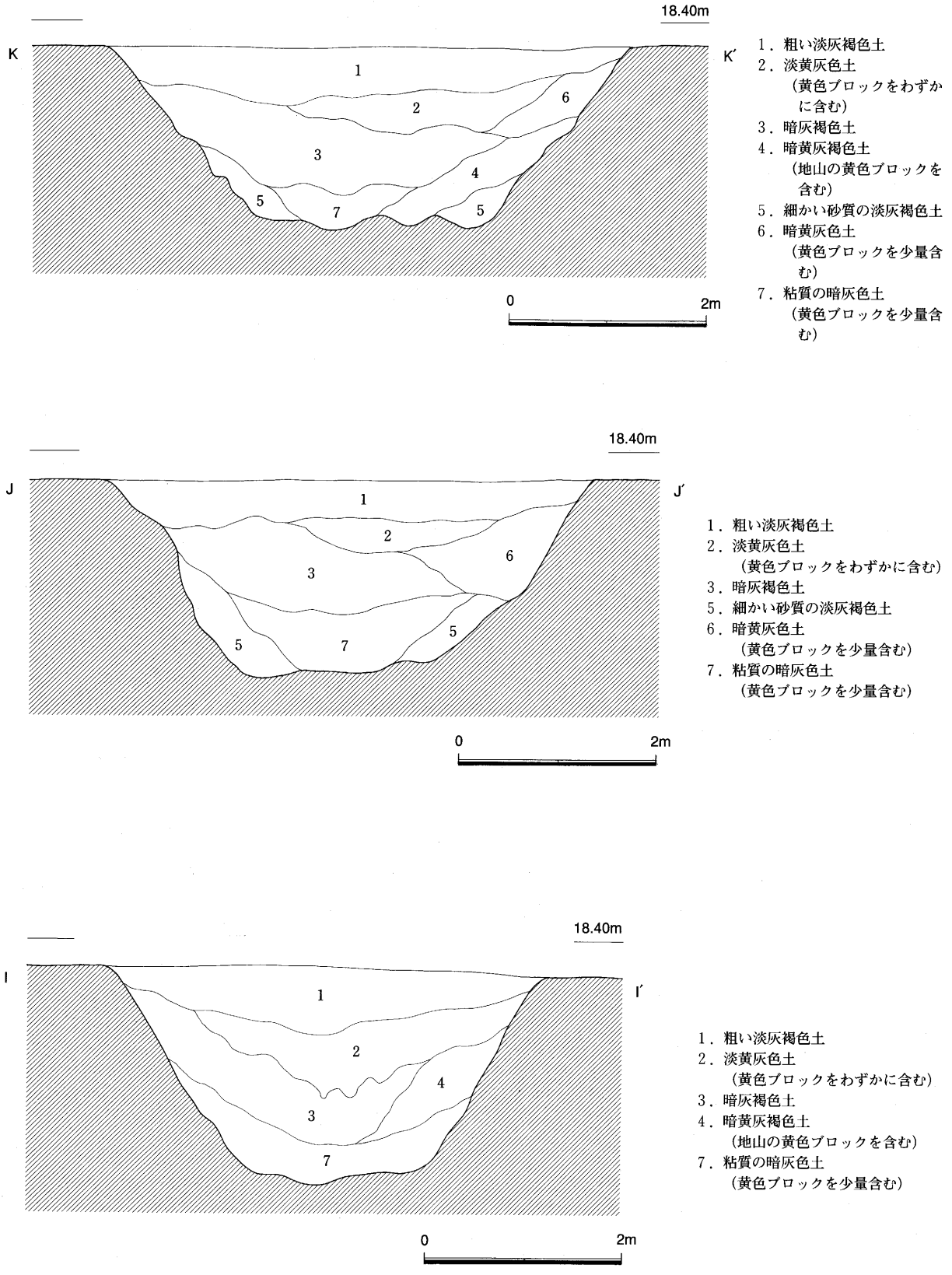
また、南端で集中して検出された柱穴には柱痕が確認されるものも多く、建物数棟が存在した可能性があるが、明確にまとめることはできなかった。（武田・藤江）



第231図　西側微高地溝出土遺物(3)（S＝1/2）

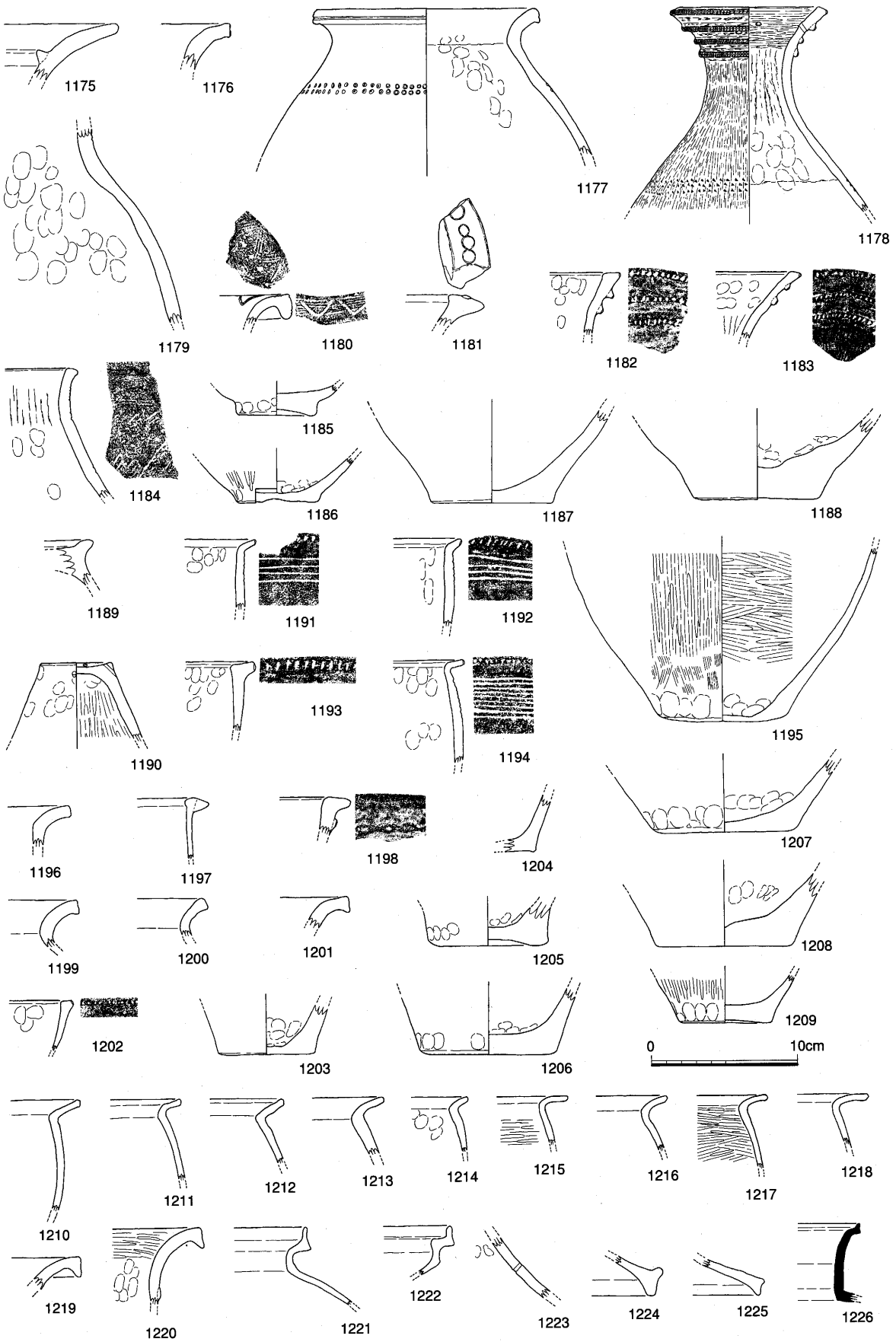
（５）遺物包含層

遺構に伴わない遺物を包含層出土として取り扱った。遺物包含層からは縄文時代晩期～中世にいたる土器が検出された。**1227～1233**は縄文晩期の土器である。口唇部に縄文を施すものもみられた。**1232**は沈線が施される。**1234～1238**は弥生時代前期～中期の壷形土器で、**1239～1262**は弥生時代前期～中期の甕形土器である。**1239**は内面に凸帯を一条有する。**1250**は口縁下部に貼付凸帯を施した後、等間隔の押圧文を施す。**1259～1278**は弥生時代後期の土器である。**1259**は壷形土器で、内外面に丹が施される。**1267**は細かい粒子の胎土で、外面は入念なミガキ、ナデが施され、内面はケズリに

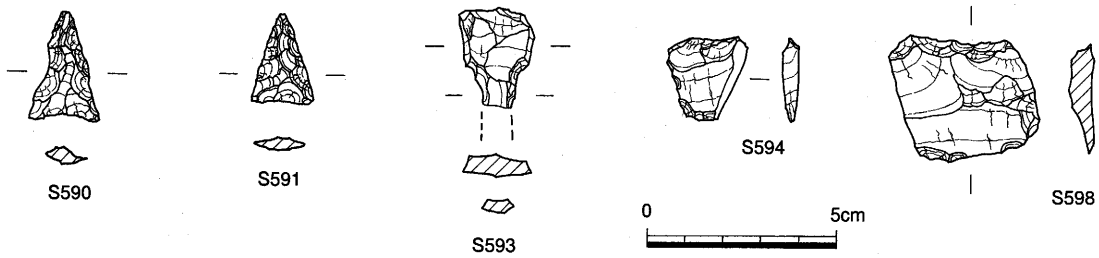


記号は、第211図・第212図に対応する。

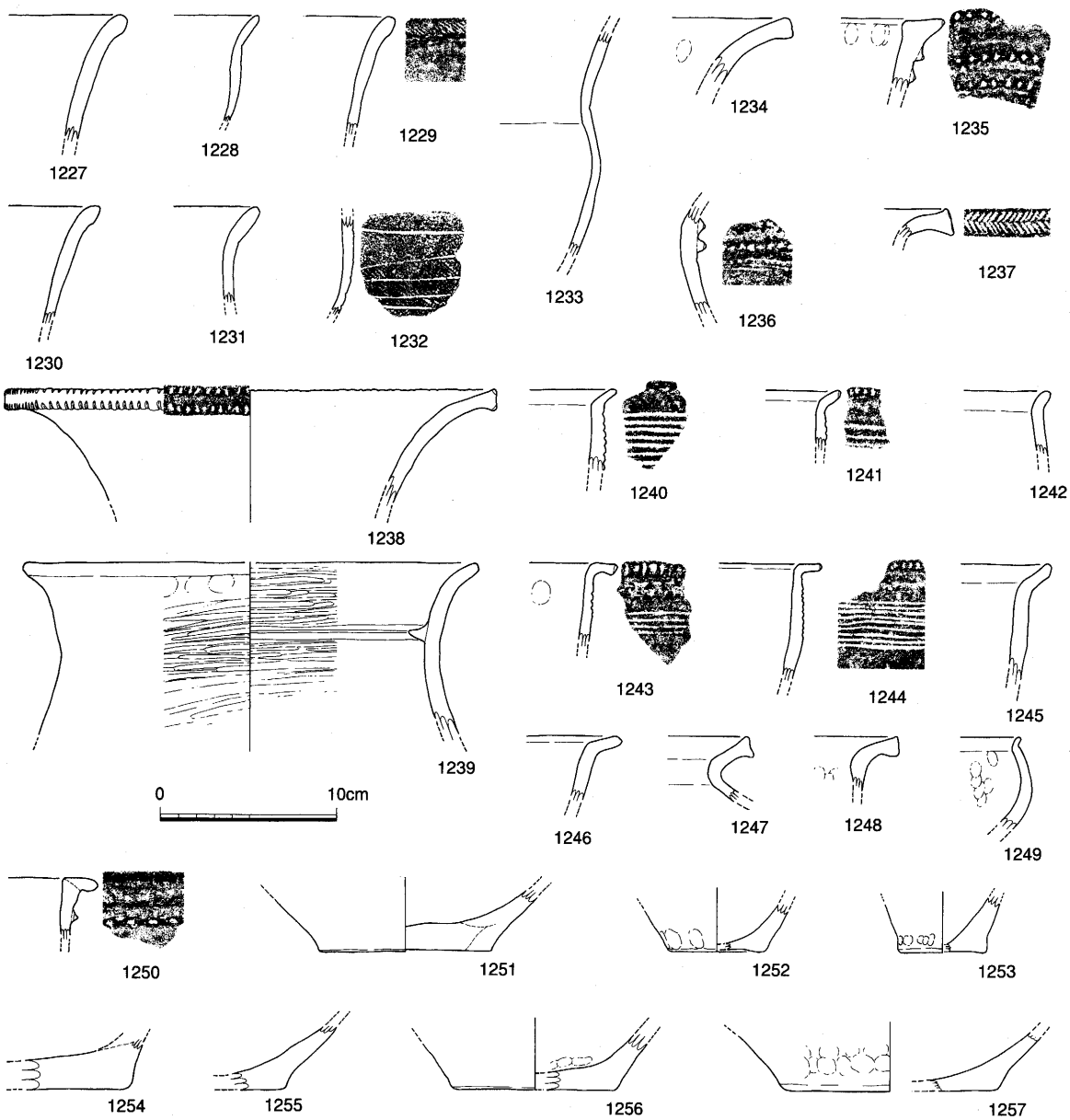
第232図　SD16断面図（S＝1/60）



第233図　SD16出土遺物(1)（S＝1/4）



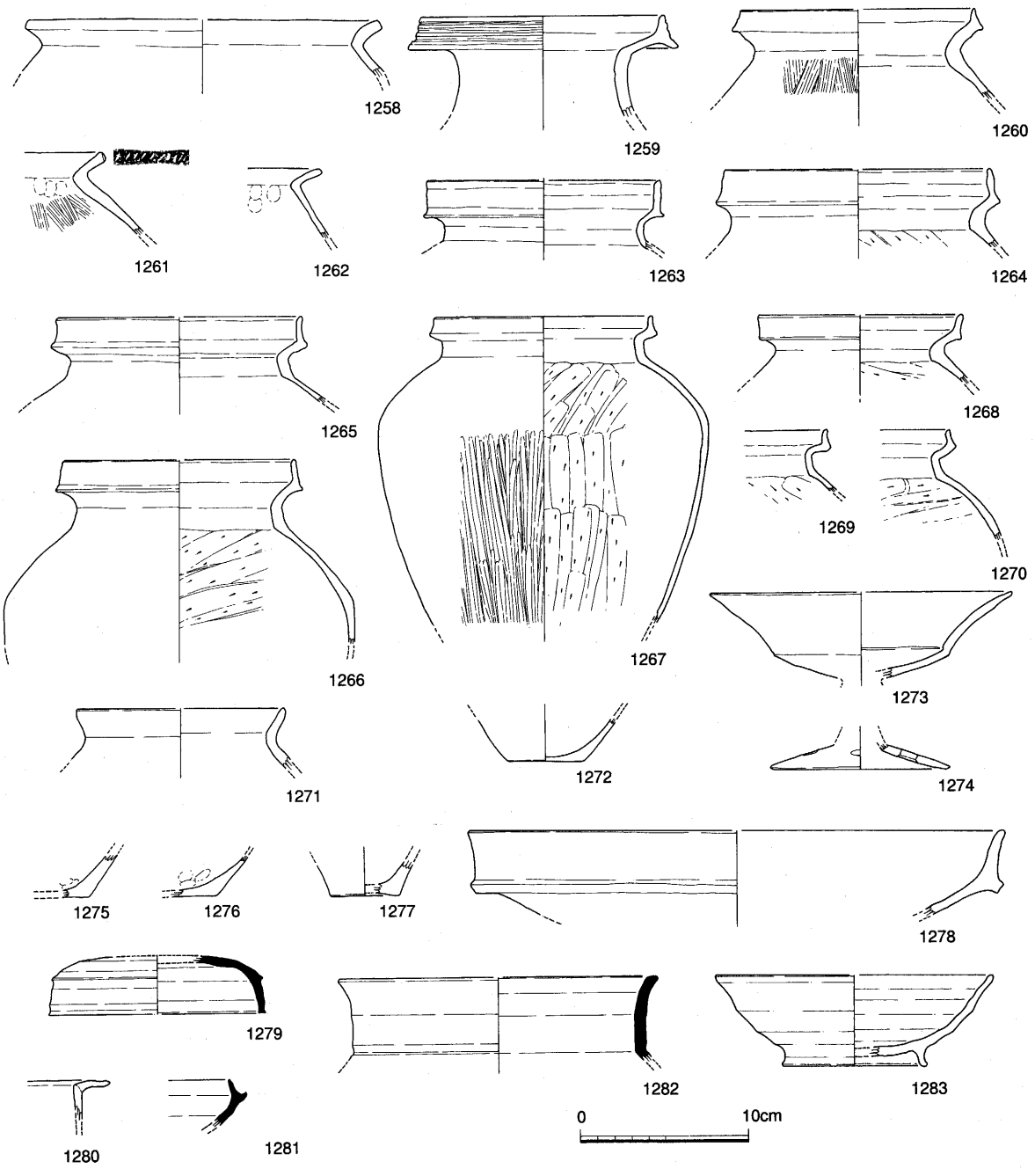
第234図　SD16出土遺物(2)（S＝1/2）



第235図　包含層出土遺物(1)（S＝1/4）

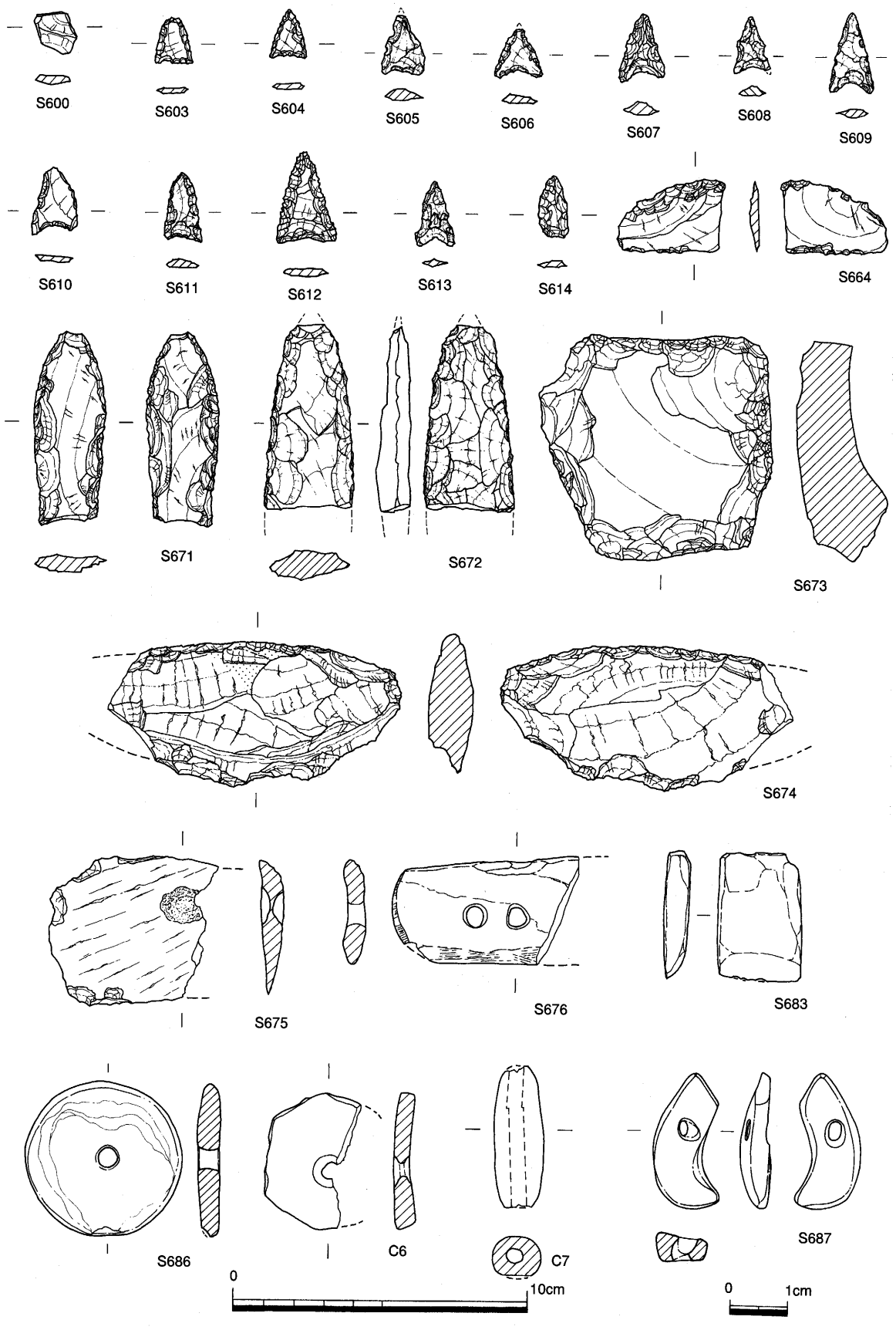
よる調整がなされる。**1279・1281・1282**は須恵器で、**1283**は中世の杯である。

石器はメノウ製あるいはチャート製のチップ3点、打製石鏃30点、石錐5点、楔形石器26点、スクレイパー7点、石槍2点、石核1点、打製石庖丁1点、磨製石庖丁7点、打製石斧1点、磨製石斧3点、石製



第236図　包含層出土遺物(2)（Ｓ＝1/4）

紡錘車1点、緑色凝灰岩製勾玉1点が出土した。**S671・S672**はサヌカイト製の石槍で、両面から剥離を加え、刃部を整形している。**S673**は石核としたが、周縁に細かい剥離調整がなされており、スクレイパーの用途も考えられる。**S674**はサヌカイト製の打製石庖丁で、網掛け部分は使用によりなれている。**S675**は砂岩あるいは砂質片岩製の磨製石庖丁の未製品である。両面から、敲打によって孔を穿つ途中で廃棄されたものと考えられる。**S676**はやや小形の磨製石庖丁で、石材は頁岩である。**S683**は小形の扁平片刃石斧で、石材は頁岩である。**S686**は泥質片岩製の紡錘車で、全体を丁寧に研磨している。**S687**は緑色凝灰岩製の勾玉で、孔は両面から穿ち、全体を入念に磨いている。**C6**は土器片に孔を穿ち、紡錘車としたもので、**C７**は土錘で、時期などは不明である。（藤江）



第237図　包含層出土遺物(3)（S＝1/2・1/1）

第Ⅳ章　結　　語

第１節　遺構について

１）はじめに

先ず最初に、今回の発掘調査の対象となった清水谷遺跡の立地について若干ふれてみたい。

本遺跡の推定範囲については、県教委の確認調査(1)の結果から、清水谷・畑ケ中地区の山塊裾部に広がる県道西側、現集落周辺を中心としていることが明らかになっている。

その内、発掘調査の対象となった清水谷遺跡一本木地区は、遺跡の推定範囲の中でも東の小田川へ半島状に突出した微高地の先端部分にあたる。(第２図)

この半島状の微高地は、流れた真砂土粒が含まれることから、西側の山塊の浸食から生じたなだらかな高まりが、南北辺を小谷に浸食されて形成されたとみられる。東辺は現在の矢掛町旧市街地のはずれで、遺跡の対岸にある茶臼山の岩盤にぶつかり、南に屈曲する小田川により形成された南北方向に伸びる自然堤防に繋がる。

今回の調査対象地は、この自然堤防と西側から伸びる微高地の接合部に相当し、結果的に自然堤防上の環濠集落と、自然河道を挟み西側に主微高地が存在する状況を明らかにしたことになった。

また、この一本木地区で確認された遺構の時期は、確認調査と本調査からみると、未調査部分も含めて弥生前期の遺構が主であると考えられる。

これに対し、県道より西側の遺跡本体部分では、従来の踏査から主として弥生後期と古墳時代後期、中世(2)の遺構が濃密に存在することが予想され、時期により遺跡の立地が異なる点は興味深い。

この、遺跡が立地する自然地形と、時期的な遺構の重複関係の偏りは、調査でその存在が明かになった、特異な弥生前期環濠集落の形成を考えるうえで重要な視点であろう。

以下、個々の遺構について種類別に若干の考察を加えていきたいが、今回の清水谷遺跡の発掘調査で最も注目を集めたのは、遺構・遺物の大半を占める弥生前期の環濠集落であることから、本項もこの点に中心をおいて記述を進めていきたい。

２）環濠について

先ず、集落の周囲に巡らされた環濠の調査で得られた事実関係についてまとめてみたい。

今回の調査区内で確認された環濠の規模は全長約100ｍで、地形から推測してほぼ円形に巡ると仮定した場合、結果的に全周のほぼ半分程度を調査したことになる。

最終的に掘り上がった環濠の幅は3.5ｍ～５ｍであり、西側の自然河道に面した部分が若干広い印象を受けるが、環濠の両側斜面で検出された柱穴の位置からみて、掘られた後に淵辺部が、かなり崩落したことが推測される。このため、本来の幅は掘り上がりの数値より１ｍ程度狭く、調査した範囲では、ほぼ均等な幅で掘削されたと考えて大過ないとみられる。

また、環濠が一重か多重かの可能性については、外周帯の外側で同時期に環濠と平行する溝は、部分的に確認されたＳＤ17だけである。しかし、削平を考慮してもその規模と断面形態から環濠として掘られたとは考えられず、集落の周囲に掘られた環濠は一重とするのが妥当である。

以上の点を踏まえ、先ず環濠の規模・形態と立地の視点から、その性格について考えてみたい。今回の調査結果から推定される環濠の規模は、内法で50ｍ×60ｍ の楕円形であることは調査概要の

項で述べたが、この規模と形態は瀬戸内地域で、環濠集落とされる他遺跡の調査例(3)と較べると小規模である点が特色である。

また、他の調査例は限定的なものが多いため断定はできないが、地形に規制される等で不整形な形態を呈する傾向が多いのに対して、本遺跡例はかなり整った円形の平面形態である。

弥生期の環濠集落とされる遺跡の性格については、まだ良好な調査例が少なく明確にされた例はほとんどないが、その時代背景と絡めて防御的な性格を想定する論考が多い。

では、比較的良好な調査例といえる本遺跡の環濠に、この防御的な性格がみられるか否かについてみてみる。規模からみると、環濠が一重であることから、西側の自然河道上の水田は障害物にならず、外敵の環濠外周帯までの到達は容易であり、環濠内は弓矢や投石の射程距離に十分含まれてしまう。防御を考慮した施設ならばその点や、非常時の人員収容能力を当然考慮した規模であったはずであり、環濠の規模という点で、まず防御を考慮した可能性は非常に低いと考える。

また、防御という点を重視するならば、自然地形を積極的に利用し環濠集落が立地する島状微高地の斜面端部、西側ならばＳＤ17周辺を掘削すれば、より容易に障害を設けることが可能であり、集落面積も倍増させることが可能であったと推測できる。

では何故に自然地形を利用せず、外周帯を掘り残してまでも掘削土量の多い微高地の中程の平坦部に、敢えて環濠を巡らせる必要があったのであろうか。

具体的な遺構は不明であるが、現時点で言及するならば、島状に隔絶された微高地上の、環濠で隔てた50ｍ×60ｍの楕円形の空間に特別の意味が存在した可能性が高いとしておく。

次に土層断面から得られた知見から、環濠の性格について触れてみたい。

環濠の土層については、上下二層に大別でき、それぞれの埋没過程と時期が異なることは遺構の項で述べたが、掘り上がりの環濠底面のレベルでみると17.30ｍ～17.60ｍの範囲でバラツキがあり、特定の方向への水流を考慮する傾向はみられない。

この点は環濠下層の層位中に水流の痕跡である砂層が認められないことも、環濠内に水が流れる状態はなかったことを示している。

ただ、底面近くの薄いグライ化層中に、少量ではあるが木質が遺存する地点があり、環濠底面のレベルが西側の自然河道のグライ化層とさほど比高差がなく、地下水位を考慮すれば底面付近はある程度、浅いながら常時帯水した状態の部分があったとみるのが妥当であろう。

この環濠下層埋土については、掘り上げられた環濠の開削土の一部と、法面の自然崩落により長時間で徐々に埋没したとみられ、生活廃棄物である土器や焼土・炭・有機物の投棄も少ない。そして、掘り直しの痕跡も部分的に認められ、集落内のどの段階の遺構に対応するかは不明ながら、環濠が存在することが意味を持ち続けた段階といえ、上層とは対照的な在り方を呈している。

下層埋没時点の環濠の状態を推定すれば、下層埋土上面レベルからみると環濠はほぼ均一に埋没し、その深さは、内側にあたる集落内の削平前の表土高を加算しても１ｍ程度である。

さらに、法面の傾斜もかなり緩くなっており、幅の割合からすると、もはや濠ではなく、むしろ浅い溝状の窪地のような状態を呈していたと考えられ、集落が活動していた段階にすでに環濠が機能を半分喪失していることになる。

この点は規模・形態と共に本遺跡の環濠の性格を示しており、開削当時はともかく、環濠の埋没状態からもやはり集落の防御性という要素は薄いことになる。

環濠上層の埋土には下層とは対照的に、集落内から人為的に投棄された土器・焼土・炭が大量に含まれており、特に土器は下層との境付近にまとまって厚く堆積していることから、投棄のピークは短期間で、その後は周辺からの流入土により埋没したとみられる。

この土器等の投棄の段階は、すでに環濠が存在する意味を喪失していた可能性もあり、集落内の遺構との関係は不明であるが、集落内の遺構から出土した土器の下限と上層の土器の大半がほぼ同時期であることから、集落の活動期間内にはほぼ埋没したと考えたい。

また、環濠上層の土器群と下層出土の土器群には若干の時期差が認められ、その時間幅が環濠集落の存続期間とみて大過ないと思われる。

底面と下層土に打ち込まれた状態で、多数が検出された木杭の痕跡については、検出当初は土留めの杭と防御用の逆茂木の両方の可能性を考えた。検出はこの点を考慮して行い、その結果、列状に並ぶものが多く、密集して斜め方向に打ち込まれた状態ではないことが判明したため、逆茂木ではなく法面の崩落を防ぐ土留めの杭であると判断した。

3）住居址について

今回の調査区内で、確実に存在が確認された住居址は6軒で、全てが環濠集落内に位置している。

調査区内で明かになった環濠集落の範囲は、ほぼ半分と推定されているが、平面的な各住居の位置は6軒の内、4軒が環濠近くに疎らに存在するのに対し、2軒はほぼ中央に近接している。

この住居の在り方を未調査部分に当てはめると、推定される住居の軒数は10軒程度になる。

この点は、前述のように後世の削平が激しいため、未検出の住居が若干存在した可能性は十分あるが、残存する住居址の床面レベルが近似することから、さほどかけ離れた軒数ではないと思われる。

調査を実施した6軒の住居址の平面形態は全て円形で規模にはばらつきがあるが、その構造は中央穴を挟んで2本の柱穴が掘られている点が共通している。

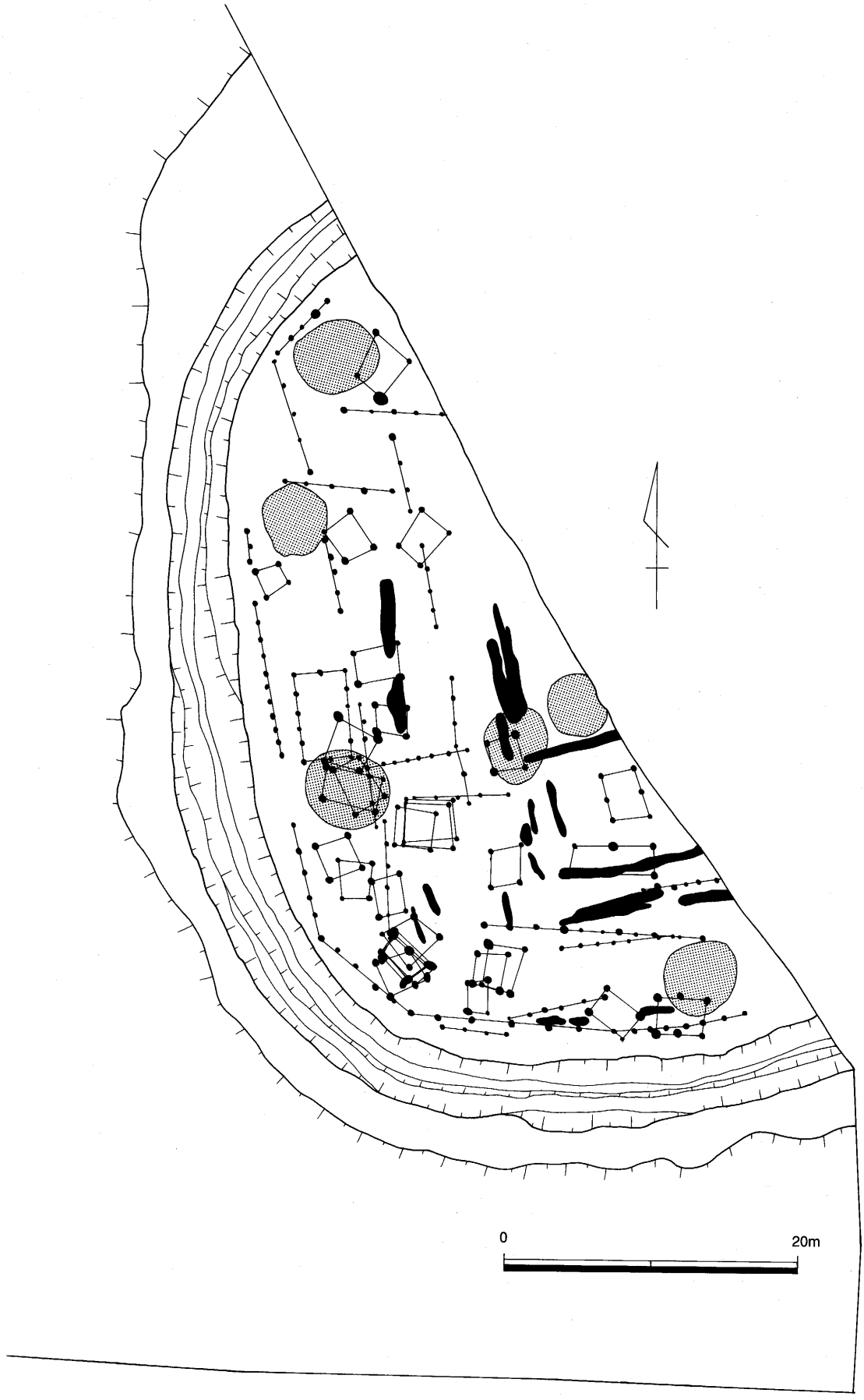
このように円形の平面形態を呈して、中央穴を挟む2本の柱穴を有す構造の住居は、一般的に「松菊里型住居」と呼ばれており、県南部高梁川流域では総社市の窪木遺跡(4)、南溝手遺跡で弥生前期～後期の住居址の調査例がある。

本遺跡の住居址の内、ＳＨ01と03には中央穴を挟む柱穴以外に、床面上で4本の主柱穴が検出されている。しかしながら、住居址の覆土が遺存していないことから、建物が重複した可能性を検証できず、住居に伴わない可能性もある。

仮に伴わないとすると、少なくとも中央穴の構造が異なるＳＨ02以外の5軒の住居は同じ構造ということになり、重複関係もないことと、土壙・建物に切られている点も5軒に共通することから、同時期に存在したと考えて大過ないと思われる。

本遺跡で今回確認された「松菊里型住居」については、特徴的な構造とその原型を朝鮮半島に求める視点から、調査例数の割合に較べて注目されることが多い。しかしながら、県内に限っても通常の形態の住居に較べると調査例は非常に僅少である。時期的な傾向も詳細な構造・機能に関しても一様ではなく不明な点も多く、現時点でその性格に言及し得ず、さらなる調査例の増加を待ちたい。

また、当初、石器の製作滓が比較的多く出土したＳＨ02については、石器製作工房的な機能も想定した。だが、環濠集落内では製作滓がほぼ全面に散布していることから、建物を含めて石器製作は集落内の随所で日常的に行われていたとみられる。このため、ＳＨ02のみを工房と積極的に見做すことが可能な理由もないため、その可能性を指摘するにとどめたい。



第238図　集落内住居址・柵列・溝状土壙配置図（S＝1/400）

住居址の時期は、遺存状態が良好でないことから、直接住居址に伴う遺物が少なく(5)、明確にできないが、重複関係からみて本遺跡の環濠集落が形成された初期段階に存在したことは確実である。

4）建物・土壙・柵列について

今回の環濠集落内で検出した掘立柱建物は30棟近くを数えるが、これらは調査中に柱痕跡を確認できた柱穴をもとに配置を推測したものであり、その他に削平のため柱痕跡が明瞭でないものも含めると、実数はさらに増加すると思われる。

建物の規模は1間×1間のものが大半であり、総柱の倉庫となるものは認められない。

その配置は大別して柵列と同じ方向で列に沿うものと、不規則な方向で柵列と重複するものがあり、後者の例の割合が多い。

この配置の相違は時期差を示すものと考えられ、後述する溝状土壙等の重複関係からみると、柵列の配置に合致する一群が後出と思われる。

またSB07のみであるが、ほぼ同一の位置に柱穴の建て替えがみられることから、特別な用途の建物であった可能性も考えられる。また、その場合には位置的に環濠の淵辺に近く、柱穴の深さも表土を加算すると1m以上と推定できることから、櫓状の建物の可能性も想定できよう。

その他の建物については、調査の所見からその機能・性格を窺わせるものはないが、住居としてだけではなく、先述のように石器の製作工房も存在したことは石器滓の散布から十分想定できる。

柵列は大半が浅いものが多く、建物よりさらに多くが削平により消失したみられ、同一方向で等間隔であることを目安にその配列を推定した。

その配置（第238図）をみると環濠に沿う形で巡るものと、集落内を規則的に区画するものに大別できることが明確に認識できる。

環濠に沿う列は、自然崩落した環濠淵辺斜面部の柱穴群の存在を考慮すれば、本来の環濠よりかなり内側に巡らされていたことになり、環濠と一体になった防御施設という要素は薄い。

この点は途中で途切れる部分が存在することや、強固とは程遠いような非常に細い柱材が用いられていることからみても肯定できよう。

一方、集落内を区画する柵列は溝状土壙と同じ方向に配されている点が注目できる。

特に、掘り直された溝状土壙に平行して柵列も建て直されたとみられる箇所もあり、柵列と溝状土壙が区画という目的で同時に存在したことを窺わせる。

溝状土壙の埋土は人為的な埋め戻しとみられる土層断面もあり、最終的には生活廃棄物を含む集落内の表土で埋まっていることから、常時、開口した状態であったとみられる。その正確な組み合わせと区画した範囲は不明ながら、配置（第238図）から推定すると、二時期にわたる方形に区画された空間が存在したと考えられる。

このような柵と溝状土壙で区画した範囲の中に、いかなる遺構が存在したかは今回の調査では確認できなかったが、防御という性格が認められない円形の環濠で区画された集落内に、さらに方形の区画が存在し、その段階に住居が存在していないことは確実である。

このことについては、類例の乏しい現時点では、祭祀も含めた特別の集落(6)の可能性としか浅学な筆者には指摘できないが、将来さらなる調査例の増加をみたとき再考したい問題であると考えている。

以上、多分に事実報告の繰り返しと、推測の域をでない考察に終始し、再検討を要する課題が多い。寛容なる御叱正、御教示を賜りたいと願う次第である。（武田）

註（1）杉山一雄「清水谷遺跡ほか」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』134 岡山県教育委員会　1998

（2）筆者が以前、丘陵部を中心に周辺を踏査した結果と、地域住民からの資料提供等から、弥生後期と古墳時代後期の集落が濃密に存在することが予想される。また、東西方向の尾根稜線上で採集された土器片から、弥生後期の墳墓が複数存在すると考えられる。さらに谷部の斜面では7世紀末葉の箱式石棺も複数が確認されている。中世段階では小字名の「土井」から推定すると小規模な居館、若しくは拠点的な集落が立地したとみられ、現在の清水谷・畑ケ中・土井の各集落を見下ろす山塊頂部に築かれた、「天ケ丸」と呼ばれる小規模な山城に付随する根小屋の可能性も考慮すべきであろう。

（3）瀬戸内沿岸の平野部に於ける、弥生前期の環濠集落遺跡の調査例は多くはないが、環境の規模・立地は当然ながら地形や、近接する同時期の遺跡の状況により形成条件が異なるはずである。また、環濠内部の集落の様相も判明した例がなく、それと連動した環濠自体の埋没状況や性格の検証例もない。このため、現時点では容易な他の調査例との比較は不可能と言わざるを得ない。

ただ、瀬戸内海を挟んだ対岸の、香川県丸亀市の中ノ池遺跡や、志度町の鴨部・川田遺跡で、ほぼ同時期の近似した規模の環濠が調査されており、防御的ではない特別な意味を有する円形の環濠の存在が指摘されている。

なお、このような弥生前期の特殊な環濠の意義については、中ノ池遺跡の調査を担当した元興寺文化財研究所の角南聡一郎氏に懇切丁寧なご教示を頂いた。記して感謝いたします。

（4）「窪木遺跡1・2」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』120・124 岡山県教育委員会　1997・1998年。「南溝手1・2」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』100・107 岡山県教育委員会　1996年。

（5）環濠集落内の遺構からは住居址だけでなく、他の溝状土壙や柱穴からの遺物の出土も少なく、特に遺構に伴う状態で出土したものとなると非常に少ない。これは単に後世の削平だけの問題ではなく、集落内の土器を特に入念に清掃した結果と捉えることもでき、住居の廃絶後に柵列を配するにあたり集落内の整地が行われた可能性もある。ただ、環濠上層と下層の土器の型式変化を集落の時期幅と考えると、下層の土器が住居群に対応し、上層の土器が柵列・建物に対応することになり、土器の出土量や、焼土・炭からみて柵列や溝状土壙に囲まれた集落内での生活があったことになるが、遺構からはそれを裏付けるものはなく、不明である。

また、環濠上層から出土した土器の量は、住居群に伴うという見地に立っても10軒程度の使用量としては多く、いかなる使用形態で用いられたかはやはり不明と言わざるを得ない。

（6）特別な意味を有する集落という点は、その廃絶後にもみられ、弥生後期の水田と溝も土器の出土状態からすると集落の高まりには及んでおらず、適地にもかかわらず他の利用も認められない。このことは集落の跡地が、後期の段階にも開発の対象外となる意味が存在した可能性をも想定させるものであり、集落廃絶時の特異な姿とあわせていずれ再考する必要がある問題と考えている。

第2節　出土土器について

当遺跡からは縄文時代晩期から中世にいたる土器が出土している。これは中世まで断続的に当遺跡が利用されていた遺構の検出状況と一致する。主体となるのは弥生時代前期後半から中期初頭の土器で、ついで弥生時代後期の土器が多く出土した。さて、備中地域における弥生時代前期後半の資料はこれまで決して多いとはいえず、今回の調査により豊富な資料が得られたことは土器編年だけでなく、地域間交流などを考慮していくうえで重要である。今回の報告では主体となる弥生時代前期後半から中期初頭の土器について分類とその傾向を示し、基礎資料の充実をはかることでまとめとかえたい。

当該時期の土器には壷形土器、壷形土器の蓋、甕形土器、甕形土器の蓋、鉢形土器、高杯などがあり（以下、壷、壷の蓋、甕、甕の蓋、鉢と呼称する）、壷、甕が全体の約8割を占める。

蓋形土器（壷）

壷の蓋はつまみを有するものとないものがあり、さらにつまみを有するものはつまみの形状から突起が一つのものと二つのものに分けられる。ここで、突起が一つのつまみを有するものをⅠ類、突起が二つで双角状を呈するものをⅡ類、つまみをもたないものをⅢ類と呼称することとする（第239図）。

なお、Ⅰ・Ⅱ類はそれぞれ中心に孔を穿つもの（a）、穿たないもの（b）が存在する。孔の周縁は若干なれており、ひもなどをとおしていた可能性がある。Ⅲ類は資料数がもっとも少ないが、無文のもの、沈線を施文するもの、無文で穿孔されるものなどバラエティに富んでいる。

壷の蓋はいずれもややいびつで、ミガキによる調整がほどこされているものもあるが、ほとんどのものにユビオサエの痕跡が明瞭に残存している。また、どれも小形で、焼きひずみの著しいものが多い。

壷形土器

壷は大形、小形、あるいは短頸、長頸などバラエティに富んでいるが、このように全体の形状を把握できる資料は少なかった。そこで、口縁形態に着目して分類をし、文様とどのような関係にあるのかをみていきたい。なお、口縁形態の分類については岡山県窪木遺跡の報告の中で平井泰男氏がすでにおこなっており、今回はその分類に準拠した（第241図）。それによると、壷の口縁はA：頸部から直接短く屈曲するもの、B：屈曲した口縁部が外反してのびるもの、C：直線的な頸部が形成されたもの、D：頸部が長くのび、口縁部が大きく外反するものの4つに分類できる。

また、文様をみてみると沈線のみのもの、沈線と刺突文を施すもの、突帯を有するもの、突帯と沈線を有するものがある。文様が沈線のみのものはAからD類まですべての口縁形態と対応している。A類には突帯を有するものがなく、BからD類には突帯を有するものが対応する。とくに突帯を有するもののなかでも、複数の突帯を有したり、横位だけでなく縦位の突帯を有したり、装飾的雰囲気の強いものほど対応する口縁形態はD類に限られてくる傾向にある。

さて、突帯も刻目の有無や刻目を施す工具によって分類が可能であるし、文様の施文箇所についても口唇部、頸部、胴部のどこに、どのような組み合わせで施すのかを考慮することが必要であろう。今回出土した資料は破片が多く、口縁部から胴部にかけて一連の文様の組み合わせを検討できる資料は少なく、口縁部から頸部までの文様について述べた。文様に関しては従来からいわれているように、簡素なものからより装飾的な方向へ、沈線から突帯へ移行し、当遺跡はその過渡期に位置しており、遺物の観察からその変化は非常に緩やかで漸移的なものであったと推測される。

文様を施さない壷も出土した。これらはA・B類に対応するものが多かったが、口縁部のみ残存し

Ⅰ類：つまみを有するもの

a：中心の孔・有
b：中心の孔・無

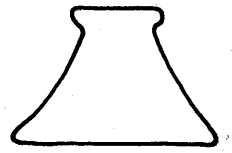
Ⅱ類：双角状のつまみを有するもの

a：中心の孔・有
b：中心の孔・無

Ⅲ類：つまみをもたないもの

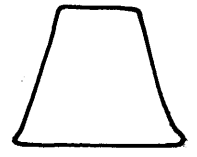
第239図　蓋形土器（壷）の分類

Ⅰ類：つまみ部がくびれるもの



a：つまみ上面がくぼむもの
b：つまみ上面が平坦なもの

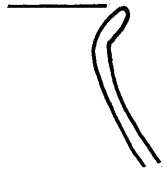
Ⅱ類：つまみ部がくびれないもの



a：つまみ上面がくぼむもの
b：つまみ上面が平坦なもの

第240図　蓋形土器（甕）の分類

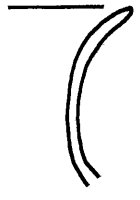
A類：頸部から直接短く屈曲するもの



B類：屈曲した口縁部が外反してのびるもの

C類：直線的な頸部が形成されたもの

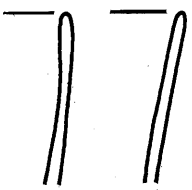
D類：頸部が長くのび、口縁部が大きく外反するもの



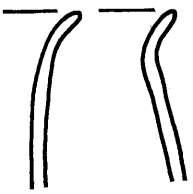
文様 ＼ 口縁形態	沈線のみ	沈線＋刺突文	突帯	突帯＋沈線
A類	○			
B類	○	○	○	
C類	○		○	
D類	○		○	○

第241図　壷形土器口縁形態の分類及び文様相関図

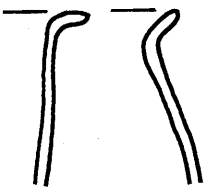
A類：直口ないし内湾するもの



B類：ゆるやかに外反し、如意状を呈するもの



C類：直角近く折れ曲がるもの



D類：口縁端部に断面三角形ないし蒲鉾形の突帯を有するもの

文様／口縁形態	有文					無文
	口唇部のみ	ヘラ描き沈線 1～8条	ヘラ描き沈線 9条以上	半載竹管状工具による	櫛描き沈線	
A類		○				
B類	○	○	○	○	○	○
C類	○	○	○	○		○
D類	○	○	○		○	○

第242図　甕形土器口縁形態の分類及び文様相関図

ている資料では頸・胴部に文様が施文されている可能性がある。

蓋形土器（甕）

甕の蓋は多くのものが破片で出土しているため、全体の形状を把握できる資料は少ない。さて、つまみの形状に着目してみると、つまみ部がくびれるものとくびれないものがある。ここでは前者をⅠ類、後者をⅡ類とした（第240図）。さらにこれらはつまみの上面がくぼむもの（ａ）と平坦なもの（ｂ）にそれぞれ分けることができる。Ⅰ類はくびれ部分に明瞭なユビオサエが残存する。総じて、甕の蓋は内外面にミガキをほどこし、入念に仕上げているものが多く、調整の仕方が壷の蓋と対照的である。また、内面周縁にススが付着する資料が多くみられた。

甕形土器

甕も壷と同様に口縁形態と文様の関係についてみていきたい。口縁形態の分類は岡山県窪木遺跡の報文中で平井泰男氏がおこなった分類を踏襲し、一部改変した（第242図）。甕の口縁はＡ：直口ないし内湾するもの、Ｂ：ゆるやかに外反し、如意状を呈するもの、Ｃ：直角近く折れ曲がるもの、Ｄ：口縁端部に断面三角形ないし蒲鉾形の突帯を有するものの４つに分類できる。

また、文様をもつものともたないものがあり、前者を有文、後者を無文とする。文様は口唇部、口縁下部に施文されており、おもに口縁下部の沈線に着目して述べていきたい。口縁下部に施される文様は横位の沈線がほとんどで、それに組み合わせて、刻目や刺突文が施される。ヘラ描き沈線は1条から8条まで施したものが有文全体の約７割を占める。とくに4条から8条のヘラ描き沈線を施すものが集中的に多く出土している。また、横位の沈線に組み合わせて、ヘラのような鋭利な工具や竹管状工具により刺突文が施されるが、これは8条以上の沈線を施すものに限られている。また、半載竹管状工具によって沈線が施される資料もみうけられた。

無文のものは有文のものと比較しておよそ３：７の割合で出土した。口縁形態はＢからＤ類が出土し、Ｃ類のなかには弥生時代中期に位置付けられる資料が混じっていると考えられる。これまで、無文の甕が編年学上位置付けられることは少なく、在地の有文の土器、朝鮮系無文土器との関係を探っていく必要があろう。

弥生時代前期後半の土器編年はヘラ描き沈線の少条から多条化、さらにヘラ描きから櫛描きへと変化していくことがいわれている。当遺跡からはすべての資料が一定量出土しているが、とくに4条から8条の時期に集中的に使用されていたことが分かる。また、いわゆる「瀬戸内甕」といわれているＤ類についてはもっとも沈線数の少ないもので2条のものがあり、「瀬戸内甕」の成立を考慮するうえで重要な資料であろう。

鉢形土器

鉢には文様をもつものともたないものがあり、文様をもたないものが圧倒的に多い。基本的に口縁形態などは甕に類似しているが、直口するものや片口を有するものなどが存在する。また、ヘラ描き沈線のような文様をもたないものは口縁の屈曲した部分に明瞭なユビオサエの痕跡を残し、それ自体が文様のような役割を果たしていると思われる。

以上、弥生時代前期後半から中期初頭にかけての土器について器種別に分類をおこなった。対象とした資料が一括遺物であるため、今回の分類が併行関係を示すのか、時期差をあらわしているのかの詳細な検討がおこなえなかった。今後の課題として、ほかの遺跡と比較をおこない、これらの資料が編年研究においてどのように位置づけられるのかを検討していきたい。また、無文の甕形土器と有文の甕形土器との関係を探っていくことも課題のひとつである。さらに、今回の報告書では弥生時代後期出土の土器についてほとんどふれなかったが、当遺跡出土の後期の土器はいずれも細かく精製された胎土で、角閃石や雲母を含むものも存在している。また、壷形土器や甕形土器、鉢形土器など日常的に使用する土器の外面に丹塗りを施している点も注目され、安易に祭祀的な道具として位置付けるには問題が残る。

今回の報告書では基礎資料の充実につとめたが、筆者の力量不足ですべてを網羅しているとは思えない。多くの方のご叱正を乞いたい。　（藤江）

参考・引用文献

・高橋護「入門講座・弥生土器－山陽１－」『考古学ジャーナル』No173　ニュー・サイエンス社　1980年。
・高橋護「入門講座・弥生土器－山陽２－」『考古学ジャーナル』No175　ニュー・サイエンス社　1980年。
・高橋護「入門講座・弥生土器－山陽３－」『考古学ジャーナル』No179　ニュー・サイエンス社　1980年。
・高橋護「入門講座・弥生土器－山陽４－」『考古学ジャーナル』No181　ニュー・サイエンス社　1980年。
・藤田憲司「中部瀬戸内地域の前期弥生土器の様相」『倉敷考古館研究集報』第17号　1982年。
・高畑知功「備前地域」『弥生時代の様式と編年』山陽・山陰編　木耳社　1992年。
・正岡睦夫「備中地域」『弥生時代の様式と編年』山陽・山陰編　木耳社　1992年。
・秋山浩三「弥生前期土器」『吉備の考古学的研究』上巻　1992年。
・平井泰男「第3節　弥生時代前期の土器について」『窪木遺跡１』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告書120　岡山県教育委員会　1997年。

第３節　出土石器について

当遺跡から出土した石器は製品・未製品あわせて716点で、内訳は打製石鏃255点、石槍2点、磨製石庖丁50点、打製石庖丁4点、穂摘具2点、石鎌4点、石匙13点、スクレイパー75点、楔形石器173点、ハンマー8点、磨製石斧30点、打製石斧2点、石錐70点、砥石5点、敲石10点、磨石1点、石皿３点、台石1点、石製紡錘車2点、その他６点である。そのほかサヌカイトの残核や使用痕剥片が出土し、またメノウ、チャートの剥片もわずかに出土した。

打製石鏃は表採もあわせて255点出土し、すべてサヌカイト製である。岡山県教育委員会の分類に従い、ⅠからⅥ類に分類した(1)（第２表）。第243図はⅠからⅥ類および未製品の出土の割合をグラフ化したもの(2)で、これをみると、Ⅱ類の占める割合が最も多く、次いで未製品、Ⅴ類と続くことが分かる。また、第244図は出土した打製石鏃で完形のもの（未製品は除く）78点について、その長幅比をグラフ化したものである。グラフから打製石鏃の大きさは幅1～２㎝、長さ1.3～2.3㎝に集中することがみてとれる。Ⅱ類が多く、小型のものが多い傾向は県内の同時期の遺跡から出土した打製石鏃の傾向と一致する。

磨製石庖丁は50点出土し、ほぼ完形の4点を除いて、ほとんどのものが全体の形状が判別しがたいほどの破片で、形態分類することはできなかった。使用される石材は頁岩が26点と、最も多く、今回出土した磨製石庖丁の約半分を占める（第245図）。ついで砂岩あるいは砂質片岩、泥質片岩などが使用され、頁岩も含めていずれも高梁川上流域で産出する石材である。打製石庖丁は4点出土し、すべてサヌカイト製である。また、小形で厚みのない頁岩の自然礫の側縁を打ち掻いて、刃部を形成したものを穂摘具とし、2点出土している。石鎌は4点出土し、サヌカイトを石材とする打製のもので、刃部は内湾する。

石匙には横形のもの、縦形のものがあり、さらに横形のものはつまみが上につくものと横につくものに分けられる。岡山県教育委員会の分類に準拠し(3)、横形のもので、上につまみがつくものをⅠ類、横につくものをⅡ類、縦形のものをⅢ類とする。出土した石匙は13点で、Ⅰ類が5点、Ⅱ類が2点、Ⅲ類が4点、不明が2点である。いずれも入念に成形されており、Ⅰ類の中には使用による磨耗の痕跡がみとめられるものも含まれている。

サヌカイト製の剥片の一側縁ないし、周縁に細かい調整を施し、刃部を形成している不定形な石器をすべてスクレイパーとして分類した。スクレイパーは総数75点出土し、当遺跡出土石器の約1割を占める。

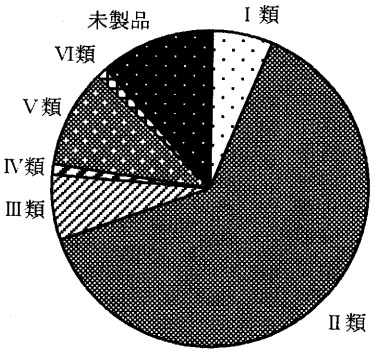
楔形石器は総数173点出土し、使用石材はサヌカイトとメノウで、後者は１点のみ出土した。今回出土した楔形石器には大きさが大小あり、また形態も不定形であるが、両側縁がはつれ、上下に潰れが生じている典型的なものがもっとも多い。

サヌカイト、流紋岩、チャートなどに剥離調整を加えた石塊の一側縁ないし周縁に、使用によると思われる潰れが生じているものをハンマーとした。今回出土したのは8点で、いずれも不定形ではあるが、使用の際に持ちやすいように調整が加えられている。

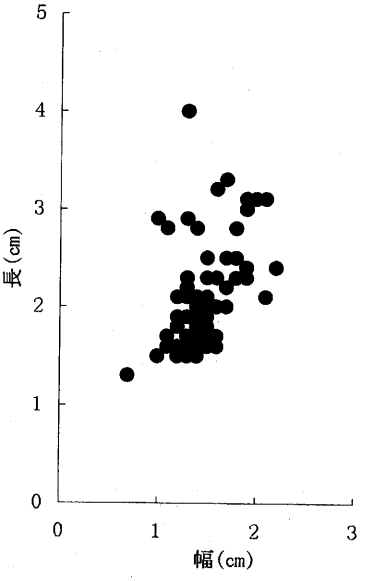
石斧には磨製のものと打製のものがある。磨製石斧は縄文時代からの形態を踏襲するものと大陸系磨製石器の両者が混在している状況である。とくに後者について太形蛤刃石斧、扁平片刃石斧、柱状片刃石斧がそろって出土しており、それとともに縄文時代の形態の系譜をひく磨製石斧が出土するこ

第２表　打製石鏃出土点数

分類	出土点数
Ⅰ類	14
Ⅱ類	142
Ⅲ類	15
Ⅳ類	3
Ⅴ類	22
Ⅵ類	3
未製品	26
その他	30
合計	255



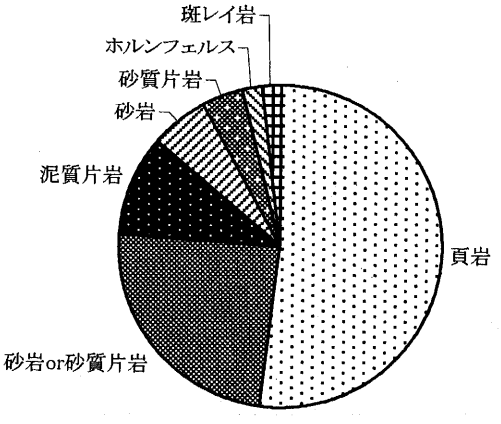
第243図　打製石鏃出土の割合



第244図　打製石鏃長幅比

第３表　磨製石庖丁使用石材別出土点数

石材	出土点数
頁岩	26
砂岩or砂質片岩	12
泥質片岩	5
砂岩	3
砂質片岩	2
ホルンフェルス	1
斑レイ岩	1
合計	50



第245図　磨製石庖丁使用石材の割合

とは、当時の備中地域の人々がどのように大陸文化を受容し、展開させていったのかを考慮する上で視点の一つとなろう。

石錐は総数70点出土し、錐部の先端が使用により磨耗している資料もみられた。今回出土した石錐は形態から次の3種類に大別できる。頭部と錐部が明瞭なもの（Ⅰ類）、頭部と錐部の境がなく棒状を呈するもの（Ⅱ類）、涙滴形ないし多角柱状形を呈するもの（Ⅲ類）で、出土数はⅠ類が26点と最も多く、Ⅱ類が17点、Ⅲ類が19点である。

敲石は全部で10点出土しているが、その中には磨石から転用したもの、磨製石斧の破損品から転用したものが含まれる。使用石材は花崗岩、ヒン岩、流紋岩、ハンレイ岩などである。磨製石斧から転用したもの以外は自然円礫を使用しており、周縁ないし平らな面の中央部に顕著な敲痕が残るものが多い。磨石はハンレイ岩の自然円礫を使用したものが1点出土しており、平らな面に使用による滑らか

な面を有する。

石皿は安山岩製、花崗岩製のものがあわせて3点出土した。使用による滑らかな凹面を有するが、いずれも破片のため、全体の大きさや形状を推測することは困難である。また、竪穴住居址から出土した台石は縁辺を敲打により整形し、主面、側縁が使用によりなれている。

石製紡錘車は礫岩製、泥質片岩製のものが1点ずつ出土した。いずれも両面を入念に磨き、滑らかに整えられている。また、穿孔の方法には2種類あり、敲打により穿つものと錐などによる回転穿孔のものがある。この2種類の方法は磨製石庖丁などの穿孔方法と共通する。

以上の他、ホルンフェルス製の石剣が1点出土したが、破片のため全体の形状を推測することは困難である。研磨した部分がわずかに残存し、刃部と柄部の境にくびれを有する資料である。さらに装飾品として緑色凝灰岩製の管玉および滑石製勾玉が1点ずつ出土した。また、緑色凝灰岩製管玉の未製品と思われる剥片が1点出土していること、メノウ製の剥片がわずかにではあるが検出されていることから、当遺跡内あるいはこの近辺において玉造に関わる遺構が存在していた可能性がある。

さて、器種別に当遺跡出土石器について述べてきた。これらをまとめると、当遺跡出土石器の特徴は打製石鏃、石匙、磨製石斧などにみられるような縄文時代の系譜をひく石器群が存在すると同時に、大陸系磨製石器である磨製石庖丁、太形蛤刃石斧、扁平片刃石斧、柱状片刃石斧などのいわゆる弥生時代特有の石器群が混在する点にある。この状況は瀬戸内地域の同時期の遺跡に共通する傾向で、当該地域の人々が弥生文化を選択的に受容した結果であると思われる。

今後の課題として、備中地域において磨製石庖丁などの石材の供給がどのようにおこなわれていたのか、また弥生文化の受容と展開について石器が果たした役割を遺跡間において比較検討することがあげられよう。　（藤江）

註（1）分類の模式図等については凡例を参照されたい。また、第2表の「その他」は欠損などにより、全体の形状が不明のものである。

（2）グラフの作成にはⅠからⅥ類および未製品の225点を用い、欠損などにより分類できなかった「その他」30点は含んでいない。

（3）平井泰男編『南溝手遺跡2』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告107　岡山県教育委員会　1996年。

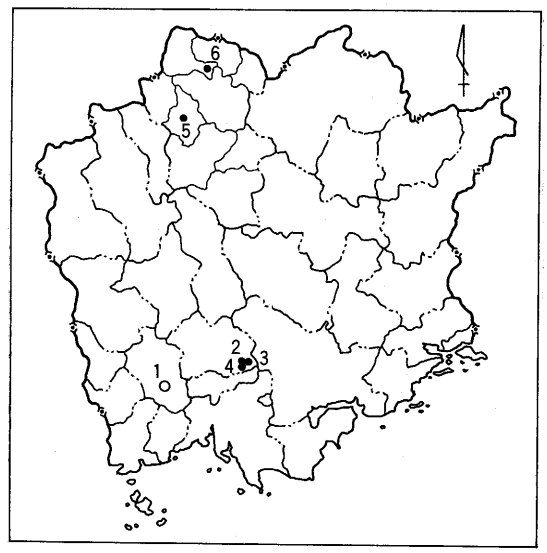
参考文献

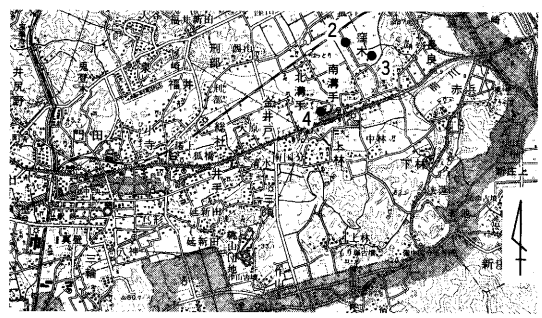
・平井典子「第7節　石器」『百間川兼基・今谷遺跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告51　岡山県教育委員会・建設省岡山河川工事事務所　1982年。
・金関恕・佐原眞編『弥生文化の研究　道具と技術Ⅰ』5　雄山閣　1985年。
・平井典子「中・四国における弥生時代の石器」『考古学ジャーナル』No290　ニュー・サイエンス社　1988年。
・平井勝『弥生時代の石器』考古学ライブラリー64　ニュー・サイエンス社　1991年。
・前山精明「縄文時代の石器」『季刊考古学』第35号　雄山閣　1991年。
・石川日出志「弥生時代の石器」『季刊考古学』第35号　雄山閣　1991年。
・久保恵里子「第2節　南溝手遺跡・窪木遺跡出土の石器・石製品」『窪木遺跡2』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告124　岡山県教育委員会　1998年。

玉作関係遺物について

環濠上層から出土した**S266**（第53図）は、暗緑灰色を呈するやや硬質の緑色凝灰岩製で、施溝分割技法による管玉未製品と考えられる。他にもメノウ製のフレイク11点、チャート製のチップ2点が出土している。また、1997年度に実施された岡山県古代吉備文化財センターによる確認調査(1)で出土したメノウ製チップの中には、京都府奈具岡遺跡（第248図）(2)で出土している小型錐状石器に類似しているものがみとめられる。同遺跡では穿孔具と考えられるメノウ製の石針も製作されており、当遺跡で出土したメノウ製チップが玉作りに関連したものである可能性は非常に高いと考えられる。

岡山県下では現在までのところ4遺跡で玉作りが確認されており（第246図）、真庭郡川上村下郷原和田遺跡(3)で住居址の一部から碧玉片が多く出土しており、玉作遺跡の可能性も指摘されている。玉作遺跡は原石産出地に近い県境付近と、総社市周辺地域で確認されている。





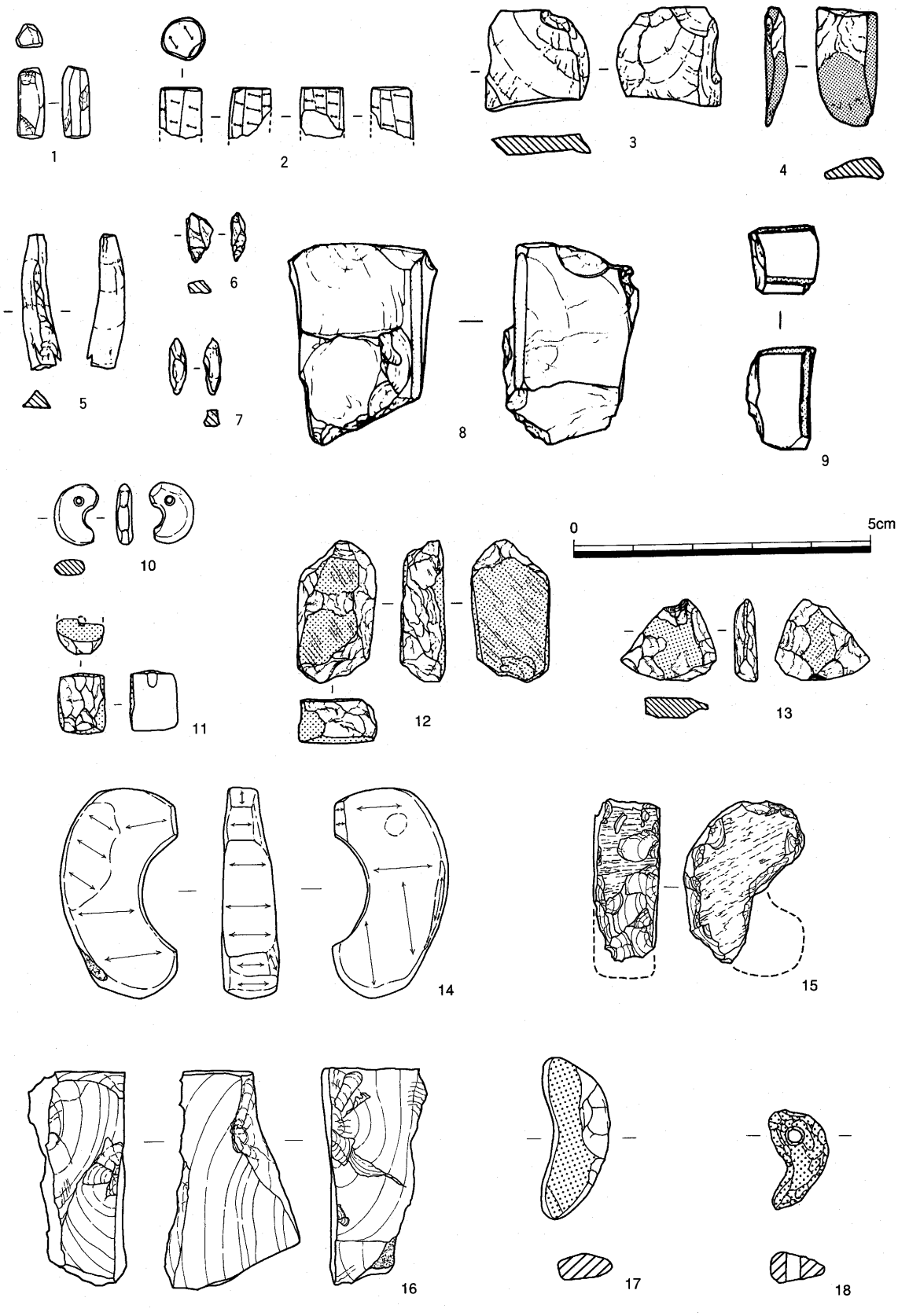
1．清水谷遺跡　2．南溝手遺跡・窪木遺跡　3．窪木宮遺跡
4．栢寺廃寺　5．堂の前遺跡　6．下郷原和田遺跡

第246図　玉作遺跡分布図（S＝1/10,000）

朝鮮半島に起源をもつ、小型細身の管玉製作の開始は、現在までのところ弥生時代前期中葉から後葉の鳥取県東伯郡羽合町長瀬高浜遺跡(4)と岡山県総社市南溝手遺跡(5)とで知られている。両遺跡では、施溝分割技法を用いず、打割技法によって柱状未製品を作出している（第249図）。これらの遺跡につぐ、弥生時代前期後半の島根県松江市西川津遺跡(6)では、施溝分割技法によって製作された板状品から管玉数個分の長さの棒状品を作出し、さらに主軸に直交させて施溝分割し、管玉を製作している。これ以降、弥生時代前期から中期にかけての玉作遺跡では、管玉製作に施溝分割技法が用いられており、導入期の管玉製作には施溝分割技法が用いられていないことが指摘できる。この施溝分割技法も朝鮮半島に起源をもつと考えられ、小型細身の管玉製作の開始にやや遅れて導入されたと考えられる。

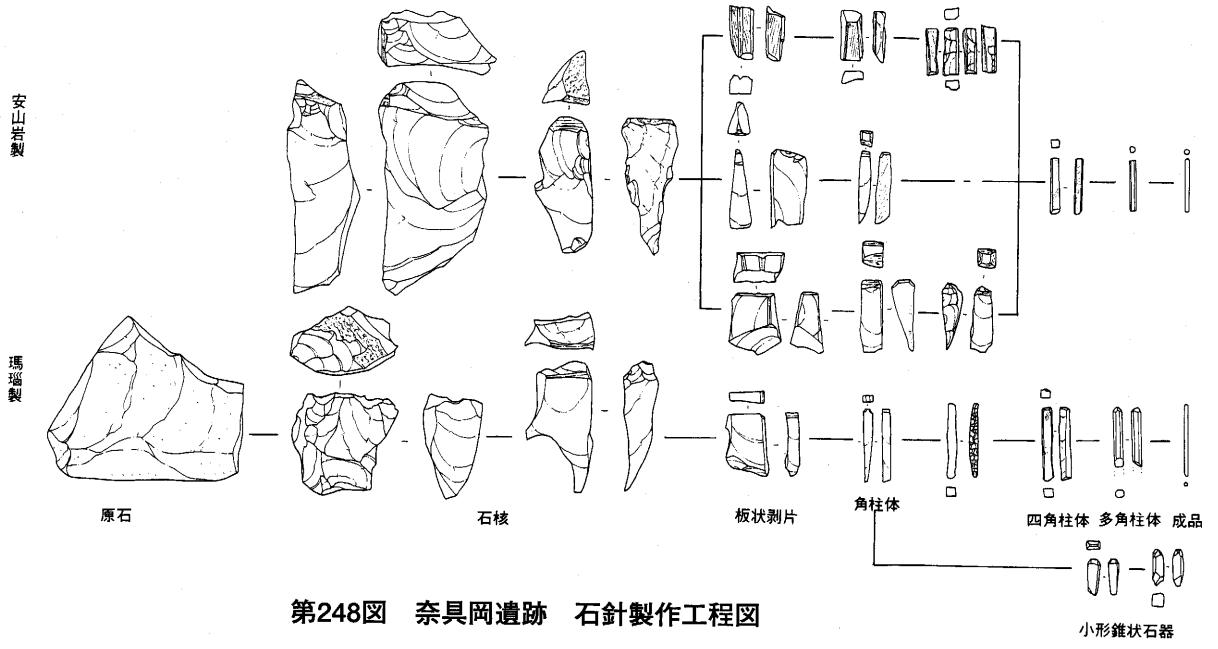
また、南溝手遺跡では、弥生時代中期·後期の溝から施溝分割技法で製作された碧玉製の角柱体未製品（第247図8・9）も出土している。隣接する窪木遺跡(7)では、弥生時代中期前葉から後葉の竪穴住居31から緑色安山岩か緑色頁岩製の勾玉・短い管玉の未製品が出土しており（第247図10～13）、ここでは打割技法が用いられている。また近隣の窪木宮後遺跡(8)で出土した硬玉製勾玉未製品（第247図14）には、平坦面を作るための施溝分割が加えられている。さらに栢寺廃寺跡(9)の包含層から出土した碧玉製勾玉未製品（第247図15）は打割技法によって成形されており、弥生時代中期以降に関しては、製作する玉の材質・種類によって製作技法が使い分けられていた可能性が考えられる。

以上のことから清水谷遺跡の緑色凝灰岩製板状未製品は、日本列島における施溝分割技法による小型細身の管玉製作の開始期に遡るもので、こうした技術体系の受容と、原石の搬入、そして環濠集落

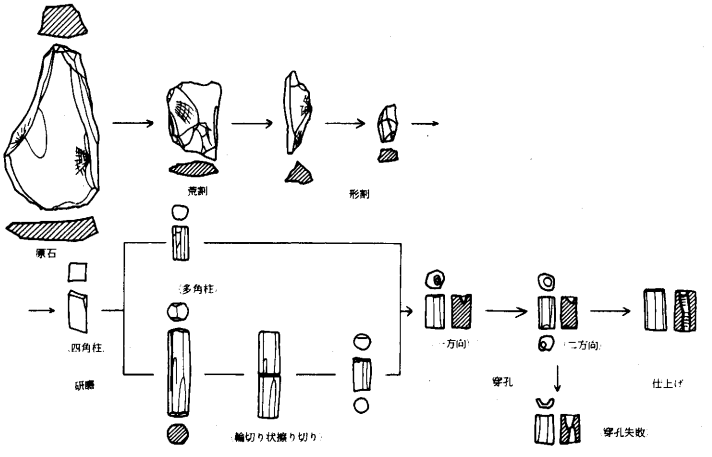


1～7　南溝手遺跡　竪穴住居２　　8　南溝手遺跡　溝133　　9　南溝手遺跡　溝158
10～13　窪木遺跡　竪穴住居31　　14　窪木宮後遺跡　　15　栢寺廃寺　　16～18　堂の前遺跡

第247図　岡山県下出土玉作関係遺物実測図（Ｓ＝1/1）



第248図　奈具岡遺跡　石針製作工程図



第249図　長瀬高浜遺跡　管玉製作工程模式図

内で小規模ながら玉生産がおこなわれていたことが、環濠の性格を考える上で非常に重要な要素になると考えられる。　（高橋）

註（1）杉山一雄編『清水谷遺跡ほか』岡山県埋蔵文化財調査報告134　岡山県教育委員会　1998年。
（2）田代弘ほか編「丹後国営農地開発事業（東部・西部地区）関係遺跡　昭和63年度・平成3・4年度発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報』第55冊－1　1993年。
（3）下澤公明ほか編「中国横断自動車道建設に伴う発掘調査」『岡山県埋蔵文化財調査報告』20　1990年。
（4）清水真一ほか『長瀬高浜遺跡発掘調査報告書Ⅴ』鳥取県教育文化財団　1983年。
（5）平井泰男ほか編『南溝手遺跡1』岡山県埋蔵文化財調査報告100　1995年。
（6）内田律雄編『西川津遺跡発掘調査報告書Ⅴ』　1989年。
（7）平井泰男ほか編『窪木遺跡2』岡山県埋蔵文化財調査報告124　1998年。
（8）『総社市埋蔵文化財調査年報』1　総社市教育委員会　1991年。
（9）河村好光「ヒスイ勾玉の誕生」『考古学研究』第47巻3号　2000年。
　　また、河村好光氏に教示を受けた。
(10)『総社市埋蔵文化財調査年報』2　総社市教育委員会　1992年。

付載１．清水谷遺跡の弥生時代前期の古環境と植物利用

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

清水谷遺跡では、弥生時代前期後半の自然河道や環濠集落、水田跡等が検出されている。このうち、環濠内や水田のあぜには杭列が残存しており、また住居跡の柱穴内には柱材の一部が炭化・残存したとみられる炭化材が検出された。また、自然河道や環濠からは、種実や葉などの植物遺体が多数集積した層が確認されている。

今回の分析調査では、弥生時代前期後半の遺構や植物遺体濃集層について木材や種実・葉の同定を行うとともに、微化石（花粉・珪藻・植物珪酸体）分析を行い、堆積環境、古植生、栽培植物などに関する資料を得る。

１．試料

（１）種実

種実試料は、試料番号１・２・４・６の４点である。全点について種実同定を行う。

（２）木材

木材試料は、試料番号10・11・13の３点である。このうち、試料番号13は炭化材であった。全点について樹種同定を行う。

（３）土壌

土壌試料は、試料番号12の１点である。珪藻分析、花粉分析、植物珪酸体分析を行う。また、水洗選別を行い、得られた種子・葉・木材の同定を行う。

２．分析方法

（１）珪藻分析

試料を湿重で７g前後秤量し、過酸化水素水、塩酸処理、自然沈降法の順に物理化学処理を施して、珪藻化石を濃集する。検鏡に適する濃度まで希釈した後、カバーガラス上に滴下し乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入して、永久プレパラートを作製する。検鏡は、光学顕微鏡で油浸600倍あるいは1000倍で行い、メカニカルステージで任意の測線に沿って走査し、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に、200個体以上同定・計数する。種の同定は、Krammer, K & Lange-Bertalot, H.（1986、1988、1991a、1991b）、Krammer, K.（1992）、Reichardt, E.（1995）、Lange-Bertalot, H. & Metzeltin, D.（1996）、Lange-Bertalot, H. *et al.*（1996）、Metzeltin, D. & Witkowski, A.（1996）などを用いる。

同定結果は、汽水生種、淡水～汽水生種、淡水生種順に並べ、その中の各種類はアルファベット順に並べた一覧表で示す。なお、淡水生種についてはさらに細かく生態区分し、塩分・水素イオン濃度（pH）・流水に対する適応能についても示す。また、環境指標種については、その内容を示す。そして、産出個体数200個体以上の試料については、産出率２％以上の主要な種類について、主要珪藻化石群集の分布図を作成する。また、産出した化石が現地性の化石か異地性の化石か判断する目安として、完形殻の出現率を求める。堆積環境の解析にあたっては、汽水生種については小杉（1988）、淡水生種については安藤（1990）、陸生珪藻については伊藤・堀内（1991）、汚濁耐性については、Asai,

K. & Watanabe, T.（1995）の環境指標種を参考とする。

（2）花粉分析

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛：比重2.2）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス処理の順に物理・化学的処理を施し、花粉化石を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作製し、光学顕微鏡下でプレパラート全面を操作し、出現する全ての種類について同定・計数する。

結果は、木本花粉は木本花粉総数、草本花粉・シダ類胞子は総花粉・胞子数から不明花粉を除いたものを基数とした百分率で出現率を算出し、図示する。図表中で複数の種類をハイフォンで結んだものは、種類間の区別が困難なものである。

（3）植物珪酸体分析

湿重5g前後の試料について過酸化水素水・塩酸処理、超音波処理（70W，250KHz, 1分間）、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム，比重2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これを検鏡し易い濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。

400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）を、近藤・佐瀬（1986）の分類に基づいて同定・計数する。

結果は、検出された種類とその個数の一覧表で示す。また、検出された植物珪酸体の出現傾向から古植生について検討するために、植物珪酸体群集図を作成した。各種類の出現率は、短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体の珪酸体毎に、それぞれの総数を基数とする百分率で求めた。

（4）樹種同定

剃刀の刃を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラール（抱水クロラール，アラビアゴム粉末，グリセリン，蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で観察・同定する。

炭化材は、3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。

（5）種実同定

試料番号1～6に関しては水洗済であるため、そのまま双眼実体顕微鏡で観察し、種類を同定した。なお、試料番号12は、葉や木材の抽出もあわせて行うため、次のような処理を実施した。

（6）水洗選別・同定

試料を数%の水酸化ナトリウム水溶液に浸して半日程度放置し、試料の泥化を行う。試料を葉理に沿ってはがし、葉があれば泥化された試料の表面を注意深く水洗して泥からはがす。葉がはがれない場合は、数%の水酸化ナトリウム水溶液に再びつけて泥化させる。この作業を何回か繰り返し行い、葉を抽出する。葉を抽出する際に出た泥などの残渣をすべて0.5㎜の篩を通して回収する。この中から大型の木材を抽出する。0.5㎜の篩に残った試料を数%の水酸化ナトリウム水溶液に浸して半日程度放置し、再度0.5㎜の篩を通して残渣を集める。残渣を双眼実体顕微鏡で観察し、種実を抽出する。種実と木材については、上記の方法で同定する。葉は、実体顕微鏡で特徴を観察して種類を同定する。

表1　珪藻分析結果（1）

種類	生態性 塩分	pH	流水	環境指標種	12
Amphora fontinalis Hustedt	Ogh-Meh	al-il	ind		1
Fragilaria brevistriata Grunow	Ogh-Meh	al-il	l-ph	U	1
Achnanthes clevei Grunow	Ogh-ind	al-il	l-ph	T	4
Achnanthes exigua Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	S	1
Achnanthes inflata (Kuetz.)Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	1
Achnanthes japonica H.Kobayasi	Ogh-ind	al-il	r-bi	J,T	15
Achnanthes lanceolata (Breb.)Grunow	Ogh-ind	ind	r-ph	K,T	21
Achnanthes minutissima Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	4
Achnanthes oblongella Ostrup	Ogh-ind	ind	ind	T	1
Achnanthes rostrata Oestrup	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	2
Achnanthes subhudsonis Hustedt	Ogh-ind	ind	r-ph	T	3
Achnanthes spp.	Ogh-unk	unk	unk		3
Actinella brasiliensis Grunow	Ogh-ind	ac-il	l-bi	O	1
Amphora affinis Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	5
Amphora pediculus (Kuetz.)Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	T	5
Caloneis spp.	Ogh-unk	unk	unk		1
Cocconeis neodiminuta Krammer	Ogh-ind	al-il	ind		1
Cocconeis placentula var. lineata (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	5
Cymbella naviculiformis Auerswald	Ogh-ind	ind	ind	O	2
Cymbella silesiaca Bleisch	Ogh-ind	ind	ind	T	3
Cymbella sinuata Gregory	Ogh-ind	ind	r-ph	K,T	7
Cymbella tumida (Breb. ex Kuetz.)V.Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	T	3
Cymbella turgidula Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,T	1
Eunotia bilunaris (Ehr.)Mills	Ogh-hob	ac-il	l-ph		1
Eunotia incisa W.Smith ex Gregory	Ogh-hob	ac-il	ind	O	1
Eunotia pectinalis var. minor (Kuetz.)Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	O	12
Eunotia praerupta var. bidens Grunow	Ogh-hob	ac-il	l-ph	RB,O	1
Eunotia subarcuatoides Noerpel & Lange-Bertalot	Ogh-hob	ac-il	ind		2
Eunotia spp.	Ogh-unk	unk	unk		5
Fragilaria bicapitata A.Mayer	Ogh-hob	ind	l-bi		1
Fragilaria capucina Desmazieres	Ogh-ind	al-il	ind	T	6
Fragilaria capucina var. radians (Kuetz.)Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind		1
Fragilaria ulna (Nitzsch)Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind		1
Fragilaria vaucheriae (Kuetz.)Petersen	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,T	2
Gomphonema acuminatum Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	O	1
Gomphonema angustatum (Kuetz.)Rabenhorst	Ogh-ind	al-il	ind	U	1
Gomphonema clavatum Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	ind		1
Gomphonema clevei Fricke	Ogh-ind	al-bi	r-ph	T	2
Gomphonema gracile Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	l-ph	O,U	2
Gomphonema parvulum Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	19
Gomphonema pumilum (Grun.)Reichardt & Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind		5
Gomphonema quadripunctatum (Oestrup.)Wislouch	Ogh-ind	al-bi	r-ph	K,T	2
Gomphonema truncatum Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	T	1
Gomphonema spp.	Ogh-unk	unk	unk		5
Hantzschia amphioxys (Ehr.)Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA,U	1
Meridion circulae var. constrictum (Ralfs)V.Heurck	Ogh-ind	al-il	r-bi	K,T	1
Navicula angusta Grunow	Ogh-ind	ac-il	ind	T	1
Navicula contenta Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA,T	9
Navicula cryptocephala Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	1
Navicula cryptotenella Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	ind	T	2
Navicula decussis Oestrup	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,U	2
Navicula elginensis (Greg.)Ralfs	Ogh-ind	al-il	ind	O,U	1
Navicula elginensis var. neglecta (Krass.)Patrick	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	1
Navicula ignota Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RB	1
Navicula mobiliensis var. minor Patrick	Ogh-ind	al-il	ind		1
Navicula mutica Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	RA,S	4
Navicula radiosa Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	1
Navicula viridula (Kuetz.)Kuetzing	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,U	1
Nitzschia angustata (W.Smith)Cleve	Ogh-ind	al-il	l-bi		1
Nitzschia brevissima Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RB,U	1

表１　珪藻分析結果（２）

種　　類	生態性 塩分	pH	流水	環境指標種	12
Nitzschia spp.	Ogh-unk	unk	unk		1
Pinnularia gibba Ehrenberg	Ogh-ind	ac-il	ind	O	2
Pinnularia nodosa Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O	1
Pinnularia obscura Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RA	1
Pinnularia schwabei Krasske	Ogh-ind	ind	ind		1
Pinnularia viridis (Nitz.)Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	O	1
Rhoicosphenia abbreviata (Ag.)Lange-B.	Ogh-hil	al-il	r-ph	K,T	1
Sellaphora americana (Ehr.)Mann	Ogh-ind	al-il	l-ph		1
Sellaphora bacillum (Ehr.)Mann	Ogh-ind	al-il	ind	U	1
Sellaphora laevissima (Kuetz.)Mann	Ogh-ind	ind	ind		1
Sellaphora pupula (Kuetz.)Mereschkowsky	Ogh-ind	ind	ind	S	5
Synedra inaequalis H.Kobayasi	Ogh-ind	al-il	r-bi	J,K,T	3
海水生種合計					0
海水～汽水生種合計					0
汽水生種合計					0
淡水～汽水生種合計					2
淡水生種合計					209
珪藻化石総数					211

凡例

H.R.：塩分濃度に対する適応性
Ogh-Meh　：淡水ー汽水生種
Ogh-hil　：貧塩好塩性種
Ogh-ind　：貧塩不定性種
Ogh-hob　：貧塩嫌塩性種
Ogh-unk　：貧塩不明種

pH：水素イオン濃度に対する適応性
al-bi　：真アルカリ性種
al-il　：好アルカリ性種
ind　：pH不定性種
ac-il　：好酸性種
unk　：pH不明種

C.R.　：流水に対する適応性
l-bi　：真止水性種
l-ph　：好止水性種
ind　：流水不定性種
r-ph　：好流水性種
r-bi　：真流水性種
unk　：流水不明種

環境指標種群

J：上流性河川指標種，K：中～下流性河川指標種，O：沼沢湿地付着生種（以上は安藤，1990）
S：好汚濁性種，U：広域適応性種，T：好清水性種（以上はAsai,K. & Watanabe,T.,1986）
R：陸生珪藻（RA：A群，RB：B群，伊藤・堀内，1991）

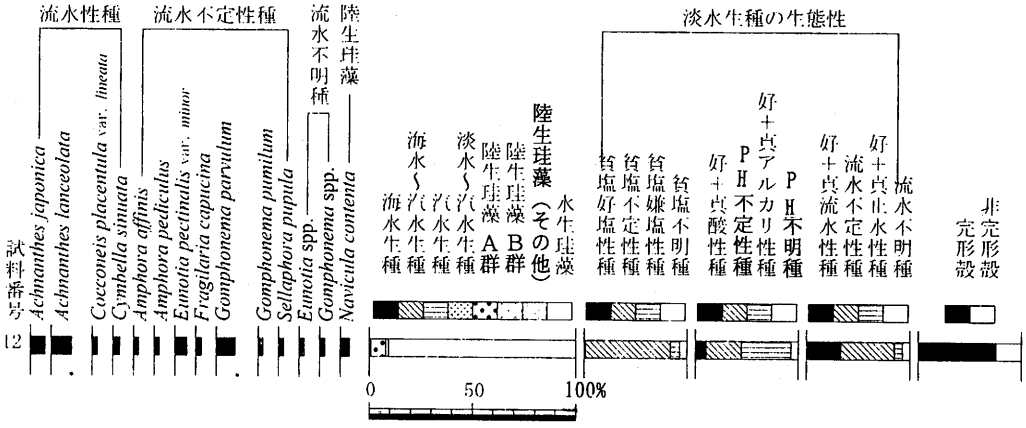


図１　主要珪藻化石群集
淡水生種産出率・各種産出率・完形殻産出率は全体基数、淡水生種の生態性の比率は淡水生種の合計いずれも100個体以上検出された試料について示す。なお、●は２％未満の種類を示す。

３．結果

（１）珪藻分析

結果を表１・図１に示す。産出分類群数は17属72種、完形殻の産出率は約75％である。産出した淡水生種の生態性は、貧塩不定性種（小量の塩分には耐えることができる種）が約90％、pH不定性種

(中性の水域に生育する種) が約35%、真+好アルカリ性種(アルカリ性の水域に生育する種) が約50%、好+真流水性種 (流水域に生育する種) が約35%、流水不定性種 (流水域にも止水域にも生育する種) が約50%を占めることが特徴である。大きく優占する種はなく、流水性種・陸生珪藻など様々な生態性の種が低率で産出する。

(2) 花粉分析

結果を表2・図2に示す。花粉化石群集の特徴は、木本花粉の割合が高い。その中でもアカガシ亜属が多く、エノキ属ームクノキ属、モミ属、ニレ属ーケヤキ属などが検出されている。草本類・シダ類胞子は、サンショウモなどが検出されるものの、種類数、個体数ともに少ない。

(3) 植物珪酸体分析

結果を表3、図3に示す。

試料番号12からは保存状態の悪い植物珪酸体が検出され、表面に多数の小孔 (溶食痕) が認められる。タケ亜科の産出が顕著であり、ヨシ属やウシクサ族がわずかに検出される。

(4) 樹種同定

樹種同定結果を表4に示す。試料番号12中の

表2. 花粉分析結果

種類	試料番号	自然河道
		12
木本花粉		
マキ属		2
モミ属		27
ツガ属		11
トウヒ属		1
マツ属複維管束亜属		11
マツ属 (不明)		10
スギ属		2
イチイ科ーイヌガヤ科ーヒノキ科		1
クルミ属		2
クマシデ属ーアサダ属		7
ブナ属		1
コナラ属コナラ亜属		4
コナラ属アカガシ亜属		85
シイノキ属		4
ニレ属ーケヤキ属		14
エノキ属ームクノキ属		48
キハダ属		1
ツバキ属		6
カキ属		1
草本花粉		
サナエタデ節ーウナギツカミ節		2
バラ科		1
セリ科		1
不明花粉		19
シダ類胞子		
サンショウモ		5
他のシダ類胞子		52
合計		
木本花粉		238
草本花粉		4
不明花粉		16
シダ類胞子		57
総計 (不明を除く)		299

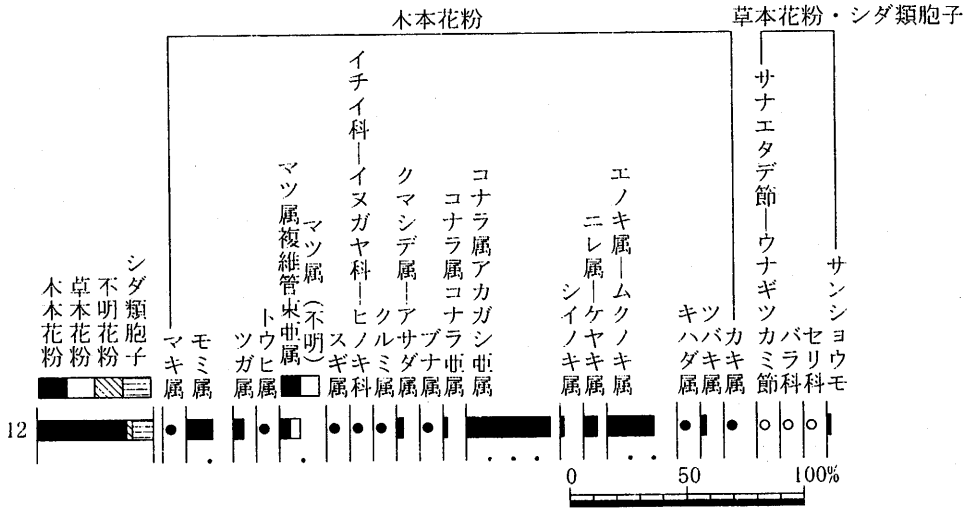


図2 花粉化石群集

出現率は、木本花粉は木本花粉化石総数、草本花粉・シダ類胞子は総数より不明花粉を除く数を基数として百分率で算出した。なお、●○は1%未満を示す。

表 3　植物珪酸体分析結果

種　　類	自然河道
試料番号	12
イネ科葉部短細胞珪酸体	
タケ亜科	207
ヨシ属	3
ウシクサ族ススキ属	4
不明キビ型	4
不明ヒゲシバ型	16
不明ダンチク型	5
イネ科葉身機動細胞珪酸体	
タケ亜科	146
ウシクサ族	10
不明	11
合　　計	
イネ科葉部短細胞珪酸体	239
イネ科葉身機動細胞珪酸体	167
総　計	406

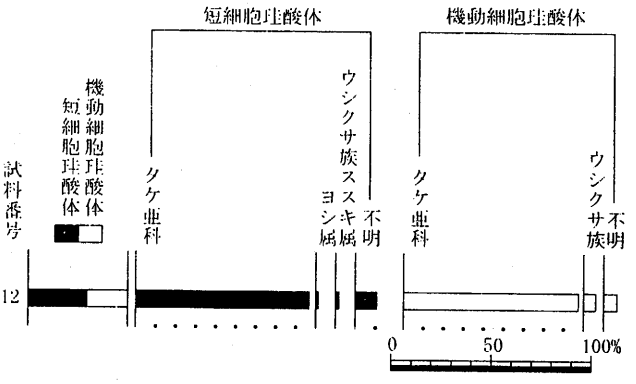


図3　植物珪酸体群集
出現率は、イネ科葉部短細胞珪酸体、イネ科葉身機動細胞珪酸体の総数を基数として百分率で算出した。

表 4　樹種同定結果

番号	遺　構	出土位置	時代・時期	質	用途など	樹　種
10	水田跡		弥生時代前期後半	生木	畦の横木を固定した杭	ヤブツバキ
11	環濠底	杭列	弥生時代前期後半	生木	杭材	カヤ
12	自然河道	水田横木の外側	弥生時代前期	生木	自然木	ブナ科
13	住居跡（SH05）	中央穴脇の柱穴内の炭化材	弥生時代前期後半	炭化材	柱材	ヤマグワ

木材は、その特徴からブナ科と考えられるが、保存が悪く種類の同定には至らなかった。その他の試料は、針葉樹1種類（カヤ）と広葉樹2種類（ヤマグワ・ヤブツバキ）に同定された。主な解剖学的特徴を以下に記す。

・カヤ（*Torreya nucifera* Sieb. et Zucc.）　　イチイ科カヤ属

仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は狭い。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか。分野壁孔はトウヒ型～ヒノキ型で、1分野に1～4個。放射組織は単列、1～10細胞高。仮道管内壁には対をなしたらせん肥厚が認められる。

・ブナ科（Fagaceae）

試料は保存が悪い。道管は一部が観察できるのみだが、その配列から放射孔材あるいは散孔材と考えられる。放射組織は同性、単列のものと、複合放射組織とがある。

以上の特徴から、アカガシ亜属あるいはブナ属の可能性があるが、種類の同定には至らなかった。

・ヤマグワ（*Morus australis* Poiret）　　クワ科クワ属

環孔材で、孔圏部は1～5列、孔圏外の移行は緩やかで晩材部へ向かって管径を漸減させ、のち塊状に複合して斜方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅱ～Ⅲ型、1～6細胞幅、1～50細胞高で、しばしば結晶を含む。

・ヤブツバキ（*Camellia japonica* L.）　　ツバキ科ツバキ属

散孔材で、管壁は薄く、横断面では多角形～角張った楕円形、単独および2～3個が複合して散在し、年輪界に向かって管径を漸減させる。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列～階段状に配列する。放射組織は異性Ⅱ～Ⅰ型、1～3細胞幅、1～20細胞高で、時に上下に連結する。柔細胞は時に結晶を含む。

（5）種実・葉同定

同定結果を表5に示す。以下に検出された種類の形態的特徴を示す。

＜種実＞

・アカガシ亜属（*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*）　ブナ科コナラ属

果実、幼果が検出された。幼果はつぶれた球形で直径8㎜程度。鱗片は癒着して、同心円状の輪のように見える。果実は大きさ1.5cm程度。表面は褐色で光沢があり、薄くて堅い。下部に、座についていた円形でざらつく部分がある。花柱の部分に、輪状の模様がみられる。

・ヤマグワ（*Morus australis* Poiret）　クワ科

種子が検出された。褐色。大きさは2㎜程度。倒卵型、表面は平滑で側面の隅に突起がみられる。

・マタタビ属（*Actinidia*）　マタタビ科

種子が検出された。黒色。側面観は長楕円形。大きさは2㎜程度。表面は硬質で光沢があり、丸いへこみが不規則に配列しているように見える。網目は基部の付近では、細かく縦長になる。

・ムクロジ（*Sapindus Mukorossi* Gaerth）　ムクロジ科ムクロジ属

果実が検出された。球形、黒色で大きさは1cm程度。種皮は厚い。一端に一文字状の「へそ」が存在する。

・エゴノキ属（*Styrax*）　エゴノキ科

核が検出された。灰黒色。側面観は楕円形、上面観は円形。大きさは1㎝程度。下端に大きな「へそ」がある。表面は厚くて堅く、ざらつく。

・ニワトコ（*Sambucus rasemosa* L. subsp. *sieboldiana* (Miquel) Hara）
スイカズラ科ニワトコ属

種子が検出された。黒色。長楕円形で、大きさは2㎜程度。下側に臍があり、表面には、横軸に平行なしわ状の模様が存在する。

・スゲ属（*Carex*）　カヤツリグサ科

果実が検出された。褐色で、大きさは2㎜程度。3稜があり、先端部と基部は急に細くなる。表面は薄くて弾力があり、ざらつく。

・ナデシコ科（Caryophyllaceae）

種子が検出された。黒色で、大きさは1㎜程度。表面には荒い突起が密に配列している。

・ヒョウタン類（*Lagenaria*）　ウリ科ユウガオ属

種子が検出された。大きさは1㎝程度。褐色で肉厚。長楕円形で、先端部に大きな「へそ」がある。縁がやや肥厚する。

＜葉＞

・イチイガシ（*Quercus gilva* Blume）　ブナ科コナラ属

検出された部位は、先端部から中間部にかけてで、基部はない。先は急に鋭尖となり、推定される大きさは長さ10cm程度。革質で、葉縁は上半部に鋸歯がある。側脈は裏に突出し、支脈は裏面に突出して目立ち、支脈間を平行につなぐ。

・アカガシ亜属（*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*）　ブナ科コナラ属

イチイガシの可能性があるが、中間部の細片であったため、種類の同定には至らず、アカガシ亜属とした。

表5　種実遺体・葉の同定結果

試料番号	遺構	層位	アカガシ亜属（種子）	アカガシ亜属（葉）	イチイガシ（葉）	ヤマグワ	マタタビ属	ムクロジ	エゴノキ属	ニワトコ	スゲ属	ナデシコ科	ヒョウタン類	木の皮	不明
1	自然河道	上層		破				破	3					破	
2	自然河道	上層	5						12						破
4	自然河道	下層	1					21	7						
6		下層											4		
12	トレンチ内自然河道	下層			破	2	1			1	2	4			17

4．考察

（1）河道内の堆積環境

産出種の特徴は、基本的には流水不定性種が多産する。しかし、*Achnanthes lanceolata* などの流水性種も全体の約35％を占める。また、流水不定性種・沼沢湿地付着性種（安藤，1990）の*Eunotia pectinalis* var. *minor* 、陸生珪藻A群の*Navicula contenta* も若干産出する。沼沢湿地付着性種は、沼よりも浅く水深が1ｍ前後で、一面に水生植物が繁茂するような沼沢や、さらに水深の浅い湿地に生育する。陸生珪藻は、多少の湿り気のある乾いた環境に生育する珪藻で、なかでも乾燥に耐性のある種がA群とされる。

このように、様々な生態性の種が低率で産出する群集は混合群集とされ、氾濫堆積物に多く見られる（堀内ほか，1996）。今回の試料についても、砂礫や植物遺体を含むことから、氾濫堆積などの河川作用の影響を受けた堆積物と考えられる。

（2）周辺の古植生および植物利用

検出された花粉化石、葉、種実は、大部分が木本類という点で共通している。このことから、弥生時代前期頃の本遺跡周辺の植生は、木本類が主体であったと考えられる。木本類の種類構成をみると、マキ属、アカガシ亜属（イチイガシなど）、ムクロジ、ツバキ属など暖温帯林の極相林を作る種類や、ニレ属ーケヤキ属やエノキ属ームクノキ属など河畔林の主要な構成要素、ヤマグワ、ニワトコ、エゴノキ属、マタタビ属など林縁部に生育する低木やツル植物がみられる。特にアカガシ亜属は、各部位（花粉、種実、葉）とも多産していることから、付近に多数分布していたものとみられる。このように、遺跡付近の山地では、イチイガシなどのカシ類をはじめ、マキ属、ムクロジ、ツバキ属などが暖温帯林を作っていたものと思われる。また、低地には、ニレ属ーケヤキ属やエノキ属ームクノキ属などの湿地林が生育していたと考えられる。本遺跡は、弥生時代前期に水田開発が行われている。このため、人為的に開かれた水田域などと森林の間には、上記に挙げた低木やツル植物が生育していたと考えられる。アカガシ亜属が卓越する花粉化石群集は、岡山市の百間川沢田遺跡（パリノ・サーヴェイ株式会社，1993a，b）や倉敷市の上東遺跡（三好・臼井，1977）などでも確認されており、本地域では広い範囲にわたって優勢であったことがわかる。またこれまでカシ類を種レベルまで同定できる化石がほとんど見つかっていなかったため、今回イチイガシの葉が検出されたことは、当時の古植生を考える上で貴重な成果である。

一方、植物珪酸体では、タケ亜科、ヨシ属、ウシクサ族などのイネ科植物が生育していたと考えられ

る。このうち、ヨシ属は湿地などによく生育することから、河道沿いなどに生育していたと考えられる。なお、タケ亜科が多く産出している背景には、物理・化学的な風化作用に対する抵抗性の強いこと（近藤，1982、杉山・藤原，1986）が挙げられる。

検出された花粉化石と種実遺体を有用性という面からみると、アカガシ亜属、ブナ属、クルミ属、シイノキ属、ヤマグワ、マタタビ属、ニワトコ、カキ属などが可食植物である。このうち、種実でみられるアカガシ亜属、ヤマグワ、マタタビ属、ニワトコは検出量が少なく、幼果なども含むことから、検出された種実が利用後の残渣である可能性は小さいようである。しかし、周囲に生育していた可能性が高いことから、当時採取によって利用されていた可能性は十分想定される。なお、葉の同定結果から、カシ類の中にはイチイガシが含まれているとみられるが、イチイガシは食用の際に「あくぬき」を必要としないため、他のカシ類に比べて利用度は高かったと思われる。また、栽培種としてはヒョウタン類がみられ、容器などの生活資材や食用としての利用が考えられる。ヒョウタン類は岡山市の百間川沢田遺跡（パリノ・サーヴェイ株式会社，1993b）、百間川原尾島遺跡（パリノ・サーヴェイ株式会社，1995a,b）など県内での出土例は多く、広く栽培されていたことが推定される。

（3）用材について

杭材は、針葉樹のカヤと常緑広葉樹のヤブツバキであった。花粉分析結果から、いづれも周辺に生育していたと考えられ、木材を周辺植生から入手していたとみられる。杭材は、これまで各地で行われた結果を見ても、多くの種類が確認される（島地・伊東，1988）。このことと今回の結果から、遺跡周辺に生育していた中から、適当な径や強度を有する種類を選択し、利用したことが推定される。

一方、住居跡の柱穴から出土した炭化材はヤマグワであった。この結果から、柱材としてヤマグワが利用されていたことが推定される。ヤマグワは、鳥取県倉吉市域の複数の遺跡で行われた分析調査で、点数は多くないが住居構築材に認められている（パリノ・サーヴェイ株式会社，1992,1996,1997a,1997b）。また、岡山県内で住居構築材の調査例は少ないが、百間川原尾島遺跡で出土した橋脚の調査（能城，1995）ではヤマグワが1割以上利用されており、ヤマグワが住居構築材や橋脚などの強度を必要とする用途に利用されていたことが推定される。

引用文献

安藤一男　1990「淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用」『東北地理』42，p.73-88

Asai, K. & Watanabe, T.　1995　Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution（2）Saprophilous and saproxenous taxa. Diatom，10，p.35-47

堀内誠示・高橋　敦・橋本真紀夫　1996「珪藻化石群集による低地堆積物の古環境推定について　ー混合群集の認定と堆積環境の解釈ー」『日本文化財科学会，第13回大会研究発表要旨集』，p.62-63

伊藤良永・堀内誠示　1991「陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用」『珪藻学会誌』6，p.23-45

近藤錬三・佐瀬　隆　1986「植物珪酸体分析，その特性と応用」『第四紀研究』25，p.31-64

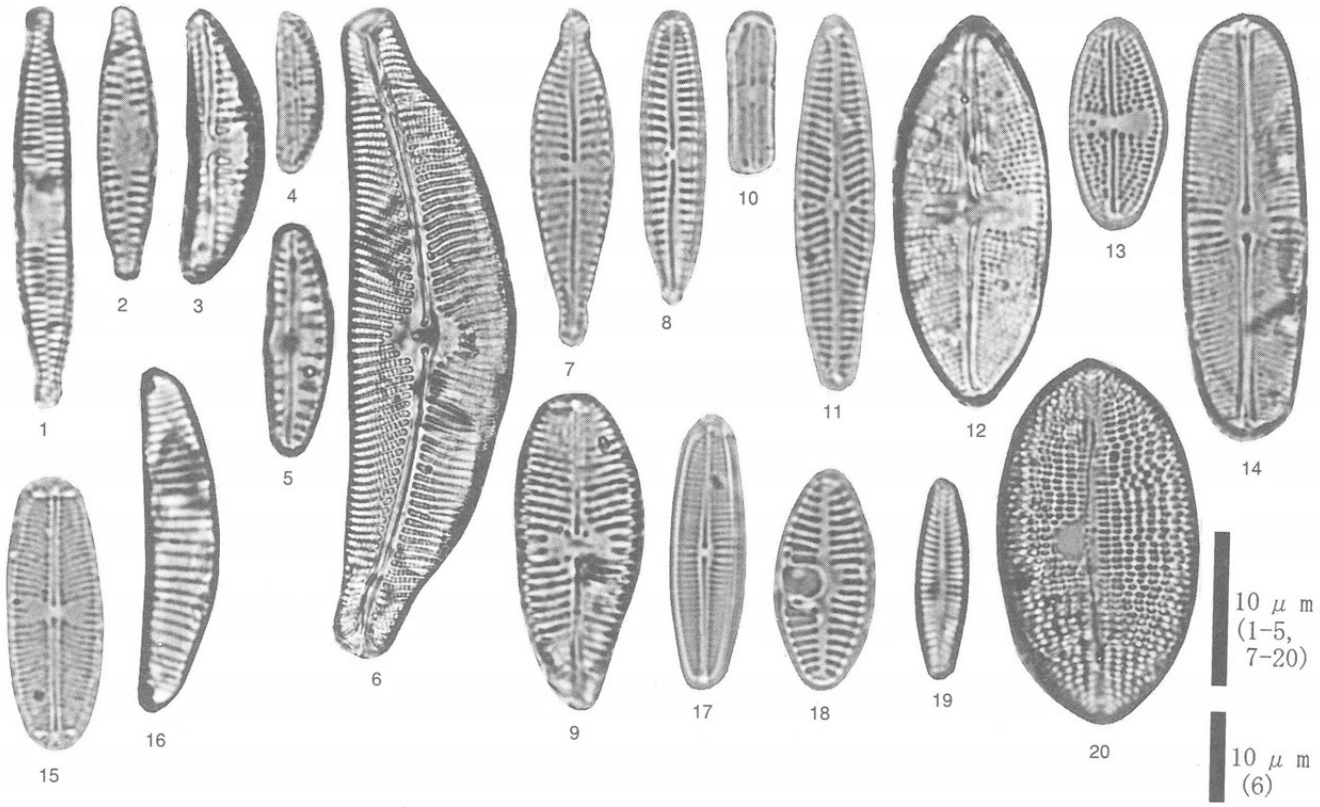
小杉正人　1988「珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用」『第四紀研究』27，p.1-20

Krammer, K.　1992　PINNULARIA，eine Monographie der europaischen Taxa. BIBLIOTHECA

DIATOMOLOGICA, BAND 26, p.1-353., BERLIN・STUTTGART
Krammer, K. & Lange-Bertalot, H. 1986 Bacillariophyceae, Teil 1, Naviculaceae. Band 2/1 von:Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 876p., Gustav Fischer Verlag
Krammer, K. & Lange-Bertalot, H. 1988 Bacillariophyceae, Teil 2, Epithemiaceae, Bacillariaceae, Surirellaceae. Band 2/2 von:Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 536p., Gustav Fischer Verlag
Krammer, K. & Lange-Bertalot, H. 1991a Bacillariophyceae, Teil 3, Centrales, Fragilariaceae, Eunotiaceae. Band 2/3 von:Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 230p., Gustav Fischer Verlag
Krammer, K. & Lange-Bertalot, H. 1991b Bacillariophyceae, Teil 4, Achnanthaceae, Kritsche Ergaenzungen zu Navicula (Lineolatae) und Gomphonema. Band 2/4 von:Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 248p., Gustav Fischer Verlag
Lange-Bertalot, H., Kuelbs, K., Lauser, T., Noerpel-Schempp, M. & Willmann, M. 1996 Dokumentation und Revision der von Georg Krasske beschriebenen Taxa. Iconographia Diatomologica 3, 358p., Koeltz Scientific Books
Lange-Bertalot, H. & Metzeltin, D. 1996 Oligotrophie-Indikatoren 800 Taxa repraesentativ fuer drei diverse Seen-Typen. Iconographia Diatomologica 2, 390p., Koeltz Scientific Books
Metzeltin, D & Witkowski, A. 1996 Diatomeen der Baeren-Insel, Suesswasser-und marine Arten. Iconographia Diatomologica 4, 287p., Koeltz Scientific Books.
三好教夫・臼井洋輔 1977「上東遺跡（岡山県）の花粉分析」『特定研究「古文化財」の「稲作の起源 と伝播」昭和51年度報告』, p.30-35
能城修一 1995「百間川原尾島遺跡から出土した弥生時代前期橋脚列の柱の樹種」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告97 百間川原尾島遺跡4 旭川放水路（百間川）改修工事に伴う発掘調査X』, p.266-274, 岡山県文化財保護協会
パリノ・サーヴェイ株式会社 1992「炭化植物の同定と炭化材の14C年代」『倉吉市文化財調査報告書第69集 中尾遺跡発掘調査報告書』, p.130-140, 倉吉市教育委員会
パリノ・サーヴェイ株式会社 1993a「植物化石分析報告」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告84 百間川原沢田遺跡3 旭川放水路（百間川）改修工事に伴う発掘 調査Ⅷ』, p.405-417, 岡山県文化 財保護協会
パリノ・サーヴェイ株式会社 1993b「自然科学分析」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告84 百間川原沢田遺跡3 旭川放水路（百間川）改修工事に伴う発掘 調査Ⅷ』, p.418-426, 岡山県文化財保 護協会
パリノ・サーヴェイ株式会社 1995a「百間川原尾島遺跡出土の木器樹種同定、種子同定」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告97 百間川原尾島遺跡4 旭川放水路（百間川）改修工事に伴う発掘調査X』, p.290-301, 岡山県文化財保護協会
パリノ・サーヴェイ株式会社 1995b「百間川原尾島遺跡出土の種実同定」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告97 百間川原尾島遺跡4 旭川放水路（百間川）改修工事に伴う発掘 調査X』,

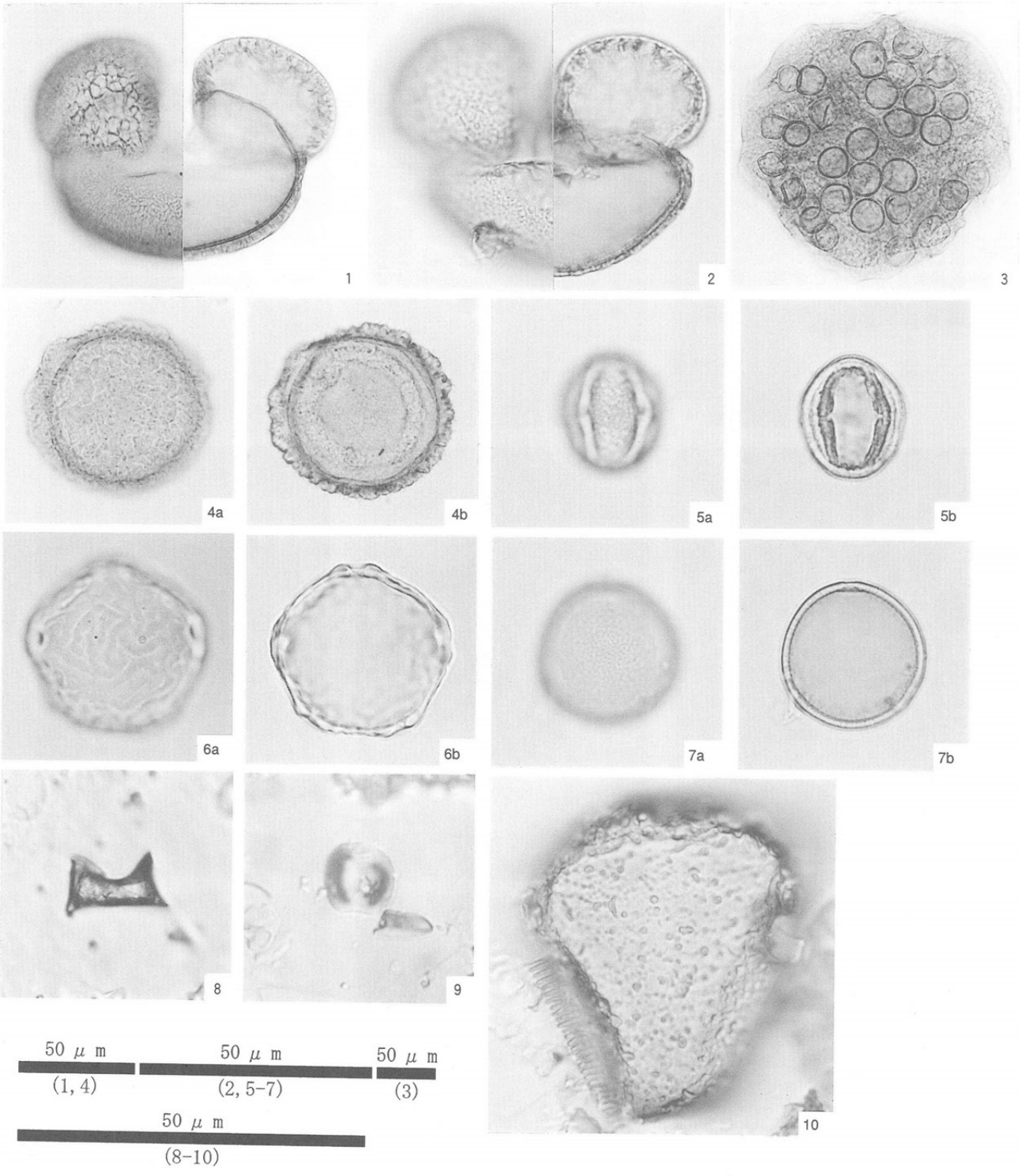
p.286-289，岡山県文化財保護協会
パリノ・サーヴェイ株式会社　1996「夏谷遺跡から出土した炭化材の樹種」『倉吉市文化財調査報告書第84集　夏谷遺跡発掘調査報告書』，p.261-268，倉吉市教育委員会
パリノ・サーヴェイ株式会社　1997a「両長谷遺跡から出土した炭化材・種実遺体の種類」『倉吉市文化財調査報告書第89集　両長谷遺跡発掘調査報告書』，p.57-61，倉吉市教育委員会
パリノ・サーヴェイ株式会社　1997b「下張坪遺跡Ｃ地区から出土した炭化材の樹種」『倉吉市文化財調査報告書第88集　下張坪遺跡発掘調査報告書』，p.113-123，倉吉市教育委員会
Reichardt, E.　1995　Die Diatomeen（Bacillariophyceae）in Ehrenbergs Material von Cayenne, Guyana Gallica　1843　Iconographia Diatomologica 1，107p.，Koeltz Scientific Books
島地　謙・伊東隆夫編　1988「日本の遺跡出土木製品総覧」296p.，雄山閣

図版1　珪藻化石



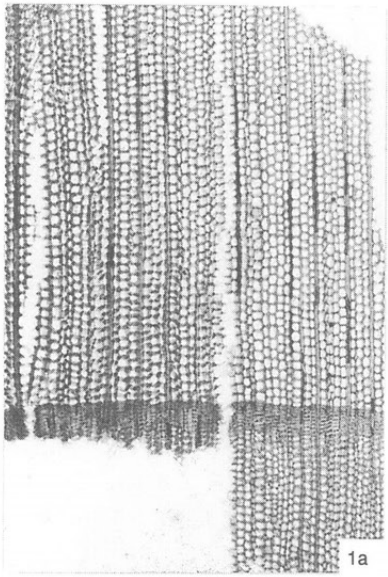
1. *Fragilaria capucina* var. *radians* (Kuetz.)Lange-Bertalot (試料番号12)
2. *Fragilaria vaucheriae* (Kuetz.)Petersen (試料番号12)
3. *Amphora affinis* Kuetzing (試料番号12)
4. *Amphora pediculus* (Kuetz.)Grunow (試料番号12)
5. *Cymbella sinuata* Gregory (試料番号12)
6. *Cymbella tumida* (Breb. ex Kuetz.)V.Heurck (試料番号12)
7. *Gomphonema parvulum* Kuetzing (試料番号12)
8. *Gomphonema pumilum* (Grun.)Reichardt & Lange-Bertalot (試料番号12)
9. *Gomphonema quadripunctatum* (Oestrup.)Wislouch (試料番号12)
10. *Navicula contenta* Grunow (試料番号12)
11. *Navicula cryptotenella* Lange-Bertalot (試料番号12)
12. *Navicula mobiliensis* var. *minor* Patrick (試料番号12)
13. *Navicula mutica* Kuetzing (試料番号12)
14. *Sellaphora bacillum* (Ehr.)Mann (試料番号12)
15. *Sellaphora pupula* (Kuetz.)Mereschkowsky (試料番号12)
16. Eunotia *pectinalis* var. *minor* (Kuetz.)Rabenhorst (試料番号12)
17. *Achnanthes japonica* H.Kobayasi (試料番号12)
18. *Achnanthes lanceolata* (Breb.)Grunow (試料番号12)
19. *Achnanthes subhudsonis* Hustedt (試料番号12)
20. *Cocconeis placentula* var. *lineata* (Ehr.)Cleve (試料番号12)

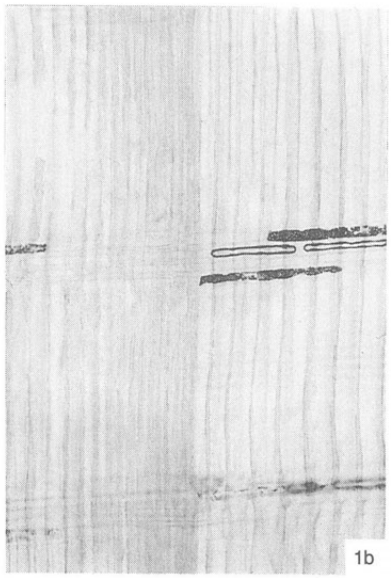
図版２　花粉化石・植物珪酸体

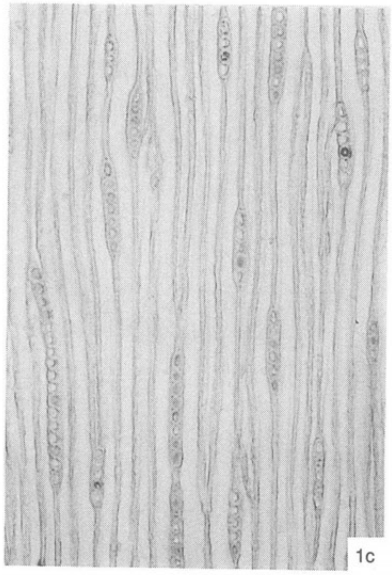


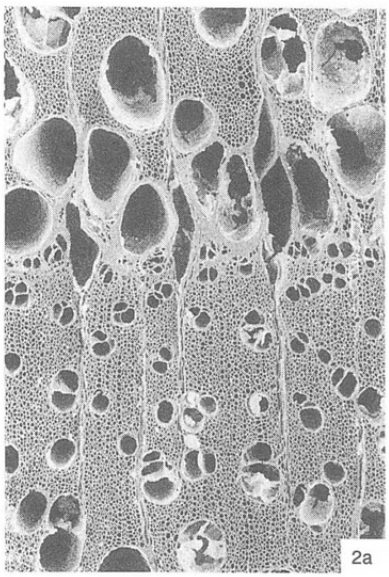
1．モミ属(試料番号12)
2．マツ属(試料番号12)
3．サンショウモ(試料番号12)
4．ツガ属(試料番号12)
5．コナラ属アカガシ亜属(試料番号12)
6．ニレ属－ケヤキ属(試料番号12)
7．エノキ属－ムクノキ属(試料番号12)
8．タケ亜科短細胞珪酸体（試料番号12)
9．ヨシ属短細胞珪酸体（試料番号12)
10．タケ亜科機動細胞珪酸体（試料番号12)

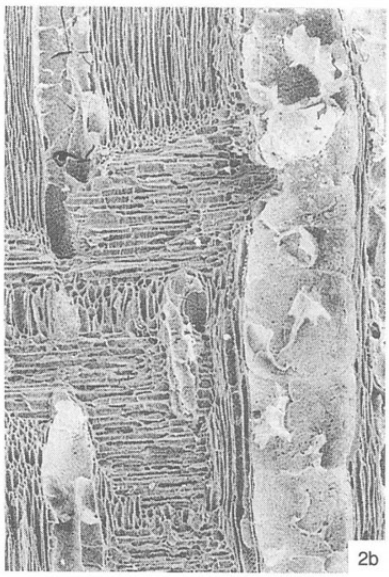
図版3　木材・炭化材

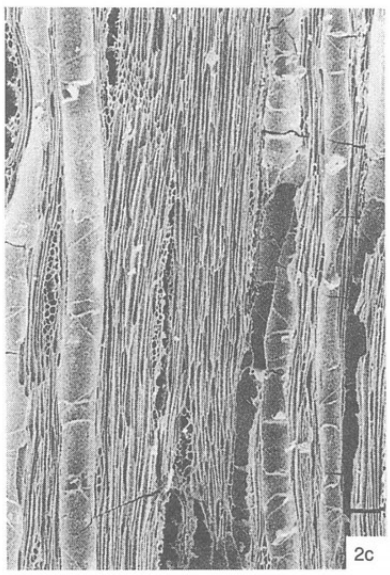

1a

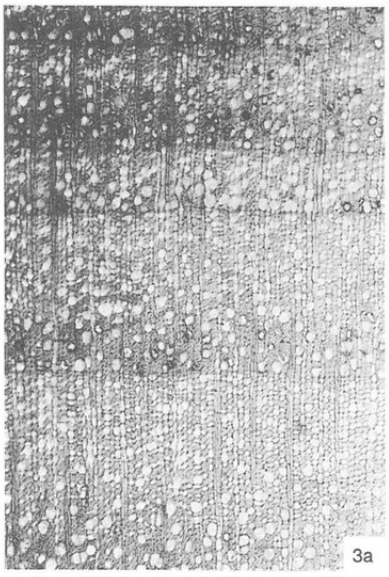

1b

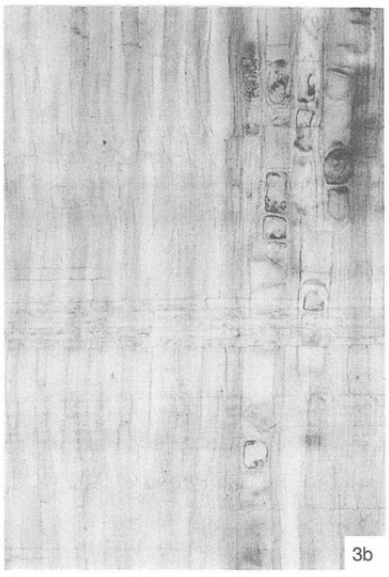

1c

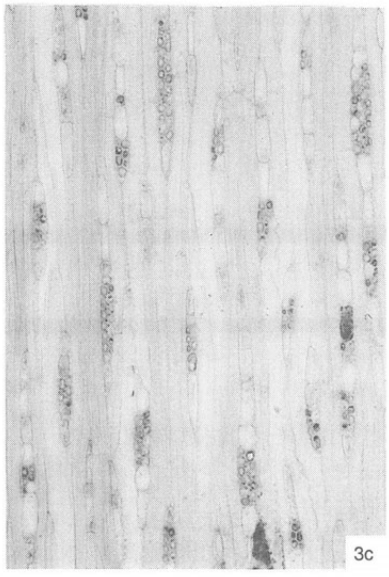

2a


2b


2c


3a


3b

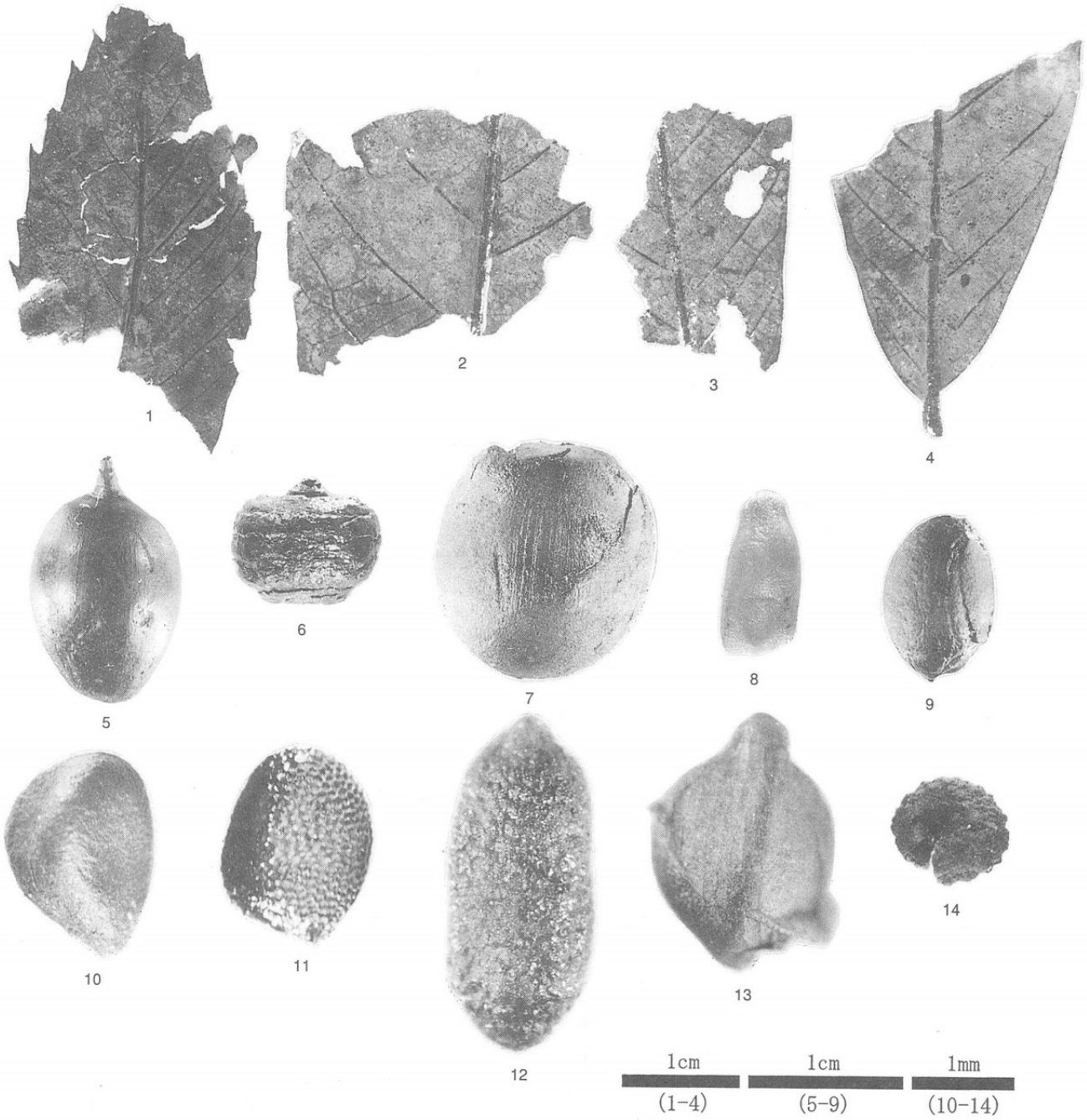

3c

1．カヤ（試料番号11）
2．ヤマグワ（試料番号13）
3．ヤブツバキ（試料番号10）
　a：木口，b：柾目，c：板目

200μm：1，3a
200μm：1，3bc

200μm：2a
200μm：2b，2c

図版4　葉・種実遺体



1．イチイガシ(試料番号12)
2．アカガシ亜属(試料番号1)
3．アカガシ亜属(試料番号1)
4．アカガシ亜属(試料番号1)
5．アカガシ亜属(試料番号2)
6．アカガシ亜属(試料番号4)
7．ムクロジ(試料番号4)
8．ヒョウタン類(試料番号6)
9．エゴノキ属(試料番号1)
10．ヤマグワ(試料番号12)
11．マタタビ属(試料番号12)
12．ニワトコ(試料番号12)
13．スゲ属(試料番号12)
14．ナデシコ科(試料番号12)

付載２．矢掛町清水谷遺跡出土の動物遺存体

岡山理科大学理学部　富　岡　直　人

はじめに

本報告文は、1998年に矢掛町教育委員会による発掘で岡山県矢掛町清水谷遺跡から検出された弥生時代前期から中期に属する動物遺存体について記述するものである。

分析資料は、発掘時に確認・サンプリングされた。特に弥生時代前期後半から中期初頭の環濠を中心として、動物遺存体が数多く出土した。

１．出土動物遺存体の概要

本分析資料のうち、綱以上が同定できた資料を表１に掲げる。以下に動物遺存体の内容を生物分類に従って概括する。

表１　清水谷遺跡出土動物遺存体種名表

軟体動物門	Mollusca
斧足綱	Pelecypoda
フネガイ科	Arcidae
ハイガイ	*Tegillarca granosa* (Linnaeus)〈ただし圧痕のみ〉
脊椎動物門	Vertebrata
硬骨魚綱	Osteichthyes
ナマズ目	Siluriformes
ナマズ科	Siluridae
ナマズ	*Parasilurus astus* Linnaeus
鳥綱　目不明	Aves ordo. indet.
哺乳綱	Mammalia
ウシ目（偶蹄目）	Artiodactyla
イノシシ科	Suidae
イノシシ類	*Sus scrofa* subsp. indet
シカ科	Cervidae
ニホンジカ	*Cervus nippon* Temminck

（１）軟体動物門　Mollusca

斧足綱	Pelecypoda
フネガイ科	Arcidae
ハイガイ	*Tegillarca granosa* (Linnaeus)

ハイガイの圧痕が土器や礫に付着した土壌に残され検出された。いずれも検出時に空洞を呈し、雌型の痕跡としては残存状況が良好なものの、カルシウム分や殻皮類の残存はまったく確認できなかった。

（２）魚上綱　Pisces

ナマズ目	Siluriformes
ナマズ科	Siluridae
ナマズ	*Parasilurus astus* Linnaeus

左胸鰭棘（17 - 1、弥生時代前期後半～中期初頭）、基後頭骨（27 - 1、地区不明）が出土している。淡水域に生息する魚類であり、清水谷遺跡周辺の小田川やその後背湿地、環濠や溝などで捕獲された可能性が考えられる。

（3） 鳥綱　Aves

検出・採集された動物遺存体の中に、鳥類は破片となった2点（10 - 1、19—3）しか含まれず、目以下の同定ができる資料はなかった。

（4） 哺乳綱　Mammalia

資料のなかには目以下の同定が困難であった資料があり、小型あるいは中型として記載した（表2）。

イノシシ科	Suidae
イノシシ類	*Sus scrofa* subsp. indet.

イノシシは本州以南の森林地帯に群れをなして生息している（岡田他　1960）。本種は亜種として本州、四国、九州に生息するニホンイノシシ　*Sus scrofa leucomystax*、南西諸島に生息するリュウキュウイノシシ　*S.scrofa riukiuanus*　が設定されているが、日本各地でブタと交配し一部は野生化している通称イノブタなどもかなり広くみられる。遺跡出土イノシシ類資料について、松本彦七郎、直良信夫は更新世から縄文時代にかけてみられる大形のイノシシをニッポンイノシシ

S.nipponicus　およびその系統のミコトイノシシ　*S.mikotonis*　などと分類したが（松本　1917、直良　1968）、これには反対意見も多く、現在のニホンイノシシと連続的なものであるとする考えも強い（林　1983）。出土資料は破片が多く、いずれも形質的にブタ　*S. scrofa domesticus*　と断言できる資料は検出できなかった。このことから、本報告では、ブタも含むカテゴリーとしてイノシシ類 *S. s. subsp.indet*　として報告する。

哺乳類の範疇のみならず、同定された動物遺存体のなかでも、イノシシ類の出土量が最も多かった。ただし、破片化しているものが多く、総最小個体数は3と少なく、年齢や体格によるマッチングを考慮しても4にしかならない。

イノシシの年齢構成を歯牙の萌出した顎骨臼歯から推定した。これは、小池・林（1984）と九州大学小池裕子先生の御教示を基礎にした。その結果、第3後臼歯を検討し最小個体数で3体の成獣（老獣も含む）、第2前臼歯を考慮すると1体の若～成獣が含まれていることが明らかになった。つまり総最小個体数と同数が成獣と推定されたわけであるが、これはあくまで算定数であることから、本来は幼・若齢の個体が含まれていた可能性が残されていることに注意せねばならない。ただし、明確な弥生ブタを含み幼・若獣の多い典型的な西日本弥生遺跡の傾向とは反する可能性が高いことは見逃せない。

弥生ブタが含まれると指摘される池上遺跡でのイノシシ類の年齢構成（金子　1984、林　1986）をみると若獣が幼獣、成獣の2.5倍近くも消費されており、中国新石器時代のブタをともなう河姆渡遺跡の場合（金子　1984）は、成獣4に若獣5程度の割合で若獣が多い。家畜を消費する場合、若齢で屠殺する方が経済的に負担が軽く肉量も多い。このことから、若齢が多い現象はイノシシ類を飼育している証左と考えられる。さらに、ブタを出土する弥生時代遺跡で確認される例が多い下顎骨の穿孔

などが1点も検出されなかったことなどを考えあわせると、清水谷遺跡の例は弥生ブタが含まれていた可能性は低いものと考えられる。

この問題については帯広畜産大学石黒直隆先生に表2・備考欄に特記したサンプルを送付し、DNA分析に取り組んでいただくこととしたが、報告書作成段階の短報としてDNA資料の増幅が困難であった旨の御連絡を頂戴し、この考察がほぼ困難であるとの見通しを得たことをここに付記する。

シカ科　Cervidae
ニホンジカ　*Cervus nippon* Temminck

ニホンジカは一亜種 *C. n. nippon* にまとめられることもあるが、6つの亜種を設定し、本州産のものをホンシュウジカ *C. n. centralis*、九州、四国産のものをキュウシュウシカ *C. nippon nippon* とする分類もある（大泰司 1983）。本報告ではニホンジカ*C. nippon*として記述する。

出土資料には、顎骨や臼歯に次いで角が多くみられた。5つの塊で発見された角は、小枝～角幹部分の角で、15と7のみが尖頭部を伴っていた。

2．清水谷遺跡における生業

出土した動物遺存体は、清水谷遺跡が所在した淡水域から内陸平野から丘陵域に生息する動物群が主体であったが、わずかに海岸部から搬入されたハイガイも含まれていた。

資料のほとんどの保存状況は不良で、破片化したり激しく風化したもの、火を受けて白色に変化したものが多く含まれ、二次的に埋存した資料が多いことをうかがわせる。

清水谷遺跡の立地や石器、骨角器組成などを考慮すると、ナマズやイノシシ類、ニホンジカなどは清水谷集落の集団が狩猟・採集活動を行って付近の河川や後背湿地、環濠、溝などの淡水域や平野、丘陵部から捕獲したものと考えるべきであろう。しかし、ハイガイなどは海岸部の集落から交易などによって入手した可能性も考えられる。

また、イノシシ類と分類した資料の中には飼育されたブタが含まれる可能性があるが、確証はない。特に、飼育ブタが出土する弥生遺跡で検出されることの多い下顎骨穿孔や幼齢個体は確認できなかった。さらに、弥生時代に飼育例が知られているニワトリも検出されなかった。以上より、清水谷遺跡では動物飼養が低調であって狩猟・採集活動や交易による動物質資源の獲得が盛んであった可能性が考えられる。

謝辞

矢掛町教育委員会の直原伸二氏、藤江望氏には資料の提供とともに、様々な御教示、御援助を頂いた。東北大学文学部教授須藤隆先生には現地での観察所見とともに出土資料類の研究についてご助言を賜った。国立歴史民俗博物館西本豊弘先生、奈良国立文化財研究所松井章先生には哺乳類骨格の同定、解釈について貴重なご助言を頂いた。岡山理科大学学生古玉晋太郎君、内田成香さん、田中紀子さん、中村友美さんには、同定作業と集計を手伝っていただいた。記して感謝いたします。

参考文献

阿部永他　1994　『日本の哺乳類』東海大学出版局

阿部宗明　1987　『原色魚類大図鑑』北隆館
今泉吉典・岡田弥一郎　1983　『学研生物図鑑　動物』学習研究社
内田　亨　1979　『新編日本動物図鑑』北隆館
内田亨他　1972　『谷津・内田　動物分類名辞典』中山書店
大泰司紀之　1980　「遺跡出土ニホンジカの下顎骨による性別・年齢・死亡季節査定法」『考古学と自然科学』13　pp.51 - 74
大泰司紀之　1983　「シカ」『縄文文化の研究2　生業』pp.122 - 135
大泰司紀之　1984　「ニホンジカの比較骨学および地理的時代的変異」『古文化財の自然科学的研究』pp.555 - 558
岡田要（校閲）・今田吉典（著）　1960　『原色日本哺乳類図鑑』保育社
岡田要・内田清之助・内田亨　1965　『新日本動物図鑑』下　北隆館
金子浩昌　1984　『貝塚の獣骨の知識　人と動物とのかかわり』考古学シリーズX　東京美術
蒲原稔治　1966　『標準原色図鑑全集』第4巻　魚　保育社
小池裕子・林良博　1984　「遺跡出土ニホンイノシシの齢査定について」『古文化財の自然科学的研究』pp.519 - 524
後藤仁敏・大泰司紀之編　1986　『歯の比較解剖学』医師薬出版株式会社
西本豊弘　1989　「下郡桑苗遺跡出土の動物遺存体」『下郡桑苗遺跡』pp.114 - 132　大分県教育委員会
西本豊弘　1991　「縄文時代のシカ・イノシシ狩猟」『古代』91　pp.114 - 132
西本豊弘　1993　「弥生時代のブタの形質について」『国立歴史民俗博物館研究報告』50　pp.49 - 70
林　謙作　1986　「亀ヶ岡と遠賀川」『岩波講座　日本考古学』5　文化と地域性　pp.93 - 124
林　良博　1983　「イノシシ」『縄文文化の研究2　生業』pp.136 - 147
林　壽郎　1968　『標準図鑑全集　動物Ⅰ』保育社
林　壽郎　1968　『標準図鑑全集　動物Ⅱ』保育社
春成秀爾　1993　「豚の下顎懸架　—弥生時代における壁邪の習俗」『国立歴史民俗博物館研究報告』50　pp.71 - 140
Angela von den Driesch 1976 “A Guide to the Mesurement of Animal Bones from Archaeological Sites” Peabody Museum Bulletin 1, Museum of Archaeology, Harvard University

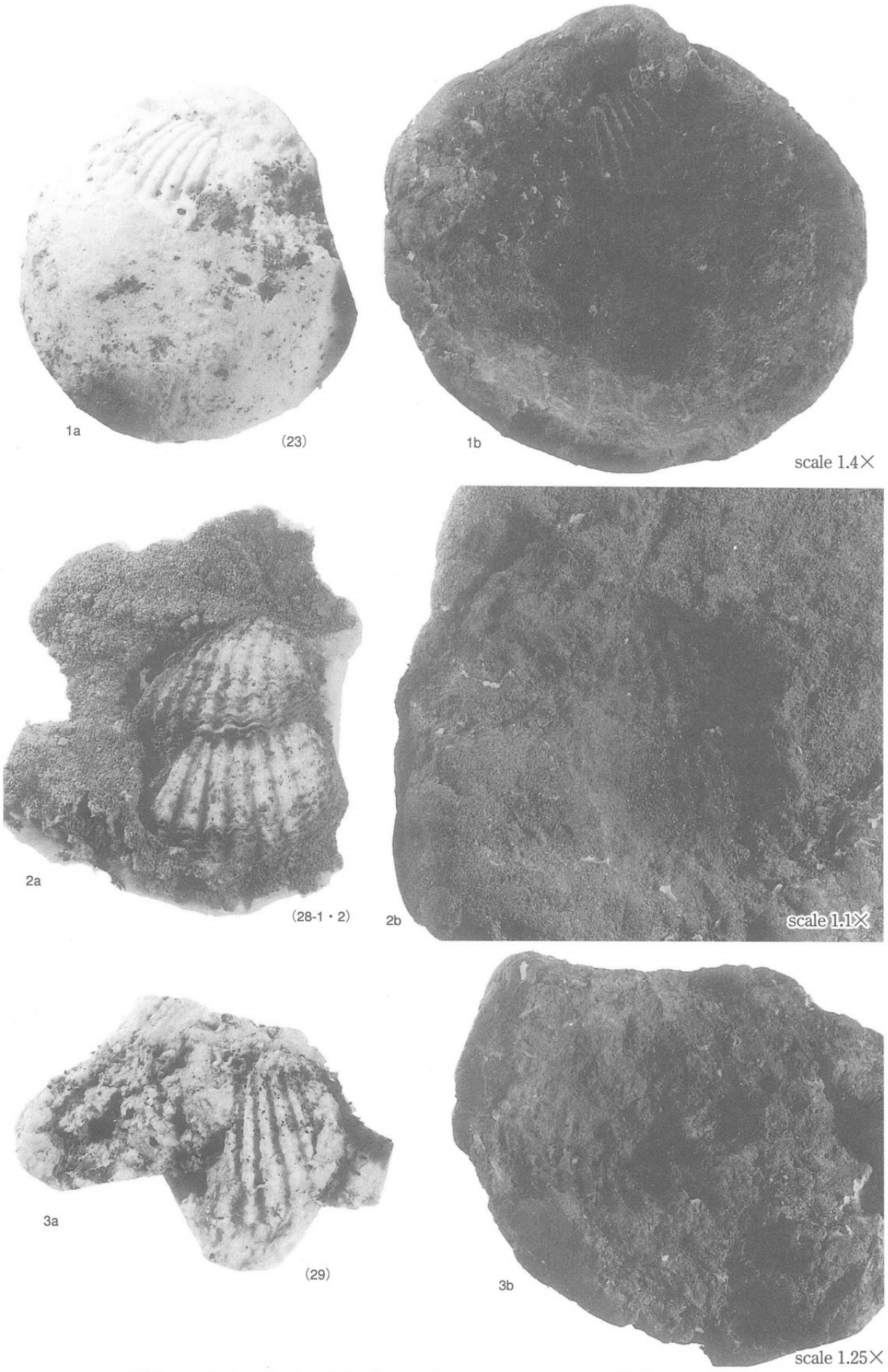
表2-1　清水谷遺跡出土動物遺存体属性表

試料番号	遺物番号	地区・グリッド	遺構	層位	大分類	小分類	LR	部位名	部分名	重量(g)	成長度	破損	色調	計測値(mm)	備考
36	23	F-5	自然河道	上層	斧足綱	ハイガイ	不明	背面圧痕			不明	不明	—		
52	28-1	C-5	CB	下層	斧足綱	ハイガイ	R	背面圧痕	完形（殻頂と腹縁一部欠損）		不明	不明	—	残存長40.80	シリコン樹脂で型取り
53	28-2		CB	下層	斧足綱	ハイガイ	R	背面圧痕	完形（殻頂と腹縁一部欠損）		不明	不明	—	残存長44.30	シリコン樹脂で型取り
54	29	E-5	CB	下層	斧足綱	ハイガイ	R	背面圧痕	完形（殻頂と腹縁一部欠損）		不明	不明	—	残存長39.45	シリコン樹脂で型取り
49	27-1	地区不明			硬骨魚綱	ナマズ	M	基後頭骨	後位	0.21	不明	不明	白色	後位関節横径8.00	
21	17-1	C-8	CB	上層	硬骨魚綱	ナマズ	L	胸鰭棘	骨幹部	0.19	不明	不明	白色	残存最大長21.25	比較的大型
100	2-4	C-10	CB	上層	硬骨魚綱	目不明	L	方骨	前位関節部	0.16	不明	不明	白色		
29	19-2	C-10	CB	上層	硬骨魚綱	目不明	不明	不明		0.03	不明	不明	白色		
65	35	D-6	CB	下層	硬骨魚綱	目不明	不明	不明			不明	不明	白色		
11	10-1	C-6	CB	上層	鳥綱	目不明	不明	不明	完形＆破片	0.14	不明	不明	白色		
30	19-3	C-10	CB	上層	鳥綱	目不明	不明	不明		0.10	不明	不明	白色		
33	21	D-5	CB	上層	哺乳綱	イノシシ類	不明	臼歯	骨幹部破片	3.22	不明	不明	白色		重量は樹脂を含む
2	2	C-10	CB	上層	哺乳綱	イノシシ類	不明	臼歯			不明	不明			
28	19-1	C-10	CB	上層	哺乳綱	イノシシ類	不明	臼歯	破片（上下不明）	1.81	不明	不明			
34	22-1	C-11	CB	上層	哺乳綱	イノシシ類	不明	臼歯	骨幹部破片	0.72	不明	不明			臼歯のほぼ真中付近が多孔質
40	25-3	C-7	CB	上層	哺乳綱	イノシシ類	不明	臼歯	歯冠部破片	17.17	不明	不明	normal	不能	
47	25-10	C-7	CB	上層	哺乳綱	イノシシ類	不明	臼歯	歯冠部破片	13.03	不明	不明	normal	不能	
64	34-3④	D-6	CB		哺乳綱	イノシシ類	不明	臼歯	歯冠部破片	1.50	不明	不明	normal	不能	
67	35-2				哺乳綱	イノシシ類	不明	臼歯	歯冠部破片	2.84	不明	不明	normal		
70	37-1	D-6	CB	上層	哺乳綱	イノシシ類	不明	臼歯	歯冠部破片	3.15	不明	不明			
75	40-2	地区不明			哺乳綱	イノシシ類	不明	臼歯	歯冠部破片	3.76	不明	不明			
68	35-3	D-6	CB	下層	哺乳綱	イノシシ類	不明	臼歯	歯冠部破片（上下不明）	0.64	不明	不明			
41	25-4	C-7	CB	上層	哺乳綱	イノシシ類	不明	臼歯	歯冠部破片		不明	不明	normal	不能	DNA分析用
93	1-3	C-10	CB	上層	哺乳綱	イノシシ類	不明	臼歯	歯冠部破片（上下不明）	2.85	不明	不明			
44	25-7	C-7	CB	上層	哺乳綱	イノシシ類	不明	臼歯	歯冠部破片（上下不明）	155.52	不明	不明			重量は樹脂を含む
102	37-4	D-6	CB	上層	哺乳綱	イノシシ類	不明	臼歯	歯冠部破片（上下不明）	6.70	不明	不明			
99	2-3	C-10	CB	上層	哺乳綱	イノシシ類	不明	臼歯	破片（上下不明）	2.37	不明	不明			
63	34-3③	D-6	CB		哺乳綱	イノシシ類	不明	臼歯	歯冠部破片	2.20	不明	不明	normal	不能	
15	13-1	C-7	CB	上層	哺乳綱	イノシシ類	L	下顎骨	関節突起	7.92	f	なし	白色	近位関節最大幅23.20	
1	1-1	C-10	CB	上層	哺乳綱	イノシシ類	不明	顎骨破片	破片　臼歯破片(M3を含む)	7.89	不明	不明			
59	34-1	D-6	CB	上層	哺乳綱	イノシシ類	L	上顎骨	骨幹部破片、第4前臼歯、第1-2後臼歯	157.33	1.8～2.5才程度	不明			DNA分析用
66	35-1				哺乳綱	イノシシ類	R	上顎骨臼歯部	第３後臼歯	5.90	M3萌出	不明	normal	歯槽最大幅22.30,残存全長36.35.	
73	40-1	地区不明			哺乳綱	イノシシ類	R	上顎骨第3臼歯	歯冠部破片	5.92	不明	不明			
92	1-2	C-10	CB	上層	哺乳綱	イノシシ類	R	上顎第3臼歯	第１．２咬頭	3.99	不明	不明			
97	2-1	C-10	CB	上層	哺乳綱	イノシシ類	L	上顎第3臼歯	第3咬頭破片	1.94	不明	不明			
62	34-3②	D-6			哺乳綱	イノシシ類	L	第３前臼歯	完形(前位歯根一部欠)	0.63	咬耗開始	不明	normal	歯冠11.20,歯冠最大幅6.45	
98	2-2	C-10	CB	上層	哺乳綱	イノシシ類	L	上顎第２後臼歯	歯冠部破片	9.32	不明	不明			重量は土壌を含む
39	25-2	C-7	CB	上層	哺乳綱	イノシシ類	L	上顎第3後臼歯	第３後臼歯	3.39	第１咬頭咬耗開始	不明	normal	不明	残存長30.01メス？
94	1-1	C-10	CB	上層	哺乳綱	イノシシ類	L	上顎第3後臼歯	歯冠部	7.90	不明	不明			
37	24	C-11	CB	上層	哺乳綱	イノシシ類	不明	切歯	骨幹部破片	0.61	不明	不明	白色		
61	34-3①	D-6			哺乳綱	イノシシ類	R	上顎第２切歯	完形（歯根一部欠）	0.56	咬耗開始	不明	normal（一部Viv）	咬合面最大長12.30,歯冠最大幅5.10,歯冠最大長12.25	

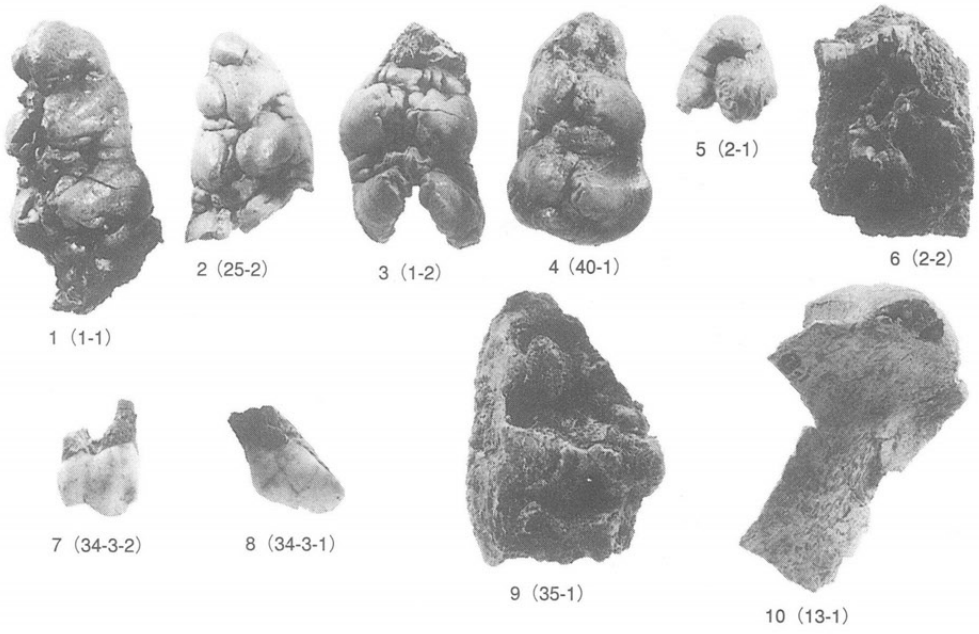
表2-2

試料番号	遺物番号	地区・グリッド	遺構	層位	大分類	小分類	LR	部位名	部分名	重量(g)	成長度	破損	色調	計測値(mm)	備考
96	1-4	C-10	CB	上層	哺乳綱	イノシシ類	不明	中手or中足骨	遠位端破片	0.45	不明	不明	白色		
25	18-1	C-10	CB	上層	哺乳綱	イノシシ類	不明	中手or中足骨	遠位端	0.93	不明	不明	白色		
22	17-2	C-8	CB	上層	哺乳綱	イノシシ類	不明	中節骨ⅡorⅤ	近位端	0.40	不明	不明	白色		
9	9-1	C-6	CB	上層	哺乳綱	イノシシ類	L	末節骨ⅡorⅤ	完形	0.77	f	なし	白色	関節高7．70	
38	25-1	C-7	CB	上層	哺乳綱	ニホンジカ	R	上顎骨	歯冠部破片	2.90	未萌出	不明	normal	不能	
46	25-9	C-7	CB	上層	哺乳綱	ニホンジカ	不明	臼歯	歯冠部破片	0.35	不明	不明	normal	不能	
50	27-2	地区不明			哺乳綱	ニホンジカ	不明	臼歯（上下顎不明）	破片（上下不明）	3.30	未萌出~萌出途次?	不明	normal	不能	
51	27-3	地区不明			哺乳綱	ニホンジカ	不明	臼歯（上下顎不明）	破片（上下不明）	0.83	未萌出~萌出途次	不明	normal	不能	
45		C-7	CB	上層	哺乳綱	ニホンジカ	R	下顎骨	第2、3後臼歯	139.27	2.5才以上	不明			保存処理用。樹脂重量を含む
19	15	C-7	P		哺乳綱	ニホンジカ	不明	角	尖頭部	0.29	雄　0.5歳以上	不明	白色		鹿角製品の可能性あり
4	4	E-7	SK17		哺乳綱	ニホンジカ	不明	角	小枝　角幹部破片	1.57	雄　0.5歳以上	sp？	白色		
5	5	D-9	SK04		哺乳綱	ニホンジカ	不明	角	小枝　角幹部遠位端	1.87	雄　0.5歳以上	不明	白色		傷は見られるが人為的か不明
7	7	E-5	CB	上層	哺乳綱	ニホンジカ	不明	角	小枝　突端部　角幹部(遠位端付近)	9.58	雄　0.5歳以上	sp	白色	残存全長87.45	基部穿孔?，Vivの影響により一部灰青色
8	8	E-5	CB	上層	哺乳綱	ニホンジカ	不明	角	小枝~角幹部	9.68	雄　0.5歳以上	sp	白色		Vivの影響により一部灰青色
13	11	C-7	CB	上層	哺乳綱	ニホンジカ	L	中節骨	完形	2.80	p.d:f	なし	白色	最大長32.85，近位関節高10.65	
17	14-1	C-7	CB	上層	哺乳綱	偶蹄目	不明	末節骨	遠位端	0.37	不明	不明			
32	20	C-10	CB	上層	哺乳綱	偶蹄目	不明	指骨	骨幹部破片	0.43	不明	不明		不能	
35	22-2	C-11	CB	上層	哺乳綱	目不明	不明	臼歯	骨幹部破片	1.73	不明	不明			
12	10-2	C-6	CB	上層	哺乳綱	目不明	不明	不明	骨幹部破片	0.94	不明	不明	白色		
16	13-2	C－7	CB	上層	哺乳綱	目不明	不明	不明	骨幹部	0.56	不明	不明			
31	19-4	C-10	CB	上層	哺乳綱	目不明	不明	不明	骨幹部	3.20	不明	不明			
6	6	D-9	SH01		哺乳綱	小~中型　目不明	不明	不明	骨幹部	0.29	不明	不明	白色		
26	18-2	C-10	CB	上層	哺乳綱	小型　目不明	不明	四肢骨		0.15	不明	不明			
72	39-1	地区不明			哺乳綱	小型　目不明	不明	手根or足根骨		0.04	不明	不明			
24	17-4	C-8	CB	上層	哺乳綱	目不明	不明	不明	骨幹部	0.20	不明	不明			
20	16	C-9	CB	上層	哺乳綱	中型　目不明	不明	顎骨		7.11	不明	不明			上下不明
23	17-3	C-8	CB	上層	哺乳綱	中型　目不明	不明	顎骨		2.49	不明	不明			上下不明
69	36	A-3	P119		哺乳綱	中型　目不明	不明	四肢骨	骨幹部	0.3	不明	不明	白色		
14	12-1	C-9	CB	上層	哺乳綱	中型　目不明	不明	手根or足根骨		2.54	不明	不明			
10	9-2	C-6	CB	上層	哺乳綱	中型　目不明	不明	不明	骨幹部	0.40	不明	不明	白色	不能	
27	18-3	C-10	CB	上層	哺乳綱	中型　目不明	不明	不明		0.60	不明	不明			
77	38-2		CB	上層	哺乳綱	中型　目不明	不明	不明		4.64	不明	不明			
18	14-2	C-7	CB	上層	哺乳綱	中型　目不明	不明	肋骨	骨幹部	0.31	不明	不明			
3	3	D-7	P		哺乳綱	中型　目不明	不明	不明	骨幹部破片	0.12	不明	不明	白色	不能	
71	38-1		CB	上層	哺乳綱	中型　目不明	不明	不明		0.49	不明	不明			
58	33	D-6	CB	上層	哺乳綱	偶蹄目	不明	臼歯列		7.75	不明	不明			33-2DNA分析用
79	39-2	地区不明			哺乳綱	目不明	不明	不明	骨冠部破片	0.23	不明	不明			
95	1-5				哺乳綱	目不明	不明	歯牙	歯冠・歯根破片（上下不明）	1.23	不明	不明			（細片）　フローティションによる抽出
101	2-5	C-10	CB	上層	哺乳綱	中型　目不明	不明	歯牙	歯冠・歯根破片（上下不明）	0.27	不明	不明			（細片）
43	25-6	C-7	CB	上層	哺乳綱	哺乳類（中型）目不明	不明	不明	骨幹部	0.35	不明	sp	白色	不能	
42	25-5	C-7	CB	上層	哺乳綱	哺乳類（中型）目不明	不明	頭蓋骨	骨幹部破片	1.24	不明	sp	白色	不能	

成長度　f：化骨化　uf：化骨化未了　　cm:カットマーク（切創）　sp:スパイラル剥片　　Viv:藍鉄鉱折出　　上下不明：上顎骨か下顎骨か不明
色調　normal：変化なし

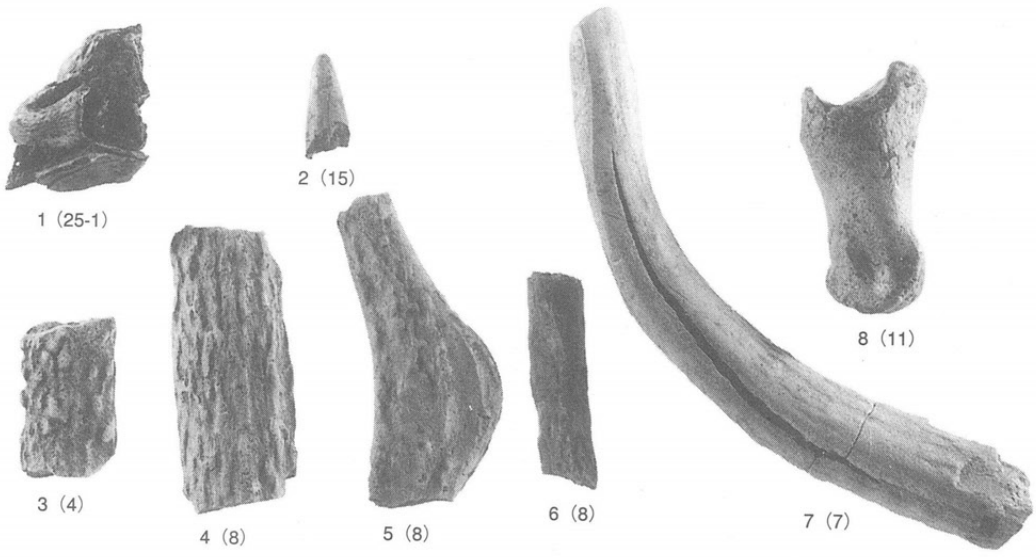


図版１　出土ハイガイ圧痕（１～３　a：シリコンによる陽像　b：圧痕）
図版中の（ ）内の数字は試料番号を示す。



scale 0.9×

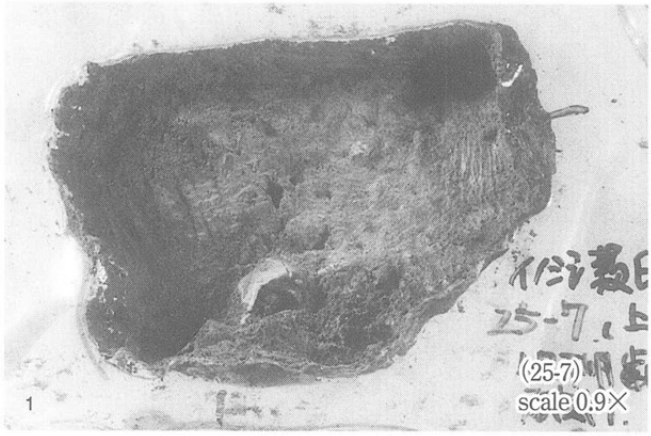
イノシシ類　1～5　上顎第3後臼歯（1・2・5：左　3・4：右）
6　上顎第2後臼歯（左）　7　上顎第3前臼歯（左）　8　上顎第2切歯（右）
9　上顎骨破片（右：第3後臼歯歯槽）　10　左下顎骨関節突起



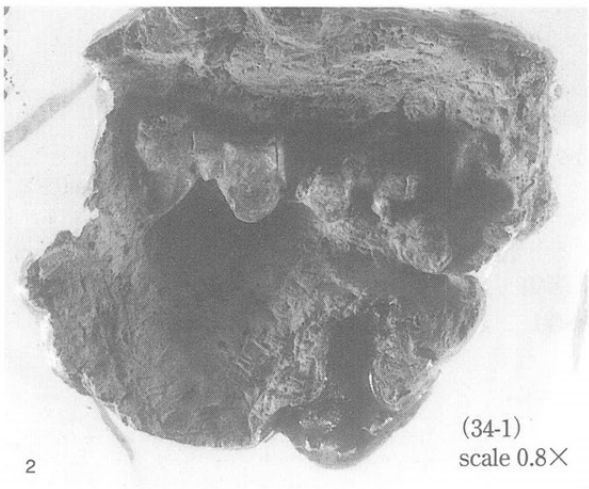
scale 1×

ニホンジカ　1　右上顎臼歯破片　2～7　角
（2：尖頭部　3～6：角幹部　7：小枝部）
8　左中節骨

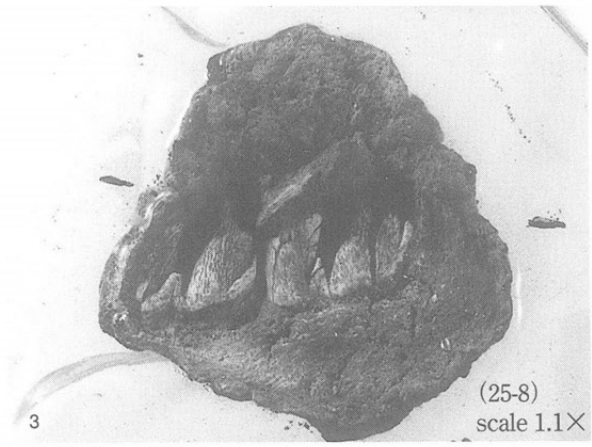
図版2　出土イノシシ類・ニホンジカ　図版中の（　）内の数字は試料番号を示す。



1 イノシシ類　臼歯　歯冠部破片
（上下顎不明）



2 イノシシ類　左上顎　第４前臼歯
第１・２後臼歯



3 ニホンジカ
右下顎　第２・３後臼歯

4 イノシシ類臼歯
（目不明上下顎不明）

図版３　出土哺乳類臼歯（すべて冷間埋込用樹脂で片面包埋処理）
図版中の（　）内の数字は試料番号を示す。

付載３．矢掛町清水谷遺跡における花粉分析

岡山理科大学理学部　守　田　益　宗

矢掛町清水谷遺跡環濠下層（弥生時代前期後半）よりサンプルした試料は、KOH - $ZnCl_2$ - Acetolysis法を用いて処理した。検出された花粉・胞子は表に示したように、高木花粉10種類、低木花粉５種類、草木花粉８種類、シダ胞子２種類ある。いずれの試料でも花粉・胞子の含量が少ない。このような試料では、花粉・胞子の選択的な分解や堆積がおこっていることが多く、当時の植生を十分に語ることはできない。

栽培植物については、イネ属型のイネ科花粉が検出されている。その他注目すべきものは、キュウリ属とオナモミ属である。キュウリ属は栽培のものかどうかは不明であるが、いわゆる雑草メロンとしてオナモミ属とともにしばしば畑地雑草としてみとめられるからである。また、食用になるブドウ属もやや多く検出されている。

表１．花粉分析結果

学名	和名	環濠下層－31	環濠下層－32
Pinus	マツ属	1	1
Tsuga	ツガ属	1	
Podocarpus	マキ属	1	
other Carpinus	クマシデ属	1	
Fagus crenata type	ブナ型	1	
Quercus	コナラ亜属	86	11
Cyclobalanopsis	アカガシ亜属	7	10
Castanea	クリ属	8	
Zelkova	ケヤキ属	1	
Celtis - Aphananthe	エノキ属・ムクノキ属	1	
Myrica	ヤマモモ属	1	1
Alnus	ハンノキ亜属	1	
Mallotus	アカメガシワ属		1
Vitis	ブドウ属	20	
Araliaceae	ウコギ科	1	
Gramineae (Oryza type)	イネ属型	5	3
Gramineae (Wild type)	野生型	14	5
Cyperaceae	カヤツリグサ科	1	1
Moraceae	クワ科	6	2
Leguminosae	マメ科	1	
Cucumis	キュウリ属		1
Umbelliferae	セリ科	3	1
Artemisia	ヨモギ属	69	14
Xanthium	オナモミ属	39	3
1 - lete typeFS	単条溝型シダ胞子	6	3
3 - lete typeFS	三条溝型シダ胞子	2	2
Trees	高木花粉	108	22
Shrubs	低木花粉	23	2
Herbs	草木花粉	138	30
Ferns	シダ胞子	8	5
Unknown	不明	30	5

第4表　土器観察表

番号	地区・グリッド	遺構	層位	器種	口径	器高	底径	胎土	調整外面	調整内面	焼成	色調外面	色調内面	備考
1	C-9	CB	下層	深鉢？				径2mm以下の石英、長石を多く含む	ナデ	ナデ	良好	暗褐色	暗褐色	縄文土器
2	E-5	CB	下層	蓋	11.4			径2mm以下の石英、長石を多く含み、径4mm前後の石英をわずかに含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	淡黄褐色	淡黄褐色	
3	C-7	CB	下層	蓋	8.1			径3mm以下の石英、長石を多量に含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ、ユビオサエ	良好	褐色	褐色	
4	E-6	CB	下層	蓋	10.7			径2mm以下の石英、長石を多く含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	明赤褐色	明褐色	
5	C-9	CB	下層	壷	13.0			径0.5～3㎜の長石、石英を多く含む	ナデ、ユビオサエ	ユビオサエ、ナデ	良好	明褐色	明褐色	
6	C-9	CB	下層	壷	11.5			0.5～3㎜の石英を多量、0,5～4㎜の長石を多量に含む	ナデ、ヨコナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	灰白色	薄黄白色	
7	D-6	CB	下層	壷	15.8			径2㎜以下の石英、長石を含む	ナデ、ミガキ	ミガキ	良好	赤褐色	赤褐色	
8	C-9	CB	下層	壷	18.0			径2㎜以下の砂粒を多く含む	ナデ、ミガキ	ユビオサエ、ナデ	良好	明褐色	明褐色	
9	C-9	CB	下層	壷	15.0			径0.5～2㎜の石英、長石を多く含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	褐色	明褐色	
10	F-5	CB	下層	壷	16.4			1～3㎜の石英、長石を多く含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	明褐色	明褐色	
11	D-6	CB	下層	壷	26.4			径0.5～3㎜の石英.長石を含み、赤色酸化粒をわずかに含む	ナデ	ナデ	良好	明褐色	明褐色	
12	E-5	CB	下層	壷	12.4			径0.5～3㎜の石英、長石を多く含む	不明	不明	良好	明褐色	明褐色	
13	F-5	CB	下層	壷	16.0			0.5～4㎜の石英、長石を多く含む	ミガキ	ミガキ	良好	明黄褐色	淡黄褐色	
14	D-6	CB	下層	壷	18.6			径1㎜前後の石英、長石、赤色酸化粒を多く含む	ユビオサエ、ナデ	不明	良好	明黄褐色	明黄褐色	
15	C-9	CB	下層	壷	14.7			0.5～3㎜の石英を多量に、0.5～5㎜の長石を中量含み、0.5～2㎜の赤色酸化粒を微量に含む	ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	淡橙色	薄黄色	
16	E-6	CB	下層	壷	16.4			径0.5～2㎜の石英、長石を多く含む	ナデ、ユビオサエ	ユビオサエ、ナデ	良好	明橙色	明褐色	
17	D-6	CB	下層	壷	19.2			径0.5～1㎜の長石、石英を多く含み、2㎜前後の長石、石英をわずかに含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	明褐色	明褐色	
18	H-6	CB	下層	壷	14.4			径1㎜前後の長石、石英、赤色酸化粒を多く含む	ナデ、ミガキ	ミガキ、ナデ	良好	明褐色	明褐色	
19	E-5	CB	下層	壷	13.4			径0,5～3㎜の石英、長石を多く含み、径0.5㎜以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ミガキ	ユビオサエ、ナデ、ミガキ	良好	明褐色	明褐色	
20	C-9	CB	下層	壷	15.3			0.5～5mm大の石英を中量、0.5～3㎜大の長石を少量含む	ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	橙色	薄黄色	
21	C-9	CB	下層	壷				0.5～3㎜の長石、石英を多く含む	ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	明褐色	明褐色	
22	C-7	CB	下層	壷				1.5㎜以下の石英、長石、赤色酸化粒を含む	ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	明褐色	明褐色	
23	C-9	CB	下層	壷				0.5～3㎜の長石、石英を多く含み、1㎜前後の雲母をわずかに含む	ナデ	ナデ	良好	明褐色	明褐色	
24	C-9	CB	下層	壷				0.5～2㎜の長石、石英、赤色酸化粒を多く含む	ミガキ、ナデ	ミガキ	良好	橙色	橙色	
25	C-9	CB	下層	壷				1㎜以下の石英、長石を多く含み、3㎜前後の石英をわずかに含む	ナデ	ミガキ	良好	明褐色	明褐色	

番号	地区・グリッド	遺構	層位	器種	口径	器高	底径	胎土	調整外面	調整内面	焼成	色調外面	色調内面	備考
26	C-10	CB	下層	壷				径1mm以下の石英、長石を多く含む	ナデ	ナデ	良好	茶褐色	茶褐色	
27	E-5	CB	下層	壷				3㎜以下の石英、長石を多く含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	淡黄褐色	明褐色	
28	E-6	CB	下層	壷	14.4			径0.5～3㎜の石英、長石を多く含む	ユビオサエ、ナデ	ミガキ	良好	褐色	褐色	
29	E-6	CB	下層	壷	18.0			径2㎜以下の長石、石英を多く含む	ユビオサエ、ミガキ、ナデ	ユビオサエ、ミガキ	良好	明褐色	明褐色	
30	C-10	CB	下層	壷	18.0			3mm以下の石英を多く含み、1mm以下の長石を含む	ナデ	ナデ	やや良好	淡黄褐色	淡黄褐色	
31	C-9	CB	下層	壷	15,8			0.5～4㎜の石英を中量、0.5～3㎜の長石を多量に含む	ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	明褐色	明褐色	
32	C-9	CB	下層	壷	17.2			0.5～3㎜の石英、長石を多く含む	ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	明褐色	淡黄褐色	
33	C-9	CB	下層	壷	17.0			0.5～3㎜の石英を少量、0.5～4㎜の長石を多量に含み、また赤色酸化粒を多量に含む	ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	明褐色	明褐色	
34	C-7	CB	下層	壷	17.0			0.5～2㎜の長石、石英、赤色酸化粒を多く含み、5㎜前後の長石をわずかに含む	ナデ	不明	良好	明褐色	明褐色	
35	E-6	CB	下層	壷	19.0			0.5～3㎜の長石、石英を多く含む	ナデ	ナデ	良好	明褐色	にぶい褐色	
36	C-9	CB	下層	壷	16.6			0.5～2㎜の石英を含み、0.5～2㎜の長石をわずかに含む	ナデ	ナデ	良好	明褐色	にぶい薄橙色	
37	C-9	CB	下層	壷				1㎜以下の長石、石英を多く含み、2㎜前後の長石をわずかに含む	ナデ	ナデ	良好	明橙色	明黄褐色	
38	C-10	CB	下層	甕				径1mm以下の石英をわずかに含み、0.5mm以下の長石を多く含む	ナデ	ナデ	良好	赤褐色	暗褐色	
39	C-9	CB	下層	壷				径0.5～1㎜の石英、長石を含む	ナデ	ナデ	良好	明橙色	明橙色	
40	D-6	CB	下層	壷				2㎜以下の石英・長石を多く含む	ナデ	ナデ	良好	淡黄褐色	淡黄褐色	
41	H-7・H-6	CB	下層	壷				3㎜以下の石英、長石を多く含み、赤色酸化粒を含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	明褐色	黒褐色	
42	C-10	CB	下層	甕				径2mm以下の石英、長石を多く含む	ナデ	ナデ	良好	淡黄褐色	明褐色	
43	H-6	CB	下層	壷				3㎜以下の石英、長石を多く含み、赤色酸化粒を含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	明褐色	淡黄褐色	
44	E-6	CB	下層	壷				3㎜以下の石英、長石を含む	ミガキ	ユビオサエ、ナデ	良好	明褐色	明褐色	スス付着
45	E-6	CB	下層	壷			9.2	0.3～3mmの石英と赤色酸化粒と0.5～5mmの長石を少量含む	ミガキ	ユビオサエ、ミガキ	良好	灰黄褐色	浅黄色	
46	E-6	CB	下層	壷			6.3	0.5～4㎜の石英と長石を中量含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	明褐色	明褐色	
47	E-6	CB	下層	壷			8.3	0.5～5㎜大の石英と長石を多量に、0.5～2㎜の赤色酸化粒を微量に含む	ナデ	ユビオサエ	良好	明褐色	明灰褐色	
48	E-6	CB	下層	壷			8.7	0.5～4㎜の石英を多量に、0.5～5㎜の長石を多量に含む	ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	明褐色	明褐色	
49	C-10	CB	下層	壷			7.8	0.5～3㎜の石英と長石を多量に含む	不明	ナデ、ユビオサエ	良好	明褐色	明褐色	
50	F-5,F-6	CB	下層	壷			7.3	径0.5～3mmの石英、長石を多く含む	ミガキ、ナデ	ミガキ	良好	褐色	明褐色	

番号	地区・グリッド	遺構	層位	器種	口径	器高	底径	胎土	調整外面	調整内面	焼成	色調外面	色調内面	備考
51	E-6	CB	下層	壷			10.2	0.5～4㎜の石英を中量、0.5～6mmの長石を中量含む	ナデ、ミガキ	ミガキ、ユビオサエ	良好	明褐色	明灰褐色	
52	E-6	CB	下層	壷			7.6	0.5～2㎜の石英が少量、0.5～3㎜の長石を中量含む	ナデ、ヨコナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	明褐色	明褐色	
53	C-7	CB	下層	壷			4.7	径1mm以下の石英，長石を多く含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	橙色	赤褐色	
54	E-6	CB	下層	壷			6.9	0.5～2㎜の石英を少量、0.5～3㎜の長石を中量、0.5～3㎜の赤色酸化粒を微量に含む	ナデ,ミガキ	ナデ,ユビオサエ	良好	褐色	にぶい橙色	
55	E-6	CB	下層	壷			10.2	0.5～3㎜大の石英と長石を多量に含む	ナデ、ヨコナデ	ナデ、ユビオサエ、ミガキ	良好	明褐色	にぶい薄橙色	
56	H-6	CB	下層	壷				2㎜以下の石英、長石を多く含む、赤色酸化粒を含む	ナデ	ユビオサエ	良好	明橙色	灰褐色	
57	E-6	CB	下層	壷			8.1	0.5～2㎜の石英及び0.5～3㎜の長石を少量、また0.5～5mmの赤色酸化粒を微量に含む。	ミガキ、ヨコナデ	ミガキ	良好	明褐色	明褐色	
58		CB	下層	壷			8.1	0.5～3mmの石英、長石を多く含み、1mm以下の赤色酸化粒を含む	ナデ、ミガキ	ナデ	良好	明褐色	明褐色	穿孔あり
59	E-6	CB	下層	蓋			7.0	0.5～3㎜の長石、石英を多量に含む	ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	橙色	橙色	
60	C-7	CB	下層	蓋	4.4			径2mm以下の石英、長石を多く含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	明褐色	明褐色	
61	F-5・F-6	CB	下層	蓋	5.4			径1mm以下の長石、石英を多く含み、径2～5mmの長石をわずかに含む	ナデ、ユビオサエ、ミガキ	ミガキ、ナデ	良好	明褐色	明褐色	スス付着
62	C-9	CB	下層	蓋	22.0			0.5～2㎜の石英、長石を微量に含み、また赤色酸化粒を微量に含む	ナデ、ヨコナデ	ナデ、ミガキ	良好	明褐色	明褐色	端部にスス付着
63	C-7	CB	下層	蓋	23.2			径2mm以下の石英、長石を多く含む	不明	不明(ミガキか？)	良好	にぶい赤褐色	暗褐色	スス付着
64	D-6	CB	下層	蓋	27.4			径1mm以下の石英、長石を多く含む	ナデ	ナデ	良好	にぶい赤褐色	淡赤褐色	スス付着
65	C-9	CB	下層	甕				径2mm以下の石英、長石を多く含む	不明	不明	良好	明褐色	明褐色	
66	C-10	CB	下層	甕				1mm以下の長石を多く含み、1mm以下の石英をわずかに含む	ナデ	ナデ	良好	明褐色	明褐色	
67		CB	下層	甕	28.8			0.5～4mmの石英を少量含む	ヨコナデ、ユビオサエ，ナデ	ユビオサエ、ヨコナデ，ナデ	良好	黄灰色	黒褐色	
68	F-5	CB	下層	甕	22.0			2㎜以下の石英、長石を多く含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	暗褐色	明褐色	
69	C-9	CB	下層	甕	40.1			0.5～2㎜の石英、長石を含む	ユビオサエ、ナデ	ミガキ	良好	明褐色	明褐色	
70	C-9	CB	下層	甕	19.0			径1mm以下の石英、長石を多く含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	暗褐色	茶褐色	スス付着
71		CB	下層	甕	18.1			0.5～3mmの石英と0.5～2.5mmの長石を中量、0.5～3mmの赤色酸化粒を少量含む	不明	ユビオサエ、ナデ	良好	明黄褐色	にぶい黄橙色	
72	E-6	CB	下層	甕	18.0			径0.5～3mmの石英、長石を含む	ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	明褐色	明褐色	スス付着
73	C-7	CB	下層	甕	19.2			0.5～3㎜の長石、石英を多く含む	ハケメ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	暗褐色	茶褐色	
74	E-6	CB	下層	甕	31.8			径3mm前後の石英、長石を多く含む	ナデ、ハケメ	ナデ、ケズリ	良好	明褐色	褐色	スス付着
75	E-5	CB	下層	甕	22.8			0.5～4㎜の石英を少量、0.5～2㎜の長石を多量に含み、また0.5～3㎜の赤色酸化粒を微量に含む	ナデ	ナデ	良好	暗褐色	暗褐色	

番号	地区・グリッド	遺構	層位	器種	口径	器高	底径	胎土	調整外面	調整内面	焼成	色調外面	色調内面	備考
76		CB	下層	甕	38.4			0.5～4mmの石英を中量、0.5～2mmの長石を少量含む	ヨコナデ，ナデ、ユビオサエ	ユビオサエ、ナデ	良好	灰白色	灰白色	
77	D-6・C-7	CB	下層	甕	18.0			0.5～2㎜の石英、長石を多く含む	ナデ	ナデ	良好	暗褐色	褐色	
78	D-6	CB	下層	甕	24.8			径0.5～4mmの石英、長石を多く含む	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	良好	褐色	明褐色	スス付着
79	E-5・D-6	CB	下層	甕	33.4			3㎜以下の石英、長石を非常に多く含む	ナデ	ユビナデ、ナデ	良好	淡黄褐色	明褐色	
80	H-7	CB	下層	甕				0.5～4mmの石英を中量、0.5～1.5mmの長石を少量含む	ヨコナデ、ナデ	ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
81	F-5・F-6	CB	下層	甕	22.0			径2mm以下の石英、長石を多く含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	灰黄褐色	褐灰色	
82	F-5・F-6	CB	下層	甕				径3mm以下の石英、長石を多く含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	灰黄褐色	にぶい黄褐色	スス付着
83	C-7	CB	下層	甕	21.0			0.5～3㎜の長石、石英を含む	ハケメ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	褐色	褐色	
84	F-5	CB	下層	甕	25			径0.5～4mmの石英、長石を多く含む	不明	不明	良好	暗褐色	暗褐色	
85	E-6	CB	下層	甕	30.8			0.5～3.5mmの石英と4mm以下の長石を中量、1.5mm以下の雲母と赤色酸化粒をわずかに含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ハケメ	ユビオサエ、ナデ	良好	灰褐色	にぶい黄橙色	スス付着
86	F-5・F-6	CB	下層	甕	24.2			径0.5～2mmの石英、長石を多量に含む	ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	褐色	褐色	スス付着
87	C-7・C-8	CB	下層	甕	27.8			径2mm以下の石英、長石を多く含む。径1mm以下の赤色酸化粒を多く含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	橙色	浅黄橙色	
88	D-6	CB	下層	甕				径3mm以下の石英、長石を含む	ミガキ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
89	E-6	CB	下層	甕	33.0			径2mm以下の長石、石英を多く含む	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	良好	淡橙色	淡橙色	
90	C-10	CB	下層	甕	21.8			径1mmの石英、長石をわずかに含む。緻密	ユビオサエ，ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい橙色	にぶい褐色	スス付着
91	F-5・F-6	CB	下層	甕				径3mm以下の長石、石英、赤色酸化粒を多く含む	ユビオサエ，ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい橙色	浅黄橙色	
92	C-9	CB	下層	甕				径2mm以下の長石、石英を多く含む。径1mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ナデ	ユビオサエ	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	
93	C-9	CB	下層	甕				径1mm以下の石英、長石を多く含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	褐灰色	褐灰色	
94	F-5	CB	下層	甕				径1mm以下の長石、石英を多く含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	灰黄褐色	
95	C-10	CB	下層	甕				径1mm以下の石英、長石を多く含む	ユビオサエ，ナデ	ナデ	良好	にぶい橙色	褐灰色	
96	F-5	CB	下層	甕				径2mm以下の長石、石英を多く含む	ナデ	ナデ	良好	橙色	橙色	
97	C-7	CB	下層	壷？			4.1	径0.5～3mmの石英、長石を多く含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	明褐色	明褐色	
98	D-6	CB	下層	甕			6.0	0.5～3㎜の石英、長石を非常に多く含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	明褐色	明褐色	
99	E-6	CB	下層	甕			5.7	0.5～3㎜の石英を多量、0.5～3㎜の長石を少量含む	ナデ,ヨコナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	淡橙色	淡橙色	
100	E-6	CB	下層	甕			7.3	0.5～3㎜の石英と長石を多量にふくむ	ナデ	ナデ,ユビオサエ	良好	橙色	明褐色	

番号	地区・グリッド	遺構	層位	器種	口径	器高	底径	胎土	調整外面	調整内面	焼成	色調外面	色調内面	備考
101	E-6	CB	下層	甕？			7.1	0.5～3㎜の石英、0.5～4㎜の長石を多量に含む	ナデ、ヨコナデ	ユビオサエ	良好	にぶい橙色	橙色	内面にスス付着
102	E-6	CB	下層	不明			9.3	0.5～7㎜の石英と長石を多量にふくむ	ナデ		良好	赤褐色	明褐色	
103	E-6	CB	下層	不明			7.9	0.5～4㎜の石英を中量、0.5～3㎜の長石を中量含み、また0.5～2㎜の赤色酸化粒を微量に含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	明褐色	明褐色	穿孔あり
104	C-7・C-8	CB	下層	甕			8.4	0.5～3㎜の石英、長石を多く含む	ナデ	ナデ	良好	明褐色	明褐色	穿孔あり
105	E-5	CB	下層	甕			7.7	0.5～2㎜の石英を少量、0.5～2㎜の長石を中量含む	ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	明褐色	明褐色	
106	H-6	CB	下層	鉢	22.4	16.0	7.6	径2mm以下の石英、長石、雲母を多く含む	ユビオサエ、ナデ、ミガキ	ユビオサエ、ミガキ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	スス付着
107	E-6	CB	下層	鉢	52.8			0.5～3mmの石英と4mm以下の長石を中量含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ミガキ	ユビオサエ、ミガキ	良好	にぶい黄橙色	灰黄色	スス付着
108	F-5・F-6	CB	下層	不明			3.8	径1mm以下の石英、長石を含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	暗褐色	明褐色	スス付着
109	F-5・F-6	CB	下層	不明				径2mm以下の石英、長石を多く含む	ナデ	ユビナデ	良好	淡黄褐色	淡黄褐色	
110	C-7	CB	上層	蓋	11.2			0.5～4mmの石英と長石を多く含む	ユビオサエ	ナデ、ユビオサエ	良好	にぶい黄橙色	明黄褐色	
111	C-8	CB	上層	蓋	11.0			0.5～3mmの石英と0.5～2mmの長石を中量含む	ナデ、ユビオサエ	ユビオサエ、ナデ	良好	灰白色	にぶい黄橙色	
112	F-5	CB	上層	蓋	9.0			0.5～7mmの石英と2mm以下の長石を中量含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ、ユビオサエ	良好	灰黄色	灰黄色	
113	E-6	CB	上層	蓋	11.2			0.5～4mmの石英と0.5～3.5mmの長石を中量、1mm大の赤色酸化粒をわずかに含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ、ユビオサエ	良好	褐灰色	褐灰色	
114	F-5	CB	上層	蓋	9.4			0.5～4mmの石英と0.5～1.5mmの長石を中量含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ、ユビオサエ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
115	C-7	CB	上層	蓋	7.6			0.5～3mmの石英と2.5mm以下の長石を中量、3.5mm以下の赤色酸化粒を少量含む	ユビオサエ	ユビオサエ	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	
116	G-5	CB	上層	蓋	10.0			0.5～5.5mmの石英と0.5～2mmの長石を中量含む	ナデ、ユビオサエ	ユビオサエ	良好	浅黄色	黒褐色	
117	E-5	CB	上層	蓋	12.4			0.5～3.5mmの石英を中量、0.5mm以下の赤色酸化粒を少量含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ、ユビオサエ	良好	赤橙色	浅黄橙色	
118	C-7	CB	上層	蓋	7.4			2mm以下の赤色酸化粒を中量含む	ナデ、ユビオサエ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	
119	D-5	CB	上層	蓋	8.7			2mm以下の石英と長石を少量、0.5～2.5mmの赤色酸化粒を微量含む	ナデ	ミガキ、ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
120	E-5	CB	上層	蓋	9			0.5～3mmの石英と0.5mm以下の長石を少量含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	黒褐色	
121	C-8	CB	上層	蓋	13.2			0.5～6mmの石英と1mm以下の長石を中量含む	ナデ、ユビオサエ	ユビオサエ、ミガキ	良好	黄灰色	灰色	
122	C-10	CB	上層	壷	17.2			0.5～2㎜大の長石、石英を多量に含む。また赤色粒も少量含む	ユビオサエ、ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	淡灰橙色	淡灰色	
123	C-10	CB	上層	壷	12.8	23.9	7.8	0.5～3㎜大の石英、長石を含む	ナデ、ユビオサエ、ミガキ	ナデ、ユビオサエ	良好	明褐色	明褐色	
124	C-9	CB	上層	壷	17.4			0.5～5mmの石英と0.5～2.5mmの長石を中量含む	ミガキ、ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	ミガキ、ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	浅黄色	
125	C-10	CB	上層	壷	14.4			0.5～3mmの石英と長石を中量、2mm以下の赤色酸化粒を中量含む	ナデ、ユビオサエ？	ミガキ、ナデ、ユビオサエ	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	

番号	地区・グリッド	遺構	層位	器種	口径	器高	底径	胎土	調整外面	調整内面	焼成	色調外面	色調内面	備考
126	D-5・E-6	CB	上層	壷	13.6			0.5～3.5mmの石英と長石を中量、2.5mm以下の赤色酸化粒を少量含む	ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	灰白色	灰白色	
127	C-9	CB	上層	壷	12.0			0.5～3mmの長石と0.5～2.5mmの長石を中量含む	ミガキか？	ユビオサエ、ミガキ？	良好	灰黄色	にぶい黄橙色	
128	E-5	CB	上層	壷	17.8			0.5～5mmの石英を中量、0.5～2mmの長石を少量含む	ナデ	ユビオサエ？、ナデ	良好	赤橙色	浅黄橙色	
129	F-5	CB	上層	壷	11.0	15.1	6.2	3㎜以下の石英、長石を多量に含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	明黄褐色	明黄褐色	
130	C-9	CB	上層	壷	10.2			0.5～3.5mmの石英を中量、1mm以下の長石と0.5～2.5mmの赤色酸化粒を少量含む	ユビオサエ	ユビオサエ	良好	灰白色	灰白色	
131	H-6	CB	上層	壷				0.5～5mmの石英と0.5～2mmの長石を中量含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	灰黄褐色	橙色	
132	E-5	CB	上層	壷		21.2	7.7	0.5～3㎜大の石英、長石を多く含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ、ユビオサエ	良好	赤褐色	赤褐色	
133	C-8	CB	上層	壷			5.6	0.5～7.5mmの石英を中量、0.5～6mmの赤色酸化粒を少量含む	ナデ、ミガキ	ユビオサエ、ナデ	良好	浅黄色	黄灰色	
134	C-8	CB	上層	壷			6.8	0.5～4mmの石英と0.5～3mmの長石を多量含む	ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	橙色	橙色	
135	C-8	CB	上層	壷	14.4			0.5～3mmの石英を多量、0.5～2mmの長石を中量、0.5～2mmの赤色酸化粒を少量含む	ナデ？	ナデ？	良好	にぶい黄橙色	灰白色	
136	F-5	CB	上層	壷	18.8			0.5～3.5mmの石英と0.5～2.5mmの長石を中量、0.5～3mmの赤色酸化粒を少量含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	橙色	橙色	
137	D-6	CB	上層	壷	17.6			0.5～3.5mmの石英を中量、1mm以下の長石を少量含む	不明	ナデ	良好	褐灰色	灰黄褐色	
138	C-10	CB	上層	壷	17.0			径3mm以下の石英、長石を多く含む	ミガキ、ナデ	ナデ、ミガキ	良好	灰黄褐色	にぶい黄橙色	
139	E-5	CB	上層	壷	13.2			2mm以下の長石、石英を多く含み、1mm以下の赤色酸化粒を含む	ナデ、ミガキ？	ミガキ、ユビオサエ、ナデ	良好	橙色	にぶい黄橙色	
140	C-10	CB	上層	壷	12.0			3㎜以下の石英、長石を多量に含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ、ケズリ	良好	淡黄褐色	淡黄褐色	
141	E-6	CB	上層	壷	12.8			2mm以下の石英、長石を多く含む	ミガキ、ナデ	ナデ、ユビナデ、ユビオサエ	良好	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	
142	C-8	CB	上層	壷	15.8			0.5～2.5mmの石英を中量、0.5～1mmの長石を少量、0.5～1mmの赤色酸化粒を微量含む	ナデ	ナデ	良好	にぶい黄橙色	浅黄橙色	
143	F-5	CB	上層	壷	13.4			0.5～4mmの石英と0.5mm大の長石を少量、0.5～2.5mmの赤色酸化粒を中量含む	ミガキか？	ミガキか？	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	
144	C-8・C-9	CB	上層	壷	15.8			0.5～3.5mmの石英と0.5mm大の長石と0.5～2.5mmの赤色酸化粒を少量含む	ナデ、ミガキ	ミガキ、ユビオサエ、ナデ	良好	浅黄橙色	淡橙色	
145	C-10	CB	上層	壷	21.0			0.5～2㎜大の長石、石英を多量に含む	ユビオサエ、ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	良好	淡橙色	淡橙色	
146	D-5	CB	上層	壷	13.8			0.5～3mmの石英と長石を多量に、0.5～1.5mmの赤色酸化粒を微量含む	ナデ？	ナデ	良好	灰褐色	灰黄褐色	
147	E-5	CB	上層	壷	22.0			径0.5～4mmの石英、長石を多く含む	ナデ	ナデ	良好	橙色	赤褐色	
148	D-5	CB	上層	壷	14.2			0.5～2mmの石英、長石と、1mm以下の赤色酸化粒を含む	ミガキ	ミガキ	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄橙色	
149	E-6	CB	上層	壷	11.6			2mm以下の石英、長石を多く含み、1mm以下の赤色酸化粒を含む	ユビオサエ、ミガキ？	ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	スス付着
150	C-10	CB	上層	壷	12.8			0.5～5mmの石英と0.5～4mmの長石を少量、0.5～2mmの赤色酸化粒を少量含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	褐灰色	にぶい黄橙色	

番号	地区・グリッド	遺構	層位	器種	口径	器高	底径	胎土	調整外面	調整内面	焼成	色調外面	色調内面	備考
151	C-8	CB	上層	壷	13.4			0.5～3mmの石英と0.5～2mmの長石を少量、0.5～2mmの赤色酸化粒を微量含む	ミガキ	ユビオサエ、ナデ	良好	褐灰色	橙色	
152	E-5	CB	上層	壷	21.0			0.5～6mmの石英を多量に、0.5～3mmの長石を中量含む	ヨコナデ、ユビオサエ, ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	
153	E-5	CB	上層	壷	13.9			0.5～4mmの石英と0.5～3mmの長石を中量、0.5～2mmの赤色酸化粒を微量含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	浅黄橙色	
154	D-5	CB	上層	壷	15.2			0.5～3mmの石英、長石を多く含み、1mm前後の赤色酸化粒を含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ、ユビオサエ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
155	F-5	CB	上層	壷	20.0			0.5～2mmの長石、石英を多く含み、径5mm前後の長石、石英をわずかに含む	ミガキ	不明	良好	にぶい赤褐色	橙色	
156	E-5	CB	上層	壷	17.0			3mm以下の長石、石英を多く含み、5mm前後の長石をわずかに含む	不明	ナデ、ユビオサエ	良好	橙色	にぶい橙色	
157	C-7	CB	上層	壷	14.6			0.5～6mmの石英と1.5mm以下の長石を中量、0.5～3mmの赤色酸化粒を多量含む	ユビオサエ、ナデ、ミガキ？	ユビオサエ、ナデ、ミガキ	良好	浅黄橙色	灰白色	
158	E-6・D-6	CB	上層	壷	17.6			3mm以下の石英、長石を多量に含む、赤色酸化粒をわずかに含む	ナデ、ユビオサエ	ユビオサエ、ナデ	良好	明褐色	明褐色	
159	F-5	CB	上層	壷	16.2			0.5～4mmの石英と0.5～1.5mmの長石を中量、1mm以下の赤色酸化粒を微量含む	ナデ	ナデ、ユビオサエ？	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	
160	D-6	CB	上層	壷	16.8			0.5～4mmの石英を多量、0.5～2mmの長石を中量含む	ユビオサエ、ナデ	ナデ、ユビオサエ	やや良好	浅黄橙色	浅黄橙色	
161	C-8	CB	上層	壷	15.8			0.5～4mmの石英と0.5～3mmの長石を中量、0.5～2.5mmの赤色酸化粒を少量含む	ユビオサエ、ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	橙色	浅黄橙色	
162	E-5	CB	上層	壷	17.9			0.5～4mmの石英と0.5～2mmの長石を少量、0.5～1mmの赤色酸化粒を微量含む	ミガキか？	ユビオサエ、ナデ？	良好	灰黄褐色	にぶい黄橙色	
163	E-5	CB	上層	壷	20.0			径0.5～4mmの石英、長石を多く含み、径1mm前後の赤色酸化粒を含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	
164	G-5	CB	上層	壷	20.4			0.5～4mmの石英、長石を多量含む	ミガキ、ナデ	ユビオサエ、ミガキ	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	
165	D-6	CB	上層	壷	11.6	21.8	6.7	3mm以下の石英、長石を多量に含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	明褐色	明褐色	
166	E-5	CB	上層	壷	16.6			0.5～4mmの石英、長石を多く含む	ナデ、ユビオサエ	ユビナデ, ナデ	やや良好	浅黄橙色	浅黄橙色	
167	D-6	CB	上層	壷	16.6			0.5～6mmの石英と1.5mm以下の長石を少量含む	ユビオサエ、ナデか？	ユビオサエ、ナデ	良好	浅黄橙色	橙色	
168	E-6	CB	上層	壷	18.4			0.5～4mmの石英と0.5～3mmの長石を中量含む	ナデ、ユビオサエ	ユビオサエ？、ナデ	良好	にぶい黄橙色	褐灰色	
169	C-8	CB	上層	壷	17.6			0.5～1mmの長石、石英を多く含み、2～3mm前後の石英、長石を含む	ナデ	ナデ	良好	にぶい黄橙色	灰黄褐色	
170	C-9	CB	上層	壷	12.1			径0.5～4mmの石英、長石を多く含む	ナデ	ナデ	良好	黒褐色	褐灰色	
171	D-5	CB	上層	壷	13.8			0.5～5mmの石英と2mm以下の長石を多量、0.5～2mmの赤色酸化粒を中量含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	
172	F-6	CB	上層	壷	17.6			0.5～2.5mmの石英を多量、0.5～1mmの長石を中量含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	黄橙色	橙色	
173	E-5	CB	上層	壷	20.2			0.5～4mmの石英と0.5～2mmの長石を中量、1mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	灰白色	灰白色	
174	E-6	CB	上層	壷	16.8			0.5～6mmの石英と0.5～2mmの長石を多量含む	不明（ナデか？）	ユビオサエ、ナデ	良好	灰褐色	黄灰色	
175	C-9	CB	上層	壷	20.7			0.5～3mmの石英を多量、0.5～2mmの長石を少量含む	ナデ	ナデ	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	

番号	地区・グリッド	遺構	層位	器種	口径	器高	底径	胎土	調整外面	調整内面	焼成	色調外面	色調内面	備考
176	C-9	CB	上層	壷				0.5～5mmの石英と0.5～3.5mmの長石を多量、3mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	不明(ナデか？)	ナデ、ユビオサエ	良好	灰白色	灰白色	
177	E-5	CB	上層	壷				0.5～3mmの石英と0.5～2mmの長石を中量、0.5～2.5mmの赤色酸化粒を少量含む	ユビオサエ、ミガキ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	灰白色	
178	G-5	CB	上層	壷	20.0			0.5～1mmの長石、石英を多く含み、3mm前後の石英、長石をわずかに含む	ナデ	ユビナデ，ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい橙色	
179	F-6	CB	上層	壷	16.8			0.5～3mmの石英と0.5～4mmの長石を中量、0.5～2.5mmの赤色酸化粒を微量含む	不明(ミガキか？)	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい橙色	灰白色	
180	E-6・E-5	CB	上層	壷	16.0			2mm以下の石英、長石を多く含み、1mm以下の赤色酸化粒を含む	ユビオサエ、ナデ	ナデ	良好	灰黄褐色	にぶい黄橙色	
181	C-7	CB	上層	壷	20.4			0.5～1mmの石英をわずかに含み、0.5～2mmの長石を中量含む。緻密。	ミガキ、ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ミガキ	良好	明赤褐色	明赤褐色	
182	E-6	CB	上層	壷	16.4			2mm以下の長石、石英を多く含む	ミガキ	ユビナデ，ミガキ	良好	灰黄褐色	灰褐色	
183	E-5	CB	上層	壷	13.8			0.5～3.5mmの石英と0.5～3mmの長石を中量含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	灰黄色	灰白色	
184	E-5	CB	上層	壷				0.5～3.5mmの石英と0.5～2mmの長石を多量含む	ナデ？	ナデ？	良好	にぶい橙色	にぶい褐色	
185	F-5	CB	上層	壷	19.6			0.5～4mmの石英と0.5～2.5mmの長石を中量含む	ミガキ？	ミガキ、ナデ	良好	黄灰色	黄灰色	
186	E-5	CB	上層	壷	19.6			0.5～5mmの石英と0.5～4mmの長石を多量含む	ヨコナデ(ミガキ？)	ナデ	良好	橙色	浅黄橙色	
187	C-7	CB	上層	壷	39.0			0.5～3mmの石英と長石を中量、0.5～4.5mmの赤色酸化粒を少量含む	ミガキ	ユビオサエ、ナデ、ミガキ	良好	灰白色	にぶい橙色	
188	H-6	CB	上層	壷	17.8			0.5～5mmの石英を多量、0.5～2mmの長石と赤色酸化粒を少量含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
189	C-10	CB	上層	壷				0.5～5mmの石英と0.5～2mmの長石を多量に、0.5～1.5mmの赤色酸化粒を少量含む	ナデ	不明	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	
190	D-5	CB	上層	壷				0.5～5mmの石英を少量、2mm以下の長石を少量、1mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ナデ	ナデ	良好	灰白色	灰黄褐色	
191	F-5	CB	上層	壷				0.5～3mmの長石、石英を非常に多く含む	ナデ	ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
192	D-5	CB	上層	壷	22.6			0.5～5mmの石英と2mm以下の長石を中量含む	ユビオサエ、ナデ？	ユビオサエ、ミガキ？	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	
193	E-5	CB	上層	壷				0.5～3.5mmの石英と長石を多量含む	不明	不明	良好	橙色	にぶい橙色	
194	C-10	CB	上層	壷				0.5～1mmの石英、長石、赤色酸化粒を多く含む	ナデ	ナデ	良好	橙色	橙色	
195	C-9	CB	上層	壷				0.5～1mm前後の長石、石英を中量含む	ナデ	ナデ	良好	淡黄色	淡黄色	
196	D-5	CB	上層	壷				0.5～3mmの石英を中量、1.5mm以下の長石を少量、1mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ	良好	灰黄褐色	浅黄橙色	
197	F-5	CB	上層	壷				0.5～4mmの石英と0.5～3mmの長石を中量含む	ナデ？	ナデ	良好	明赤褐色	橙色	
198	E-5	CB	上層	壷				0.5～4.5mmの石英と長石を多量含む	ミガキ，ハケメか？	ミガキ、ユビオサエ	良好	浅黄橙色	にぶい橙色	
199	C-7	CB	上層	壷	13.4			0.5～3.5mmの石英を中量、0.5～1.5mmの長石を少量含む	ユビオサエ、ナデ	ミガキ、ユビオサエ	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	
200	C-8	CB	上層	壷	14.4			0.5～4mmの石英と長石を多量、0.5～3mmの赤色酸化粒を少量含む	ユビオサエ、ナデ？	ユビオサエ	良好	灰色	灰色	

番号	地区・グリッド	遺構	層位	器種	口径	器高	底径	胎土	調整外面	調整内面	焼成	色調外面	色調内面	備考
201	C-8	CB	上層	壷	17.2			0.5～3mmの石英と0.5～2mmの長石と0.5～2mmの赤色酸化粒を少量含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	淡黄色	橙色	
202	E-5	CB	上層	壷	18.4			0.5～4mmの石英と1mm以下の長石を多量、1.5mm以下の赤色酸化粒を少量含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	橙色	橙色	
203	E-6	CB	上層	壷	11.6			0.5～3mmの石英を中量含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	黒褐色	黒褐色	
204	E-5	CB	上層	壷	17.5			0.5～3.5mmの石英と0.5～2mmの長石を多量含む	ユビオサエ、ナデ？	ユビオサエ、ナデ？	良好	灰褐色	にぶい赤褐色	
205	E-5	CB	上層	壷	13.6	21.35	7.7	0.5～3㎜の石英、長石を非常に多く含む。また赤色酸化粒も含む	ナデ	ナデ	良好	明赤褐色	明赤褐色	
206	E-6	CB	上層	壷	13.8			0.5～4mmの石英と1mm以下の長石を多量含む	ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	褐灰色	褐灰色	
207	D-5	CB	上層	壷	13.3			0.5～2mmの石英と長石を中量、1mm以下の雲母をわずかに含む	ユビオサエ、ミガキ	ユビオサエ、ミガキ	良好	灰黄色	にぶい黄橙色	
208	D-6	CB	上層	壷	16.2			0.5～3.5mmの石英と0.5～3mmの長石を多量、1.5mm以下の赤色酸化粒を少量含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	
209	E-5	CB	上層	壷	22.1			0.5～2mmの石英と長石を中量含む	ミガキ	ユビオサエ、ミガキ	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	
210		CB	上層	壷	19.4			0.5～6mmの石英と0.5～5mmの長石を多量含む	ミガキ、ナデ、ヨコナデ	ナデ、ユビオサエ、ミガキ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
211	D-6	CB	上層	壷	13.1			0.5～4mmの石英と2.5mm以下の長石を中量、1mm大の赤色酸化粒をわずかに含む	ユビオサエ	ユビオサエ	良好	灰黄色	灰白色	
212	C-8	CB	上層	壷	22.1			1～3㎜大の長石を多く含み、1～2㎜大の石英も少量、また3～5mmの砂粒を含む	ヘラミガキ	ヘラミガキ、ユビオサエ	良好	明茶褐色	明茶褐色	
213	H-6	CB	上層	壷	21.2			2mm以下の石英と長石を多量含む	ユビオサエ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい橙色	
214	C-10	CB	上層	壷	21.0			0.5～5mmの石英と長石を中量、1mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ユビオサエ、ナデ	ナデ	良好	橙色	橙色	
215	E-6	CB	上層	壷	16.4			0.5～3mmの石英、長石を多く含む	ユビオサエ、ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	灰白色	灰白色	
216	C-9	CB	上層	壷	15.6			0.5～3.5mmの石英と1mm以下の長石を多量に、1mm以下の赤色酸化粒を少量含む	ユビオサエ、ナデ？	ナデ、ユビオサエ	良好	灰白色	灰白色	
217	E-6	CB	上層	壷	19.4			0.5～6mmの石英と2.5mm以下の長石を中量、1.5mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ミガキ、ヨコナデ	ミガキ、ユビオサエ、ナデ	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	
218	D-6	CB	上層	壷	17.2			2mm以下の石英、長石を含む	ナデ、ミガキ	ユビオサエ、ミガキ	良好	黒褐色	黒褐色	
219	E-5	CB	上層	壷	29.9			0.5～3mmの石英、長石を多く含む	ミガキ？	ナデ	良好	赤褐色	にぶい黄橙色	
220	E-6	CB	上層	壷				0.5～5mmの石英と長石を多量含む	ユビオサエ、ミガキ	ミガキ、ユビオサエ	良好	にぶい赤褐色	橙色	
221	E-5	CB	上層	壷				0.5～4mmの石英を多量、1mm以下の長石を中量含む	不明	ナデ、ユビオサエ	良好	灰白色	灰白色	
222	C-9	CB	上層	壷				0.5～3mmの長石、石英を中量含む	ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	浅黄橙色	にぶい橙色	
223	E-6	CB	上層	壷				0.5～4mmの石英と0.5～5mmの長石を多量、1.5mm以下の赤色酸化粒を少量含む	ユビオサエ？、ナデ(ミガキ？)、ヨコナデ	ユビオサエ、ミガキ	良好	にぶい褐色	浅黄橙色	
224	E-5	CB	上層	壷				0.5～5mmの石英と0.5～2mmの長石を中量含む	ナデ？	ナデ？、ユビオサエ？	良好	橙色	灰褐色	
225	E-5	CB	上層	壷				0.5～6mmの石英と0.5～5mmの長石を多量、0.5～3.5mmの赤色酸化粒を中量含む	ナデ、ミガキ	ナデ、ユビオサエ？、ミガキ	良好	灰黄褐色	灰褐色	

番号	地区・グリッド	遺構	層位	器種	口径	器高	底径	胎土	調整外面	調整内面	焼成	色調外面	色調内面	備考
226	E-5	CB	上層	壷				2mm以下の石英、長石、赤色酸化粒を多く含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	橙色	橙色	
227	E-5	CB	上層	壷				0.5～2mmの石英、長石を多く含む。1mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	不明	不明	やや良好	浅黄橙色	浅黄橙色	
228	C-10	CB	上層	壷				0.5～2mmの長石、石英を多く含む。1mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ミガキ	ミガキ、ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	浅黄橙色	
229		CB	上層	壷				0.5～3mmの石英、長石を多く含み、5mm前後の石英を含む	ナデ	ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
230	C-8・C-9	CB	上層	壷				0.5～3mmの石英、長石を多く含む。1mm以下の赤色酸化粒を含む	ナデ	ナデ	良好	浅黄橙色	にぶい黄橙色	
231	E-5	CB	上層	壷				0.5～2mmの石英、長石を多く含む	ミガキ	ユビオサエ、ナデ	良好	灰黄褐色	にぶい黄橙色	スス付着
232	E-5	CB	上層	壷				0.5～3mmの石英、長石を多く含む	不明	ナデ	良好	橙色	灰黄褐色	
233	D-5	CB	上層	壷				0.5～3mmの石英、長石を多く含む	ナデ	ナデ	良好	橙色	橙色	
234	E-5	CB	上層	壷				0.5～4mmの石英を多量に、0.5～3mmの長石と赤色酸化粒を中量含む	ナデ、ハケメ？	不明	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	
235	C-8	CB	上層	壷				0.5～3mmの石英と長石を中量含む	ミガキ	ミガキ、ナデ、ユビオサエ	良好	灰黄褐色	灰黄褐色	
236	E-6	CB	上層	壷				0.5～4mmの石英を中量、0.5～4mmの長石を少量含む	ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	橙色	橙色	
237		CB	上層	壷				0.5～5mmの長石、石英を多く含む	不明	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	灰白色～灰黄褐色	
238	F-6	CB	上層	壷				0.5～4mmの石英、長石を多く含み、1mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	やや良好	にぶい黄橙色	灰白色	
239	C-7・D-6	CB	上層	壷				0.5～4mmの石英、長石を多く含み、径2mm以下の赤色酸化粒を多く含む	ミガキ、ナデ	不明	良好	橙色	橙色	
240	D-6	CB	上層	壷				0.5～5mmの石英、長石を多く含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい赤褐色	暗赤褐色	
241	D-6	CB	上層	壷				0.5～4mmの石英、長石を中量、1mm以下の赤色酸化粒、雲母をわずかに含む	ナデ、ミガキ？	ナデ、ユビオサエ	良好	橙色	黄灰色	
242	F-5	CB	上層	壷				0.5～4mmの長石、石英を多く含む	ミガキ	ユビオサエ、ミガキ	良好	浅黄橙色	にぶい黄橙色	
243	C-9	CB	上層	壷				0.5～4mmの石英、長石を多く含み、径1mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ミガキ，ナデ	ミガキ	良好	橙色	にぶい橙色	
244	F-5	CB	上層	壷			6.9	0.5～2mmの石英と長石を少量、2mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ミガキ	ユビオサエ、ミガキ	良好	にぶい黄橙色	褐灰色	
245	D-5	CB	上層	壷			7.6	0.5～5.5mmの石英と長石を多量含む	不明	ナデ、ユビオサエ	良好	橙色	浅黄橙色	
246	E-5	CB	上層	壷			7.1	0.5～4mmの石英と長石を多量含む	不明	ナデ、ユビオサエ	良好	橙色	橙色	
247	E-6	CB	上層	壷			7.0	0.5～7mmの石英を中量、0.5～2.5mmの長石を少量含む	不明	ナデ、ミガキ	良好	にぶい橙色	浅黄橙色	
248	H-6	CB	上層	壷			8.6	0.5～3mmの石英、長石を非常に多く含む	ミガキ	ユビオサエ、ミガキ	良好	灰黄褐色	にぶい褐色	
249	C-9	CB	上層	壷			5.5	0.5～3.5mmの石英と0.5～2mmの長石を少量、0.5～2mmの雲母を微量含む	ミガキ、ユビオサエ、ナデ	ミガキ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
250	D-5	CB	上層	壷			3.4	0.5～3mmの石英と長石を中量、0.5～1.5mmの赤色酸化粒を微量含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	褐灰色	

番号	地区・グリッド	遺構	層位	器種	口径	器高	底径	胎土	調整外面	調整内面	焼成	色調外面	色調内面	備考
251		CB	上層	壷			8.8	0.5～6mmの長石、0.5～5mmの石英を多く含み、1mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ナデ、不明	不明	良好	にぶい黄橙色	灰白色	
252	E-6	CB	上層	壷			13.4	0.5～3mmの石英と0.5～2mmの長石を少量含む	ナデ？，ミガキ	ナデ	良好	浅黄色	灰黄色	
253	C-10	CB	上層	壷			9.4	0.5～3mmの石英と長石を多量に、0.5～2mmの赤色酸化粒を微量含む	ナデ	ナデ？，ミガキ	良好	浅黄橙色	にぶい黄橙色	
254	C-10	CB	上層	壷			17.6	0.5～4.5mmの石英を多量、0.5～2mmの長石を少量含む	ナデ、ヨコナデ	ナデ	良好	橙色	橙色	
255	C-9	CB	上層	壷			6.0	0.5～3mmの石英、長石を多く含む	ミガキ	ナデ、ユビオサエ	良好	橙色	褐灰色	
256	C-10	CB	上層	壷			6.2	0.5～4mmの石英と0.5～2mmの長石を中量、0.5～3mmの赤色酸化粒を少量含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	灰白色	黄灰色	
257	E-5	CB	上層	壷			5.6	0.5～4.5mmの石英と0.5～3mmの長石を多量含む	不明	ユビオサエ	良好	橙色	褐灰色	
258	C-8	CB	上層	壷			6.0	0.5～4.5mmの石英を中量、2mm以下の長石を少量含む	ミガキか？、ユビオサエ	ユビオサエ	良好	浅黄橙色	黄灰色	
259	G-5	CB	上層	壷			6.4	0.5～7mmの長石、石英を多く含み、3mm前後の長石と1mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ミガキ	ユビナデ、ユビオサエ、ナデ	良好	橙色	橙色	
260	C-7	CB	上層	壷			8.2	0.5～4.5mmの石英を中量、長石を多量含む	ミガキ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	灰白色	灰黄色	
261	D-6	CB	上層	壷			7.8	0.5～5mmの石英、長石を多く含む	ミガキ	ミガキ、ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄色	スス付着
262	C-10	CB	上層	壷			14.9	0.5～4mmの長石、石英を非常に多く含む	ミガキ	不明	良好	赤褐色	にぶい黄橙色	
263	F-6	CB	上層	壷				2mm以下の石英、長石を多く含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
264	E-6	CB	上層	壷				2mm以下の石英、長石を多く含む	ナデ	ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい橙色	
265	C-10	CB	上層	壷				2mm以下の石英、長石を多く含む	ナデ	ナデ	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	
266	G-5	CB	上層	壷				2mm以下の石英、長石を多く含む	ミガキ	ミガキ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
267	G-5	CB	上層	壷	13.4			3mm以下の石英、長石を多く含み、1mm前後の赤色酸化粒を含む	不明	ユビオサエ、ナデ	良好	橙色	橙色	
268	E-5	CB	上層	蓋	5.8			径4mm以下の石英、長石を多量に含む	ナデ、ユビオサエ	不明	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	
269	C-8	CB	上層	蓋			5.6	0.5～4mmの石英と長石を中量、2.5mm以下の赤色酸化粒と2mm以下の黒色粒をわずかに含む	ハケメ	ユビオサエ、ナデ	良好	浅黄橙色	灰白色	
270	E-5	CB	上層	蓋			6.0	0.5～6mmの石英と2mm以下の長石を中量、1.5mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ナデ、ユビオサエ、ミガキ	ナデ、ユビオサエ	良好	にぶい橙色	にぶい黄橙色	
271	D-6	CB	上層	蓋			5.9	0.5～3.5mmの石英を中量、1mm以下の長石を少量含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
272	D-5	CB	上層	蓋			5.7	0.5～4mmの石英と2.5mm以下の長石を中量含む	ユビオサエ	ユビオサエ、ナデ	良好	赤橙色	にぶい黄橙色	
273	E-5	CB	上層	蓋			4.8	0.5～4.5mmの石英と0.5～3mmの長石を中量、1.5mm以下の赤色酸化粒を少量含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
274	D-5	CB	上層	蓋			5.1	0.5～5mmの石英と2.5mm以下の長石を多量含む	ユビオサエ	ユビオサエ	良好	黄橙色	浅黄橙色	
275	E-5	CB	上層	蓋			6.0	0.5～6mmの石英と0.5～5mmの長石を中量、1.5mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ナデ、ユビオサエ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい赤褐色	橙色	

番号	地区・グリッド	遺構	層位	器種	口径	器高	底径	胎土	調整外面	調整内面	焼成	色調外面	色調内面	備考
276	C-10	CB	上層	蓋			6.7	0.5～3mmの石英と長石を中量、5mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ナデ、ユビオサエ	ユビオサエ、ナデ	良好	灰褐色	橙色	
277	H-6	CB	上層	蓋	6.6		20.6	0.5～3.5mmの石英と2mm以下の長石と3mm以下の赤色酸化粒を中量含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	
278	E-5	CB	上層	蓋			5.0	0.5～4mmの石英を多量、0.5～1.5mmの長石を中量含む	ユビオサエ	ユビオサエ	良好	淡黄色	淡黄色	
279	D-5	CB	上層	蓋				0.5～5mmの石英と0.5～3mmの長石を中量、5mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ユビオサエ、ナデ？(ミガキか？)	ユビオサエ、ナデ	良好	明赤褐色	橙色	
280	C-9	CB	上層	蓋			7.0	0.5～3.5mmの石英を中量、3mm以下の長石を少量含む	ユビオサエ、ミガキ？	ユビオサエ、ミガキ	良好	橙色	灰褐色	
281	E-6	CB	上層	蓋			6.1	0.5～5mmの石英と2mm以下の長石を多量に、0.5～4mmの赤色酸化粒を中量含む	ユビオサエ	ユビオサエ、ナデ？	良好	橙色	橙色	
282	E-5	CB	上層	蓋	6.1			径2mm以下の長石、石英を多く含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	灰黄褐色	にぶい黄褐色	
283	C-8・C-9	CB	上層	蓋			4.8	0.5～3.5mmの石英と0.5～2.5mmの長石を多量含む	ユビオサエ、ナデ？	ユビオサエ、ナデ	良好	橙色	にぶい橙色	
284	C-9	CB	上層	蓋			5.7	0.5～4mmの石英と3.5mm以下の長石を中量、1mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ナデ、ユビオサエ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
285	F-6	CB	上層	蓋			4.7	0.5～3mmの石英と1.5mm以下の長石を中量、1mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ユビナデ	良好	褐灰色	浅黄橙色	
286	E-6	CB	上層	蓋			4.2	0.5～4mmの石英、0.5～3.5mmの長石を中量含む	ナデ、ユビオサエ	不明	良好	橙色	明褐灰色	
287	C-8	CB	上層	蓋			5.8	0.5～5mmの石英と長石を多量含む	ユビオサエ	ユビオサエ、ナデ	良好	橙色	にぶい橙色	
288	C-8・C-9	CB	上層	蓋			7.8	0.5～4.5mmの石英と0.5～5mmの長石を多量含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
289	C-9	CB	上層	蓋	7.2			径2mm以下の石英、長石を多く含み、径3mm前後の長石をわずかに含む	ナデ、ミガキ	ミガキ	良好	にぶい黄橙色	橙色	
290	E-6	CB	上層	蓋				0.5～5mmの石英と3.5mm以下の長石を中量、2mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ナデ？、ユビオサエ	ユビオサエ、ナデ	良好	浅黄橙色	にぶい橙色	
291	E-5	CB	上層	蓋			7.7	0.5～4mmの石英と0.5～4.5mmの長石を多量に、1mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	浅黄橙色	灰白色	
292	D-5	CB	上層	蓋			7.2	0.5～5mmの石英と0.5～3mmの長石を中量含む	ユビオサエ、ミガキ	ユビオサエ、ナデ	良好	浅黄橙色	灰黄色	
293	E-5	CB	上層	蓋	19.4			0.5～4mmの石英と2mm以下の長石を多量、1mm大の赤色酸化粒をわずかに含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	橙色	にぶい橙色	
294	D-6	CB	上層	蓋				0.5～4.5mmの石英と0.5～3.5mmの長石を多量含む	ユビオサエ、ミガキ	ユビオサエ、ミガキ	良好	灰黄褐色	灰黄色	
295	E-5	CB	上層	蓋				0.5～3.5mmの石英と長石を中量、1.5mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	不明	ユビオサエ、ミガキ	良好	灰黄色	にぶい黄橙色	
296	C-8	CB	上層	蓋	26.0			0.5～3mmの石英と1mm以下の長石を少量含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ、ユビオサエ	良好	灰黄褐色	にぶい褐色	
297	F-5	CB	上層	蓋	27.8			0.5～3mmの石英と0.5～2.5mmの長石を多量含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ、ユビオサエ	良好	にぶい黄橙色	黒色	
298	C-8	CB	上層	蓋	33.6			0.5～4.5mmの石英と0.5～4mmの長石を多量、0.5～3mmの赤色酸化粒を少量含む	ユビオサエ、ナデ？	ユビオサエ、ナデ	良好	橙色	橙色	
299	C-10	CB	上層	蓋	26.8			0.5～3mmの長石、石英を多量に含む	ミガキ	ナデ？、ミガキ	良好	暗茶色	暗黄色	
300	C-8	CB	上層	甕				2mm以下の石英、長石を多く含み、1mm以下の赤色酸化粒を含む	ナデ	ナデ	良好	明褐色	橙色	

番号	地区・グリッド	遺構	層位	器種	口径	器高	底径	胎土	調整外面	調整内面	焼成	色調外面	色調内面	備考
301	C-10	CB	上層	甕				1mm以下の石英、長石を多く含む	ナデ	ナデ	良好	灰褐色	にぶい黄橙色	
302	C-7	CB	上層	甕				2mm以下の石英、長石を多く含む	ナデ	ナデ	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	
303	C-9	CB	上層	甕	22.0			2.5mm以下の石英と長石を中量含む	ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	灰黄褐色	にぶい橙色	
304	F-5	CB	上層	甕	19.4			0.5～5mmの石英と4mm以下の長石を多量含む	ユビオサエ、ミガキ	ユビオサエ、ナデか？	良好	灰黄褐色	にぶい黄橙色	
305	E-5	CB	上層	甕				0.5～5mmの石英と長石を中量、2.5mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	灰黄褐色	灰黄褐色	スス付着
306	H-6	CB	上層	甕	18.8			0.5～4.5mmの石英と1mm以下の長石を中量、0.5～3mmの赤色酸化粒をわずかに含む	ユビオサエ、ナデ	ナデ	良好	灰白色	浅黄橙色	
307	F-5	CB	上層	甕	20.4			0.5～3mmの石英と0.5～2mmの長石と赤色酸化粒を少量含む	ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	灰黄色	
308	C-10	CB	上層	甕				0.5～2mmの石英と長石を中量含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい褐色	にぶい黄橙色	
309	D-5	CB	上層	甕				0.5～3.5mmの石英と0.5～2mmの長石を少量含む	ナデ、ハケメ	ナデ	良好	橙色	灰白色	
310	E-6	CB	上層	甕	37.0			0.5～3mmの石英と長石を中量、2.5mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ユビオサエ	ヨコナデ、ミガキ	良好	にぶい黄橙色	橙色	
311	C-8	CB	上層	甕	24.0			0.5～4mmの石英、長石を中量、1mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	浅黄橙色	にぶい黄橙色	
312	D-5	CB	上層	甕	27.0			0.5～2mmの石英、長石を含む	ナデ、ミガキ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	
313	D-5・E-5	CB	上層	甕	38.0			0.5～3mmの石英、長石を多く含み、径1mm以下の金雲母をごくわずかに含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
314	D-5	CB	上層	甕？	16.2			0.5～2mmの長石、石英を多く含み、1mm以下の赤色酸化粒を含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい橙色	
315	C-10	CB	上層	甕	23.2			0.5～3mmの石英、長石を多く含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	灰黄褐色	にぶい黄褐色	
316	F-5	CB	上層	甕				0.5～1mmの石英、長石を多く含み、2～3mmの長石、石英を含む	ナデ	ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
317	D-6	CB	上層	甕	20.2			0.5～4.5mmの石英と0.5～2mmの長石を多量含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	褐灰色	にぶい黄橙色	
318	C-9	CB	上層	甕				0.5～4mmの石英と0.5～2mmの長石を中量、1mm以下の雲母と1.5mmの雲母を微量含む	ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ、ヨコナデ	良好	灰黄褐色	にぶい黄橙色	
319	E-5	CB	上層	甕	20.2		7.8	0.5～4mmの石英を中量、2mm以下の長石を多量含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ミガキ	ユビオサエ、ナデ、ミガキ	良好	灰褐色	にぶい褐色	
320	C-10	CB	上層	甕	40.0			0.5～2mm前後の長石、石英を中量含む	ヨコナデ、ナデ	ナデ	やや良好	灰色	淡黄灰色	
321	E-5	CB	上層	甕				0.5～3mmの石英と長石を中量、0.5～1.5mmの赤色酸化粒を微量含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	灰黄褐色	にぶい黄橙色	
322	E-5	CB	上層	甕	17.8			0.5～3mmの石英と長石を多量に含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	橙色	浅黄橙色	スス付着
323	E-5	CB	上層	甕	26.2			0.5～4mmの石英と2.5mm以下の長石を中量含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ	良好	浅黄橙色	灰黄色	
324	C-8	CB	上層	甕				0.5～3.5mmの石英と0.5～3mmの長石を中量、1mm大の雲母を微量含む	ナデ、ユビオサエ	ユビオサエ、ナデ	良好	灰黄褐色	にぶい褐色	
325	D-6	CB	上層	甕	21.3			0.5～3mmの石英と1mm以下の長石を中量、1mm以下の雲母と赤色酸化粒をわずかに含む	ヨコナデ、ナデ	ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	

番号	地区・グリッド	遺構	層位	器種	口径	器高	底径	胎土	調整外面	調整内面	焼成	色調外面	色調内面	備考
326	E-5	CB	上層	甕	27.2			0.5～5mmの石英と1.5mm以下の長石を中量、1.5mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ユビオサエ、ナデか？	ユビオサエ、ナデ	良好	浅黄橙色	灰白色	
327	E-6	CB	上層	甕	16.6			0.5～4mmの石英と0.5～3mmの長石を中量含む	ナデ、ユビオサエ	ユビオサエ、ナデ	良好	橙色	浅黄橙色	スス付着
328	E-5	CB	上層	甕	23.0			0.5～3mmの石英と5mm以下の長石を多量含む。1mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	良好	灰褐色	にぶい褐色	
329	C-9	CB	上層	甕	20.2			0.5～2.5mmの石英と長石を中量含む	ユビオサエ、ナデ	ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	良好	褐灰色	にぶい黄橙色	
330	F-5	CB	上層	甕	16.8		7.4	0.5～5mmの石英を多量に、0.5～3mmの長石と0.5～4.5mmの赤色酸化粒を少量含む	不明	ナデ、ユビオサエ	良好	橙色	橙色	
331	E-5	CB	上層	甕	22.0			0.5～4mmの石英と長石を多量含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ？	良好	橙色	灰白色	
332	D-5・E-5	CB	上層	甕	18.0			0.5～4mmの石英と0.5～3mmの長石を多量に、赤色酸化粒をわずかに含む	ユビオサエ、ナデ	ナデ	良好	灰褐色	灰黄褐色	
333	F-6	CB	上層	甕	25.6			0.5～5mmの石英と0.5～3.5mmの長石を中量、1.5mm以下の赤色酸化粒を微量含む	ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
334	E-5	CB	上層	甕	28.0			0.5～5mmの石英と3mm以下の長石を多量、3mm以下の赤色酸化粒を少量含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい橙色	橙色	
335	E-5	CB	上層	甕	23.0			0.5～4mmの石英と3mm以下の長石を多量、2.5mm以下の赤色酸化粒を中量含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	浅黄橙色	灰白色	
336	C-8	CB	上層	甕	22.0			0.5～2mmの石英、長石を含み、径4mm前後の石英、長石を多量に含む	ナデ、ユビオサエ	ユビオサエ、ナデ	良好	明赤褐色	にぶい赤褐色	
337	D-6	CB	上層	甕	22.8			3.5mm以下の石英と1mm以下の長石を多量含む	ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ？	良好	にぶい黄橙色	にぶい赤褐色	
338	E-6	CB	上層	甕	32.8			0.5～4mmの石英と長石を多量含む	不明	ナデ	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	
339	E-5	CB	上層	甕	29.6			0.5～4mmの石英と2mm以下の長石を中量，0.5～4mmの赤色酸化粒を少量含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
340	F-5	CB	上層	甕	32.8			0.5～4mmの石英と長石を多量含む	ナデ、ユビオサエ	不明	良好	褐灰色	灰白色	
341	F-5	CB	上層	甕	21.2			0.5～3.5mmの石英と1mm以下の長石を少量含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ	良好	灰黄色	灰黄色	
342	C-8	CB	上層	甕	23.6			0.5～4mmの石英を多量、2.5mm以下の長石と3mm以下の赤色酸化粒を中量含む	ユビオサエ、ヨコナデ？	ユビオサエ、ナデ	良好	橙色	にぶい橙色	
343	C-8	CB	上層	甕	25.6			0.5～4mmの石英と長石を中量、1.5mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい橙色	スス付着
344	F-5	CB	上層	甕	25.0			0.5～4mmの石英と0.5～2mmの長石を少量含む	ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	スス付着
345	F-5	CB	上層	甕	19.4			2mm以下の石英と0.5mm以下の長石を中量含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
346	C-8	CB	上層	甕	19.4			0.5～4.5mmの石英と2mm以下の長石を中量、2.5mm以下の赤色酸化粒を少量含む	ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ	ユビオサエ、ナデ	良好	灰黄褐色	灰黄褐色	
347	F-5	CB	上層	甕	17.4			0.5～5mmの石英と0.5～3mmの長石を中量含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	黄灰色	黄灰色	スス付着
348	E-5	CB	上層	甕				0.5～5mmの石英と0,5～2mmの石英を多量含む	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	良好	灰黄褐色	にぶい黄橙色	
349	D-5	CB	上層	甕				0.5～5mmの石英と0.5～2mmの長石を中量含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい褐色	にぶい黄橙色	スス付着
350	E-5	CB	上層	甕				0.5～4.5mmの石英と0.5～3mmの長石を中量、0.5～2.5mmの赤色酸化粒を少量含む	ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	灰黄褐色	浅黄橙色	

番号	地区・グリッド	遺構	層位	器種	口径	器高	底径	胎土	調整外面	調整内面	焼成	色調外面	色調内面	備考
351	E-5	CB	上層	甕				0.5～2mmの石英、長石を多く含み、4mm前後の長石をわずかに含む	ユビオサエ、ナデ	ミガキ	良好	橙色	にぶい橙色	補修の痕跡あり
352	C-7	CB	上層	甕	21.6			0.5～5mmの石英と0.5～2.5mmの長石を少量、0.5～2mmの赤色酸化粒を微量含む	ヨコナデ、ユビオサエ，ナデ	ユビオサエ、ナデ、ヨコナデ、ハケメ	良好	にぶい橙色	橙色	
353	C-8・E-5	CB	上層	甕	25.4			0.5～4.5mmの石英と中量、0.5～2.5mmの長石を少量含む	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	良好	灰黄褐色	にぶい黄橙色	
354	E-5	CB	上層	甕	37.0			0.5～5mmの石英を多量、4mm以下の長石を中量、3mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ	良好	浅黄橙色	灰白色	スス付着
355	D-6	CB	上層	甕	31.8			0.5～4.5mmの石英と2mm以下の長石を中量、2mm以下の赤色酸化粒、雲母をわずかに含む	ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	浅黄橙色	灰白色	
356	E-6	CB	上層	甕	26.4			0.5～3mmの石英と0.5mm以下の長石を少量含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	良好	にぶい褐色	橙色	
357	E-5	CB	上層	甕	21.6			0.5～4.5mmの石英を多量、3mm以下の長石を中量、0.5～4.5mmの赤色酸化粒を中量含む	ユビオサエ	ユビオサエ	良好	橙色	灰色	
358	F-5	CB	上層	甕	24.8			0.5～6mmの石英を中量、4mm以下の長石を少量含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ミガキ、ナデ	良好	灰褐色	にぶい橙色	
359		CB	上層	甕	29.2			0.5～4mmの石英と2mm以下の長石を中量、3mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	
360	D-5	CB	上層	甕	18.2			0.5～4.5mmの石英、長石を多量、1.5mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	灰黄褐色	にぶい黄橙色	
361	D-5・E-5	CB	上層	甕				0.5～4.5mmの石英と0.5～2mmの長石を少量、0.5～2.5mmの赤色酸化粒を微量含む	ヨコナデ、ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
362	D-6	CB	上層	甕	41.6			0.5～4mmの石英を中量、0.5～2mmの長石と赤色酸化粒を少量含む	ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	灰白色	灰黄色	
363	C-9	CB	上層	甕	38.6			2mm以下の石英、長石を多く含み、1mm以下の輝石、赤色酸化粒を含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	浅黄橙色	
364	F-5	CB	上層	甕				粗い。径2mm以下の石英、長石を多く含み、径4mm前後の石英をわずかに含む	ナデ	ナデ	良好	橙色	褐灰色	
365	C-8	CB	上層	甕				0.5～2mmの石英と0.5mm以下の長石を中量含む	ナデ	ナデ	良好	灰黄褐色	にぶい褐色	
366	E-5	CB	上層	甕	21.5			径0.5～3mmの石英、長石を多く含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい黄褐色	灰黄褐色	スス付着
367	C-10	CB	上層	甕	23.0			0.5～2㎜大の長石、石英を中量含む	ナデ、	ユビオサエ、ナデ	良好	暗灰色	暗灰色	
368	C-9	CB	上層	甕	20.8			0.5～4mmの石英と1.5mm以下の長石を中量、2.5mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	褐灰色	にぶい黄橙色	
369	G-5	CB	上層	甕	22.4			0.5～4mmの石英と1.5mm以下の長石を中量含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい褐色	にぶい黄橙色	
370	C-8	CB	上層	甕				0.5～4.5mmの石英と長石を中量含む	ユビオサエ、ナデ	不明	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	
371	F-6	CB	上層	甕	22.2			0.5～3mmの石英と0.5～4mmの長石を中量含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい赤褐色	
372	C-8	CB	上層	甕	16.6			0.5～4mmの石英と2mm以下の長石を中量、1mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ミガキ	良好	にぶい橙色	浅黄橙色	
373	C-10	CB	上層	甕				0.5～2.5mmの石英と長石を中量含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい橙色	橙色	
374	D-5	CB	上層	甕	18.6			0.5～2.5mmの石英と長石と赤色酸化粒を中量、0.5～2mm大の雲母を微量含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	
375	C-10	CB	上層	甕	25.0			0.5～1㎜前後の長石、石英を少量含む	ナデ、ハケメ？	ナデ	良好	淡橙色	淡橙色	

番号	地区・グリッド	遺構	層位	器種	口径	器高	底径	胎土	調整外面	調整内面	焼成	色調外面	色調内面	備考
376	C-10	CB	上層	甕	26.0			0.5～2㎜前後の長石、石英を中量含む	ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ、ハケメ？	ユビオサエ、ナデ	良好	淡灰色、淡茶色	淡灰色	
377	D-5・E-5・E-6	CB	上層	甕	23.8			2mm以下の石英と長石を少量、3mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ユビオサエ、ヨコナデ、板状工具によるナデ	ユビオサエ、ヨコナデ、板状工具によるナデ	良好	にぶい橙色	にぶい褐色	
378	E-5	CB	上層	甕	36.0			3mm以下の石英と長石を中量、1.5mm以下の赤色酸化粒をわずかに、チャートを少量含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ？	ユビオサエ、ナデ？	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	
379	E-5・F-5	CB	上層	甕	28.2	35.8	8.0	5mm以下の石英、長石を多く含む	ユビオサエ、ナデ、ミガキ	不明	良好	灰褐色	にぶい橙色	穿孔あり
380	C-10	CB	上層	甕	18.6			0.5～1mm前後の長石、石英、赤色粒を中量含む	ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	暗橙色	淡灰色	
381	E-5	CB	上層	甕	24.3			0.5～3mmの石英と2mm以下の長石を多量、4mm以下の赤色酸化粒を中量含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい橙色	橙色	
382	C-10	CB	上層	甕				0.5～2mmの石英と0.5～1mmの長石を少量含む	ユビオサエ、ヨコナデ	ヨコナデ、ユビオサエ、ミガキ	良好	橙色	橙色	
383	C-9	CB	上層	甕	36.6			4mm以下の石英と1mm以下の長石を中量含む	ヨコナデ、ナデ、ハケメ	ユビオサエ、ナデ、ミガキ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
384	C-9	CB	上層	甕	19.0			0.5～5mmの石英を多量、0.5mm以下の長石を少量含む	ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	褐灰色	にぶい黄橙色	
385	E-5	CB	上層	甕	21.2			0.5～5mmの石英と長石を中量含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい赤褐色	にぶい橙色	スス付着
386	D-5	CB	上層	甕	43.2			0.5～4mmの石英と2mm以下の長石を中量含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ミガキ	ユビオサエ、ミガキ	良好	灰黄褐色	灰黄褐色	
387	E-5	CB	上層	甕				0.5～2.5mmの石英と0.5～2mmの長石を中量含む	ナデ、ヨコナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	褐灰色	橙色	
388	C-8	CB	上層	甕	24.8			0.5～6mmの石英を多量、0.5～2mmの長石を少量含む	ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	灰黄褐色	にぶい黄橙色	スス付着
389	E-5	CB	上層	甕	24.8			0.5～3mmの石英と2mm以下の長石を多量、3.5mm以下の赤色酸化粒を少量含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ	良好	灰黄褐色	にぶい黄橙色	
390	C-8	CB	上層	甕	25.0			0.5～4mmの石英と7mmの長石を多量に、1mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ユビオサエ、ヨコナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい橙色	赤橙色	
391	E-5	CB	上層	甕	24.0			0.5～3mmの石英と0.5～2mmの長石を中量含む	ナデ、ユビオサエ	ミガキ、ユビオサエ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
392	C-8・C-9	CB	上層	甕				0.5～2mmの石英を少量、1mm大の赤色酸化粒を微量含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	浅黄橙色	にぶい黄橙色	
393	E-6	CB	上層	甕	22.2			0.5～4mmの石英と2.5mm以下の長石を多量に、1mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ミガキ	良好	にぶい橙色	にぶい黄橙色	
394	E-5	CB	上層	甕				0.5～4mmの石英と0.5～2mmの長石を中量含む	ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	ナデ	良好	灰黄褐色	にぶい黄橙色	
395	C-10	CB	上層	甕	22.8			0.5～2㎜前後の長石、石英を多量に含む	ヨコナデ、ナデ	ナデ、ミガキ、ユビオサエ	良好	淡橙色	白黄	
396	E-6	CB	上層	甕	21.4			0.5～4mmの石英と0.5～2mmの長石を多量、1.5mm以下の赤色酸化粒を少量含む	ナデ？、ユビオサエ？	ユビオサエ	良好	灰黄褐色	橙色	スス付着
397	C-9	CB	上層	甕	21.2			0.5～6mmの石英と3mm以下の長石を多量含む	ユビオサエ、板状工具によるナデ	ユビオサエ、ヨコナデ、ハケメ？	良好	灰褐色	褐灰色	スス付着
398	E-5・F-5	CB	上層	甕	16.4			0.5～4.5mmの石英と0.5～3mmの長石を中量含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	灰褐色	灰褐色	
399	C-7	CB	上層	甕	23.8			0.5～4mmの石英を多量、0.5～1.5mmの長石を中量、2mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	灰黄褐色	灰白色	
400	C-10	CB	上層	甕	20.0			0.5～2㎜大の長石、石英を中量含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ、板ナデ？	良好	暗茶褐色	暗茶褐色	

番号	地区・グリッド	遺構	層位	器種	口径	器高	底径	胎土	調整外面	調整内面	焼成	色調外面	色調内面	備考
401	F-5	CB	上層	甕	27.8			0.5～3.5mmの石英と1mm以下の長石を少量含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ミガキ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	灰黄褐色	
402	H-6	CB	上層	甕	23.4			0.5～5mmの石英を多量、0.5～2mmの長石を中量含む	ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい赤褐色	にぶい橙色	
403	C-8	CB	上層	甕	30.0			0.5～3mmの石英、長石を多量に含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	褐色	明赤褐色	
404	E-5	CB	上層	甕	26.8			0.5～4mmの石英と、3.5mm以下の長石を多量に含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
405	F-5	CB	上層	甕	22.0			4mm以下の石英と長石を中量、3mm以下の赤色酸化粒を少量含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ヨコナデ？、ミガキ、ナデ？	良好	灰黄褐色	にぶい橙色	
406	F-5	CB	上層	甕	22.4			0.5～3.5mmの石英と0.5～2mmの長石を中量含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ	良好	褐灰色	にぶい褐色	
407	C-8	CB	上層	甕				0.5～3mmの石英を中量、1mm大の赤色酸化粒を微量含む	ヨコナデ、ナデ？	ナデ	良好	灰黄褐色	黒褐色	
408	F-5	CB	上層	甕				0.5～3mmの石英と長石を中量含む	ユビオサエ、ヨコナデ？、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	灰黄褐色	にぶい橙色	
409	C-9	CB	上層	甕				0.5～2.5mmの石英と0.5mm大の長石を少量含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ？、ナデ	良好	褐灰色	褐灰色	
410	F-5	CB	上層	甕				径0.5～2mmの石英、長石を多く含み、径3mm前後の石英をわずかに含む	ナデ、ミガキ	ユビオサエ、ナデ	良好	橙色	にぶい褐色	
411	G-5	CB	上層	甕	27.0			0.5～3.5mmの石英と0.5～2mmの長石を中量含む	ユビオサエ	ナデ、ユビオサエ	良好	黄灰色	黒褐色	
412	C-8	CB	上層	甕				0.5～4mmの石英と0.5～2mmの長石を中量含む	ユビオサエ、ナデ	ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	良好	橙色	にぶい橙色	
413	C-8・C-10	CB	上層	甕	25.2			0.5～4.5mmの石英と2mm以下の長石を中量、2mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
414	C-10	CB	上層	甕	26.4			0.5～2㎜大の長石、石英を中量含む	ヨコナデ、ヘラミガキ？	ユビオサエ、ナデ？	良好	淡茶色、黒色	淡灰色	
415	H-6	CB	上層	甕	24.0			0.5～2mmの石英と長石を中量含む	ユビオサエ、ナデ	ナデ	良好	黒褐色	にぶい黄橙色	
416	G-5	CB	上層	甕	28.0			0.5～4mmの石英と0.5～3mmの長石を少量含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ミガキ	ナデ、ユビオサエ、ミガキ	良好	褐灰色	灰黄褐色	スス付着
417	C-10	CB	上層	甕	27.0			0.5～2㎜の長石を中量、石英を少量含む	ナデ	板ナデ	良好	暗橙色	淡橙色	
418	C-10	CB	上層	甕	26.0			0.5～3㎜前後の長石、石英、赤色粒を多量に含む	ヨコナデ、ユビナデ、ナデ	ナデ	良好	暗橙色	暗橙色	
419	C-7	CB	上層	甕	23.6			0.5～3mmの石英と1mm以下の長石を中量含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
420	D-5	CB	上層	甕	19.9			0.5～3mmの石英と2.5mm以下の長石を中量、1.5mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	灰黄褐色	にぶい黄橙色	
421	E-5	CB	上層	甕	21.8			0.5～3.5mmの石英を中量、1mm以下の長石を少量含む	ユビオサエ	ユビオサエ	良好	にぶい黄橙色	橙色	
422	F-6	CB	上層	甕	25.6			0.5～4.5mmの石英と0.5～4mmの長石を多量、1mm以下の赤色酸化粒を少量含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	灰褐色	にぶい黄橙色	
423	C-9	CB	上層	甕	21.6			0.5～4mmの石英と0.5～2mmの長石を中量、1mm以下の赤色酸化粒を少量含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	灰黄褐色	橙色	
424	E-5	CB	上層	甕	20.3			0.5～5mmの石英と長石を多量、0.5～4mmのチャートを少量含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	良好	にぶい褐色	橙色	
425	C-9	CB	上層	甕	24.0			1.5mm以下の石英と長石を中量、1mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	灰黄褐色	橙色	

番号	地区・グリッド	遺構	層位	器種	口径	器高	底径	胎土	調整外面	調整内面	焼成	色調外面	色調内面	備考
426	C-9	CB	上層	甕	23.8			0.5～4mmの石英と0.5～2mmの長石を中量、2mm以下の赤色酸化粒を少量含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	灰黄色	灰白色	
427	C-7	CB	上層	甕	24.2			0.5～3mmの石英と1mm以下の長石を中量、1.5mm以下の雲母をわずかに含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ(ハケメ)	ユビオサエ、ナデ、ヨコナデ	良好	褐灰色	にぶい黄橙色	スス付着
428	D-5	CB	上層	甕	26.2			0.5～4mmの石英と0.5～3mmの長石を中量、2mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	良好	にぶい橙色	にぶい黄橙色	
429	C-10	CB	上層	甕	25.0			0.5～3mmの長石、石英を多量に含む	ナデ	ナデ	良好	暗茶橙色	暗茶橙色	
430	F-5	CB	上層	甕	23.4			0.5～4mmの石英を多量、1mm以下の長石と0.5～3mmの赤色酸化粒を少量含む	ユビオサエ	ユビオサエ、ナデ？	良好	にぶい黄橙色	浅黄橙色	
431	D-5・E-5	CB	上層	甕	26.8			0.5～3mmの石英を長石を中量含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	良好	褐灰色	にぶい黄橙色	
432	D-5	CB	上層	甕	29.0			0.5～4mmの石英と0.5～3mmの長石を中量含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
433	F-5	CB	上層	甕	25.4			4mm以下の石英、長石を多く含み、1mm以下の赤色酸化粒、輝石をわずかに含む	ナデ、ユビオサエ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい褐色	にぶい橙色	
434	C-10	CB	上層	甕	26.8			0.5～2mm大の長石、石英を多量含む	ユビオサエ	ナデ？	良好	淡橙色	暗黄色	
435	C-10	CB	上層	甕	20.8			0.5～2mm大の長石、石英を少量含む	ユビオサエ、ミガキ	ミガキ	良好	暗灰茶色	暗灰茶色	
436	C-10	CB	上層	甕	22.0			0.5～2mm大の長石、石英、赤色粒を中量含む	ナデ、ミガキ、ユビオサエ	ミガキ	良好	黒色	暗灰色	
437	E-6	CB	上層	甕				0.5～3.5mmの石英と長石を中量含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	橙色	橙色	
438	E-5・G-5	CB	上層	甕	24.0			0.5～5mmの石英と0.5～4mmの長石を中量含む	ユビオサエ、ヨコナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	橙色	
439	C-8	CB	上層	甕	24.8			0.5～3mmの石英、長石を多量、1.5mm以下の赤色酸化粒を少量、チャートを少量含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ミガキ	良好	にぶい黄橙色	浅黄橙色	
440	F-5	CB	上層	甕				0.5～4mmの石英と0.5～2.5mmの長石を多量含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい褐色	にぶい黄橙色	
441	E-5	CB	上層	甕				2mm以下の石英と長石を少量含む	ナデ	ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	良好	灰黄褐色	にぶい黄橙色	スス付着
442	E-6	CB	上層	甕	22.4			0.5～4mmの石英と0.5～2mmの長石を多量含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい黄褐色	浅黄橙色	
443	C-10	CB	上層	甕	24.6			0.5～5mmの長石、石英を多量に含む	ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	暗茶色	暗茶色	
444	C-9	CB	上層	甕				0.5～3mmの石英を多量、0.5～2mmの長石を少量含む	ナデ	ナデ	良好	黒褐色	にぶい黄橙色	
445	C-10	CB	上層	甕	26.0			0.5～3mm前後の長石、石英を多量に含む	ナデ、ユビオサエ、ミガキ？	ユビオサエ、ナデ	良好	淡茶色	淡茶色	
446	E-5	CB	上層	甕				0.5～3mmの石英と長石を少量含む	ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい橙色	にぶい黄橙色	
447	C-10	CB	上層	甕				0.5～3mmの石英と0.5～2mmの長石を中量、0.5～1.5mmの雲母を微量含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	灰黄褐色	灰黄褐色	
448	C-10	CB	上層	甕				2mm以下の石英、長石を多く含む	ナデ	ユビナデ、ナデ	良好	にぶい黄褐色	橙色	
449	G-5	CB	上層	甕	26.4			0.5～5mmの石英を多量、2mm以下の長石を中量、2mm以下の赤色酸化粒を少量含む	ユビオサエ	ナデ	良好	にぶい橙色	にぶい黄橙色	
450	E-5	CB	上層	甕	27.0			0.5～4mmの石英と3mm以下の長石を多量、3mm以下の赤色酸化粒を少量含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ？	良好	灰褐色	灰白色	スス付着

番号	地区・グリッド	遺構	層位	器種	口径	器高	底径	胎土	調整外面	調整内面	焼成	色調外面	色調内面	備考
451	C-10	CB	上層	甕	28.0			0.5～2㎜前後の長石、石英を多量に含む	ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	暗茶色	暗茶色	
452	D-5	CB	上層	甕	25.2			0.5～3mmの石英と3mm以下の長石を中量、1mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
453	E-6	CB	上層	甕	30.4			0.5～4.5mmの石英と長石を多量、1mm以下の赤色酸化粒を少量含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	灰白色	浅黄橙色	
454	E-5	CB	上層	甕				0.5～3mmの長石、石英を多く含む	ナデ	ナデ	良好	にぶい橙色	浅黄橙色	
455	C-9	CB	上層	甕				0.5～4mmの石英を多量に、0.5～1.5mmの長石を少量、0.5mm大の赤色酸化粒を微量含む	ユビオサエ、ナデ？	ユビオサエ、ナデ？	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
456	G-5	CB	上層	甕	13.2			0.5～5mmの石英、長石を非常に多く含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	
457	C-9	CB	上層	甕	19.2			0.5～3mmの石英と0.5～4mmの長石を中量、1mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	橙色	にぶい黄橙色	
458	C-10	CB	上層	甕	32.0			0.5～2㎜前後の長石、石英を多量に含む	ヨコナデ,ユビオサエ、ナデ、ミガキ	ハケメ？、ミガキ、ナデ	良好	暗橙色	暗橙色	
459	C-6	CB	上層	甕	22.2			0.5～3mmの石英と長石を中量、1mm大の赤色酸化粒を微量含む	ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	灰黄色	
460	G-5	CB	上層	甕	25.6			0.5～3.5mmの石英、長石を中量、1.5mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	灰黄褐色	にぶい黄橙色	
461	E-5	CB	上層	甕	26.0			0.5～3mmの石英と2.5mm以下の長石を中量、4mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
462	C-9	CB	上層	甕	24.2			0.5～2.5mmの石英を少量含む	ユビオサエ、ナデ	不明	良好	灰黄褐色	にぶい橙色	
463	D-5	CB	上層	甕	28.6			2.5mm以下の石英と長石を少量、2mm以下の雲母をわずかに含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ミガキ	ユビオサエ、ミガキ、ヨコナデ	良好	灰黄褐色	浅黄色	
464	E-5	CB	上層	甕				0.5～5mmの石英と0.5～3mmの長石を多量、2mm以下の赤色酸化粒を少量含む	不明	ユビオサエ、ナデ	良好	浅黄橙色	黄橙色	
465	G-5・E-5	CB	上層	甕	25.4			径3mm以下の石英、長石を多く含み、1mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	不明	ユビオサエ、ナデ？	良好	明褐灰色	にぶい橙色	
466	D-5	CB	上層	甕	28.0			0.5～2mmの石英と長石を多量含む	不明	ユビオサエ、ナデ	良好	灰白色	浅黄橙色	
467	D-5	CB	上層	甕	24.6			0.5～3mmの石英を多量に、2mm以下の長石を中量含む	ユビオサエ、ミガキ、ヨコナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	灰白色	
468	E-5	CB	上層	甕	24.7			0.5～2mmの石英、長石を多く含み、径1mm前後の赤色酸化粒をわずかに含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	浅黄色	
469	C-8・E-5	CB	上層	甕	24.2			0.5～2mmの石英、長石を多く含み、径4mm前後の石英、長石をわずかに含む	ユビオサエ、ナデ	ミガキ、ナデ	良好	にぶい褐色	橙色	
470	E-5	CB	上層	甕	14.8			0.5～3mmの石英と長石を中量、1.5mm以下の赤色酸化粒を微量含む	ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい褐色	にぶい橙色	
471	F-5	CB	上層	甕	13.8			0.5～7mmの石英を多量に、3mm以下の長石を中量含む	ユビオサエ、ナデ？	ユビオサエ	良好	明赤褐色	にぶい黄橙色	
472	F-6	CB	上層	甕	13.6			0.5～3mmの石英を中量、0.5～2mmの長石を少量含む	ユビオサエ、ナデ	ナデ	良好	黒褐色	褐灰色	
473	F-5	CB	上層	甕	13.6			0.5～4mmの石英、3mm以下の長石を多量含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	良好	にぶい褐色	にぶい黄橙色	
474	E-6	CB	上層	甕	23.4			0.5～3.5mmの石英と0.5～3mmの長石を中量、1.5mm以下の赤色酸化粒を少量含む	ユビオサエ、ナデ	ナデ	良好	橙色	橙色	
475	D-6	CB	上層	甕	16.8			0.5～5mmの石英を多量に、0.5～2mmの長石を中量含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	灰黄褐色	灰黄色	

番号	地区・グリッド	遺構	層位	器種	口径	器高	底径	胎土	調整外面	調整内面	焼成	色調外面	色調内面	備考
476	E-6	CB	上層	甕				0.5～6mmの石英と1.5mm以下の長石を中量含む	ユビオサエ、ミガキ	ユビオサエ、ミガキ	良好	灰黄褐色	橙色	
477	D-5	CB	上層	甕				0.5～6mmの石英と0.5～3mmの長石を多量含む	ナデ、ユビオサエ	ユビオサエ、ナデ	良好	褐灰色	灰黄色	
478	C-9	CB	上層	甕	23.4			0.5～4mmの石英と0.5～2mmの長石を少量含む	ナデ、ユビオサエ	ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	良好	灰黄褐色	にぶい黄橙色	スス付着
479	F-5	CB	上層	甕				0.5～5mmの石英と0.5～2.5mmの長石を多量含む	不明	不明	良好	灰黄褐色	にぶい黄橙色	
480	D-6	CB	上層	甕				0.5～3.5mmの石英を多量、1mm大の長石を中量、0.5～2mmの赤色酸化粒を少量含む	ユビオサエ、ナデ	不明	良好	明赤褐色	浅黄橙色	
481	C-10	CB	上層	甕				0.5～3mmの石英と長石を多量含む	ナデ	ナデ	良好	灰褐色	浅黄橙色	スス付着
482	C-7	CB	上層	甕				0.5～4.5mmの石英を多量、0.5～4.5mmの長石を中量、0.5～3mmの赤色酸化粒を少量含む	不明	ナデ	良好	黒褐色	にぶい橙色	
483	C-10	CB	上層	甕				0.5～3mmの石英と長石を少量、1mm以下の赤色酸化粒を微量含む	ユビオサエ？ナデ	ナデ	良好	灰白色	浅黄橙色	
484	D-6	CB	上層	甕				0.5～4mmの石英と2mm以下の長石を多量、01.5mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ミガキ	ユビオサエ、ナデ	良好	橙色	灰白色	
485	E-5	CB	上層	甕	20.6			0.5～3.5mmの石英と2.5mm以下の長石を多量含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	良好	灰褐色	にぶい黄橙色	
486	E-6	CB	上層	甕	22.6			0.5～3mmの石英と1mm以下の長石を少量含む	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ユビオサエ	良好	褐灰色	褐灰色	スス付着
487	F-5	CB	上層	甕				0.5～4mmの石英と0.5～3mmの長石を中量含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ	良好	褐灰色	にぶい黄橙色	
488	C-7	CB	上層	甕	24.8			0.5～5mmの石英と0.5～2mmの長石を多量含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	灰褐色	にぶい橙色	
489	D-6	CB	上層	甕	22.2			1.5mm以下の石英と1mm以下の長石を少量含む	ヨコナデ、ナデ、ミガキ	ユビオサエ、ハケメ、ミガキ	良好	灰黄色	黄灰色	
490	F-5	CB	上層	甕	29.0			0.5～3mmの石英と2.5mm以下の長石を中量、1mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい橙色	にぶい赤褐色	
491	D-5・E-5	CB	上層	甕	24.8			0.5～3mmの石英、長石を多く含む	ミガキ、ナデ	ミガキ、ナデ、ユビオサエ	良好	灰黄褐色	にぶい黄褐色	
492	C-10	CB	上層	甕	22.4			1mm前後の長石、石英を中量含む	ユビオサエ、ミガキ	ミガキ、ナデ？	良好	黒色	淡灰茶色	
493	C-8	CB	上層	甕				2mm以下の石英、長石を多く含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	橙色	にぶい橙色	
494	D-5	CB	上層	甕				0.5～2.5mmの石英と1mm以下の長石を中量含む	ナデ？	ユビオサエ、ナデ	良好	灰黄褐色	灰黄褐色	
495	C-10	CB	上層	甕				0.5～5mmの石英と0.5～4.5mmの長石を多量に含む	ナデ、ユビオサエ	ユビオサエ、ナデ	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	
496	C-10	CB	上層	甕				0.5～4mmの石英と3mm以下の長石を多量に、1mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	灰黄色	灰白色	
497	C-10	CB	上層	甕	19.6			0.5～2mm大の長石、石英を中量含む。やや密	ユビオサエ、ナデ、ヘラミガキ	ナデ	良好	暗茶色	暗黄色	
498	C-10	CB	上層	甕	23.0			0.5～3mmの石英と1mm以下の長石を少量含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ヨコナデ、ミガキ	良好	褐灰色	にぶい橙色	
499	E-6	CB	上層	甕	22.4			0.5～4mmの石英と3.5mm以下の長石を中量、1.5mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	灰黄褐色	にぶい黄橙色	
500	E-6	CB	上層	甕	18.9	20.0	6.9	0.5～5mmの石英と2.5mm以下の長石を多量含む	ミガキ	ミガキ、ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい橙色	にぶい褐色	穿孔あり

番号	地区・グリッド	遺構	層位	器種	口径	器高	底径	胎土	調整外面	調整内面	焼成	色調外面	色調内面	備考
501	C-10	CB	上層	甕	17.4			0.5～3mmの石英を少量含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	浅黄橙色	淡黄色	
502	E-5	CB	上層	甕	19.0			0.5～5mmの石英と1mm以下の長石を少量含む	ナデ、ユビオサエ	ユビオサエ、ナデ	良好	灰褐色	にぶい赤褐色	
503	F-5	CB	上層	甕	23.0			0.5～3mmの石英と0.5～2mmの長石を多量含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
504	D-5	CB	上層	甕				0.5～3mmの石英と長石を少量、0.5～2mmの赤色酸化粒を微量含む	ナデ、ユビオサエ	ユビオサエ、ナデ	良好	灰黄褐色	黒色	スス付着
505	C-10	CB	上層	甕	24.0			0.5～3.5mmの石英を中量、1mm以下の長石を少量、2mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ユビオサエ、ナデ	ミガキ、ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
506	F-5	CB	上層	甕	21.0			0.5～3.5mmの石英と0.5～2.5mmの長石を多量含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	灰黄褐色	灰黄褐色	
507	E-5・E-6	CB	上層	甕	21.4			0.5～3mmの石英と0.5～1.5mmの長石を少量含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	良好	黄灰色	黄灰色	
508	C-10	CB	上層	甕	23.0			1mm前後の長石、石英を少量含む	ユビオサエ、ナデ	ミガキ	良好	淡橙色	暗茶色	
509	G-5	CB	上層	甕				0.5～5mmの石英を多量、0.5～2mmの長石を中量、0.5～2mmの赤色酸化粒を少量含む	ユビオサエ	ユビオサエ？	良好	にぶい橙色	にぶい黄橙色	
510	F-5	CB	上層	甕	22.8		8.0	0.5～5mmの石英と3mm以下の長石を中量、0.5～3mmの赤色酸化粒をわずかに含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
511	C-10	CB	上層	甕				0.5～3mmの石英と0.5～4mmの長石を中量、1mm以下の赤色酸化粒と雲母を微量含む	ミガキ、ユビオサエ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい橙色	
512	C-9	CB	上層	甕	23.4			0.5～2.5mmの石英を少量含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	良好	灰黄褐色	灰黄褐色	スス付着
513	F-6	CB	上層	甕	16.2			4mm以下の石英と3.5mm以下の長石を多量含む	ユビオサエ、ナデ？	ユビオサエ、ナデ	良好	灰黄褐色	灰黄褐色	
514	D-5	CB	上層	甕	20.0			0.5～4.5mmの石英を多量、0.5～2.5mmの長石を中量含む	不明	ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
515	D-5・E-5	CB	上層	甕	27.0	30.5	8.6	0.5～4mmの石英、長石を多く含む	ユビオサエ、ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	明赤褐色	にぶい黄橙色	スス付着 穿孔あり
516	E-5	CB	上層	甕	17.6			0.5～5mmの石英と0.5～3.5mmの長石を多量含む	ナデ、ユビオサエ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	灰黄色	
517	E-5	CB	上層	甕	19.6			0.5～4mmの石英と0.5～2mmの長石を少量含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ユビオサエ、ミガキ	良好	黄灰色	黄灰色	
518	E-6	CB	上層	甕				0.5～3mmの長石、石英を多く含む	ハケメ、ユビオサエ、ナデ	ナデ、ユビオサエ、ハケメ	良好	にぶい黄橙色	にぶい褐色	
519	C-8	CB	上層	甕？				2mm以下の石英、長石を多く含み、1mm前後の赤色酸化粒を多く含む	ナデ	ナデ	良好	にぶい橙色	橙色	
520	C-7	CB	上層	甕？				2mm以下の石英、長石を多く含む	ナデ	ナデ	良好	明赤褐色	明赤褐色	
521	C-9	CB	上層	鉢	22.2			0.5～2mmの長石、石英を多く含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	灰黄褐色	にぶい赤褐色	
522	C-8	CB	上層	鉢	12.4			1mm以下の長石をごくわずかに含む	ミガキ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい橙色	褐灰色	
523	D-5	CB	上層	甕	11.6			0.5～2.5mmの石英と0.5～3mmの長石を中量、1.5mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	黄灰色	灰黄色	
524	C-8	CB	上層	鉢	27.8			0.5～6mmの石英と0.5～3mmの長石を多量に、2.5mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ユビオサエ、ヨコナデ？	ユビオサエ、ミガキ	良好	灰黄褐色	にぶい黄橙色	
525	C-8	CB	上層	鉢	31.4			0.5～6mmの石英と2mm以下の長石を多量含む	ユビオサエ、ミガキ？	ユビオサエ、ミガキ？	良好	灰褐色	黒褐色	スス付着

番号	地区・グリッド	遺構	層位	器種	口径	器高	底径	胎土	調整外面	調整内面	焼成	色調外面	色調内面	備考
526	E-5	CB	上層	鉢	22.0			4mm以下の石英と長石を多く含み、2mm前後の雲母をわずかに含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい橙色	灰褐色	
527	C-9	CB	上層	鉢	15.0			3mm以下の石英、長石を多く含む	ミガキ	ミガキ、ユビオサエ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
528	D-5	CB	上層	鉢				0.5～4mmの長石、石英を多く含み、1mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
529	E-5	CB	上層	鉢	29.0			0.5～5mmの石英、長石を中量、1mm以下の赤色酸化粒・チャートをわずかに含む	ミガキ、ユビオサエ	ユビオサエ、ミガキ	良好	橙色	浅黄橙色	
530	E-5	CB	上層	鉢	18.2		7.6	0.5～4mmの石英と長石を多量に、0.5～6mmの赤色酸化粒を少量含む	ミガキ、ナデ	ナデ、ミガキ？、ユビオサエ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
531	C-9	CB	上層	鉢	17.2	12.9	7.8	0.5～2㎜大の長石、石英を多量に含む	ナデ、ユビオサエ、ミガキ	ナデ	良好	暗橙	灰色	
532	F-5	CB	上層	鉢	24.4			0.5～2mmの石英、長石を多く含み、5mm前後の長石、1mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む。	ナデ、ユビオサエ、ミガキ	ユビオサエ、ミガキ	良好	橙色	にぶい褐色	
533	H-6	CB	上層	鉢	36.6			0.5～5mmの石英と0.5～3mmの長石を多量、1mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ユビオサエ、ナデ？	ユビオサエ、ナデ、ハケメ？	良好	橙色	橙色	
534	F-6	CB	上層	鉢	20.6			0.5～3.5mmの石英と0.5～2mmの長石を多量、1mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ナデ	ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
535	D-6	CB	上層	鉢	37.0			0.5～6mmの石英と0.5～2.5mmの長石を中量、1mm以下の赤色酸化粒を微量含む	ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	ナデ	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄橙色	
536	E-5	CB	上層	鉢	15.8			0.5～4mm以下の石英と長石を中量、1mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	
537	D-5	CB	上層	鉢	24.8			0.5～3mmの石英と1.5mm以下の長石を少量含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	ナデ、ナデ	良好	にぶい橙色	にぶい黄橙色	スス付着
538	E-5・E-6	CB	上層	鉢	37.0			0.5～2mmの長石、石英を多く含む	ユビオサエ、ナデ	ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
539	C-8	CB	上層	鉢				2mm以下の石英、長石を多く含む	ナデ	ナデ	良好	にぶい褐色	灰黄褐色	
540	C-8・C-9	CB	上層	鉢	44.6			0.5～4.5mmの石英と0.5～3mmの長石を多量含む	ユビオサエ	ナデ	良好	橙色	橙色	
541	F-6	CB	上層	鉢	38.2			0.5～3mmの石英と0.5～3.5mmの長石を多量含む	ユビオサエ、ミガキ	ユビオサエ、ナデ	良好	灰黄色	黄灰色	
542	E-5	CB	上層	鉢			7.8	0.5～5.5mmの石英を多量、0.5～2mmの長石を少量含む	ナデ	ナデ	良好	灰白色	にぶい黄橙色	
543	E-5	CB	上層	不明			8.1	径2mm以下の石英、長石を多く含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	やや良好	浅黄橙色	橙色	
544	C-10	CB	上層	甕			7.6	0.5～3㎜の長石、石英を多量に含む	ミガキ？、ナデ	ナデ	良好	暗橙色	暗茶色	
545	G-5	CB	上層	甕			7.7	0.5～3.5mmの石英を多量に、0.5～1.5mmの長石を少量含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	橙色	灰褐色	
546	E-5	CB	上層	甕			7.4	0.5～5mmの石英と長石を多量含む	不明	ユビオサエ	良好	明黄褐色	灰黄色	
547	E-5	CB	上層	甕			12.6	0.5～5mmの石英と0.5～2,5mmの石英を多量含む	ミガキ、ナデ	ミガキ	良好	明黄褐色	にぶい黄色	
548	E-6	CB	上層	甕			6.4	径2mm以下の石英、長石を多く含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい橙色	灰白色	スス付着
549	D-6	CB	上層	甕			6.6	0.5～4mmの石英と0.5～3mmの長石を少量含む	ナデ	ミガキ、ナデ、ユビオサエ	良好	灰黄色	灰黄色	
550	F-5	CB	上層	甕			7.6	0.5～3.5mmの石英と0.5～2mmの長石を少量含む	ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	黒褐色	赤褐色	

番号	地区・グリッド	遺構	層位	器種	口径	器高	底径	胎土	調整外面	調整内面	焼成	色調外面	色調内面	備考
551	E-5	CB	上層	甕			11.4	0.5～3.5mmの石英を中量、0.5～3mmの長石を少量含む	ナデ	ナデ	良好	にぶい橙色	灰白色	
552	C-10	CB	上層	甕			5.5	1mm前後の長石、石英を多量に含む	ヘラミガキ	ナデ、ユビオサエ	良好	暗橙茶色	暗茶色	
553	E-6	CB	上層	甕			7.5	0.5～4mmの石英と0.5～3mmの長石を多量に、0.5～1mmの赤色酸化粒を微量含む	ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	にぶい黄橙色	にぶい橙色	穿孔あり
554	E-6	CB	上層	甕			8.8	0.5～4mmの石英と0.5～2.5mmの長石を多量含む	不明	ナデ、ユビオサエ	良好	橙色	灰黄褐色	穿孔あり
555	C-10	CB	上層	甕			6.6	0.5～4mmの石英を中量、0.5～1mmの長石を少量含む	ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	橙色	褐灰色	穿孔あり
556		CB	上層	不明			6.5	0.5～2,5mmの石英と0.5～2mmの長石を少量含む	不明	不明	良好	明赤褐色	にぶい黄色	
557	C-10	CB	上層	甕			7.4	0.5～4mmの石英を中量、0.5～2mmの長石を少量含む	ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	灰黄褐色	灰黄色	穿孔あり
558	E-6	CB	上層	甕			7.6	0.5～4mmの石英を多量に、0.5～2mmの長石を少量含む	不明	ナデ、ユビオサエ	良好	橙色	褐灰色	穿孔あり
559	E-6	CB	上層	不明			4.8	0.5～4.5mmの石英と0.5～3mmの長石を多量含む	ミガキ、ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	
560	D-5	CB	上層	甕			9.6	0.5～5.5mmの石英を中量、0.5～3mmの長石を少量、0.5～1.5mmの赤色酸化粒を微量含む	不明	ナデ	良好	橙色	浅黄橙色	穿孔あり
561	D-5・E-5	CB	上層	甕			7.3	0.5～7mmの石英を多量含む	ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	浅黄橙色	にぶい黄橙色	穿孔あり
562	E-5	CB	上層	甕			8.1	0.5～4mmの石英と0.5～3mmの長石を中量含む	ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	浅黄橙色	灰黄褐色	穿孔あり
563	C-8	CB	上層	高杯？	21.4			0.5～3mmの石英、長石を多く含む	ユビオサエ	ミガキ	良好	明褐灰色～明赤褐色	にぶい褐色	スス付着
564	F-5	CB	上層	高杯？				0.5～4mmの石英と0.5～3mmの長石を多量に含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ、ミガキ、ユビオサエ	良好	にぶい黄橙色	褐灰色	
565	C-7	CB	上層	高杯？	25.2			0.5～3mmの石英、長石を多く含み、1mm前後の赤色酸化粒を含む	ミガキ	不明	良好	褐灰色	にぶい黄橙色	
566	C-10	CB	上層	高杯				0.5～4mmの長石、石英を多く含み、1mm以下の雲母を含む	ナデ	ミガキ、ナデ	良好	灰黄褐色	にぶい黄橙色	
567	E-5	CB	上層	高杯				0.5～4mmの長石、石英を多く含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
568	E-5	CB	上層	高杯			5.7	0.5～2mmの長石、石英を多く含む	ナデ、ユビオサエ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい橙色	橙色	
569	E-5	CB	上層	片口		13.0	4.4	径4mm以下の石英、長石を多く含み、径1mm以下の赤色酸化粒を含む	ミガキ	不明	良好	灰黄褐色	にぶい黄橙色	
570	E-5	CB	上層	壺			2.7	2mm以下の石英、長石を多く含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
571	E-6	CB	上層	壺			3.6	2mm以下の長石、石英を多く含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい橙色	灰黄褐色	
572	D-5	CB	上層	鉢	3.9	2.8	2.7	2mm以下の石英、長石を多く含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	灰黄褐色	褐灰色	
573	C-6	CB	上層	甕	8.7	7.8	3.4	2mm以下の石英、長石を多く含み、1mm以下の雲母をわずかに含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	灰黄褐色	にぶい黄橙色	
574	C-10	CB	上層	壺			3.9	0.5～3mmの石英と0.5～4mmの長石を多量含む	ナデ、ユビオサエ	不明	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	
575	C-10	CB	上層	鉢	9.4	5.0	3.4	0.5～3mmの石英、長石を多く含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい橙色	橙色	

番号	地区・グリッド	遺構	層位	器種	口径	器高	底径	胎土	調整外面	調整内面	焼成	色調外面	色調内面	備考
576	D-5	CB	上層	壷	28.2			0.5～3mmの石英と2mm以下の長石を多量含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	明赤褐色	にぶい黄橙色	
577	D-5	CB	上層	甕				2mm以下の長石、石英を多く含む	ナデ	ナデ	良好	にぶい赤褐色	明赤褐色	
578	D-5	CB	上層	甕				0.5～5mmの石英と2mm以下の長石を中量、1.5mm以下の赤色酸化粒をわずかに含む	ユビオサエ	不明	良好	橙色	にぶい橙色	
579	F-5	CB	上層	甕	18.0			0.5～4.5mmの石英と1mm以下の長石を少量含む	ナデ、ハケメ	ミガキ、ナデ	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	
580	H-6	CB	上層	高杯	29.8			0.5～2mmの石英、長石を多く含む	ナデ	ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
581	D-5	CB	上層	壷	16.0			2mm以下の長石、石英、角閃石、雲母を多く含む	ナデ	ナデ	良好	にぶい黄褐色	にぶい褐色	丹塗り
582	F-5	CB	上層	壷	15.2			1mm以下の長石、石英、角閃石、雲母を多く含む	ナデ	ナデ	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
583	E-5	CB	上層	壷	15.4			1mm以下の長石、石英、角閃石、雲母を多く含む	ナデ	ナデ、ケズリ	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	丹塗り
584	E-5	CB	上層	壷	12.4			1mm以下の長石、石英、角閃石、雲母を多く含む	ナデ	ナデ	良好	にぶい褐色	にぶい橙色	
585	E-5	CB	上層	壷	13.0			1mm以下の長石、石英を多く含む	ナデ	ナデ	良好	にぶい黄褐色	灰黄褐色	
586	F-5	CB	上層	壷	14.4			1mm以下の長石、石英, 角閃石、雲母を多く含む	ナデ	ナデ、ケズリ	良好	明褐色	にぶい黄褐色	
587	F-5	CB	上層	壷	12.6			1mm以下の長石、石英、雲母を多く含む	ナデ	ナデ	良好	灰黄褐色	灰黄褐色	
588	D-5	CB	上層	壷				1mm以下の長石、角閃石を多く含む	ナデ	ナデ	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄橙色	
589	C-8	CB	上層	壷				1mm以下の長石、角閃石を多く含み、2mm前後の長石をわずかに含む	ナデ	ナデ	良好	にぶい黄褐色	灰黄褐色	丹塗り
590	E-5	CB	上層	壷				2mm以下の石英、長石、角閃石を多く含む	ナデ	ナデ、ケズリ	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄橙色	
591	E-5	CB	上層	壷				1mm以下の長石、角閃石を多く含む	ナデ	ナデ	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
592	F-5	CB	上層	高杯	25.0			1mm以下の長石、石英を多く含む	ナデ	ナデ	良好	褐灰色	にぶい赤褐色	丹塗り
593		CB	上層	高杯				1mm以下の長石、石英、角閃石を多く含む	ケズリ	ナデ	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	
594	C-8	CB	上層	杯				緻密。0.5mm以下の砂粒を含む	回転ナデ	回転ナデ	良好	灰色	灰色	須恵器
595	D-9	SH01		蓋	19.0			0.5～2㎜の長石、石英を多量に含む	ナデ、ヨコナデ	ナデ、ヨコナデ	良好	暗橙色	橙色	
596	D-9	SH01		壷				1㎜前後の長石、石英を多量に含む	ナデ,ヨコナデ	ナデ、ヨコナデ	良好	淡橙色	淡橙色	
597	D-9	SH01		壷				0.5～3㎜大の石英を多量に含む、長石も中量含む	ナデ	ナデ	良好	暗黄色	黒色	
598	D-9	SH01		甕				0.5～2㎜の石英、長石を中量含む	ナデ	ナデ	良好	灰黄色	淡黄色	
599	D-9	SH01		甕				0.5～1㎜大の長石、石英、赤色酸化粒を多量に含む	不明	ナデ	良好	暗橙色	暗橙色	
600	D-9	SH01		不明			9.0	0.5～2㎜前後の長石、石英を多量に含む	ナデ	ナデ	良好	橙色	橙色	

番号	地区・グリッド	遺構	層位	器種	口径	器高	底径	胎土	調整外面	調整内面	焼成	色調外面	色調内面	備考
601	D-9	SH01		壷			10.7	0.5～2㎜の長石を多量に含む、また、石英も中量含む	ナデ	ナデ	良好	暗橙色	黒色	
602	D-9	SH01		壷			9.0	0.5～3㎜大の長石、石英を多量に含む	ナデ	ナデ	良好	暗橙色	暗黄橙色	
603	D-9	SH01		壷			8.5	0.5～2㎜大の長石、石英を中量含む	ナデ	ナデ	良好	暗橙色	灰色	
604	E-8	SH02		甕				0.5～2㎜前後の長石、石英を多量に含む	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	良好	淡橙色	淡橙色	
605	E-8	SH02		不明			6.3	0.5～2㎜大の長石、石英を大量に含む	ナデ	ナデ	良好	暗橙色	暗茶色	
606	E-8	SH02		不明			7.5	0.5～2㎜大の石英を多量に含み、長石も少量含む	ナデ	ナデ	良好	暗茶色	暗茶色	
607	E-8	SH02		不明			8.0	0.5～3㎜大の石英を多量に含む。0.5mm大の長石も少量含む	ナデ	ナデ	良好	暗橙色暗	暗灰色	
608	H-6	SH06		壷			12,0	1㎜前後の長石、石英、赤色粒を中量含む	ナデ、ミガキ	ナデ	良好	暗黄色	白黄色	
609	D-7	SB03		甕	21.6			0.5～3㎜の長石、石英を中量含む	ナデ、ユビオサエ、ハケメ	ユビオサエ、ナデ	良好	暗茶褐色	暗茶褐色	
610	C-7	SB05		壷				0.5～3㎜の長石、石英を多量に含む	ナデ	ナデ	良好	淡黄色	淡褐色	
611	C-8	SB07		壷	14.6			1㎜前後の長石、石英を中量含む	ナデ	ナデ、ミガキ	良好	淡紅黄色	淡紅黄色	
612	E-6	SB19		壷				1㎜前後の長石・石英を中量含む	ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	暗茶褐色	暗茶褐色	
613	F-6	SB28		壷			7.5	0.5～2㎜前後の長石・石英を多量に含む	ユビ、ユビオサエ	ナデ	良好	橙褐色	暗黄土色	
614	D-8	柵列5		甕	20.8			1㎜前後の長石、石英を中量含む	ナデ	ナデ	良好	淡黄色	淡黄色	
615	C-8	柵列3		壷			8.0	0.5～2㎜の石英を多量、長石を中量、赤色酸化粒を少量含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ	良好	茶褐色	茶褐色	
616	E-7	柵列11		甕	16.6			1㎜前後の長石・石英赤色酸化粒を中量含む	ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	暗黄色	淡黄橙色	
617	E-7	柵列11		甕	20.0			1㎜前後の長石・石英、赤色酸化粒を中量含む	ナデ	ナデ	良好	暗茶色	淡黄色	
618	E-7	柵列11		不明			6.0	0.5～2㎜大の長石・石英を多量に含む	ユビ、ユビオサエ？	ユビオサエ、ナデ？	良好	淡橙色	暗黄色	
619	E-7	柵列11		不明			6.8	1㎜前後の石英を多量に、長石を少量含む	ナデ	ナデ	良好	暗橙色	暗茶色	
620		P01		甕	16.6			1㎜前後の長石、石英を少量含む	ナデ	ナデ	良好	暗茶色	淡黄色	
621	D-9	P04		甕	14.0			1㎜前後の長石,石英を少量含む	ナデ	ナデ	良好	暗茶色	暗茶色	
622	D-9	P05		壷				0.5～2㎜大の長石・石英を多量に、1㎜前後の赤色酸化粒を少量含む	ミガキ	ナデ	良好	暗茶色	暗茶色	
623	E-9	P11		壷			10.3	0.5～2㎜の長石、石英を多量に含む	ミガキ、ユビオサエ、ナデ	ナデ	良好	暗橙色	暗黄土色	
624	D-9	P16		壷				1㎜以下の長石・石英、赤色酸化粒を中量含む	ナデ	ナデ	良好	暗橙色	暗橙色	
625	D-9	P16		甕	18.6			0.5～2㎜の長石、石英を多量に、1㎜以下の赤色酸化粒を若干含む	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	良好	暗茶色	暗黄色	

番号	地区・グリッド	遺構	層位	器種	口径	器高	底径	胎土	調整外面	調整内面	焼成	色調外面	色調内面	備考
626	D-9	P16		甕			9.6	0.5～2㎜の石英を多量に、1㎜前後の長石を中量含む	ナデ	ナデ	良好	淡黄色	黒色	
627	D-9	P16		甕			7.2	0.5～2㎜前後の石英を多量に含む、1㎜以下の長石・赤色酸化粒を少量含む	ミガキ、ユビオサエ、ナデ	ミガキ、ユビオサエ、ナデ	良好	暗橙色	暗茶色	
628	D-7・D-8	P17		蓋	8.8			1㎜前後の長石,石英を少量含む	ナデ	ナデ	良好	暗茶色	暗茶色	
629	D-7・D-8	P17		甕				1㎜前後の長石、石英を少量含む	ナデ	ナデ	良好	暗茶色	暗黄色	
630	D-7	P18		甕				1㎜前後の長石,石英を少量含む	ナデ	ナデ	良好	暗茶色	暗橙色	
631	E-6	P32		壷			11.0	1㎜前後の長石、石英を中量含む	ハケメ、ナデ	ナデ	良好	淡黄色	淡黄灰色	
632	E-7	P38		甕	27.8			0.5～2㎜の長石を多量、1㎜前後の石英を少量含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ	良好	暗茶色	淡黄色	
633	E-7	P38		甕				0.5～2㎜の長石、石英を多量に含む	不明	ナデ？	良好	灰黄色	淡黄色	
634	E-7	P38		壷			7.4	0.5～2㎜の長石、石英を多量に含む	不明	ナデ	良好	黒色	黒色	
635	C-9	P79		甕	12.6			1㎜前後の長石を多量、石英を少量含む	ユビオサエ	ナデ	良好	暗茶褐色	暗茶褐色	
636	C-9	P79		壷	15.6			0.5～2㎜前後の長石、石英を多量に含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ	良好	淡黄色	淡黄色	
637	C-9	P79		甕			19.4	0.5～3㎜の長石、石英を多量に含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ	良好	淡橙色	暗灰色	
638	D-9	SK04		壷				1㎜前後の長石,石英を多量に含む	ナデ	ナデ	良好	暗茶褐色	暗黄色	
639	D-9	SK04		壷				0.5～2㎜大の石英を多量に含む	ナデ	ナデ	良好	淡橙色	淡黄橙色	
640	D-9	SK04		壷				1㎜前後の長石,石英を中量含む	ナデ	ナデ	良好	暗黄色	橙色	
641	D-9	SK04		甕				0.5～2㎜の長石、石英を多量に含む	ナデ	ナデ	良好	暗灰色	淡黄色	
642	D-9	SK04		壷			11.0	0.5～2㎜長石,石英を中量含む	ユビオサエ、ナデ	ナデ	良好	橙色	淡黄色	
643	D-9	SK05		蓋				0.5～2㎜大の長石,石英を多量に含む	ナデ	ナデ	良好	淡橙色	暗黄色	
644	D-9	SK05		甕				1㎜前後の長石,石英を中量含む	ナデ	ナデ	良好	暗黄色	暗黄色	
645	D-9	SK05		壷			8.4	0.5～2㎜大の長石、石英を中量含む、まれに5㎜大の長石もある	ミガキ、ハケメ？、ナデ	ナデ	良好	暗褐色	橙色	
646	D-9	SK06		蓋				1㎜前後の長石を多量、5㎜前後の長石も若干含む	ナデ	ナデ	良好	暗橙色	暗橙色	
647	D-9	SK06		甕				1㎜前後の長石、石英を中量含む	ナデ	ナデ	良好	明褐色	暗黄色	
648	D-9	SK06		甕				1㎜前後の長石、石英を少量含む	ユビオサエ、ナデ、ヨコナデ	ユビオサエ、ナデ、ヨコナデ	良好	暗黄色	淡黄色	
649	D-9	SK06		甕	30.0			0.5～2㎜の長石、石英を中量含む	ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	淡黄色	淡黄色	
650	D-9	SK06		甕			6.6	0.5～2㎜前後の長石、石英を多量に含む	ナデ	ナデ	良好	暗褐色	暗褐色	

番号	地区・グリッド	遺構	層位	器種	口径	器高	底径	胎土	調整外面	調整内面	焼成	色調外面	色調内面	備考
651	D-9	SK06		甕			8.4	0.5～3㎜の長石、石英を多量に含む	ナデ	ナデ	良好	淡橙色	暗灰色	
652	D-9	SK06		壷			10.0	0.5㎜～3㎜の長石、石英を中量含む	ナデ	ナデ	良好	暗茶色	暗茶色	
653	D-8	SK08		甕				0.5～3㎜大の長石を多量、1㎜前後の石英を少量含む	ナデ	ナデ	良好	暗灰色	暗灰色	
654	D-8	SK08		甕			6.7	0.5～2㎜前後の長石、石英を多量に含む	ナデ	ナデ	良好	暗茶色	暗茶色	
655	D-9	SK11		甕				0.5～2㎜大の長石と石英を多量に含む	ナデ	ナデ	良好	暗褐色	暗褐色	
656	D-9	SK11		甕				0.5～2㎜大の長石と石英を多量に含む	ナデ	ナデ	良好	暗褐色	暗褐色	
657	D-9	SK11		甕	24.0			0.5～2㎜前後の長石、石英を多量に含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	暗茶色	暗茶色	
658	D-9	SK11		甕			7.5	0.5～2㎜大の長石、石英を多量に含む	ナデ	ナデ	良好	暗橙色	暗橙色	
659	D-9	SK11		甕			8.8	0.5～2㎜大の長石、石英を多量に含む	ナデ	ナデ	良好	淡橙色	淡灰色	
660	D-8	SK14		蓋	23,8	10.5		0.5～3㎜の石英、長石を多量に含む	ナデ、ユビオサエ、ミガキ	ユビオサエ、ナデ、ヨコナデ	良好	淡黄色	淡黄色	
661	D-9	SK14		甕	26.2			0.5～2㎜前後の長石、石英を多量に含む	ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	ナデ	良好	暗橙色	暗橙色	
662	D-8	SK14		壷			10.0	0.5～2㎜前後の長石、石英を中量含む	ユビオサエ、ナデ	ナデ	良好	暗黄色	黒色	
663	D-8	SK14		不明				0.5～2㎜の石英、長石を中量含む	ナデ	ナデ	良好	淡橙色	淡橙色	
664	E-7・E-8	SK15		蓋	8.5			1㎜前後の長石、石英を中量含む	ナデ、ユビオサエ	ユビオサエ	良好	黒色	黒色	
665	E-7・E-8	SK15		壷	21.4			0.5～2㎜前後の長石、石英を多量に含む	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ハケメ、ナデ	良好	淡黄色	淡黄色	
666	E-7・E-8	SK15		壷				0.5mm～4㎜の石英を多量に含む	ナデ	ナデ	良好	淡黄色	淡黄色	
667	E-7・E-8	SK15		甕？			8.0	0.5～3㎜の石英を多量、1㎜大の長石を少量含む	ナデ	ナデ	良好	灰紅色？	橙色	
668	E-7・E-8	SK15		甕			8.4	0.5～2㎜の石英を多量、長石、赤色粒を少量含む	ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	暗橙色	暗茶色	
669		SK16		壷				1㎜前後の長石、石英を少量含む	ナデ？	ナデ？	良好	淡黄色	淡黄色	
670		SK16		甕				0.5～2㎜の長石、石英を中量含む	ナデ？	ナデ？	良好	暗黄色	暗黄色	
671		SK16		甕				0.5～2㎜前後の石英を多量に含む。	不明	不明	良好	濃い灰色	濃い灰色	
672	F-7	SK16		壷			9.3	0.5～2㎜前後の、長石、石英を多量に含む	ナデ？	不明	良好	明褐色	明褐色	
673	E-7・F-7	SK17		蓋				0.5～2㎜の長石、石英を多量に含む	ミガキ？、ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ？	良好	淡黄色	暗黄色	
674	E-7・F-7	SK17		壷	12.0			0.5～2㎜の長石、石英を多量に含む	不明	不明	良好	黄灰色	黄灰色	
675	E-7・F-7	SK17		壷				0.5～2㎜の石英、長石を多量に含む	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	良好	淡黄色	淡黄色	

番号	地区・グリッド	遺構	層位	器種	口径	器高	底径	胎土	調整外面	調整内面	焼成	色調外面	色調内面	備考
676	E-7・F-7	SK17		甕				1㎜大の長石を中量含む	ナデ	ナデ	良好	暗黄色	暗黄色、橙色	
677	E-7・F-7	SK17		壺				0.5～2㎜大の長石,石英を中量含む	ナデ	ナデ	良好	淡黄色	淡黄色	
678	E-7・F-7	SK17		壺				1㎜前後の長石、石英を少量含む	ナデ	ミガキ	良好	暗橙色	暗橙色	
679	E-7・F-7	SK17		甕				0.5～2㎜の長石、石英を中量含む	ナデ	ナデ	良好	淡黄色	淡黄色	
680	E-7・F-7	SK17		甕				0.5～2㎜の長石、石英を中量含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	暗茶色	暗茶色	
681	E-7・F-7	SK17		甕	24.0			0.5～2㎜大の長石、石英を多量に含む	ヨコナデ、ユビオサエ	ヨコナデ、ナデ	良好	暗茶色	黒色	
682	E-7・F-7	SK17		甕				0.5～2㎜の長石、石英を中量含む	ナデ	ナデ	良好	暗黄色	暗黄色	
683	E-7・F-7	SK17		甕				1㎜前後の長石、石英を中量含む	ナデ,ユビオサエ	ナデ	良好	暗橙色	暗橙色	
684	E-7・F-7	SK17		甕	12.2			0.5～2㎜の長石、石英を多量に含む	ヨコナデ,ユビオサエ、ナデ	ヨコナデ、ユビオサエ	良好	暗黄色	暗黄色	
685	E-7・F-7	SK17		甕				0.5～2㎜の長石、石英を中量含む	ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	良好	淡黄色	淡黄色	
686	E-7・F-7	SK17		甕			7.0	0.5～5mmの長石,石英を中量含む	ユビオサエ、ナデ	ナデ	良好	暗黄色	暗黄色	
687	E-7・F-7	SK17		不明			9.7	0.5～2㎜大の長石、石英を多量に含む	ミガキ？、ユビオサエ、ナデ	ナデ	良好	暗茶褐色	暗茶褐色	
688	E-7・F-7	SK17		甕				1㎜前後の石英を少量含む	ミガキ、ユビオサエ、ナデ	ナデ？	良好	暗橙色	暗橙色	
689	E-7・F-7	SK17		甕				0.5～3㎜の長石、石英を少量含む	ナデ	ミガキ、ナデ	良好	明茶褐色	暗茶褐色	
690	E-7・F-7	SK17		壺			7.3	0.5～2㎜前後の長石、石英を多量に含む	ユビオサエ、ナデ	ナデ？	良好	黒茶色	黒茶色	
691	E-7・F-7	SK17		不明			7.8	0.5～3㎜の長石、石英を中量含む	ナデ	ナデ	良好	淡橙色	暗黄色	
692	E-7・F-7	SK17		甕				0.5～3㎜の長石を中量、0.5㎜前後の石英を若干含む	ミガキ	ナデ	良好	暗橙色	暗橙色	木葉痕あり
693	E-7・F-7	SK17		壺			11.7	0.5～2㎜の石英を多量に、0.5㎜前後の長石を少量含む	ナデ	ナデ	良好	暗橙色	淡橙色	
694	E-7	SK19		蓋				0.5～3㎜大の長石、石英を中量含む	ナデ、ヨコナデ	ナデ	良好	淡茶色	黒色	
695	E-7	SK19		甕				1㎜前後の長石、石英を多量に含む	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	良好	暗黄色	暗黄色	
696	E-7	SK19		甕				0.5～1㎜前後の長石、石英を多量に含む	ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	良好	暗黄色	暗橙色	
697	E-7	SK19		甕				0.5～2㎜の長石、石英を中量含む	ナデ	ナデ	良好	淡黄色	暗茶色	
698	E-7	SK19		甕				0.5～2㎜前後の長石、石英、赤色粒を中量含む	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	良好	淡黄色	淡黄色	
699	E-7	SK19		壺			9.5	0.5～2㎜前後の長石、石英を多量に含む	ミガキ、ナデ	ナデ	良好	淡茶色	暗茶色	
700	E-7	SK19		甕			5.3	0.5～2㎜の長石、石英を中量含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	暗茶色	橙色	

番号	地区・グリッド	遺構	層位	器種	口径	器高	底径	胎土	調整外面	調整内面	焼成	色調外面	色調内面	備考
701	E-7	SK19		甕			6.8	0.5～2㎜の長石、石英を中量含む	ナデ	不明	良好	淡黄色	濃い灰色	
702	E-7	SK19		壷			8.4	0.5～3㎜前後の長石、石英を多重に含む	ナデ	ナデ	良好	暗橙色	暗黄色	
703	E-7	SK19		甕			6.8	0.5～2㎜の長石、石英を中量含む	ナデ	ナデ	良好	淡橙色	暗茶色	
704	E-7	SK19		不明				0.5～2㎜大の長石、石英を多量に含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	暗橙色	暗橙色	
705	E-7	SK20		甕				0.5～3㎜の長石、石英を多量に含む	不明	不明	良好	橙色	橙色	
706	F-7	SK21		甕？				0.5～2㎜前後の長石、石英を少量含む	ナデ	ナデ	良好	暗黄色	暗黄色	
707	D-9	SK27		壷				1㎜前後の石英を多量に、1㎜以下の長石を少量含む。密	ナデ	ナデ	良好	淡黄橙色	淡黄橙色	
708	D-9	SK27		甕				0.5～2㎜の石英を中量、1㎜前後の長石・赤色酸化粒を少量含む	ナデ	ユビオサエ,ナデ	良好	暗茶色	暗茶色	
709	D-9	SK27		壷				0.5～2㎜大の長石・石英を多量に1㎜前後の赤色酸化粒を少量含む	ナデ、ミガキ	ナデ,ユビオサエ	良好	淡褐色	茶褐色	
710	D-9	SK28		甕			7.9	0.5～2㎜の長石、石英を中量含む	ナデ	ナデ	良好	暗橙色	暗黄色	穿孔あり
711	D-9	SK29		壷				0.5～3㎜の長石、石英を多量に含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	明褐色	淡褐色	
712	C-7	SK32		壷	9.5			1㎜大の長石、石英を少量含む	ナデ	ナデ	良好	暗黄色	暗黄色	
713	C-7	SK32		壷	14.0			1㎜大の長石、石英を中量含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	淡黄色	淡黄色	
714	C-7	SK32		壷				0.5～3㎜の長石、石英を多量に、1㎜以下の赤色酸化粒を少量含む	ナデ	ユビオサエ	良好	白黄色	灰色	
715	C-7	SK32		壷			10.2	0.5～3㎜大の石英、長石を多量に含む	ハケメ、ナデ	ナデ	良好	淡橙褐色	暗灰色	
716	C-7	SK32		甕				1㎜大の長石、石英を少量含む	ナデ	ナデ	良好	暗黄色	暗黄橙色	
717	C-7	SK32		甕	21.7			0.5～3㎜大の長石、石英を中量、5㎜大の石英を若干含む	ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	淡褐色、一部暗橙色	淡褐色	
718	C-8・D-9	SK34		甕	27.0			0.5～8㎜大の長石、石英を多量Ⅱ含む	ナデ	ナデ？	良好	暗茶色、淡橙色	淡黄色、暗茶色	
719		SK37		壷				1㎜前後の長石、石英を少量含む	ナデ	ナデ	良好	淡黄色	淡黄色	
720		SK37		甕				1㎜前後の長石を中量、石英を少量含む	ナデ	ナデ	良好	暗黄色	暗黄色	スス付着
721		SK37		甕				1㎜前後の長石、石英を多量に含む	ナデ	ナデ	良好	橙色	暗黄色	
722		SK37		甕			7.8	0.5～2㎜前後の長石、石英を多量に含む	ナデ	ナデ	良好	暗橙色	褐色	
723	E-7・D-8	SK36		壷？				1㎜前後の長石、石英、赤色酸化粒を少量含む	ナデ	ナデ	良好	橙色	橙色	
724	E-8	SK38		蓋				1㎜大の長石、石英を中量含む	ナデ	ナデ	良好	暗黄色	暗茶褐色	
725	E-8	SK38		壷				0.5～2㎜の長石を少量、1㎜以下の石英を若干含む	ユビオサエ、ナデ	ナデ	良好	暗橙色	暗橙色	

番号	地区・グリッド	遺構	層位	器種	口径	器高	底径	胎土	調整外面	調整内面	焼成	色調外面	色調内面	備考
726	E-8	SK38		甕			6.4	1㎜大の長石、石英を中量含む	ナデ	ナデ	良好	暗橙色	暗橙色	
727	E-8	SK38		甕?			8.0	0.5～2㎜大の石英を多量に、長石を少量含む	ナデ	ナデ	良好	暗橙色	暗橙色	
728	E-7	SK50		甕				1㎜前後の長石、石英を中量、赤色酸化粒を若干含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ	良好	橙色	橙色	
729	E-7	SK50		壺				0.5～2㎜大の長石、石英を多量に含む	ナデ、ユビオサエ、ミガキ？	ナデ、ユビオサエ	良好	暗褐色	淡褐色	
730	E-7	SK52		甕	20.4			0.5～2㎜の長石、石英を多量に含む	ナデ	ナデ	良好	淡黄灰色	淡黄色	
731	E-7	SK52		甕				0.5～2㎜の長石、石英を多量に含む	ナデ	ナデ	良好	茶褐色	茶褐色	
732	E-7	SK52		甕			8.8	0.5～2㎜の長石、石英を中量含む	ミガキ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	橙褐色	灰褐色	
733	F-7・F-8	SK54		甕				1㎜以下の長石、石英、赤色酸化粒を多量に含む	ナデ	ナデ	良好	暗黄橙色	暗黄橙色	
734	F-7・F-8	SK54		甕				0.5cm大の長石、石英を少量含む	ナデ	ナデ	良好	暗橙色	暗橙色	
735	F-7・F-8	SK54		甕				0.5～2㎜大の長石、石英を中量含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	淡黄色	白黄色、淡灰色	
736	F-7・F-8	SK54		甕				0.5～3㎜の長石、石英を多量に含む	ナデ	ナデ	良好	暗黄色	暗黄色	
737	F-7・F-8	SK54		不明			9.6	0.5～3㎜前後の長石、石英を多量に含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ	良好	暗橙色	淡褐色	
738	F-7・F-8	SK54		不明			8.4	0.5～3㎜の長石、石英を多量に含む	ナデ、ミガキ	ナデ	良好	淡橙色	暗褐色	
739	C-3	自然河道	上層	壺	11.0			0.5～6mmの石英、0.5～4㎜の長石を中量含む	ナデ	ナデ	良好	明薄橙色	明褐色	
740	H-2	自然河道	上層	壺	9.6			0.5～2mmの長石、石英を含み、0.5mm以下の雲母をわずかに含む	ナデ、ハケメ	ユビナデ、ナデ、ミガキ	良好	明褐色	橙色	
741	C-3	自然河道	上層	蓋?				0.5～3㎜の石英、長石を多量に含み、0.5～2㎜の赤色酸化粒を微量に含む	ナデ	ナデ	良好	にぶい薄橙色	明褐色	
742	H-2	自然河道	上層	壺				0.5～6mmの石英を多量に、0.5～2mmの長石を少量含む	ヨコナデ、ナデ	ナデ	良好	橙褐色	橙褐色	
743	H-2	自然河道	上層	甕				0.5～3mmの石英と長石を中量含む	ヨコナデ、ユビオサエ	ナデ	良好	褐色	明褐色	
744	C-3	自然河道	上層	甕				0.5～5㎜の石英を少量、0.5～3㎜の長石を中量	ナデ	ナデ	良好	褐色	明褐色	
745	C-3	自然河道	上層	甕				0.5～2㎜の石英を少量、0,5～4㎜の長石を中量含む	ナデ、ヨコナデ	ナデ	良好	暗褐色	褐色	
746	C-3	自然河道	上層	甕	26.6			0.5～2㎜の石英と0.5～4㎜の長石を中量含む	ヨコナデ、ナデ	ナデ、ユビオサエ、ミガキ	良好	暗褐色	暗褐色	
747	H-2	自然河道	上層	不明			5.0	0.5～3.5mmの石英を多量に、0.5～3mmの長石を少量含む	ナデ、ユビオサエ	ユビオサエ、ナデ	良好	明褐色	明褐色	
748	C-3	自然河道	上層	壺			11.2	0.5～3㎜の石英を少量、0.5～4㎜の長石を多量に、0.5～2㎜の赤色酸化粒を多量に含む	ナデ、ヨコナデ	ナデ	良好	明褐色	明褐色	
749	C-3	自然河道	上層	不明			9.0	0.5～4㎜の石英を少量、0.5～4㎜の長石を多量に含む	ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	にぶい薄橙色	褐色	
750	C-3	自然河道	上層	甕			7.4	0.5～3㎜の石英を少量、0.5～4㎜の長石を多量に含む	ナデ,ヨコナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	薄橙色	暗褐色	

番号	地区・グリッド	遺構	層位	器種	口径	器高	底径	胎土	調整外面	調整内面	焼成	色調外面	色調内面	備考
751	C-3	自然河道	上層	不明			7.8	0.5～3㎜の石英を少量、0.5～3㎜の長石を中量含む	ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	
752	C-3	自然河道	上層	壷			9.4	0.5～3㎜の石英、長石を多量に含む	ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	明褐色	明褐色	
753	C-3	自然河道	上層	壷			7.5	0.5～6mmの石英を中量、0.5～3㎜の長石を多量、0.5～1㎜の赤色酸化粒を微量含む	ナデ、ヨコナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	明褐色	明褐色	
754	C-3	自然河道	上層	壷			7.8	0.5～3㎜の石英,長石を多量に含む	ナデ	ナデ	良好	橙色	薄橙色	
755	C-3	自然河道	上層	壷			14.8	0.5～3㎜の石英、長石を多量に含む	ヨコナデ	ナデ	良好	褐色	明褐色	
756	C-3	自然河道	上層	甕	16.4			0.5～3㎜の石英・長石、0.5～1㎜の雲母を少量含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	茶褐色	茶褐色	
757	H-2	自然河道	上層	甕				0.5～4mmの石英と0.5～1mm長石を中量含む	ナデ	ナデ	良好	淡橙色	明褐色	
758	H-2	自然河道	上層	甕				0.5～3mmの石英と長石を中量含む	ナデ	ナデ、ミガキ	良好	茶褐色	茶褐色	
759	H-2	自然河道	上層	甕				0.5mm大の長石を少量含む	ナデ	ナデ	良好	茶褐色	橙褐色	
760	H-2	自然河道	上層	甕	25.2			0.5～2mmの石英と0.5～2.5mmの長石と、0.5～1mmの黒色粒子と1mm以下の雲母を少量含む	ハケメ?、ナデ	ナデ	良好	明褐色	明褐色	
761	H-2	自然河道	上層	甕				0.5～5mmの石英と0.5～2mmの長石を中量含む	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	良好	明灰褐色	明灰褐色	
762	H-2	自然河道	上層	甕				0.5～5mmの石英と0.5～2.5mmの長石を中量含む	ナデ、ハケメ、ヨコナデ	ナデ	良好	明褐色	明褐色	
763	H-2	自然河道	上層	甕				0.5～2mmの石英と0.5～1mmの長石を少量含む	回転ナデ、ハケメ?	回転ナデ、ナデ	良好	橙灰色	橙灰色	
764	C-3	自然河道	上層	甕			6.9	0.5㎜～2㎜の石英、長石を少量含む	ハケメ,ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	暗褐色	褐色	
765		自然河道	上層	壷			5.2	0.5～1.5mmの長石を多量、0.5mm大の石英を少量含む	ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	褐灰色	黒色	
766	H-2	自然河道	上層	高杯	17.0			0.5～3mmの石英を少量、0.5～1mmの雲母を少量含む	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	良好	暗褐色	褐色	
767	H-2	自然河道	上層	高杯				0.5～1mmの長石を少量、0.5～1.5mmの黒色粒子を中量含む	ナデ	ナデ	良好	茶褐色	茶褐色	
768	C-3	自然河道	上層	甕	7.4			1㎜大の石英・長石を中量含む	ナデ	ナデ	良好	にぶい薄橙色	にぶい黄白色	
769		自然河道	下層	蓋				1～3mmの長石・石英を中量、雲母をわずかに含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ、ユビオサエ	良好	黒色	黒色	
770	J-5	自然河道	下層	壷				0.5～4㎜の長石、石英を多く含み、赤色酸化粒をわずかに含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ、ユビオサエ	良好	にぶい橙	にぶい黄橙	
771		自然河道	下層	壷				0.5～2㎜の長石を中量、1㎜以下の石英を少量含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ、ユビオサエ	良好	灰黄褐	灰黄褐	
772	C-3	自然河道	下層	壷				0.5～3mmの長石を中量、1～2mmの石英・赤色酸化粒を少量含む	ナデ、ヨコナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい黄橙	にぶい黄橙	
773	C-3	自然河道	下層	壷			6.9	0.5～5㎜の長石を多量、1～3mmの石英を中量含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ、ユビオサエ	良好	灰褐	にぶい褐	
774	I-5	自然河道	下層	壷			8.0	1～3mmの長石、石英を多く含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ	良好	浅黄橙	明褐灰	
775		自然河道	下層	壷			10.3	0.5～5㎜の長石、石英を多く含み、赤色酸化粒をわずかに含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ、ユビオサエ	良好	にぶい黄橙	にぶい黄橙	穿孔あり

番号	地区・グリッド	遺構	層位	器種	口径	器高	底径	胎土	調整外面	調整内面	焼成	色調外面	色調内面	備考
776	I-5	自然河道	下層	壺				1～2mmの長石、石英を含み、赤色酸化粒をわずかに含む	ナデ	ナデ	良好	褐灰	灰黄褐	
777	I-5	自然河道	下層	甕				0.5～3mmの長石、石英を中量含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ	良好	灰黄褐	にぶい黄橙	
778	I-5	自然河道	下層	甕				0.5～3mmの長石、石英を中量含む	ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	灰黄褐	にぶい黄橙	
779	I-5	自然河道	下層	甕				1～3mmの長石、石英を多く含む	ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	にぶい褐	にぶい褐	
780	J-5	自然河道	下層	甕				1～4mmの長石、石英を多く含む	ナデ	ナデ	良好	灰褐	にぶい褐	
781	J-5	自然河道	下層	甕				0.5～3mmの長石、石英を含む	ナデ、ヨコナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	暗褐	褐	
782	J-5	自然河道	下層	甕				0.5～3mmの長石、石英を含み、赤色酸化粒をわずかに含む	ナデ、板状工具によるナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	灰黄褐	にぶい黄橙	
783	J-5	自然河道	下層	甕				1～3mmの長石、石英を含む	ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	にぶい赤褐	にぶい赤褐	
784	J-5	自然河道	下層	甕	27.8			0.5～4mmの長石、石英を中量含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ、ユビオサエ	良好	橙	橙	
785	J-5	自然河道	下層	甕			8.8	0.5～3mmの長石、石英を多く含み、雲母をわずかに含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ、ユビオサエ	良好	にぶい黄橙	黒色	
786	J-5	自然河道	下層	甕			8.4	0.5～1mmの長石、石英を多く含む	ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	赤褐	明赤褐	
787	J-5	自然河道	下層	甕			7.4	0.5～3mmの長石、石英をわずかに含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ、ユビオサエ	良好	明赤褐	黒褐	
788	J-5	自然河道	下層	甕			8.5	0.5～5mmの長石、石英を含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	明赤褐	灰黄褐色	
789	D-5	SD07		蓋	7.4			0.5～3mmの石英を少量含む	ナデ	ナデ	良好	淡灰褐色	暗灰色	
790	C-5	SD07		蓋	10.3			0.5～4mmの石英と長石を中量含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	明褐色	明褐色	
791	D-5	SD07		壺	15.6			0.5～4mmの赤色酸化粒を多量含む	ナデ	ナデ	良好	淡橙色	淡橙色	
792	D-5	SD07		壺				0.5～3mmの石英、長石を少量、0.5～4mmの赤色酸化粒を微量に含む	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ	良好	茶色	茶褐色	
793	D-5	SD07		壺				0.5～3mmの石英と0.5～2mmの長石を多量に含む	ヨコナデ	ナデ	良好	橙褐色	橙褐色	
794	D-5	SD07		壺				0.5～4mmの石英を中量、0.5～2mmの長石を少量含む	ユビオサエ、ヨコナデ	ナデ	良好	灰茶色	灰褐色	
795	F-5	SD07		壺				0.5～3mmの石英、0.5～2mmの長石を中量含む	ナデ、ヨコナデ	ナデ	良好	淡灰茶色	淡灰茶色	
796	C-5	SD07		壺				0.5～2mmの石英と長石を少量、0.5～2mmの赤色酸化粒を微量に含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	橙褐色	淡橙褐色	
797	D-5	SD07		壺				0.5～5mmの石英、0.5～4.5mmの長石を多量に含む	ユビオサエ、ナデ	ナデ	良好	淡茶褐色	茶褐色	
798	D-5	SD07		壺				0.5～4mmの石英を中量、0.5～5mmの長石を多量に含む	ナデ、ミガキ？	ヨコナデ	良好	暗灰色	暗灰色	
799	F-5	SD07		壺				0.5～5mmの石英と0.5～4mmの長石を多量に含む	ナデ	不明	良好	淡灰白色	淡灰白色	
800	D-5	SD07		壺				0.5～3mmの石英と0.5～2mmの長石を中量、0.5～2mmの黒色粒子を少量含む	ナデ	ナデ	良好	淡橙色	淡橙褐色	

番号	地区・グリッド	遺構	層位	器種	口径	器高	底径	胎土	調整外面	調整内面	焼成	色調外面	色調内面	備考
801	D-5	SD07		壷				0.5～3㎜の石英を多量、0.5～3㎜の長石を中量含む	ナデ	不明	良好	明褐色	明灰褐色	
802	D-5	SD07		壷				0.5～4㎜の石英を中量、0.5～3㎜の赤色酸化粒と0.5～3.5㎜の黒色粒子を少量含む	ナデ	ナデ	良好	灰褐色	灰褐色	
803	D-5	SD07		壷				0.5～3㎜の石英、長石を少量、0.5～3㎜の赤色酸化粒を多量に含む	ヨコナデ、ナデ	ナデ	良好	明灰褐色	明褐色	
804	D-5	SD07		壷				0.5～4㎜の石英と0.5～3㎜の長石を中量含む	ヨコナデ	ナデ	良好	淡橙灰褐色	淡橙褐色	
805	F-5	SD07		壷				0.5～4㎜の石英・長石を多量に含む	ヨコナデ	ナデ	良好	淡黄灰色	淡灰茶色	
806	F-5	SD07		壷				0.5～4㎜の石英・長石を多量に含む	ナデ、ユビオサエ？	ナデ、ユビオサエ	良好	暗茶褐色	淡黄茶色	
807	D-5	SD07		壷	30.4			0.5～4㎜の石英と長石を多量に含む	ミガキ	ナデ	良好	明褐色	明褐色	
808	D-5	SD07		壷				0.5～3㎜の石英と0.5～4㎜の長石を中量含む	ナデ、ミガキ	ナデ、ユビオサエ	良好	暗灰褐色	暗灰色	
809	F-5	SD07		壷				0.5～6㎜の石英を多量、0.5～4㎜の長石を中量含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	淡橙色	淡黄灰色	
810	D-5	SD07		壷				0.5～3mmの石英と長石を中量含む	ハケメ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	明茶褐色	茶褐色	
811	C-5	SD07		壷				0.5～2㎜の石英、長石を中量含む	ナデ	ナデ	良好	茶褐色	茶褐色	
812	D-5	SD07		壷				0.5～3.5㎜の石英と0.5～2㎜の長石を少量含む	ナデ	ナデ	良好	淡橙褐色	淡橙褐色	
813	C-5	SD07		壷				0.5～3㎜の石英を中量、0.5～2.5㎜の長石を少量含む	ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	良好	茶褐色	茶褐色	
814	D-5	SD07		壷				0.5～3mmの石英を少量、0.5～2mmの長石を中量含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	暗茶褐色	橙褐色	
815	F-5	SD07		壷				0.5～4㎜の石英、0.5～2㎜の長石を中量、0.5㎜大の雲母を微量含む	ナデ	ナデ？	良好	黄褐色	灰茶色	
816	C-5	SD07		壷				0.5～4㎜の石英を少量、0.5～2.5㎜の長石を中量含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	淡黄褐色	灰白色	
817	C-5	SD07		壷				1.5㎜以下の長石を少量、0.5～2.5㎜の黒色粒子、0.5㎜以下の雲母を中量含む	ナデ、ヨコナデ	ナデ	良好	茶褐色	茶褐色	
818	F-5	SD07		壷				0.5～3㎜の石英を微量、0.5㎜大の長石を中量含む	ナデ	ヨコナデ	良好	淡黄灰色	暗灰色	
819	D-5	SD07		壷				0.5～3mmの石英と長石を中量含む	ナデ	ナデ	良好	暗褐色	黄褐色	
820	F-5	SD07		壷				0.5～3㎜の石英、0.5～2㎜の長石を中量、0.5～3㎜の赤色酸化粒を微量含む	ナデ	ナデ？	良好	黄褐色	灰茶色	
821	C-5	SD07		不明			5.6	0.5～3.5㎜の石英と0.5～2㎜の長石を多量に含む	ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	暗橙色	橙褐色	
822	F-5	SD07		壷			10.2	0.5～6mmの石英、0.5～8mmの長石を多量、また0.5～3㎜の赤色酸化粒を微量に含む	ナデ	ナデ	良好	明褐色	明褐色	
823	D-5	SD07		器台				0.5～3mmの石英と0.5～2mmの長石を中量含む	ナデ？	ヨコナデ	良好	明茶褐色	明灰褐色	
824	D-5	SD07		不明				0.5～3mmの石英、長石を多く含む	ナデ	ナデ	良好	灰褐色	にぶい橙色	
825	D-5	SD07		壷			8.0	0.5～4.5mmの石英と0.5～3mmの長石を多量含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ	良好	淡橙白色	明褐色	

番号	地区・グリッド	遺構	層位	器種	口径	器高	底径	胎土	調整外面	調整内面	焼成	色調外面	色調内面	備考
826	C-5	SD07		蓋	10.0			0.5～4㎜の石英を多量、0.5～2㎜の長石を中量含む	ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	淡黄灰色	暗褐色	
827	C-5	SD07		壷				0.5～5㎜の石英を中量、0.5～3㎜の長石を少量、0.5～2㎜の赤色酸化粒を微量に含む	ナデ	ナデ、ミガキ	良好	淡黄灰色	明褐色	
828	C-5	SD07		壷				0.5～2㎜の石英、長石を中量含む	ヨコナデ	不明	良好	灰褐色	明褐色	
829	D-4	SD07		壷				0.5～3㎜の石英、長石を中量含む	ヨコナデ、ナデ	ナデ	良好	暗褐色	明褐色	
830	C-5	SD07		壷				0.5～5㎜の石英、0.5～2.5㎜の長石、0.5～3㎜の赤色酸化粒を中量含む	ナデ	ナデ	良好	明褐色	淡橙灰色	
831	D-4	SD07		壷				0.5～2㎜の長石、赤色酸化粒を少量含む	ヨコナデ、ナデ	ナデ	良好	淡灰褐色	明褐色	
832	C-5	SD07		壷	15.9			0.5～4㎜の石英と長石を多量に含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	明灰褐色	明褐色	
833	C-5	SD07		壷	18.0			0.5～5㎜の石英、0.5～6㎜の長石を多量に含む	ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	淡灰褐色	淡灰褐色	
834	C-5	SD07		壷	31.0			0.5～3㎜の石英、0.5～2㎜の長石を中量含む	ヨコナデ、ナデ	ナデ	良好	桃褐色	暗灰色	
835	C-5	SD07		壷				0.5～2㎜の石英を中量、0.5～3㎜の長石を中量含む	ナデ	ユビオサエ、ミガキ？、ヨコナデ	良好	褐色	褐色	
836	C-5	SD07		壷				0.5～3㎜の石英、長石を中量含む	ナデ	ナデ	良好	明褐色	明黄褐色	
837	C-5	SD07		壷				0.5～2㎜の長石、石英を少量含む	ナデ	ナデ	良好	明褐色	明褐色	
838	C-5	SD07		壷				0.5×4㎜の石英、0.5～2㎜の長石、赤色酸化粒を微量に含む	不明	不明	良好	淡橙色	淡黄灰色	
839	C-5	SD07		不明				0.5～2㎜の石英、長石を中量含む	不明	不明	良好	橙褐色	橙褐色	
840	C-5	SD07		壷			7.1	0.5～3㎜の石英、長石を中量、0.5㎜大の赤色酸化粒を微量に含む	ミガキ、ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	明褐色	暗灰色	
841	C-5	SD07		壷			3.6	0.5～2㎜の石英、長石を中量、0.5㎜大の赤色酸化粒を微量に含む	ナデ、ユビオサエ	ユビオサエ	良好	淡橙灰色	明灰褐色	
842	C-5	SD07		壷			9.6	1～4㎜の石英、長石を中量、1㎜大の赤色酸化粒を少量含む	ナデ	ナデ	良好	明褐色	淡黄灰色	
843	H-5	SD07		甕			8.4	1～5㎜の長石を含む、また0.5㎜大の石英を含む	ナデ、ミガキ	ナデ	良好	黄灰褐色	灰白色	
844	C-5	SD07		壷			9.0	0.5～3㎜の石英を中量、0.5～3㎜の長石を多量に含む	ナデ	ユビオサエ	良好	明褐色	暗灰色	
845	C-5	SD07		壷			9.2	2･3㎜大の石英･長石を多量に、1㎜大の赤色酸化粒を微量含む	不明	ナデ、ユビオサエ	良好	明褐色	薄黄灰白色	
846	H-5	SD07		壷			20.0	0.5～5㎜の石英と長石を多量に含む	ナデ	ユビオサエ	良好	明褐色	淡灰白色	
847	C-5	SD07		甕				0.5～4㎜の石英、0.5～3㎜の長石を多量に含む	ヨコナデ、ナデ	ナデ	良好	淡橙灰色	淡橙灰色	
848	D-5	SD07		甕				0.5～4mmの石英と、0.5～2mmの長石を中量含む	ナデ	ナデ	良好	茶褐色	橙褐色	
849	D-5	SD07		甕				0.5～1.5mmの長石を微量含む	ヨコナデ、ナデ	ナデ	良好	明褐色	明褐色	
850	D-5	SD07		甕				0.5～3mmの石英と0.5～2.5mmの長石を中量、0.5～3.5mmの赤色酸化粒を微量含む	ナデ	ナデ	良好	明褐色	明褐色	

番号	地区・グリッド	遺構	層位	器種	口径	器高	底径	胎土	調整外面	調整内面	焼成	色調外面	色調内面	備考
851	D-5	SD07		甕				0.5～4mmの石英を多量、0.5～6mmの長石を少量含む	ナデ	不明	良好	橙褐色	褐色	
852	D-5	SD07		甕				0.5～3.5mmの石英を中量、0.5～2mmの長石を少量、0.5～2mmの赤色酸化粒を微量含む	ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	淡橙白色	淡橙白色	
853	C-5	SD07		甕				0.5～4㎜の石英、0.5～3㎜の長石を多量に含む	不明	ユビオサエ、ナデ	良好	淡橙褐色	明褐色	
854	D-5	SD07		甕				0.5～2.5mmの石英と0.5～3.5mmの長石を少量含む	ヨコナデ、ナデ	ナデ	良好	橙色	淡黄色	
855	F-5	SD07		甕				0.5～3・4㎜の長石・石英を中量含む	ヨコナデ	ナデ	良好	明褐色	暗橙色	
856	D-5	SD07		甕				0.5～4mmの石英を多量、0.5～2mmの長石を少量含む	ヨコナデ	ナデ	良好	暗橙褐色	明褐色	
857	F-5	SD07		甕				0.5～4㎜の石英を多量に、0.5～2㎜の長石を少量含む	ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい橙色	暗橙色	
858	D-5	SD07		甕				0.5～4mmの石英と0.5～5mmの長石を多量に含む	ユビオサエ、ナデ？	不明	良好	明褐色	明褐色	
859	C-5	SD07		甕				0.5～4㎜の石英と0.5～2㎜の長石と、0.5～3㎜の赤色酸化粒を少量含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ	良好	淡橙白色	淡橙白色	
860	C-5	SD07		甕				0.5～3.5㎜の石英を多量に0.5～3㎜の長石を少量、1㎜大の赤色酸化粒を少量含む	ナデ	不明	良好	橙褐色	淡橙色	
861	D-5	SD07		甕				0.5～5mmの石英を多量、0.5～2mmの長石を少量含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	ナデ	良好	暗褐色	暗褐色	
862	C-5	SD07		甕				0.5～3㎜の石英と長石を中量含む	ナデ	ナデ	良好	明褐色	橙色	
863	D-5	SD07		甕				0.5～3mmの石英と0.5～2.5mmの長石を多量含む	ナデ	不明	良好	暗褐色	灰褐色	
864	F-5	SD07		甕				0.5～4㎜の石英・長石を中量含む	ヨコナデ、ナデ	ナデ	良好	薄黄灰色	薄黄灰色	
865	D-5	SD07		甕				0.5～2mmの石英を少量、0.5～2mmの長石を中量含む	不明	ナデ	良好	明灰褐色	灰褐色	
866	D-5	SD07		甕				0.5～4mmの石英と、0.5～3.5mmの長石を中量含む	ナデ、ユビオサエ	ヨコナデ、ナデ	良好	茶褐色	橙褐色	
867	F-5	SD07		甕				0.5～3㎜の石英・長石を多量に含む	ナデ	ナデ	良好	褐色	明褐色	
868	C-5	SD07		椀	13.8			0.5～2㎜の石英と長石を少量含む	ナデ	ナデ	良好	淡橙褐色	橙褐色	
869	D-5	SD07		不明				0.5～2mmの石英、長石、1mm以下の黒色粒子を中量含む。0.5mm以下の雲母、赤色酸化粒を微量含む	ナデ	ナデ	良好	明褐色	灰褐色	
870	D-5	SD07		不明			5.9	0.5～4.5mmの石英を中量、0.5～3mmの長石を少量含む	不明	不明	良好	淡桃灰色	明褐色	
871	D-5	SD07		不明			7.6	0.5～4.5mmの石英を多量、0.5～2mmの長石を中量含む	ヨコナデ、ナデ	ナデ	良好	淡桃灰色	淡桃色	
872	C-5	SD07		不明			9.0	0.5～3.5㎜の石英と長石を多量に含む	ハケメ、ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	灰褐色	灰褐色	
873	F-5	SD07		不明			10.4	0.5～2㎜の石英と0.5㎜大の長石を多量に含む	ナデ	ナデ	良好	暗褐色	明褐色	
874	D-5	SD07		蓋	6.5			0.5～3.5mmの石英と0.5～3mmの長石を中量含む	ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	橙褐色	明褐色	
875	C-5	SD07		甕			6.4	0.5～4㎜の石英と、0.5～3mmの長石を多量に、6.5㎜の黒色鉱物を含む	ナデ	不明	良好	淡橙色	淡橙褐色	

番号	地区・グリッド	遺構	層位	器種	口径	器高	底径	胎土	調整外面	調整内面	焼成	色調外面	色調内面	備考
876	C-5	SD07		不明			7.2	0.5～4㎜の石英と長石を多量に含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ、ユビオサエ	良好	淡橙色	暗褐色	
877	D-5	SD07		不明			4.7	0.5～4mmの石英と0.5～3mmの長石を多量に、0.5～1mmの赤色酸化粒を少量含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	明灰褐色	明褐色	
878	C-5	SD07		甕			7.6	0.5～4㎜の石英を中量、0.5～2㎜の長石を少量含む	ナデ	ナデ	良好	橙褐色	褐色	
879	D-5	SD07		蓋	3.7			0.5～4mmの石英と0.5～3mmの長石を中量含む	ユビオサエ、ナデ	ナデ	良好	茶褐色	茶褐色	
880	D-5	SD07		蓋	3.8			0.5～4mmの石英と0.5～3mmの長石を中量含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	明灰褐色	明灰褐色	
881	D-5	SD07		蓋				0.5～5㎜の石英を少量、0.5～2㎜の長石を中量含む	ナデ	ナデ	良好	灰褐色	暗灰褐色	
882	D-5	SD07		蓋				0.5～5mmの石英を多量に、0.5～3.5mmの長石を中量、1mm大の赤色酸化粒を微量含む	ナデ	ユビオサエ？、ナデ	良好	淡橙褐色	明褐色	
883	D-5	SD07		甕				0.5～3㎜の石英を多量に0.5～2㎜の長石を少量含む	ヨコナデ、ナデ	ナデ	良好	明褐色	明褐色	
884	D-5	SD07		甕				0.5～3mmの石英と長石を少量含む	ナデ	ヨコナデ、ナデ	良好	暗褐色	暗褐色	
885	F-5	SD07		甕				0.5～4㎜の石英・長石を多量に含む	不明	不明	良好	明茶橙色	明茶橙色	
886	D-5	SD07		甕				0.5～3mmの石英と、0.5～3mmの長石を中量含む	ヨコナデ、ナデ	ナデ	良好	明灰褐色	明灰褐色	
887	C-5	SD07		甕				0.5～3.5㎜の石英、0.5～4㎜の長石を中量、1㎜大の赤色酸化粒を微量に含む	不明	不明	良好	淡灰白色	淡灰白色	
888	C-5	SD07		甕				0.5～2㎜の石英を多量、0.5～2㎜の長石を中量含む	ユビオサエ、ナデ	不明	良好	褐色	明褐色	
889	D-5	SD07		甕				0.5～4mmの石英を少量、0.5～2mmの長石を少量含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	ナデ	良好	茶褐色	明褐色	
890	C-5	SD07		甕				0.5～3㎜の石英、長石を多量に含む	ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ	良好	茶褐色	灰茶褐色	
891	C-5	SD07		甕				0.5～5㎜の石英を多量、0.5～2㎜の長石を少量含む	ユビオサエ、ハケメ、ナデ	ナデ	良好	褐色	暗褐色	
892	D-5	SD07		甕				0.5～3mmの石英を中量、0.5～2.5mmの長石を少量含む	ユビオサエ、ナデ	ナデ	良好	明褐色	明褐色	
893	C-5	SD07		甕				0.5～4㎜の石英を多量、0.5～2㎜の長石を中量含む	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	明橙褐色	明褐色	
894	C-5	SD07		甕				0.5～3㎜の石英を中量、0.5～2.5㎜の長石を少量含む	ナデ	不明	良好	橙色	淡橙色	
895	D-5	SD07		甕				0.5～3mmの石英と長石を中量含む	ヨコナデ、ナデ	ナデ	良好	明褐色	明褐色	
896	D-5	SD07		甕				0.5～3mmの石英を中量、0.5mm以下の長石を少量含む	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	良好	褐色	暗褐色	
897	C-5	SD07		甕				0.5～3㎜の石英と0.5㎜以下の長石を少量含む	ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	良好	灰褐色	暗褐色	
898	F-5	SD07		甕				0.5～3㎜の石英・長石を多量に含む	ヨコナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	淡黄色	淡黄色	
899	D-5	SD07		甕				0.5～3mmの石英を中量含む	ナデ	不明	良好	灰褐色	褐色	
900	D-5	SD07		甕				0.5～3mmの石英を中量、0.5～2mmの長石を多量含む	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	良好	明褐色	明橙褐色	

番号	地区・グリッド	遺構	層位	器種	口径	器高	底径	胎土	調整外面	調整内面	焼成	色調外面	色調内面	備考
901	F-5	SD07		甕				0.5～3㎜の石英・長石を少量含む	ナデ	ユビオサエ？、ナデ	良好	暗褐色	暗褐色	
902	D-5	SD07		甕				0.5～3mmの石英と0.5～2mmの長石を中量含む	ナデ	ナデ	良好	明褐色	明褐色	
903	D-5	SD07		甕				0.5～3mmの石英を少量含む	ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	明灰褐色	明灰褐色	
904	D-5	SD07		甕				0.5～3mmの石英と0.5～2mmの長石を少量含む	ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	暗褐色	明褐色	
905	D-5	SD07		甕				0.5～3mmの石英と長石を中量含む	ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	明褐色	明橙褐色	
906	C-5	SD07		甕				0.5～3mmの石英と長石を多量、0.5～3mmの赤色酸化粒を微量に含む	ヨコナデ、ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	褐色	薄褐色	
907	D-5	SD07		甕				0.5～4mmの石英を中量、0.5～2.5mmの長石を中量含む	ヨコナデ、ナデ	ナデ	良好	暗褐色	褐色	
908	D-5	SD07		甕				0.5～3mmの石英と、0.5～4mmの長石を多量に含む	ユビオサエ（？）、ナデ	ナデ	良好	褐色	褐色	
909	D-4	SD07		甕				0.5～4㎜の石英、0.5～1㎜の長石を中量含む	ユビオサエ、ナデ	ナデ	良好	褐色	褐色	
910	D-5	SD07		甕				0.5～6mmの石英と0.5～2mmの長石を多量含む	ヨコナデ、ナデ	ナデ	良好	灰褐色	暗灰褐色	
911	C-5	SD07		蓋				0.5～3㎜の石英を中量、長石を少量、赤色酸化粒を微量に含む	ナデ	ナデ	良好	明褐色	明橙褐色	
912	C-5	SD07		蓋	7.6			0.5～4㎜の石英を多量、0.5～3㎜の長石を少量、1㎜以下の赤色酸化粒を微量に含む	ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	明褐色	暗褐色	
913	D－4	SD07		甕				0.5～2㎜の石英、長石を少量含む	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	良好	暗褐色	褐色	
914	C-5	SD07		甕				0.5～2㎜の石英、長石を中量含む	不明	ナデ	良好	明褐色	褐色	
915	C-5	SD07		甕				0.5～2㎜の石英と長石を少量含む	ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	暗褐色	暗褐色	
916	C-5	SD07		甕				0.5～3㎜の石英と長石を少量含む	ユビオサエ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	良好	暗褐色	明黄褐色	
917	C-5	SD07		甕				0.5～3㎜の石英を少量、0.5～2㎜の長石を中量含む	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	良好	褐色	褐色	
918	C-5	SD07		甕	19.9			0.5～3㎜の石英、0.5～5㎜の長石を多量に含む	ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	良好	明褐色	灰褐色	
919	D-4	SD07		甕	23.4			0.5～4㎜の石英を多量に、0.5～4㎜の長石を中量ふくむ	ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	褐色	褐色	
920	C-5	SD07		甕	30.8			0.5～3㎜の石英、長石を中量含む	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	良好	明褐色	明褐色	
921	C-5	SD07		甕				0.5～3㎜の石英、0.5～4㎜の長石を多量に含む	不明	ナデ	良好	灰褐色	褐色	
922	C-5	SD07		甕				0.5～4㎜の石英、0.5～2.5㎜の長石を中量含む	ナデ	ナデ	良好	褐色	褐色	
923	C-5	SD07		甕	14.5			0.5～4㎜の石英、0.5～5㎜の長石を多量に含む	不明	ユビオサエ、ヨコナデ、ナデ	良好	褐色	明褐色	
924	C-5	SD07		甕				2.5㎜以下の石英、4㎜以上の長石を中量	ヨコナデ、ナデ	ナデ	良好	明灰褐色	明橙褐色	
925	C-5	SD07		甕				1㎜大の石英を多量に、0.5～1㎜の長石を中量含む	ナデ	ナデ	良好	灰橙色	明橙褐色	

番号	地区・グリッド	遺構	層位	器種	口径	器高	底径	胎土	調整外面	調整内面	焼成	色調外面	色調内面	備考
926	C-5	SD07		甕				0.5～3㎜の石英、0.5～4㎜の長石を多量に含む	ヨコナデ、ナデ	不明	良好	明褐色	明褐色	
927	C-5	SD07		甕				0.5～4㎜の石英と1㎜以下の長石を中量含む	ヨコナデ	ナデ	良好	灰褐色	明褐色	
928	C-5	SD07		甕			4.6	0.5～4㎜の石英、長石を多量に含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ	良好	褐色	淡橙褐色	穿孔あり
929	C-5	SD07		甕			8.6	0.5～3㎜の石英、長石を多量に、0.5～2.5㎜の赤色酸化粒を少量含む	ナデ	不明	良好	淡橙褐色	明褐色	
930	C-5	SD07		甕			6.2	0.5～2㎜の石英、長石を多量に含む	ナデ	ナデ	良好	淡橙褐色	淡灰褐色	
931	C-5	SD07		甕			6.8	0.5～4㎜の石英、0.5～7㎜の長石を多量に、0.5～2㎜の赤色酸化粒を少量含む	ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	淡橙灰色	淡橙灰色	
932	C-5	SD07		甕			7.4	0.5～4㎜の石英、0.5～3㎜の長石を多量に含む	ナデ	ナデ	良好	淡黄灰色	褐色	
933	C-5	SD07		甕			8.4	0.5～3㎜の石英、長石を中量含む	ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	褐色	暗灰白色	
934	C-5	SD07		甕			5.9	0.5～4㎜の石英と長石を多量に含む	不明	ナデ	良好	淡灰白色	明褐色	
935	C-5	SD06		蓋			12.0	0.5～3㎜の石英を多量に含む	ナデ	ユビオサエ	良好	暗褐色	暗褐色	
936	G-4	SD06		壺				0.5～3㎜の石英を中量、0.5～2㎜の長石を少量、1㎜大の赤色酸化粒を微量に含む	不明	ナデ	良好	明褐色	明褐色	
937	H-5	SD06		壺	8.6			0.5～2㎜の石英を中量含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	淡灰茶色	灰色	
938	B-2	SD06		壺				0.5～2㎜の石英と、0.5～3㎜の長石を中量、0.5～2㎜の赤色酸化粒を微量に含む	ナデ？	不明	良好	淡橙色	淡黄橙色	
939	G-4	SD06		甕	15.4			0.5～2㎜の石英・長石を0.5～2㎜の赤色酸化粒を少量ふくむ	ナデ	ナデ	良好	茶橙色	明褐色	
940	G-4	SD06		甕	14.2			0.5～5㎜の石英と、0.5～3㎜の長石を中量含む	ナデ	ヨコナデ、ナデ	良好	暗褐色	褐色	
941	G-4	SD06		甕				0.5～2㎜の長石・石英を少量含む	ヨコナデ、ナデ	ナデ	良好	褐色	茶橙色	
942	G-4	SD06		甕				0.5～1㎜大の石英・長石を少量、1㎜大の赤色酸化粒を微量に含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	褐色	淡茶橙色	
943	B-2	SD06		甕				0.5～3㎜の石英・長石を多量に含む	不明	ユビオサエ	良好	明褐色	淡灰黄色	
944	B-2	SD06		甕				0.5～3㎜の石英と、0.5～6㎜の長石を中量含む	不明	不明	良好	褐色	薄黄灰色	
945	B-2	SD06		甕			6.4	0.5～4㎜の石英・長石を中量含む	ナデ	ナデ	良好	淡橙色	暗褐色	
946	B-2	SD06		壺			11.6	0.5～3㎜の石英を少量、0.5～3㎜の長石を多量に含む	ナデ	ユビオサエ	良好	赤褐色	明褐色	
947	G-4	SD06		甕			8.2	0.5～3㎜の石英を少量、0.5～2㎜の長石を中量含む	ナデ	ナデ、ユビオサエ？	良好	淡橙色	淡黄灰色	
948	G-4	SD06		甕			7.8	0.5～4㎜の石英を少量、0.5～2㎜の長石を少量含む	ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	淡黄灰色	褐色	
949	C-5	SD06		壺	19.8			2㎜以下の石英と0.5㎜以下の長石と雲母を少量含む	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ	良好	赤褐色	茶褐色	
950	D-5	SD06		壺				0.5～4mmの石英、長石、黒色粒子を中量、0.5～3mmの雲母を少量含む	ハケメ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	茶褐色	茶褐色	

番号	地区・グリッド	遺構	層位	器種	口径	器高	底径	胎土	調整外面	調整内面	焼成	色調外面	色調内面	備考
951	C-5	SD06		甕				0.5～4㎜の赤色酸化粒を多量に含む	ヨコナデ	ナデ、ヨコナデ	良好	淡橙白色	淡橙白色	
952	D-5	SD06		甕				0.5mm以下の石英を少量、0.5～1.5mmの黒色粒子を少量含む	ナデ	ナデ	良好	灰褐色	灰褐色	
953	C-5	SD06		甕	17.0			0.5㎜以下の長石を少量、黒色粒子を多量に含む	ナデ、ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	良好	灰褐色	淡茶褐色	
954	D-5	SD06		甕	32.0			0.5～1.5mmの石英と0.5～2mmの黒色粒子を中量、0.5～1mmの雲母を少量含む	ナデ	ナデ	良好	褐色	褐色	
955	D-5	SD06		甕	15.0			0.5～1,5mmの黒色粒子を少量含む	ナデ、ハケメ	ナデ	良好	茶褐色	茶褐色	
956	F-5	SD06		壷	13.6			0.5㎜大の長石を少量、0.5㎜大の雲母を中量含む	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	良好	暗茶褐色	暗茶褐色	
957	G-4	SD06		壷？				0.5㎜以下の長石を微量含む	ナデ	ナデ	良好	淡黄灰色	淡黄灰色	
958	G-4	SD06		甕？				0.5㎜大の長石を微量、黒色粒子を微量に含む	不明	ユビオサエ	良好	橙色	茶橙色	
959	B-2	SD06		壷	16.0			0.5～3㎜の長石を少量、0.5㎜以下の雲母を中量、0.5～2㎜の黒色粒子を多量に含む	ヨコナデ、ナデ	ナデ	良好	茶褐色	茶褐色	
960	B-2	SD06		壷				0.5～2㎜の石英・長石・角閃石を少量、0.5㎜以下の雲母を中量、0.5～2㎜の黒色粒子を中量含む	ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	褐色	褐色	
961	B-2	SD06		甕	11.6			0.5～2㎜の石英を少量、0.5～3㎜の長石を中量含む	ヨコナデ、ナデ	ナデ	良好	淡橙色	薄淡橙色	
962	D-5	SD06		高杯			6.5	0.5～5mmの石英を中量含む	ナデ	ナデ	良好	褐色	灰褐色	
963	F-5	SD06		高杯	16.8			0.5～2㎜の長石、0.5㎜大の雲母を中量含む	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	良好	褐色、朱色	褐色、朱色	
964	B-2	SD06		高杯			12.6	1㎜大の石英・長石を少量、0.5㎜大の雲母と1㎜大の黒色粒子を中量含む	ナデ	ナデ、ヨコナデ	良好	茶褐色	茶褐色	
965	C-5	SD06		高杯				0,5～2㎜の長石と0.5～3㎜の黒色粒子を少量、0.5㎜大の雲母を少量含む	ナデ	ナデ	良好	暗茶褐色	茶褐色	
966	B-2	SD06		高杯				1㎜以下の長石を少量、0.5㎜以下の雲母を中量、1㎜以下の赤色酸化粒を微量に含む	ナデ	ナデ	良好	灰茶色	灰茶色	
967	G-4	SD06		高杯				1㎜大の長石を少量、角閃石を微量、0.5～2㎜の黒色の粒子を少量含む	ナデ	ナデ	良好	茶橙色	茶橙色	
968	D-5	SD06		不明			5.0	0.5mm以下の雲母を中量、3mmの黒色粒子を含む	ナデ	ナデ	良好	灰褐色	暗灰色	
969	B-2	SD06		不明			6.4	0.5～2㎜の石英・長石を中量含む	ナデ	ナデ	良好	淡橙色	暗褐色	
970	B-2	SD06		不明			6.0	0.5～3㎜の石英・長石を少量、0.5～3㎜の雲母を中量含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	暗褐色	褐色	
971	B-2	SD06		皿			11.4	0.5～1㎜大の石英と長石を微量に含む	ナデ、ヨコナデ	ナデ	良好	淡灰桃色	薄黄灰色	
972	B-2	SD06		杯				0.5㎜以下の黒色粒子を微量含む	ナデ	ナデ	良好	明褐色	茶褐色	
973	G-4	SD06		杯				0.5㎜以下の長石を微量に含む	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	淡灰白色	淡灰白色	須恵器
974	B-2	SD06		坩				1㎜大の石英を少量含む	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	淡灰白色	淡灰白色	須恵器
975	B-6	SX11		蓋			9.3	0.5～2mm大の長石、石英を中量、赤色酸化粒を若干含む	ナデ	ナデ	良好	灰白色	褐灰色	

番号	地区・グリッド	遺構	層位	器種	口径	器高	底径	胎土	調整外面	調整内面	焼成	色調外面	色調内面	備考
976	B-6	SX11		蓋				0.5～2mmの長石を中量、1mm大の石英を中量含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	
977	F-5	SX11		壺				1mm前後の長石を多量、石英を少量含む	ユビオサエ、ナデ	ナデ	良好	橙色	にぶい黄橙色	
978	F-5	SX11		壺	18.6			0.5～3mmの長石、石英を中量含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	やや良好	橙色	浅黄橙色	
979	F-5	SX11		壺				1mm前後の長石、石英を多量に含む	ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ	ナデ	良好	橙色	橙色	
980	B-6	SX11		壺				1mm前後の長石、石英を少量含む	ミガキ	ユビオサエ	良好	にぶい黄橙色	橙色	
981	D-6	Sx11		壺			10.5	0.5～3mm大の長石、石英を中量、1mm大の赤色酸化粒を少量含む	ミガキ，ナデ	ナデ、ケズリ	良好	浅黄橙色	褐灰色	
982	F-5	SX11		蓋				0.5～3mmの長石を中量、1mm前後の石英を少量含む	ナデ、ミガキ	ユビオサエ、ナデ	良好	赤褐色	赤褐色	
983	B-6	SX11		蓋	6.6			1mm大の長石を中量含む	ユビオサエ、ナデ、ミガキ	ユビオサエ、ナデ	良好	明赤褐色	明赤褐色	
984	F-5	SX11		蓋				0.5～3mmの石英を多量、1mm以下の長石を少量含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ	良好	明赤褐色	橙色	
985	F-5	SX11		蓋				1mm前後の長石を中量、石英を少量含む	ナデ、ミガキ	ユビオサエ、ケズリ	良好	明赤褐色	にぶい赤褐色	
986	F-5	SX11		甕				1mm前後の長石、石英を中量含む	ミガキ？、ナデ	板状工具のナデ	良好	赤褐色	赤褐色	スス付着
987	F-5	SX11		甕				1mm以下の長石、石英を少量含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ、ユビオサエ	良好	にぶい黄橙色	橙色	
988	F-5	SX11		甕	19.0			0.5～5mm大の長石を中量、0.5～2mm大の石英を少量含む	ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	良好	褐色	にぶい黄褐色	
989	F-5	SX11		甕	15.4			1mm前後の長石、石英を少量含む	ナデ	ナデ	良好	明褐色	にぶい黄橙色	
990	F-5	SX11		甕				1mm前後の長石、石英を多量含む	ナデ	ナデ	良好	暗赤褐色	赤褐色	
991		SX11		甕				1mm前後の長石、石英、赤色酸化粒を中量含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
992	F-5	SX11		甕				1mm前後の長石、石英を中量含む	ナデ	ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
993	F-5	SX11		甕				1mm以下の長石を少量含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	
994	F-5	SX11		甕				1mm以下の長石、石英を中量含む	ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
995	F-5	SX11		甕				1mm前後の長石、石英、赤色酸化粒を少量含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ、ユビオサエ	良好	橙色	橙色	
996	F-5	SX11		甕				1mm前後の長石、石英を多量に含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ	良好	褐色	黒褐色	
997	F-5	SX11		甕				0.5～2mmの長石、石英を中量含む	ナデ	ナデ	良好	黒褐色	褐色	
998	F-5	SX11		甕	36.0			0.5～2mmの長石、石英を中量、1mm大の赤色酸化粒を若干含む	ナデ	ナデ	良好	淡黄灰色	淡黄灰色	
999	F-5	SX11		甕				1mm前後の長石、石英を少量含む	ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ	良好	灰褐色	褐色	
1000	F-5	SX11		甕				1mm大の長石、石英を少量含む	ナデ	ナデ	良好	にぶい黄橙色	明黄褐色	

番号	地区・グリッド	遺構	層位	器種	口径	器高	底径	胎土	調整外面	調整内面	焼成	色調外面	色調内面	備考
1001	F-5	SX11		甕				1mm前後の長石、石英、赤色酸化粒を少量含む	ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	ナデ	良好	にぶい黄褐色	黄橙色	
1002	F-5	SX11		甕	22.0			1mm前後の長石、石英を中量含む	ヨコナデ、ナデ、ハケメ	板状工具のナデ	良好	にぶい褐色	褐色	
1003	F-5	SX11		甕	27.0			0.5～2mmの長石、石英を中量含む	ヨコナデ、ハケメ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	褐色	明褐色	
1004	F-5	SX11		甕	20.4			0.5～2mmの石英を中量、1mm前後の赤色酸化粒を少量含む	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	良好	灰黄色	明黄褐色	
1005	F-5	SX11		甕	27.6			0.5～3mm前後の長石、石英を多量に、1mm前後の赤色酸化粒を少量含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ	良好	橙褐色	淡橙褐色	
1006	F-5	SX11		甕	21.8			0.5～2mm大の長石、石英を中量含む	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
1007	F-5	SX11		甕	19.6			0.5～2mmの長石、石英を中量含む	ナデ、ユビオサエ	ユビオサエ、ナデ	良好	明赤褐色	赤褐色	
1008	F-5	SX11		甕				1mm前後の長石、石英、赤色酸化粒を中量含む	ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	板状工具のナデ	良好	にぶい黄褐色	赤褐色	
1009	F-5	SX11		甕				1～2mmの長石、石英を中量含む	ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	ナデ	良好	明黄褐色	橙色	
1010	F-5	SX11		甕				1mm前後の長石を中量、石英を少量含む	ユビオサエ、ナデ	ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
1011	F-5	SX11		甕				0.5～2mmの長石、石英を多量、1mm大の赤色酸化粒を少量含む	ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	明褐色	橙色	
1012	E-5	SX11		甕				0.5～3㎜の石英、長石を多量に含む	ナデ	不明	良好	にぶい薄橙色	薄橙色	
1013	F-5	SX11		甕				0.5～2mmの長石、石英を多量に含む	ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	赤褐色	橙色	
1014	F-5	SX11		甕	45.6			0.5～2mmの長石、石英を少量含む	ナデ、ヨコナデ	ヨコナデ、ユビオサエ	良好	明赤褐色	にぶい黄橙色	
1015	F-5	SX11		甕				1mm前後の長石、石英、赤色酸化粒を少量含む	ユビオサエ、ミガキ、ナデ	ナデ、ミガキ	良好	にぶい黄橙色	橙色	
1016	F-5	SX11		甕	20.0			1mm前後の長石、石英を中量含む	ナデ	ナデ、工具ナデ	良好	淡茶褐色	淡黄灰色	
1017	F-5	SX11		甕	27.2			0.5～2mm大の長石、石英を中量含む	ヨコナデ、ユビオサエ, ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	暗茶褐色	暗茶褐色	
1018	F-5	SX11		甕				1mm前後の長石、石英を中量含む	ナデ、ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
1019	F-5	SX11		甕				1mm前後の長石、石英、赤色酸化粒を少量含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	褐色	明赤褐色	
1020	F-5	SX11		甕				1mm前後の長石、石英を中量含む	ユビオサエ、ナデ	ナデ	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	
1021	F-5	SX11		甕				1mm前後の長石、石英を少量含む	ユビオサエ、ナデ	ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
1022	F-5	SX11		甕				0.5～2mm前後の長石、石英を多量に含む	ナデ	ユビオサエ	良好	赤褐色	橙色	
1023	F-5	SX11		甕				1mm前後の石英を中量含む	ナデ	ナデ	良好	橙色	明赤褐色	
1024	F-5	SX11		甕				0.5～2mmの石英を多量、長石を少量含む	ナデ	ナデ	良好	にぶい赤褐色	黒褐色	
1025	F-5	SX11		甕				0.5～2mmの長石、石英を多量に含む	ユビオサエ、ナデ	ナデ	良好	橙色	橙色	

番号	地区・グリッド	遺構	層位	器種	口径	器高	底径	胎土	調整外面	調整内面	焼成	色調外面	色調内面	備考
1026	F-5	SX11		甕				2mm前後の長石、石英を多量に含む	ナデ？	ナデ、ユビオサエ	良好	淡橙色	淡橙色	
1027	F-5	SX11		甕				0.5～3mmの長石、石英を多量に含む	ナデ、ミガキ	ナデ	良好	橙色	にぶい黄橙色	
1028	F-5	SX11		甕			7.4	0.5～3mmの石英を多量、長石を少量含む	ナデ	ナデ	良好	橙色	にぶい橙色	
1029	F-5	SX11		甕			7.3	0.5～2mmの石英を多量、1mm以下の長石を少量含む	ナデ	ナデ	良好	明赤褐色	にぶい赤褐色	
1030	F-5	SX11		甕			7.4	0.5～3mm前後の長石、石英を多量に含む	ナデ	ナデ	良好	灰白色	黒褐色	
1031	D-6	SX11		甕				0.5～2mmの長石、石英を多量に含む	ナデ、ユビオサエ	ケズリ、ナデ	良好	灰白色	黒色	
1032	F-5	SX11		甕			9.5	0.5～3mmの長石、石英を多量に含む	ミガキ、ナデ、ユビオサエ	ナデ	良好	明黄褐色	明黄橙色	
1033	F-5	SX11		甕			7.3	0.5～2mm前後の長石、石英を多量に含む	ミガキ、ナデ、ユビオサエ	ナデ、ユビオサエ	良好	橙色	灰黄褐色	
1034	D-6	SX11		壺			12.0	0.5～2mmの長石、石英を中量含む	ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	黄橙色	浅黄橙色	
1035	F-5	SX11		甕			19.5	0.5～2mm前後の長石、石英を多量に含む	ナデ	ナデ	良好	明赤褐色	灰褐色	
1036	E-5	SX11		壺			7.4	0.5～5㎜の石英と0.5～3㎜の長石を多量に含む	ナデ	ナデ	良好	薄橙色	明褐色	
1037	F-5	SX11		壺				1mm大の長石、石英を中量含む	ナデ	ナデ	良好	橙色	明赤褐色	
1038	F-5	SX11		壺				1mm前後の長石、石英を中量含む	ナデ	ナデ	良好	褐色	赤褐色	
1039	F-5	SX11		壺				0.5～2mm前後の長石を中量含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	橙色	褐灰色	
1040	F-5	SX11		甕				1mm前後の長石、石英を多量含む。赤色酸化粒を少量含む	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	良好	褐色	黒褐色	
1041	B-6	SX11		壺				0.5～2mmの長石を中量、石英を少量含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	黄橙色	黄橙色	
1042	F-5	SX11		高杯			14.6	0.5～2mm大の長石、石英を中量含む	ミガキ、ヨコナデ	ミガキ、ユビオサエ、ナデ	良好	赤褐色	赤褐色	
1043	C-8	SX11		壺	15.6			1mm大の長石、石英、黒色粒を中量含む	ヨコナデ、ミガキ、ハケメ	ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ、ケズリ	良好	明褐色	褐色	
1044	F-5	SX11		壺	16.7			0.5～3mmの長石、石英を少量含む	ヨコナデ、ハケメ、ミガキ	ヨコナデ、ケズリ	良好	赤褐色	にぶい褐色	丹塗り
1045	F-5	SX11		壺	13.5			0.5～3mmの長石、石英を中量含む	ヨコナデ、ハケメ、ミガキ	ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ、ケズリ	良好	赤褐色	にぶい褐色	丹塗り
1046	I-4	SX11		甕			8.5	0.5～2mm大の長石、石英を少量含む	ミガキ	ケズリ	良好	にぶい褐色	褐色	
1047	I-5	SX11		壺				0.5～1mm前後の長石、石英を少量含む	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	橙色	橙色	
1048	E-5	SX11		壺				0.5㎜大の石英・長石、0.5～2㎜の雲母を多量に含む	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	褐色	赤褐色	
1049	C-3	SX11		壺	10.0			1mm以下の長石、赤色酸化粒を少量含む	ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ	ヨコナデ、ナデ、ケズリ	良好	橙色	にぶい褐色	
1050	D-4	SX11		壺	15.6			0.5～2mmの長石、石英を少量含む	ヨコナデ、ナデ、ミガキ	ナデ	良好	にぶい赤褐色	明赤褐色	

番号	地区・グリッド	遺構	層位	器種	口径	器高	底径	胎土	調整外面	調整内面	焼成	色調外面	色調内面	備考
1051	E-5	SX11		甕	11.4			0.5～1㎜の長石を中量、雲母を中量含む	ヨコナデ	ナデ	良好	褐色	褐色	
1052	D-4	SX11		甕	16.0			0.5～1mm前後の長石を少量含む	ヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ	良好	にぶい黄褐色	明褐色	
1053	B-6	SX11		壺	17.8			0.5～1mm前後の長石を少量含む	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ	良好	明赤褐色	赤褐色	
1054	B-6	SX11		甕	18.0			1mm以下の長石を少量、1mm前後の黒色粒を少量含む	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ケズリ	良好	にぶい褐色	明褐色	
1055	C-3	SX11		鉢	18.0			1mm以下の長石を少量含む	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ケズリ	良好	にぶい褐色	にぶい黄橙色	丹塗り
1056	B-6	SX11		鉢	17.4			0.5～1mmの長石を少量含む	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ナデ、ケズリ	良好	暗赤褐色	にぶい褐色	
1057	C-3	SX11		鉢	27.8			1mm前後の長石、石英を少量含む	ヨコナデ、ヘラミガキ	ヨコナデ、ナデ、ケズリ	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	
1058	B-6	SX11		浅鉢	29.2			1mm前後の長石を少量含む	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ケズリ	良好	にぶい黄橙色	明黄褐色	
1059	B-6	SX11		高杯	19.6			0.5mm以下の長石を少量含む	ヨコナデ、ナデ	ナデ	良好	明赤褐色	明褐色	
1060	F-5	SX11		高杯	26.6			0.5～2mm大の長石、石英を少量含む	ヨコナデ、ミガキ、ナデ	ヨコナデ、ミガキ	良好	にぶい褐色	赤褐色	丹塗り
1061	F-5	SX11		鉢	24.0			1mm前後の長石、黒色粒を少量含む	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	良好	明赤褐色	明赤褐色	
1062	I-5	SX11		高杯				1mm大の長石を少量含む	ナデ	ナデ	良好	明赤褐色	赤褐色	
1063	I-5	SX11		高杯				1mm大の長石、石英、黒色粒を少量含む	ミガキ	ナデ	良好	明赤褐色	明赤褐色	
1064	D-4	SX11		高杯			11.7	0.5～1mmの長石を少量含む	ナデ、ヨコナデ	ケズリ、ヨコナデ	良好	明赤褐色	赤褐色	
1065	C-8	SX11		杯	10.0	4.8		1mm前後の長石を少量含む	ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ、ナデ	良好	灰色	灰色	須恵器
1066	C-3	SX11		杯	12.0	4.5		緻密。砂粒はほとんど含まない	ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ、ナデ	良好	灰色	灰白色	須恵器
1067		SX11		高杯			19.8	0.5～1㎜の長石及び2～3㎜大の砂粒を若干含む	回転ナデ	回転ナデ、ユビナデ	良好	灰白色	灰白色	須恵器
1068	B-3	SX11		円面硯				砂粒ほとんど含まない	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	明青灰色	明青灰色	須恵器
1069	B-6	SX11		高杯				1mm以下の長石、石英を微量含む	ヨコナデ、ハケナデ、ナデ	ナデ	良好	灰白色	灰白色	須恵器
1070	C-8	SX11		甕	18..0			1mm前後の長石、石英、黒色粒を少量含む	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ、ケズリ	良好	にぶい赤褐色	赤褐色	
1071	B-6	SX11		不明				1mm前後の長石を中量、石英を少量含む	ナデ	ナデ	良好	橙色	橙色	
1072	B-3	SX11		不明				1mm前後の長石、石英、黒色粒を少量含む	ユビオサエ	ナデ	良好	橙色	黄橙色	
1073	B-8	SX12		甕				0.5～2mmの長石、石英を多量に含む	ナデ	ミガキ	良好	赤褐色	明赤褐色	
1074	B-8	SX12		甕				1mm前後の長石、石英を多量に含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	赤褐色	赤褐色	
1075	B-8	SX12		甕				0.5～2mmの長石、石英を多量に含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ	良好	黒褐色	黒褐色	

番号	地区・グリッド	遺構	層位	器種	口径	器高	底径	胎土	調整外面	調整内面	焼成	色調外面	色調内面	備考
1076	B-8	SX12		甕				1mm前後の長石、石英を中量、赤色酸化粒を少量含む	ユビオサエ、ナデ	ナデ	良好	橙色	にぶい黄橙色	
1077	B-8	SX12		甕				1mm前後の長石、石英を多量に含む	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ	良好	明赤褐色	赤褐色	
1078	B-8	SX12		甕				1mm前後の長石、石英を多量含む	ユビオサエ、ナデ	ナデ	良好	黄橙色	黄橙色	
1079	B-9	SX12		壺	27.8			0.5～2mmの長石、黒色粒を中量含む	ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	ヨコナデ	良好	褐色	にぶい褐色	
1080	B-8	SX12		壺				0.5～3mmの長石を少量含む	ナデ、ハケメ	ナデ、ユビオサエ、ケズリ	良好	橙色	橙色	
1081	B-8	SX12		壺				0.5～2mm前後の長石、石英、金雲母を中量含む	ナデ	ナデ	良好	にぶい橙色	赤褐色	
1082	B-7	SX12		壺				0.5～3mm前後の長石を中量、0.5～2mmの石英を少量含む	ナデ、ヨコナデ、ミガキ	ナデ、ユビオサエ、ケズリ	良好	明赤褐色	明褐色	
1083	B-8	SX12		壺	14.0			1mm前後の長石を少量含む	ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	良好	にぶい橙色	にぶい黄橙色	
1084	B-8	SX12		壺	15.6			1mm前後の長石を少量含む	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	橙色	にぶい橙色	
1085	B-8	SX12		壺				1mm以下の長石、黒色粒を少量含む	ヨコナデ	ナデ	良好	橙色	橙色	
1086	B-8	SX12		壺	17.4			1mm以下の長石を少量含む	ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ	良好	明赤褐色	橙色	
1087	B-8	SX12		甕	16.0			1mm以下の長石、黒色粒を少量含む	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ユビオサエ、ケズリ	良好	明褐色	にぶい褐色	
1088	B-8	SX12		壺	14.3			0.5～2mmの長石、石英、黒色粒を少量含む	ヨコナデ、ハケメ、ミガキ	ヨコナデ、ユビオサエ、ケズリ	良好	赤褐色	橙色	
1089	B-9	SX12		甕	15.2			0.5mm以下の長石を少量含む	ヨコナデ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	明赤褐色	明赤褐色	
1090	B-8	SX12		甕	14.4			1mm前後の長石、黒色粒を少量含む	ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ナデ、ケズリ	良好	にぶい黄橙色	明褐色	
1091	B-8	SX12		甕	14.6			1mm以下の長石を少量含む	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ユビオサエ、ケズリ	良好	橙色	にぶい橙色	
1092	B-8	SX12		壺	11.4			1mm以下の長石と黒色粒を少量含む	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	良好	橙色	明赤褐色	
1093	B-8	SX12		甕	14.2			1mm以下の長石、黒色粒を中量含む	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ナデ	良好	明赤褐色	橙色	
1094	B-8	SX12		壺	13.4			1mm前後の長石、黒色粒を少量含む	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ、ケズリ	良好	明赤褐色	橙色	
1095	B-8	SX12		壺	18.0			1mm前後の長石を少量含む	ヨコナデ	ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	良好	赤褐色	橙色	
1096	B-9	SX12		壺	17.0			1mm以下の長石、石英を少量含む	ヨコナデ	ナデ	良好	橙色	橙色	
1097	B-8	SX12		壺	15.4			1mm前後の長石、石英を少量含む	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	橙色	明黄橙色	
1098	B-8	SX12		甕	15.6			0.5～2m大の長石、石英、黒色粒を少量含む	ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ	良好	にぶい褐色	明褐色	
1099	B-8	SX12		甕	14.2			1mm前後の長石を少量含む	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ、ケズリ	良好	にぶい黄橙色	褐灰色	
1100		SX12		壺			7.2	0.5～3mm大の長石、石英を多量に含む	ミガキ、ナデ	ナデ	良好	明赤褐色	赤褐色	

番号	地区・グリッド	遺構	層位	器種	口径	器高	底径	胎土	調整外面	調整内面	焼成	色調外面	色調内面	備考
1101	B-7	SX12		壷			6.0	1mm前後の長石を中量含む	ミガキ、ナデ	ケズリ、ナデ	良好	赤褐色	黒褐色	
1102	B-8	SX12		鉢	35.0			1mm以下の長石を中量含む	ヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ	良好	明赤褐色	明褐色	
1103	B-8	SX12		甕	13.6			1mm前後の長石、石英を少量含む	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ケズリ	良好	にぶい褐色	明褐色	
1104	B-8	SX12		甕	14.0			1mm以下の長石を少量含む	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ケズリ	良好	橙色	橙色	
1105	B-9	SX12		鉢	38.0			0.5～1mm前後の長石を少量、石英を微量含む	ヨコナデ、ナデ、ミガキ	ユビオサエ、ケズリ	良好	赤褐色	橙色	
1106	B-8	SX12		鉢				1mm以下の長石を黒色粒を少量含む	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	良好	明褐色	橙色	
1107	B-9	SX12		鉢	42.2			0.5～2mmの長石、石英を少量含む	ヨコナデ、ミガキ	ユビオサエ、ケズリ	良好	赤褐色	橙色	
1108	B-8	SX12		高杯	22.0			1mm前後の長石、黒色粒を少量含む	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	にぶい褐色	にぶい赤褐色	
1109		SX12		高杯			12.5	0.5～3mm前後の石英、長石を中量含む	ミガキ、ヨコナデ	ケズリ	良好	明赤褐色	赤褐色	
1110	B-8	SX12		高杯				1mm以下の長石、黒色粒を少量含む	ヘラミガキ	ナデ	良好	明赤褐色	にぶい赤褐色	
1111		SX12		高杯			10.8	1mm以下の長石を少量、1mm大の石英を微量含む	ナデ、ヨコナデ	ナデ	良好	黄橙色	にぶい橙色	
1112				高杯			11.0	1mm前後の長石、石英、赤色酸化粒を少量含む	ハケメ、ミガキ、ヨコナデ	ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
1113	A-10	P81		鉢	35.6			0.5～3mm大の長石、石英を中量、赤色酸化粒を少量含む	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ケズリ、ナデ	良好	淡黄橙色	白黄橙色	丹塗り
1114	A-10	P81		甕				0.5mm以下の長石を微量に含む	ナデ	ナデ	良好	淡橙色	淡橙色	丹塗り
1115	A-10	P81		高杯	17.0			1mm前後の石英を微量含む	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	良好	橙褐色	淡橙褐色	
1116	A-10	P81		高杯	15.8	11.7	13.1	0.5～2mmの長石、石英を少量含む	ヨコナデ、ミガキ、ハケメ、ナデ	ミガキ、ナデ	良好	赤褐色	赤褐色	丹塗り
1117	B-6	P85		壷	13.5			1mm以下の長石、石英を少量含む	ヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ	良好	茶褐色	茶褐色	
1118	B-6	P85		壷	5.8			1mm以下の長石を少量含む	ヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ	良好	茶褐色	茶褐色	
1119	B-6	P85		壷	17.0			1mm以下の長石を中量含む	ヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ	良好	茶褐色	茶褐色	
1120	B-6	P85		鉢	26.0			1mm以下の長石、石英を微量、赤色酸化粒を少量含む	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	良好	淡橙色	淡橙色	
1121	B-6	P85		鉢	36.0			1mm前後の長石、雲母？を中量含む	ヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ	良好	茶褐色	茶褐色	
1122	B-6	P85		高杯	27.6			1mm前後の長石、石英を中量含む	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ハケメ	良好	淡褐色	暗橙色	丹塗り
1123	B-6	P85		高杯			11.2	1mm前後の長石を少量含む	ナデ、ヨコナデ	ナデ	良好	橙褐色	橙褐色	
1124	F-5	SK60		壷			10.2	0.5～1mm前後の長石、石英を多量に、1mm以下の赤色酸化粒を若干含む	ナデ	ナデ	良好	白灰色	淡黄色	
1125		P107		壷	5.4	4.0		0.5～1mmの長石、0.5mm大の石英、赤色酸化粒を少量、雲母を微量に含む	ユビオサエ	ユビオサエ	良好	にぶい黄橙色	灰黄褐色	

番号	地区・グリッド	遺構	層位	器種	口径	器高	底径	胎土	調整外面	調整内面	焼成	色調外面	色調内面	備考
1126		P105		壷				0.5mm以下の長石を微量、雲母を微量に含む	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
1127	A-2	P120		壷				0.5mm大の長石を多量に、1mm前後の石英を少量、赤色酸化粒を微量含む	ナデ	ナデ	良好	白灰色	白灰色	
1128	A-2	P116		壷				1mm前後の長石、石英、赤色酸化粒を中量含む	ナデ	ナデ	良好	淡褐色	淡褐色	
1129	A-2	SK64		甕				1mm前後の長石、石英を中量含む	ユビオサエ、ナデ	ナデ	良好	暗橙色	暗橙色	
1130	A-2	SD09		壷？			7.0	0.5～2㎜前後の長石、石英を多量に、1㎜の赤色酸化粒を少量含む	ユビオサエ、ナデ	ナデ	良好	暗橙色	暗黄色	
1131	A-2	SD09		甕			6,3	1㎜前後の長石を中量、石英を少量含む	ミガキ、ナデ	ナデ	良好	暗橙色	褐色	
1132	B-2	SD10		壷			8.0	0.5～3㎜前後の長石、石英を多量に含む	不明	ナデ	良好	橙褐色	褐色	
1133		SD13		壷？				1～4mmの長石を中量、1～2mmの石英を少量、赤色酸化粒、雲母をわずかに含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ？	良好	にぶい赤褐色	赤褐色	
1134		SD13		壷？				1～3mmの長石を中量、1～2mmの石英を少量、赤色酸化粒をわずかに含む	ナデ	ナデ	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	
1135		SD13		壷	14.4			0.5～2mmの長石を中量、0.5～1mmの石英を少量含む	ヨコナデ	ナデ、ヨコナデ、ユビオサエ	良好	赤褐色	赤褐色	
1136		SD13		壷				0.5～4mmの長石を中量、1～2mmの石英を少量、赤色酸化粒及び雲母をわずかに含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ、ユビオサエ	良好	明赤褐色	橙色	
1137		SD13		壷				0.5～3mmの長石を中量、1～2mmの石英を少量、雲母を微量に含む	ナデ、ハケメ、ミガキ	ユビオサエ、ミガキ、ナデ	良好	浅黄橙色	灰黄色	
1138		SD13		壷			10.2	0.5～3mmの長石を多量、1mm大の石英と赤色酸化粒をわずかに含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ、ユビオサエ	良好	にぶい橙色	にぶい黄橙色	
1139		SD13		壷？			8.1	0.5～5mmの長石を中量、1～2mmの石英を少量、雲母をわずかに含む	ナデ	ナデ	良好	灰黄褐色	灰黄褐色	
1140		SD13		壷			9.2	0.5～3mmの長石を中量、1～2mmの石英を少量含む。雲母を微量に含む	ミガキ？、ユビオサエ	ユビオサエ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
1141		SD13		壷			6.2	1～4mmの長石を中量、1～2mmの石英を多量、及び雲母をわずかに含む	ナデ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	灰黄褐色	
1142		SD13		蓋				0.5～1mmの長石を少量、赤色酸化粒、雲母を微量に含む	ナデ、ヨコナデ	ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
1143		SD13		甕	21.4			0.5～3mmの長石を中量、1～2mmの石英を少量含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ、ユビオサエ	良好	黒褐色	橙色	
1144		SD13		甕	20.4			0.5～4mmの長石を多量、1～2mmの石英を中量含む。雲母をわずかに含む	ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	
1145		SD13		甕				0.5～3mmの長石を中量、1mm大の石英を少量、雲母をわずかに含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ、ユビオサエ	良好	黒褐色	黒褐色	
1146		SD13		甕	20.2			1～2mmの長石を中量、0.5～1mmの石英を少量、赤色酸化粒をわずかに含む	ナデ、ミガキ	ナデ、ユビオサエ	良好	黒色	明黄褐色	
1147		SD13		甕	25.0			0.5～1.5mmの長石、石英を少量、赤色酸化粒及び雲母を含む	ナデ	ナデ	良好	暗灰黄色	灰黄色	
1148		SD13		甕				0.5～2mmの長石を少量、赤色酸化粒をわずかに含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ、ユビオサエ	良好	明褐色	明褐色	
1149		SD13		甕				0.5～2mmの長石を中量、1mm大の石英を少量含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ、ユビオサエ	良好	にぶい褐色	赤褐色	
1150		SD13		甕	28.6			1～3mmの長石を多量、0.5～2mmの石英を少量、赤色酸化粒、雲母をわずかに含む	ナデ、ユビオサエ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	

番号	地区・グリッド	遺構	層位	器種	口径	器高	底径	胎土	調整外面	調整内面	焼成	色調外面	色調内面	備考
1151		SD13		甕				0.5～1mmの長石をわずかに含む	ユビオサエ	ユビオサエ、ナデ	良好	にぶい赤褐色	赤褐色	
1152		SD13		甕				0.5～3mmの長石を中量、1～2mmの石英を少量、雲母を含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ	良好	にぶい赤褐色	にぶい黄橙色	
1153		SD13		甕				0.5～2mmの長石を中量、赤色酸化粒をわずかに含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ	良好	灰黄褐色	にぶい黄橙色	
1154		SD13		甕				0.5～1mmの長石、石英を少量含む	ナデ	ナデ	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄橙色	
1155		SD13		甕	22.8			1～2mmの長石を中量、1mm大の石英を少量、赤色酸化粒と雲母を含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ	良好	明褐色	にぶい橙色	
1156		SD13		甕				0.5～3mmの長石を多量、1～2mmの石英を少量含む	ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	暗赤褐色	暗赤褐色	
1157		SD15		不明				1～2mmの長石を少量含む。赤色酸化粒をわずかに含む	ナデ	ユビオサエ	良好	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	
1158		SD13		甕？				0.5～4mmの石英を中量、1～3mmの石英を少量、赤色酸化粒をわずかに含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ、ユビオサエ	良好	赤褐色	にぶい橙色	
1159		SD15		不明				1～2mmの長石を少量、1mm大の石英をわずかに含み、また雲母をわずかに含む	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	良好	橙色	橙色	
1160		SD15		壷				0.5～3mmの長石を少量、1mm大の石英をわずかに含む。赤色酸化粒及び雲母を含む	ナデ	ナデ	良好	橙色	にぶい橙色	
1161		SD13		甕				0.5×3mmの長石を中量、1mm大の石英を少量含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ	良好	黒褐色	褐色	
1162		SD13		甕			6.4	0.5～2mmの長石を中量、1mm大の石英を少量含む。赤色酸化粒及び雲母をわずかに含む	ナデ	ナデ	良好	明赤褐色	褐灰色	
1163		SD13		壷				1～2mmの長石、石英を少量、赤色酸化粒をわずかに含む	ナデ	ナデ	良好	灰黄褐色	灰黄褐色	
1164		SD13		甕？				1～4mmの長石を中量、1～3mmの石英を少量含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ	良好	明赤褐色	にぶい赤褐色	
1165		SD13		甕				1～3mmの長石を多量に含み、1～2mmの石英を少量含む。また、雲母がわずかに含まれる。	ナデ	ナデ、ユビオサエ	良好	にぶい黄褐色	黒褐色	
1166		SD13		甕			7.2	1～2mmの長石を少量、1～3mmの石英を少量含む	ナデ、ユビオサエ	ユビオサエ	良好	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	
1167		SD13		壷？			10.8	1～3mmの長石、1～2mmの石英を少量含む	ナデ	ナデ	良好	灰黄色	灰黄褐色	
1168		SD13		壷				1～2mmの長石、石英を中量、赤色酸化粒をわずかに含む	ナデ	ナデ	良好	橙色	浅黄橙色	
1169		SD13		甕				0.5～3mmの長石を中量、1～2mmの石英を少量含む。赤色酸化粒をわずかに含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ、ユビオサエ	良好	橙色	黄灰色	
1170		SD13		壷？			6.8	1～5mmの長石を中量、1～2mmの石英を少量、赤色酸化粒をわずかに含む	ナデ	ユビオサエ	良好	明黄褐色	灰白色	
1171		SD13		不明			7.6	0.5～4mmの長石を少量、1～3mmの石英を少量含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ、ユビオサエ	良好	灰黄色	黄灰色	
1172		SD13		壷？			7.9	0.5～3mmの長石、石英を中量含み、赤色酸化粒をわずかに含む	ナデ、ユビオサエ	ユビオサエ	良好	にぶい黄橙色	灰白色	
1173		SD13		甕			7.4	0.5～3mmの長石を中量、0.5～1mmの石英を中量、赤色酸化粒をわずかに含む	ナデ	ナデ	良好	にぶい黄橙色	灰黄褐色	
1174		SD13		甕			8.8	1～3mmの長石を中量、1～2mmの石英を少量含む	ナデ、ユビオサエ	ナデ	良好	赤褐色	灰黄褐色	
1175		SD16		壷				0.5～3mmの長石を中量、1～2mmの石英を少量、1～3mmの赤色酸化粒を少量含む	ナデ	ナデ、ヨコナデ	良好	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	